

厚田中村遺跡(3)

厚田中村遺跡(3)

上信自動車道吾妻東バイパス事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

上信自動車道吾妻東バイパス事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

二〇二四

群馬県上信自動車道建設事務所  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

2024

群馬県上信自動車道建設事務所  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



# 厚田中村遺跡(3)

上信自動車道吾妻東バイパス事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2024

群馬県上信自動車道建設事務所  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

# 序

上信自動車道は、群馬県渋川市の関越自動車道渋川伊香保インターチェンジと長野県東御市上信越自動車道東部湯の丸インターチェンジとを結ぶ総延長約83kmに及ぶ自動車専用の地域高規格道路です。この事業は、群馬県の「はばたけ群馬・県土整備プラン」で示された「7つの交通軸構想」のうち「吾妻軸」に属し、関越自動車道と上信自動車道を結ぶ新たな交通体系として、吾妻地域の活性化に寄与することが期待されています。

上信自動車道の整備区間である一つの吾妻東バイパスは、吾妻郡東吾妻町大字植栗から大字厚田に至る約6.4kmの区間で、平成25年に整備区間に指定され、現在事業が鋭意進められているところです。

吾妻郡東吾妻町大字厚田に所在する厚田中村遺跡は、平成25～27年度に吾妻西バイパス建設事業に伴う発掘調査を端緒として、令和2・3年度に吾妻東バイパス建設事業に伴う発掘調査を経て、令和4年度に今回報告する発掘調査が行われました。

令和4年度の発掘調査の成果は、天明3年の浅間山噴火に伴う泥流で被災した近世の建物や水田、畑、中世の掘立柱建物群、縄文時代中期から古墳時代の集落などが貴重な遺物と共に発見されました。本書はこれらの成果をまとめ、埋蔵文化財発掘調査報告書として上梓することになりました。

ここに、発掘調査から報告書刊行にいたるまで、群馬県中之条土木事務所、群馬県上信自動車道建設事務所、群馬県地域創生部、群馬県教育委員会及び東吾妻町教育委員会をはじめ、本事業にご尽力賜りました関係各位に心から感謝を申し上げます。

令和6年3月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団  
理事長 向田 忠 正



# 例 言

- 1 本書は、令和4年度上信自動車吾妻東バイパス事業に伴い発掘調査された厚田中村遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡は群馬県吾妻郡東吾妻町大字厚田1020、1021、1022、1023-1・2、1024、1025-1・3、1034、1044-1・2、1045-3、1072、1074、1077-1、1084
- 3 調査面積は12,524.30㎡である。
- 4 事業主体は群馬県上信自動車道建設事務所である。
- 5 調査主体は公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団である。
- 6 発掘調査の期間と体制は次のとおりである。

名 称：令和4年度上信自動車道吾妻東バイパス事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査  
履行期間：令和4年4月1日～令和5年3月31日  
調査期間：令和4年7月1日～令和4年12月28日  
調査担当：須田正久(上席調査研究員・調査統括)、田村 真(主任調査研究員)  
遺跡掘削工事請負：株式会社歴史の杜  
地上測量委託：株式会社測研  
空中写真委託：技研コンサル株式会社
- 7 整理事業の期間と体制は次のとおりである。












名 称：令和5年度上信自動車道吾妻東バイパス事業に伴う埋蔵文化財の整理  
履行期間：令和5年4月1日～令和6年3月31日  
整理期間：令和5年4月1日～令和6年3月31日  
整理担当：山口逸弘(専門調査役)
- 8 本書作成担当は次のとおりである。

編集・本文執筆：山口逸弘(第4章を除く)  
遺物観察・写真撮影：  
縄文・弥生土器 橋本 淳(主任調査研究員・資料統括) 撮影 山口逸弘  
土師器・須恵器 多田宏太(専門員) 撮影 山口逸弘  
石器・石製品 関口博幸(上席調査研究員・資料統括)  
中・近世陶磁器・土器 大西雅広(専門調査役)  
金属器・木製品 板垣泰之(専門員(主任))、関 邦一(専門調査役)  
デジタル編集：齊田智彦(主任調査研究員)  
遺物保存処理：板垣泰之、関 邦一
- 9 自然科学分析は以下の内容で外部委託した。

樹種同定・電子顕微鏡観察：パリノ・サーヴェイ株式会社(第4章)
- 10 石材同定は飯島静男氏(群馬地質研究会)に依頼した。
- 11 出土遺物および写真・図面等記録類は群馬県埋蔵文化財調査センターに保管している。
- 12 発掘調査および報告書作成には、次の関係機関にご助言をいただいた。

群馬県県土整備部、群馬県上信自動車道建設事務所、群馬県地域創生部、群馬県教育委員会、東吾妻町教育委員会

# 凡 例

- 1 本書で使用した座標値及び方位は世界測地系(日本測地系2000平面直角座標系第IX系)を用いている。挿図中の方位は座標北を表し座標値の単位はメートルである。また本文中、遺構計測表の座標値は小数点以下を記した。
- 2 等高線、遺構断面図基準線に記した数値は海拔標高値である。各ポイントの右脇に○.○mと表示した。
- 3 遺構図・遺物図の縮尺については各挿図中にスケールを貼付したが、原則下記の縮尺で掲載した。また、遺物写真の縮尺は概ね掲載実測図に準拠するが厳密ではない。  
遺構図：竪穴建物・竪穴状遺構1/60、カマド・炉：1/30、1号建物1/30、掘立柱建物1/60、1号竪穴状遺構1/60、土坑1/40、溝1/40・1/60・1/80・1/100、1/120、畑1/40・1/60・1/80・1/100、列石1/40、道1/40・1/100、土手1/40・1/60・1/80・1/120、復旧溝群1/60、段差1/40・1/80、自然流路1/40・1/80  
遺物図：縄文土器、弥生土器1/3・1/4、土師器・須恵器、陶磁器1/3、石器・石製品1/1～1/6、鉄製品・鉄滓1/2、建築材1/10
- 4 遺構種、遺構番号に関しては、発掘調査時の番号を踏襲し、調査区や時期に関わらず通し番号となる。本書掲載の遺構図・遺物図・観察表・写真図版に付した番号と一致する。ただし、掘立柱建物に関しては、前冊において整理段階に新たな掘立柱建物を追加したため、今回の発掘調査時の番号と重複する。そのため、本書の掘立柱建物は調査区名を番号頭に付している。例：11区3号掘立柱建物
- 5 遺構図中の網掛として、=硬化面、=焼土、=攪乱、=As-Kk(浅間粕川テフラ)  
遺物挿図中の記号、網掛として、=含繊維、=煤焦、=被熱痕、=鉍滓、=黒色、  
石器：=摩耗痕、=敲打痕
- 6 遺構・遺物の計測表・観察表の記載については、計測単位はmとcmである。現全長や残存値は()で記した。表頁に詳細を記している。
- 7 本書で使用したテフラの名称については、以下の略称を使用した。  
As-B=天仁元年(1108年)に降下した浅間山噴火に伴うテフラ  
As-Kk=12世紀前半(1128年)に降下した浅間山噴火に伴うテフラ  
As-A=天明3年(1783)に降下した浅間山噴火に伴うテフラ。天明泥流はこの際に発生した鎌原土石なだれから派生した大規模な泥流である。
- 8 遺物観察表は遺構毎に掲載した。各遺物の凡例は観察表冒頭頁に掲載している。
- 9 本書で使用した地図は下記のものの一部を編集して使用した。  
国土地理院：地勢図 1:200,000「長野」(平成24年5月発行)  
国土地理院：地形図 1:50,000「中之条」(平成10年8月発行)  
国土地理院：電子地形図 1:25,000「群馬原町」  
東吾妻町発行：東吾妻町都市計画図1:2,500
- 10 本文中及び表において、  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団は事業団あるいは群埋文、群馬県及び各市町村教育委員会は教委と略させていただいた。
- 11 弥生土器実測図中の矢印は、ミガキの方向を示す。観察表の石器計測単位はmm、gである。

# 目次

序

例言

凡例

目次

(挿図目次・表目次・写真目次)

第1章 調査に至る経緯、調査の方法と経過	1	(5)11区・11-1区第3面	114
第1節 上信自動車道について	1	(6)11区・11-1区第4面	188
第2節 調査に至る経緯	2	第4節 12区の遺構と遺物	195
(1)吾妻西バイパス建設事業に伴う		(1)12区第1面	195
厚田中村遺跡	2	(2)12区第2面	199
(2)吾妻東バイパス建設事業に伴う		第5節 13区・14区の遺構と遺物	206
厚田中村遺跡	2	(1)13区・14区第1面	206
第3節 調査の方法	5	(2)13区・14区第1-1面	208
(1)調査区と座標の設定	5	(3)13区・14区第2面	210
(2)発掘調査の方法	5	第6節 遺構外出土遺物	211
(3)遺構の記録	5	(1)中世・近世	218
第4節 調査の経過	6	(2)古代～古墳時代	218
		(3)弥生時代	218
		(4)縄文時代	218
第2章 遺跡の地理的・歴史的環境	7	第4章 自然科学分析	221
第1節 地理的環境	7	第1節 概要	221
第2節 歴史的環境	8	第2節 分析	221
第3節 基本土層	17		
第3章 検出された遺構と遺物	19	第5章 総括	228
第1節 遺跡の概要	19	第1節 近世	228
第2節 9-1区・15区の遺構と遺物	19	第2節 中世	229
(1)第1面	25	第3節 弥生～古墳時代	231
第3節 11区・11-1区の遺構と遺物	32	第4節 縄文時代	232
(1)11区第1面	32		
(2)11区第1-1面	42	遺構計測表	233
(3)11-1区1面	48	遺物観察表	242
(4)11区・11-1区第2面	62	報告書抄録	

写真図版

# 插图目次

第1图	上信自動車道と遺跡位置図 (国土地理院1/200,000地勢図「長野」平成元年24年5月1日 を使用) . . . . . 1	第58图	7号掘立柱建物(2) . . . . . 79
第2图	調査範囲図と調査区割図 (1/2,500吾妻町都市計画図(東吾妻町提供)を一部加工) 3・4	第59图	8号掘立柱建物 . . . . . 80
第3图	周辺地形分類図 . . . . . 9	第60图	9号掘立柱建物 . . . . . 81
第4图	周辺遺跡分布図 (国土地理院1/50,000地形図「中之条」平成10年8月1日 発行を使用) . . . . . 12	第61图	10号掘立柱建物(1) . . . . . 82
第5图	基本土層 . . . . . 18	第62图	10号掘立柱建物(2) . . . . . 83
第6图	9区、9-1区、15区1面全体図 . . . . . 20	第63图	11号掘立柱建物(1) . . . . . 84
第7图	9-1区1面全体図 . . . . . 21	第64图	11号掘立柱建物(2) . . . . . 85
第8图	15区1面全体図 . . . . . 22	第65图	12号掘立柱建物 . . . . . 86
第9图	9-1区1面58号溝と15区1面58号溝出土遺物 . . . . . 23	第66图	13号掘立柱建物(1) . . . . . 87
第10图	15区1面58号溝(1) . . . . . 24	第67图	13号掘立柱建物(2) . . . . . 88
第11图	15区1面58号溝(2) . . . . . 25	第68图	44号溝 . . . . . 89
第12图	59号溝と出土遺物 . . . . . 26	第69图	46・47号溝 . . . . . 91
第13图	65号溝 . . . . . 27	第70图	48・49号溝 . . . . . 92
第14图	9-1区1面3号道 . . . . . 28	第71图	53号溝 . . . . . 94
第15图	15区1面3号道 . . . . . 29	第72图	54・55号溝 . . . . . 95
第16图	6号土手と出土遺物 . . . . . 31	第73图	56・57号溝 . . . . . 96
第17图	11区基本土層 . . . . . 32	第74图	64号溝 . . . . . 97
第18图	11区、11-1区1面全体図 . . . . . 33	第75图	62・63号溝 . . . . . 98
第19图	11区1面全体図(1) . . . . . 34	第76图	19号畑 . . . . . 99
第20图	11区1面全体図(2) . . . . . 35	第77图	1号列石と出土遺物 . . . . . 100
第21图	57号土坑 . . . . . 36	第78图	58~64・67・69・71号土坑 . . . . . 104
第22图	38号溝 . . . . . 37	第79图	73・74・76~84号土坑 . . . . . 105
第23图	39号溝 . . . . . 38	第80图	85~92号土坑 . . . . . 106
第24图	42号溝 . . . . . 39	第81图	93~99号土坑 . . . . . 107
第25图	14号畑 . . . . . 40	第82图	100~102・104~109号土坑 . . . . . 108
第26图	14・15号復旧溝 . . . . . 41	第83图	110~115・117号土坑 . . . . . 109
第27图	11区1-1面全体図(1) . . . . . 42	第84图	121~129号土坑 . . . . . 110
第28图	11区1-1面全体図(2) . . . . . 43	第85图	130~136号土坑 . . . . . 111
第29图	43号溝 . . . . . 44	第86图	137号土坑と出土遺物 . . . . . 112
第30图	15号畑 . . . . . 46	第87图	3号自然流路 . . . . . 113
第31图	17・18号畑 . . . . . 47	第88图	11区、11-1区3面全体図 . . . . . 115
第32图	11-1区1面全体図(1) . . . . . 49	第89图	11区3面全体図 . . . . . 116
第33图	11-1区1面全体図(2) . . . . . 50	第90图	11-1区3面全体図 . . . . . 117
第34图	1号建物1号屋根と出土遺物 . . . . . 51・52	第91图	4号竪穴建物と出土遺物 . . . . . 118
第35图	1号建物1号壁と出土遺物 . . . . . 53・54	第92图	5号竪穴建物(1)と出土遺物 . . . . . 119
第36图	60号溝 . . . . . 57	第93图	5号竪穴建物(2) . . . . . 120
第37图	61号溝 . . . . . 58	第94图	6号竪穴建物(1) . . . . . 121
第38图	22号畑 . . . . . 59	第95图	6号竪穴建物(2) . . . . . 122
第39图	23号畑 . . . . . 60	第96图	6号竪穴建物出土遺物 . . . . . 123
第40图	24号畑 . . . . . 61	第97图	7号竪穴建物(1) . . . . . 124
第41图	7号土手 . . . . . 62	第98图	7号竪穴建物(2) . . . . . 125
第42图	11区、11-1区2面全体図 . . . . . 63	第99图	7号竪穴建物(3)・炉 . . . . . 126
第43图	11区2面全体図(1) . . . . . 64	第100图	7号竪穴建物出土遺物 . . . . . 127
第44图	11区2面全体図(2) . . . . . 65	第101图	8号竪穴建物(1) . . . . . 128
第45图	11区2面全体図(3) . . . . . 66	第102图	8号竪穴建物(2) . . . . . 129
第46图	11区2面全体図(4) . . . . . 67	第103图	8号竪穴建物(3) . . . . . 130
第47图	11区2面全体図(5) . . . . . 68	第104图	8号竪穴建物炉と出土遺物 . . . . . 131
第48图	11-1区2面全体図 . . . . . 69	第105图	9号竪穴建物 . . . . . 132
第49图	3号掘立柱建物(1) . . . . . 70	第106图	9号竪穴建物出土遺物 . . . . . 133
第50图	3号掘立柱建物(2) . . . . . 71	第107图	10号竪穴建物 . . . . . 134
第51图	4号掘立柱建物(1) . . . . . 72	第108图	10号竪穴建物カマドと出土遺物 . . . . . 135
第52图	4号掘立柱建物(2) . . . . . 73	第109图	11号竪穴建物 . . . . . 136
第53图	5号掘立柱建物(1) . . . . . 74	第110图	12号竪穴建物(1) . . . . . 137
第54图	5号掘立柱建物(2) . . . . . 75	第111图	12号竪穴建物(2) . . . . . 138
第55图	6号掘立柱建物(1) . . . . . 76	第112图	12号竪穴建物カマド . . . . . 139
第56图	6号掘立柱建物(2) . . . . . 77	第113图	12号竪穴建物出土遺物 . . . . . 140
第57图	7号掘立柱建物(1) . . . . . 78	第114图	13号竪穴建物(1) . . . . . 141
		第115图	13号竪穴建物(2) . . . . . 142
		第116图	13号竪穴建物(3) . . . . . 143
		第117图	13号竪穴建物カマド . . . . . 144
		第118图	13号竪穴建物出土遺物(1) . . . . . 145
		第119图	13号竪穴建物出土遺物(2) . . . . . 146



第120図	14号竪穴建物(1)・・・・・・・・・・	147	第157図	50号溝出土遺物(3)・・・・・・・・・・	185
第121図	14号竪穴建物(2)と出土遺物・・・・・・・・	148	第158図	66号溝・・・・・・・・・・	186
第122図	15号竪穴建物(1)・・・・・・・・・・	149	第159図	116・118~120・138・143~145号土坑・・・・・・・・	187
第123図	15号竪穴建物(2)・・・・・・・・・・	150	第160図	138号土坑出土遺物・・・・・・・・・・	188
第124図	15号竪穴建物出土遺物・・・・・・・・・・	151	第161図	11-1区4面全体図・・・・・・・・・・	189
第125図	16号竪穴建物(1)・・・・・・・・・・	153	第162図	23号竪穴建物・炉・・・・・・・・・・	190
第126図	16号竪穴建物(2)・・・・・・・・・・	154	第163図	23号竪穴建物出土遺物・・・・・・・・・・	191
第127図	16号竪穴建物カマド・・・・・・・・・・	155	第164図	1号竪穴状遺構・・・・・・・・・・	192
第128図	16号竪穴建物出土遺物(1)・・・・・・・・・・	156	第165図	1号竪穴状遺構出土遺物・・・・・・・・・・	193
第129図	16号竪穴建物出土遺物(2)・・・・・・・・・・	157	第166図	139・141号土坑と出土遺物・・・・・・・・・・	194
第130図	17号竪穴建物(1)・・・・・・・・・・	158	第167図	142号土坑と出土遺物・・・・・・・・・・	195
第131図	17号竪穴建物(2)・・・・・・・・・・	159	第168図	12区1面全体図、基本土層・・・・・・・・・・	196
第132図	17号竪穴建物カマドと出土遺物(1)・・・・・・・・	160	第169図	35・36・37号溝・・・・・・・・・・	197
第133図	17号竪穴建物出土遺物(2)・・・・・・・・・・	161	第170図	5号土手・・・・・・・・・・	198
第134図	18号竪穴建物(1)・・・・・・・・・・	162	第171図	12区2面全体図・・・・・・・・・・	199
第135図	18号竪穴建物(2)・・・・・・・・・・	163	第172図	40・41号溝・・・・・・・・・・	200
第136図	18号竪穴建物(3)・・・・・・・・・・	164	第173図	13区、14区1面全体図・・・・・・・・・・	201
第137図	18号竪穴建物カマド・炉・・・・・・・・・・	165	第174図	13区、14区1-1面全体図(1)・・・・・・・・・・	202
第138図	18号竪穴建物出土遺物(1)・・・・・・・・・・	166	第175図	13区、14区1-1面全体図(2)、基本土層・・・・・・・・	203
第139図	18号竪穴建物出土遺物(2)・・・・・・・・・・	167	第176図	13区、14区1-1面全体図(3)・・・・・・・・・・	204
第140図	18号竪穴建物出土遺物(3)・・・・・・・・・・	168	第177図	13区、14区2面全体図・・・・・・・・・・	205
第141図	18号竪穴建物出土遺物(4)・・・・・・・・・・	169	第178図	20号畑・・・・・・・・・・	206
第142図	19号竪穴建物と出土遺物・・・・・・・・・・	170	第179図	木杭を伴う段差・・・・・・・・・・	207
第143図	20号竪穴建物(1)・・・・・・・・・・	171	第180図	16号畑と出土遺物・・・・・・・・・・	208
第144図	20号竪穴建物(2)・・・・・・・・・・	172	第181図	51号溝・・・・・・・・・・	209
第145図	20号竪穴建物(3)・・・・・・・・・・	173	第182図	21号畑・・・・・・・・・・	210
第146図	20号竪穴建物炉と出土遺物(1)・・・・・・・・	174	第183図	45・52号溝・・・・・・・・・・	211
第147図	20号竪穴建物出土遺物(2)・・・・・・・・・・	175	第184図	遺構外出土遺物(1)・・・・・・・・・・	212
第148図	21号竪穴建物と出土遺物・・・・・・・・・・	176	第185図	遺構外出土遺物(2)・・・・・・・・・・	213
第149図	22号竪穴建物(1)・・・・・・・・・・	177	第186図	遺構外出土遺物(3)・・・・・・・・・・	214
第150図	22号竪穴建物(2)・・・・・・・・・・	178	第187図	遺構外出土遺物(4)・・・・・・・・・・	215
第151図	22号竪穴建物出土遺物・・・・・・・・・・	179	第188図	遺構外出土遺物(5)・・・・・・・・・・	216
第152図	50号溝・・・・・・・・・・	180	第189図	遺構外出土遺物(6)・・・・・・・・・・	217
第153図	50号溝遺物出土状態上層・・・・・・・・・・	181	第190図	遺構外出土遺物(7)・・・・・・・・・・	218
第154図	50号溝遺物出土状態下層・・・・・・・・・・	182	第191図	1号建物木材出土遺物(1)・・・・・・・・・・	219
第155図	50号溝出土遺物(1)・・・・・・・・・・	183	第192図	1号建物木材出土遺物(2)・・・・・・・・・・	220
第156図	50号溝出土遺物(2)・・・・・・・・・・	184	第193図	樹種同定資料の出土位置・・・・・・・・・・	223

## 表 目 次

第1表	周辺の主な遺跡・・・・・・・・・・	13	第9表	縄文石器遺構別集計表(点数)・・・・・・・・・・	255
第2表	竪穴建物計測表・・・・・・・・・・	233	第10表	縄文石器遺構別集計表(重量)・・・・・・・・・・	255
第3表	掘立柱建物計測表・・・・・・・・・・	234	第11表	縄文石器器種別石材別集計表(点数)・・・・・・・・	256
第4表	溝計測表・・・・・・・・・・	235	第12表	縄文石器器種別石材別集計表(重量)・・・・・・・・	256
第5表	土坑計測表・・・・・・・・・・	235	第13表	縄文時代石器集計表(掲載点数)・・・・・・・・・・	256
第6表	ピット計測表・・・・・・・・・・	237	第14表	縄文時代以降石器集計表(掲載点数)・・・・・・・・	256
第7表	水田計測表・・・・・・・・・・	241	第15表	出土石器・石製品集計表・・・・・・・・・・	257
第8表	遺物観察表・・・・・・・・・・	242			

# 写真目次

PL. 1	1	11区より北西方向岩櫃山を望む	4	11-1区1面60号溝石積み状態(東から)
	2	15区より西方向を望む	5	11-1区1面60号溝南辺全景(西から)
PL. 2	1	13区 土層柱状写真(南から)	PL.16	1 11区2面、11-1区2面空撮合成全景写真(西から)
	2	14区 土層柱状写真(北から)	PL.17	1 11区2面全景(南から)
	3	11区西 土層柱状写真(東から)	2 11区2面全景(東から)	
	4	11区北 土層柱状写真(南から)	PL.18	1 11区2面3号掘立柱建物全景(東から)
PL. 3	1	9-1区1面、15区1面空撮合成全景写真(南西から)	2 11区2面3号掘立柱建物全景(北から)	
PL. 4	1	9-1区1面全景(東から)	3 11区2面4号掘立柱建物全景(西から)	
	2	9-1区1面58号溝全景(東から)	4 11区2面4号掘立柱建物全景(東から)	
	3	9-1区1面58号溝杭列(北から)	5 11区2面5号掘立柱建物全景(東から)	
	4	9-1区1面65号溝全景(北から)	6 11区2面5号掘立柱建物全景(南から)	
	5	9-1区1面65号溝土層(北から)	7 11区2面6号掘立柱建物全景(西から)	
PL. 5	1	15区1面全景(東から)	8 11区2面7号掘立柱建物全景(西から)	
	2	15区1面58・59号溝、6号土手全景(東から)	PL.19	1 11区2面8号掘立柱建物全景(南から)
PL. 6	1	15区1面58号溝、3号道全景(西から)	2 11区2面8号掘立柱建物全景(西から)	
	2	15区1面58号溝、6号土手全景(東から)	3 11区2面9号掘立柱建物全景(南から)	
	3	15区1面58号溝石積み(西から)	4 11区2面9号掘立柱建物全景(西から)	
	4	15区1面58号溝石積み近撮(北から)	5 11区2面10号掘立柱建物全景(西から)	
	5	15区1面59号溝全景(南から)	6 11区2面11号掘立柱建物全景(東から)	
	6	15区1面59号溝竹出土状態(北から)	7 11区2面12号掘立柱建物全景(南から)	
	7	15区1面59号溝砥石出土状態(南から)	8 11区2面13号掘立柱建物全景(西から)	
	8	15区1面調査風景(南から)	PL.20	1 11区2面掘立柱建物群全景(北から)
PL. 7	1	11区1面全景(東から)	2 11区2面掘立柱建物群全景(南から)	
	2	11区1面57号土坑全景(南から)	PL.21	1 11区2面3号掘立柱建物P3土層(北から)
	3	11区1面38号溝全景(東から)	2 11区2面3号掘立柱建物P7土層(西から)	
	4	11区1面39号溝全景(東から)	3 11区2面4号掘立柱建物P7土層(北から)	
	5	11区1面42号溝全景(東から)	4 11区2面4号掘立柱建物P9土層(東から)	
PL. 8	1	11区1面14号畑全景(南東から)	5 11区2面4号掘立柱建物P12土層(南から)	
	2	11区1面14号畑全景(南から)	6 11区2面5号掘立柱建物P8土層(南から)	
	3	11区1面14号復旧溝群(南から)	7 11区2面6号掘立柱建物P7土層(南から)	
	4	11区1面15号復旧溝群(東から)	8 11区2面6号掘立柱建物P10土層(南から)	
	5	11区1-1面43号溝全景(西から)	9 11区2面7号掘立柱建物P6土層(東から)	
	6	11区1-1面15号畑全景(東から)	10 11区2面10号掘立柱建物P3土層(北から)	
	7	11区1-1面17・18号畑全景(西から)	11 11区2面10号掘立柱建物P6土層(東から)	
	8	11区1-1面18号畑断ち割り(北西から)	12 11区2面11号掘立柱建物P3土層(南から)	
PL. 9	1	11-1区1面全景(東から)	13 11区2面11号掘立柱建物P10土層(東から)	
	2	11-1区1面1号建物全景(東から)手前に屋根、西に壁を見る	14 11区2面12号掘立柱建物P1土層(西から)	
PL.10	1	11-1区1面1号建物全景(南から)	15 11区2面12号掘立柱建物P3土層(東から)	
	2	11-1区1面1号建物1号屋根全景(南から)	PL.22	1 11区2面44・47・48号溝土層(西から)
PL.11	1	11-1区1面1号建物1号屋根全景(東から)	2 11区2面44号溝全景(西から)	
	2	11-1区1面1号建物1号屋根近撮(北から)	3 11区2面46号溝全景(西から)	
	3	11-1区1面1号建物1号屋根近撮(東から)	4 11区2面47号溝全景(南から)	
	4	11-1区1面1号建物1号屋根近撮(東から)	5 11区2面48号溝全景(西から)	
	5	11-1区1面1号建物1号屋根近撮(東から)	6 11区2面49号溝全景(西から)	
PL.12	1	11-1区1面1号建物1号壁全景(東から)	7 11区2面53号溝全景(西から)	
	2	11-1区1面1号建物1号壁全景(南から)	8 11区2面54号溝全景(西から)	
PL.13	1	11-1区1面1号建物1号壁建築部材出土状況(西から)	PL.23	1 11区2面55号溝全景(西から)
	2	11-1区1面1号建物1号壁建築部材出土状況(東から)	2 11区2面56号溝全景(西から)	
	3	11-1区1面1号建物1号壁建築部材出土状況(東から)	3 11区2面57号溝全景(西から)	
	4	11-1区1面1号建物1号壁建築部材ホゾ周辺(東から)	4 11区2面19号畑全景(南から)	
	5	11-1区1面1号建物1号壁建築部材出土状況(北から)	5 11-1区2面全景(北東から)	
	6	11-1区1面1号建物1号壁建築部材出土状況(南から)	PL.24	1 11-1区2面62~64号溝全景(西から)
	7	11-1区1面1号建物1号壁建築部材ホゾ周辺(北から)	2 11-1区2面62号溝全景(西から)	
	8	11-1区1面1号建物1号壁建築部材出土状況(東から)	3 11-1区2面63号溝全景(西から)	
PL.14	1	11-1区1面1号建物、22~24号畑、60・61号溝全景(東から)	4 11-1区2面64号溝全景(西から)	
	2	11-1区1面22号畑全景(北から)	5 11-1区2面1号列石全景(南から)	
	3	11-1区1面23号畑全景(東から)	6 11-1区2面1号列石中央部下(東から)	
	4	11-1区1面24号畑全景(東から)	7 11-1区2面3号自然流路(西から)	
	5	11-1区1面7号土手全景(西から)	8 11-1区2面3号自然流路(南から)	
PL.15	1	11-1区1面60号溝、7号土手(水田)全景(南から)	PL.25	1 11区2面58号土坑土層(南から)
	2	11-1区1面60号溝、7号土手(水田)全景(東から)	2 11区2面59号土坑土層(南から)	
	3	11-1区1面60号溝西辺全景(南から)	3 11区2面60号土坑土層(南から)	

	4	11区2面61号土坑土層(南から)		10	11-1区2面135号土坑全景(西から)
	5	11区2面62号土坑土層(南から)		11	11-1区2面135号土坑土層(東から)
	6	11区2面63号土坑全景(南から)		12	11-1区2面136号土坑全景(東から)
	7	11区2面64号土坑全景(東から)		13	11-1区2面137号土坑全景(南から)
	8	11区2面67号土坑全景(南から)		14	11-1区2面137号土坑土層(南から)
	9	11区2面69号土坑全景(南から)		15	11-1区2面137号土坑遺物出土状態(南から)
	10	11区2面71号土坑全景(南から)	PL.30	1	11区3面、11-1区3面空撮合成全景写真(西から)
	11	11区2面73号土坑全景(南から)	PL.31	1	11区3面遠景(東から)
	12	11区2面74号土坑全景(東から)		2	11区3面遠景(西から)
	13	11区2面76号土坑礫出土状態(西から)	PL.32	1	11区3面4号竪穴建物遺物出土状態全景(南から)
	14	11区2面77号土坑全景(南から)		2	11区3面4号竪穴建物土層(南西から)
PL.26	15	11区2面78号土坑礫出土状態(南から)		3	11区3面4号竪穴建物遺物出土状態(南から)
	1	11区2面79号土坑全景(西から)		4	11区3面4号竪穴建物床下全景(南から)
	2	11区2面80号土坑全景(東から)		5	11区3面5号竪穴建物全景(東から)
	3	11区2面81号土坑全景(東から)		6	11区3面5号竪穴建物遺物出土状態(東から)
	4	11区2面82号土坑全景(南から)		7	11区3面5号竪穴建物土層(南西から)
	5	11区2面83号土坑全景(南から)		8	11区3面5号竪穴建物床下全景(東から)
	6	11区2面84号土坑全景(南から)	PL.33	1	11区3面6号竪穴建物遺物出土状態(西から)
	7	11区2面85号土坑全景(南から)		2	11区3面6号竪穴建物遺物出土状態全景(東から)
	8	11区2面86号土坑全景(南から)		3	11区3面6号竪穴建物炭化材及び礫出土状態(北から)
	9	11区2面86号土坑土層(南から)		4	11区3面6号竪穴建物全景(南から)
	10	11区2面87号土坑全景(南から)		5	11区3面6号竪穴建物床下全景(南から)
	11	11区2面88号土坑全景(南から)	PL.34	1	11区3面7号竪穴建物全景(南から)
	12	11区2面89・90号土坑土層(南から)		2	11区3面7号竪穴建物炉検出面(北から)
	13	11区2面89・90・95号土坑全景(南から)		3	11区3面7号竪穴建物遺物出土状態全景(南から)
	14	11区2面91号土坑全景(南から)		4	11区3面7号竪穴建物南東部遺物出土状態(西から)
	15	11区2面92号土坑全景(西から)		5	11区3面7号竪穴建物北東部遺物出土状態(南から)
PL.27	1	11区2面93号土坑全景(南から)	PL.35	1	11区3面7号竪穴建物P10(入口部ピット)全景(北から)
	2	11区2面94号土坑全景(南から)		2	11区3面7号竪穴建物P11(入口部ピット)全景(北から)
	3	11区2面95号土坑全景(南から)		3	11区3面7号竪穴建物入口部配石(東から)
	4	11区2面96号土坑全景(西から)		4	11区3面6・7号竪穴建物床下全景(南から)
	5	11区2面97号土坑全景(南から)		5	11区3面6・7号竪穴建物全景(東から)
	6	11区2面98号土坑全景(東から)	PL.36	1	11区3面8号竪穴建物全景(東から)
	7	11区2面99号土坑全景(東から)		2	11区3面8号竪穴建物遺物出土状態全景(西から)
	8	11区2面100号土坑全景(南から)		3	11区3面8号竪穴建物炉土層(西から)
	9	11区2面101号土坑全景(南から)		4	11区3面8号竪穴建物南西部遺物出土状態(西から)
	10	11区2面102号土坑全景(南から)		5	11区3面8号竪穴建物床下全景(南から)
	11	11区2面104号土坑全景(南から)	PL.37	1	11区3面9号竪穴建物全景(西から)
	12	11区2面105号土坑全景(北から)		2	11区3面9号竪穴建物遺物出土状態全景(北から)
	13	11区2面106号土坑全景(東から)		3	11区3面9号竪穴建物北東隅遺物出土状態(西から)
	14	11区2面106号土坑土層(南から)		4	11区3面9号竪穴建物土層(南から)
	15	11区2面107号土坑全景(北から)		5	11区3面10号竪穴建物全景(東から)
PL.28	1	11区2面108号土坑全景(北から)		6	11区3面10号竪穴建物貯蔵穴全景(南から)
	2	11区2面109号土坑全景(南から)		7	11区3面10号竪穴建物カマド掘方土層(南から)
	3	11区2面110号土坑全景(南から)		8	11区3面10号竪穴建物カマド掘方全景(西から)
	4	11区2面111号土坑全景(東から)	PL.38	1	11区3面11号竪穴建物全景(東から)
	5	11区2面112号土坑全景(南から)		2	11区3面11号竪穴建物土層(南から)
	6	11区2面113号土坑全景(西から)		3	11区3面12号竪穴建物遺物出土状態全景(西から)
	7	11区2面114号土坑全景(南から)		4	11区3面12号竪穴建物床下全景(西から)
	8	11区2面115号土坑全景(北から)		5	11区3面12号竪穴建物カマド全景(西から)
	9	11区2面117号土坑全景(東から)	PL.39	1	11区3面13号竪穴建物全景(西から)
	10	11-1区2面121号土坑全景(西から)		2	11区3面13号竪穴建物カマド全景(西から)
	11	11-1区2面122号土坑全景(西から)	PL.40	1	11区3面13号竪穴建物カマド使用面全景(西から)
	12	11-1区2面123号土坑全景(南から)		2	11区3面13号竪穴建物カマド南遺物出土状態(西から)
	13	11-1区2面124号土坑全景(南から)		3	11区3面13号竪穴建物カマド南遺物出土状態(西から)
	14	11-1区2面125号土坑全景(南から)		4	11区3面13号竪穴建物カマド南遺物出土状態(西から)
	15	11-1区2面126号土坑全景(東から)		5	11区3面13号竪穴建物カマド南遺物出土状態(南から)
PL.29	1	11-1区2面127号土坑全景(南から)		6	11区3面13号竪穴建物遺物出土状態全景(南西から)
	2	11-1区2面128号土坑全景(南から)		7	11区3面13号竪穴建物遺物出土状態(南から)
	3	11-1区2面127・128号土坑土層(南から)		8	11区3面13号竪穴建物掘方全景(北から)
	4	11-1区2面129号土坑全景(東から)	PL.41	1	11区3面50号溝下層遺物出土状態全景(北から)
	5	11-1区2面130号土坑全景(南から)		2	11区3面50号溝土層(南から)
	6	11-1区2面131号土坑全景(東から)		3	11区3面50号溝上層遺物出土状態全景(北から)
	7	11-1区2面132号土坑全景(南から)		4	11区3面50号溝下層遺物出土状態全景(南から)
	8	11-1区2面133号土坑全景(東から)		5	11区3面50号溝下層遺物出土状態(南から)
	9	11-1区2面134号土坑全景(東から)	PL.42	1	11区3面50号溝下層遺物出土状態(東から)

	2	11区3面50号溝下層遺物出土状態(東から)	4	11-1区4面139号土坑全景(東から)
	3	11区3面50号溝全景(北から)	5	11-1区4面141号土坑遺物出土状態全景(西から)
	4	11区3面116号土坑全景(南から)	6	11-1区4面141号土坑遺物出土状態(東から)
	5	11区3面118号土坑土層(西から)	7	11-1区4面142号土坑全景(東から)
	6	11区3面119号土坑全景(南から)	8	11-1区4面142号土坑土層(東から)
	7	11区3面120号土坑全景(南から)	PL.54	1 12区1面全景(南から)
	8	11区3面143号土坑全景(南から)	2	12区1面35(東)・36号(西)溝検出状況(南から)
PL.43	1	11-1区3面全景(西から)	3	12区1面35(東)・36号(西)溝全景(南から)
	2	11-1区3面全景(南から)	4	12区37号溝全景(南東から)
PL.44	1	11-1区3面14号竪穴建物全景(南西から)	5	12区5号土手全景(北から)
	2	11-1区3面14号竪穴建物遺物出土状態全景(東から)	PL.55	1 12区2面全景(南西から)
	3	11-1区3面14号竪穴建物遺物出土状態(南から)	2	12区3面40(南)・41号溝(北)全景(南西から)
	4	11-1区3面14号竪穴建物床下全景(東から)	3	12区3面40号溝掘削痕(北から)
	5	11-1区3面15号竪穴建物遺物出土状態全景(南から)	4	12区3面40号溝自然木出土状態(南西から)
PL.45	1	11-1区3面15号竪穴建物土層(南から)	PL.56	1 13区1-1面全景(16号畑)全景(東から)
	2	11-1区3面15号竪穴建物全景(東から)	2	13区1-1面16号畑土層(東から)
	3	11-1区3面15号竪穴建物床下全景(北から)	3	13区2面(45号溝)全景(西から)
	4	11-1区3面15号竪穴建物出入口部ピットP2・P10(南から)	4	13区2面45号溝全景(南西から)
	5	11-1区3面15号竪穴建物南東隅遺物出土状態(東から)	5	14区1面全景(東から)
	6	11-1区3面15号竪穴建物南東隅遺物出土状態(東から)	6	14区1面20号畑全景(南から)
	7	11-1区3面15号竪穴建物南東隅遺物出土状態(東から)	7	14区1面段差及び境木列、南に20号畑(北東から)
	8	11-1区3面15号竪穴建物南東隅遺物出土状態(東から)	8	14区1面段差部分断ち割り(東から)
PL.46	1	11-1区3面16号竪穴建物全景(東から)	PL.57	1 14区1-1面(21号畑)全景(西から)
	2	11-1区3面16号竪穴建物カマド全景(北西から)	2	14区1-1面(21号畑)全景(東から)
	3	11-1区3面16号竪穴建物南西部遺物出土状態(南から)	3	14区2面(52号溝)全景(西から)
	4	11-1区3面16号竪穴建物南西部埋設土器出土状態(北から)	4	14区2面52号溝全景(南から)
	5	11-1区3面16号竪穴建物貯蔵穴遺物出土状態(東から)	5	11-1区1号建物検出状況(北から)
PL.47	1	11-1区3面17号竪穴建物遺物出土状態全景(東から)	PL.58	59号溝、6号土手、1号建物、9号掘立柱建物、1号列石、137号土坑、164号ピット出土遺物
	2	11-1区3面17号竪穴建物炉土層(西から)	PL.59	4~7号竪穴建物出土遺物
	3	11-1区3面17号竪穴建物出入口部ピットP2・P3(北から)	PL.60	7・8号竪穴建物出土遺物
	4	11-1区3面17号竪穴建物貯蔵穴遺物出土状態(北から)	PL.61	9・12・13号竪穴建物出土遺物
	5	11-1区3面17号竪穴建物床下全景(南から)	PL.62	13号竪穴建物出土遺物
PL.48	1	11-1区3面18号竪穴建物床下全景(西から)	PL.63	14・15号竪穴建物出土遺物
	2	11-1区3面18号竪穴建物カマド全景(西から)	PL.64	15・16号竪穴建物出土遺物
	3	11-1区3面18号竪穴建物炉土層(南から)	PL.65	16・17号竪穴建物出土遺物
	4	11-1区3面18号竪穴建物南東隅遺物出土状態(西から)	PL.66	17・18号竪穴建物出土遺物
	5	11-1区3面18号竪穴建物貯蔵穴全景(南から)	PL.67	18号竪穴建物出土遺物
PL.49	1	11-1区3面19号竪穴建物遺物出土状態全景(南から)	PL.68	18・19号竪穴建物出土遺物
	2	11-1区3面19号竪穴建物床下全景(南から)	PL.69	20号竪穴建物出土遺物
	3	11-1区3面20号竪穴建物全景(南から)	PL.70	22号竪穴建物、50号溝出土遺物
	4	11-1区3面20号竪穴建物炉全景(北から)	PL.71	50号溝出土遺物
	5	11-1区3面20号竪穴建物貯蔵穴遺物出土状態(西から)	PL.72	50号溝、138号土坑出土遺物
PL.50	1	11-1区3面20号竪穴建物床下全景(西から)	PL.73	23号竪穴建物、1号竪穴状遺構出土遺物
	2	11-1区3面20号竪穴建物東南隅遺物出土状態(西から)	PL.74	139・141・142号土坑出土遺物
	3	11-1区3面21号竪穴建物床下全景(西から)	PL.75	遺構外出土遺物(1)
	4	11-1区3面21号竪穴建物土層(西から)	PL.76	遺構外出土遺物(2)
	5	11-1区3面22号竪穴建物遺物出土状態全景(西から)	PL.77	遺構外出土遺物(3)
	6	11-1区3面22号竪穴建物東南隅遺物出土状態(西から)	PL.78	遺構外出土遺物(4)
	7	11-1区3面22号竪穴建物P1遺物出土状態(北から)	PL.79	遺構外出土遺物(5)
	8	11-1区3面22号竪穴建物床下全景(西から)	PL.80	1号建物木材出土遺物(1)
PL.51	1	11-1区3面66号溝全景(北西から)	PL.81	1号建物木材出土遺物(2)
	2	11-1区3面66号溝土層(北から)		
	3	11-1区3面138号土坑全景(西から)		
	4	11-1区3面138号土坑遺物出土状態(南から)		
	5	11-1区3面144号土坑全景(東から)		
	6	11-1区3面145号土坑全景(南から)		
	7	11-1区3面14号竪穴建物調査風景(東から)		
	8	11-1区3面16号竪穴建物調査風景(西から)		
PL.52	1	11-1区4面23号竪穴建物埋甕炉(東から)		
	2	11-1区4面23号竪穴建物遺物出土状態全景(南から)		
	3	11-1区4面23号竪穴建物炉周辺遺物出土状態(南から)		
	4	11-1区4面23号竪穴建物床下全景(東から)		
	5	11-1区4面23号竪穴建物全景(北から)		
PL.53	1	11-1区4面1号竪穴状遺構遺物出土状態全景(西から)		
	2	11-1区4面1号竪穴状遺構全景(東から)		
	3	11-1区4面139号土坑遺物出土状態全景(東から)		

# 第1章 調査に至る経緯、調査の方法と経過

本書で扱う厚田中村遺跡の発掘調査成果は、令和4年度の上信自動車道吾妻東バイパス事業に伴う事前の埋蔵文化財発掘調査によるものである。

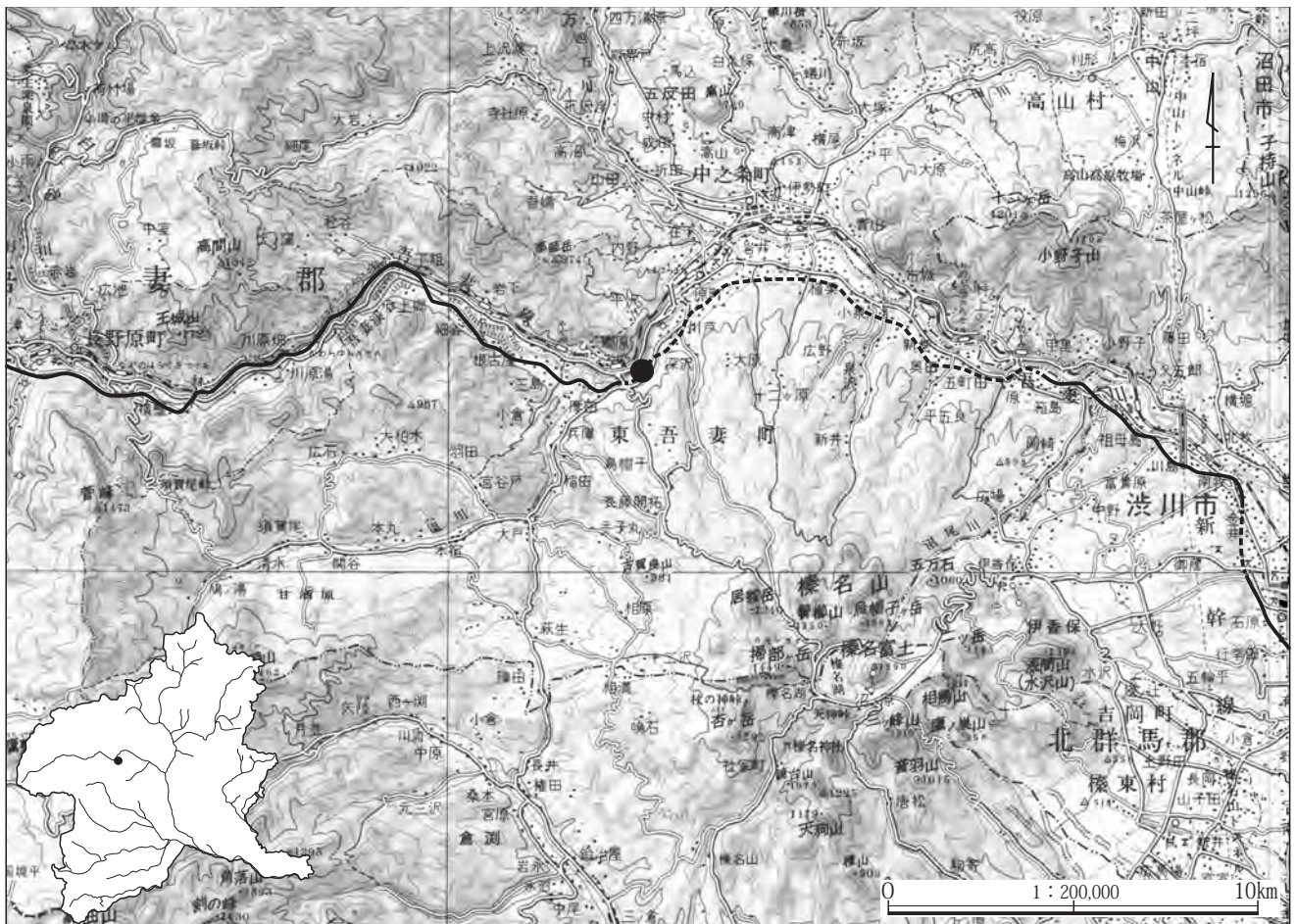
## 第1節 上信自動車道について(第1図)

上信自動車道は群馬県渋川市の関越自動車道渋川・伊香保インターチェンジ付近から、東吾妻町、長野原町、嬭恋村を經由して上信越自動車道へる総延長約83kmの地域高規格道路として、平成6年12月に計画路線の指定を受けた。この道路は群馬県の「群馬がはばたくための7つの交通軸構想である、県央軸、吾妻軸、東毛軸、西毛軸、三国軸、尾瀬軸、渡良瀬軸のうち「吾妻軸」として位置付けられ、関越自動車道と上信越自動車道を連携し、吾妻

地域の交通渋滞の緩和、災害時の安全安心確保、緊急医療、観光振興、産業物流への貢献など活性化支援に大きく寄与することが期待されている。

この上信自動車道は起点から県境までを、東から渋川西、金井、川島、祖母島～箱島、吾妻東2期、吾妻東、吾妻西、八ッ場、長野原、長野原嬭恋の10バイパスの建設が進められ、既に金井バイパス、川島バイパス、東祖母島～箱島バイパスと八ッ場バイパス、長野原バイパスが供用に付されている。

上信自動車道吾妻東バイパスは、国道145号バイパスの一部となる整備区間の一つで、東吾妻町植栗の上信自動車道吾妻東バイパス2期区間から同町厚田の上信自動車道吾妻西バイパスとの接続地点までの約6.4kmの区間である。



第1図 上信自動車道と遺跡位置図(国土院1/200,000地勢図「長野」平成元年24年5月1日を使用)

## 第2節 調査に至る経緯

上信自動車道吾妻東バイパス(以下吾妻東バイパス)は、平成25年5月16日に整備区間の指定を受け、その後路線測量、関係機関との調整や地元への協力要請を経て、用地取得などの工事着工準備が進められた。

厚田中村遺跡は東吾妻町遺跡番号0117、近世の遺跡として東吾妻町の遺跡台帳に登録されており、上信自動車道建設に伴う土木工事が計画された地点は、その包蔵地内に所在しており、上信自動車道吾妻西バイパス(以下吾妻西バイパス)及び吾妻東バイパス建設地に跨る遺跡として、2事業に関わる遺跡として調査されることになった。

### (1) 吾妻西バイパス建設事業に伴う厚田中村遺跡

先述のように吾妻西バイパス建設事業地に重なる本遺跡は東吾妻町の遺跡台帳にも記載された近世の遺跡として周知の遺跡であった。このため平成25年3月及び6月に、群馬県教育委員会事務局文化財保護課(現・群馬県地域創生部文化財保護課、以下県文化財保護課)が、工事対象地における埋蔵文化財の包蔵を確認するために試掘・確認調査を実施したところ、工事対象範囲内において埋蔵文化財の包蔵が確認されたため、群馬県県土整備部(以下県土整備部)及び群馬県中之条土木事務所(以下県中之条土木事務所)と県文化財保護課による調整の結果、工事計画等の変更が不可能なことから、工事対象範囲に包蔵される埋蔵文化財について、やむを得ず発掘調査を実施し、記録保存の措置を講じることとなった。なお後に、平成28年7月19日付け中土第112-21号にて提出された事業地も調査に取り込むことになった。

吾妻西バイパス建設事業に伴う厚田中村遺跡の発掘調査は、平成25年7月1日～12月31日、平成26年8月1日～11月30日、平成28年4月1日～12月31日の3次にわたって、県中之条土木事務所の委託を受けた(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(以下事業団)によって12,371.15㎡を対象に実施された。発掘調査の結果、1面目として近世天明3年(1783)の天明泥流下の水田や畑、溝等の遺構、さらに2面目に古代のAs-B(1108年降下)下の水田や畑、As-Kk(1128年降下)下の水田、畑が調

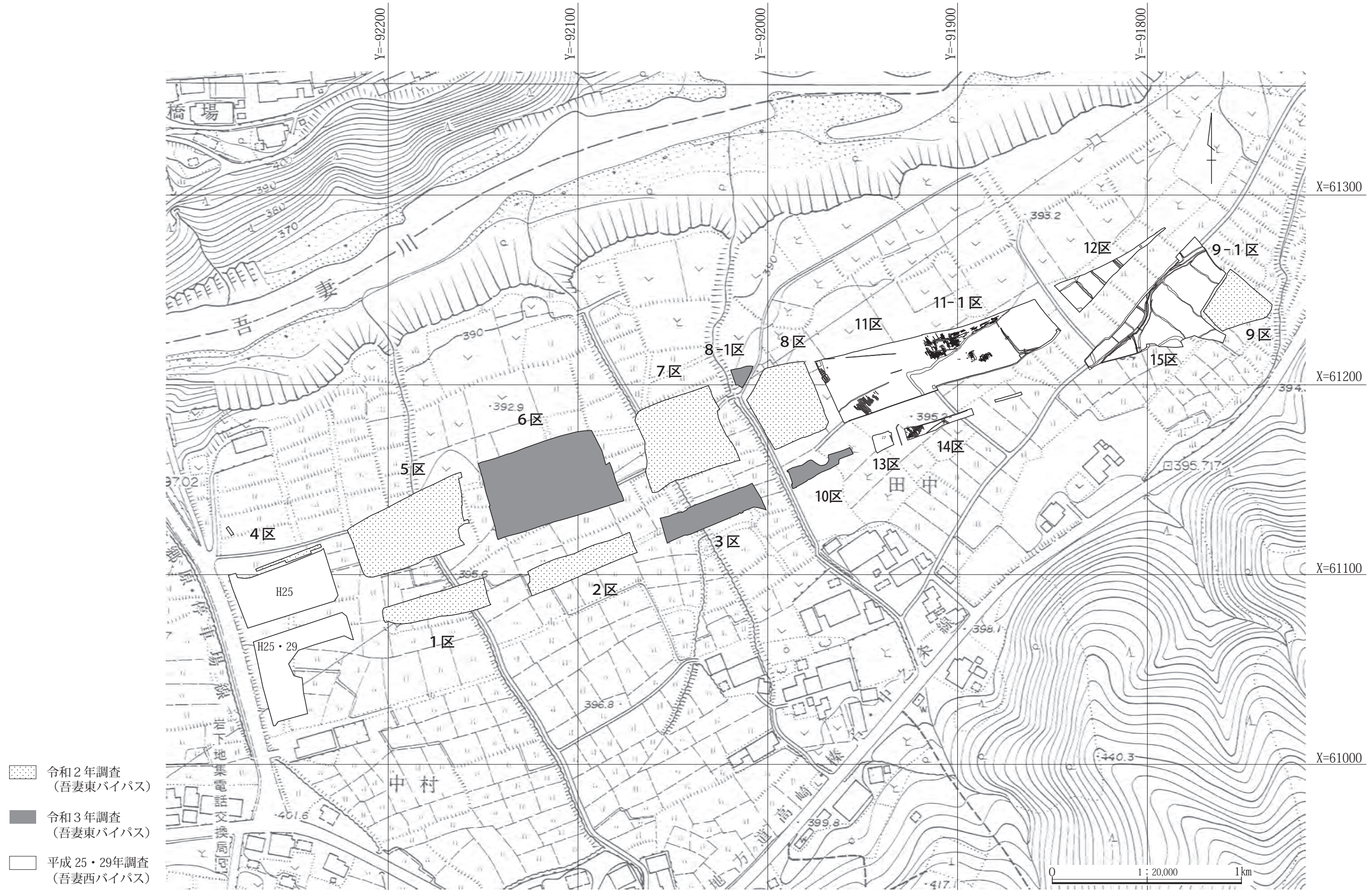
査され、3面目に古墳時代6世紀初頭のHr-FA下の水田が検出された。このように3面の調査面にわたり、水田や畑などの生産跡が調査された。特にHr-FA下の水田は小区画水田であり、吾妻地域西部において初出例であり、群馬県内における古墳時代後期の水田耕作の様相を具体化する極めて貴重な発見となっている。

発掘調査報告書は、群馬県上信自動車道建設事務所(以下県上信道建設事務所)の委託を受け事業団が平成29年1月1日～3月31日、平成29年5月1日～平成30年6月30日に整理業務を実施し、平成30年10月に事業団報告書第644集として『厚田中村遺跡』を刊行した。

### (2) 吾妻東バイパス建設事業に伴う厚田中村遺跡

吾妻西バイパスの建設に伴う発掘調査は令和元年度に終了した。引き続き、県上信道建設事務所は吾妻東バイパス建設事業対象地である当該地(厚田中村遺跡)の埋蔵文化財包蔵地の状況について、令和元年11月7日付けで、試掘・確認調査を県文化財保護課に依頼した。県文化財保護課は令和元年11月12日～14日に試掘・確認調査を実施し、工事対象範囲内において遺構の存在が確認されたため、令和元年12月3日付けで工事対象地に埋蔵文化財の包蔵が認められたことを県上信道建設事務所所長宛に回答した。県上信道建設事務所は令和2年5月1日付けで東吾妻町教育委員会に必要書類を提出し、東吾妻町教育委員会から県文化財保護課に進達を行った。

このように、厚田中村遺跡は県文化財保護課の試掘・確認調査を受け、令和2年7月より県上信道建設事務所の委託により事業団が発掘調査を実施することになった。令和2年度は7月1日から12月31日、令和3年度は4月1日から6月18日まで、調査担当者10名によって調査された。調査面積は令和2年度が12,855.60㎡、令和3年度が8,767㎡である。この2年次にわたる発掘調査の報告書は令和4年度に事業団報告書第716集『厚田中村遺跡(2)』として刊行されている。調査成果として、吾妻西バイパス建設時の厚田中村遺跡調査と同様に、古墳時代、古代、中世・近世に至る3面にわたる水田や畑を含む文化層の調査成果を反映している。特筆すべきは微高地部で調査された古墳時代の集落が報告されている。これは、厚田地区では初出の遺構群で、吾妻川右岸低位段丘における、土地利用の変遷に多様性が窺えた。



第2図 調査範囲図と調査区割図(1/2,500吾妻町都市計画図(東吾妻町提供)を一部加工)

さらに、令和3年10月に県文化財保護課による試掘・確認調査と調整を経て、翌年度の令和4年度も本調査が継続し、令和4年7月1日～12月28日まで、調査面積12,524.30㎡を対象に調査担当者は2名が行った。従来と同様に3面にわたる文化層の調査が行われ、特に天明泥流下に建物が発見されている。麻小屋と思われる小規模な例だが、屋根や壁が検出されており貴重な発見例となった。また中・近世に比定される掘立柱建物群も充実しており、複数回の建て替えも観察されている。さらに弥生・古墳時代の竪穴建物19棟、縄文時代中期末葉の竪穴建物1棟が調査区中央の微高地部でまとまって調査され良好な遺物群が出土している。この成果をまとめた調査報告書が本書である。

### 第3節 調査の方法

#### (1) 調査区と座標の設定(第2図)

前節で述べたように、厚田中村遺跡は吾妻西バイパスと吾妻東バイパス建設事業に跨る遺跡である。吾妻西バイパス建設に伴う発掘調査では、東西に走る路線部分が調査対象であり、南西から北東側へ生活道路を区分とし、1区～9区と便宜的に調査区を設定した。

吾妻東バイパス建設に伴う路線も東西方向が基調であるため南西から北東方向へ、生活道路や水路によって分断された調査区が設定された。令和2・3年度の調査では1区～10区までを設けた。その際4区として、吾妻西バイパス調査時の東端調査区北に接した狭小な調査区を設けた。また、吾妻東バイパス調査時の調査対象地の東端に、急遽調査対象となった9区を飛び地で設けて調査が進められた。

令和4年度は吾妻東バイパス建設事業に伴う継続する調査として、調査区は令和2・3年度から続く連番として9-1区、11区、11-1区、12区～15区を設けた。9-1区は9区北側に接し、11-1区は11区東側に重複するために枝番を付した。

発掘調査に際しては、遺構平面図や遺物分布状況を記録するために世界測地系の第IX系の国家座標を使用した。10×10mを基本とし、遺構平面図中の座標については座標値の下3桁をX軸、Y軸の順で表記した。

#### (2) 発掘調査の方法

前述のように、厚田中村遺跡の発掘調査は3面にわたる複数面の調査面を順次調査している。第1面が天明泥流下の面、第2面が浅間粕川テフラ(As-Kk)下の面、第3面がローム漸移層を遺構確認面とする面、さらに今回は第4面として、第3面より掘り下げたローム層上面で縄文時代の遺構調査を行っている。

調査深度が2m以上と深く、そのため安全対策には万全を期した。調査区周辺の安全対策・整備としてロープスティックとトラロープを使用して調査区を囲い、看板や旗幕を使って危険個所の明示をした。調査区壁面はブルーシートで養生して法面崩落を防止し、調査面までの昇降には単管パイプを使用した階段を設けた。排土土山にはネットを掛け土砂流出を防いだ。また、11-1区や14区などでは湧水が強いため、水中ポンプで排水した。

発掘調査は従来行われてきた標準的な方法で行われた。表土掘削はバックホウなどの重機を使用し、天明泥流を除去した。掘削深度が2mを超える調査区もあるため、調査区法面は安全勾配を保つように努めた。その後調査は2面目、3面目と重機を使用して順次掘り下げ、各面毎に作業員による遺構の検出作業を進めた。

なお、各調査区の調査終了後にバックホウやクローラードンプなど重機を使用して埋め戻しを行った。

#### (3) 遺構の記録

検出された遺構の記録は写真撮影や遺構埋没土の記録などは担当者が行い、遺構平面図、断面図、出土遺物分布図は測量業者に委託した。遺物の取り扱いは、掘削請負職員と作業員が行った。調査区毎の空中写真撮影も業者に委託しラジコンヘリを使用して撮影した。さらに、11-1区で検出された1号建物においては、屋根材や壁材の分析を専門業者に委託した。

遺構図は、平面図、断面図ともに縮尺1/20を基本とし、畑や溝など大型遺構などは1/40、カマドや炉は1/10のように、図種によって適宜縮尺を変更して対応した。図化方法は測量業者にデジタル測量を委託し、打ち出し図面による担当者の校正を経て、デジタルデータと打ち出し図面が提出されている。

遺構写真は発掘担当者が撮影した。デジタル一眼レフ



カメラを主に使用し、竪穴建物などは6×7の中判カメラを併用した。調査区毎の空中写真及び隣接した調査区の合成写真は業者に委託している。また、調査区俯瞰写真は高所作業車を使用し担当者が撮影した。

なお、撮影したデジタルデータはファイル名を調査区や遺構名、内容、撮影方向などの記号化に置換え、ハードディスクやDVDなどのメディアに保存した。

## 第4節 調査の経過

発掘調査は令和4年7月1日に着手した。調査対象地は東西に細長い調査区であり、調査区中央を東西に現道が走り、その他の生活道も南北に数箇所があるため、これら避け、調査区を7箇所に分割し調査を進めることとし、調査区番号は前年度調査区番号を踏襲し9-1区、11区、11-1区、12区、13区、14区、15区とした。

調査事務所は、前年度調査した9区東に隣接した事業地に設置した。駐車場も同地区に設けたが、12区も調査終了後駐車場として併用した。

調査は11区と12区から開始した。掘削に伴う排土置き場は11-1区及び9-1区、15区に設けた。調査進展に伴い、排土置き場も調査終了地区にその都度変更して、事業地内に収めた。調査区の進行は11区・12区→11区・13～15区→11-1区・9-1区とした。

発掘調査は4面に及ぶ、第1面は、As-Aに伴う天明泥流下の面で、主に畑、水田、道、溝などが各調査区で調査された、特筆すべきは、11-1区で泥流によって被災した小規模な建物の屋根部分と壁部分が出土した。本遺跡の場合、第1面の天明泥流下面以外に1-1面として、第1面目と第2面目の間に天明泥流以前の褐灰色土～浅黄橙色土を呈するシルト質の洪水砂層があり、11区南半や13区・14区でこの洪水砂層下に畑や溝を検出している。

第2面はAs-Kk下面に相当する中世面である。11区・11-1区、12区、13区、14区で検出されており、掘立柱建物群や土坑、溝が検出されている。

第3面として、前回、前々回の調査・報告書では、Hr-FA下の調査面が検出されているが、平成4年度の調査では、低地部の9-1区や12区、15区においてもHr-FA層を見出すことは適わなかった。Hr-FA下面に相当する調査面として、11区と11-1区北側で黒褐色土下層のロー

ム漸移層に近似する鈍い黄褐色土層を確認面とする竪穴建物群を調査した。古墳時代前期と後期に分別された良好な集落様相を示している。これを第3面とした。

さらに、第4面として古墳時代集落調査後に最下層で縄文時代中期の竪穴建物と竪穴状遺構、土坑を調査した。

なお、11区と11-1区の高標高部に限り旧石器試掘を行ったが、遺物の出土はなかった。

### 調査日誌抄 令和4年

7月1日(金)	調査開始。環境整備など。
7月12日(火)	12区表土及び天明泥流掘削・排水作業。
7月15日(金)	11区表土及び天明泥流掘削。
7月25日(月)	11区1面遺構(溝、畑、復旧溝など)検出作業。12区1面遺構検出作業。水田・土手、溝を調査。
8月2日(火)	11区1面遺構検出作業。12区1面ラジコンヘリによる全景写真撮影後第2面目の調査へ。溝2条を検出。
8月10日(水)	12区2面高所作業車による全景写真撮影後第3面掘削。遺構無し。
8月19日(金)	11区1面全景写真撮影(ラジコンヘリ)。12区3面全景撮影後埋め戻し。
8月23日(火)	11区1-1面遺構検出作業。溝・畑を調査。13区表土・天明泥流掘削。
8月26日(金)	11区2面遺構検出作業。1-1面と平行調査。13区1面全景・測量。第1面調査終了。
8月30日(火)	11区2面遺構検出作業。掘立柱建物群、土坑、溝などを調査。13区1-1面遺構検出作業。16号畑を調査。
8月31日(水)	11区2面遺構検出作業。13区1-1面全景撮影後2面調査。45号溝検出。
9月1日(木)	11区2面遺構検出作業。13区2面全景撮影後下面調査。遺構無し。13区調査終了後埋め戻し。
9月6日(火)	11区2面遺構検出作業。14区表土・天明泥流掘削後1面遺構検出作業。畑、段差(水田)の調査。
9月14日(水)	11区2面遺構検出作業。14区1面高所作業車による全景撮影後1-1面遺構検出作業。畑、溝を検出。
9月22日(木)	11区2面遺構検出作業。14区1-1面全景写真撮影。2面遺構検出作業。52号溝検出。
9月28日(水)	11区2面遺構検出作業。14区西側埋め戻し。
10月3日(月)	11区2面掘立柱建物群調査佳境。14区東側1面調査終了、埋め戻し。15区表土及び天明泥流掘削。
10月5日(水)	11区2面全景写真撮影(ラジコンヘリ)。3面目調査へ。竪穴建物群の調査。15区天明泥流掘削継続。
10月20日(木)	11区3面竪穴建物群調査佳境。15区1面遺構検出作業。水田、溝、土手、道などの調査。
10月24日(月)	11区3面空撮(ラジコンヘリ)。15区1面遺構検出作業。
11月1日(月)	11区3面調査終了、埋め戻しへ。11-1区表土・天明泥流掘削。15区1面遺構検出作業。
11月2日(水)	11-1区1面遺構検出作業。15区1面全景写真撮影(ラジコンヘリ)。
11月8日(火)	11-1区1面遺構検出作業。水田、溝、土手、畑などの調査。15区2面・3面調査終了、遺構無し。埋め戻しへ。9-1区表土及び天明泥流掘削。
11月14日(月)	11-1区1面1号建物(壁・屋根)検出。9-1区天明泥流掘削。
11月17日(木)	11-1区東側2面へ掘削。9-1区1面遺構検出作業。水田、道、溝を検出。
11月21日(月)	11-1区1面1号建物(壁・屋根)分析用サンプル採取。東側2面遺構検出作業。9-1区1面遺構検出作業。
11月24日(木)	11-1区1面1号建物調査終了。西側2面遺構検出作業。土坑、溝、列石などの調査。9-1区1面遺構検出作業。
12月2日(金)	11-1区2面、9-1区1面全景写真撮影(ラジコンヘリ)9-1区2・3面トレンチ確認調査。遺構無し。
12月5日(月)	11-1区3面遺構検出作業。竪穴建物が主体。9-1区埋め戻し。
12月9日(金)	11-1区3面18号竪穴建物などの遺構調査が佳境。
12月13日(火)	11-1区3面全景写真撮影(ラジコンヘリ)。竪穴建物調査継続。
12月20日(火)	11-1区4面23号竪穴建物、1号竪穴状遺構調査。
12月23日(金)	11-1区4面23号竪穴建物炉体土器取り上げ。炉掘方調査。3・4面下トレンチ確認調査。遺構無し。11-1区埋め戻しへ。
12月28日(水)	調査区、事務所撤収作業。調査終了。

## 第2章 遺跡の地理的・歴史的環境

### 第1節 地理的環境(第3図)

厚田中村遺跡は、群馬県北西部の山間部にあたる吾妻郡東吾妻町大字厚田に所在する。東吾妻町は平成18年3月に吾妻町と吾妻郡東村が合併して誕生した町である。

本遺跡は旧吾妻町に位置し吾妻町は昭和30年に岩島村、坂上村、大田村、原町が合併し原町となり、翌年吾妻町と町名が変更された。本遺跡は旧岩島村にあたり岩島村は明治22年の町村制施行により岩下村、松谷村、三島村、矢倉村、郷原村、厚田村の合併によるものである。

東吾妻町は西に長野原町、東に渋川市、北に中之条町、南に高崎市の市町境を接している。地形的には南東に榛名山、南西には浅間隠山などが聳え、町北部には吾妻川が東西に流れ、温川、深沢川が合流し、流域には河岸段丘による平地が広がり、町の交通や産業の多くがこの平地に集中する様相を示す。特に吾妻川沿いが町の中心を占めており、JR吾妻線、国道454号が吾妻川に平行して走向しており、町の発展の中心となっている。吾妻川は上信国境の一つである鳥居峠付近に源を發し、白砂川や四万川、温川、沼尾川などが合わさり渋川市白井で利根川と合流する全長約76kmの一級河川である。利根川が南北の流呈を示し関東地方との連絡が示唆されるが、吾妻川は東西方向に流れ、長野県との交通路ともなっている。この東西の動線の周辺に長野原町や東吾妻町、中之条町などの市街地が形成され、基幹産業も発展してきたのである。

厚田中村遺跡は吾妻川右岸にあたり、遺跡地の北側を吾妻川の河川崖が東西に画す。河床面から調査地までの標高差は約30mを測る。本遺跡より下流は河岸段丘面が一端狭まるが、深沢川合流地点付近より河岸段丘面が發達し平坦地が広がり中之条盆地へと繋がる。当地域の河岸段丘は、上位段丘面は蓑原面・成田原面、中位段丘面は新巻面、下位段丘面は中之条面、最下位段丘面群は伊勢町面群に大別され、伊勢町面群はIs-I～Is-IV面に細分されている。本遺跡周辺は下位段丘面である中之条面と最下位段丘面群である伊勢町面群(Is-I面)に占めら

れ、本遺跡の大半は伊勢町面群に乗る地形状況である。ただし伊勢町面群はロームの堆積が認められておらず、本遺跡の調査では11区や11-1区の北側にはローム層とされる堆積が認められ、下位段丘面である中之条面の可能性もある。近年の研究では、このローム層とした層位を吾妻川の段丘礫層としており(相京建史・山口一俊2020)、ここでは、本遺跡の立地条件は伊勢町面群と判断したい。同様に周辺遺跡も多くが最下位段丘面である伊勢町面群に選地している。これは集落あるいは水田・畑などの生産施設にとって平坦地が保証される最下位段丘面に居住地が選択されたと判断できよう。この傾向は現代社会にも継続されており、当地域の住宅地及び農地の多くが下位段丘面あるいは最下位段丘面に集中しており、さらに近年は工場地帯として吾妻川右岸の最下位段丘面が選ばれている。山あいの当地域にとって、最下位段丘面が開発や産業の主要な範囲なのである。

このように本遺跡は吾妻川右岸で吾妻川に合流する温川と深沢川の間形成された最下位段丘に位置し、遺跡の東側は田中沢川、西は本田中沢、北は吾妻川河川崖によって画され、南は榛名山北西麓の火山地斜面が迫る。この斜面地形の末端には湧水が点在しており、湧水や小河川を水利の供給源とした水田や畑などが最下位段丘や下位段丘を中心に広がりを見せる。おそらく古来より、湧水や小河川は集落の水源ともなり、小河川が形成する谷筋や扇状地形周辺には各時代の集落が営まれていたものと思われる。特異な例ではあるが、当地域には湧水を利用した水牢が知られる。東吾妻町新巻にある池の薬師水牢や中之条町百瀬の水牢が著名である。真田家によって行われた年貢未納者への拷問施設とされている。また、湧水のひとつである箱島湧水は日本名水百選にも選ばれ、東吾妻町の観光名所ともなっており、岩櫃城や吾妻溪谷と併せた観光資源として注目されている。最下位段丘を主とした当地域の産業・開発であるが、近年は名所・旧跡を取り込んだ観光開発にも積極的である。

## 第2節 歴史的環境(第4図)

ここでは、厚田中村遺跡周辺の埋蔵文化財を主とした遺跡を概観する。なお、周辺の古墳及び城館跡は多く、ここでは主な古墳や城跡を中心にして掲載し、多くは割愛させていただく。

**旧石器時代：**前述のように本遺跡及び周辺遺跡の多くが吾妻川河岸段丘の下位段丘面及び最下位段丘面に位置しているためロームの堆積は薄い。各調査遺跡は旧石器時代文化層の把握のためローム相当層の確認調査を試みてはいるが、未だ石器の出土を見ない。その中で、山麓緩斜面に位置する岩櫃城北側遺構群遺跡(123)では、柳葉形尖頭器1点の出土が報告されている。

**縄文時代：**戦前の出土であるが、郷原遺跡(126)で国の重要文化財に指定されたハート形土偶が知られる。

**(草創期)**植栗中原遺跡(52)で草創期の隆起線文系土器と石槍、石鏃が出土している。3基のブロックと配石からなる遺構群で、当地域で初の縄文時代草創期調査・報告例となっている。遺跡は下位段丘面である中之条面に立地しており、ローム漸移層からの草創期遺物の出土である。周辺遺跡の調査でも参考になると思われ、調査成果は大きい。

**(早期)**令和2年度の事業団調査下泉A遺跡(61)で撚糸文系土器と集石が検出されている。他では根小屋城跡(3)、唐堀C遺跡(6)、新井遺跡(21)、川戸楮原遺跡(23)などで早期後半の資料が出土している。吾妻川左岸山地斜面に立地する念仏塚遺跡(122)では早期末葉に比定される竪穴建物が報告されている。

**(前期)**群馬県内で調査例が爆発的に増える時期である。集落遺跡も多く、昭和村糸井宮前遺跡や安中市中野谷松原遺跡など著名な大型集落が知られる。当地域では、大規模な集落遺跡は見られないが、小規模な例が点在する様相を示す。前期初頭の資料としては、四戸遺跡(13)、前半の集落遺跡は下郷古墳群遺跡(33)や念仏塚、岩櫃城北側遺構群遺跡が調査されている。後半の集落遺跡としては唐堀C遺跡が挙げられる。

**(中期)**大型環状集落が各地で営まれ、遺跡数も増加する時期である。吾妻川流域では一連のハツ場ダム調査遺跡である長野原一本松遺跡、林中原遺跡、上ノ平I遺跡、

横壁中村遺跡、石川原遺跡などが著名である。東吾妻町内では調査範囲が限られるためか、集落の全体像が把握された例は無い。その中で、郷原遺跡、小泉宮戸遺跡(54)、柳沢遺跡(86)などで中期中葉の良好な土器群を出土した竪穴建物が調査されている。大型環状集落がピークになる中期中葉末～後葉段階の集落の調査例が少ないが、近年の調査による岩井山根B遺跡(58)などでも当該期の竪穴建物が検出されており、将来的には発見例が増すと思われる。中期末葉の集落としては、本遺跡(1)の23号竪穴建物が該当する。その他では新井遺跡や下郷古墳群でも該期集落が調査されている。

**(後期)**後期初頭～前半期は、中期末葉段階において敷石建物が営まれた集落遺跡が主となる時期であり、新井遺跡でも後期初頭の敷石建物が調査されている。その他植栗中原遺跡や郷原遺跡でも竪穴建物や土坑を調査している。後期～晩期段階の遺跡として唐堀遺跡(7)が著名である。竪穴建物の他にトチノミ主体の水場遺構や配石遺構が集落内施設として検出され、彫刻のある木柱、大量の石皿、磨石、石鏃の他石棒や岩版、石剣、玉類などの石製品、耳飾りなど豊富な出土遺物からも群馬県の縄文時代後・晩期遺跡を代表する調査例となるだろう。出土土器は後期の堀之内式や加曾利B式、高井東式の他に晩期の天神原式や安行3a～3c式とともに佐野式、大洞BC式やC1式、御経塚式など他地域の土器群も出土している。後・晩期集落の拠点の一つである。

**(晩期)**前述の唐堀遺跡に代表されるが、他に隣接する唐堀B遺跡(8)や万木沢B遺跡(10)で該期資料が出土している。特に万木沢B遺跡は唐堀遺跡の晩期集落から弥生時代前期への継続集落として位置付けられ、両遺跡の在り方が注目されている。また、距離を置くが植栗山根A遺跡(65)では晩期前葉の竪穴建物2棟が調査されている。

**弥生時代：**当地域は岩櫃山鷹の巣遺跡(129)が著名であり、弥生時代遺跡が注目される地域である。

**(前期)**前述の万木沢B遺跡に限られるが、唐堀遺跡との継続性など検討課題が多く、極めて重要な遺跡である。また霜田遺跡(19)では弥生中期とされる甕形土器が集石遺構より出土しているが、あるいは前期の可能性もある。

**(中期)**中期遺跡は量的には少ないが、調査例に従い増加している。集落遺跡として新井遺跡が特筆されよう。竪



第3図 周辺地形分類図

穴建物2棟とも焼失家屋であり、出土土器の一括性は極めて高い。温川対岸の四戸遺跡でも中期後半の竪穴建物を2棟報告している。また著名な岩櫃山鷹の巣遺跡(129)は中期土器型式の岩櫃山式の標識遺跡であると同時に再葬墓遺跡としての位置付けも重要である。さらに岩櫃山鷹の巣遺跡北西500mに近接して、1次葬の痕跡と位置付けられた幕岩岩陰(130)がある。一方岩櫃山の西南西約2.2kmの前畑遺跡(135)も再葬墓1基と中期土坑が検出されている。

(後期)遺跡数は集落を中心に爆発的に増加する。主に下位段丘面や最下位段丘面に集中する。農耕社会の定着が図られた結果であろうか。出土土器の大半が櫛描文を施文しており、樽式の範疇で解釈できると思われるが、中部高地の箱清水式も考慮しておきたい。主な遺跡とすれば、本遺跡の他、唐堀B遺跡(8)、四戸遺跡、四戸の古墳群(14)、新井遺跡など一連の調査で集落遺跡がまとめて検出されている。新井遺跡の土坑墓からは長剣が出土している。これらの遺跡群からは弥生時代後期の拠点的な地域として位置付けられよう。同様に、下郷古墳群の他、東部地区における植栗地区や小泉地区でも集落遺跡が多数調査され、植栗舞台遺跡(49)や小淵沢B遺跡(51)、植栗中原遺跡(52)では古墳時代前期にかけての集落が広がる。さらに対岸の中之条町伊勢町天神遺跡(98)や伊勢町川端遺跡(99)では環濠や大型竪穴建物が調査され、人面土器や鉄剣、鉄釧、鉄斧が出土しており当地域の拠点集落として位置付けられている。その他では諏訪前遺跡(116)でも竪穴建物が、小泉宮戸遺跡(54)では墓壇とされる円形土坑からガラス小玉17点が出土している。時期は弥生～古墳時代前期とされている。遺構出土ではないが、市城塔本遺跡(92)では、出土土器が充実する。

**古墳時代：**集落遺跡は下位段丘面や最下位段丘面に広がりを見せ、古墳も同様な立地を示す。一方、丘陵部や山地斜面部に小型の円墳を造営する傾向も見られ、集落との関係性も注意を要する。

(前期～中期)集落遺跡は弥生時代後期からの継続でやや小規模な遺跡が設けられる。四戸遺跡では4世紀～5世紀前半代の竪穴建物が10数棟、新井遺跡でも前期～中期の竪穴建物2棟が報告されている。本遺跡も数棟の該期竪穴建物を調査している。下郷古墳群でも事業団が前期の竪穴建物を調査している。植栗、小泉地区では小泉宮

戸遺跡、植栗舞台遺跡、植栗中原遺跡、小淵沢B遺跡、植栗山根遺跡が、吾妻川左岸の中之条町では伊勢町川端遺跡、伊勢町天神遺跡、東吾妻町諏訪前遺跡、前畑遺跡で当該期の竪穴建物が調査されている。当地域に4世紀代の古墳は見られないが、新井遺跡で方形周溝墓や5世紀代の墓、植栗中原遺跡で周溝墓が報告されている。

(後期)後期の集落は前・中期集落から、さらに規模を充実した様相を示す。前述した各遺跡で後期竪穴建物が調査・報告されており、古墳時代後期に至り当地域の生産力の拡大が示唆される。唐堀C遺跡、万木沢B遺跡、四戸遺跡、四戸の古墳、霜田遺跡、新井遺跡、本遺跡が挙げられる。植栗地区、小泉地区も同様に、小泉宮戸遺跡、植栗舞台遺跡、植栗中原遺跡、小淵沢B遺跡、植栗山根遺跡、小泉天神遺跡、旧東村の新巻膝附遺跡(74)では大型住居に張り出し部を持つ例や四面庇の掘立柱建物が検出されている。当地域で屈指の内容を誇る遺跡が、中之条町伊勢町天神遺跡と伊勢町川端遺跡とされる。特に伊勢町川端遺跡では石垣が巡る方形区画などが調査され、古墳時代の豪族居館が示唆されている。弥生時代後期から継続する拠点地域であろう。同様の吾妻川右岸では、諏訪前遺跡、東上野遺跡(112)が古墳時代後期の集落である。東上野遺跡は重複する竪穴建物が多く、また玉作りの遺跡としての位置付けがされている。また、県指定史跡として「姉山遺跡の石組かまど」(141)が知られるが、当地域でも古墳時代後期になると竪穴建物には石組かまどが普遍的に設営される傾向である。石材の容易な入手が果たされる群馬県北域のカマド形態で、強い地域性が具体化している。

当地域での初頭期の古墳としては、中之条町の石ノ塔古墳(103)、東吾妻町の机古墳(136)が知られる。いずれも主体部を竪穴系石槨とする5世紀後半の所産である。その他の調査された古墳を中心に概観すると、右岸西から、唐堀1号墳は唐堀遺跡調査で得られた7世紀前半の両袖横穴式石室を持つ円墳である。四戸の古墳群では6世紀後半～7世紀中頃の3基を調査した。群馬大学が調査した四戸Ⅳ・Ⅰ号墳は無袖横穴式石室で6世紀前半とされている。また生原古墳群(16)では2基の古墳を調査した。1基は帆立貝形で6世紀中頃～後半、円墳は6世紀末とされている。新井遺跡では古墳3基を調査した。6世紀代に時期が求められ方墳1基が含まれる。下郷古

墳群71号墳は無袖型横穴式石室で直刀や馬具・辻金具など金属製品、多量の玉類などから6世紀前半代に時期が求められている。植栗地区にも多くの古墳がある。事業団が調査した植栗中原遺跡では5世紀代とされる円墳と時期不明の方墳が報告されている。いずれも周堀のみの検出である。町教委が調査した小泉宮戸遺跡の3号古墳は7世紀代の終末期古墳で単独墳とされる。両袖横穴式石室の円墳で葺石が巡る。周堀を持ち出土遺物に壺、長頸壺、横瓶、大甕、刀装具、鉄鍬などが豊富に出土している。なお、土壙墓と小石室が近接している。小泉天神遺跡の天神1号墳は横穴式石室と思われ、須恵器瓶や大甕の出土から6世紀以降の所産と思われる。吾妻川の左岸も濃密な古墳分布を示す。中之条町内では市城亀石古墳群(94)、伊勢町只則古墳群(96)、永田原遺跡(102)、小川古墳群(104)、山田勝負瀬古墳群(105)、寺久保古墳群(106)東吾妻町では原町下の町古墳群(110)等がある。諏訪前遺跡では円墳1基が調査されており、6世紀前半と位置付けられている。吾妻川上流左岸には前述の机古墳があり、前畑古墳群(135)や岩島4号墳(131)などが点在する。岩島4号墳は円墳で東吾妻町教委の調査で横穴式石室を報告している。

古墳時代の生産跡として、Hr-FA下水田が本遺跡で検出されている。植栗中原遺跡も小範囲ながら該期水田を調査した。また植栗山根遺跡では厳密なHr-FA直下ではないが、ほぼ同時期の小区画水田を報告している。

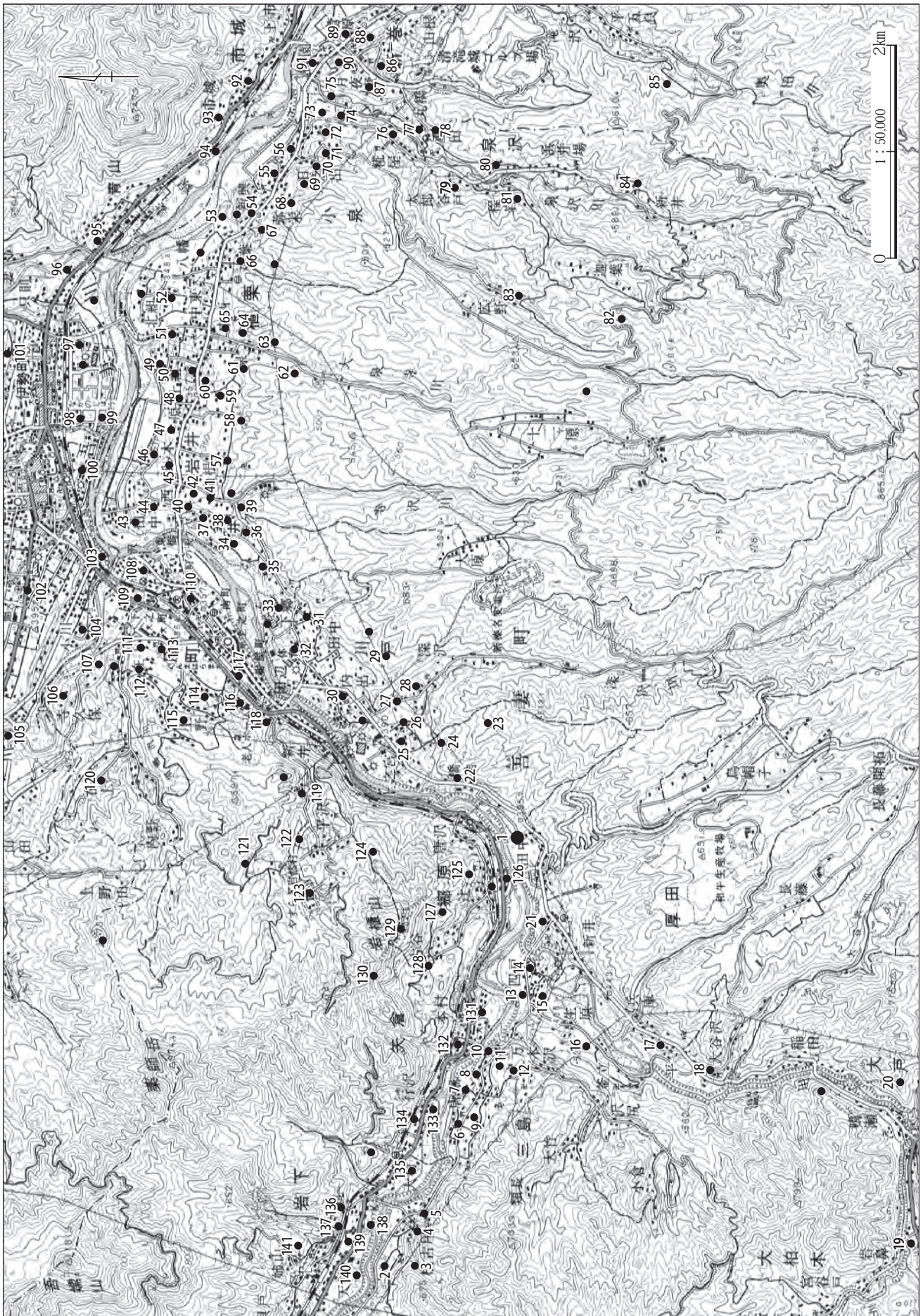
**古代：**当地域で著名な遺跡としては、金井廃寺(38)と天代瓦窯跡(101)が挙げられる。金井廃寺の創建は律令期への移行期であり、造瓦操業のために天代瓦窯が設けられ、金井廃寺出土の軒丸瓦は伊勢崎市の上植木廃寺のものと同汎とされている。金井廃寺や天代瓦窯跡と同時に吾妻郡設置と連動した様相が各遺跡の遺構・遺物に看取される。金井廃寺西約950mの下郷古墳群調査の際に、7世紀代の集落を中心に楚板石や布掘りを持つ掘立柱建物群や円面硯を検出した。植栗地区や小泉地区でも植栗中原遺跡や小淵沢遺跡では墨書土器が出土し、2021～2022年度調査の小田沢遺跡(59)でも墨書土器や浄瓶が出土している。さらに、小泉宮戸遺跡では竪穴建物と掘立柱建物がセットになり有力者の居宅として位置付けられている。埋没谷出土の暗文杯や特殊須恵器も示唆的である。また小泉天神遺跡でも焼失した竪穴建物より暗文杯

の良好な一括資料や鉄製品が相伴している。ほぼ近接した新巻膝附遺跡では、四面庇の掘立柱建物も調査されており、小泉宮戸遺跡、小泉天神遺跡、さらに下郷古墳群や古代集落と併せて、律令段階の公的で整然とした施設や集落群が想定されよう。

吾妻川対岸の該期様相とすれば、上原遺跡、伊勢町天神遺跡が特徴的である。上原遺跡では奈良・平安時代の竪穴建物30棟以上、掘立柱建物などが調査されている。伊勢町天神遺跡は竪穴建物や掘立柱建物、柵列の主軸が一致し、銅印や奈良三彩が出土していることから、吾妻郡「伊参院」と推定されている。極めて重要な遺跡群であろう。事業団が調査してきた上信自動車道に関わる一連の調査でも当該期の遺構・遺物は各遺跡で検出されているが、とりわけ四戸遺跡で出土した奈良三彩は特筆されよう。8世紀後半に時期が求められる短頸壺の大型品が竪穴建物より出土している。

当該期の生産跡としては先に挙げた天代瓦窯跡が挙げられよう。天代瓦窯跡は3箇所の瓦窯が調査されている。地下式と半地下式の瓦窯で操業期間は7世紀後半～9世紀とされ、主体は8世紀中頃である。各地の寺、館への瓦供給が推定されているが、主な供給先は金井廃寺と思われる。次に中之条町市城駅北側に勅使牧である「古代牧」が推定されている。時期、場所など不明点が多いが、馬の生産、管理が当地域の生業の一部を担っていたようだ。その他では、当地域の該期集落遺跡には製鉄関連遺構が集落内に設けられる。小泉宮戸遺跡は鍛冶遺構の他製鉄炉が、諏訪前遺跡では溝による方形区画された鍛冶跡が調査されている。時期は9世紀後半である。生産遺構の一つである畑や水田も最近の調査で例を増やしている。本遺跡では天仁元年(1108)降下の浅間火山灰(As-B)によって埋没した畑が一部検出されている。また12世紀前半に降下したとされる浅間粕川テフラ(As-Kk)下の畑も調査されている。四戸遺跡ではAs-B下の畑、万木沢B遺跡ではAs-B上の畑、As-Kk下、As-B下の畑が調査されている。距離を置くが霜田遺跡でもAs-B下水田を調査したが残存状態は良くない。植栗地区では、植栗山根A遺跡でAs-B下及びAs-Kk下の水田を調査している。対岸の吾妻川左岸では善導寺前遺跡でAs-B下の水田が調査されている。

**中世・近世：**当地域は中世・戦国期における勢力・覇



第4図 周辺遺跡分布図(国土地理院1/50,000地形図「中之条」平成10年8月1日発行を使用)

第1表 周辺の主な遺跡

番号	遺跡名	縄文	弥生	古墳	古代	中近	概要	文献等	市町村番号
1	厚田中村遺跡	○	○	○		○	4次にわたる調査。町教委調査では古墳時代～古代集落。事業団調査では縄文時代中期、弥生時代後期、古墳時代の集落、溝、水田。中世の掘立柱建物、溝等。天明泥流下の被災建物、畑、水田、溝等	35・47・ 48・61・ 本報告	117
2	細谷E遺跡				○	○	古代以降の土坑・鍛冶関連遺構等	54・61	63
3	根小屋城遺跡	○			○	○	16世紀代の山城である根小屋城の下曲輪に相当する箇所調査。掘立柱建物、柵列、堀切、門、竪穴状遺構。縄文時代早期から中期前葉の資料。古代の陥穴状土坑	4・56・61	81
4	根小屋B遺跡				○	○	古代以降の土坑、ピット等	54・61	125
5	根小屋遺跡				○	○	平安時代の集落。中・近世の溝、土坑等	54・61	123
6	唐堀C遺跡	○		○	○	○	縄文時代前期後葉の集落。古墳時代後期～平安時代の集落。中・近世の竪穴状遺構1・畑等	53・61	124
7	唐堀遺跡	○	○	○	○	○	縄文時代後期から晩期の集落遺跡。トチノミ主体の水場遺構や竪穴建物、配石、土坑等多様な遺構種。多量の土器類・石器類の出土以外に彫刻を施した木柱や遮光器土偶、耳飾り、岩版等特殊遺物も豊富。この他に上層では両袖横穴式石室を持つ1号墳や天明泥流下の水田や畑、掘立柱建物等を検出した	14・51・ 52・61	67
8	唐堀B遺跡	○	○	○		○	弥生後期集落。近世以降の掘立柱建物。他に配石遺構や井戸等、古墳時代の杯類や縄文時代後～晩期土器等	46・61	121
9	唐堀D・E遺跡	○			○	○	散布地	8・61	233・234
10	万木沢B遺跡	○	○	○	○	○	主体は縄文時代晩期より弥生時代前期集落。唐堀遺跡晩期集落からの継続性が想定される。出土遺物は豊富で東海系や東北系土器が混在する。土偶には黠面土偶もある。古墳時代から古代の集落を調査	57・61	126
11	万木沢遺跡			○			散布地	8・61	18
12	上反遺跡	○					散布地。村誌で石鏃や石棒を紹介している。	8・11・61	19
13	四戸遺跡	○	○	○	○	○	縄文時代前期、弥生時代後期、古墳時代前期～後期、古代の大規模な集落遺跡。9世紀代の竪穴建物より奈良三彩短頸壺が出土している	49・61	119
14	四戸の古墳群	○	○	○	○		古墳3基の調査。四戸遺跡集落の墓域か。6世紀後半～7世紀中頃の横穴式石室で1号墳からは藤岡産の器財埴輪が出土した。弥生時代や古墳時代の集落、古代の集石遺構、中世の墓塚等を調査した	50・61	20
15	峰遺跡			○			散布地	8・61	42
16	生原古墳群・ 生原西遺跡			○			帆立貝形古墳を含む2基の調査。出土遺物は埴輪・勾玉・ガラス玉・金環・鉄鏃等	11・24・61	235
17	平遺跡			○			散布地	8・61	21
18	平古墳			○				8・61	236
19	霜田遺跡(下田遺跡)		○	○			弥生時代前期の集石遺構。古墳時代の竪穴建物6棟。中・近世の溝等	43・61	22
20	手子丸城跡					○	山城。大戸城。中世城館跡775。曲輪、土塁、2重堀切、横堀。岩櫃城と並ぶ吾妻郡の重要拠点とされる	4・6・61	33
21	新井遺跡	○	○	○	○	○	縄文時代早期後葉～前期中葉、中期末葉～後期初頭の集落。弥生時代中期竪穴建物2棟は焼失住居で良好な土器一括資料、炭化種実等が出土する。弥生後期の土坑墓は長剣を副葬していた。弥生後期～古墳時代の周溝墓5基や古墳3基が調査されている。古代の集落も竪穴建物7棟、掘立柱建物2棟を見る。中近世では天明泥流下から畑、石垣、道等を検出した。	55・61	120
22	厚田橋詰遺跡					○	2022年事業団調査。縄文～古代の土坑・ピット。中・近世の掘立柱建物や土壇墓、畑、土坑等を検出している	60・61	253
23	川戸楮原遺跡	○			○		縄文時代早期～中期の土坑4基(陥穴状土坑1を含む)	34・61	115
24	川戸太田遺跡				○	○	2021年事業団調査。古代～中・近世の畑、土坑、溝等	60・61	251
25	上ノ宮遺跡			○			散布地。集落	8・61	51
26	川戸古墳群			○			川戸神社西古墳、園辺A・B号墳含む。横穴式石室を持つ円墳。綜覧原町14・15・30・144～166等	8・33・61	219
27	深沢遺跡	○	○	○		○	2022・2023年事業団調査。縄文時代中期の集落等が調査されている	60・61	52
28	玉科遺跡	○	○	○			散布地	8・61	4
29	水上遺跡	○		○			散布地。集落	8・61	53
30	内出城跡					○	太田城跡。平城。堀、土居	4・6・61	83
31	天竜遺跡	○		○	○	○	2022・2023年事業団調査。古墳時代～古代の集落等	60・61	218
32	下郷A遺跡	○		○			散布地	8・61	50
33	下郷古墳群	○	○	○	○	○	縄文時代前期前半及び中期の集落。弥生時代後期の集落。6世紀前半の71号墳は袖無型横穴式石室で、直刀や鉄地金銅張辻金具等馬具類、琥珀玉等副葬品多数。古墳前期集落。古代集落には大型の掘立柱建物もあり円面硯等の出土から近接する金井廃寺との関連も想定され官衙等の性格も予想される	32・33・ 44・61	6



第2章 遺跡の地理的・歴史的環境

番号	遺跡名	縄文	弥生	古墳	古代	中近	概要	文献等	市町村番号
34	水頭A遺跡				○		散布地	8・61	222
35	水頭B遺跡				○	○	散布地	8・61	223
36	市敷A遺跡				○		散布地	8・61	220
37	市敷B遺跡				○		散布地	8・61	221
38	金井廃寺跡				○		7世紀後半創建の古代寺院。多数の礎石残存。創建瓦は伊勢崎市上植木廃寺と同范	5・9・13・61	5
39	岩井寺沢古墳			○			「こう塚古墳」。総覧太田村17号墳	1・7・8	98
40	八幡A遺跡	○	○		○		散布地	8・61	163
41	八幡B遺跡				○		散布地	8・61	164
42	西中堀遺跡				○	○	散布地	8・61	169
43	岩井西古墳群			○			総覧太田村15号墳等	1・7・8	97
44	田中A・B遺跡		○		○		散布地	8・61	161・162
45	松木A遺跡	○	○			○	散布地	8・61	165
46	白山神社遺跡		○	○			散布地。総覧太田村21号墳	1・7・8	12
47	原A・B遺跡	○	○			○	散布地	8・61	167・168
48	塚腰遺跡			○	○	○	散布地	8・61	178
49	植栗舞台遺跡		○	○	○		弥生後期～古墳時代中期集落。1997年吾妻町教委調査	8・61	90
50	田野原A・B遺跡			○	○	○	散布地。諏訪塚古墳(総覧太田村22号墳含む)	1・7・8	180・181
51	小沢沢A・B遺跡		○	○	○		小沢沢B:弥生時代後期末～古墳時代前期集落。古代集落、墨書土器「吾」等出土	58・61	187・188
52	植栗中原遺跡	○	○	○	○	○	数次にわたる調査歴。植栗城や植栗古墳群を含む。町教委調査では縄文時代集落、古墳時代集落、水田、畑跡、古代集落、近世遺構群等。事業団調査では縄文時代草創期のブロック3を見る。隆起線文土器と石槍、石鏃が共存する。弥生時代後期末～古墳時代集落、周溝墓2、古墳2基。古代、近世遺構群等	31・58・61	91
53	猪ノ鼻遺跡	○	○		○		散布地	8・61	194
54	小泉宮戸遺跡		○	○	○		縄文時代中期集落、弥生時代後期土坑、古墳時代集落、横穴式石室の終末期円墳、古代集落、掘立柱建物、鍛冶遺構、製鉄炉等、中・近世掘立柱建物等。小泉古墳群含む	28・61	92
55	中郷遺跡	○			○	○	散布地	8・61	195
56	桜貝戸遺跡		○		○		散布地	8・61	196
57	岩井山根A・B遺跡	○	○	○	○	○	2021年度岩井山根B遺跡を事業団調査。縄文時代中期集落、弥生時代後期集落、古墳時代集落、古代集落、中・近世掘立柱建物等を調査	60・61	170・171
58	大日山古墳			○		○	総覧太田村102号墳か。小田沢の砦を含む	6・8・61	172
59	小田沢遺跡	○	○	○	○	○	2020～2022年度事業団調査。古墳時代集落、古代集落、中・近世掘立柱建物群等を調査。古代堅穴建物より墨書土器や浄瓶等を出土。	60・61	173
60	原田A～D遺跡				○		散布地	8・61	174～177
61	下泉A・B遺跡	○	○	○		○	町教委調査では下泉B遺跡で中世掘立柱建物群を調査している。事業団調査では下泉A遺跡からは縄文時代早期の集石遺構や中世の掘立柱建物が調査され、下泉B遺跡は古墳時代の堅穴建物1棟を検出した	36・60・61	182・183
62	上泉遺跡	○	○		○		散布地	8・61	184
63	諏訪山塚古墳			○			総覧太田村35号墳	8・61	185
64	鹿島峰塚古墳			○			総覧太田村36号墳か	8・61	64
65	植栗山根A・B遺跡	○	○	○	○	○	植栗山根A遺跡を事業団調査・報告。縄文時代晩期前半集落、古墳時代集落・水田、古代、中・近世溝	59・61	189・190
66	沢ノ上A～C遺跡				○		散布地	8・61	191～193
67	池ノ沢遺跡	○			○		事業団2022年度調査。縄文時代中期後葉集落、古代集落等	8・60・61	197・198
68	小泉山根遺跡		○		○		散布地	8・61	199
69	堀ノ内遺跡				○		散布地	8・61	200
70	小泉中沢遺跡			○	○		散布地	8・61	93
71	原貝戸遺跡				○	○	散布地	8・61	201
72	小泉天神西遺跡	○	○	○	○		事業団2022年度調査。縄文時代集落、古墳時代～古代集落、中・近世の掘立柱建物等	8・60・61	202
73	小泉天神遺跡			○	○	○	古墳時代集落及び古墳1。古代集落。中・近世堅穴建物等。8c中頃の堅穴建物からは炭化木器や火打ち金、暗文土師器杯の良好な資料が出土している	29・61	94
74	新巻膝附遺跡			○	○	○	吾妻町教委調査では古墳時代～古代集落(張り出し部を持つ大型堅穴建物や四面庇の掘立柱建物)。中世の掘立柱建物等。事業団は2022・2023年度調査。古代集落等	38・60・61	108
75	新巻膝附東遺跡	○			○	○	散布地	8・61	149
76	糺屋遺跡		○				散布地	8・10・61	10
77	丸橋遺跡	○					散布地	8・61	101
78	石槌遺跡	○					散布地。菅原神社蔵の石槌出土地とされる。	8・61	103

第2節 歴史的環境

番号	遺跡名	縄文	弥生	古墳	古代	中近	概要	文献等	市町村番号
79	太郎谷戸遺跡				○		散布地	8・61	204
80	中井遺跡	○			○		散布地	8・61	205
81	程岩遺跡	○			○		散布地	8・61	206
82	新浜住居跡	○					散布地	8・61	9
83	広野古墳				○		散布地	8・61	203
84	泉沢新井遺跡	○			○		散布地	8・61	207
85	小倉遺跡	○					散布地	8・61	160
86	柳沢遺跡	○		○		○	1983年東村教委調査では縄文時代中期集落が検出され良好な資料が出土した。2022年事業団調査では、縄文時代前期集落と古墳時代前期竪穴建物、中・近世遺構群を調査した。2023年も事業団調査	37・60・61	100
87	月夜野A・B遺跡	○				○	2023年事業団調査	8・60・61	150・151
88	オツカ場遺跡		○	○			散布地。綜覧東村4・5号墳	1・7・8	102
89	合ノ沢A・B遺跡	○	○		○		散布地	8・61	147・148
90	判形公民館遺跡		○				散布地。弥生後期	8・61	104
91	御園A・B遺跡	○	○		○		散布地	8・61	144・145
92	市城塔本遺跡		○	○	○	○	古墳時代後期と平安時代の小規模な集落。弥生時代中期と後期土器の出土が充実する。	45	77
93	市城牧推定地				○		上野9牧の一つである勅使牧「市城牧」の推定地とされる。設置時期や場所は不明	12	
94	市城亀石古墳群			○			綜覧中之条町4～9号墳	1・7・8・12	41
95	西浦遺跡				○		2010年県教委工事立ち合い	8	76
96	伊勢町只則古墳群			○			総覧中之条町16～19号墳	1・7・8	42
97	上原遺跡				○	○	伊参城址、小城を含む。小城堀の一部、古墳時代～古代の大型集落の調査。白玉、鉄製品、墨書土器等出土遺物も特徴的。	42	32
98	伊勢町天神遺跡	○	○	○	○		1990～1993年中之条町教委調査。縄文時代中期、弥生時代～古代の大型集落。銅印、奈良三彩等の出土。古代豪族居館か	8	19
99	伊勢町川端遺跡		○	○	○		1988年、1991～1994年中之条町教委調査。弥生時代～古代の大型集落。As-B下水田	8	33
100	長岡遺跡		○	○	○		弥生時代～古代の集落。1996年中之条町教委調査	40・41	39
101	天代瓦窯跡				○		1979年中之条町教委調査。山王廃寺や有馬廃寺、上野国分寺等官衙への供給瓦窯	5・12・39	24
102	永田原遺跡			○			散布地。綜覧中之条町38号墳	8	20
103	石ノ塔古墳			○			1963年群大調査。中之条町No.18。5世紀代の円墳で割石を用いた箱式石棺を持つ。町指定	1・7・8	22
104	小川古墳群			○			綜覧中之条町25～27号墳。町指定	1・7・8	43
105	山田勝負瀬古墳群			○			笛吹塚古墳。綜覧澤田村1～4号墳	1・7・8	44
106	寺久保遺跡	○	○	○	○		散布地。寺久保古墳群を含む。	8	213
107	八幡原遺跡		○	○			2021・2022年度事業団調査。弥生時代、古墳時代集落	60	212
108	館遺跡	○			○		散布地	8	215
109	須郷沢遺跡				○		散布地	8	216
110	原町下之町古墳群			○			総覧原町No.1～16号墳	8	99
111	中学校裏遺跡		○				散布地	8	2
112	東上野遺跡	○	○	○	○		散布地。古墳時代の大型集落。玉作り遺構を持つ	3・8	47
113	大宮厳鼓神社	○			○		散布地。伝蔵手刀	11	
114	青木遺跡	○	○		○		散布地	8	209
115	一本松遺跡	○	○		○		散布地	8	210
116	諏訪前遺跡		○	○	○		弥生時代後期集落。古墳時代中期～後期集落、6世紀前半代古墳。古代集落。中世掘立柱建物等	27	68
117	原町駅遺跡				○		散布地。JR線路敷	8	49
118	善導寺前遺跡				○	○	As-B下水田。中世掘立柱建物群、溝。掘立柱建物は大型の例や礎石や四面庇を持つ例がある	23	3
119	道心穴遺跡		○				散布地	8	7
120	上須郷遺跡			○			吾妻町教委調査。古墳時代集落	20	69
121	蝦夷穴遺跡		○				散布地	8	46
122	念仏塚遺跡	○	○				縄文時代早期後半～前期前葉の集落。中期前葉集落。弥生中期包含層	21	65
123	岩櫃城跡北側遺構群遺跡	○				○	尖頭器1点出土。縄文時代前期集落。岩櫃城北端の堀	22	66
124	岩櫃城跡					○	国指定史跡。戦国期の山城。2013～2015年の範囲確認調査では薬研堀や横堀、3段構成の石積み遺構、金属工房、堀切、道路状遺構等が確認されている	4・6・9・17～19	32
125	郷原城跡					○	山城。1992年吾妻町教委測量調査で周知される。岩櫃城の支城。主郭、堀切、馬出し、虎口等	6	88

第2章 遺跡の地理的・歴史的環境

番号	遺跡名	縄文	弥生	古墳	古代	中近	概要	文献等	市町村番号
126	郷原遺跡	○		○	○	○	1941年ハート形土偶出土遺跡とされる。その後2次にわたる調査が行われ、縄文時代中期中葉と後葉集落、後期土坑。古墳時代、平安時代集落。中世土坑等が報告されている。	11・15・16	13
127	潜龍院跡(古谷館)					○	中世城館跡778。岩櫃城、郷原城に関わる館跡。石垣	6・11	79
128	古谷遺跡		○				散布地	8	45
129	岩櫃山鷹の巣遺跡		○				明治大学による鷹の巣洞窟調査。弥生時代中期墓制を示す洗骨による再葬墓群として著名。出土土器は岩櫃山式の標識資料とされている	2・9・11	8
130	幕岩岩陰遺跡		○				弥生時代中期墓制の一次葬を示すとされる	2・8・25	217
131	ぼたん古墳・岩島4号墳			○			岩島4号墳は天明泥流に覆われる。横穴式石室を持つ2段築成の円墳。7世紀前半とされる。吾妻町教委調査	26	229
132	本村遺跡	○		○	○	○	笹原古墳含む。散布地	8	228
133	胴塚古墳			○			綜覧岩島6号墳。袖無型横穴式石室。同名の古墳あり	1・7・8	226
134	行沢古墳			○			綜覧岩島5号墳。横穴式石室	1・7・8	225
135	前畑遺跡	○	○	○	○	○	弥生中期(岩櫃山式)の土器を出土した再葬墓。他に縄文中期土坑1、弥生中期土坑9、古墳時代集落、古代集落、中世墓壇。	11・25	14
136	机古墳			○			5世紀代の竪穴系小石塚を持つ	1・7・8	15
137	北浦遺跡	○					散布地	8	41
138	岩下中村遺跡	○			○	○	散布地	8	230
139	赤祇遺跡			○			散布地	8	40
140	弁天淵遺跡	○					散布地	8	39
141	姉山の石組かまど			○			集落。1958年県指定史跡	5・11	16

主な周辺遺跡に関しては、主に群馬県地域創生部作成の「マッピングぐんま」、群馬県教育委員会作成の『群馬県古墳総覧』、東吾妻町教育委員会作成の『東吾妻町遺跡分布地図』、各報告書所収の周辺遺跡一覧を参考にした。しかしながら文献の検索不十分であり、漏れ、遺跡名の不統一等が生じている。ご容赦願いたい。

参考文献

- 『上毛古墳総覧』1938 群馬県
- 杉原荘介「群馬県岩櫃山における弥生時代の墓址」『考古学集刊』第3巻第4号 1967 東京考古学会
- 『群馬県遺跡台帳 西毛編Ⅱ』1972 県教委
- 山崎一「群馬県古城址の研究 下巻」1972 群馬県文化事業振興会
- 『群馬県史』資料編2 原始古代2・通史編2 1986 県史編纂委
- 『群馬県の中世城館跡』1988 県教委
- 『群馬県古墳総覧』2017 県教委
- マッピング群馬「遺跡」2022 県保護課
- 『原町誌』1960 原町誌編纂委
- 『あかつま太田村誌』1965 東村誌編纂委
- 『岩島村誌』1971 岩島村誌編纂委
- 中之条町誌 1976 中之条町誌編纂委
- 『金井廃寺遺跡』1979 吾妻町教委
- 『唐堀遺跡』1983 吾妻町教委
- 『郷原遺跡』1985 吾妻町教委
- 『郷原遺跡』1998 吾妻町教委
- 『岩櫃城跡一保存整備計画策定報告書』1992 吾妻町教委
- 『岩櫃城跡一平成25年度第1次発掘調査概要報告一』2016 東吾妻町教委
- 『東吾妻町指定史跡 岩櫃城跡 総合調査報告書』2018 東吾妻町教委
- 『上須郷遺跡』1992 吾妻町教委
- 『念仏塚遺跡』1994 吾妻町教委
- 『岩櫃城跡北側遺構群遺跡』1994 吾妻町教委
- 『善導寺前遺跡』1996 吾妻町教委
- 『生原遺跡』1998 吾妻町教委
- 『前畑遺跡』1998 吾妻町教委
- 『岩島4号墳』2002 吾妻町教委
- 『諏訪前遺跡Ⅰ』2003 吾妻町教委
- 『町内遺跡Ⅰ 小泉宮戸遺跡』2003 吾妻町教委
- 『町内遺跡Ⅱ 小泉天神遺跡』2004 吾妻町教委
- 『町内遺跡Ⅲ』2006 東吾妻町教委
- 『町内遺跡Ⅳ 植栗中原遺跡』2007 東吾妻町教委
- 『下郷古墳群遺跡』2011 山下工業株式会社
- 『下郷古墳71号墳』2016 東吾妻町教委
- 『川戸格原遺跡』2011 東吾妻町教委
- 『厚田中村2遺跡』2020 東吾妻町教委
- 『下泉B遺跡』2023 東吾妻町教委
- 『柳沢遺跡』1984 東村教委
- 『村内遺跡Ⅰ 新巻膝附遺跡』2004 東村教委
- 『天代瓦窯跡』1982 中之条町教委
- 『長岡遺跡Ⅰ』1996 中之条町教委
- 『長岡遺跡Ⅱ』1996 中之条町教委
- 『伊勢町地区遺跡群上原遺跡』1999 中之条町教委
- 『霜田遺跡』2006 群埋文
- 『下郷古墳群』2014 群埋文
- 『市城塔本遺跡』2015 群埋文
- 『唐堀B遺跡』2017 群埋文
- 『厚田中村遺跡』2018 群埋文
- 『厚田中村遺跡2』2023 群埋文
- 『四戸遺跡』2020 群埋文
- 『四戸の古墳群』2020 群埋文
- 『唐堀遺跡(1)』2021 群埋文
- 『唐堀遺跡(2)』2022 群埋文
- 『唐堀C遺跡』2021 群埋文
- 『細谷E遺跡・根小屋遺跡・根小屋B遺跡』2021 群埋文
- 『新井遺跡』2022 群埋文
- 『根小屋城跡』2022 群埋文
- 『万木沢B遺跡』2022 群埋文
- 『植栗中原遺跡・小淵沢B遺跡』2023 群埋文
- 『植栗山根A遺跡』2023 群埋文
- 『年報』39~42 2020~2023 群埋文
- 『東吾妻町遺跡分布地図』2019 東吾妻町教委

権争いの舞台となり、その結果、岩櫃城(124)や郷原城(125)、潜龍院(127)、根小屋城(3)、手子丸城(20)など中世城館が点在する地域として知られている。

概略を述べると12世紀末に秀郷流藤原氏である前吾妻氏が台頭し、13世紀の後吾妻氏を経て、14世紀末に斎藤姓吾妻氏が岩櫃城を築城し当地域を統治する。その後、戦国期に入ると武田氏と上杉氏の勢力争いの舞台となり、岩櫃城は武田氏の拠点となる。16世紀末武田氏滅亡後、当地域は真田氏の所領となり、江戸時代も真田氏の支配下は続くが、1615年江戸幕府により発せられた一国一城令が発せられ岩櫃城は棄却され、城下町は今の原町周辺に移ったとされている。その後、1783年浅間山の噴火による火山灰と泥流が当地域を覆う被害が知られる。

中世城館の調査遺跡としては、根小屋城が上信自動車道建設に伴う調査で、下曲輪に相当する箇所が調査され掘立柱建物や門などを検出している。岩櫃城は範囲確認調査で堀や石積等の検出を経て、2019年国指定史跡を受けている。

中世・近世の遺構を検出した主な周辺遺跡としては、唐堀遺跡で天明泥流下の水田、畑、掘立柱建物が検出され、四戸遺跡では中世の掘立柱建物や墓壇、鍛冶遺構などが調査された。新井遺跡では中世の土坑や柱穴列、畑、焼土遺構等、天明泥流下では畑、石垣、道等が検出されている。本遺跡でも天明泥流下で畑や道、溝などがあるが、被災家屋の屋根と壁部分が出土している。植栗中原遺跡や小泉宮戸遺跡、小田沢遺跡、下泉A遺跡等では、中・近世に比定される掘立柱建物群が調査されている。植栗、小泉地区は古墳時代より継続的に土地利用が繰り返され、おそらく国衙など公的な施設も予想される地域であり、中世段階の掘立柱建物群もその性格を究明すべきであろう。吾妻川左岸においても諏訪前遺跡や善道寺遺跡で中世掘立柱建物が調査されており、善道寺遺跡では礎石や四面庇を付帯する建物である。

### 第3節 基本土層

上信自動車道関連の厚田中村遺跡発掘調査は過去2度に渡って行われており、既に報告書も刊行されている。大まかな層準としては、表土下に天明泥流が厚く堆積し、泥流下に浅間粕川テフラ(As-Kk)の混土層及び純層、さ

らに浅間B軽石(As-B)、黒褐色粘質土を挟み、ローム層に近似する黄褐色土が堆積する。かつての調査で確認された榛名山二ツ岳降下火山灰(Hr-FA)の堆積層は見ることができなかった。ここでは、基本土層として、各調査区で示準的に確認された層位を網羅した模式図を提示した(第5図)。

I層は表土。畑、水田に供されていた耕作土である。

II層に天明泥流層を確認した。天明3年(1783)の浅間山噴火に伴う土石なだれが吾妻川に流れ込み、大量の泥流となって、流域に莫大な被害を与えている。本遺跡でも、1～2mの層厚を測る泥流堆積が観察できる。この泥流直下が調査第1面となり、天明3年当時の地表面が検出され、各調査区で水田、畑、溝、被災住居が検出されている。

III層として灰白色土を呈する洪水堆積層が観察された。主に11区の一部と13区と14区で顕著に見ることができ、13区と14区ではIII層下で調査第1-1面として畑遺構を検出できた。江戸時代に比定できる。

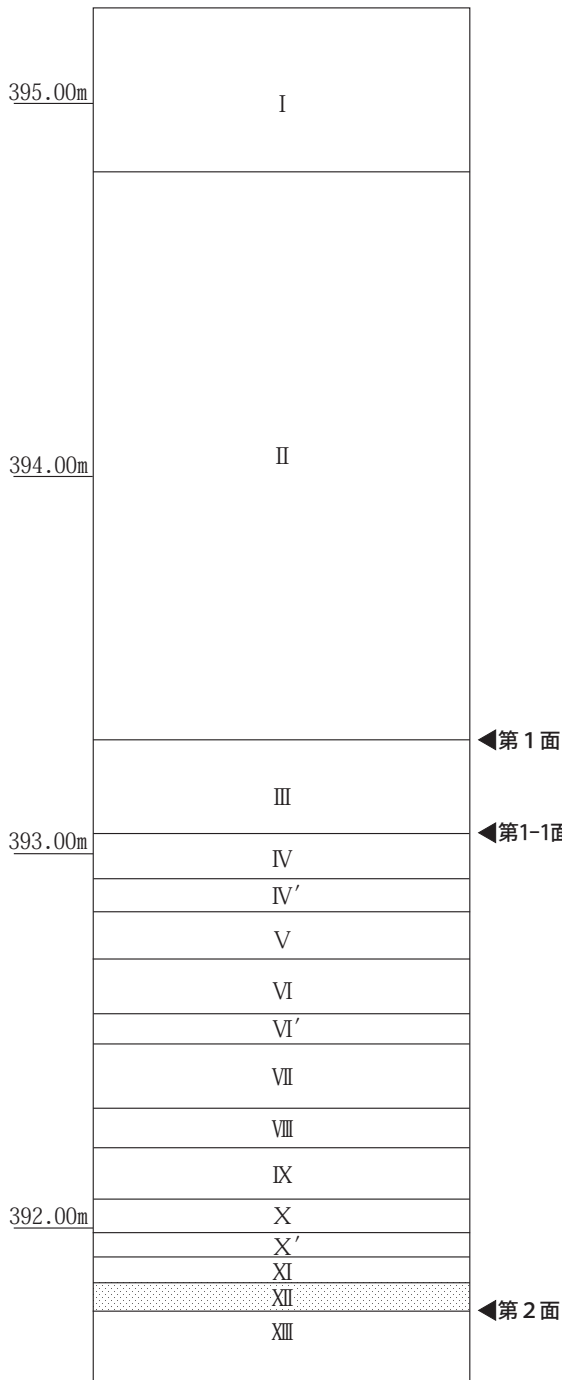
IV層～XII層までが浅間粕川テフラ(As-Kk)混土層及び純層である。下位が調査第2面となり、11区の掘立柱建物群の他、11-1区で溝、土坑等が調査されている。時期は中世に求められた。前2回の調査で検出されているAs-Bと遺構は、今回の調査では良好な層位が得られず、11区の1部のみで確認された。As-B下の遺構は検出できなかった。また同様に前2回の調査ではHr-FAも今回の調査では得ることが適わなかった。

調査第3面はAs-Kk堆積土以下の黒褐色粘質土下位よりXIII・XIV層の灰黄褐色土～にぶい黄褐色土上面である。古墳時代の竪穴建物などが11区と11-1区を中心に検出されている。なお、XIII・XIV層はローム層近似の黄褐色土であり、発掘調査ではローム層として位置付け、土層註などではローム塊やローム粒の混在を記述している。

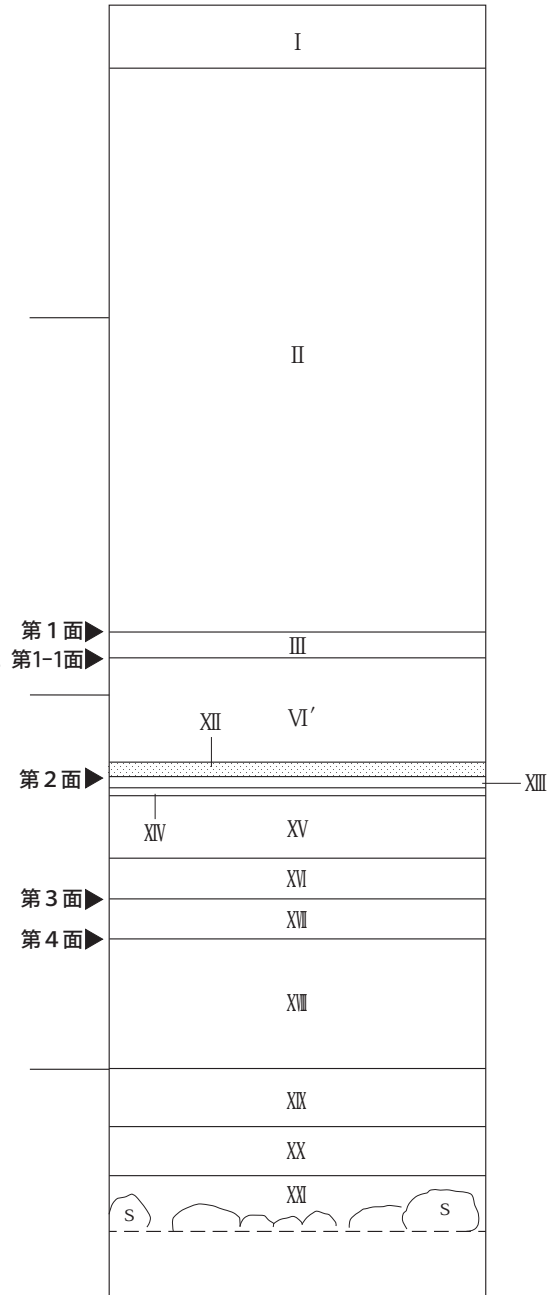
発掘調査では古墳時代集落調査後にXV層で調査第4面として縄文時代中期の竪穴建物等を調査した。

以上のように本遺跡では前回の発掘調査で見られたAs-B下とHr-FA下の遺構は検出されなかったが、天明泥流下の第1面、近世洪水層下の1-1面、中世面であるAs-Kk下の第2面、弥生時代後期～古墳時代集落を調査した第3面、さらに第4面では縄文時代集落を第4面として調査することができた。

第2章 遺跡の地理的・歴史的環境  
14区(低地部)



11区(台地部)



基本土層

- I 表土 耕作土
- II 黒褐色土(10YR3/2)天明泥流
- III 灰白色土(10YR1/7)洪水層。小礫。砂粒を含む。
- IV 褐灰色土(10YR5/1)粘質シルト塊を少量含む。
- IV' にぶい黄褐色土(10YR5/4)少量の砂粒、微量の黄橙色粒を含む。
- V 褐灰色土(10YR6/1)粘質シルト層。
- VI 褐灰色土(10YR5/1)As-Kk混土。粘質シルト塊を微量含む。
- VI' 褐灰色土(10YR5/1)As-Kk混土。鉄分凝縮塊を含む。
- VII 褐灰色土(10YR4/1)As-Kk混土。砂質土主体。粘質シルト塊を微量含む。
- VIII 暗褐色土(10YR3/4)As-Kk混土。粘質土主体。
- IX 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。粘質土主体。
- X 暗褐色土(10YR3/4)As-Kk混土。粘質土主体。
- X' 暗褐色土(10YR3/3)As-Kk混土。粘性・しまり強い。
- XI 灰黄褐色土(10YR5/2)As-Kk混土。大型礫が混在する。粘性強い。

- XII 明黄褐色土(10YR6/8)As-Kk一次堆積層。
- XIII 灰白色土(10YR8/1)灰層主体。
- XIV 明黄褐色土(10YR6/8)As-B一次堆積層か。
- XV 黒褐色土(10YR3/1)灰を塊状に微量含む。粘質土主体。
- XVI 黒褐色土(10YR3/1)黄橙色粒を多く、橙色粒を微量含む。
- XVII 灰黄褐色土(10YR5/2)大型礫を混在する。粘性強い。
- XVIII にぶい黄褐色土(10YR7/3)白色細粒、黄橙色を多く、橙色粒を微量含む。
- XIX 浅黄褐色土(10YR8/3)黄橙色細粒を微量含む。
- XX 明緑灰色土(10G7/1)砂層。
- XXI 灰白色土(10YR8/2)灰白色粘質土塊を微量含む。下位に河道礫を見る。

◀=調査面

0 1:20 50cm

第5図 基本土層

## 第3章 検出された遺構と遺物

第1章第4節で述べたように、本遺跡の調査対象地は東西に細長く、調査区内を東西の現道や、南北に設けた馬入れなどで区切った7箇所の調査区を設けている。調査区番号を9-1区、11区、11-1区、12区、13区、14区、15区とした。前2冊の報告書では、調査区毎の記述であり、本報告書もそれに倣う掲載順にしたが、9-1区と15区、11区と11-1区は接した調査区のため同一調査区とみなして併せた報告とする。また、13区と14区は隣接した小範囲の調査区であることから、こちらも併せて報告する。記載順は、第2節9-1区・15区、第3節11区・11-1区、第4節12区、第5節13区・14区である。

### 第1節 遺跡の概要

ここでは、本報告書で掲載する令和4年度調査の概要を記す。

第1面の天明泥流下面では各調査区で遺構が検出された。9-1区・15区では、58号溝、3号道、6号土手などが調査されている。さらに、6号土手に直交するように、数条の段差が見られたが段差間は平坦であり、水田面と判断できよう。また、南東には令和2年度調査(群埋文2023)の9区が隣接しており、9-1区南東の段差が9区23号溝と接続する走向が看取された。11区・11-1区の1面調査では11区で38・39号溝、14号畑、11-1区では天明泥流で流された建物の屋根部分と壁部分が検出された。他に22～24号畑、60・61号溝、7号土手が調査されている。60号溝東は平坦地が広がり、水田面の可能性が高い。12区の1面は35～37号溝、5号土手がある。これらは北西から南西にその走向が並行し、その間に平坦面を広げることから、水田面として位置付けておきたい。13区の泥流下遺構は見られなかったが、14区では20号畑などを見る。

第1-1面とした層位はⅢ層の灰白色洪水層下面である。天明泥流と時期差は少ないが、やや古い。11区南半で43号溝や15・17・18号畑が検出されている。13区で16号畑、14区で21号畑と51号溝を調査した。低地部のみに残る調査面である。

第2面の調査はAs-Kk下面で11区・11-1区、12区、13区、14区で遺構を確認した。時期は中世に比定した。11区・11-1区は3～13号掘立柱建物や44・46～49・53～57・62～64号溝、土坑、ピット等が調査された。掘立柱建物群は11区の高標高部に集中し、居住に伴う施設として位置付けられよう。12区の2面は40号溝と41号溝が平行して地形に沿った走向を示していた。13区2面では45号溝が、14区2面は52号溝が検出されている。

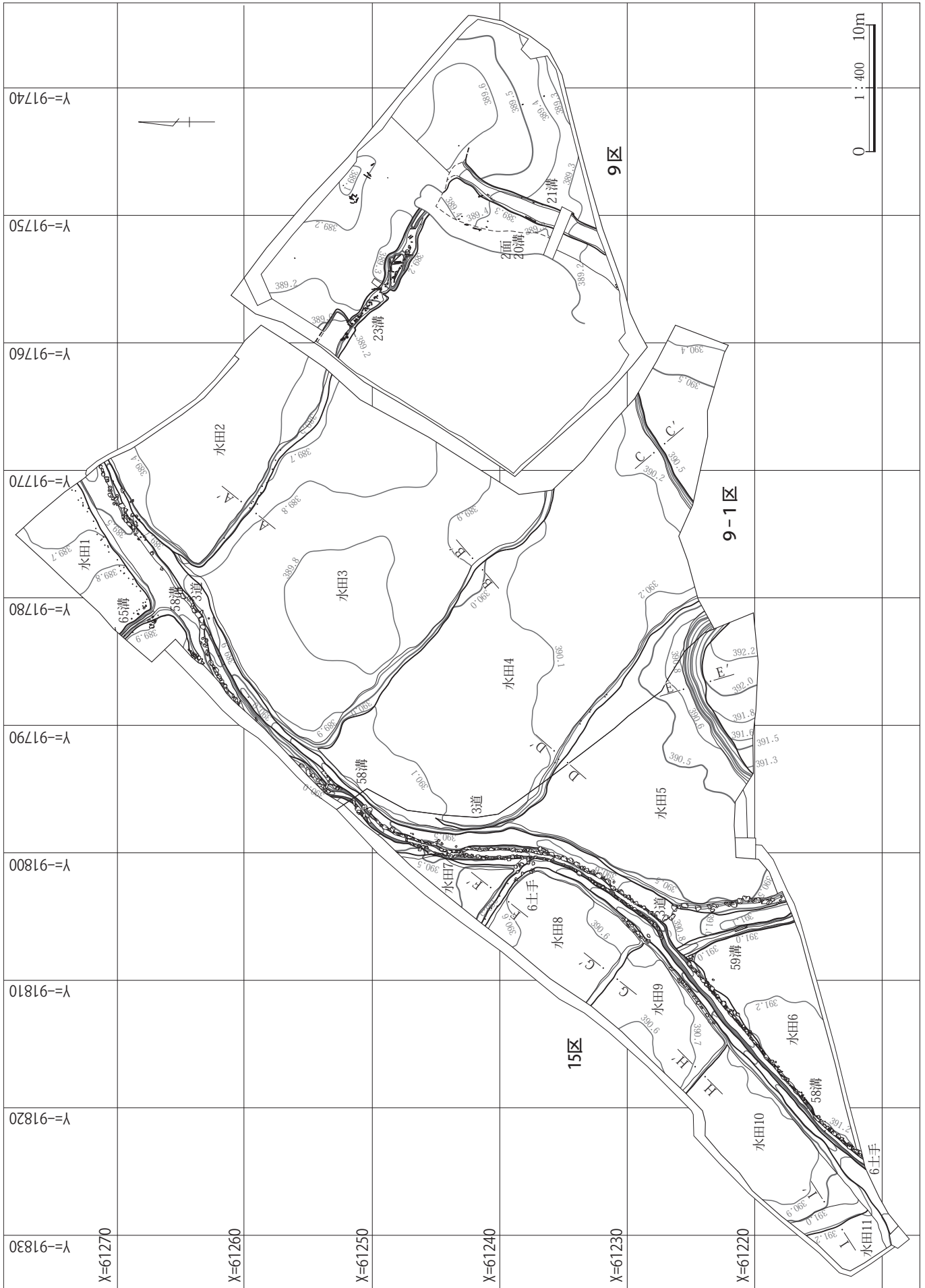
第3面は11区と11-1区に限られる。弥生時代後期～古墳時代の集落を調査した。4～22号竪穴建物19棟を検出し、弥生時代後期及び古墳時代前期と後期の集落に分別できた。後期竪穴建物には石組のカマドが付帯されており、当地区の特徴を具体化していた。出土遺物として、土師器や須恵器が集中し、須恵器甕が6号竪穴建物から出土している。さらに弥生時代後期～古墳時代前期に比定される50号溝が11区東で調査された。出土遺物も豊富で良好な一括資料である。その他では66号溝や土坑、ピットが検出されている。

第4面は第3面の調査後、11-1区をさらに掘り下げ縄文時代の遺構面を抽出した。23号竪穴建物、1号竪穴状遺構、139・141・142号土坑が調査された。いずれも縄文時代中期の所産として位置付けられよう。

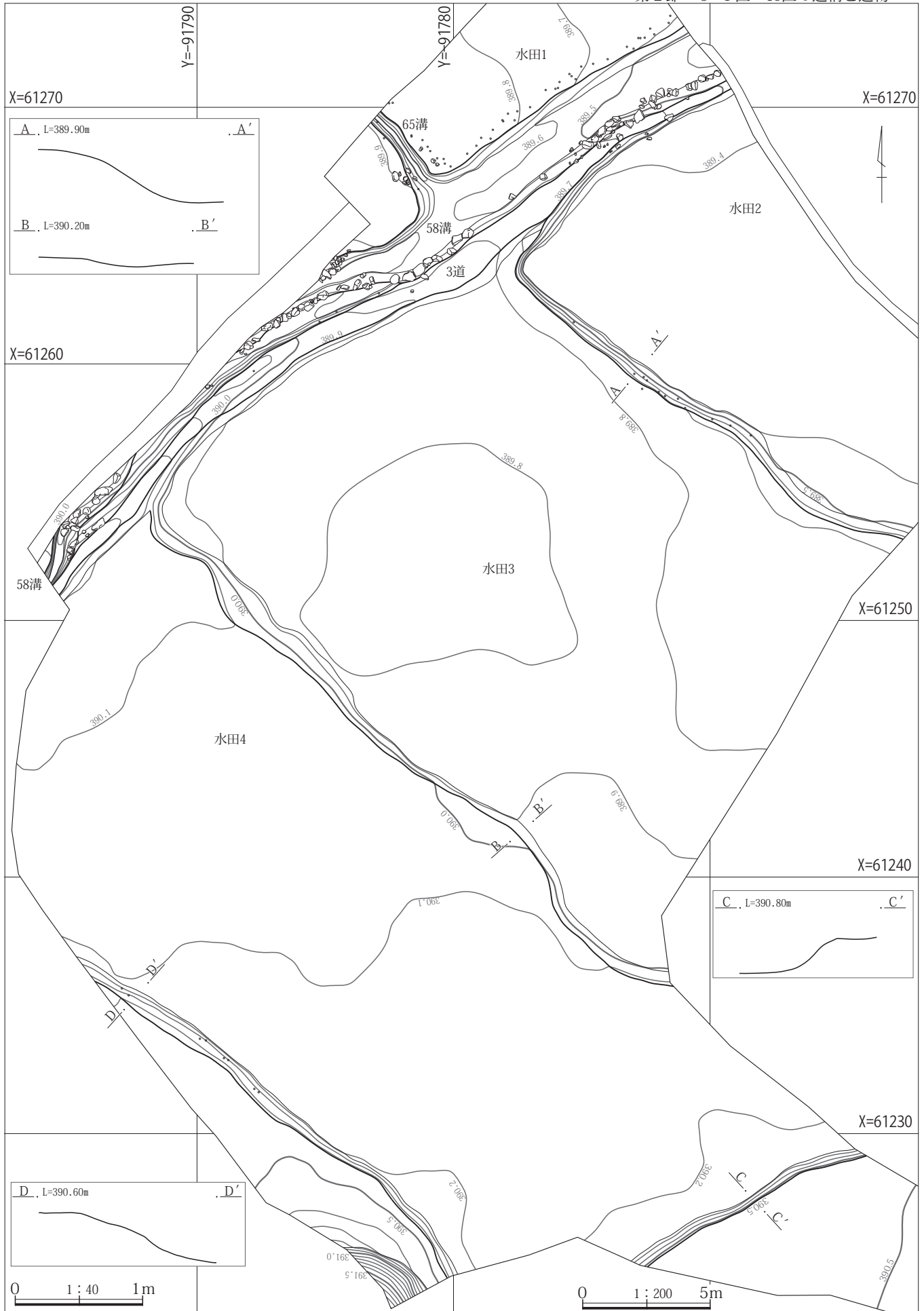
### 第2節 9-1区・15区の遺構と遺物

前節に述べたように、9-1区と15区は隣接する調査区のため併せて報告する。9-1区と15区は調査区の南東端にあたり、東西に走る現道を挟んで北西に12区を見る。調査着手前の周辺は水田に供されていた。なお、令和2年度調査の9区が9-1区の南東に接する。

9-1区は天明泥流下の第1面の調査後に第1-1面である洪水層下の遺構検出や第2面のAs-Kk下の調査を施したが、遺構は確認されなかった。同様に15区も第1面調査後に試掘坑5箇所の観察から1-1面及び2面のAs-Kk下に遺構は見ることができなかった。ゆえに9-1区・15区ともに天明泥流下の遺構調査が主となっている。

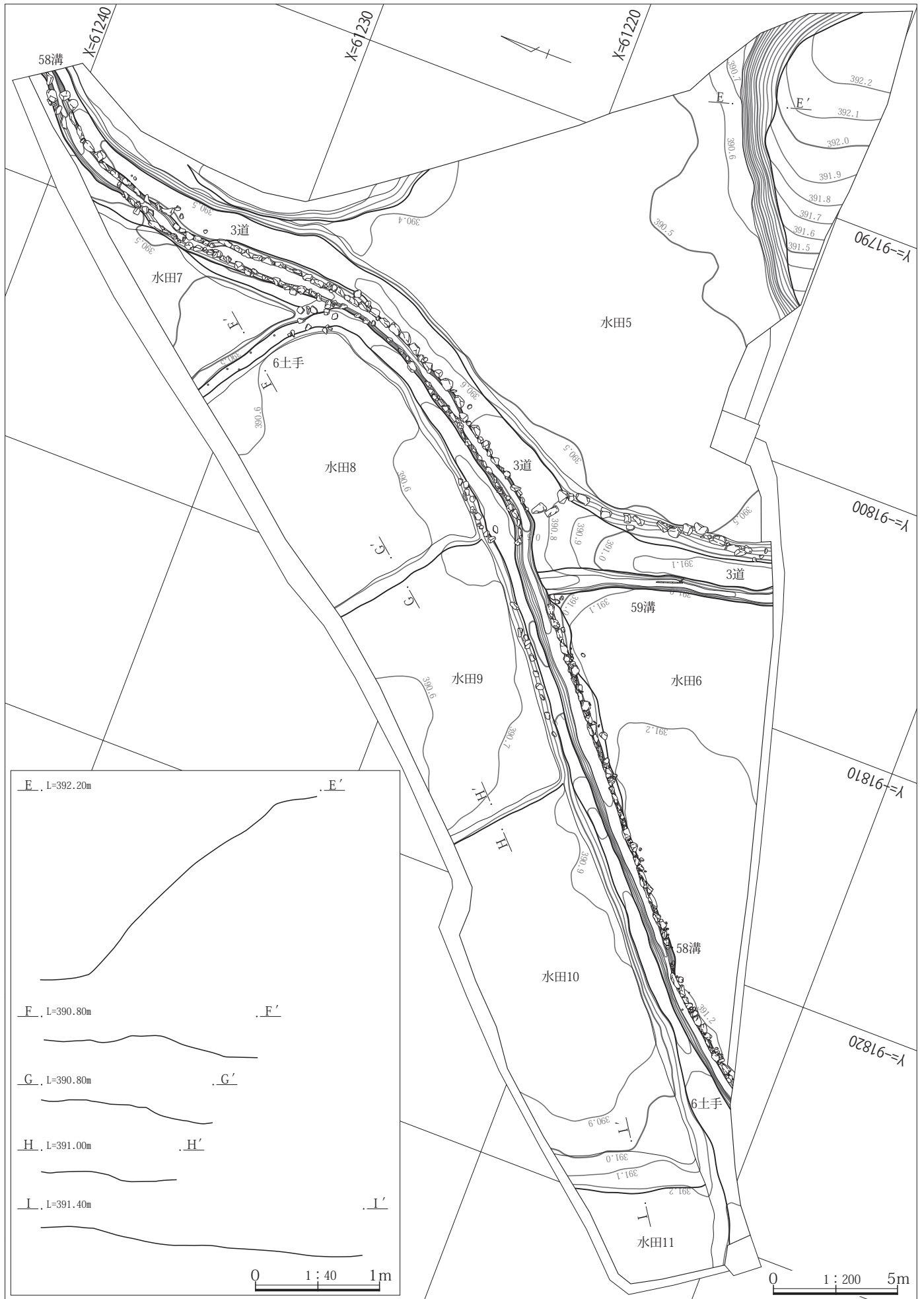


第6図 9区、9-1区、15区1面全体図

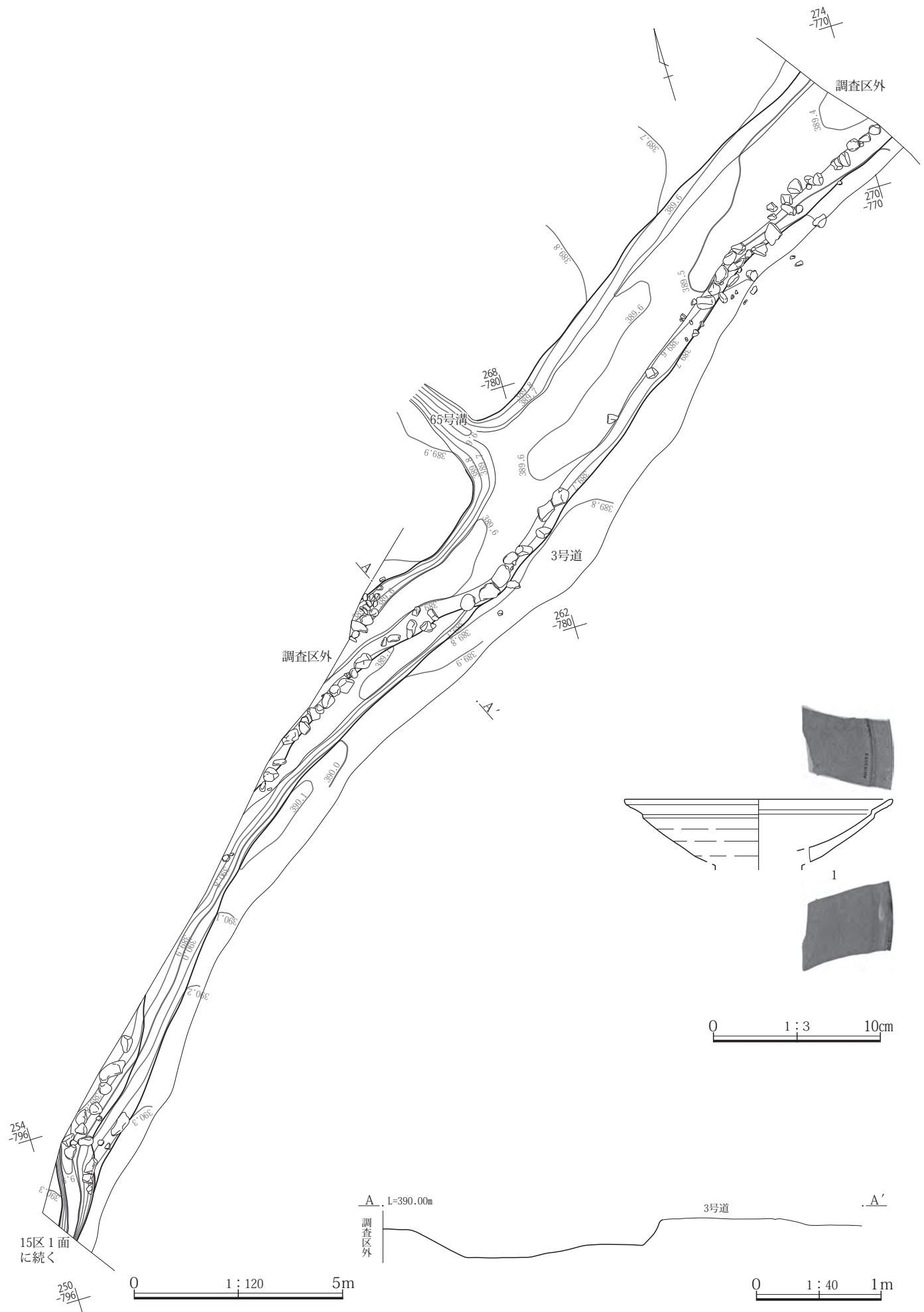


第7図 9-1区1面全体図

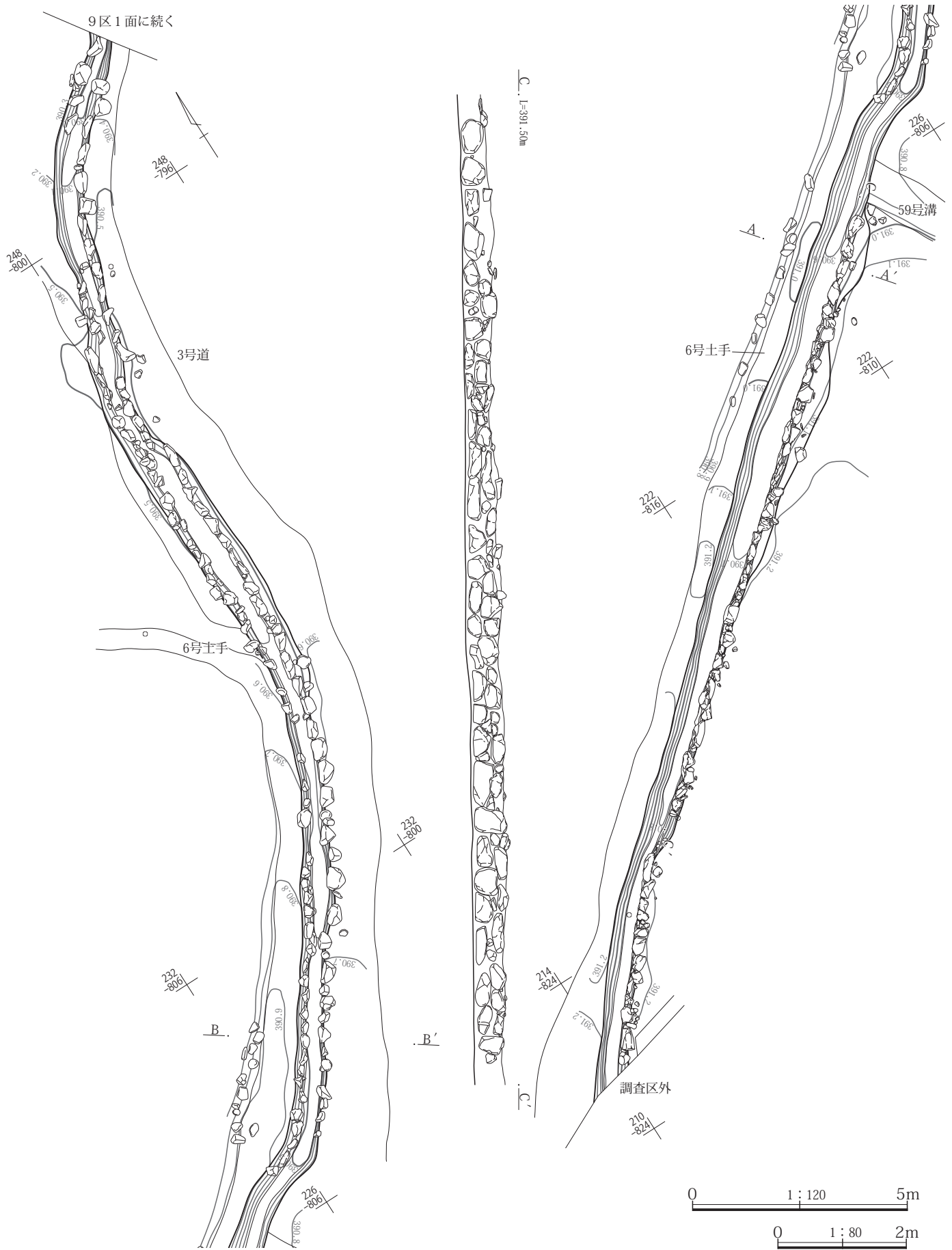




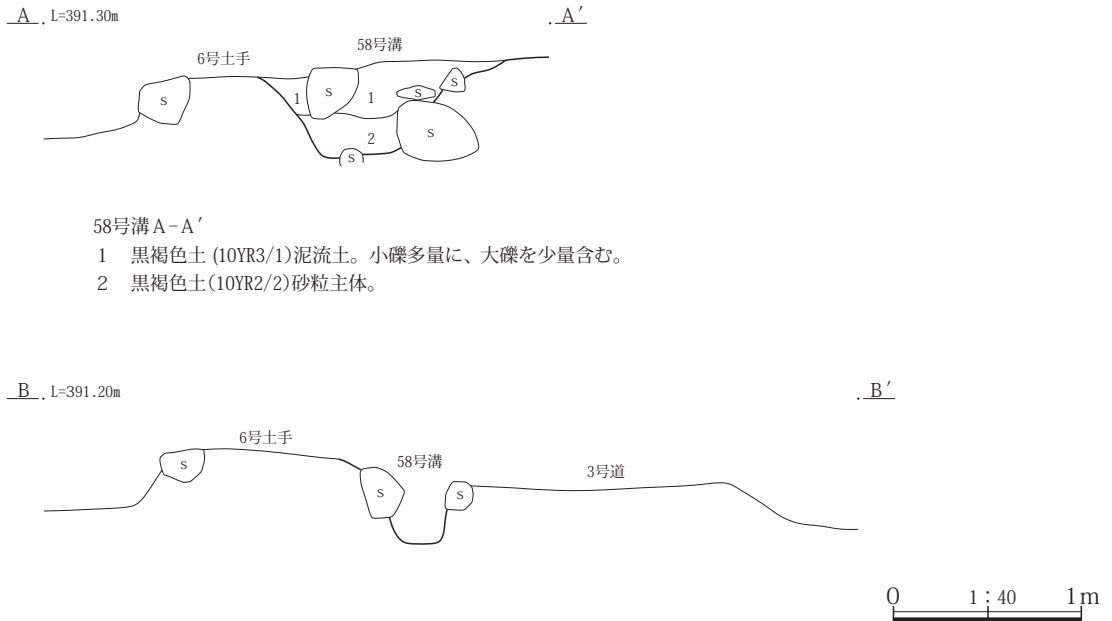
第8図 15区1面全体図



第9図 9-1区1面58号溝と15区1面58号溝出土遺物



第10図 15区1面58号溝(1)



第11図 15区1面58号溝(2)

(1)第1面

天明泥流下の調査で58号溝と3号道が調査区の北東から南西に蛇行しながら走向する。この2遺構より59号溝や65号溝、6号土手が南北に派生する様相を示す。これらは調査区北西側に集中し、南東側の低標高部分には水田としての段差と平坦地が広がる。

58号溝(第9～11図、PL. 4～6)

**位置：**9-1区北東隅より15区南西隅にかけて緩やかに蛇行した状態で調査された。北東側である9-1区から15区の中ほどまで本溝の南側を3号道が沿い、さらに15区中ほどで6号土手が本溝の北側に平行する

**経過：**天明泥流下の溝である。泥流最下層の除去により、3号道や6号土手の構築土である褐灰色土やにぶい黄橙色土を確認し、泥流土を埋土とする溝の平面形が把握された。覆土下層は砂質土で、また溝の両壁には積み石が設けられていたため検出は容易であり、堅牢な全体印象を与える溝となった。溝北西部の左岸側には乱雑ではあるが木杭下端部が検出され、杭による遮蔽や土留め施設が想起された。なお、9区は泥流除去直後より湧水が著しく、そのため検出には若干手間取った。

**規模：**全長約84.3m、幅約50～250cm、深さは約20～60cmを測る。方位は北東方向へ伸びる傾向を示す。溝底面の標高値は北東部が低く、南西部が高い。傾斜も北東部

がやや緩やかで、そのため溝の幅も広くなる傾向がある。幅や深さに統一性や規格性が無いが、15区で顕著な積み石と掘方は極めてしっかりしており、恒常的な溝である。**重複：**天明泥流下の検出のため、第1面で得られた遺構は同時期と判断している。重複ではないが、本溝北側に65号溝が北へ、南側に59号溝が南へ派生している。また、3号道は北東部で本溝に沿い、59号溝が派生する箇所以南へ屈曲する。さらに6号土手が本溝南西部に平行し中央部の屈曲部で北側に派生している。

**遺物：**覆土中より肥前陶器皿片が出土している(第9図1)。17世紀後半に時期が求められる。流入による所産である。

**所見：**両壁に石積みが施された江戸時代18世紀後半以前の溝である。木杭や道、土手を併設し、直交するように他の溝が派生することから、比較的大規模な溝で当時の集落にとって主要な境界溝と捉えられる。また覆土下層は砂質土で、流水によるものと調査所見でもあることから、用水路としての用途も想起される。検討課題だが、東吾妻町都市計画図に記載されている生活道と58号溝の走向が一致している。さらに、周辺の水田畦畔と今回の調査で検出した段差の軸方位が一致しており、天明泥流埋没後も被災前の地割が踏襲された事例として推定しておきたい。

59号溝(第12図、PL. 5・6・58)

**位置：**15区南西部で58号溝より分岐派生する状態で調査された。59号溝の南側は調査区南壁であり、直線上に延長する走向をみせていた。西側にはやや幅広の3号道が沿っていた。

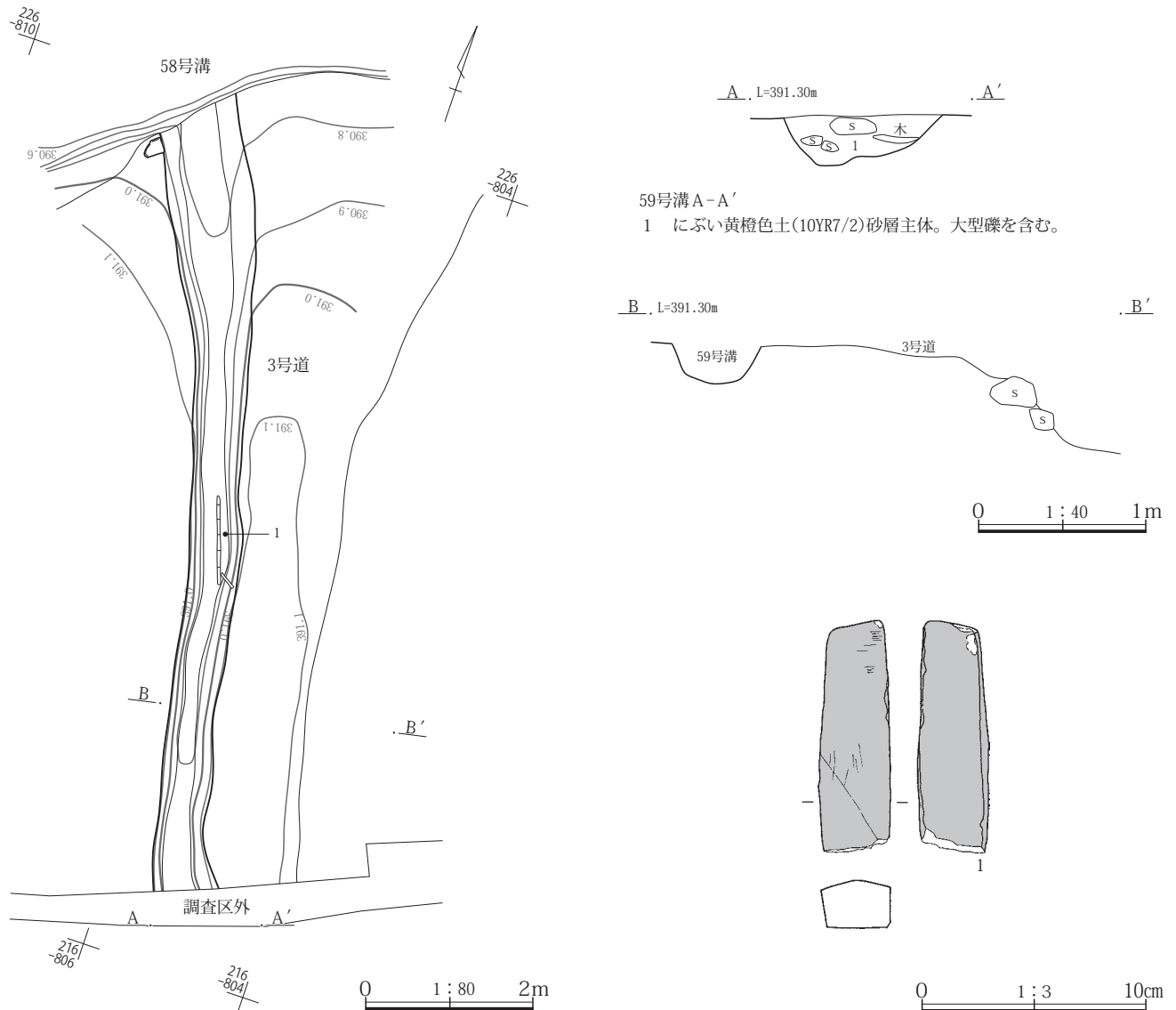
**経過：**天明泥流下で検出した。泥流最下層を除去したところ、溝覆土として黄橙色砂質土が確認され、平面形が把握された。覆土中には大型の円礫が混在していたが、砂質土を取り除くと、地山を褐灰色粘質土とした素掘りの溝が検出できた。

**規模：**全長約9.3m、幅約60~100cm、深さは約20cmを測る。方位は北北西を向き、調査区南端から延び58号溝右岸に接する。溝底面の標高値は南側が高く、北の58号溝との合流地点は20cm程の段差を持つ。

**重複：**天明泥流下の検出のため、第1面で得られた遺構は同時期と判断しているが、59号溝の覆土は砂質土で占められており、天明泥流被災時には埋没していた可能性がある。58号溝や3号道より若干先行する様相を示す。

**遺物：**出土遺物としては、溝中ほどで覆土中位より竹が長軸を向けていた。また同地点から砥石(第12図1)が出土した。溝の時期や性格を具体化する遺物ではないと判断している。

**所見：**58号溝と同様に用水路としての性格が妥当と思われる。素掘りの断面形から日常的な給排水ではなく、水田への給水時のみの溝と推定できよう。時期は江戸時代18世紀後半以前で天明泥流下の遺構として位置付けられるが、58号溝より若干先行する先後関係と判断したい。



第12図 59号溝と出土遺物

65号溝(第13図、PL. 4)

**位置：**9-1区北西隅の北壁に接して調査された。南端は58号溝に合流する。本遺跡の調査地では低標高地点でもある。

**経過：**天明泥流下で調査した。溝覆土が褐灰色砂質土を呈し、円礫、亜角礫が多量に混在していたため地山の黒褐色粘質土との差は明瞭だった。しかしながら、9-1区天明泥流下は湧水点が高く、泥流除去中に湧水が認められたため若干ながら検出に手間取った経緯がある。

**規模：**全長約3.4m、幅約50～80cm、深さは約30cmを測る。方位は北西を向き、調査区北壁から58号溝左岸に接する。底面の標高値は南側の58号溝合流点より北側へ3cmほど低くなっているが、顕著な差は見出せなかった。

**重複：**59号溝と同様に65号溝の覆土は砂質土や円礫で占められており、天明泥流被災時には埋没していた可能性が高い。58号溝や3号道より若干先行する様相を示す。

**所見：**確認範囲が狭いため、詳細な観察は果たせなかった。58・59号溝と同様に用水路としての性格を位置付け

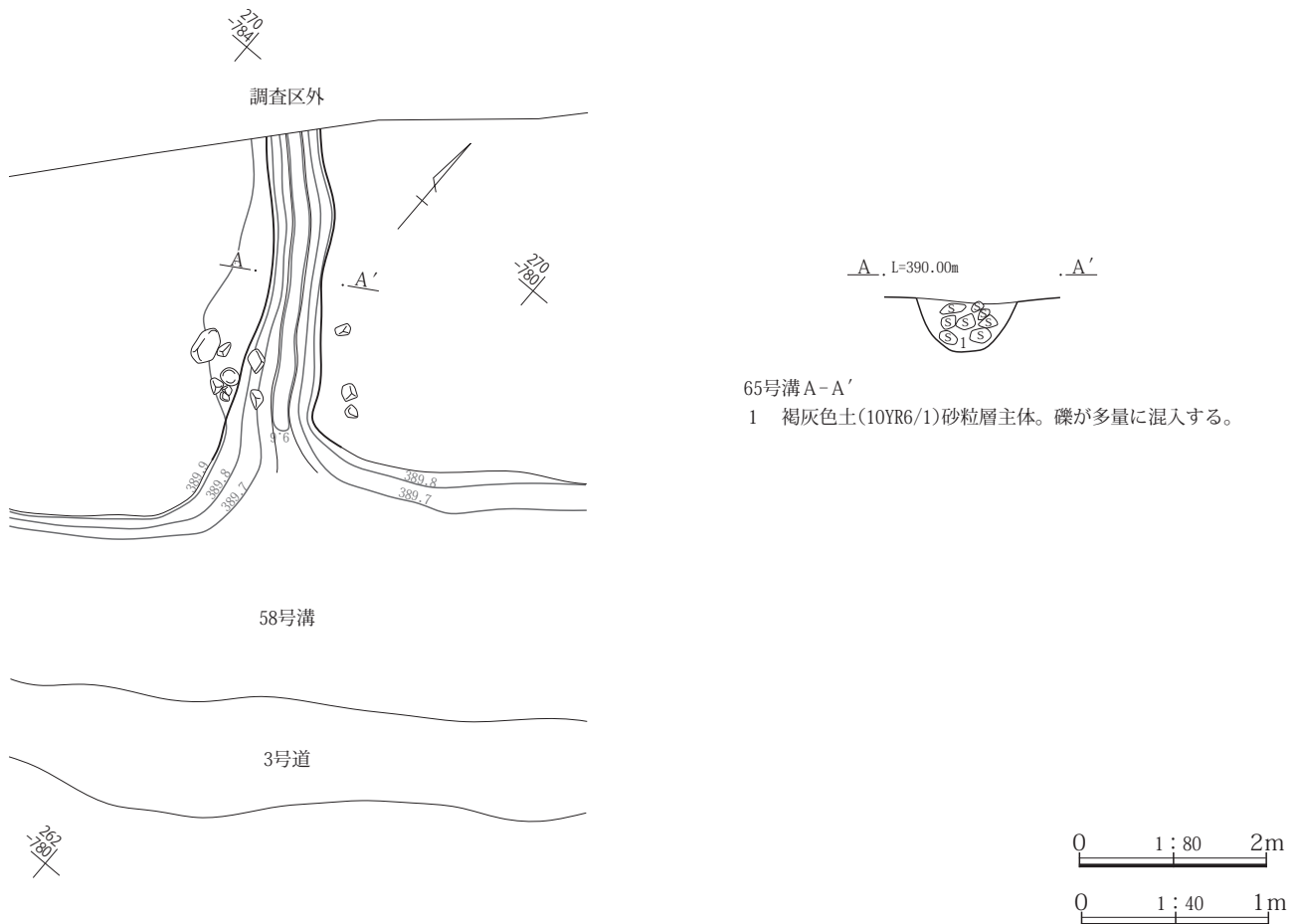
たい。素掘りの溝で、砂質土や礫を覆土としていることから、水田への排水時のみの溝と推定できよう。時期は天明泥流下である江戸時代18世紀後半以前の所産だが、58号溝より若干先行する先後関係と判断したい。

3号道(第14・15図、PL. 6)

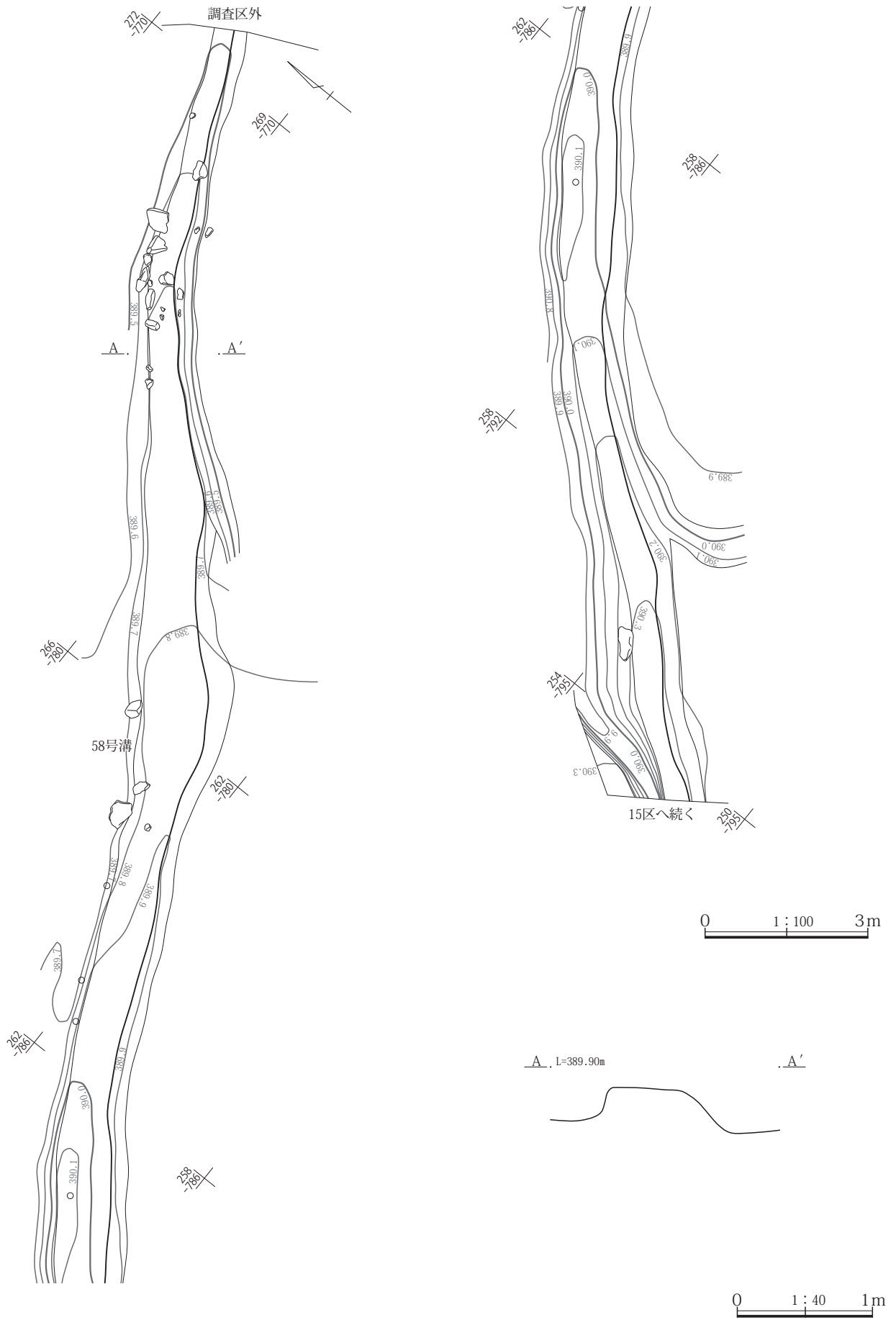
**位置：**9-1区北東隅より15区南西側にかけて緩やかに蛇行した状態で調査された。北東側である9-1区から15区の中ほどまで北側を58号溝が沿い15区中ほどより南側へクランク状に屈曲し、59号溝が西側を沿う。

**経過：**天明泥流下で確認した。調査区全面に広がる遺構であり、平行する58号溝と59号溝の検出と同時に調査した。58号溝と59号溝に平行する平坦面上面が砂質で若干ながら硬く締まるため、道状の遺構として判断した。数箇所の土層観察では、盛り土や構築材の痕跡は見られず、地山の褐灰色粘質土が上面を覆う道状遺構である。

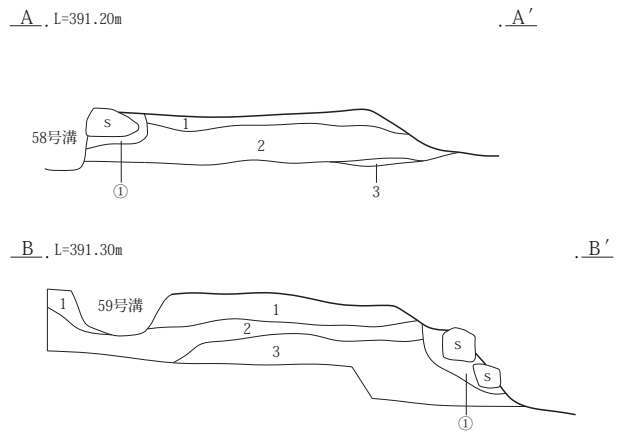
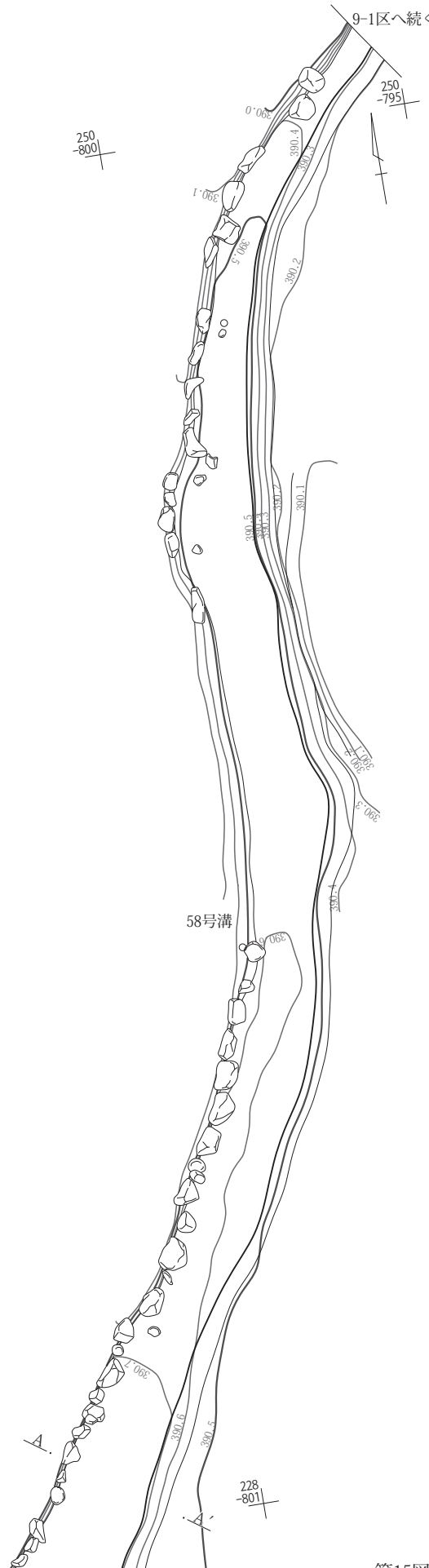
**規模：**全長約71m、幅約30～110cmを測る。掘り込みは無くほぼ平坦面が带状に58号溝や59号溝に沿う。方位は



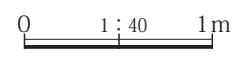
第13図 65号溝



第14図 9-1区1面3号道



- 3号道A-A'・B-B'
- 1 褐灰色土(10YR4/1)砂粒主体。小礫を多量に含む。
  - 2 黒褐色土(10YR3/1)砂粒僅かに含む。やや締まりあり。
  - 3 黒褐色土(10YR2/2)砂粒少量含む。やや締まりあり。
  - ① 灰黄褐色土(10YR6/2)砂粒僅かに、橙色粒を少量含む。



第15図 15区1面3号道



### 第3章 検出された遺構と遺物

9-1区では北東を向き、蛇行を加えながら15区では北北東になる。また9-1区では南側への高低差が約15～30cm、15区では40～50cmを測る。

**重複：**同時期の58号溝と59号溝が北側と西側に沿う。また南側は南北に延びる段差が3条見ることができる。水田の畦畔として考えたい。

**所見：**用水路である58号溝や59号溝に沿う天明泥流下の道状遺構である。顕著な盛り土は見られなかったが、平坦面が続き、上面は硬く締まることから、恒常的な導線として位置付けられよう。積み石で壁を補強する58号溝と同様に当時の集落内の重要な境界線の一つとされよう。南側へは、おそらく畦畔と同等の役割を果たす南北の段差が設けられ長方形の水田が画されているように水路と道を挟んで水田が営まれた景観が想起されよう。時期は天明泥流下の江戸時代18世紀後半以前である。

#### 6号土手(第16図、PL. 5・6・58)

**位置：**調査区北西壁中央部より派生し、58号溝に接して屈曲し58号溝に沿って調査区南西に至る。15区内の遺構である。

**経過：**天明泥流下の遺構である。58号溝に平行する高まりを検出し、土手状遺構として位置付けた。にぶい黄褐色土や灰黄褐色土を盛土としており、芯材などは見られなかった。

**規模：**南北の走向は短く約6.4mで、クランクし58号溝に沿った約50mの走向である。断面形は凸型を呈し、幅約36～132cm、高さ約37cmを測る。軸方位は南北方向が北西に傾き、東西方向は58号溝と同じく概ね北東を向く。また、東西の平坦面との段差は東側が約15cm、西側が約7cmである。

**重複：**同一調査面での遺構のため、新旧の遺構重複は無い。58号溝が接し、3条の段差が北西へ派生する。

**遺物：**南西部で近接した位置より瀬戸・美濃陶磁器碗破片(第16図1)が出土しているが、本遺構に直接的に伴う例では無いと判断した。

**所見：**発掘調査では、土手として扱ったが、本書では畦畔としての用途を優先したい。北側へ広がる水田面を南北に区切る大畔(6号土手)を設け、さらに段差で再区画した水田の施設として位置付けたい。時期は天明泥流下である江戸時代18世紀後半以前の所産である。

#### 水田(第6～8図、PL. 3～5)

9-1区と15区では明瞭ではないが、水田区画を検出している。区画は北西から南東に走向する段差によって画され、その間は平坦面が広がる。

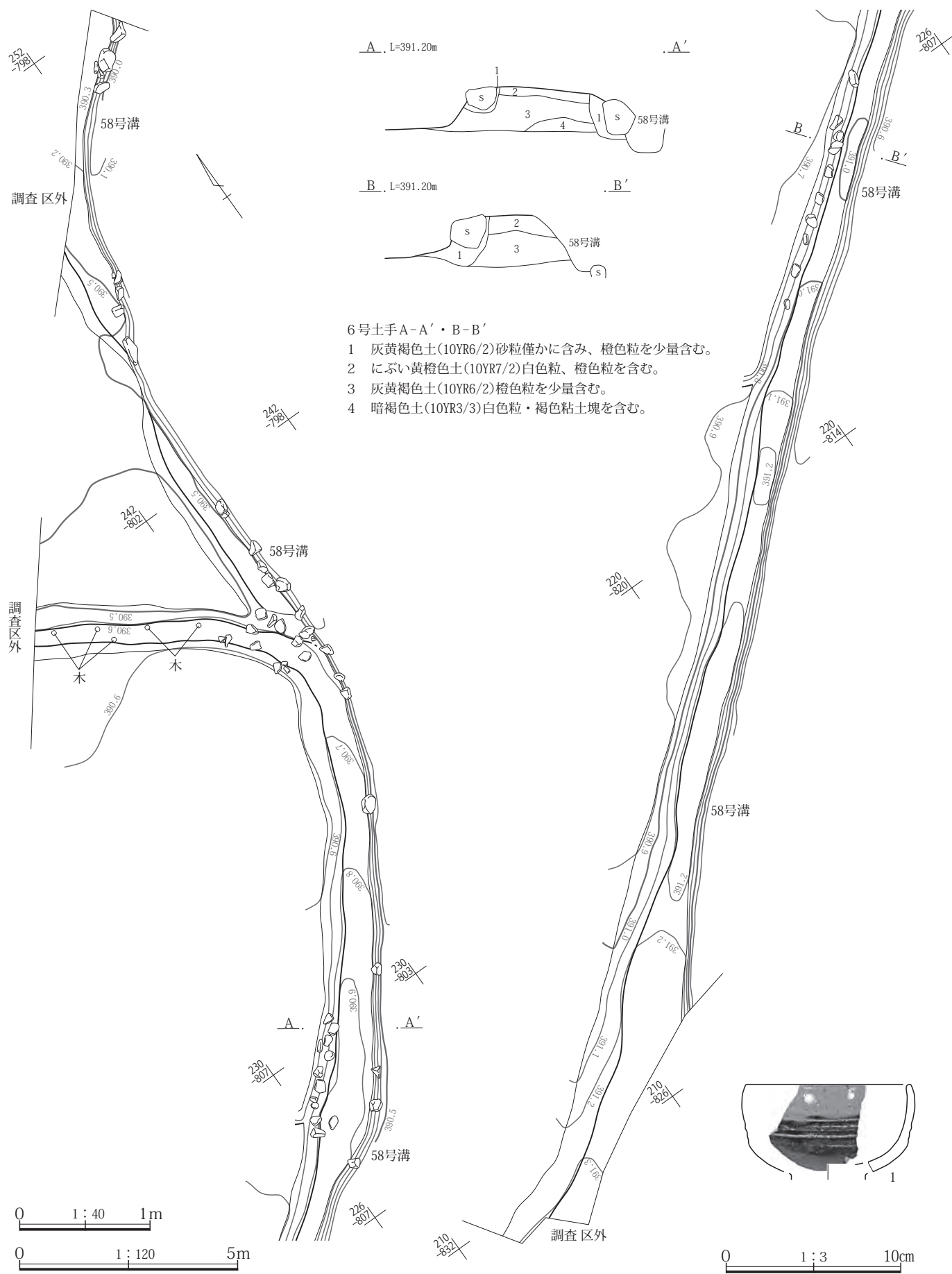
**位置：**58号溝と3号道、6号土手によって大区画されている。9-1区と15区全域で確認されている。

**経過：**天明泥流除去後、9-1区、15区とも黒褐色土を基盤とした平坦面が広がり、水田としての位置付けを試みたが、水田遺構に特有な畔、及び水口が明瞭に検出できず、その可能性を求めるとどまった。

**規模：**第6～8図に区画名、第7・8図に断面図を記した。区画平面形は長方形を基調とする。9区画を数えるが全貌が把握できる区画は無く、規模などは判然としない。短軸長は約10.3～17.0mでいずれも10m以上の大区画である。一部であるが長軸長が測り得る区画では長軸約34mを測る。長軸方向は北西を向き、これは58号溝や3号道に対応する軸方位である。各段差の高低差は6号土手北西では25cm、13cm、14cm、3号道東と南では60cm、32cm、39cmを測り、比較的明瞭な段差だった。

**所見：**天明泥流下の水田である。調査段階では慎重な解釈で水田としては位置付けていないが、調査担当者も水田として考えており、整理段階で水田とさせていただいた。時期は天明泥流下である江戸時代18世紀後半以前の所産である。

なお、前回調査、厚田中村遺跡(2)報告の9区が9-1区南東に接する(第95図)。9区は第1面調査として天明泥流下、第2面としてAs-B下の調査面を検出している。今回の9-1区ではAs-Bの堆積が認められず、第1面調査のみとなった。



第16図 6号土手と出土遺物

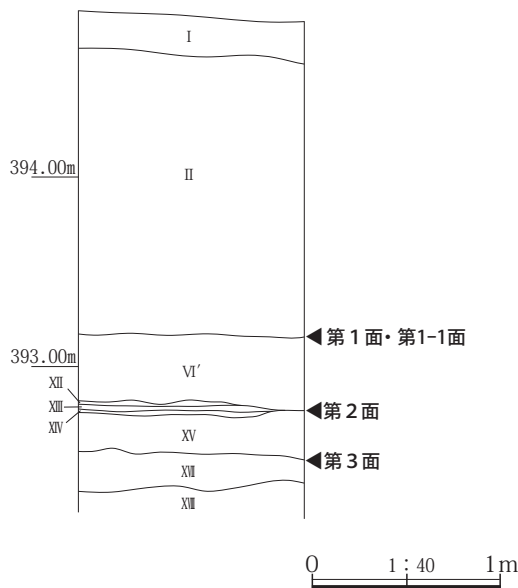
### 第3節 11区・11-1区の遺構と遺物

前々節で述べたように、11区と11-1区は隣接する調査区のため併せて報告する。11区と11-1区は調査区の北西側にあたり、東に12区、現道を挟み南側に13区と14区が隣接する。また、11区の西は令和2年度調査で前回報告した8区が接する。

11区と11-1区とも主に3面にわたる調査を行った。さらに11区は天明泥流下の調査面直下に1-1面が検出され、さらに11-1区は第3面調査後に縄文時代の遺構調査を第4面として行ったため、合計5面の調査を行っている。

天明泥流下面を第1面とした。泥流土を重機で除去した後精査を重ねた調査である。調査の結果11-1区で泥流による被災建物である1号建物が検出された。建物屋根と壁の調査である。その他では、57号土坑、38・39・42号溝、14号畑、14・15号復旧溝が11区で検出され、60・61号溝、22～24号畑、7号土手が11-1区で調査されている。また、11-1区東側は水田として位置付けられた。

第1-1面は、天明泥流下のⅢ層である灰白色洪水層直下の43号溝や15・17・18号畑が調査されている。Ⅲ層は11区南半と13区と14区で確認された層位である。時期は江戸時代であろう。



第17図 11区基本土層

第2面は浅間粕川テフラ(As-Kk)の混土層及び純層下を調査面とした。埋土はAs-Kk純層は少なく、多くの遺構埋土はAs-Kk混土層で占められた。3～13号掘立柱建物は11区北の高標高部に長軸を東北東に向け群在し、44・46～49・53～57号溝は11区南の低標高部分に西北西の走向を主にして集中していた。一方、11-1区の2面遺構群は62～64号溝や1号列石、土坑、ピット等で遺構密度は低かった。第2面の時期は中世に比定した。

第3面は弥生時代後期～古墳時代後期の集落で、19棟の竪穴建物を調査している。該期の集落は令和4年度の調査でも報告されており(群埋文2023)、11区西に隣接した8区で3棟の古墳時代竪穴建物が知られる。その他では11区東で50号溝が南北の走向で調査された。弥生時代後期～古墳時代前期土器資料が豊富に出土している。

第4面では11-1区で縄文時代の竪穴建物1棟、竪穴状遺構1基、土坑3基を得ている。中期後葉～末葉の所産である。他に遺構外だが前期中葉の土器片が出土する。

#### (1)11区第1面

天明泥流下の調査である。前述のように11-1区では被災建物等が検出されているが、11-1区と併せた調査区内の地形は、北東から南西に約20cmの段差が走る。段差は調査区中央やや南西寄りで屈曲している。段差の上位西側が11区にあたり57号土坑や38・39・42号溝、14号畑、14・15号復旧溝が調査されている。なお、段差の下位及び東側が11-1区にあたり1号建物や60・61号溝、7号土手を伴う水田が認められた。

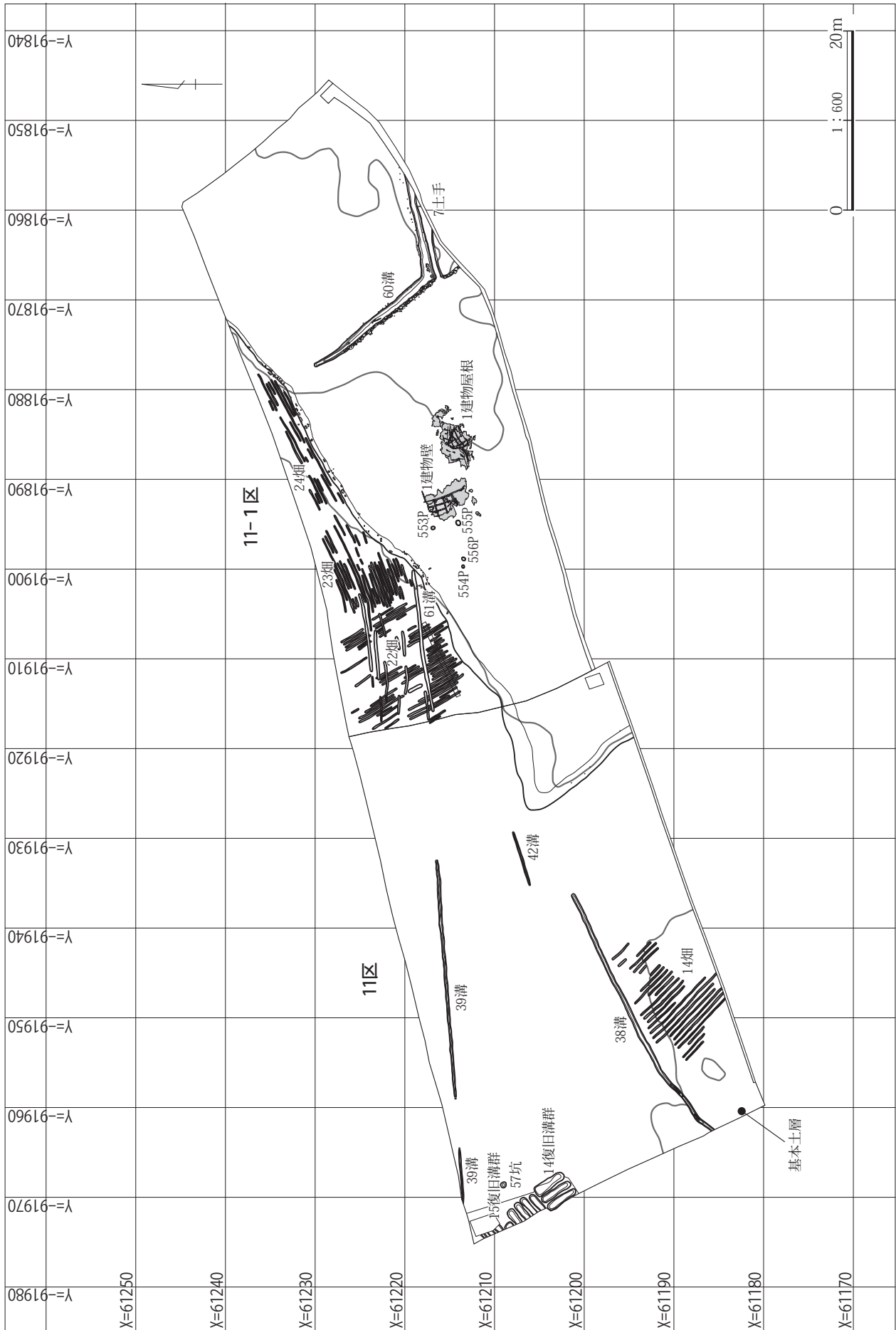
#### 57号土坑(第21図、PL. 7)

**位置:** 11区・11-1区1面唯一の土坑である。調査区北西隅で検出された。周辺はほぼ平坦地形が広がる。

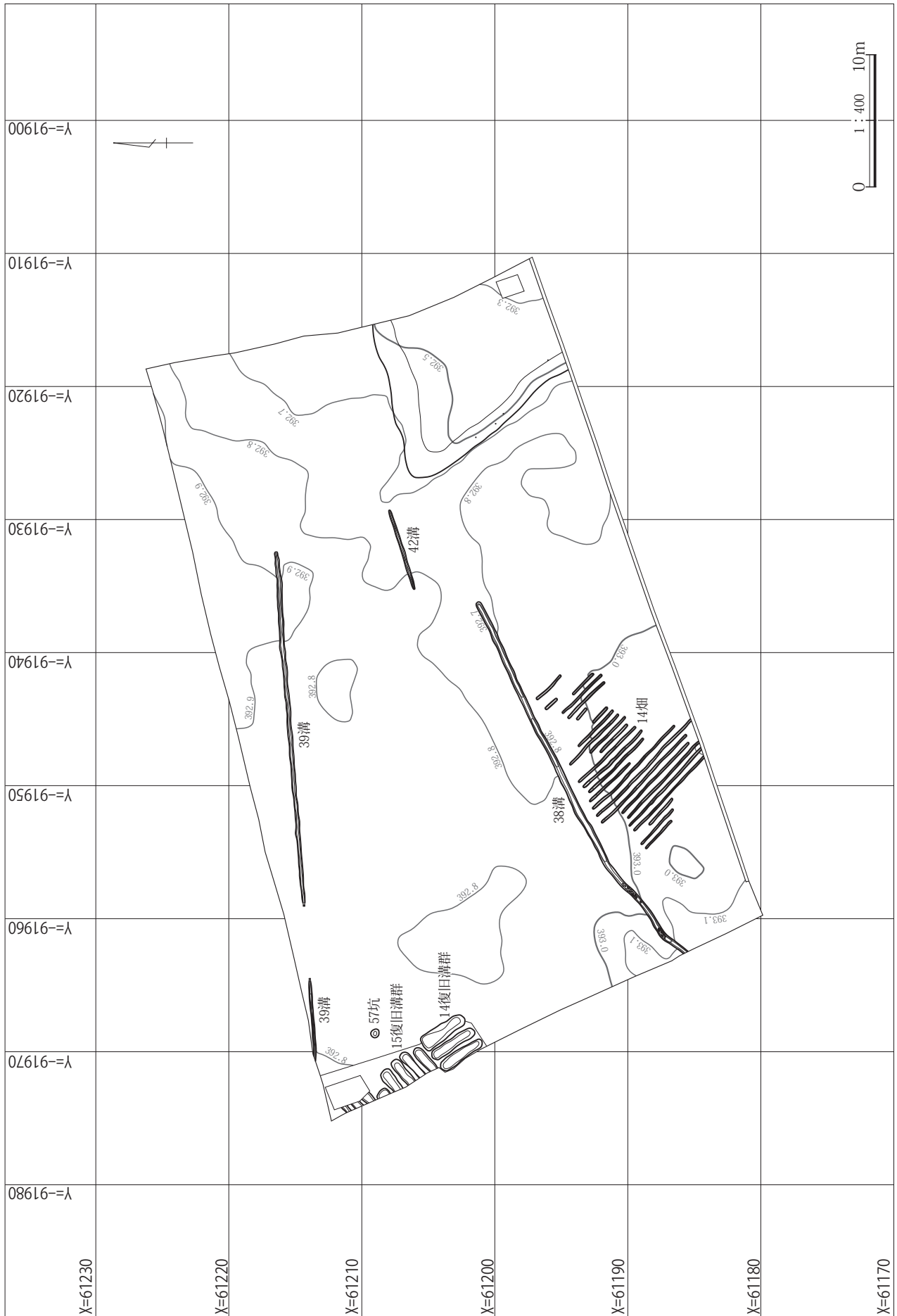
**経過:** 天明泥流下の調査である。地山は褐灰色粘質土で覆土は黒褐色泥流土だった。小型の角礫や砂礫を含むため地山との識別は容易だった。

**規模:** 平面形は約67×61cmの楕円形を呈す。深さは約15cmを測り浅く皿状の断面形である。

**所見:** 浅く皿状の断面形ながら、比較的整った平面形を呈す。検出層位も安定しており、有機的な遺構と判断したい。時期は天明泥流下、江戸時代18世紀後半以前である。



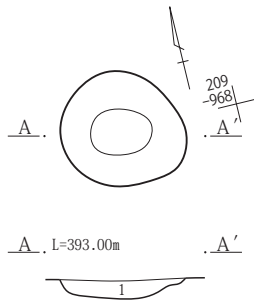
第18図 11区、11-1区1面全体図



第19図 11区1面全体図(1)

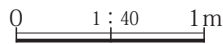


第20図 11区1面全体図(2)



57号土坑 A-A'

1 黒褐色土(10YR3/2)泥流土。小礫・砂粒を含む。



第21図 57号土坑

### 38号溝(第22図、PL. 7)

**位置：**11区南西部で東西に走る小規模な溝である。周辺は平坦地形が保たれるが西側が高く東側との高低差は30cm程である。

**経過：**天明泥流下の確認である。覆土は砂礫混じりの黒褐色泥流土で、地山の暗褐色粘質土との識別は果たせた。溝底面2箇所からは、円礫がまとまって出土しているが、溝に直接関係する施設ではないと考えた。おそらく廃棄あるいは下層の影響による集石であろう。

**規模：**概ね東北東の走向を示し、全長約37.6mで東側は比較的直線的な平面形だが西側は若干傾斜が強いためやや蛇行しながら調査区外へ至る。令和2年度調査の8区では復旧坑群に占められ、本溝の延長は認められなかった。溝の幅は約20～40cmで深さは約10cmを測る。浅く断面形は皿状を呈す。底面の傾斜は西から東へ下る傾斜だが、西側の傾斜が若干強い。地形に沿うものであろう。

**重複：**南側に近接して14号畑が近接する。14号畑は38号溝手前で途切れる様相から、38号溝は境界溝としての性格も想定できる。

**所見：**平坦地形を横切る形態の浅い小規模な溝である。西側から東へ下る走向と傾斜と南側に近接する14号畑から、畑地を画する境界溝として考えておきたい。時期は江戸時代18世紀後半以前の天明泥流下の溝として位置付ける。

### 39号溝(第23図、PL. 7)

**位置：**11区北で調査した。北西部で一回途切れ調査区外

に延びる様相を示す。

**経過：**天明泥流下面の検出である。砂粒混じりの黒褐色泥流土を覆土としており、地山の褐色粘質土との識別は容易だった。溝そのものが浅く、泥流土を除去するに従い、西側で途切れたが、延長上にある溝と併せて39号溝とした。

**規模：**ほぼ東西方向を向き全長約38.3mを測る。これは途中の空白部分を含む。幅は約20～40cmで深さは約10cmを測る。断面形は皿状で浅い。

**所見：**幅狭で浅い溝である。性格など不明点が多いが、走向は直線的で、意図的な所産である。後述する11-1区61号溝などと走向が一致しており、検討を要する。時期は天明泥流下の江戸時代18世紀後半以前である。

### 42号溝(第24図、PL. 7)

**位置：**11区のほぼ中央に位置する。

**経過：**天明泥流下面で検出した。覆土は褐色泥流土で砂礫を含む。地山は暗褐色粘質土のため識別が果たせた。

**規模：**全長約6.2m、幅約20～30cm、深さ10cm以下の極めて小規模な溝である。向きは東北東を向く。

**所見：**小規模な溝であり、用途など性格は不明である。走行軸を38号溝に近いことから、何らかの境界溝の可能性もある。時期は江戸時代天明泥流以前である。

### 14号畑(第25図、PL. 8)

**位置：**調査区南西側で検出された。38号溝の南に位置し、周辺はほぼ平坦地形が広がる。

**経過：**天明泥流下で検出した。覆土は砂礫混じりの黒褐色泥流土と褐色粘質土で地山の暗褐色粘質土との識別は容易に果たせた。検出の結果、北西に走向するサク状遺構が確認でき、畑として調査を進めた。サク状遺構の残存は良くなく、途切れる箇所や浅い箇所があり、詳細は不明ではあったが、全体像は把握できた。

**規模：**25条のサク状遺構からなる。幅約14.5m、長さ10.5mの範囲に収まる小規模な畑である。一部のサクが南壁の調査区域外に延びるが、僅かな延長と考えられる。サクの長さは1.0～10.0mと長短が見られ、サク幅は13～22cm、畝間幅は43～62cm、畝からサクまでの深さは10cm以下で、畝の高まりは顕著ではなかった。サクの方向は北西でほぼ一定である。

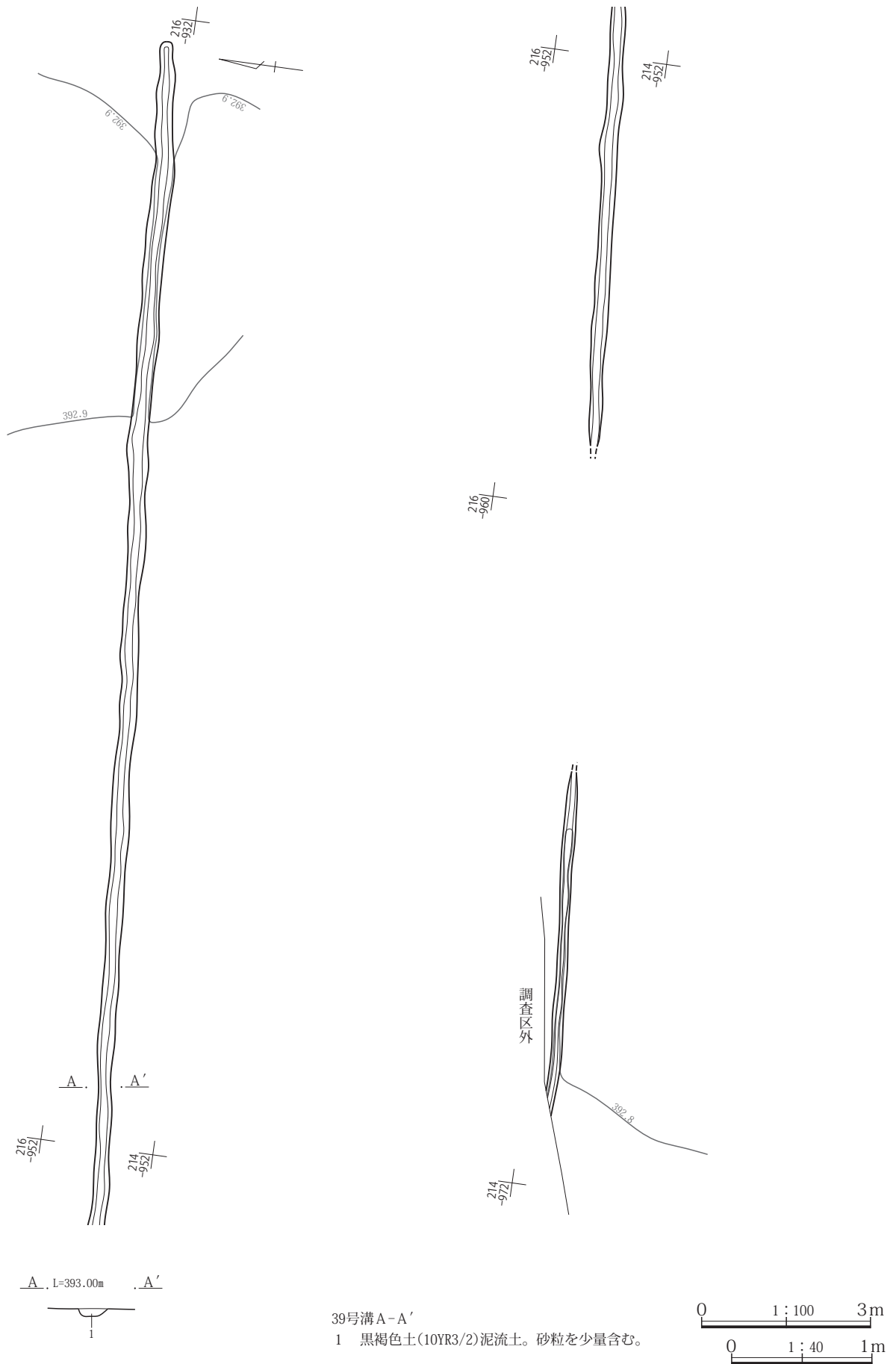


38号溝 A-A'

1 黒褐色土(10YR3/2)泥流土。砂粒少量の小礫を含む。

第22図 38号溝

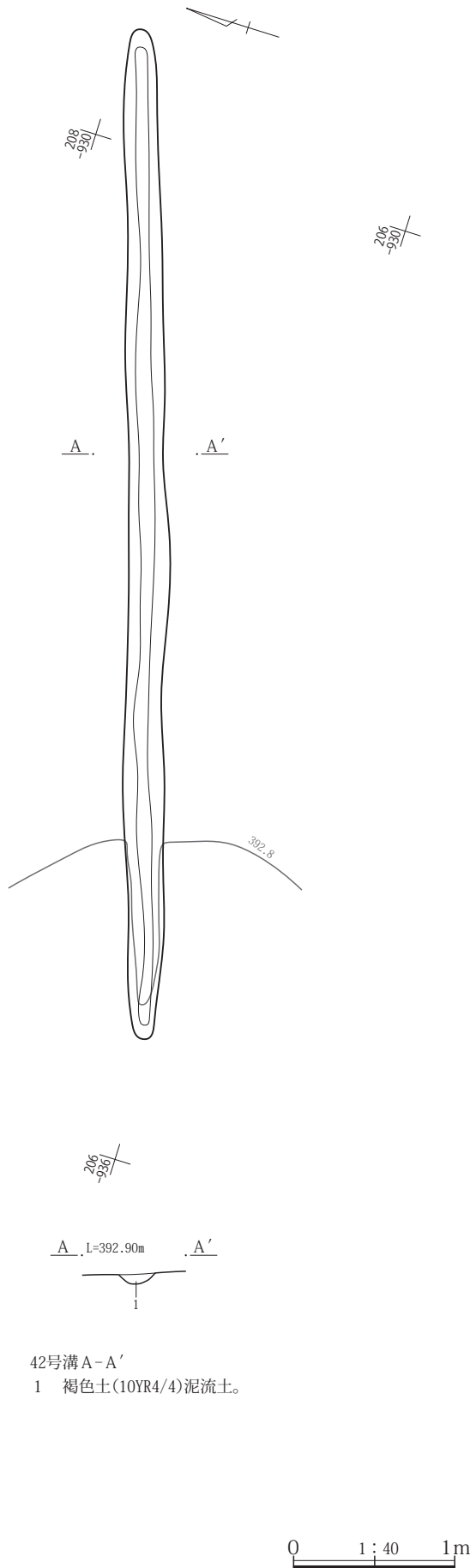




39号溝 A-A'

1 黒褐色土(10YR3/2)泥流土。砂粒を少量含む。

第23図 39号溝



第24図 42号溝

**所見：**今回の調査第1面では最も西で検出された畑である。令和2年度の調査では、西側にやや距離を置く8-1区や南西の10区で検出されている。両者とも14号畑とは軸方位、規模などに相違点はあるが、低台地における検出で、土地利用の共通性が窺われる。時期は天明泥流下の江戸時代18世紀後半以前である。

**14号復旧溝(第26図、PL. 8)**

**位置：**11区北西隅で調査された。周辺は平坦地形が広がる。

**経過：**天明泥流下で確認した。埋土には天明泥流が堆積しており、地山の灰黄褐色土との識別を果たした。

**規模：**3条の長楕円状土坑からなる。3条とも同様な規模で、長軸長約3.68~3.72m、短軸長約66~118cm、深さ約30~50cmを測る。長軸は北北西を向く。おそらく西側の調査区外にも同様な復旧溝が連続するものと推定できる。

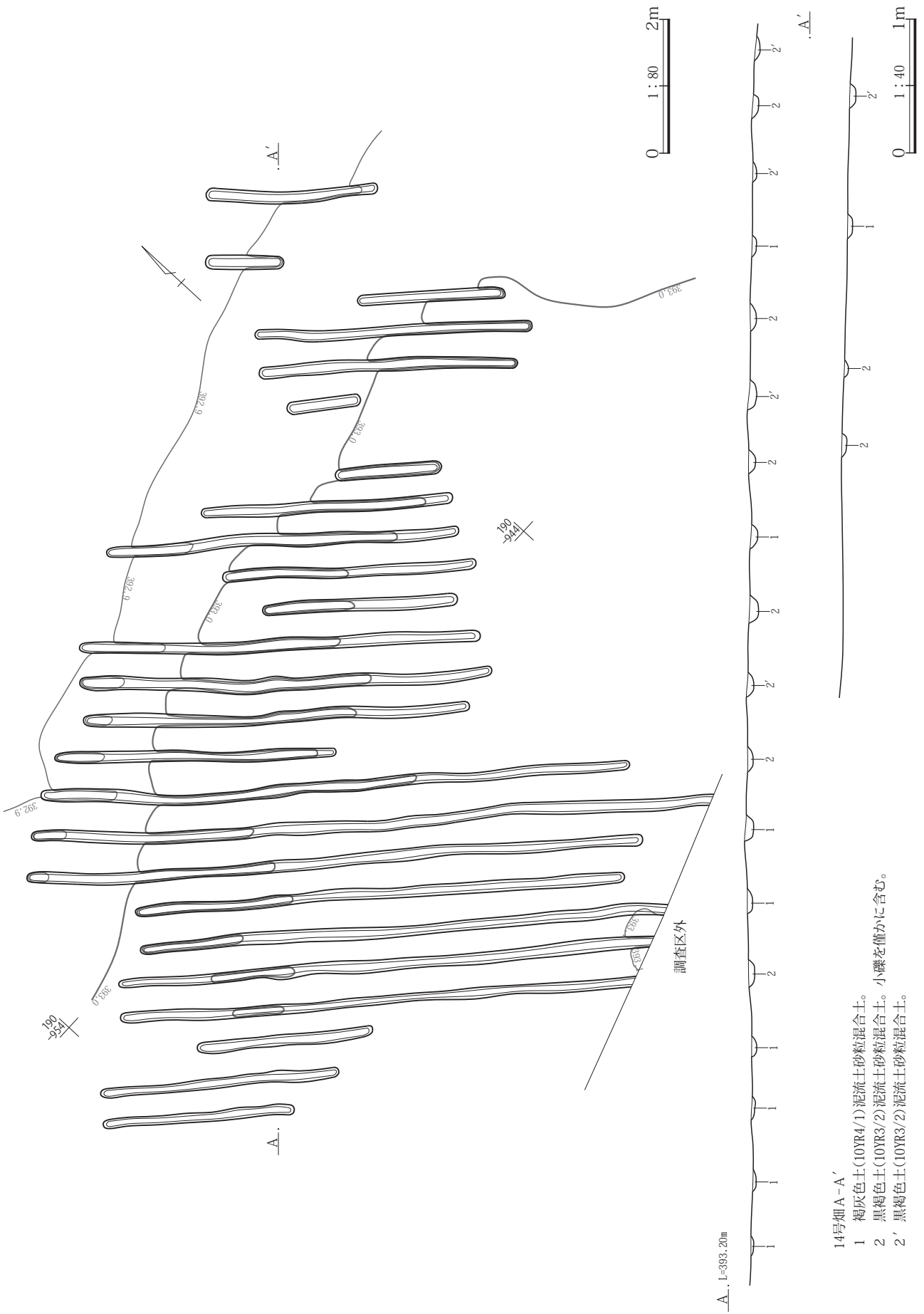
**所見：**令和2年度調査の8区東端に本復旧溝と長軸方位が一致する復旧坑群が報告されている。復旧溝は天明泥流後の耕作地復旧のために、泥流下の当時の耕作土を掘り上げ、泥流上の地表面に客土する作業溝である。14号復旧溝も泥流下面の灰黄褐色土にまで達しており、泥流上層に掘り上げられたと推定できる。これらの作業の反復痕跡が復旧溝群として位置付けられており、そのため検出された復旧溝埋土は一度掘り上げた泥流土を埋め戻すため、土層は天明泥流主体の埋土層となる。故に、本遺構は天明泥流被覆後の復旧作業によるもので、時期は天明3年以降と判断した。

**15号復旧溝(第26図、PL. 8)**

**位置：**11区北西隅で調査された。周辺は平坦地形が広がる。

**経過：**天明泥流下で8条の復旧溝を確認した。埋土には砂礫混じりの暗褐色泥流土が堆積しており、地山の灰黄褐色粘質土との識別は明瞭だった。

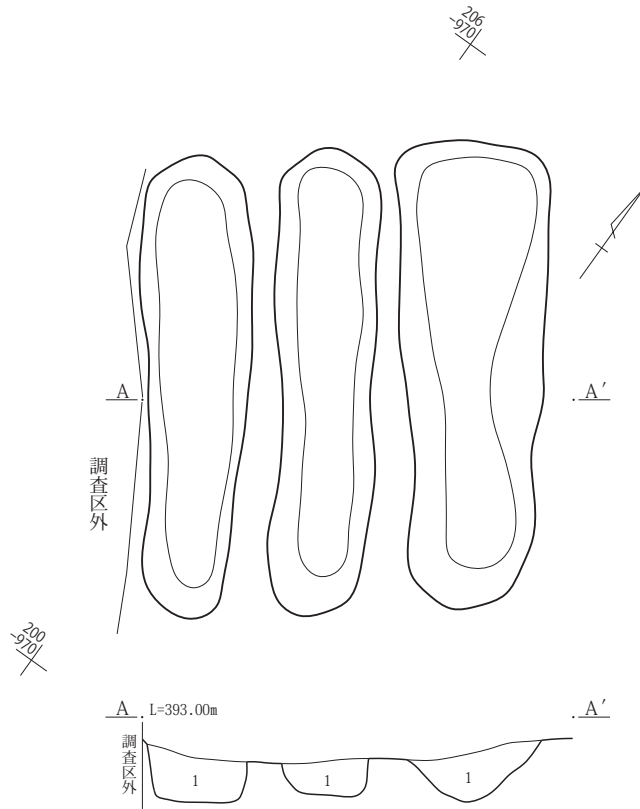
**規模：**西側を調査区域外に延長するため、全容は不明である。長軸長は残存部のみで約0.5~2.2m、短軸長は概ね1m前後で北端の3条が狭くなり40cm前後となる。深さは確認面では8~21cmだが調査区壁の土層では上層からの掘り込みが確認され、深さは約80~100cmを測る。



第25図 14号畑

- 14号畑 A-A'
- 1 褐灰色土(10YR4/1)泥流土砂粒混合土。
  - 2 黒褐色土(10YR3/2)泥流土砂粒混合土。小礫を僅かに含む。
  - 2' 黒褐色土(10YR3/2)泥流土砂粒混合土。

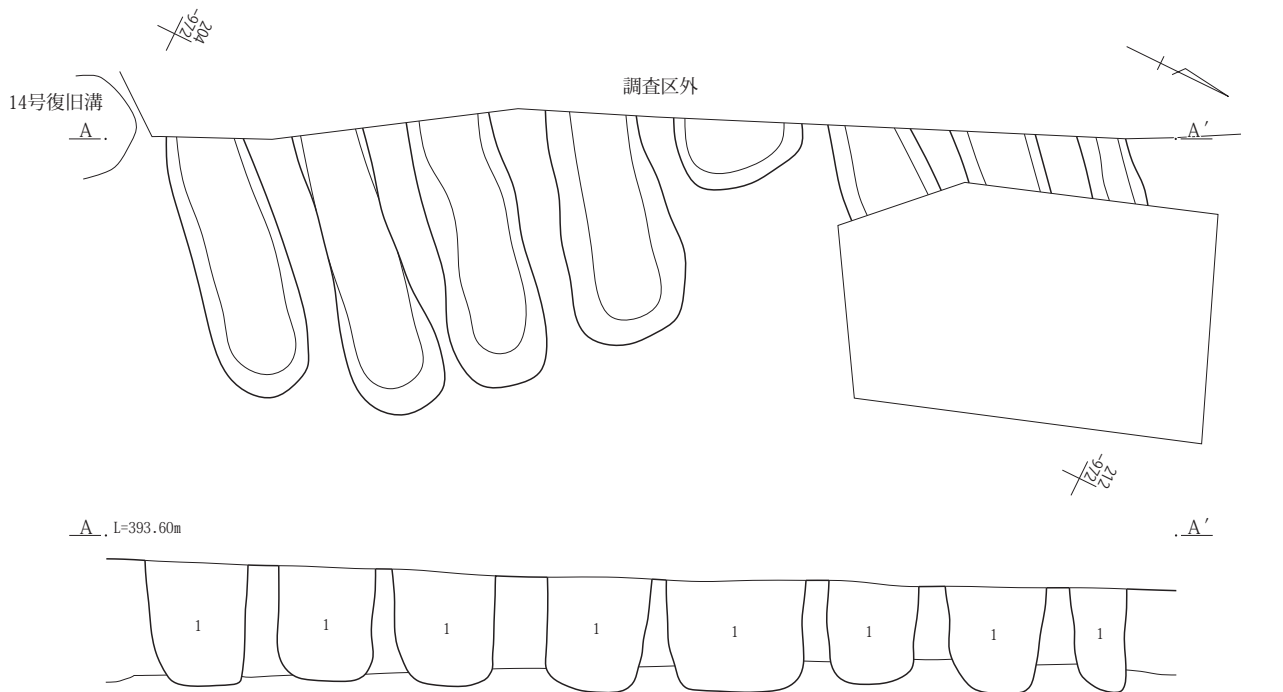
14号復旧溝



14号復旧溝 A-A'

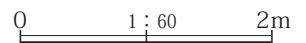
1 暗褐色土(10YR3/3)泥流土主体。大型礫と砂粒を多く含む。

15号復旧溝



15号復旧溝 A-A'

1 暗褐色土(10YR3/3)泥流土主体。大型礫と砂粒を多く含む。



第26図 14・15号復旧溝

長軸方位は北東を向き、14号復旧溝と直交する軸方位となる。

**所見：**14号復旧溝と同様の性格で時期もほぼ同時期で、天明泥流後の所産である。また、8区においては、長軸方位に近い復旧坑が15号復旧溝の延長上で調査されており、同じ遺構と思われる。

(2)11区第1-1面

調査第1面である天明泥流下面の遺構・遺物の調査終了後、第1-1面として第Ⅲ層である灰白色洪水堆積層下の調査面が11区、及び13区、14区で検出された。この調査面は令和2年と3年の調査では検出されず、吾妻西バイパス関連の平成28年度調査で8-2区と9区で得られた1面下において、同様の調査面が報告されている(群埋文2018)。その際の1面下に対する解説は、「天明3年(1783)の浅間山噴火時に降下した浅間Aテフラ(As-A)を含む洪水堆積層によって覆われた遺構確認面」とさ

れている。さらに「泥流発生までのごく短い期間に水田や畑が復旧されていたことが判明した」と天明泥流とこの洪水層の時間差が僅かな時間と指摘されている。

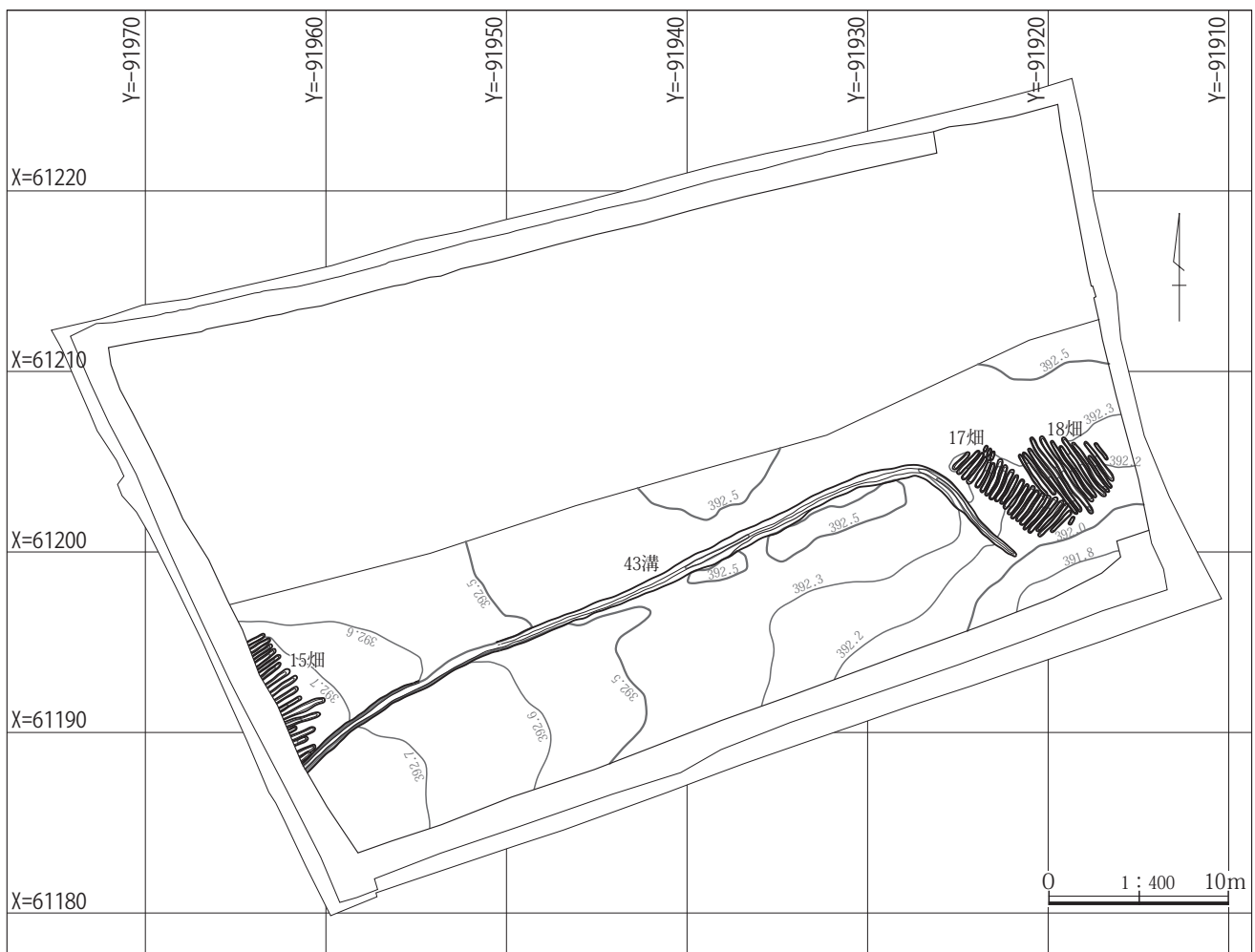
本遺跡で調査した1-1面も平成28年度調査の1面下に対応しており、同時期の遺構と考えている。

以下、11区1-1面の43号溝や15・17・18号畑について述べる。Ⅲ層の灰白色洪水層は11区南半のみで認められた。おそらく低地部分に堆積した層位であろう。なお、西側に接する8区では1-1面に相当する層位や遺構は確認されていない。

43号溝(第29図、PL. 8)

**位置：**11区南半で調査された。周辺は西から南東へ低くなる地形で、調査区東側では南へ強く低くなる地形である。

**経過：**天明泥流下の調査第1面終了後、11区南半にⅢ層の灰白色洪水層が認められ、上面で幾つかの遺構が確認



第27図 11区1-1面全体図(1)



第28図 11区 1 - 1 面全体図(2)



第29図 43号溝

された。43号溝が最も顕著で、覆土は浅黄橙色土が堆積していた。色調差は明瞭で平面形や底面の検出は容易だった。

**規模：**調査区西壁より東へほぼ直線的に延び、調査区東部斜面で南へ屈曲する、鍵の手状の平面形を呈す。直線部が約37m、屈曲部が約8mで、幅は40cm程が保たれ、屈曲部周辺で100cm程に広がる。深さは東側屈曲部南端部で約4cmだが、他は約17～24cmの範囲で収まる。断面形は浅い皿状である。軸方位は直線部が東北東を向き、屈曲部から北西を向く。底面は西側が高く、東側が低い。屈曲する南端で傾斜と一体化する様相を示す。

**重複：**調査区西端で15号畑が接する。また東側では17号畑が近接する。15号畑との新旧は不明だが、ほぼ同時期の所産として位置付けたい。

**所見：**1-1面で調査された溝である。東側の斜面部で屈曲する特徴を有す。屈曲は17号畑を避けており、また西端では15号畑と重複をしないことから、畑との強い関係性が想起されよう。時期は江戸時代18世紀後半以前であろう。

#### 15号畑(第30図、PL. 8)

**位置：**調査区西側で検出された。西側を調査区外に延ばす。周辺は平坦地形が広がるが、僅かに微高地状に高くなる。

**経過：**Ⅲ層下面で17条を検出した。洪水層を畝とした畑である。畝部分は洪水層を主とする褐灰色土とにぶい黄橙色土からなり、サクには浅黄橙色土が堆積していた。全体にやや軟質土で占められるため、検出はやや手間取った。

**規模：**西調査区外に延長するため全容は不明だが、最大長は約2.5m、サクの幅約20～40cm、畝間幅は約10～30cm、畝からサク底面までの深さは約4～12cmと低く平面確認では畝は顕著ではないが、断面観察では約25cm以上を測る。サクの方向は東北東を向き43号溝と一致する。

**重複：**南で43号溝と接す。新旧は不明だが関係性は強い。

**所見：**1面で調査された14号畑と同様に低位台地で調査された畑である。西側の8区では検出されていないが、As-Aに伴う洪水堆積後15号畑が形成され、さらに浅黄橙色砂質土で埋没し、別地点に14号畑が営まれ、短時間のうちに天明泥流で被覆される変遷が想定されよう。時期

は天明泥流以前の時間をあてるが、僅かな時間差であり、江戸時代18世紀後半以前の範囲に収めたい。

#### 17号畑(第31図、PL. 8)

**位置：**11区南西部の43号溝屈曲部に近接して調査された。周辺は南に下る傾斜地形で、特に南側は強い傾斜である。  
**経過：**第Ⅲ層下面で浅黄橙色土を埋土としたサク状遺構がまとまって連なって確認されたため、畑として調査を進めた。サクは21条を数える。

**規模：**約7×2.4mの範囲にサクがまとまる。長さ30cm程のサクもあるが概ね2.4cm前後の短いサクを主とする。サクの幅は約16～30cm、畝間幅は約8～12cmと狭く、深さは約3～16cmを測る。サクの方向は北北東を向く。

**重複：**一部が18号畑と接するが、重複には至らない。両者は同時期の所産と判断した。

**所見：**小規模な畑である。畝間も狭く、14号畑や15号畑との差が見られる。地山がⅢ層-洪水層のため畝間の残存が悪いとも考えられるが、耕作作物の差も念頭に置きたい。時期は江戸時代18世紀後半以前であろう。

#### 18号畑(第31図、PL. 8)

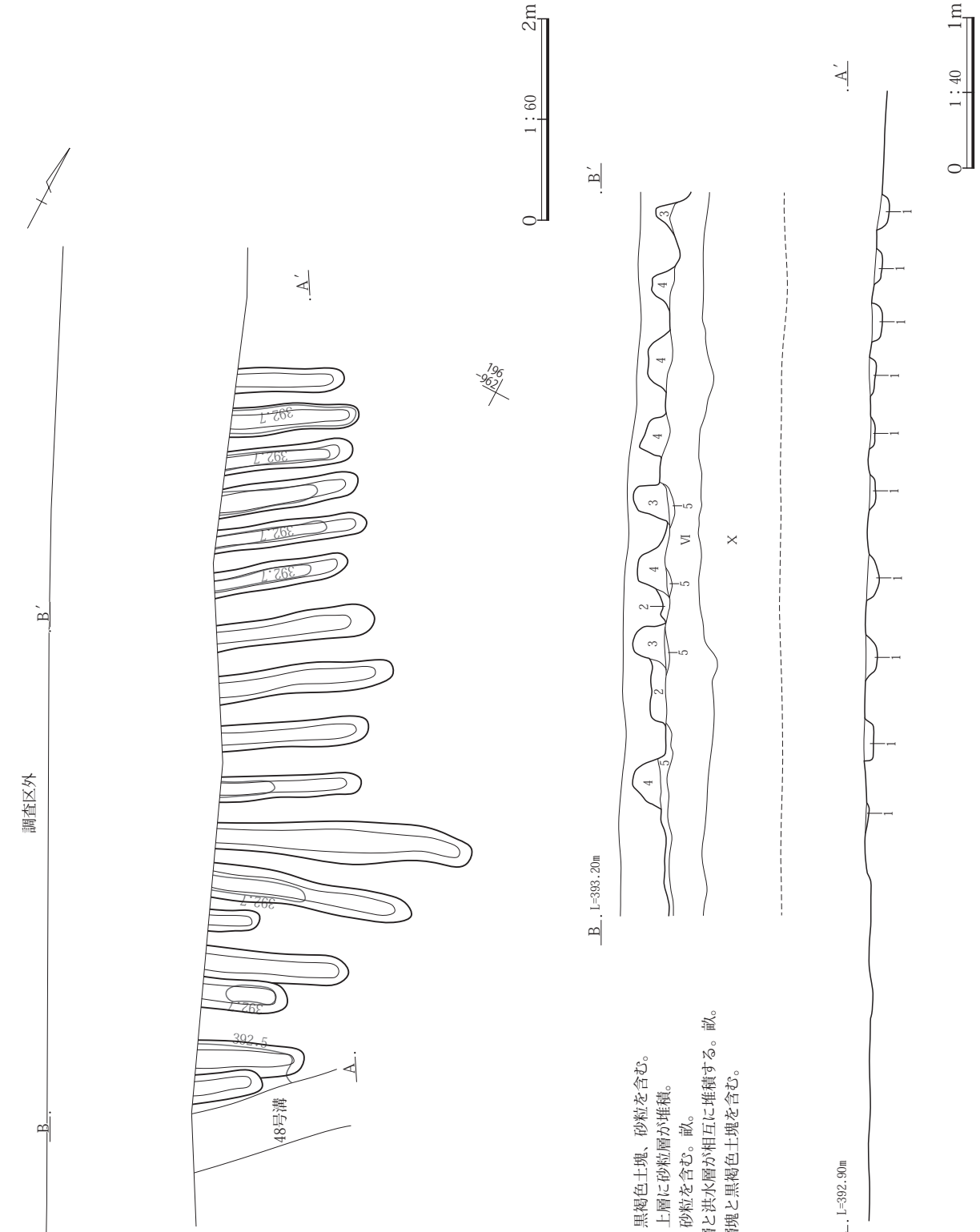
**位置：**11区南西部で17号畑に近接した位置にある。南側は強い傾斜が広がるが、17・18号畑は平坦面に選地する。  
**経過：**第Ⅲ層下面で浅黄橙色土を覆土としたサク状遺構が確認され、17号畑と同様にサクは平行した様相でまとまるため畑と確定した。サクは12条を数える。

**規模：**約5.2×4.2mの範囲にサクが等間隔に設けられる。サクの幅は約16～32cm、畝間は約6～20cmと狭く、深さは約3～13cmを測る。サクの方位は北北西で17号畑と軸を交える形態である。

**重複：**17号畑が西に接する。両者は走向を交える位置に配置されることから、相互の存在を意識したものと判断できる。また、17号畑は43号溝の屈曲部走向軸を意識した配置であることからこの3者はほぼ同時期と考えるべきだろう。

**所見：**17号畑と同様に小規模な畑である。畝間も短く、両者の関係性は極めて強い。おそらく、大規模な収穫を目的とした畑ではなく、家族単位の収穫かあるいは育苗などを目的とした用途も考えられよう。時期は他の遺構と同時期で江戸時代18世紀後半以前の所産である。

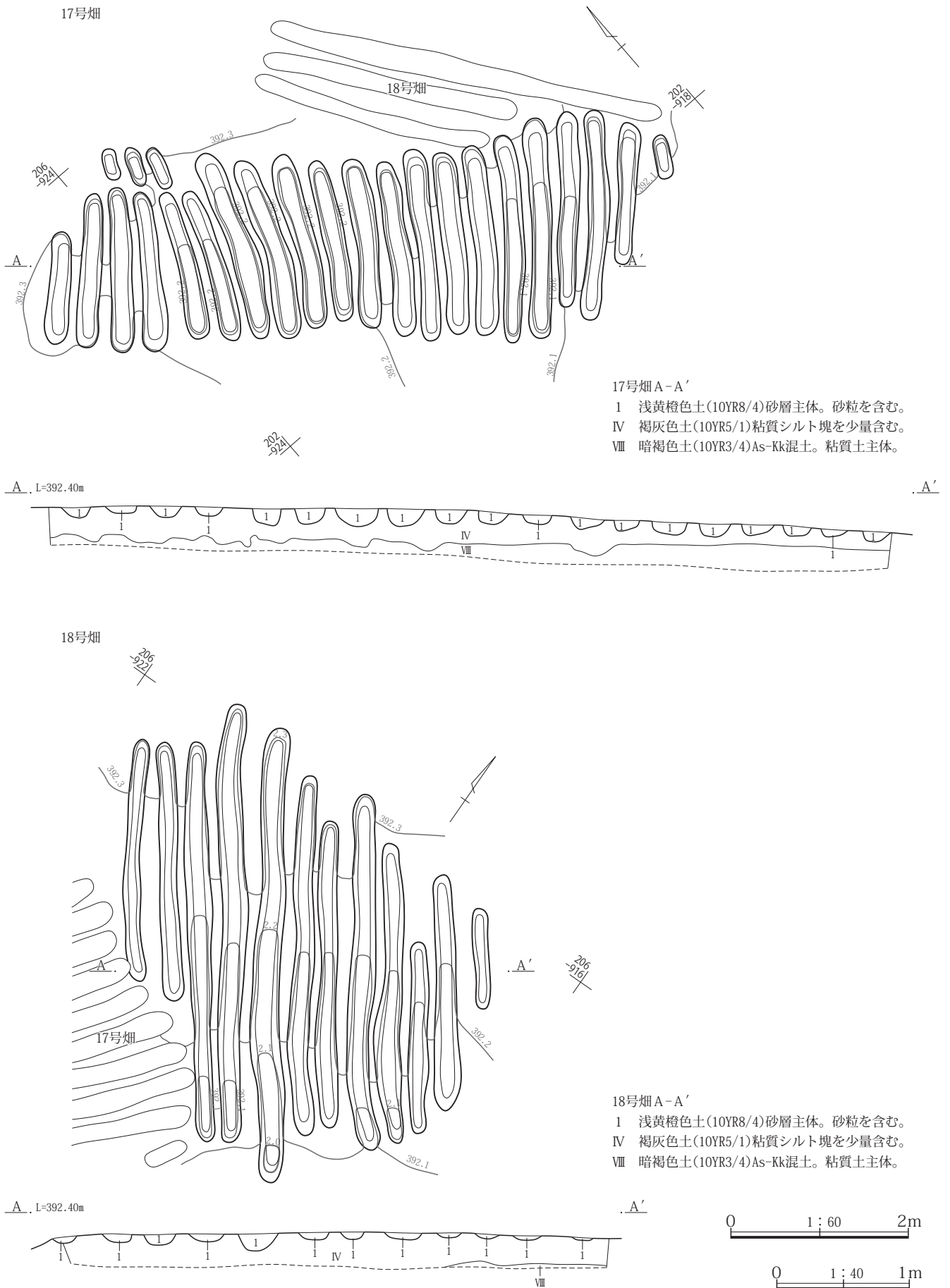




15号畑 A-A'・B-B'

- 1 浅黄褐色土(10YR8/4)砂層主体。黒褐色土塊、砂粒を含む。
- 2 褐灰色土(10YR6/1)洪水層主体。上層に砂粒層が堆積。
- 3 褐灰色土(10YR6/1)洪水層主体。砂粒を含む。
- 4 にぶい黄褐色土(10YR6/4)砂粒層と洪水層が相互に堆積する。畝。
- 5 黒褐色土(10YR3/1)褐灰色洪水層塊と黒褐色土塊を含む。
- VI 褐灰色土(10YR5/1)As-Kk混土。
- X 暗褐色土(10YR3/4)As-Kk混土。

第30図 15号畑



第31図 17・18号畑

(3)11-1区1面

時期が前後して恐縮だが、11-1区の天明泥流下の各遺構の説明を加える。

1号建物(第34・35図、PL.9～14・57・58・80・81)

11-1区調査された天明泥流直下の建物である。泥流によって押し流され、原位置をとどめてはいないと思われるが、建物屋根部分と壁の一部が出土しており、当時の農村建物的一端を窺い知る良好な資料である。

**位置：**11-1区ほぼ中央で検出された。北側は北東から南西に走る高低差20cm程の段差があり、上段には61号溝、22～24号畑が見られる。また11-1区東側は66号溝で画された水田があり、1段下がる地形を示す。1号建物が検出された地点は畑などが選地する台地部と水田が調査された低地部の挟まれた第2段目の調査で検出された。

**経過：**天明泥流下の褐灰色土上面で調査された。東西約13m、南北約6.2mの範囲に屋根材や柱材がまとまって出土し、天明泥流によって被災破損した建物の一部として判断した。検出作業は、屋根材や柱材の乾燥を防ぐため水分を加えながら、慎重に精査を重ねた。その結果、東に屋根部分、西に壁部分が確認された。周辺は南西への緩斜面地形が広がり、ほぼ平坦地形での調査となった。近接する遺構は東側に553～556号ピットが見られるのみで、単独の検出となった。北側の畑、東側の水田ともやや距離を置く。1号建物は屋根と壁からなり、各々1号屋根、1号壁として調査を進めた。以下個々に報告する。なお、出土した屋根材や壁材の分析を委託し、分析結果を第4章に掲載している。

(1号屋根) (第34図、PL.10・11・58)

1号建物の東側でまとまる。北西方向に屋根棟部分を向けた妻部分とその周辺と思われ、主要な部分は東西方向が約5.7m、南北方向が約3.6mを測り、東には屋根材の一部が大きく剥がれた状態で出土していた。

妻部分の骨組みの多くは竹材で構成されており、妻の高さは約2.2m、妻梁部の長さは約2.3mを測る。扱首束部と思われる部位は木材が使用され、屋根材と直接捲縛されていた。方位は北北西を向く。竹材などの構築材が上面に、屋根材が下面になることから、建物内側が上面になっており、このことからその他の平側の部材などは

流失したものと判断した。

扱首束の頂部より両側の破風部分へ4本の竹材による扱首竿が設けられていた。東側はまとまった状態だったが、西側は泥流による流出で散乱した状態で出土している。破風部の竹材の長さは主に約2mだが短いものは1.1m程である。また、妻部には多段の梁が竹材によって設けられていた。

屋根材として、調査における断面観察では、麻とカヤが互層状態で記録できた。いわゆる茅葺屋根ではあるが、麻の転用も把握できた。

遺物は陶器碗体部～底部が、妻部下位の屋根材上より出土している(第34図1)。建物に伴う出土状態ではないが、泥流被覆時に伴う遺物として判断したい。

(1号壁) (第35図、PL.12・13・58・80・81)

1号建物壁部分は屋根の西2m程距離を置いて検出されている。周辺には、その他の建築部材が出土しておらず、おそらく同一建物の屋根部分と壁部分と思われる。調査地点での天明泥流の規模や流速は不明だが、1号屋根も1号壁も損傷もある程度に止まり、原型が窺い知れることから、検出地点より近距離に建っていたと判断できる。

桁材と柱材、横板と壁材からなる。桁材は北北東を向く。北側の1間分が継木され連結されている状態である。北側(No.6)は長さ約0.95m、南側(No.5)が約3.7mで、約4.7mを全長とする。柱材ホゾ穴で相欠継に連結されている。北側の連結材(No.6)は残存状態が悪く、桁としての判断も検討を要する。No.6がマツ属、No.5がトチノキである。

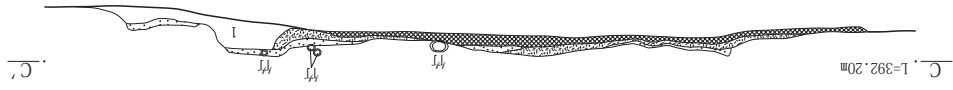
柱材は桁材の西側に3本(No.1～3)、東側に1本(No.4)が出土した。長さは残りの良いNo.1で全長約1.8m、幅約13cmの角材である。柱材4本ともクリ材で、端部に目地ホゾを設けていた。No.1とNo.2、No.2とNo.3との距離が約1.06m、No.3とNo.4が約0.9mである。ほぼ等間隔に設けられている。また、No.4は桁材の東側で出土しており、他の3本とは反対方向になる。No.5を桁材とした場合、No.4の出土位置は、他のNo.1～3の柱材の出土位置とは齟齬が生じる。No.4も柱材として、他の柱材と同様に原位置は西側に想定するべきであろう。おそらく、泥流により西側から東側へ移動したものと考えられる。






第32図 11-1区1面全体図(1)

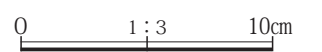
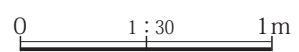
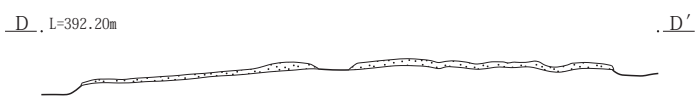
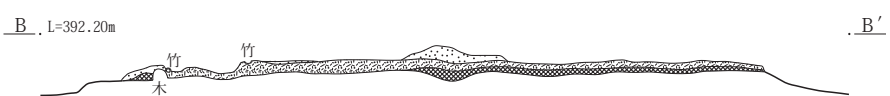
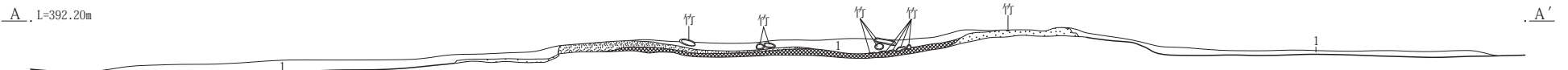


第33图 11-1区1面全体图(2)



屋根材

-  麻. 鉄分が付着して固くなっている。
-  麻. 黒味が強い。固くはない。
-  カヤ. やや白味があり、柔らかいもの。



第34図 1号建物 1号屋根と出土遺物



第35図 1号建物 1号建物と出土遺物

ただし、その場合No.4に穿たれたホゾ穴の位置が横板の位置と若干のズレが見られ検討を要する。また、西側の柱No.1ホゾ穴が見られ、この柱No.1よりさらに南側には柱材の出土は見られなかったが、桁材は延長しており、南端部に相欠組の加工木No.10が出土している。おそらく柱No.1から南へ約1.5m距離を置く箇所に柱材の存在が想定されよう。これは他の柱材の距離より長く、1号建物南側に柱間を広くとったスペースが想定されよう。なお、1号壁北西端から南東端までの長さは約4.6mを測り、桁長として考えられる。

横板は柱材に2段設けられる。幅10cm厚さ約20cmのマツ属の板材である。桁材からの距離は約52cm、横板同士は約50cmの間隔で設けられていた。明瞭な竹材の間隔材は見られなかったが、断片的に横材に平行して破片状態で出土しており、あるいは竹材も用いられていた可能性もある。

壁材として、調査時の平面観察では麻とカヤ、断面観察ではカヤが確認できた。また、樹種分析などの成果ではマツ属を壁材としていた。これらの壁材の上面に柱材や桁材が見られたことから、1号壁は1号屋根と同様に内側を上面に向けて被災したと思われる。

遺物は、横板No.8南側上位より陶器香炉底部破片が出土している。建物内原位置に伴う出土状態ではないが、泥流被災時の所産として判断したい。

天明泥流によって倒された江戸時代建物として著名な例が長野原町で調査された東宮遺跡や石川原遺跡、町遺跡、小林家住宅が挙げられる。また、東吾妻町町内では上郷岡原遺跡や唐沢遺跡が知られている。これらの建物の多くは、建物土台である大引きや礎石、明瞭な柱穴が把握できる建物が多く、比較的堅牢な作りの居住農家あるいは寺、お堂として位置付けられている。本遺跡で調査された1号建物は上記の建物とは違い、屋根あるいは壁といった上物が残存していた状態で検出されているが、建物基礎は認められなかった。

1号壁西に553～556号ピットが近接する。このうち553・555・556号ピットが掘立柱建物柱穴状の配置を見せるため、断面図を掲載している(第33図)。ピットの深さは約17～19cmでやや浅い。また柱穴としてのピットとすれば、北西隅のピットが検出されておらず、妥当性に

欠ける。さらに、柱穴間距離も553号と555号ピット間が約2.9m、555号と556号ピット間が約4.6mで1号壁の柱材の距離とは差がある。梁部分としては1号屋根の妻部梁の長さが約2.3mであり、553号と555号ピット間が若干近い数値を示していたが、合致するものではない。

天明泥流は、吾妻川上流から下流へ被害を広げながら流下したが、途中の吾妻溪谷が狭小なため自然ダムが形成され、上流に逆流したといわれる。上流部の八ッ場ダム調査でも、逆方向である西から東に倒れた麻や家屋などが多く調査されている。また、吾妻溪谷下流にあたる各所においても支流河川を逆方向に泥流が上ったと記録されている。本遺跡は吾妻溪谷より下流にあたるが、逆流痕跡は認められず、おそらく1号建物も西から東の方向へ倒壊と推定できよう。

1号建物の時期は天明泥流直下の他の遺構と同時期で江戸時代18世紀後半以前の所産である。

#### (建築材) (第191・192図・PL.80・81)

1号壁で出土した柱材(No.1～4)を図示した。桁材であるNo.5・6及び2段の横板等(No.7～10)は残存状態が悪く、図示が果たせなかった。第191図にNo.2とNo.3、第192図にNo.1とNo.4を掲載した。詳細は観察表を参照していただきたい。4点とも樹種はクリである。

No.1(第192図)は下半約1/2を欠損する。1号壁南端で出土している。残存長約130cm、厚さ約10～13cmの四寸角材である。桁材に連結する目地ホゾを設け、連結部から約75cmと約63cmの2方向2箇所の位置にホゾ穴を設ける。ホゾ穴は両者とも約9×3.5cmの長方形である。横板の残存状況からホゾ穴は下段にも設けられると思われる。また、3箇所に径3～4cm程の差し口が設けられる。

No.2(第191図)は1号壁南側から2本目の柱材である。下端の目地ホゾ部分のみを欠損する。残存長約177cm、厚さ約10cmのやや細身の4面角材である。桁材に連結する目地ホゾが残存しており、下端部分が欠損する。直材ではあるが数箇所が僅かに湾曲し良材ではない。ホゾ穴は2箇所が設けられる。桁材連結部から約53cmと107cmの位置である。ホゾ穴の規模は9×3.5cmで横板の厚みと一致する。単方向に穿たれた通し桝である。下端欠損が目地ホゾ部分のため、ホゾ穴は2箇所、並列するNo.3の柱材とも一致する。残存する横板も2条である。竹



材等の差し口として径4cm程の不整円形の止まり穴が2箇所の位置に設けられる。

No.3(第191図)は1号壁南側から3番目の柱材である。両端の目地ホゾが残る全長約197cmの完形である。厚さは約10~11cmで4面角材である。桁材との連結ホゾも長く約17cmを測る。直材ではあるが数箇所が僅かに湾曲する。ホゾ穴は桁材連結部から約5.5と約11.5cm2箇所に設けられる。約9×3.5cmの長方形の単方向通し柄である。柱材No.1とNo.2のホゾ穴と対応し、横板も直線状に貫通する。差し口としての止まり穴4箇所が確認される。No.4(第192図)は1号建物北側で他の3本とは方向を違えて出土している。泥流圧をその要因とし、原位置は他の3本と同方向と判断した。桁材との連結部を残し下半約1/2を欠損する。残存長約131cm、厚さ約10cm、4面角材である。連結部から約55cmと約70cmの位置に2方向のホゾ穴を設ける。大きさは約9×3.5cmである。また差し口の止まり穴は2箇所が認められた。

#### 60号溝(第36図、PL.14・15)

**位置:**11-1区東側で屈曲して確認された。周辺は西側がやや強い傾斜だが全体的に緩やかな南東へ低くなる緩斜面地形が広がりほぼ平坦面といえよう。

**経過:**天明泥流直下で調査した。地山は北側が褐灰色土と暗褐色土で、溝覆土は灰黄褐色泥流土である。色調差も明瞭で検出は容易だった。また、溝西側には石積みが施されていた。角礫、亜角礫を3~4段積んだ丁寧な石積みであり、本溝の西壁を13m程補強する形態を示す。また屈曲部から7号土手南の東側段差も角礫による補強が組まれていた。

**規模:**地形変換点に沿って、南北に近い走向から南端に至り東側に屈曲し東西の走向を示す。全長は約26mで、南北が約16mで東西は約10mを測り調査区南壁に達し、調査区外に延長する。幅は約41~167cm、深さは14~59cmを測る。方位は北北西と東北東である。

**重複:**屈曲部より7号土手が南側に沿う。溝に付帯する施設である。

**遺物:**溝の上端に沿って木杭の痕跡を見る。

**所見:**11-1区東側低地部にかかる南北の地形変換点に沿って設けられた溝である。南端で東側に屈曲することから、11-1区東側への区画が意図された施設である。

おそらく、南に接する7号土手とともに南側への区画も果たされ、本溝東側の区画水田が推定できよう。時期は江戸時代18世紀後半以前の天明泥流下の溝として位置付ける。

#### 61号溝(第37図、PL.14)

**位置:**11-1区北西隅で調査された。調査区内の北側は北東から南西に約20cmの段差が走り、本溝や畑は上位に位置する。周辺はほぼ平坦地形が広がる。

**経過:**天明泥流直下の遺構である。覆土は灰黄褐色泥流土で地山との色調差も明瞭で検出は容易だった。

**規模:**直線的な東西の走向を示す。全長は約16mで、幅約24~40cm、深さは浅く10cm以下である。断面形は浅い皿状を呈す。方位はほぼ東西を向く。

**重複:**22号畑と重なる。新旧は土層の観察では22号畑を切る新旧関係である。

**所見:**11区で調査した39号溝の直線延長上にある溝である。浅く、性格も不明だが23号畑や24号畑と走向方位が近いことから、畑に付設する境界溝の可能性はある。時期は江戸時代18世紀後半以前である。

#### 22号畑(第38図、PL.14)

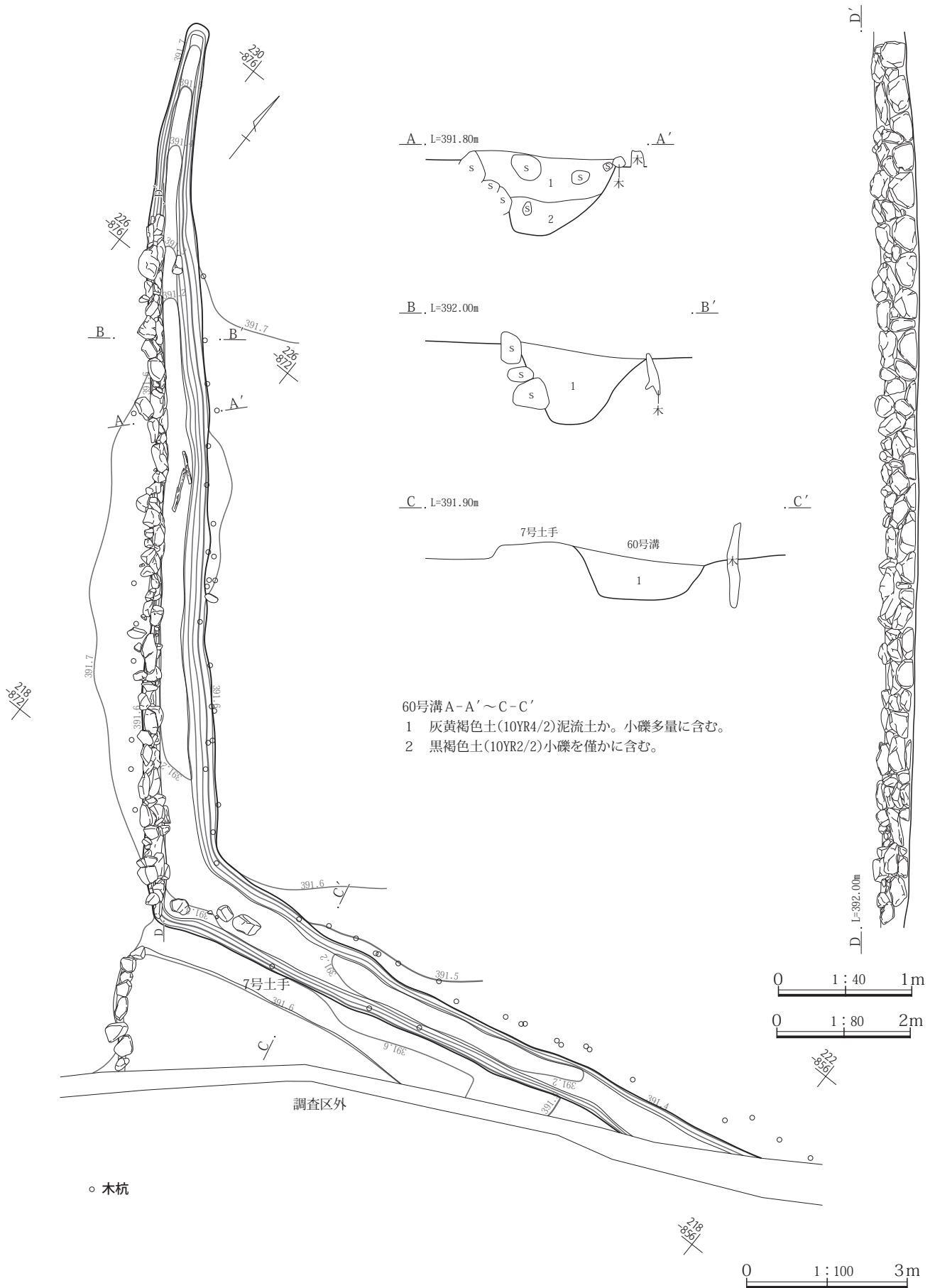
**位置:**11-1区北西隅で検出された。北東から南西部にかける段差上位に位置する。段差上位は緩やかな南東へ低くなる緩傾斜地形で、ほぼ平坦面が広がる。

**経過:**天明泥流下の調査で確認した。南北方向のサク状遺構がまとまり畑として調査した。覆土は灰黄褐色土とAs-Kkを含む黒褐色土があり2種類が観察された。サクは途切れが各所に見られ、残存状態は良くなかった。

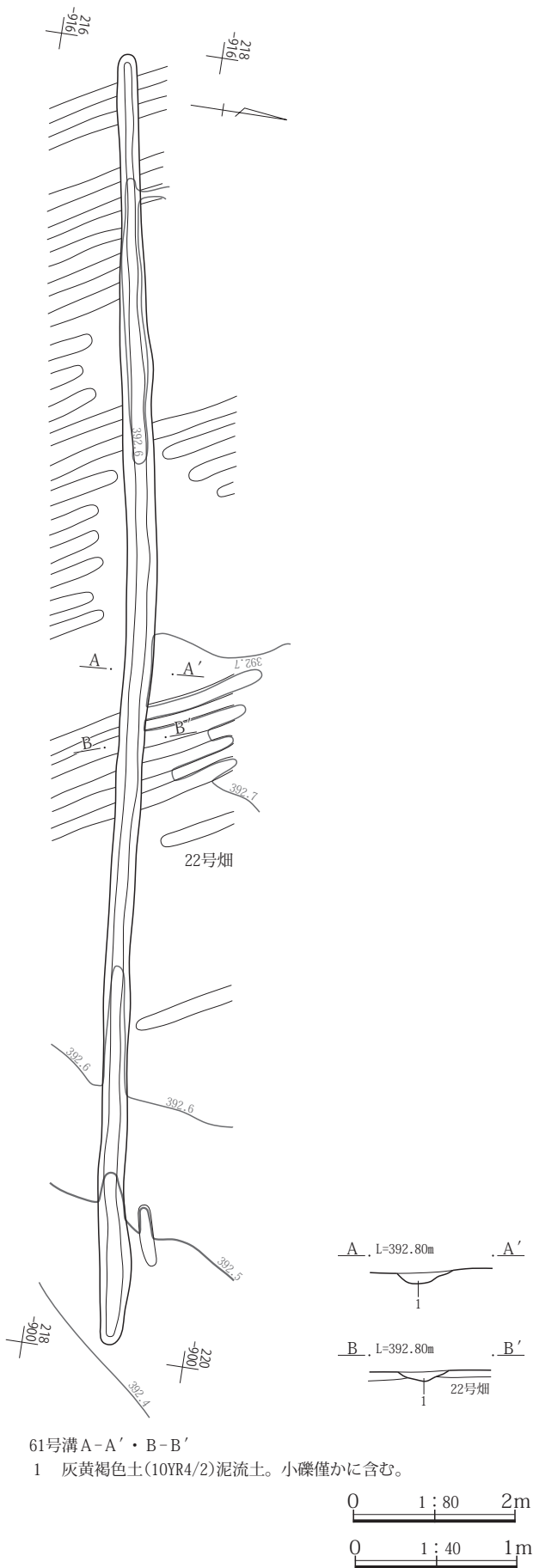
**規模:**36条のサクがまとまるが、残存状態は悪く、長さ5~6m程のサクが断続的にまとまっていた。サク幅は14~37cm、畝間幅は約10~24cm、深さは浅く10cm以下である。サクの走向は北北西を向く。

**重複:**61号溝が南側で重複する。先述のように61号溝が新しい重複関係である。また、61号溝と同方向にサク状の溝が各所で重なる。これはおそらく23号畑の延長と思われ、これらにも切られる新旧関係である。

**所見:**南北方向にサクを設ける畑である。周辺地形は南東への緩斜面を呈するため、地形傾斜に直交する畑である。11区で調査した14号畑も同一方向を向く畑であ



第36図 60号溝



第37図 61号溝

る。しかしながら、22号畑は覆土の観察からおそらく天明泥流被覆時には埋没が完了していたと思われ、11区や11-1区で調査した天明泥流下の各遺構より、若干ながら古い様相を示す。おそらく中世～江戸時代中頃の遺構と考えている。

23号畑(第39図、PL.14)

**位置：**11-1区北側中央部で調査された。北東から南西部にかける段差上位に位置する。段差上位は緩やかな南東への緩傾斜地形で、ほぼ平坦面が広がる。

**経過：**天明泥流直下で調査を進めた。地山は黒褐色As-Kk混土層で、埋土も同色の天明泥流層だったが、天明泥流層は砂礫を多く含むため、検出は比較的容易だった。畑範囲は22号畑重複部の西側から24号畑西端までの広範囲に途切れ気味ではあるがまとまったサク状遺構を確認し、畑として調査をした。

**規模：**南北約9m×東西約23mの細長い範囲で25条のサクが東北東を向く。サクの長さは最長で12mにも及ぶが概ね6m前後に収まる。サク幅は約6～30cm、畝間幅は約10～25cm、深さは10cm以下である。22号畑との重複部あたりからサク方向が東西を向き、別の畑の可能性もある。

**重複：**22号畑と重複する。土層軸を設けていないので、土層による新旧は判断できなかったが、覆土の様相から22号畑を切ると考えられる。

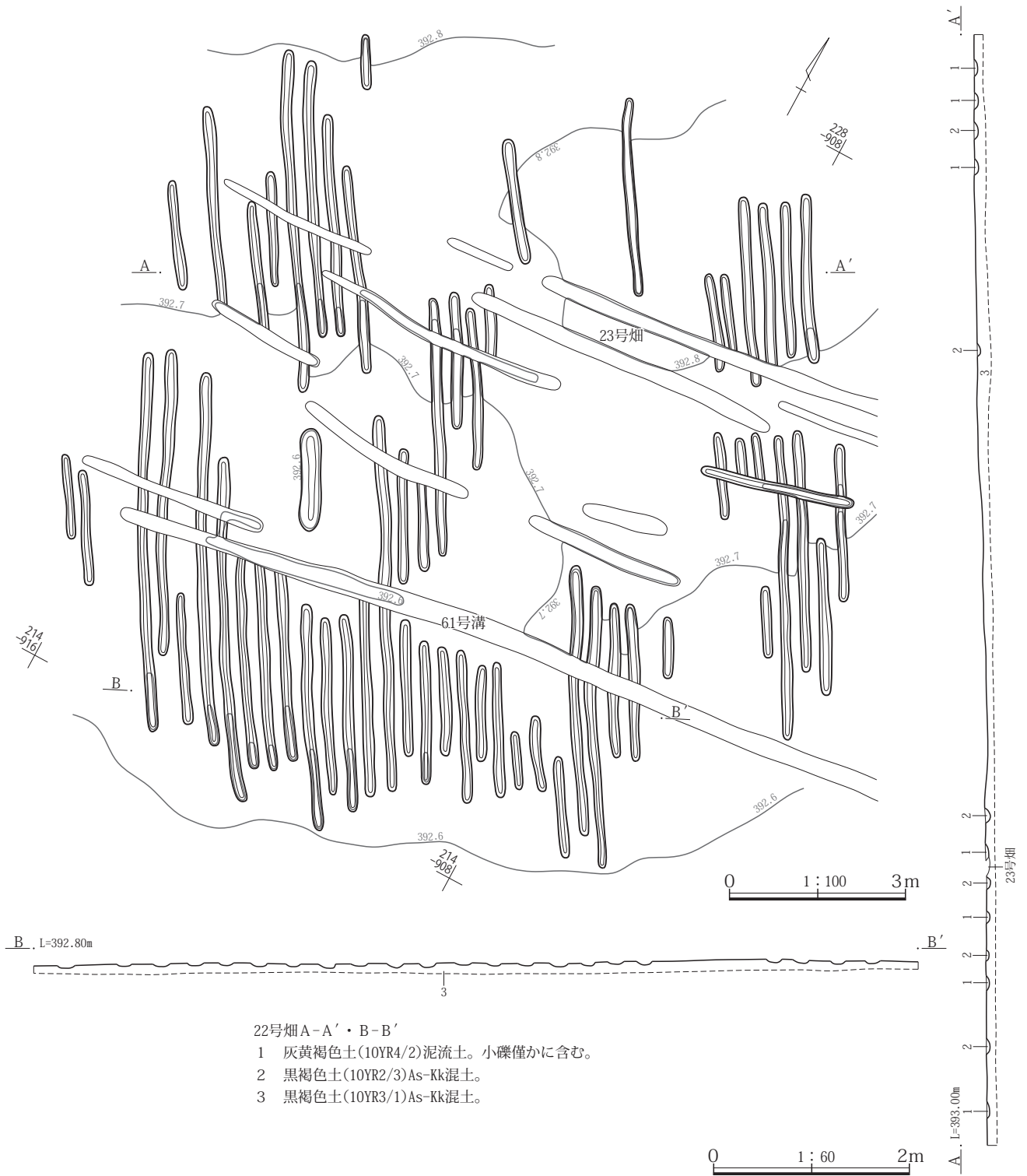
**所見：**段差上位に作られる畑で、22号畑を切る新旧である。サク方向が地形傾斜に平行する形態であり、22号畑とは差が見られる。耕作作物の差あるいは水利用の変化などが想定されるが検討課題となろう。時期は天明泥流直下であり江戸時代18世紀後半以前とする。

24号畑(第40図、PL.14)

**位置：**11-1区北西部で調査された。北東から南西部にかける段差上位に位置する。調査区北壁が迫り幅狭の範囲で調査した。

**経過：**天明泥流直下で検出された。サクの覆土は砂礫を多く含む黒褐色泥流土で、地山がAs-Kk混じりの黒褐色土である。同色の遺構確認となったが泥流土の把握は容易で明朗に識別できた。

**規模：**サクの長さは約0.6～8mではあるが、3～4m

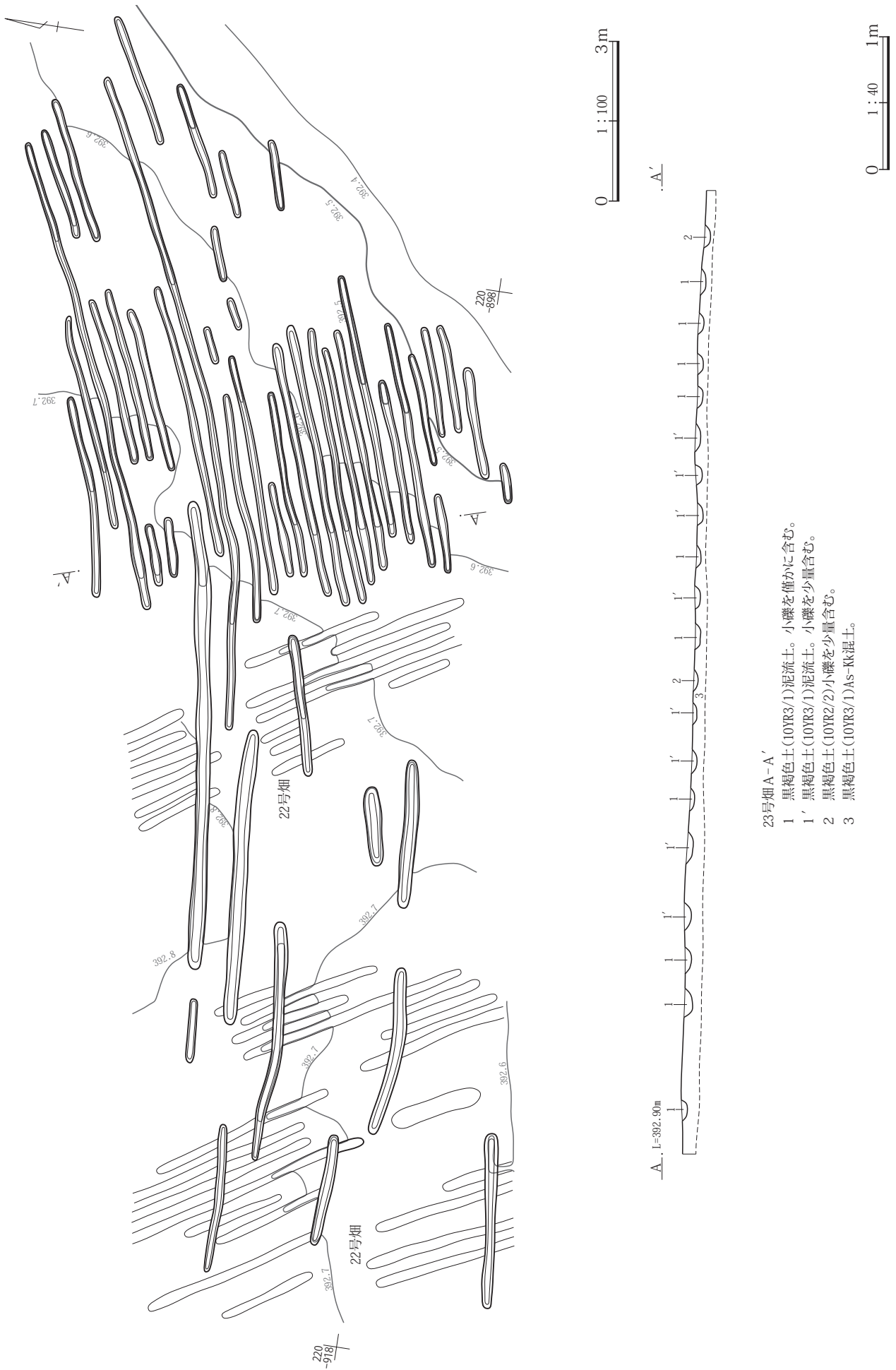


第38図 22号畑

程のサクが主体である。幅は約10~18cm、畝間は約10~26cm、深さは10cm以下である。サクの方向は西北西を向く。

**所見：**小規模な畑と思われる。23号畑と同様に地形傾斜に平行する走向で、耕作作物など両者は一体化した畑と考えられよう。時期は江戸時代18世紀後半以前とする。

22~24号畑は、北東から南西部にかける20cm程の段差上位に営まれた畑である。南東側には60号溝と7号土手に画された水田が広がり、段差直下には納屋ともいべき建物が配される。土地利用の差が具体化された調査区である。



- 23号畑A-A'
- 1 黒褐色土(10YR3/1)泥流土。小礫を僅かに含む。
  - 1' 黒褐色土(10YR3/1)泥流土。小礫を少量含む。
  - 2 黒褐色土(10YR2/2)小礫を少量含む。
  - 3 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。

第39図 23号畑

7号土手(第41図、PL.14・15)

**位置：**11-1区南西部で検出された。60号溝南に平行して付設されている。周辺は、西側がやや強い傾斜だが全体的に緩やかな南東への緩斜面地形が広がり、北側は水田遺構のため平坦面が広がる。

**経過：**天明泥流除去後、60号溝とほぼ同時に調査した。地山の褐灰色土ににぶい黄橙色土を盛土した状態で調査された。泥流除去のみの検出である。

**規模：**60号溝南でほぼ直線状に沿う。60号溝屈曲部より派生し調査区南壁に延長し、全長約7.9mを測る。上端幅は約50~90cmで平坦面が保たれる。高さは南側の平坦面とは約12~20cmである。断面形は箱形でしっかりした盛土である。北側の50号溝底面との高低差は約20~45cmを測る。走向軸は東西を向く。

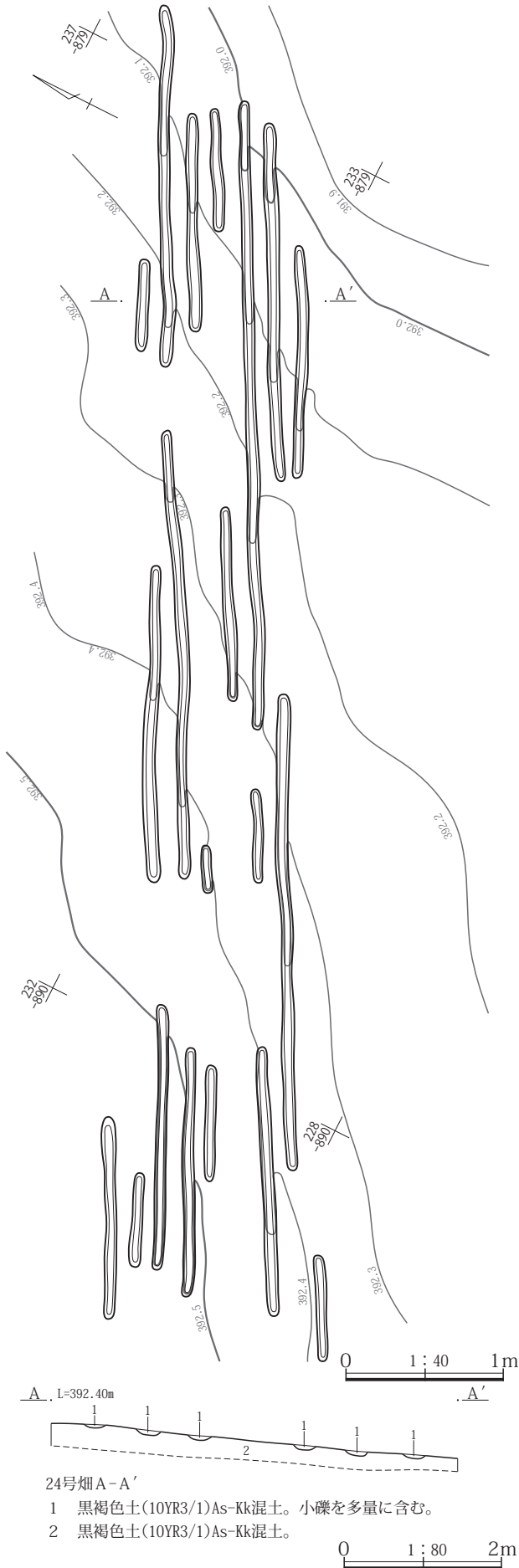
**所見：**60号溝と同様に北東に広がる水田を画する。同時に南側の狭小な平坦面も水田と判断したい。溝と平行することから、水田区画施設としては、9-1区や15区1面で調査した3号土手と同等の主要な区画施設として位置付けられよう。時期は江戸時代18世紀後半以前である。

水田(第32図、PL.9・10)

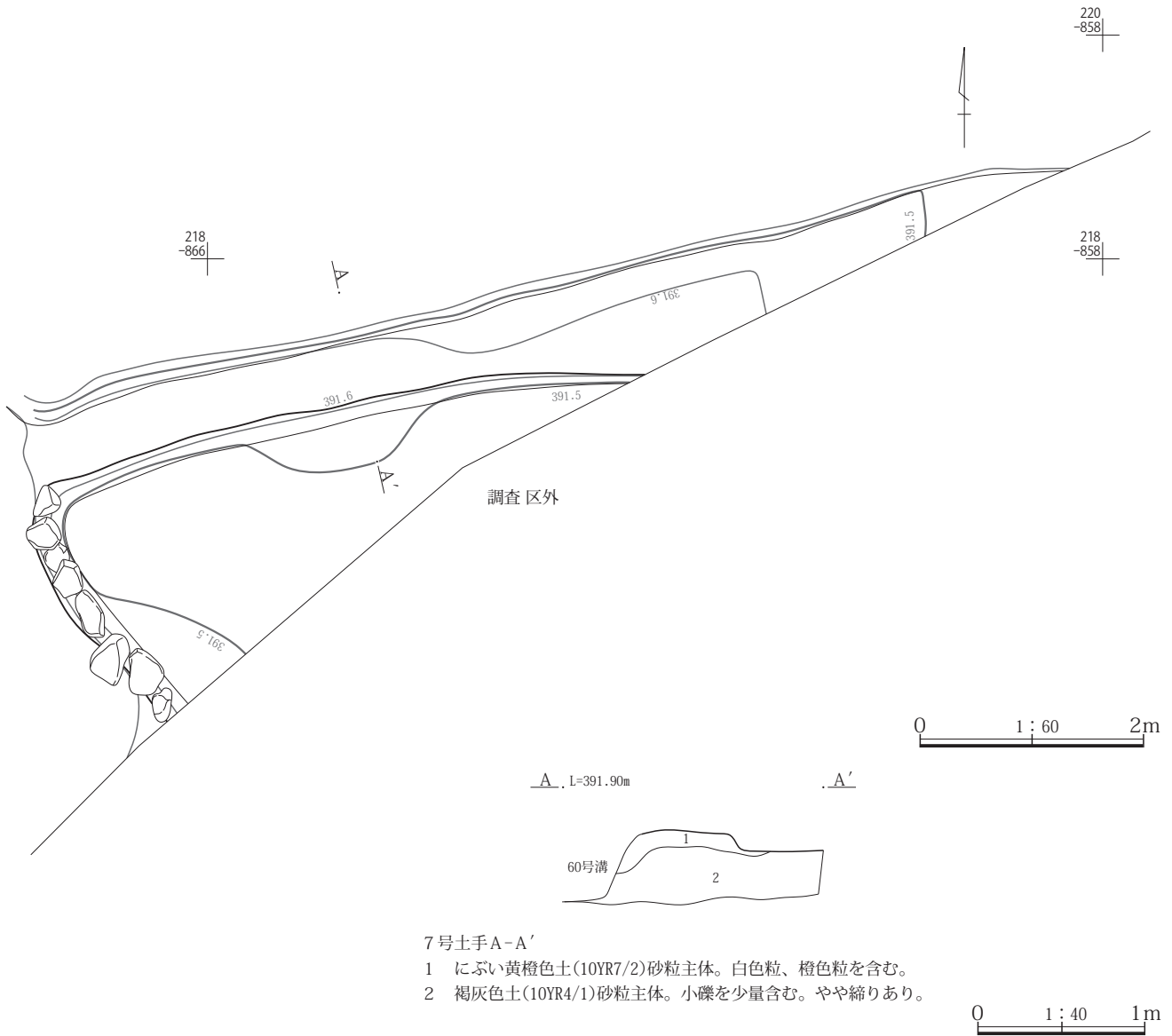
11-1区では調査では位置付けていないが、水田区画を検出している。区画は60号溝と7号土手、及び調査区北側の段差によって画された大区画である。

**位置：**60号溝が南端で屈曲し東西に画される。大区画の水田で北側と東側は調査区外に延長する。周辺は西側がやや高く傾斜も強いが、水田区画内はほぼ平坦面が広がる。

**経過：**天明泥流下の検出である。60号溝と7号土手を調査し、北西に広がる平坦面及び南で確認した狭小な面を水田として位置付ける要素を検討したが、60号溝との境に畦畔が設けられていないこと、平坦面がグライ化した土壌ではないことから、水田としての位置付けを見送った。しかしながら、その後の12区や15区の調査を重ねた結果、水田としての位置付けが妥当と判断した。



第40図 24号畑



7号土手A-A'

- 1 にぶい黄橙色土(10YR7/2)砂粒主体。白色粒、橙色粒を含む。
- 2 褐灰色土(10YR4/1)砂粒主体。小礫を少量含む。やや締りあり。

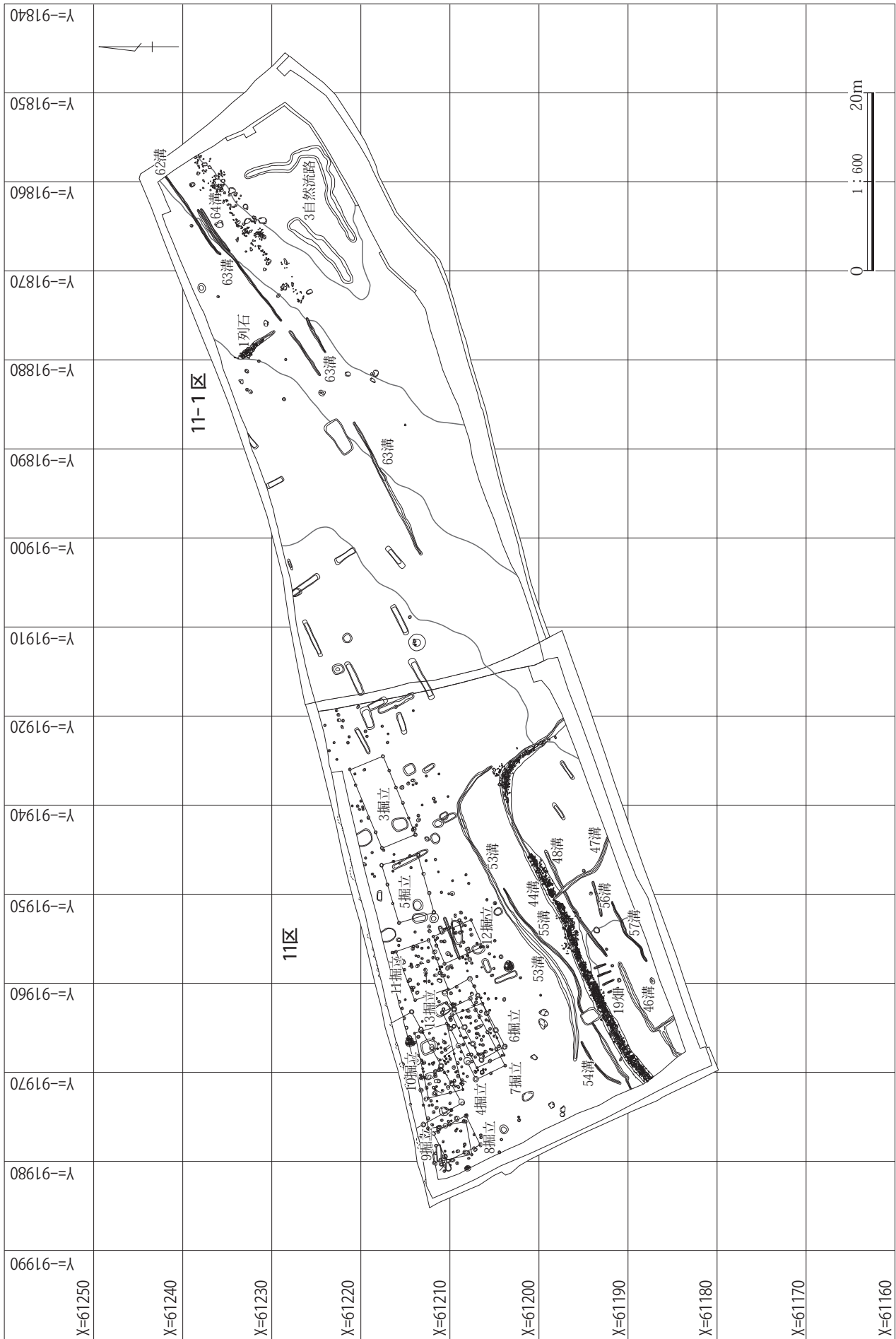
第41図 7号土手

**規模：**北側及び西側が調査区域外に延長するため、規模などは不明である。水田面内の高低差は北西側が高く約40cmを測る。

**所見：**調査後に位置付けられた水田だが、おそらく大区画水田であろう。明瞭な畦畔は無いが水田地帯と畑作地帯の境界にあたると思われる、11-1区より東側が天明泥流下の水田地帯として位置付けたい。時期は江戸時代18世紀後半以前である。

(4)11区・11-1区第2面

浅間粕川テフラ(As-Kk)の混土層及び純層下が調査第2面である。時期は中世～近世前半である。下位に浅間B軽石層(As-B)が確認された前回及び前々回調査では水田や畑が確認されており、前回の調査では、As-B下の調査面を第2面としている。しかし今回の調査では、As-Bは13区などで地点的にしか確認できず面としての調査は果たせなかったため、上位のAs-Kk面を第2面とした。検出された遺構は、多くが暗褐色土～灰黄褐色土を確認面とし、As-Kk混土層を埋土としていた。11区で掘立柱建物、溝、土坑、ピット等が集中し、11-1区の遺構はやや希薄だった。以下11区と11-1区第2面遺構を併せて報告する。



第42図 11区、11-1区2面全体図





第43図 11区2面全体図(1)

**掘立柱建物**

11区の北西部の高標高部で調査された。11棟が確認され、長軸を概ね東西に向けた例が主体を占める。素掘りの柱穴で、礎石や版築などの地業遺構は見られなかった。また遺物の出土もなかったが、埋土の様相から中世とした。なお、本来は掘立柱建物の遺構番号も前回調査の番号からの通番とするところであるが、前回報告書の段階で8区・8-1区As-B下の調査面で、3～7号掘立柱建物を新たに加えている。そのため今回の報告では混乱を避けるため、調査区名を付して、11区〇号掘立柱建物として遺構番号の重複を避けた。(第3表)

**11区3号掘立柱建物(第49・50図、PL.18・20・21)**

**位置:**11区北東で検出された東西棟の掘立柱建物である。周辺は南東へ低くなる緩斜面地形が広がるが、掘立柱建

物周辺は平坦地形が保たれる。

**経過:**ローム漸移層である暗褐色土を地山とし、確認されたピット埋土は主に暗褐色土や褐色灰色土を呈すが、As-Kk混土層のため識別できた。また、周辺のピット密度も濃くなく、単独の掘立柱建物としての抽出も果たすことができた。

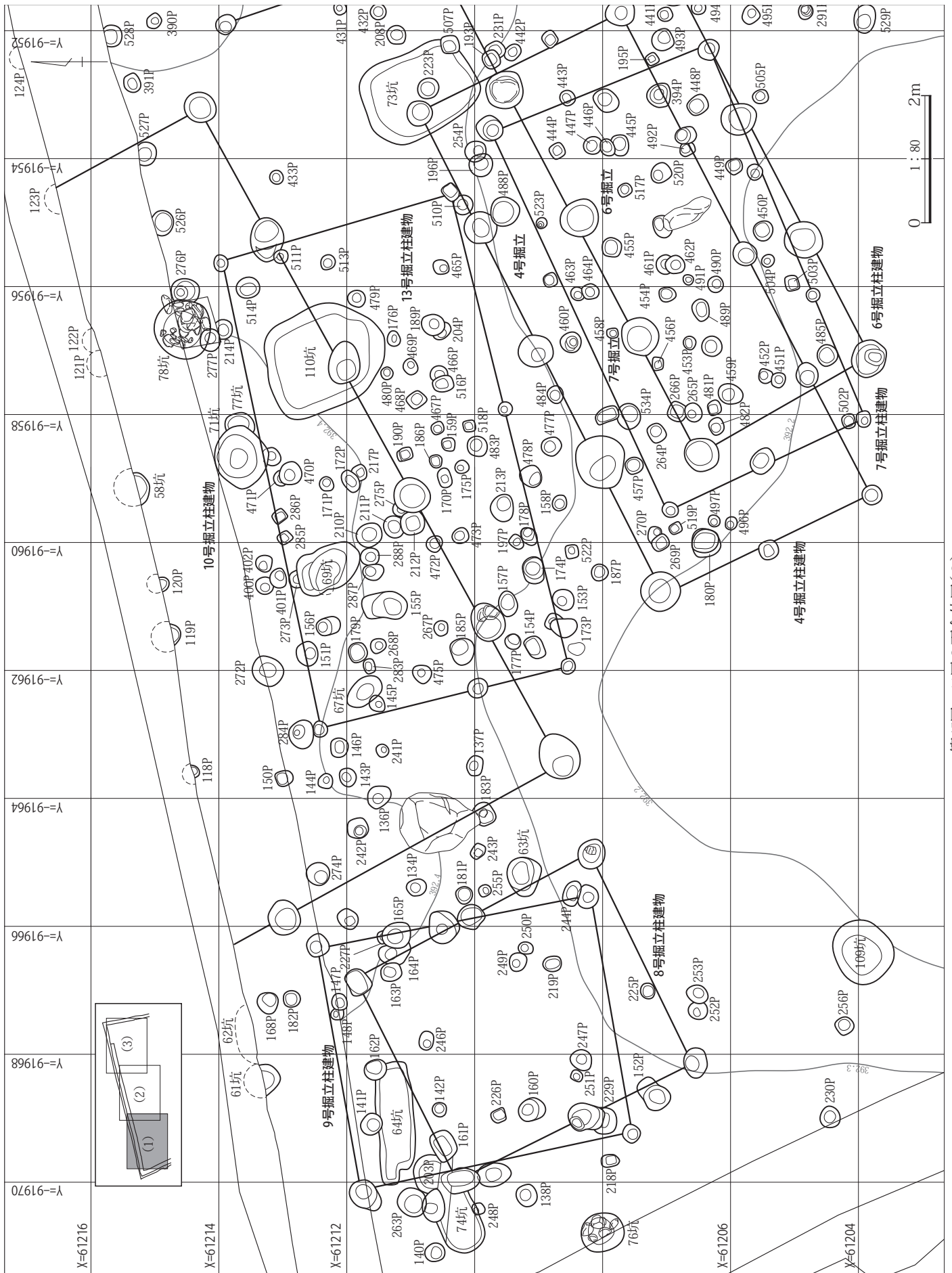
**規模:**12基の柱穴からなる1×5間の東西棟である。長軸を東北東に向け、長軸長約9.5m、短軸長が約4.0mを測る。南辺の柱穴はほぼ一直線に並ぶが、北辺のP5のみがやや北へずれる配置である。柱穴は径30cm前後、深さは約12～38cmを測り、比較的小規模である。

**重複:**掘立柱建物相互の重複は無いが、建物範囲内に88坑や数基のピットが重なる。新旧は不明である。

**所見:**調査区最東端の掘立柱建物である。長軸長が9mを超える横長長方形の東西棟で比較的大型の建物であ



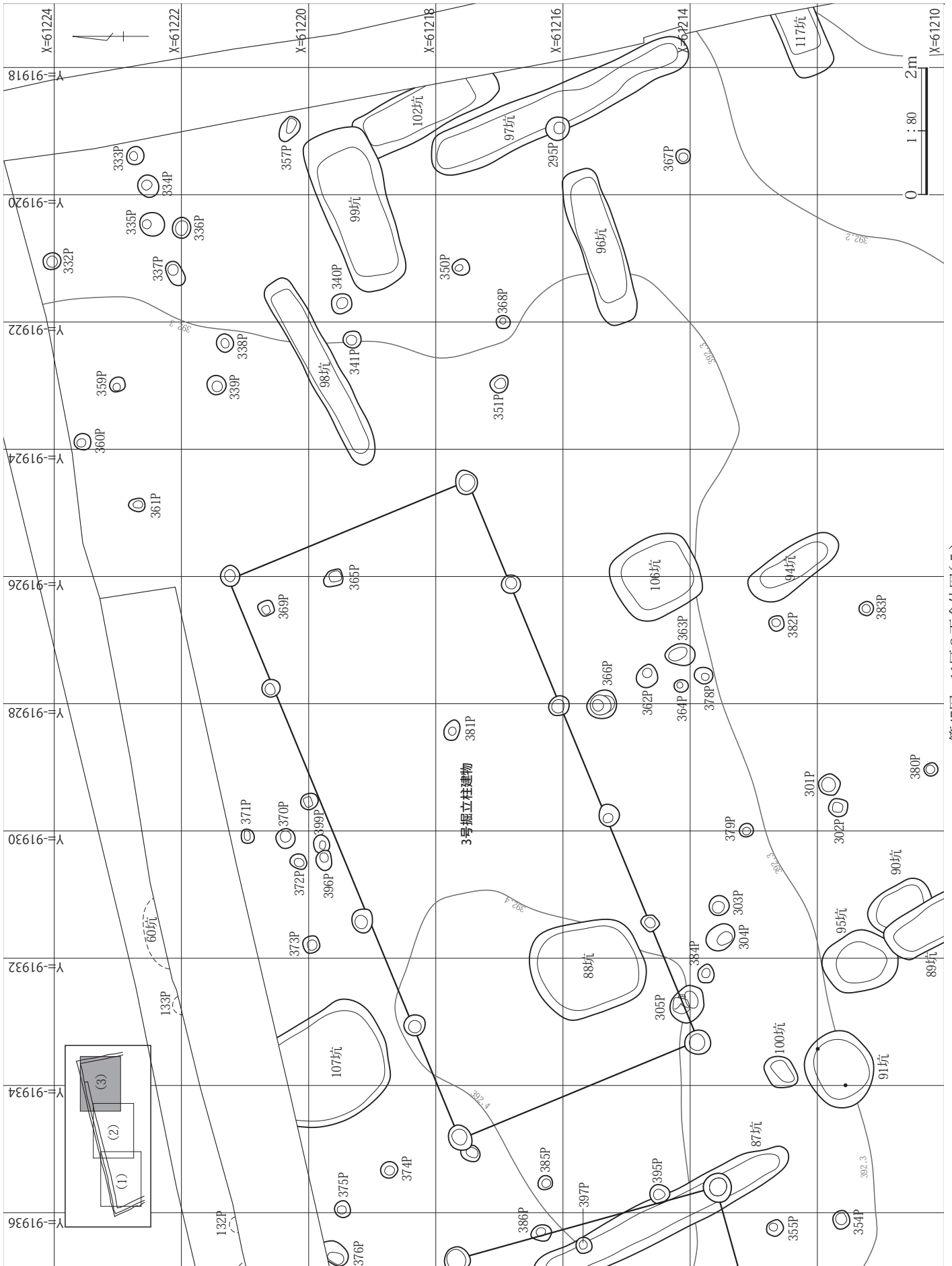
第44图 11区2面全体图(2)



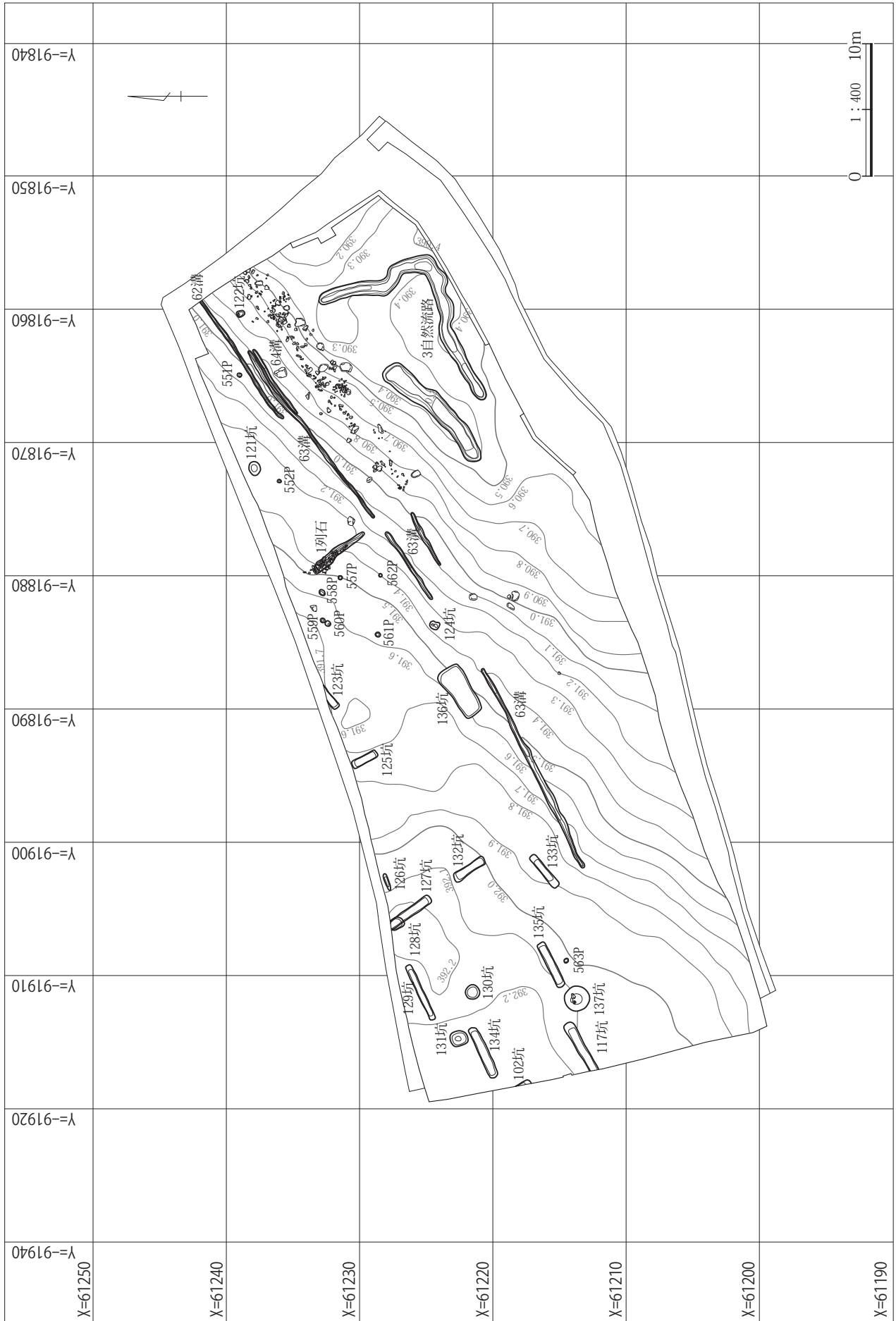
第45図 11区2面全体図(3)



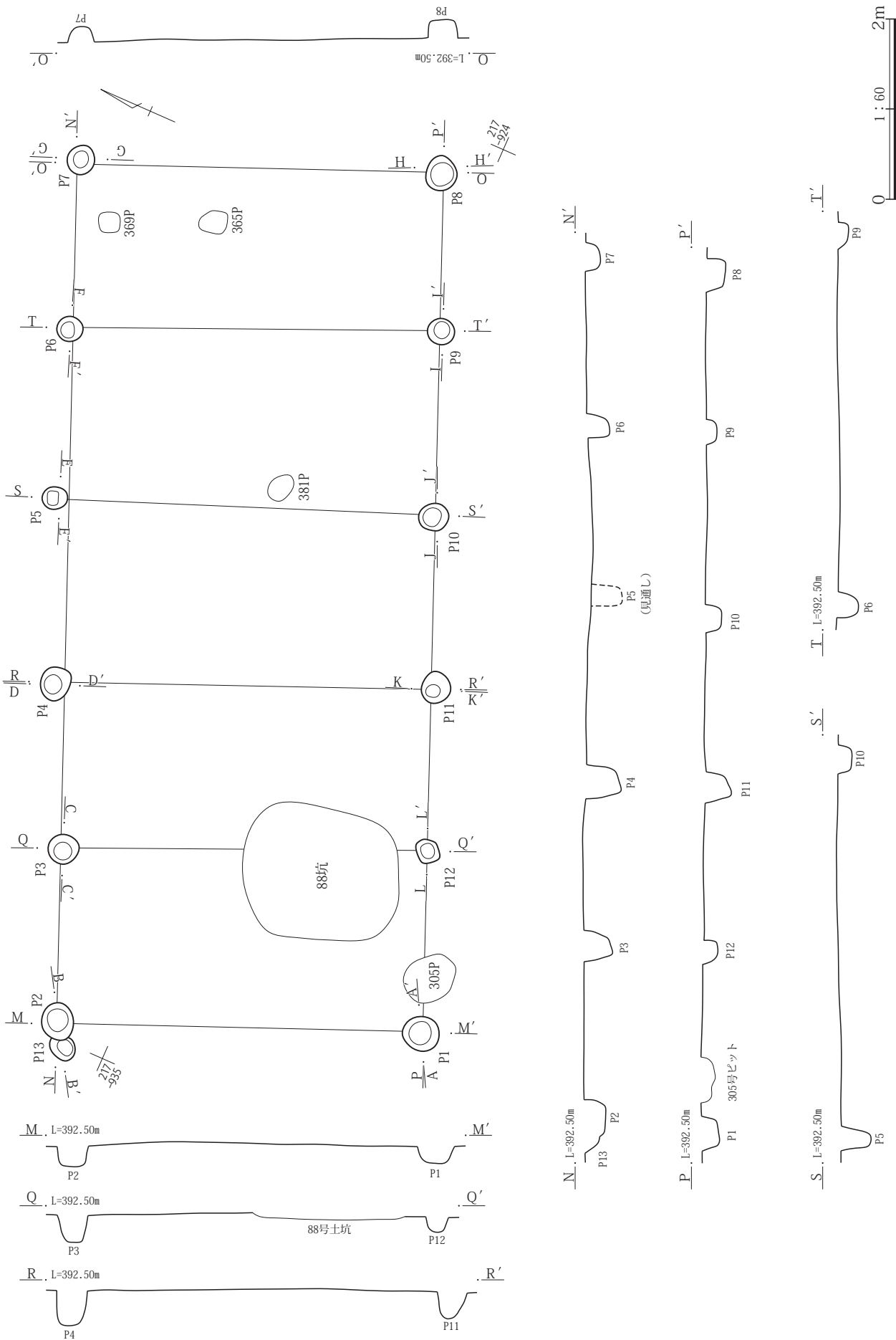
第46図 11区 2面全体図(4)



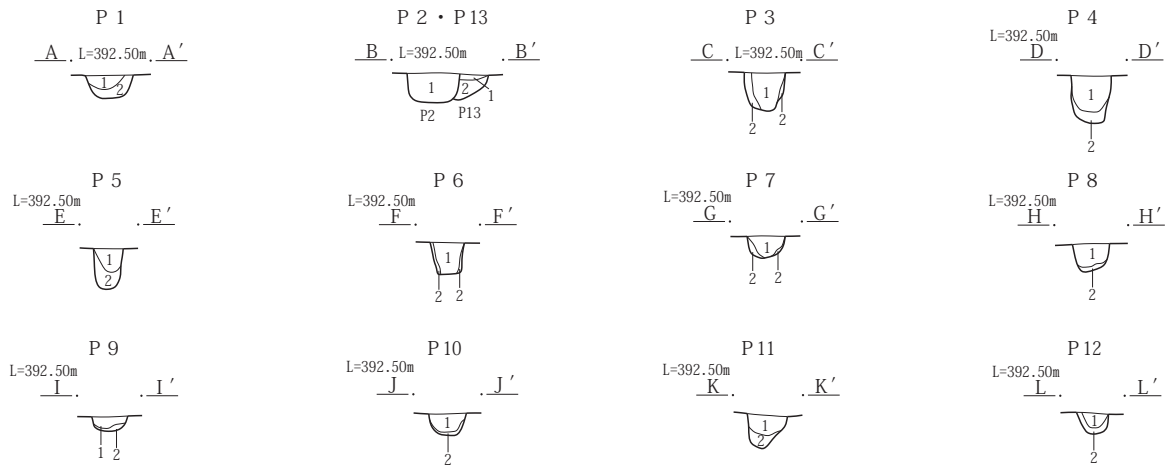
第47图 11区2面全体图(5)



第48図 11-1区2面全体図



第49図 3号掘立柱建物(1)



3号掘立柱建物 P 1 A-A'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。小礫を僅かに、ローム粒を含む。
- 2 黒色土(10YR2/1)As-Kk混土。小礫を僅かに、ローム粒を含む。

3号掘立柱建物 P 2 B-B'

- 1 暗褐色土(10YR3/3)As-Kk混土。ローム粒・黄褐色土粒を含む。

3号掘立柱建物 P 3 C-C'

- 1 暗褐色土(10YR3/3)As-Kk混土。小礫を僅かに、黄褐色粒を含む。
- 2 黄褐色土(10YR5/8)As-Kk混土。ローム塊を含む。

3号掘立柱建物 P 4 D-D'

- 1 暗褐色土(10YR3/3)As-Kk混土。ローム粒含み、黄褐色土粒を僅かに含む。
- 2 褐色土(10YR4/4)As-Kk混土。ローム粒含む。

3号掘立柱建物 P 5 E-E'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。ローム粒含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)As-Kk混土。ローム粒含む

3号掘立柱建物 P 6 F-F'

- 1 褐灰色土(10YR5/1)As-Kk混土。黄褐色粒を含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)As-Kk混土。ローム塊を多量に含む

3号掘立柱建物 P 7 G-G'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。ローム粒小礫僅かに、黄褐色土粒を含む。
- 2 褐色土(10YR4/4)As-Kk混土。

3号掘立柱建物 P 8 H-H'

- 1 褐灰色土(10YR5/1)As-Kk混土。As-Kkを多量に含み、黄褐色粒を含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)As-Kk混土。やや粘性あり。

3号掘立柱建物 P 9 I-I'

- 1 褐灰色土(10YR5/1)As-Kk混土。黄褐色粒を含む。
- 2 褐色土(10YR4/4)As-Kk混土。

3号掘立柱建物 P 10 J-J'

- 1 褐灰色土(10YR5/1)As-Kk混土。As-Kkを多量に含み、黄褐色粒を僅かに含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)As-Kk混土。

3号掘立柱建物 P 11 K-K'

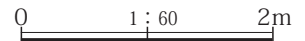
- 1 黄褐色土(10YR5/8)As-Kk混土。ローム粒小礫を僅かに含む。
- 2 褐色土(10YR4/4)As-Kk混土。ローム塊を含む。

3号掘立柱建物 P 12 L-L'

- 1 暗褐色土(10YR3/3)As-Kk混土。As-Kkを多量に、ローム塊を含む。
- 2 黄褐色土(10YR5/8)As-Kk混土。ローム塊を含む。

3号掘立柱建物 P 13 B-B'

- 1 暗褐色土(10YR3/3)As-Kk混土。黄褐色粒を僅かに含む。
- 2 黄褐色土(10YR5/8)As-Kk混土。ローム塊を多量に含む。



第50図 3号掘立柱建物(2)

る。柱穴以外の施設を検出していないので、建物の性格までは言及できない。時期は検出層位とAs-Kk混土層の埋土から中世と判断したい。

11区4号掘立柱建物(第51・52図、PL.18・20・21)

**位置：**11区西側の掘立柱建物群や土坑・ピット群内で検出された。周辺は平坦地形が広がる。

**経過：**3面の調査面であるにぶい黄褐色土を地山としているが、ピット埋土がAs-Kk混土層であり周辺の遺構も2面の遺構群である。ピットが群在する地点であり、掘立柱建物の抽出には若干時間を費やしたが3棟の掘立柱建物の重複を見出し、うち1棟を4号掘立柱建物とした。

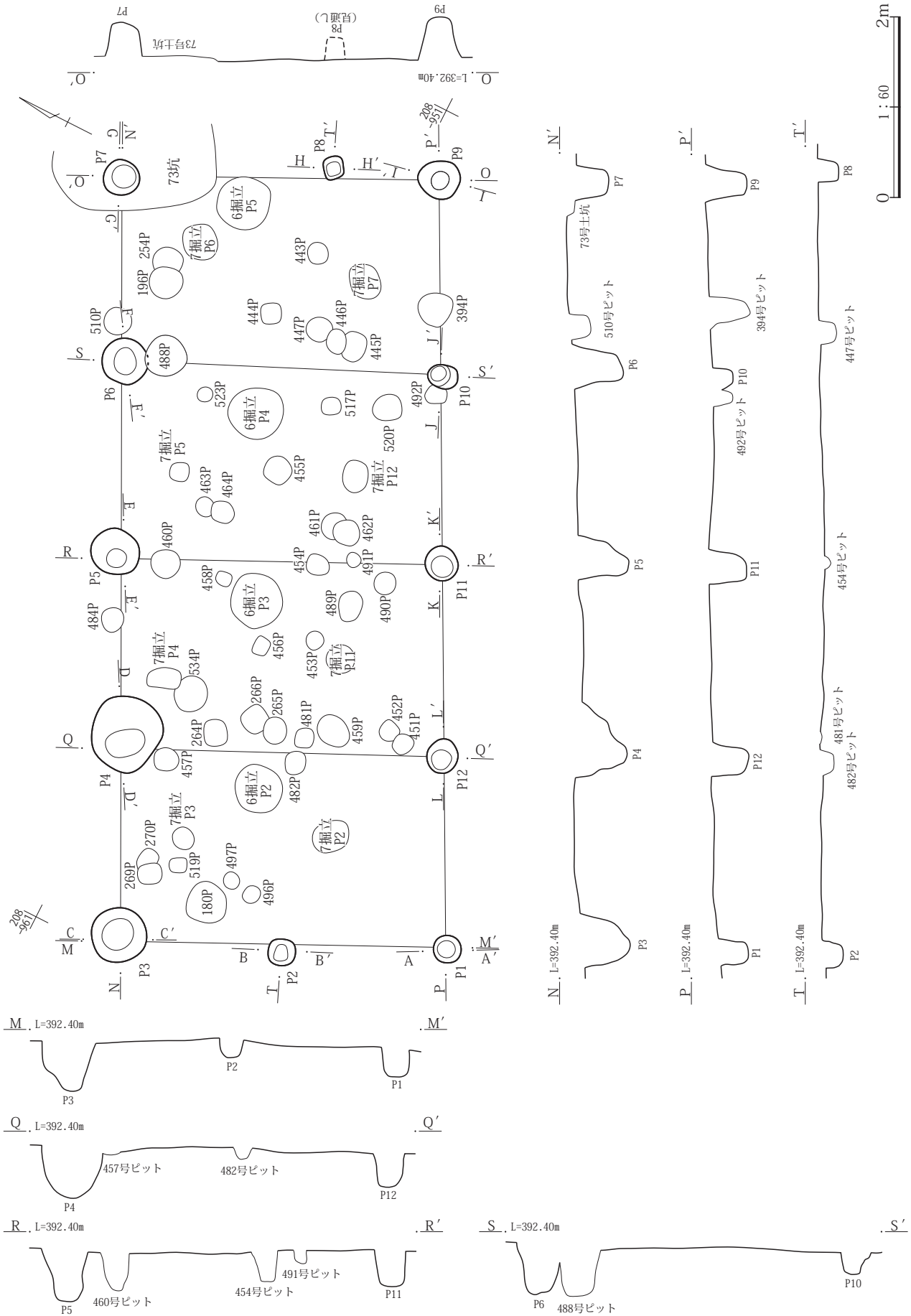
**規模：**長軸を東北東に向ける東西棟で2×4間の12基の柱穴からなる。短軸の梁間中央に小型の柱穴を不規則に

設けている。長軸辺は5基の柱穴が並び、規模は約3.6×8.5mを測る。各柱穴は、北辺と南辺とも整然と並び、柱穴間距離も1.8~2.3m程である。柱穴規模はP4以外が径約30~60cm、深さは約30~60cmを測り、柱痕もある土層が多く、良好な柱穴規模と配置である。

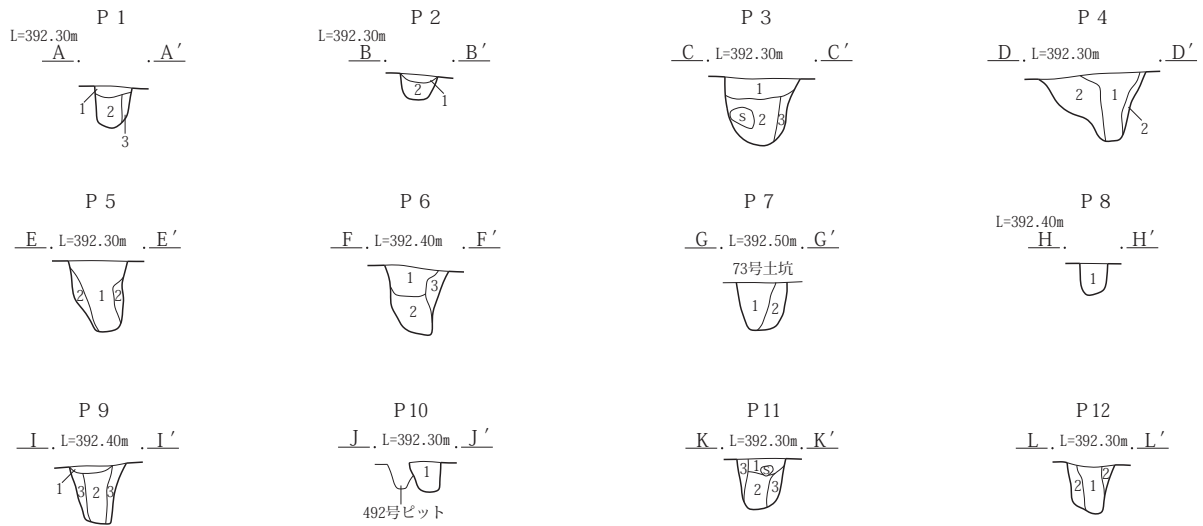
**重複：**6・7号掘立柱建物と重複するが、柱穴相互の重複が見られないため新旧は不明である。直接柱穴と重なる例がP7と73坑だが、土層による新旧観察には至っていない。

**所見：**3棟の掘立柱建物の重複だが、明瞭な新旧関係は把握できなかった。他の掘立柱建物と同様に東西棟で比較的規模の大きい例である。性格は不明だが、時期は検出層位とAs-Kk混土層の埋土から中世と判断したい。





第51図 4号掘立柱建物(1)



4号掘立柱建物 P 1 A-A'

- 1 暗褐色土(10YR3/3)As-Kk混土。黄橙色粒を僅かに含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)As-Kk混土。黄橙色粒を僅かに含む。

4号掘立柱建物 P 2 B-B'

- 1 褐灰色土(10YR5/1)As-Kk混土。ローム塊を多量に含む。
- 2 褐色土(10YR4/4)As-Kk混土。黄橙色粒僅かに含む。

4号掘立柱建物 P 3 C-C'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。小礫を僅かに含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。挙大の礫が混在する。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)As-Kk混土。

4号掘立柱建物 P 4 D-D'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。小礫を僅かに含む。
- 2 黄橙色土(10YR8/8)黄橙色土塊を多く含む。

4号掘立柱建物 P 5 E-E'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。黄橙色土塊を多く含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)As-Kk混土。黄橙色土塊を含む。

4号掘立柱建物 P 6 F-F'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。黄橙色土塊を少量含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)As-Kk混土。黄橙色粒を僅かに含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。黄橙色土塊を多く含む。

4号掘立柱建物 P 7 G-G'

- 1 黒褐色土(10YR3/2)As-Kk混土。ローム粒含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)As-Kk混土。ローム粒少量、小礫僅かに含む。
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2)ローム粒を多量に含む。

4号掘立柱建物 P 8 H-H'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。ローム粒含む。

4号掘立柱建物 P 9 I-I'

- 1 黒褐色土(10YR3/2)As-Kk混土。ローム粒子含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)As-Kk混土。ローム粒少量、小礫僅かに含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3)As-Kk混土。ローム粒多量に含む。

4号掘立柱建物 P 10 J-J'

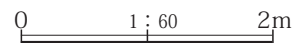
- 1 褐灰色土(10YR5/1)As-Kk混土。黄橙色土粒を多量に含む。

4号掘立柱建物 P 11 K-K'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。黄橙色土塊を少量含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)As-Kk混土。黄橙色粒を僅かに含む。
- 3 褐色土(10YR4/4)As-Kk混土。黄橙色土塊を少量含む。

4号掘立柱建物 P 12 L-L'

- 1 暗褐色土(10YR3/3)As-Kk混土。黄橙色粒僅かに含む。
- 2 黄橙色土(10YR8/8)黄橙色土塊を不整に多く含む。



第52図 4号掘立柱建物(2)

11区 5号掘立柱建物(第53・54図、PL.18・20・21)

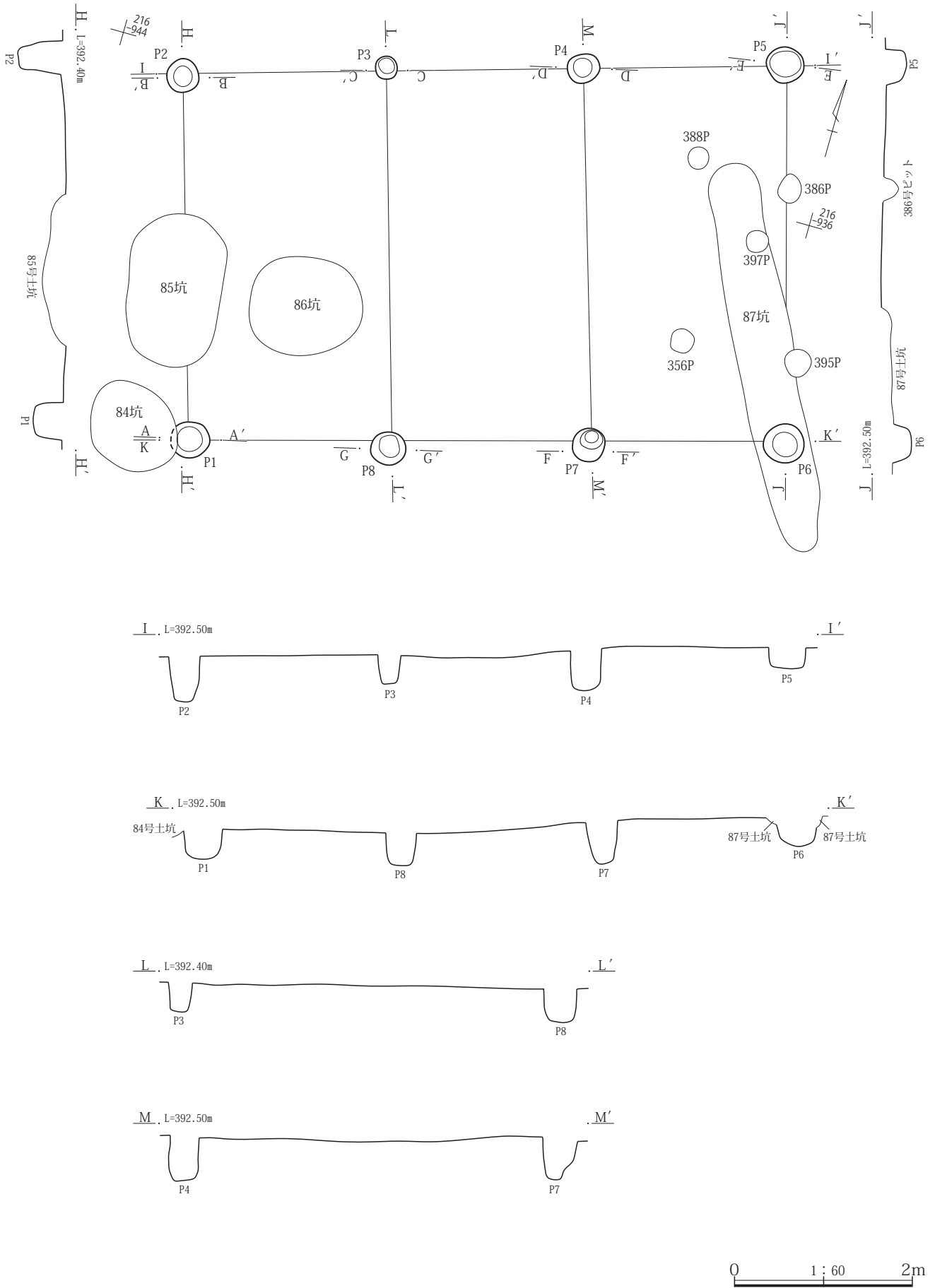
**位置：**11区中央やや北東寄りで調査された。周辺はほぼ平坦面が広がる。

**経過：**暗褐色土を地山とする。ピット埋土はすべてAs-Kk混土層のため識別が果たせた。また、周辺のピット密度も低く、掘立柱建物としての把握も容易に果たせた。

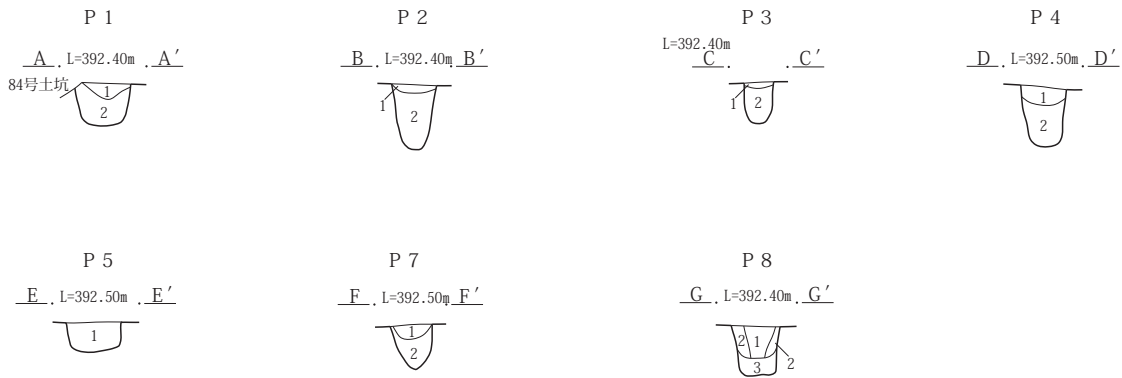
**規模：**8基の柱穴からなる1×3間の東西棟である。長軸を東北東に向け、長軸長約6.8m、短軸長約4.3mを測る。平面形は整った長方形を呈し、柱穴は北辺、南辺とも4基の柱穴が直線状に並び柱穴間距離も2.2~2.4mで

ほぼ規則的に配置されている。また、西辺が約4.0m、東辺が4.3mと若干の差が見られるが良好な配置といえよう。各柱穴は径約25~45cm、深さ約23~50cmを測る。**重複：**掘立柱建物との重複は無く単独の検出である。土坑は84~87坑が建物範囲に重なる。84坑がP1と、87坑がP6と新旧関係にあるが、土層による明瞭な新旧は把握できなかった。

**所見：**近接する3・5号掘立柱建物と長軸方向が類似する東西棟で、柱穴配置も良好である。時期は検出層位とAs-Kk混土層の埋土から中世と判断したい。



第53図 5号掘立柱建物(1)



5号掘立柱建物 P 1 A-A'

- 1 灰黄褐色土(10YR6/2)As-Kk混土。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)As-Kk混土。黄橙色粒僅かに含む。

5号掘立柱建物 P 2 B-B'

- 1 褐灰色土(10YR5/1)As-Kk混土。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)As-Kk混土。

5号掘立柱建物 P 3 C-C'

- 1 褐灰色土(10YR5/1)As-Kk混土。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)As-Kk混土。黄橙色土粒を僅かに含む。

5号掘立柱建物 P 4 D-D'

- 1 灰黄褐色土(10YR6/2)As-Kk混土。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)As-Kk混土。黄橙色粒を僅かに含む。

5号掘立柱建物 P 5 E-E'

- 1 暗褐色土(10YR3/3)As-Kk混土。小礫を僅かに含む。

5号掘立柱建物 P 7 F-F'

- 1 暗褐色土(10YR3/3)As-Kk混土。黄橙色粒を僅かに含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。黄橙色粒を僅かに含む。締め弱い。

5号掘立柱建物 P 8 G-G'

- 1 褐灰色土(10YR5/1)As-Kk混土。黄橙色粒を僅かに含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR6/2)As-Kk混土。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3)ローム小塊を多く含む。硬く締まる。

第54図 5号掘立柱建物(2)

11区6号掘立柱建物(第55・56図、PL.18・20・21)

**位置：**11区西側の掘立柱建物群や土坑・ピット群内で検出された。周辺は平坦地形が広がる。先の述べた4号掘立柱建物と後述する7号掘立柱建物と重複する。

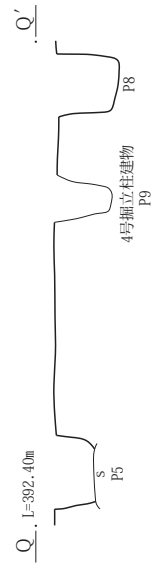
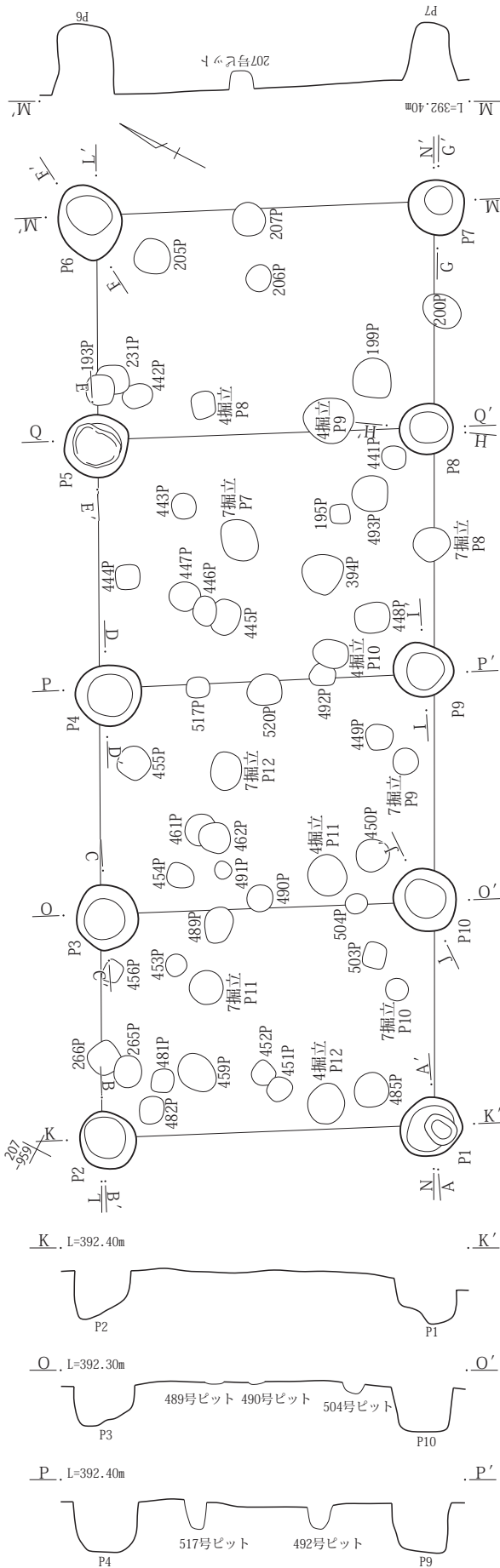
**経過：**確認面はにぶい黄褐色土でピット埋土がAs-Kk混土層のため識別は容易だった。4号掘立柱建物と同様に周辺はピットが群在する地点であり、掘立柱建物柱穴の抽出には若干時間を費やしたが3棟の重複から6号掘立柱建物が検出できた。

**規模：**10基の柱穴からなる1×4間の東西棟である。長軸方位は4号掘立柱建物とほぼ同じで東北東に向く。長軸長約9.8m、短軸長が約3.3mを測る。柱穴規模は径約50~70cm、深さ約35~60cmを測り、しっかりした掘り込みを見せる。柱穴間距離も梁間がP1-P2間、P6-P7間が3.1~3.3mと等距離で、桁間の各柱穴間距離も約2.0~2.2mを測り、良好な配置である。各7柱穴埋土も、黄橙色土や褐灰色土を基調としており、P1、P2、P7、P10からは柱痕が観察された。

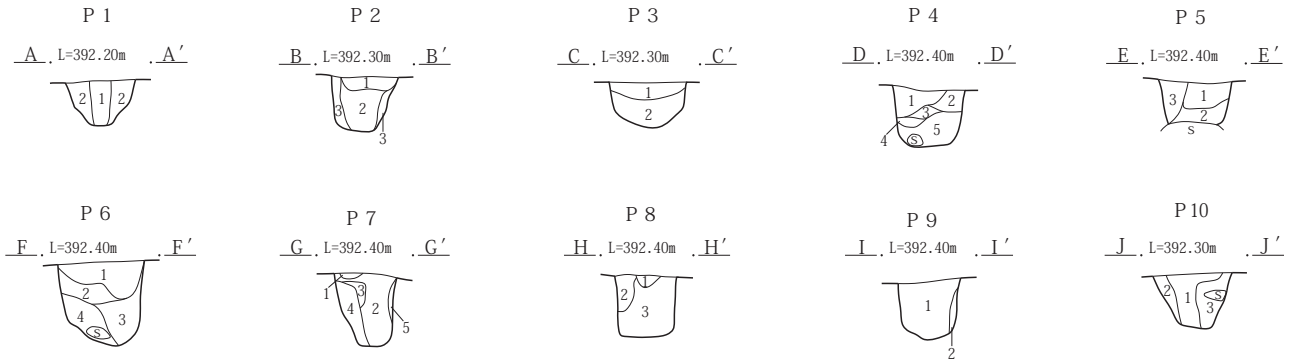
**重複：**4・7号掘立柱建物と重なるが、柱穴間相互の重複が見られず、新旧関係は不明である。その他のピット

も建物内に多く見られるが、新旧は不明であり、また本掘立柱建物柱穴以外の施設も見いだせなかった。

**所見：**長軸方位を同じにする東西棟である4号掘立柱建物と柱穴配置や規模が近似するため、両者は何等かの関係性が窺われよう。新旧は不明だが、周辺の掘立柱建物群内の一施設として位置付けられよう。時期は検出層位とAs-Kk混土層の埋土から中世としたい。



第55図 6号掘立柱建物(1)



6号掘立柱建物 P 1 A-A'

- 1 褐灰色土(10YR5/1)As-Kk混土。黄橙色粒・小礫を僅かに含む。小礫が上層に混入する。締り弱い。
- 2 褐灰色土(10YR6/1)As-Kk混土。黄橙色土塊を多量に含む。

6号掘立柱建物 P 2 B-B'

- 1 褐灰色土(10YR5/1)As-Kk混土。黄橙色粒を含む。粘質土。
- 2 黄橙色土(10YR8/8) As-Kk混土。暗褐色土と黄橙色土が互層に堆積する。
- 3 黄橙色土(10YR8/6)As-Kk混土。褐灰色土塊を含む。

6号掘立柱建物 P 3 C-C'

- 1 黄橙色土(10YR8/8)As-Kk混土。褐灰色土塊と黄橙色土塊を含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。黄橙色土塊を含む。

6号掘立柱建物 P 4 D-D'

- 1 褐灰色土(10YR5/1)As-Kk混土。黄橙色土塊、褐灰色土塊を多く含む。
- 2 黄橙色土(10YR8/6)As-Kk混土。黄橙色土塊、褐灰色土塊を多く含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。黄橙色土塊、褐灰色土塊を少量含む。
- 4 黄橙色土(10YR8/8)黄橙色土塊主体。
- 5 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。黄橙色土塊を僅かに含む。

6号掘立柱建物 P 5 E-E'

- 1 褐灰色土(10YR5/1)As-Kk混土。黄橙色土塊、褐灰色土塊を多く含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。黄橙色土塊、褐灰色土塊を少量含む。
- 3 黄橙色土(10YR8/8)黄橙色土塊主体。

6号掘立柱建物 P 6 F-F'

- 1 褐灰色土(10YR6/1)As-Kk混土。ローム・小礫僅かに含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)As-Kk混土。ローム粒多く含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)As-Kk混土。ローム粒多く含む。
- 4 灰黄褐色土(10YR5/2)黄橙色粒を含む。

6号掘立柱建物 P 7 G-G'

- 1 黄橙色土(10YR8/6)黄橙色土塊主体。
- 2 褐灰色土(10YR4/1)As-Kk混土。黒色粘質土を多量に、黄橙色土塊を含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1)黄橙色土塊を多量に含む。
- 4 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。黄橙色粒を含む。粘性強い。
- 5 黒褐色土(10YR2/3)黄橙色土塊を含む。

6号掘立柱建物 P 8 H-H'

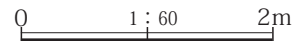
- 1 黒褐色土(10YR3/2)As-Kk混土。ローム粒僅かに含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2)As-Kk混土。ローム粒僅かに含む。
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2)As-Kk混土。ローム粒多く含む。

6号掘立柱建物 P 9 I-I'

- 1 黒褐色土(10YR2/2)As-Kk混土。黒褐色土塊と黄橙色土塊を含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。黄橙色粒を含む。粘性強い。

6号掘立柱建物 P 10 J-J'

- 1 褐灰色土(10YR5/1)As-Kk混土。黄橙色粒を僅かに含む。締り弱い。
- 2 褐灰色土(10YR6/1)As-Kk混土。黄橙色土塊を僅かに含む。
- 3 黄橙色土(10YR8/8)As-Kk混土。褐灰色土塊と黄橙色土塊を含む。



第56図 6号掘立柱建物(2)

11区7号掘立柱建物(第57・58図、PL.18・20・21)

**位置：**11区西側の4号掘立柱建物や6号掘立柱建物と重複して調査された。周辺は平坦地形が広がるが、南側が若干低くなる傾斜を見る。

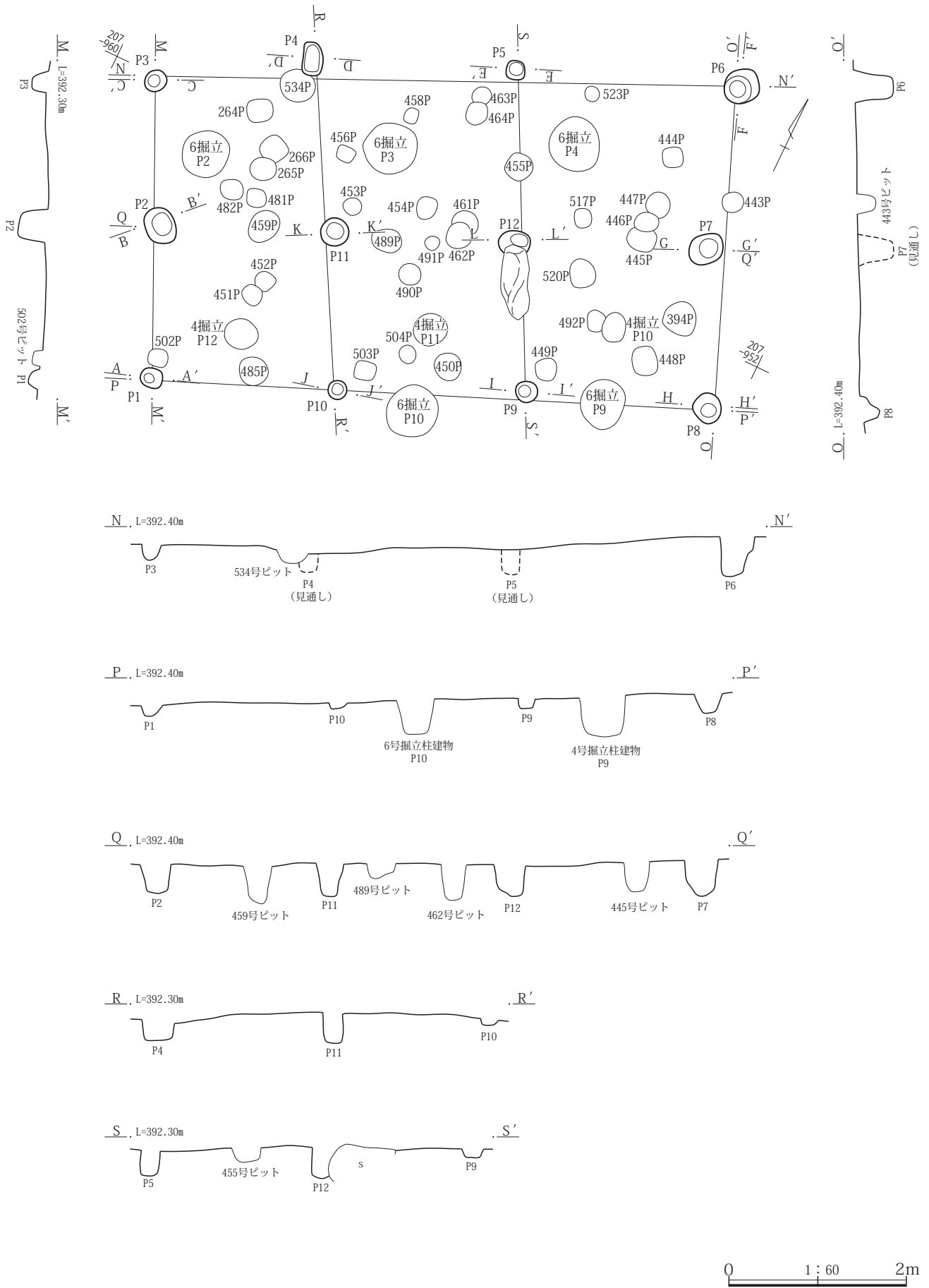
**経過：**4・6号掘立柱建物と同様に地山をにぶい黄褐色土とし、As-Kk混土層を埋土とするピットを検出した。群在する周辺ピットの中から、軸方位、ピット配列を考慮して、本掘立柱建物を検出した。

**規模：**4・6号掘立柱建物と同様に東西棟である。長軸方位もほぼ東北東を向く。平面形は2×3間の横長長方形を呈し、長軸長約6.6m、短軸長約3.7mを測る。12基の柱穴からなり、4・6号掘立柱建物と違い、総柱の柱穴配置である。各柱穴の規模も径約20～40cm、深さも7

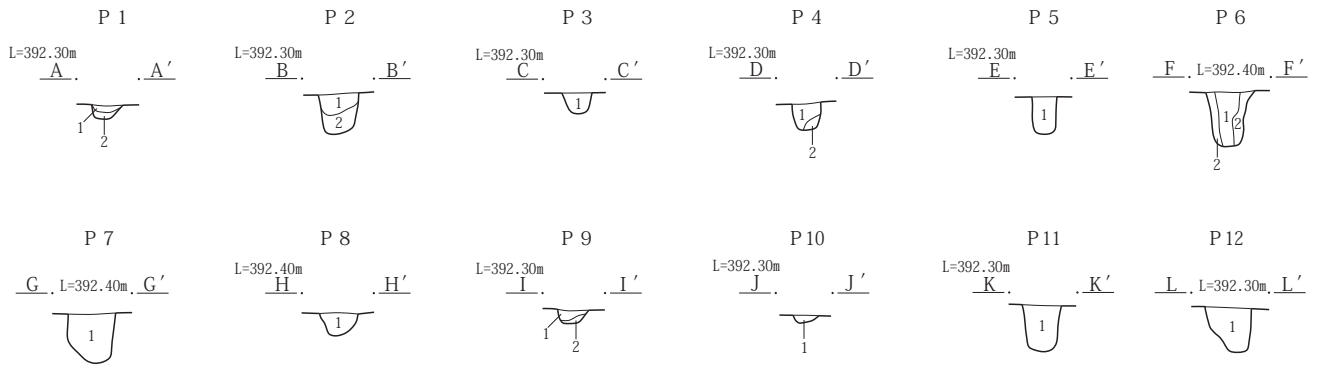
～40cmを測り、やや小規模なピットからなる。柱穴配置は北辺桁行の並びに乱れが見られ、また西辺梁行も中間柱穴が西にずれる。柱穴間距離も約1.6～2.1mに収まるが全体にやや歪んだ印象を受ける柱穴配置である。

**重複：**4・6号掘立柱建物と重複し、建物内に多くのピットが重なる。また北東隅で11号掘立柱建物が近接しているが、いずれも新旧は不明である。

**所見：**4・6号掘立柱建物とほぼ同じ地点で長軸方位が近いことから、何らかの関連性も窺われよう。しかしながら、総柱でありながら、ピット規模や配列がやや小規模で歪んだことから、やや客体的な施設の可能性がある。時期は検出層位とAs-Kk混土層の埋土から中世と判断したい。



第57図 7号掘立柱建物(1)



7号掘立柱建物 P 1 A-A'

- 1 褐灰色土(10YR5/1)As-Kk混土。黄橙色土粒を僅かに含む。
- 2 褐灰色土(10YR6/1)As-Kk混土。黄橙色粒を僅かに含む。締り弱い。

7号掘立柱建物 P 2 B-B'

- 1 褐灰色土(10YR5/1)As-Kk混土。黄橙色土塊を少量含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。黄橙色土塊を僅かに含む。

7号掘立柱建物 P 3 C-C'

- 1 黒色土(10YR2/1)As-Kk混土。黄橙色砂粒を僅かに含む。

7号掘立柱建物 P 4 D-D'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。黄橙色土塊を少量含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)As-Kk混土。黄橙色土塊を僅かに含む。

7号掘立柱建物 P 5 E-E'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。黄橙色粒僅かに含む。

7号掘立柱建物 P 6 F-F'

- 1 黒褐色土(10YR3/2)As-Kk混土。ローム粒・小礫僅かに含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2)As-Kk混土。ローム粒少量含む。

7号掘立柱建物 P 7 G-G'

- 1 褐灰色土(10YR5/1)As-Kk混土。黄橙色粒を少量含む。

7号掘立柱建物 P 8 H-H'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。ローム粒僅かに含む。

7号掘立柱建物 P 9 I-I'

- 1 暗褐色土(10YR3/3)As-Kk混土。黄橙色土塊を僅かに含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2)As-Kk混土。黄橙色粒僅かに含む。

7号掘立柱建物 P 10 J-J'

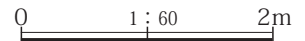
- 1 褐灰色土(10YR6/1)As-Kk混土。黄橙色粒を僅かに含む。

7号掘立柱建物 P 11 K-K'

- 1 褐灰色土(10YR5/1)As-Kk混土。黄橙色粒僅かに含む。締り弱い。

7号掘立柱建物 P 12 L-L'

- 1 褐灰色土(10YR6/1)As-Kk混土。黄橙色粒僅かに含む。



第58図 7号掘立柱建物(2)

11区8号掘立柱建物(第59図、PL.19・20)

**位置：**11区北西隅で調査された。調査区内では最も高標高部にあたるが、周辺は平坦地形が広がる。

**経過：**黄褐色土上面を確認面とし、As-Kk混土層を埋土とするピットを検出した。周辺は9号掘立柱建物や64・74坑など遺構密度が高く、掘立柱建物の抽出には若干時間を要したが、良好な配列を示すピットを柱穴として8号掘立柱建物を検出した。

**規模：**平面形は1×2間の南北方向に長軸を設けた長方形を呈し、規模は長軸長約4.2m、短軸長約3.6mを測る。長軸方位は北北西を向く。6基の柱穴からなり径約35～60cm、深さ約40～50cmで、しっかりした掘り込みを呈する。柱穴配置も良好で、柱穴間距離も梁間が約3.5m、桁行の各柱穴間は約2mでほぼ等間隔に並ぶ。

**重複：**9号掘立柱建物、63・64・74坑、ピット群が重なる。柱穴本体に重なる箇所が無く、新旧は不明である。

**所見：**9・12号掘立柱建物とならんで、南北方向に長軸を設ける。9号掘立柱建物と重複し、軸方位に差が見ら

れるが、規模や柱穴配置に建替え等の関連性が窺われる。小型の掘立柱建物ながら、整った柱穴配置を示すことから、居住に主体的な施設の可能性もある。時期は検出層位とピット埋土から中世と位置付けた。

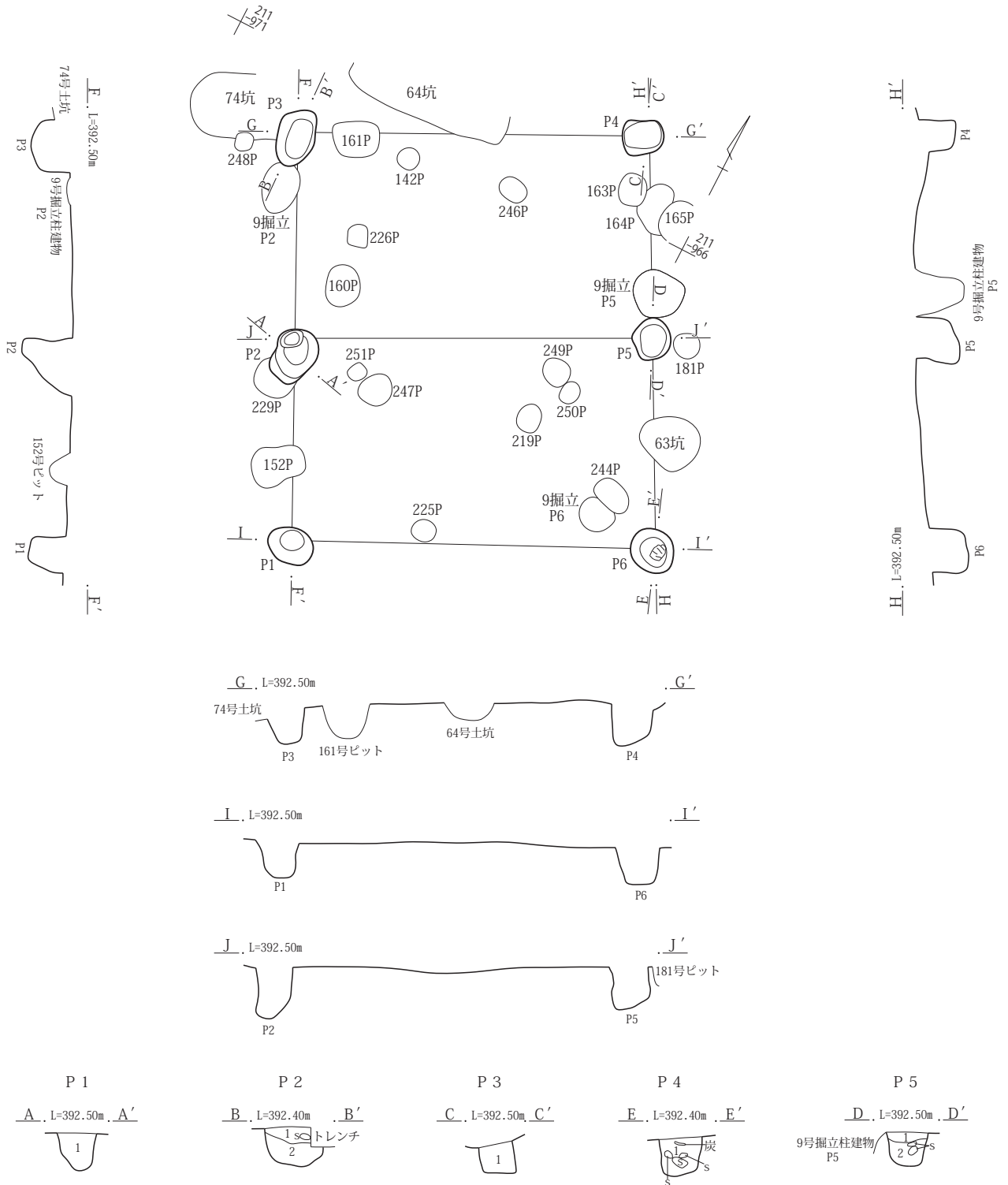
11区9号掘立柱建物(第60図、PL.19・20・58)

**位置：**11区北西隅で8号掘立柱建物と重複して検出された。高標高部にあたり、調査区北壁に迫ることから、あるいは北側へ伸びる可能性もある。周辺は平坦地形が広がる。

**経過：**遺構確認は黄褐色土で行った。ピット埋土がAs-Kk混土層の黒褐色土を基調とするため、検出は容易だった。周辺は8号掘立柱建物などの柱穴、ピットが群在していたが、8号掘立柱建物とは軸方位の異なる柱穴列を見出し、9号掘立柱建物として位置付けることができた。

**規模：**平面形は1×2間の南北棟である。長軸方位は北北西で、8号掘立柱建物よりさらに北を向く。長軸長は



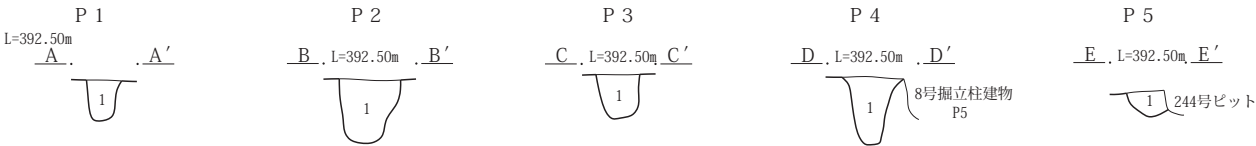
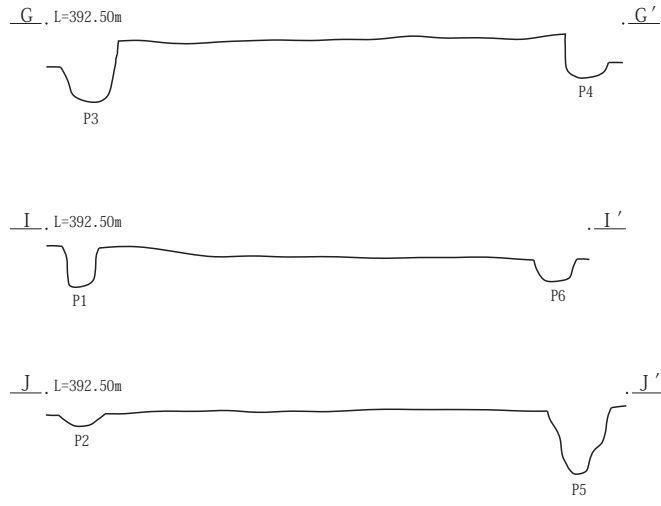
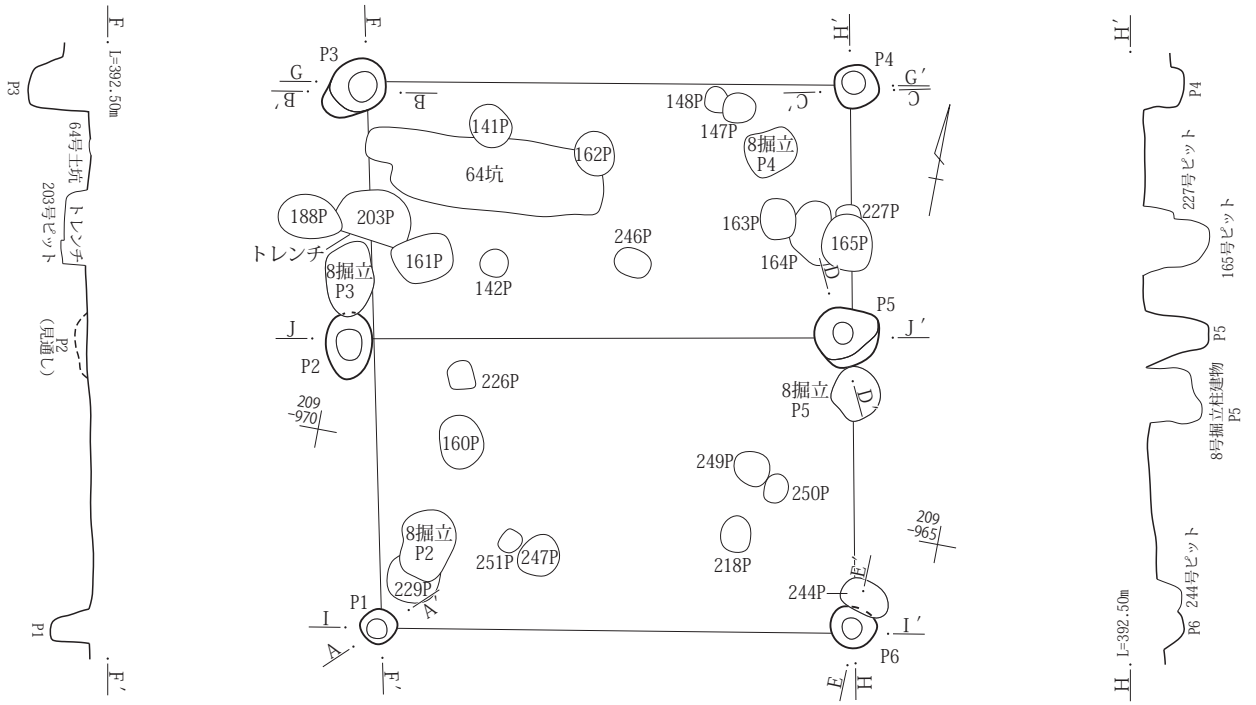


- 8号掘立柱建物 P 2 A-A'
- 1 黒褐色土(10YR2/3)As-Kk混土。小礫を僅かに、ローム粒含む。
- 8号掘立柱建物 P 3 B-B'
- 1 褐灰色土(10YR4/1)As-Kk混土。砂層主体。締り弱い。
  - 2 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊を多量に含む。砂層主体。
- 8号掘立柱建物 P 4 C-C'
- 1 黒褐色土(10YR3/2)As-Kk混土。ローム塊を多量に含む。

- 8号掘立柱建物 P 5 D-D'
- 1 黒褐色土(10YR2/3)As-Kk混土。ローム粒僅かに含む。
  - 2 黒褐色土(10YR3/2)As-Kk混土。ローム粒多く、小礫僅かに含む。
- 8号掘立柱建物 P 6 E-E'
- 1 暗褐色土(10YR3/3)As-Kk混土。炭化物・小礫を含む。

0 1:60 2m

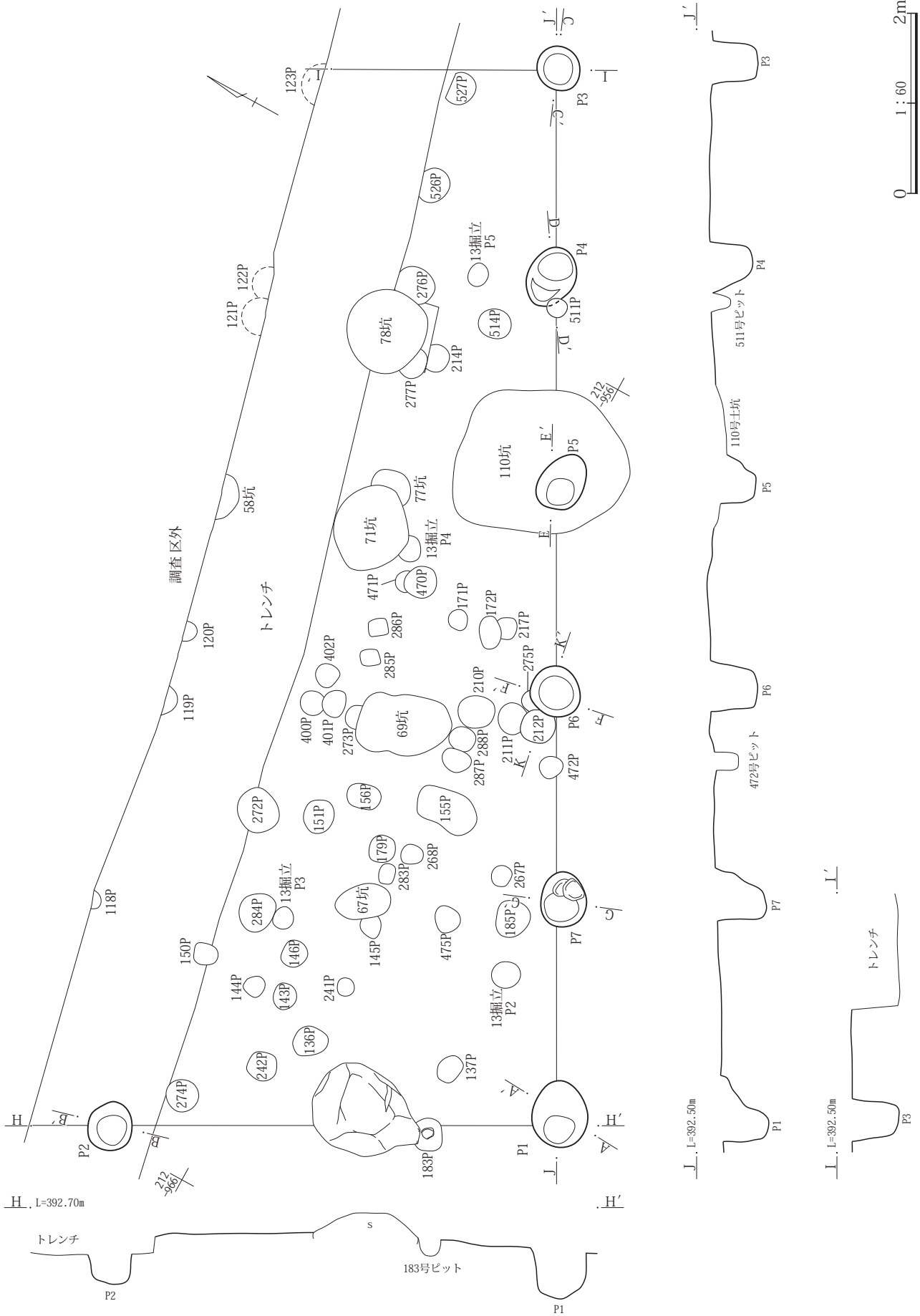
第59図 8号掘立柱建物



- 9号掘立柱建物 P 1 A-A'
- 1 黒褐色土(10YR2/3)As-Kk混土。ローム粒を含む。
- 9号掘立柱建物 P 3 B-B'
- 1 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒、小礫を少量含む。
- 9号掘立柱建物 P 4 C-C'
- 1 黒褐色土(10YR2/2)As-Kk混土。ローム粒多く小礫を僅かに含む。
- 9号掘立柱建物 P 5 D-D'
- 1 黒褐色土(10YR3/2)As-Kk混土。ローム塊、小礫を僅かに含む。
- 9号掘立柱建物 P 6 E-E'
- 1 褐灰色土(10YR6/1)As-Kk混土。ローム塊、黒色土粒を含む。



第60図 9号掘立柱建物



第61図 10号掘立柱建物(1)

約4.4m、短軸長は約4.0mを測る。6基の柱穴規模は径約25~55cm、深さ約10~54cmを測り、数値に統一性が見られなかった。柱穴配置は西辺にあるP2がややずれる位置にあるが、その他の柱穴は良好な位置に配置されている。

**重複：**8号掘立柱建物や64坑が建物範囲に重なる。柱穴相互の重複は見られないため、新旧は不明である。

**遺物：**柱穴P3より鉄滓の出土を見る(PL.58)。

**所見：**8号掘立柱建物と重なる小規模の掘立柱建物である。規模も8号掘立柱建物と近似するため、立地を踏まえると同等の性格が想起されよう。しかしながら、長軸方位に差があり、建て替えなどある程度の時間差も念頭におきたい。時期は検出層位とピット埋土から中世であろう。

11区10号掘立柱建物(第61・62図、PL.19~21)

**位置：**11区北西部で調査された。高標高部にあたり、周辺はほぼ平坦地形が保たれる。建物北半を調査区域外に延ばす。

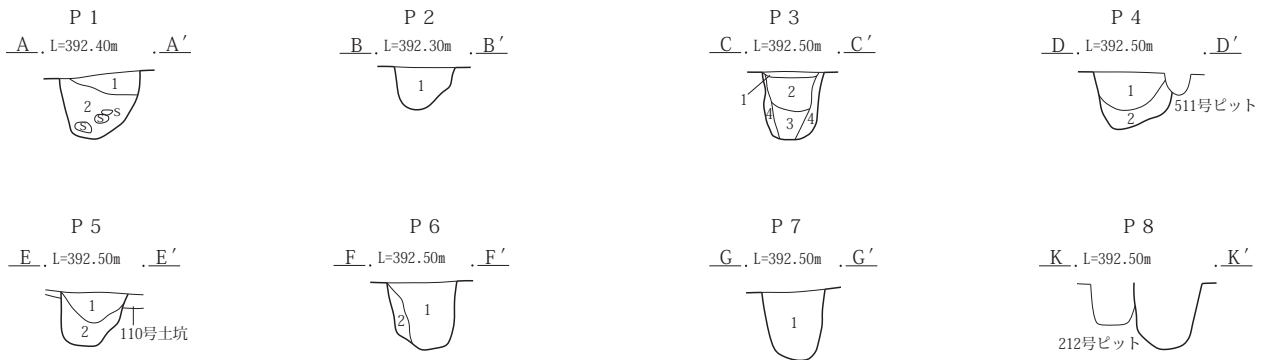
**経過：**黄褐色土を確認面とする。褐灰色土~黒褐色土を基調とするAs-Kk混土を埋土とするピットを検出し、良好な配列を示す柱穴を抽出し10号掘立柱建物とした。周

辺ピットよりやや平面規模が大きいピットを選んだ。

**規模：**北半を調査区域外に延長するため全容は把握できない。長軸と思われる南辺を見出し、主軸方位は東北東を向き、長軸長約12mを測る。短軸長は不明だが、残存長で4.4m以上と判断できる。桁行5間で柱穴間距離が約2.1~2.5mでほぼ等間隔で配置される。7基の柱穴規模も径約50~70cm、深さ約40~55cmで良好な数値を誇る。梁行はP1・P2の柱穴からなるが4.4mと長く不規則な印象を受ける。あるいはP1とP2間に大型の円礫が基盤礫として露出した状態で検出されており、本来の掘り込み面からこの大型礫があたり、浅い柱穴に止まった可能性もある。柱痕はP3やP6で見ることができた。

**重複：**13号掘立柱建物、69坑や110坑等、ピット群と重複する。13号掘立柱建物柱穴相互の重複は無く、新旧関係は不明である。110坑を切る重複関係を示すが、110坑は浅く、土層による判断は控えたい。

**所見：**調査区外に北半を延ばすが、おそらく大型の掘立柱建物であろう。東西棟で他の掘立柱建物と比べても、柱穴規模は大きく、建物の性格も集落の主体的な位置を占められると思われる。主屋の可能性もある。時期は検出層位とピット埋土から中世と位置付けられる。



10号掘立柱建物 P 1 A-A'

- 1 暗褐色土(10YR3/3)As-Kk混土。ローム塊を含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/3)黄褐色土塊を含む。

10号掘立柱建物 P 2 B-B'

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)As-Kk混土。ローム粒を多く含む。

10号掘立柱建物 P 3 C-C'

- 1 褐灰色土(10YR6/1)As-Kk混土。黄褐色土粒を少量含む。
- 2 褐灰色土(10YR5/1)As-Kk混土。黄褐色土塊を多量に含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1)黄褐色土塊を少量含む。粘質土。
- 4 灰黄褐色土(10YR6/2)黄褐色土塊を含む。

10号掘立柱建物 P 4 D-D'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。黄褐色土塊を多量に含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)黄褐色土粒、褐色土塊・小礫を含む。

10号掘立柱建物 P 5 E-E'

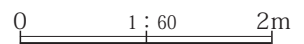
- 1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。ローム塊を多量に含む。
- 2 黒色土(10YR2/1)ローム粒を僅かに含む。粘性あり。

10号掘立柱建物 P 6 F-F'

- 1 黒褐色土(10YR3/2)As-Kk混土。ローム粒多く、小礫を僅かに含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)ローム粒を僅かに含む。

10号掘立柱建物 P 7 G-G'

- 1 黒褐色土(10YR3/2)As-Kk混土。ローム粒多量に含む。



第62図 10号掘立柱建物(2)

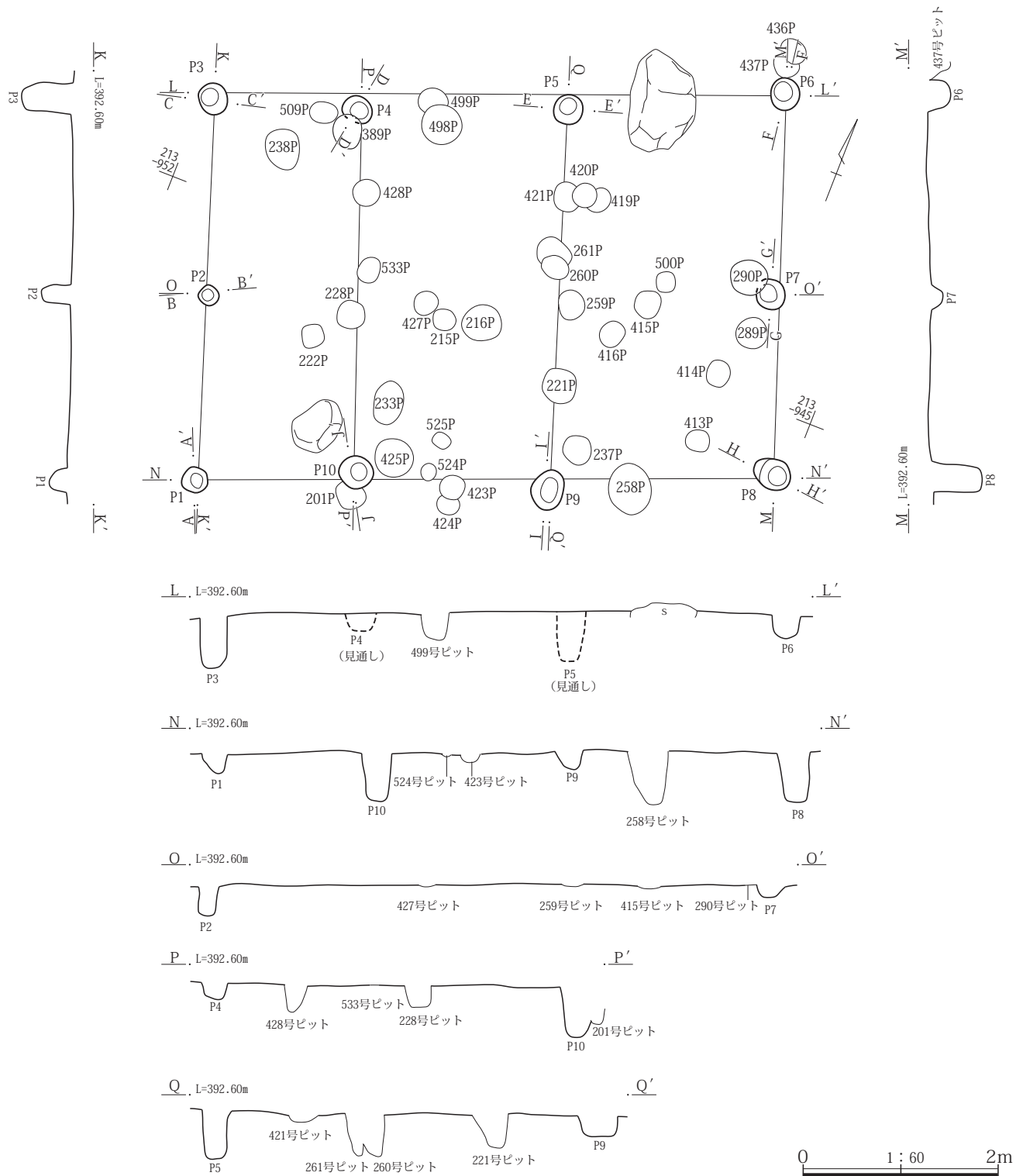
11区11号掘立柱建物(第63・64図、PL.19~21)

**位置：**11区中央北寄りで調査された。高標高部分でもあり、ほぼ平坦面が広がる。

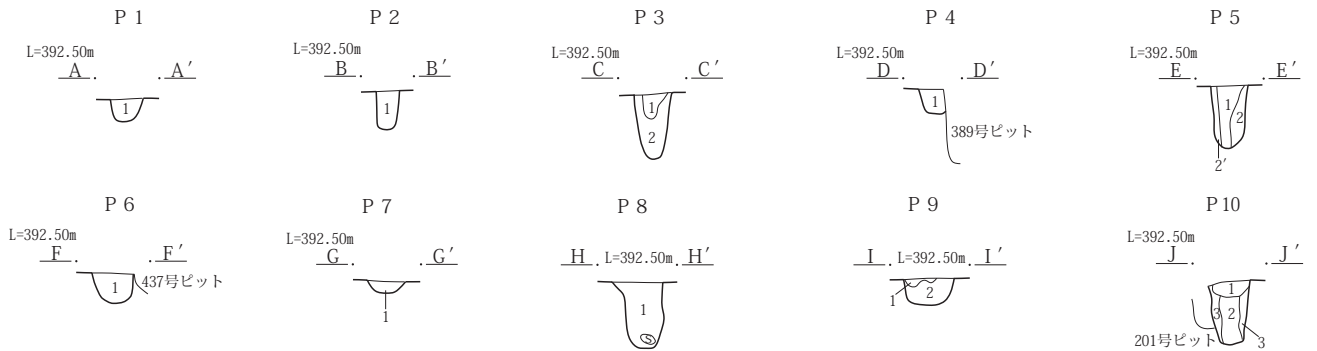
**経過：**遺構確認面は暗褐色土で行った。遺構埋土がAs-Kk混土層であるため識別は容易だった。また、周辺はピットが群在し、掘立柱建物の抽出には若干時間を要

したが、東西の柱穴列を見出すように努め、本掘立柱建物を検出できた。

**規模：**2×3間の東西棟である。平面規模は長軸長が約6.0m、短軸長が約4.0mを測る長方形を呈し、長軸方位は東南東を向く。10基の柱穴からなり、柱穴規模は径約22~40cm、深さは約12~50cmを測る。やや小規模は柱穴

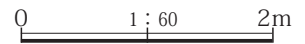


第63図 11号掘立柱建物(1)



- 11号掘立柱建物 P 1 A-A'
- 1 黒褐色土(10YR2/2)As-Kk混土。ローム粒僅かに含む。
- 11号掘立柱建物 P 2 B-B'
- 1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。ローム粒少量含む。
- 11号掘立柱建物 P 3 C-C'
- 1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。ローム粒含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) As-Kk混土。ローム粒少量含む。
- 11号掘立柱建物 P 4 D-D'
- 1 にぶい黄褐色土(10YR5/3)黄褐色土塊を含み、白色細粒を少量含む。
- 11号掘立柱建物 P 5 E-E'
- 1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。ローム粒含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒僅かに含む。
- 2' 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒少量含む。

- 11号掘立柱建物 P 6 F-F'
- 1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。ローム粒子含む。
- 11号掘立柱建物 P 7 G-G'
- 1 にぶい黄褐色土(10YR5/4)暗褐色土塊を含む。
- 11号掘立柱建物 P 8 H-H'
- 1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。ローム粒含む。
- 11号掘立柱建物 P 9 I-I'
- 1 黒色土(10YR2/1)ローム粒子含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。ローム粒含む。
- 11号掘立柱建物 P 10 J-J'
- 1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。ローム粒少量含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2)As-Kk混土。ローム粒少量含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒多量に含む。



第64図 11号掘立柱建物(2)

である。柱穴間距離は桁行では約1.5～2.2m間隔で南北辺とも対応する位置に配置されていた。ただし、北辺のP 4、P 5及び南辺のP 10は桁行から若干ずれており、やや歪んだ配置となる。梁間の中間柱穴も約1.9～2.0mで相応する距離に位置していた。比較的整った柱穴配置といえよう。またP 3やP 10土層断面では柱痕が観察された。

**所見：**3～7号掘立柱建物と同様の東西棟で、台地縁辺を連なる1棟である。やや梁間の距離があり、そのため梁間に柱穴が設けられたと思われる。3～7号掘立柱建物とは性格を異にする可能性もある。時期は検出層位とピット埋土から中世であろう。

11区12号掘立柱建物(第65図、PL.19～21)

**位置：**11区中央やや北寄りて調査された。平坦面が広がる地形にあり、土坑、ピットが群在する南端にあたる。

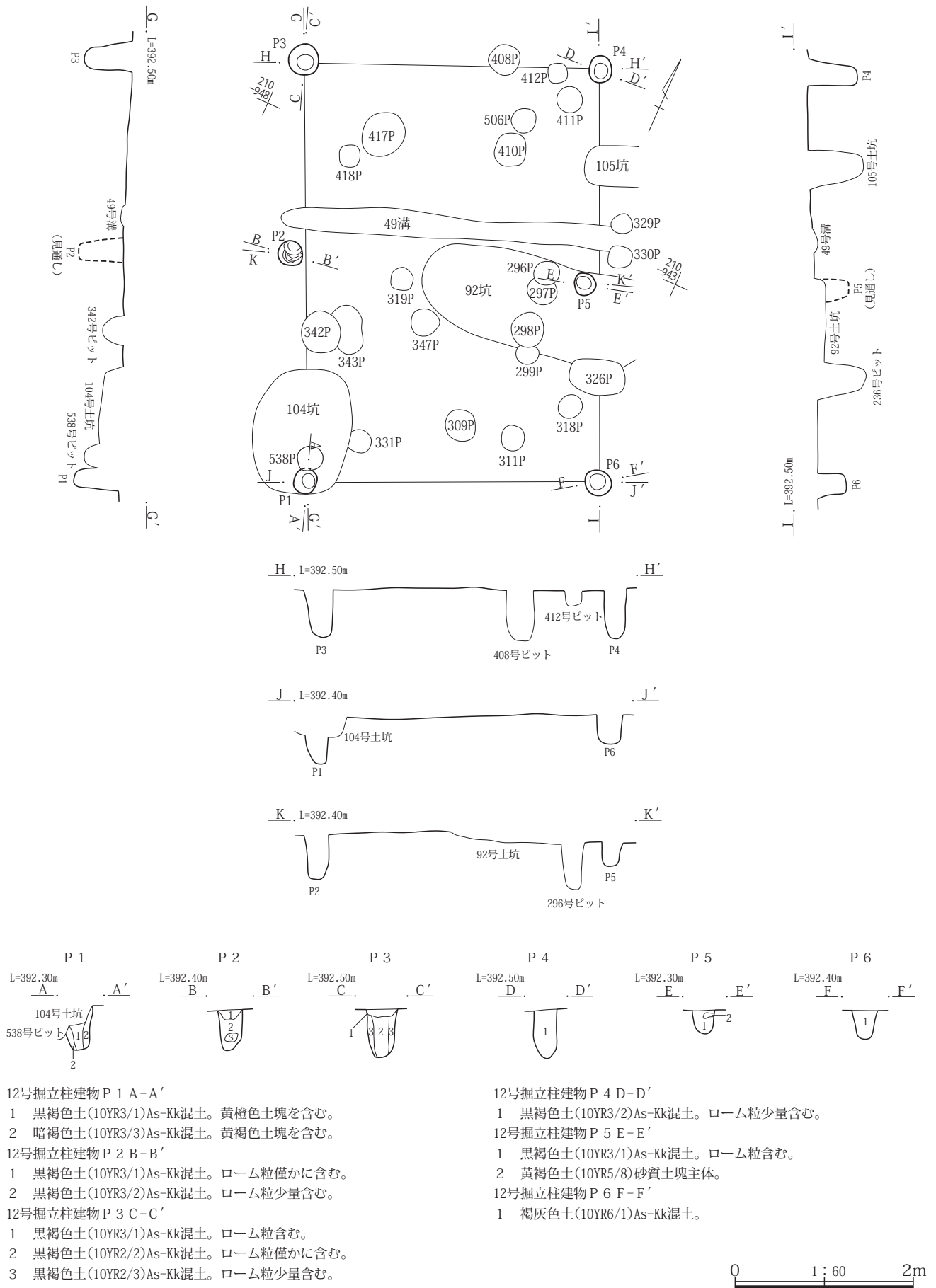
**経過：**にぶい黄褐色土を確認面とする。周辺の遺構埋土は黒褐色As-Kk混土層のため、識別は容易だった。周辺はピットの遺構密度が高く掘立柱建物の柱穴抽出には時間を要したが、四隅の柱穴を確定し桁間の柱穴も検出できた。

**規模：**1×2間の小型の南北棟である。長軸方位が北北西を向く長方形を呈し、平面規模は長軸長4.8m、短軸長3.3mを測る。6基の柱穴規模は径約25～35cm、深さは約30～55cmで、小規模ながら良好な掘り込みといえよう。柱穴間距離も桁行は2.4m前後に収まり、梁間も3.3mが保たれている。ただ桁間のP 2とP 5は僅かに西にずれた配置を見せている。P 1とP 3土層断面では柱痕が観察できた。

**重複：**掘立柱建物との重複は無く、11号掘立柱建物が北に近接する。49号溝、92・104坑等が重なるが、土層による新旧は把握できなかった。僅かに104坑がP 1を切る新旧を示す。

**所見：**周辺の3～7・11号掘立柱建物が東西棟に対し、本掘立柱建物は南北棟である。同一の南北棟は調査区北西隅にある8・9号掘立柱建物が該当するが、いずれも小規模な例である。南東への緩斜面という地形上の制約が要因と思われ、本掘立柱建物も南北方向へ長軸規模を延長せずに、小型の掘立柱建物に止めていたものと考えられる。おそらく、小規模な施設と判断できよう。時期は検出層位とピット埋土から中世として位置付けたい。

第3章 検出された遺構と遺物

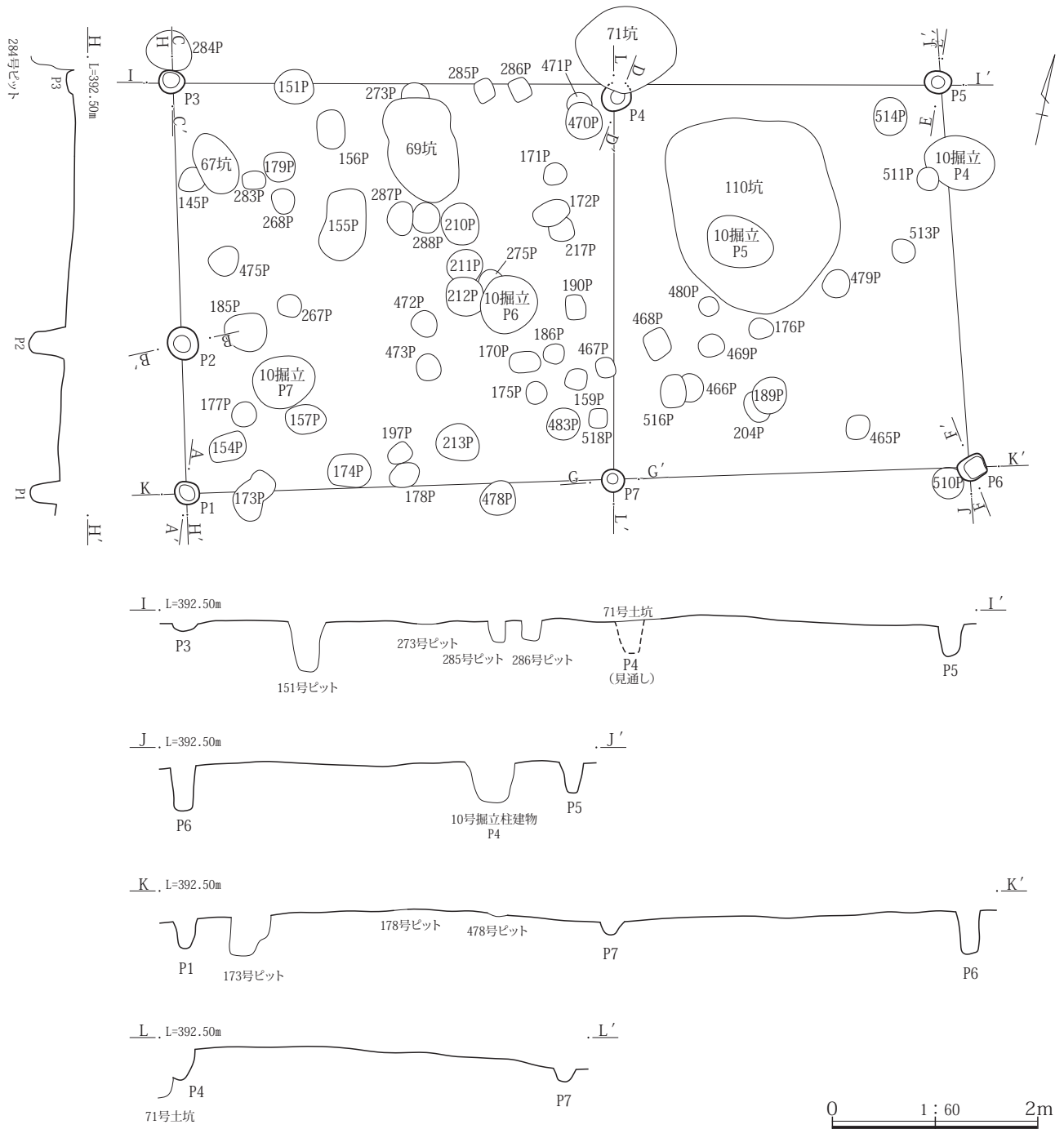


11区13号掘立柱建物(第66・67図、PL.19・20)

**位置：**11区北西部で調査された。周辺はほぼ平坦地形が広がり、高標高部の延長にあたる。

**経過：**黄褐色土を確認面とし、ピットなど遺構は黒褐色As-Kk混土を埋土とするため検出は容易だった。掘立柱建物としては、10号掘立柱建物との重複、周辺の群在するピットのため検出に時間を要した。ピット配列を重視し、小規模ながら四隅のピットを柱穴として抽出し、13号掘立柱建物とした。

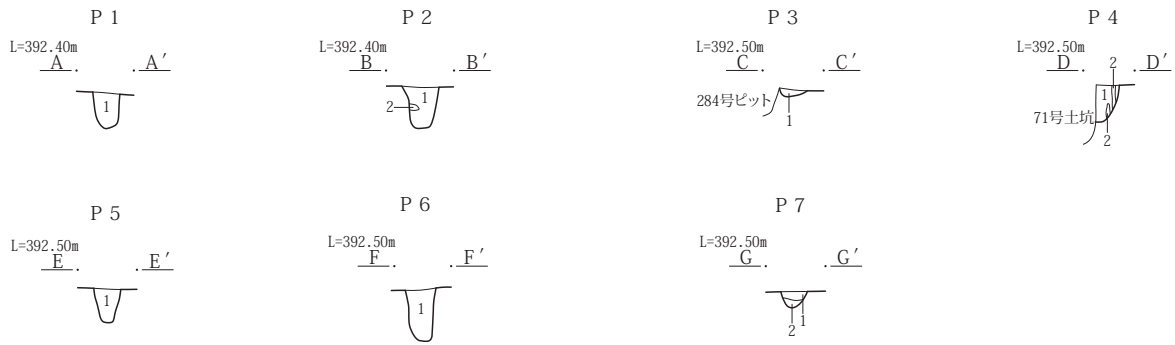
**規模：**平面形は横長長方形の東西棟で、規模は長軸長約7.7m、短軸長約4.0mを測る。長軸方位は西北西を向く。7基のピットからなるが桁間に対応するP4とP7を設け、梁間にP2が配置される。柱穴規模は径約21~32cm、深さ約7~40cmを測る。小規模で深さの統一性も見られない。柱穴間距離は桁行の西側の柱穴間が広く約4mを測り、間取りの変化が窺われよう。また梁間に見られるP2の位置も中間距離ではなく、あるいは出入口柱穴の可能性もある。



第66図 13号掘立柱建物(1)



### 第3章 検出された遺構と遺物



#### 13号掘立柱建物 P 1 A-A'

1 黒褐色土(10YR3/2)As-Kk混土。ローム塊含む。

#### 13号掘立柱建物 P 2 B-B'

1 黒色土(10YR2/1)As-Kk混土。黄褐色土粒を含む。

2 明黄褐色土(10YR7/6)明黄褐色土塊主体。

#### 13号掘立柱建物 P 3 C-C'

1 暗褐色土(10YR3/3)As-Kk混土。黄褐色土塊を含む。

#### 13号掘立柱建物 P 4 D-D'

1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。黄褐色土塊を多量に含む。

2 黄褐色土(10YR8/8)黄褐色土塊主体。

#### 13号掘立柱建物 P 5 E-E'

1 にぶい黄褐色土(10YR5/3)黄褐色土塊を多量に、褐灰色砂質土塊を含む。

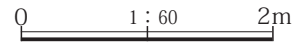
#### 13号掘立柱建物 P 6 F-F'

1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。ローム粒含む。

#### 13号掘立柱建物 P 7 G-G'

1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。黄褐色土塊を含む。

2 黄褐色土(10YR5/8)黄褐色土塊、暗褐色土塊を含む。



第67図 13号掘立柱建物(2)

**重複：**10号掘立柱建物と重なり、南に4号掘立柱建物が近接する。その他、多数の土坑群やピット群と重複するが、新旧関係を明瞭にする良好な土層を得られなかった。

**所見：**柱穴配置がやや変則的で、規模の差もあり、他の掘立柱建物と様相を異にする。大型の10号掘立柱建物との重複位置を考慮すると、主屋などの主体的な性格も想定できるが、主屋とするには全体観も柱穴規模もやや貧弱な印象である。時期は検出層位とピット埋土から中世として位置付けたい。

#### 溝

11区に10条、11-1区に3条を調査した。11区は調査区南半の低標高部に44・46～49・53～57号溝を調査した。11-1区では調査区中央の南東への斜面地形で62～64号溝が検出された。47号溝以外は、走行を東西に持つ特徴を同じにする。

#### 11区44号溝(第68図、PL.22)

**位置：**調査区中央を南西から南東にかけて調査された。大規模な溝である。南側へ低くなる緩斜面地形変換点を東西に走向し、東側で南への急斜面地形へと屈曲する。

**経過：**確認面はXV層の黒褐色粘質土である。遺構確認時より溝埋土であるAs-Kkを多く含む褐灰色土に大型礫が

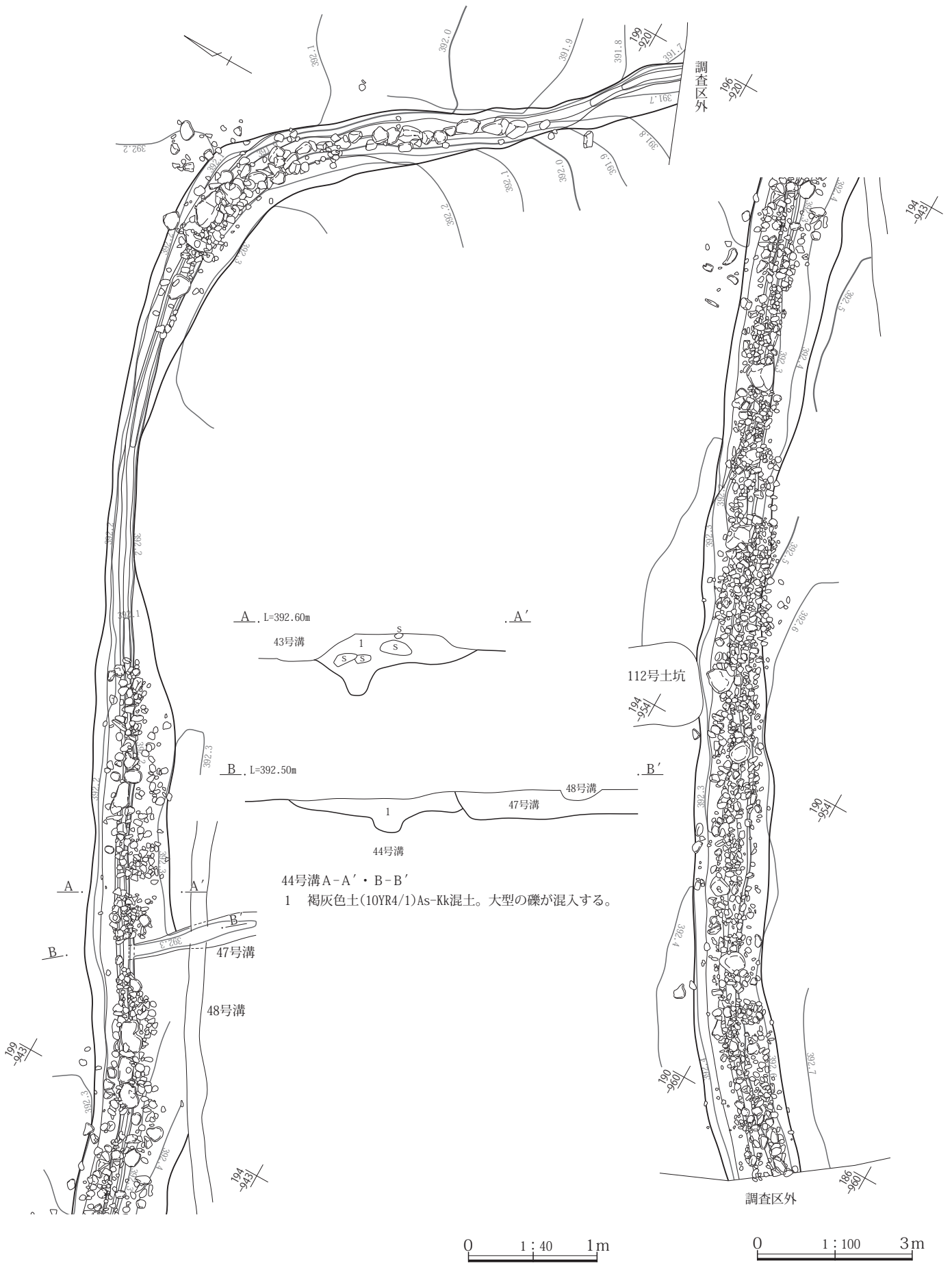
東西に露出し、溝として認識できた。なお、大型礫の中には遺物としての石製品等が含まれていなかった。

**規模：**調査区東側で南へ屈曲する全長約47mの大規模な溝である。西側は調査区外に延長する。屈曲部までは東北東の走向で、屈曲部からは南東へ下る。幅は160cm前後だが屈曲部西で急激に50cm程狭くなる。深さは約20～40cmで、断面形は底面中央部が強く凹み葉研状を示す。溝底面は西から東へ低くなる。屈曲部前までは30cm以上の高低差で、屈曲部以降は約50cmの差で調査区南壁へ下る。

**重複：**47号溝と重複する。新旧は土層の観察では47号溝が本溝を切る。重複部には礫も見られず、47号溝によって除去されたものと判断した。

**遺物：**埋土中より焼締陶器破片が出土したが細片のため図示には至らなかった。また、古代に比定される須恵器杯底部片、杯蓋口縁部片、壺口辺部片が出土しているが遺構外出土遺物と判断した。

**所見：**大型の礫を多量に含む屈曲溝である。大型礫は意図的な配置を見せず、また自然流入の様相ではないため、溝への礫廃棄によるものと判断した。断面観察では流水の痕跡は見出せなかったが、底面の高低差もあり、用水路としての機能も果たし得たと考えられる。屈曲する平面形からは南側への排水及び南側の低地施設への区画溝



第68図 44号溝

も想定しておきたい。後述する53号溝も同様な区画形態を取る。検討を要する。なお、本溝は、11区1面で検出した38号溝及び1-1面で調査した43号溝と走向などが一致する。調査面としての2面は、1面とは40cm、1-1面とは20cm程下層である。これは本溝が中世～近世にかけて継続性を持った主要な施設として設けられていたと位置付けられよう。また、西に隣接する前回報告である8区1号溝が同規模の溝で、As-Kk混土層を埋土とする。関連性が窺われる。時期は検出層位と溝埋土から中世と位置付けた。

#### 11区46号溝(第69図、PL.22)

**位置：**11区南西隅で調査した。周辺は西から東へ低くなる緩斜面地形が広がる。

**経過：**XII層であるAs-Kk純層を確認面とし、これを掘り込む褐灰色土を埋土とする。溝の確認、検出は比較的容易だったが、溝は南西部で屈曲し、さらに屈曲部南より分岐し南西部に至る走向を示すため、複数溝の重複とも考えたが、溝埋土が共通し屈曲が相互に直交することから同一の溝とした。埋土にはAs-Kkを多く含むが砂質土などは確認できなかった。

**規模：**屈曲部及び分岐部を併せて全長約13mを測る。走向方位は西北西と東北東を向く。幅は約35～70cmで深さは約10～20cmを測る。断面形は浅い皿状を示す。底面の高低差は屈曲部から南東部へ低くなりその差は約13cm、屈曲部から調査区南壁の差は少なく3cm低くなるのみである。分岐部西壁が高く、屈曲部合流点との高低差が約10cmで顕著な傾斜ではない。

**所見：**溝底面の高低差も大きくなく、直交するように屈曲、分岐する様相から区画溝と考えられよう。並行する44号溝との関連性も時間差を踏まえておきたい。時期は検出層位と溝埋土から中世と位置付けた。

#### 11区47号溝(第69図、PL.22)

**位置：**11区南側中央で南北の蛇行した走向で確認された。周辺は南東へ低くなる緩斜面地形が広がる。

**経過：**確認面はXII層のAs-Kk純層である。As-Kkを多く含む褐灰色土を埋土としており、遺構識別は容易だった。44・48号溝と重複するため、土層の把握を果たし、新しい48号溝より着手した。なお、埋土には流水による砂質

土等は検出されなかった。

**規模：**調査区南壁と44号溝との重複部まで全長約9mで、幅は約30～50cm、深さ約7～20cmを測る。断面形は浅い皿状を呈す。走向方位は北西から西北西と蛇行する。溝底面の高低差は大きくなく、ほぼ水平に保たれる。

**重複：**44号溝と48号溝が重なる。土層の観察では48号溝に切れ、44号溝を切る新旧関係を示していた。

**所見：**蛇行する平面形から、水路としての機能を想定したが、底面の高低差も無く、埋土に砂質土が見られないことから、区画溝としての性格を想定したい。時期は検出層位と溝埋土から中世と位置付けた。

#### 11区48号溝(第70図、PL.22)

**位置：**11区南側の中央部分で44号溝に並行して調査された。周辺は南東へ低くなる緩やかな傾斜が広がる。

**経過：**XII層であるAs-Kk純層を確認面とした。溝埋土はAs-Kkを多く含む黒褐色土であり、遺構識別は容易だった。47号溝と重複するため、土層の把握を果たし本溝より着手した。

**規模：**全長約13.8m、幅約30～45cm、深さは約20cmである。断面形は浅い皿状を呈す。走向方位は東北東を向く。幅狭で小規模な溝である。溝底面は南西側が高く、北西側が低い約22cmの高低差を持つ。

**重複：**平面確認で47号溝を切る新旧確認が果たせた。47号溝が深く、全体図等では新旧を逆にしているが、本溝が新しい。

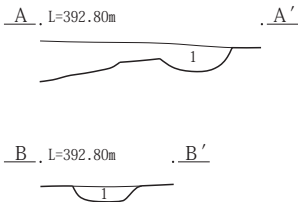
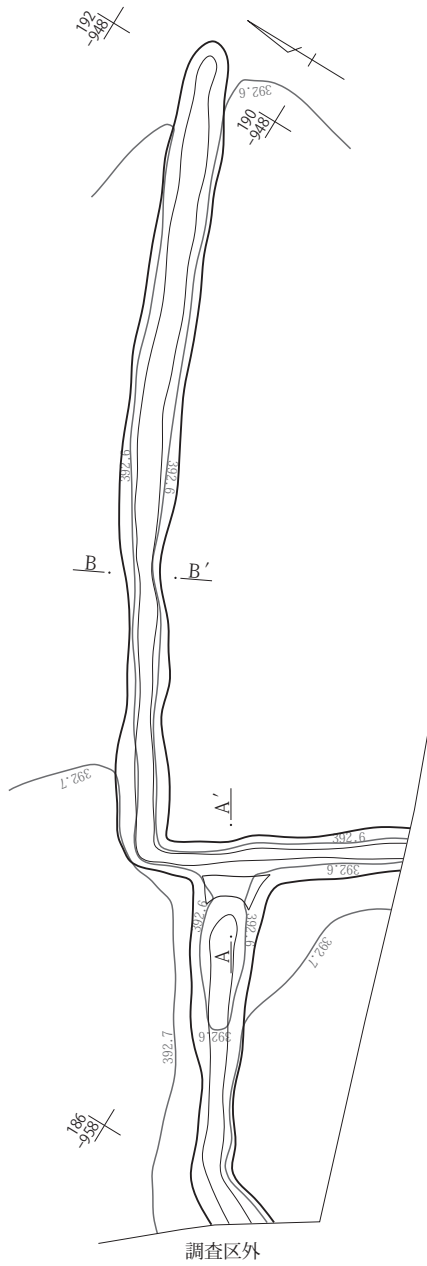
**所見：**44号溝に並行する形態だが、44号溝より新しい。本溝の延長に46号溝があり、あるいは関連性が窺われよう。溝底面の高低差はあるが砂質土を埋土に見ないことから水路等ではなく、46号溝や47号溝と同様に区画溝としての性格を想定したい。時期は検出層位と溝埋土から中世と位置付けた。

#### 11区49号溝(第70図、PL.22)

**位置：**11区中央やや北寄り検出された。他の溝とは距離を置く小規模な溝である。周辺はほぼ平坦面が広がる。

**経過：**にぶい黄褐色土を確認面とする。溝埋土はAs-Kkを多く含む黒褐色土で識別は容易だった。周辺は12号掘立柱建物や92号土坑が重複・近接するように遺構密度の高い地点だが、溝としては単独の検出である。埋土には

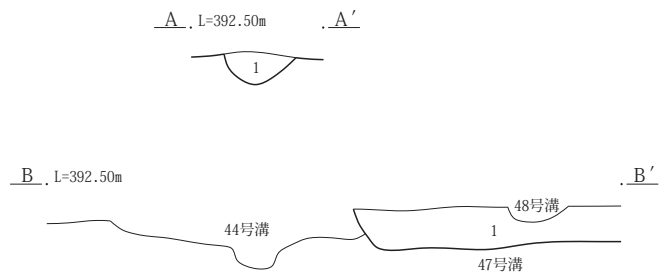
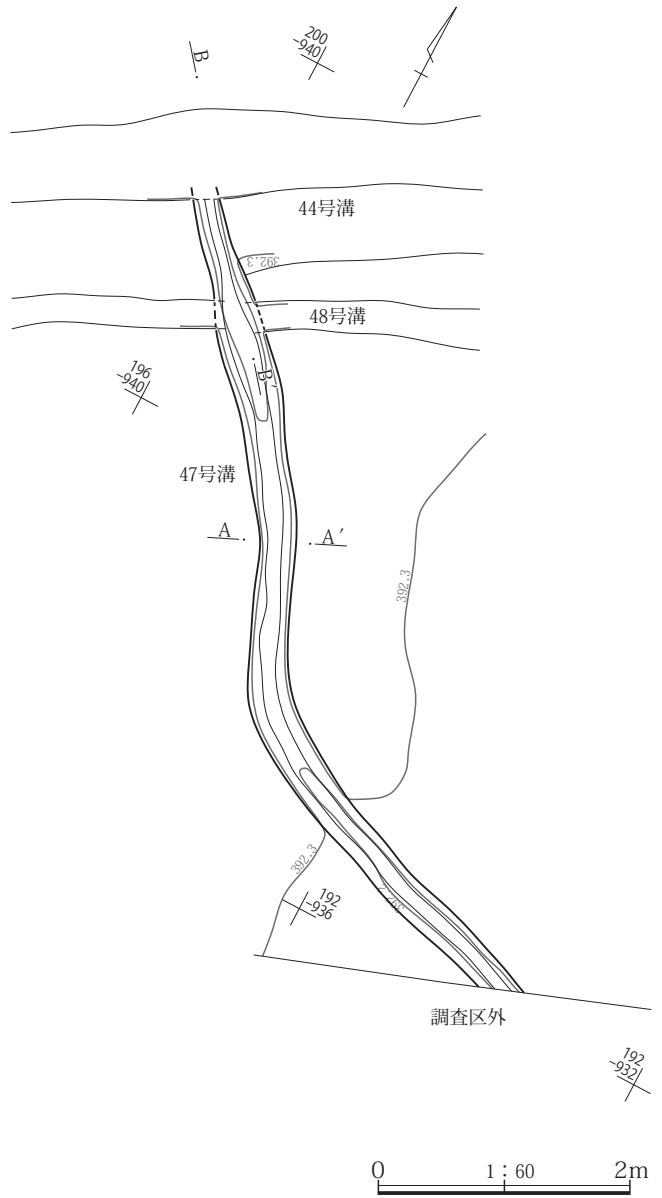
46号溝



46号溝 A-A'・B-B'

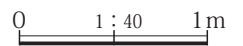
1 褐灰色土(10YR4/1)As-Kk混土。黒褐色粘質土塊を少量含む。

47号溝

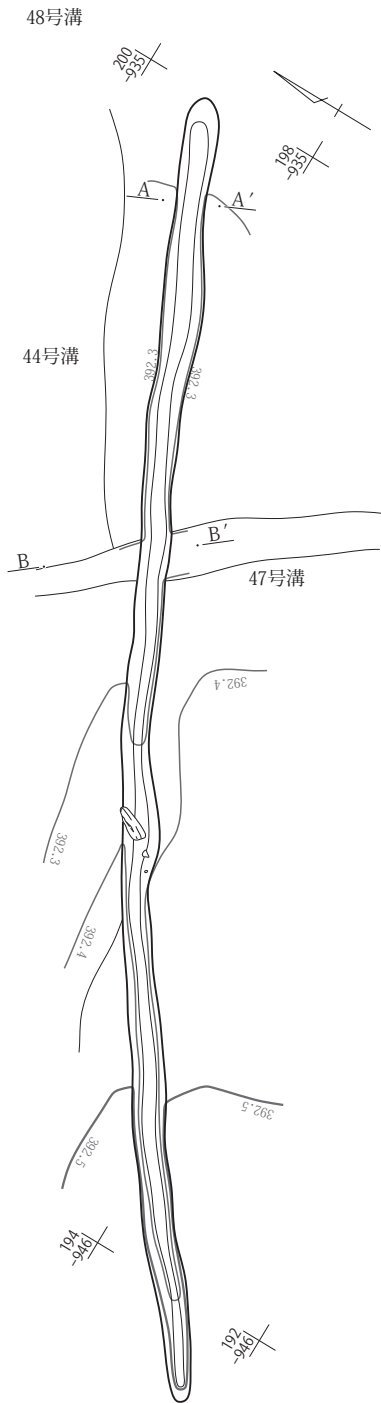


47号溝 A-A'・B-B'

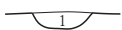
1 褐灰色土(10YR4/1)As-Kk混土。



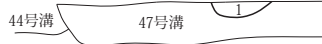
第69図 46・47号溝



A, L=392.50m A'

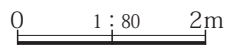


B, L=392.50m B'

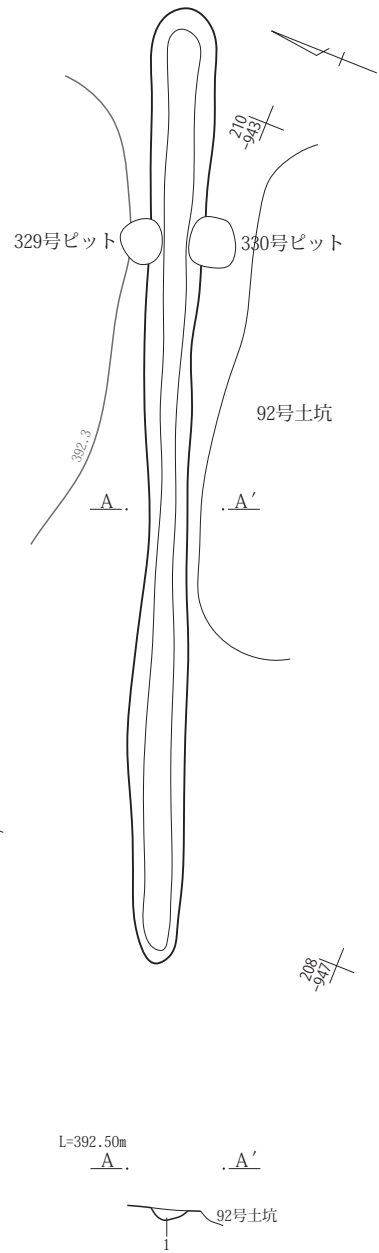


48号溝 A-A'・B-B'

1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。

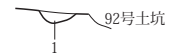


49号溝



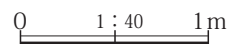
L=392.50m

A A'



49号溝 A-A'

1 褐灰色土(10YR4/1)As-Kk混土。



第70図 48・49号溝

砂質土は確認されなかった。

**規模：**直線状の平面形で全長約5m、幅約20～35cm、深さは10cm以下で浅い皿状の断面形を示す小規模な溝である。走向方位は東北東を向く。底面の高低差は西側が僅かに2cmほど高いがほぼ水平といえよう。

**重複：**12号掘立柱建物範囲内にあり、329・330号ピットに切られるが、本溝本体が浅く土層による新旧は確定性に乏しい。

**遺物：**土師器高杯杯部破片が出土するが、流入による所産である。遺構外として掲載した。

**所見：**他の溝とは北に離れた位置にある。あるいは87坑等に見る溝状の土坑底面の可能性もある。浅く底面の高低差も少なく砂質土の堆積を見ないことから、水路としての性格ではなく区画溝として位置付けておきたい。時期は検出層位と溝埋土から中世と位置付けたい。

#### 11区53号溝(第71図、PL.22)

**位置：**11区中央で東西に長く調査された。屈曲する44号溝北に並行する位置である。周辺はほぼ平坦地形が広がり、屈曲部東側が南東へ低くなる傾斜を示す。

**経過：**確認面は黒褐色粘質土である。溝埋土も黒褐色土を呈するが、As-Kkを多く含むため検出は容易だった。埋土に砂質土は含まれていなかった。

**規模：**44号溝と同様に調査区東側で南へ屈曲する平面形である。また西側でも北側へ湾曲する形態である。全長は約31mを測る大規模な溝で、44号溝と違い埋土中より大型礫の出土は見られず、浅い皿状の断面形を示す。幅約26～92cm、深さ20cmを測る。走向方位は主体部が東北東で、屈曲部からは北北西を向く。底面は西側が高く東側への高低差は10cm程であるが、ほぼ水平であり大きな高低差は見られなかった。

**重複：**南側で55号溝、西側で54号溝が近接するが重複する遺構は無かった。

**遺物：**埋土中より須恵器壺破片が出土しているが、本溝に伴う例では無く遺構外出土遺物とした。

**所見：**44号溝と同様に東側で屈曲する溝である。さらに、西側でも北側へ湾曲し、平面形は地形等高線に沿う走行である。埋土の様相から水路ではなく、地形に沿った区画溝としての性格を充てたい。時期は検出層位と溝埋土から中世とした。

#### 11区54号溝(第72図、PL.22)

**位置：**11区南西部で調査された。周辺は南側へ低くなる緩やかな傾斜地形を呈し、ほぼ平坦地形での検出となった。

**経過：**黒褐色粘質土を確認面とする。埋土はAs-Kkを多く含む褐色土で検出は容易だった。なお、砂質土は埋土に含まれていなかった。

**規模：**南側へ緩やかに湾曲する平面形で全長約6.6m、幅約30cm、深さは浅く10cm以下である。底面は西側が高く8cm程の高低差を測る。

**重複：**北西側に53号溝、南に55号溝が近接するが重複遺構は無かった。

**所見：**浅く小規模な溝である。埋土の特徴が少なく、底面の高低差も無いため性格は不明である。時期は検出層位と溝埋土から中世とした。

#### 11区55号溝(第72図、PL.23)

**位置：**11区中央より西側にかけて調査された。53号溝と同様に地形に沿って、南東への地形変換点に位置する。

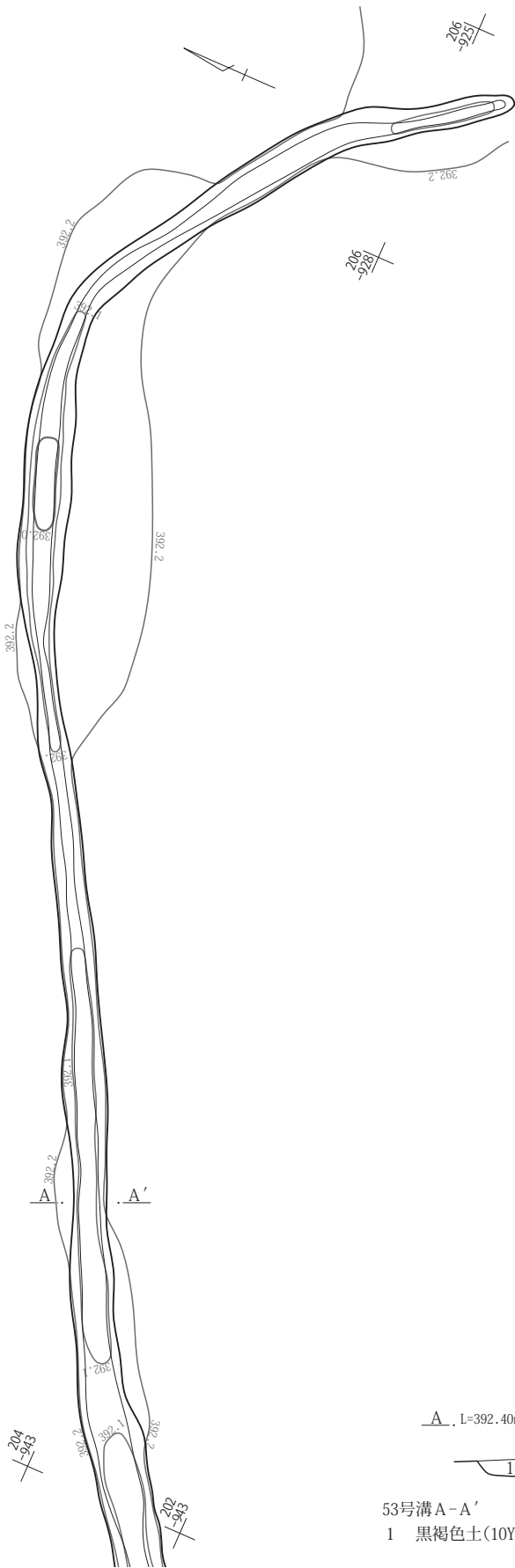
**経過：**黒褐色粘質土を確認面とする。溝埋土も黒褐色土で同一色調だが、As-Kkを多く含むため識別は比較的容易だった。埋土中に砂質土は見られなかった。

**規模：**南西から北東へ緩やかに蛇行する平面形で、西端は調査区外に延びる。現全長約27m、幅約20～50cm、深さ約10cmを測る。浅いが箱形の断面形を示す。全体に幅狭で細長い印象が強い溝である。底面は西側が高く20cm以上の高低差を見るが、途中より差が少なくなり水平に近くなる。

**重複：**112号土坑と重複する。土層の観察では112号土坑が本溝を切る新旧を示すが、両遺構とも浅く確定性に乏しい。

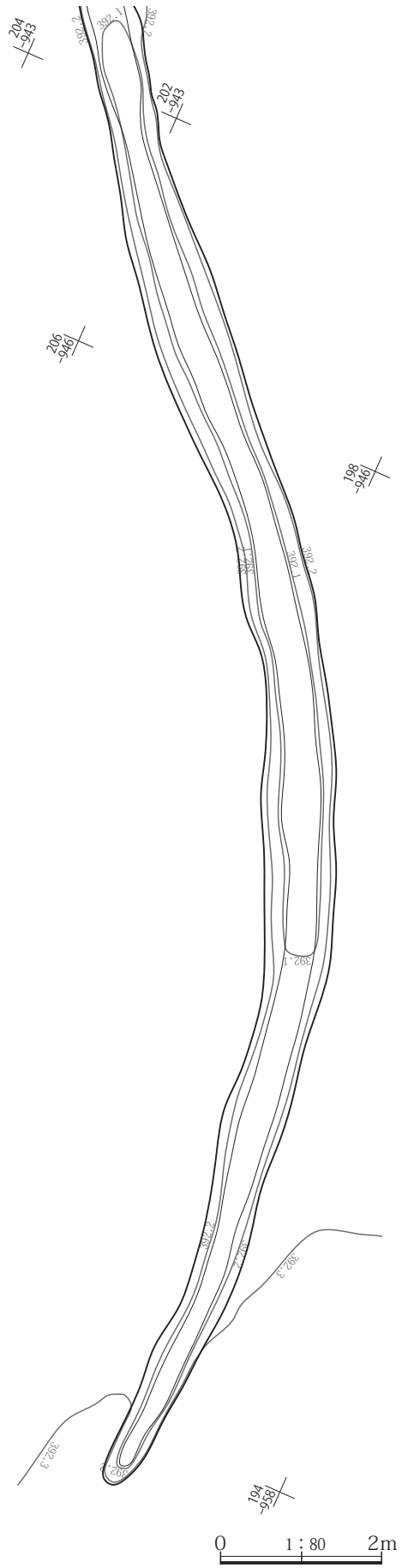
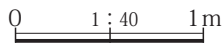
**遺物：**須恵器杯口縁部破片を見るが、遺構に伴う例では無い。遺構外遺物とした。

**所見：**44号溝と53号溝に挟まれた細い溝である。走向も両溝に平行しており、あるいは時期差を持つ区画溝としての位置付けを考えたい。時期は検出層位と溝埋土から中世と位置付けた。

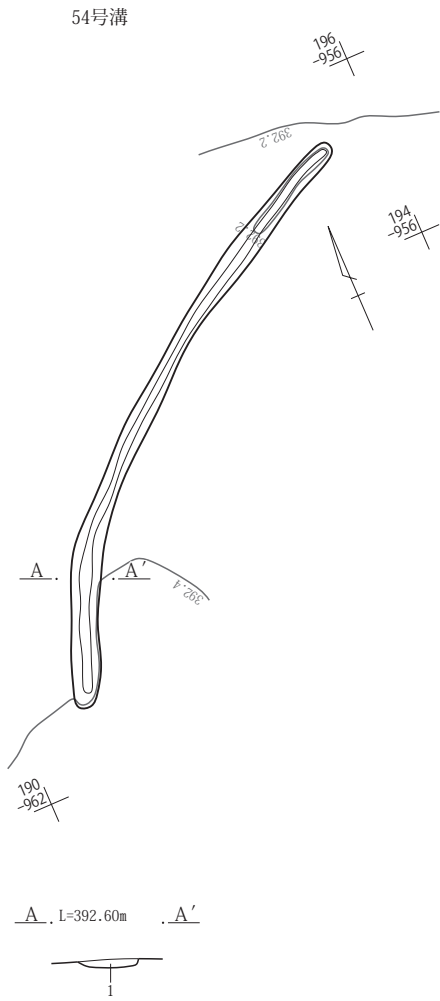


A L=392.40m A'

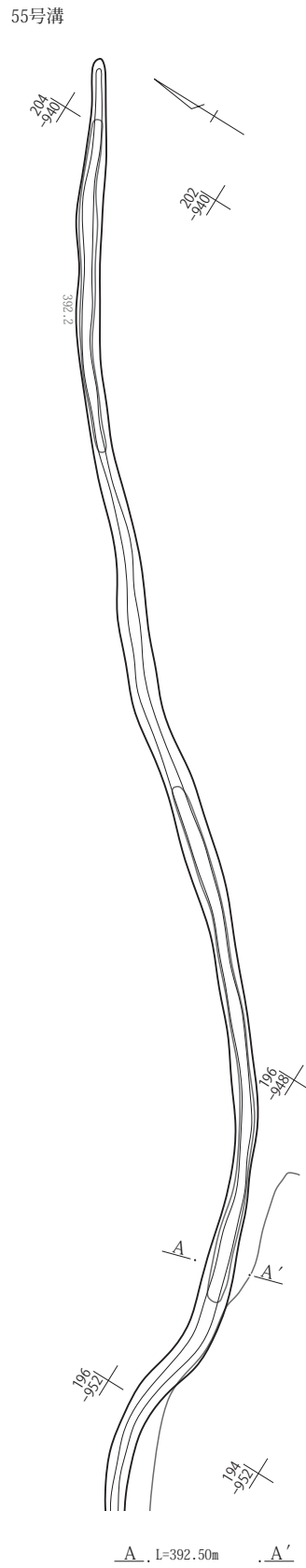
53号溝 A-A'  
1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。



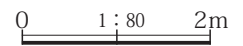
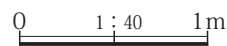
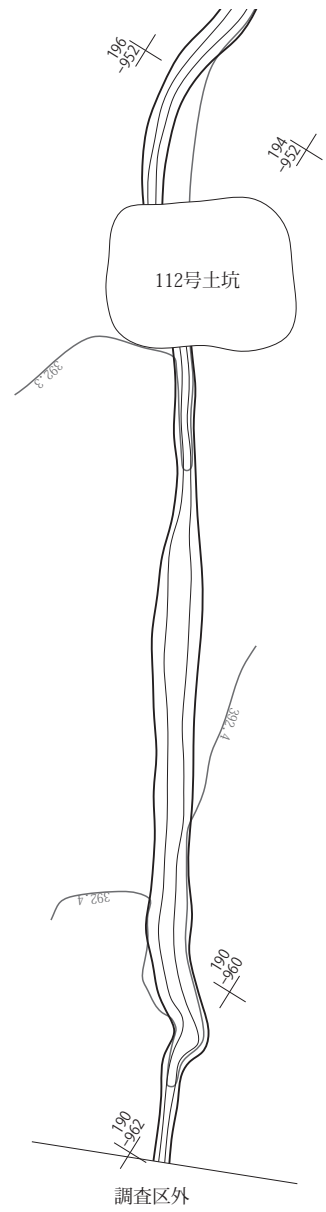
第71図 53号溝



54号溝 A-A'  
1 褐灰色土(10YR6/1)As-Kk混土。



55号溝 A-A'  
1 黒褐色土(10YR2/3)As-Kk混土。



第72図 54・55号溝



11区56号溝(第73図、PL.23)

**位置：**調査区南側中央で検出された。周辺は東へ低くなる緩斜面地形が広がる。

**経過：**確認面はⅫ層のAs-Kk純層である。As-Kkを多く含む褐灰色土を埋土とするため識別は容易だった。

**規模：**小規模な溝である。直線的な平面形で全長約4.1m、幅約30cm、深さ約15cmを測る。断面形は浅い皿状を示す。走向方位は東北東を向く。底面は西側が高く約10cmの高低差を呈す。

**所見：**小規模な溝で性格の把握までは至らない。48号溝や57号溝と同方向を向くことから、何らかの区画溝の可能性はある。時期は検出層位と溝埋土から中世である。

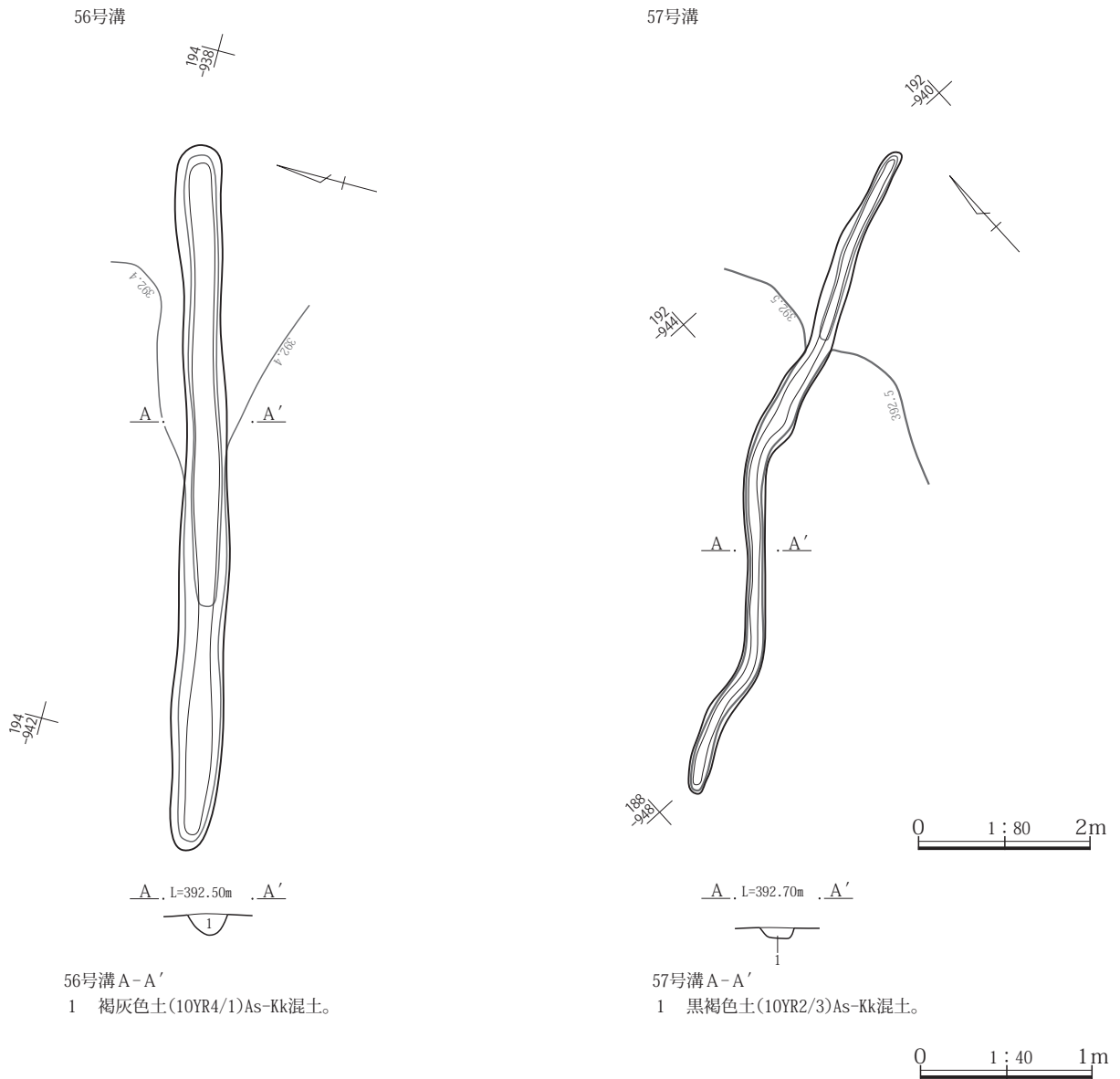
11区57号溝(第73図、PL.23)

**位置：**調査区南端で検出された。周辺は東へ低くなる緩斜面地形が広がる。

**経過：**Ⅻ層のAs-Kk純層上面で確認した。埋土は黒褐色土を呈しAs-Kkを多く含むため容易に識別できた。

**規模：**東北東の走向方位で緩やかに蛇行する平面形である。全長は約7.9m、幅約20~40cm、深さ10cm前後で浅く皿状の断面形を示す。底面の高低差は顕著ではなく水平に近い。

**所見：**56号溝と同様に小規模で東西方向を向く溝である。性格の把握にまでは至らないが、46号溝や56号溝との関連性も窺われよう。時期は検出層位と溝埋土から中世に位置付けられよう。



第73図 56・57号溝

11-1区62号溝(第75図、PL.24)

**位置：**11-1区北東隅で調査された。周辺は南東へ低くなる地形変換点に位置し地形に平行して確認された。

**経過：**にぶい黄褐色土を確認面とする。埋土はAs-Kkを含む黒褐色土のため色調差も顕著で検出は容易だった。

**規模：**南西から北東へほぼ直線状に延び、東壁より調査区外へ延長する。全長は約10.8m、幅約30cm、深さは10cm以下で幅狭の溝である。断面形は浅い皿状を示す。走向方位は東北東を向く。底面は西側が高く、15cm程の高低差で東側へ至る。

**重複：**南側で63・64号溝が近接する。

**所見：**台地縁辺を地形に沿って設けられた幅狭の溝である。西から東へ低くなる底面からあるいは水路状の機能も想起されるが、自然要因の可能性もあり、確定性に乏しく性格の確定までは至らない。時期は検出層位と溝埋土から中世に位置付けられる。

11-1区63号溝(第75図、PL.24)

**位置：**調査区中央西よりから北東隅で検出された。台地縁辺の地形変換点に沿って走向しており、断続的に3箇所に分かれて確認された。

**経過：**確認面はにぶい黄褐色土である。溝埋土はAs-Kkを含む黒褐色土のため色調差も顕著で検出は容易だった。

**規模：**ほぼ直線状に断続的に3箇所に分かれる。全長は約46.3mで、幅約20~60cm、深さ約10cmを測り、幅狭で浅い溝である。走向方位は東北東で62号溝や64号溝に近い。断面形は浅い皿状を呈し、底面は西側が高く断続的とはいえ傾斜に沿って低くなり、東端では80cmの高低差を見る。

**重複：**北東に62号溝、南東側に63号溝が同方位を向いて近接する。

**所見：**調査区を縦断する溝で、近接する62号溝や64号溝と極めて近い性格と思われる。しかしながら3条とも幅狭で浅く、性格の特定にまでは至らない。本溝の底面の高低差は水路として十分な規模だが、地形に沿っており、埋土からも鉄分の凝集は見られたものの、砂質土は確認されなかった。傾斜地にかかる地形変換点に設けられた区画溝も想定しておきたい。時期は検出層位と溝埋土から中世と位置付けた。

11-1区64号溝(第74図、PL.24)

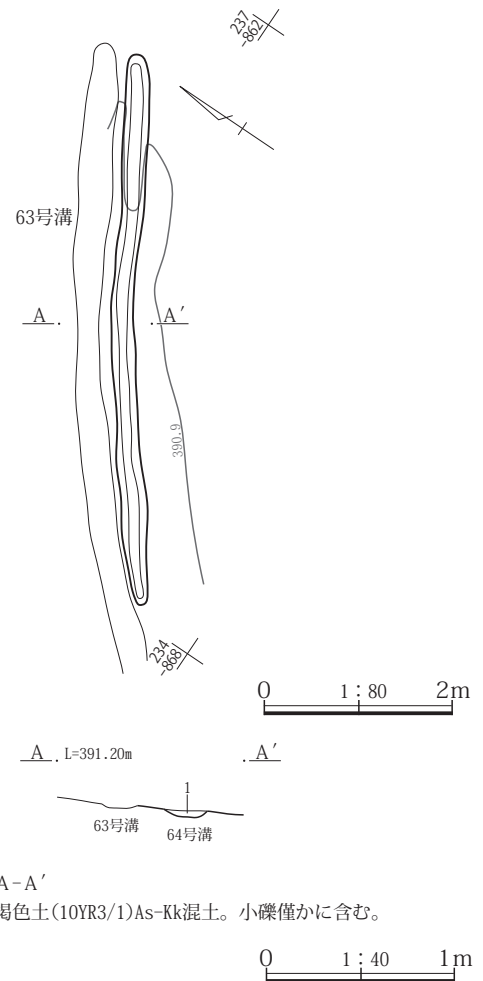
**位置：**11-1区北東側の63号溝東端部南に接して確認された。周辺は南東へ低くなる強い傾斜で、地形変換点に位置する。

**経過：**にぶい黄褐色土を確認面とし、溝埋土をAs-Kk混土層の黒褐色土とするため、識別は容易だった。鉄分凝集層は見られたが、砂質土は検出されていない。

**規模：**63号溝東端で並行していた。全長約5.9m、幅約10~35cm、深さは10cm以下である。極めて浅い。底面は西側が高く、東側と10cmの高低差を持つ。

**重複：**南側で63号溝と近接する。

**所見：**62・63号溝でも述べたが、性格の確定までは至らない。地形変換点に沿った、区画溝と見たいが、幅狭で区画線としては確定性に乏しい。また数条の幅狭の溝が並行することから、道路状遺構としての可能性も考えたが、硬化面などが見られず可能性に止める。時期は検出層位と溝埋土から中世とした。



第74図 64号溝



第75図 62・63号溝

畑

第2面の調査では19号畑が検出されている。44号溝南に位置する。1面調査では14号畑が検出された地点ではあるがサク埋土にAs-Kkが含まれており、第2面の遺構として差し支えない。

11区19号畑(第76図、PL.23)

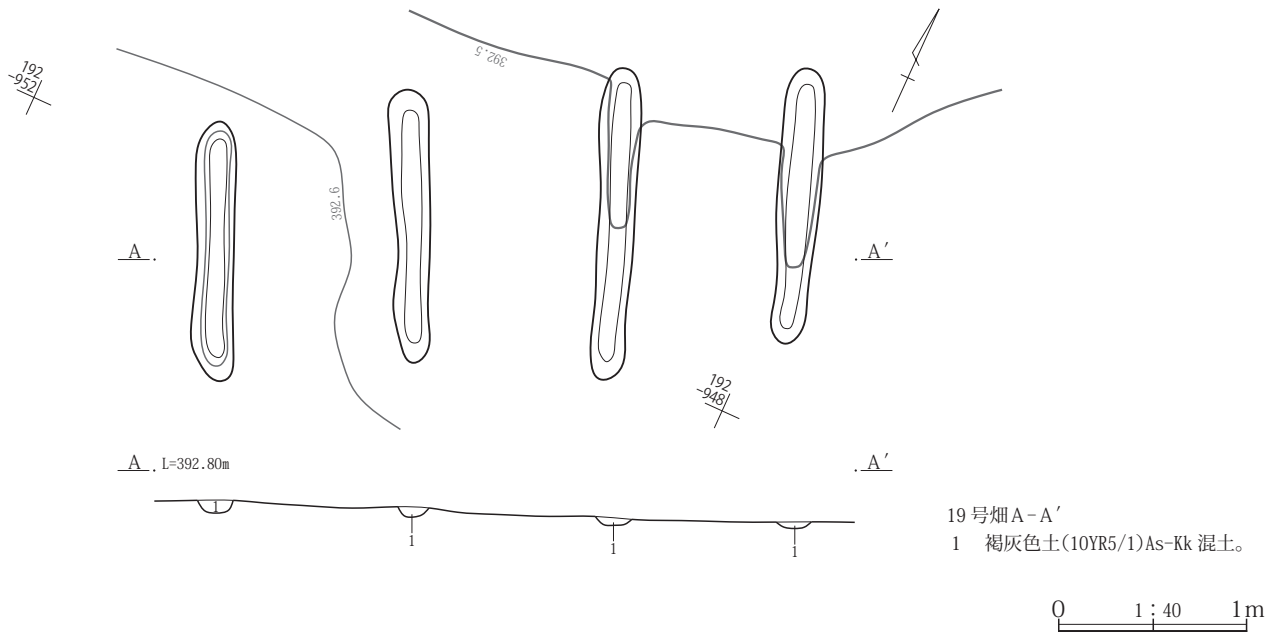
**位置：**11区南側中央の44号溝南で調査された。南には46号溝や48号溝があり、南北の溝に挟まれた狭い箇所を選地する。周辺は東へ低くなる緩斜面地形が広がる。

**経過：**Ⅱ層のAs-Kk純層上面で確認した。埋土は黒褐色土を呈しAs-Kkを多く含むため容易に識別できた。

**規模：**サクの長さは約1.4~1.6mで4条が確認された。サク幅は約15~22cm、畝間はやや幅広で約74~90cm、深さは10cm以下を測る。サクの方向は北北西を向く。

**重複：**278・279・282号ピットが近接する。また近接する46号溝や48号溝は何等かの区画施設の可能性もある。

**所見：**小規模な畑である。地形傾斜に直交する走向で、1-1面で得た14号畑と類似する。時期は検出層位と溝埋土から中世と位置付けた。



第76図 19号畑

列石遺構

11-1区で1基のみが確認されている。小規模な例で、縄文時代や古墳時代の所産ではなく、中世に比定される遺構である。

11-1区1号列石(第77図、PL.24・58)

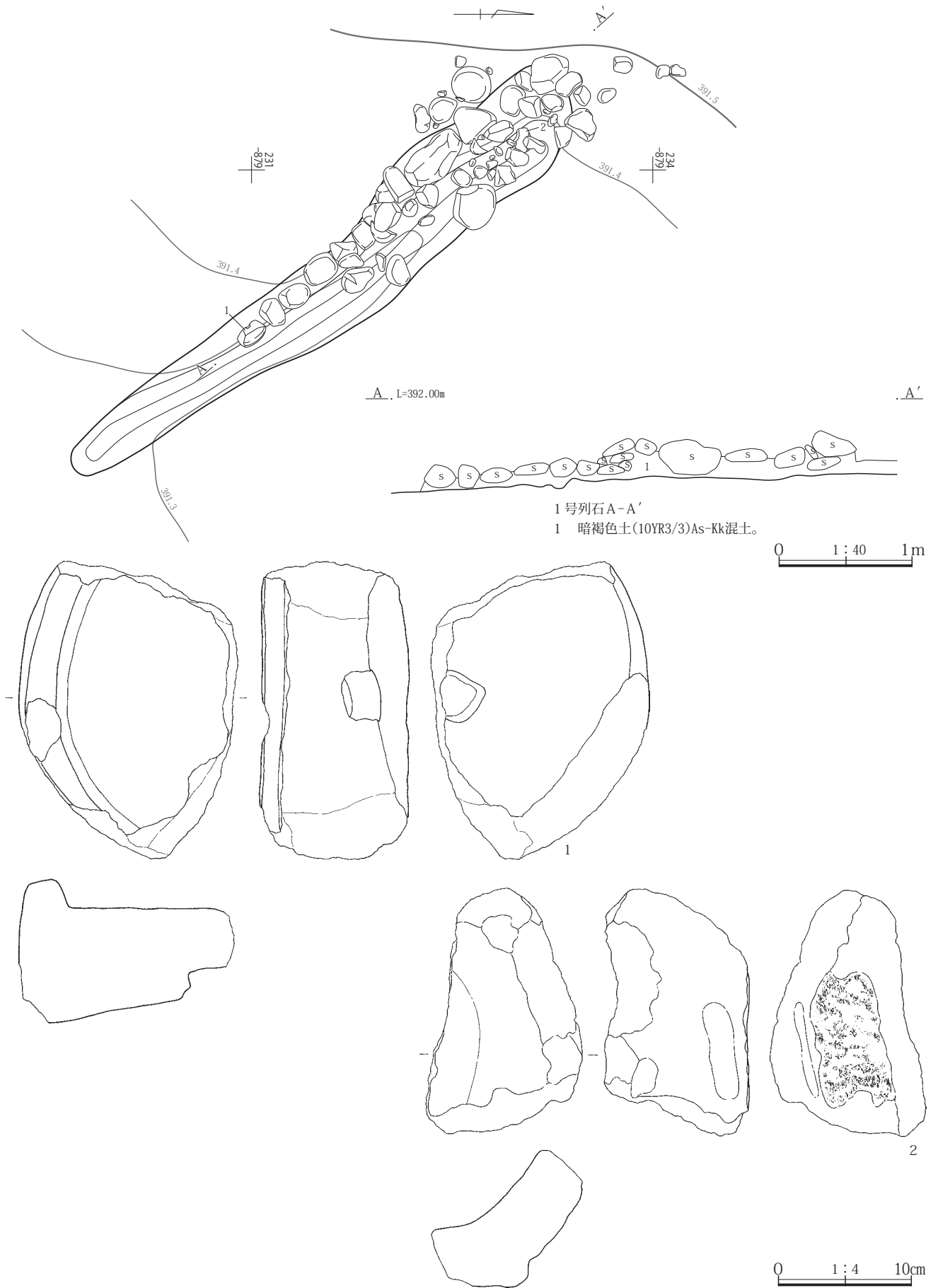
**位置：**11-1区北東側で調査された。63号溝北に位置し、周辺は南東に低くなる緩傾斜地形が広がる。

**規模：**長軸方位を北西に持つ全長約4.7m、幅約70cm、深さ約10cmを測る。下部に浅い溝を付帯する列石である。溝底面は凹凸が顕著で、浅く僅かに凹む程度である。北西が高く、南西に20cm程低くなる。列石とした石は、溝の北西側に偏り、溝底面より若干浮いた状態で出土した。約30~50cm大の大型の円礫、亜角礫を主体にしており、

石臼片が混じる。北西側に集中しており、南東側は数点が列をなす。

**遺物：**石臼片(第77図1)が南東側で、石鉢片(第77図2)が北西側の礫集中部より出土している。列石の性格や用途に伴うものではなく、欠損品の2次利用と考えられる。

**所見：**小規模な列石だが、礫は北西に偏り、南西側には数点が見られるのみである。また、列石周辺の地形は南西側には平坦面が僅かに広がる。列石の軸方位は、63号溝と直交する向きで、用地区画施設とした性格が想起される。おそらく列石南東側を平坦に整地し、さらに北西側に土盛りを施し、列石はその際の土留めとして供されたと考えたい。時期は出土した石臼と検出層位、列石下埋土から中世と判断した。



第77図 1号列石と出土遺物

## 土坑

11区、11-1区2面調査では69基の土坑が検出された。特に11区では遺構密度が高く、掘立柱建物柱穴や多量のピットと共に土坑も数多く確認されている。なお土坑の幾つかは、掘立柱建物の柱穴として位置付けられており、それらは本書では欠番となっている。遺構計測表に明記しているため、参考にしていただきたい。また、ここでは、個々の土坑の説明は省き、特徴的な土坑のみを選んで述べていきたい。時期は遺構検出面や埋土の特徴から中世と判断している。また、個々の土坑の計測値や重複遺構などの詳細は、遺構計測表に掲載した(第5表)。

11区、11-1区2面で調査された土坑の特徴として、

1. 平面形が小型の円形を呈し、断面形から柱穴として妥当な例。埋土に柱痕が観察される例。
2. 土坑埋土中あるいは底面に集石を伴う例。
3. 径1m以上の不整形円形あるいは方形を呈する例。
4. 平面形が縦長長方形あるいは長楕円形を示す例。
5. 不整形円形・不整形で掘り込みも浅い断面形を呈す例。

1の柱穴に近い土坑としては11区59・61～63・69・71坑が挙げられる。いずれも掘立柱建物周辺に位置しており、調査区域外に広がる他の掘立柱建物の存在も想定されよう。69坑を取りあげる。

## 11区69号土坑(第78図、PL.25)

**位置：**11区北西側の10号掘立柱建物や13号掘立柱建物と重複して調査された。調査区内でも高標高部にあたり、周辺はほぼ平坦面が広がる。

**経過：**確認面は黄褐色土で、土坑埋土はAs-Kkを含む黒褐色土のため検出は容易だった。周辺は掘立柱建物柱穴が密集しており、本土坑も柱穴としての可能性を探ったが、対応するピットも無く土坑として位置付けた。

**規模：**複数のピットが重なるような平面形だが、主体は中央部分で、不整形円形を呈す。径約102×67cm、深さ約60cmを測る。しっかりとした掘り込みで、黒褐色土による柱痕が観察できた。

**重複：**273号ピットが北壁に重複するが新旧は不明である。

**所見：**周辺は8～10号掘立柱建物、13号掘立柱建物が群在しており、さらに掘立柱建物柱穴とされなかったピッ

ト、土坑も多い。おそらく、北側へ中世生活域が延びると思われる、本土坑も北側の掘立柱建物柱穴として位置付けられるものと推定する。同様に東に近接する71坑も柱痕は無いが、柱穴としての規模に相当する。

2の集石土坑としては、11区76・78・115坑、11-1区137坑が挙げられる。11区の3基は大型の円礫複数を埋土中あるいは埋土下位より出土した集石土坑である。3基とも人骨や古銭、土器類の出土も見ないことから墓壇ではないと判断したい。一方、11-1区137坑は大型土坑で、底面よりやや浮いた状態で大型亜角礫と石臼片が出土している。厳密な集石土坑ではないが、ここに分類した。

## 11区115号土坑(第83図、PL.28)

**位置：**調査区中央部で検出された。53号溝北にあたり、西に83号土坑が近接する。周辺は平坦地形が広がる。

**経過：**確認面は黒褐色粘質土である。土坑埋土も黒褐色土を呈するがAs-Kkを含み上層より円礫や亜角礫が出土したため識別は果たせた。出土礫はほぼ底面より出土し、25cm大の中型自然石が主体だった。被熱痕跡も見られなかった。

**規模：**平面形は不整形円形で、規模は径約117×112cm、深さ約16cmと浅く皿状の断面を示す。

**所見：**浅い土坑底面に礫が集中する。集石という要素から墓壇としての可能性が想起されるが、人骨や古銭等の伴出遺物の出土がないことから、その他の性格も検討すべきだろう。これは北西部で調査した76・78坑も同様である。

## 11-1区137号土坑(第86図、PL.29・58)

**位置：**11-1区西側で確認された。135坑や117坑に挟まれた箇所周辺は南東へ低くなる緩やかな斜面地形が広がる。

**経過：**褐灰色土を確認面とする。埋土はAs-Kkを含む黒褐色土のため識別は容易だった。土坑底面は黄褐色土まで達し、壁の立ち上がりなど良好に検出された。また埋土は単層であり、短時間の埋没土であろう。

**規模：**平面規模は径約185cmの円形を呈する。深さは約70cmで底面はほぼ平坦面を築く。壁は黄褐色土で上位は

開き気味の箱形の断面形を示す。底面北側には小孔を穿つが性格は不明である。

**遺物:**土坑底面より浮いた状態で大型円礫と石臼破片(第86図1)が出土している。埋置か廃棄の所産か不明であるが、土坑時期を反映する出土状態である。

**所見:**整った平面形状で掘り込みもしっかりしているため、土坑状の施設として強い意識が働いている。しかしながら土坑内より石臼が出土する事例を把握しておらず、性格の確定性にまでは至らない。あるいは墓壇の可能性もある。

3に分類した大型不整形あるいは方形土坑は、浅い事例を含めると主体を占める。11区85・86・91・104・106・108坑、11-1区131坑などが挙げられる。このうち、掘り込みのしっかりした3例を述べる。

#### 11区86号土坑(第80図、PL.26)

**位置:**11区中央北側で検出された。5号掘立柱建物内で84坑や85坑が西に近接する地点でほぼ平坦面が広がる。

**経過:**3面調査で検出される7号竪穴建物上層で確認された。地山は黒褐色土であり、土坑埋土も黒褐色土を呈し同色の識別になったが、土坑埋土はAs-Kkを含むため、検出は容易だった。底面は黄褐色土を掘り込みほぼ平坦面を築くため壁の検出も状態良く果たせた。

**規模:**径約127×111cmの不整形を平面形とする。深さは約30cmを測り掘り込みはしっかりしており断面形は箱形を示す。

**所見:**不整形とはいえ比較的整った形状の土坑だが、性格の特定にまでは至らない。

#### 11区106号土坑(第82図、PL.27)

**位置:**11区東側の3号掘立柱建物南で調査された。周辺は南東へ緩やかに低くなる斜面地形が広がりほぼ平坦面が保たれる。

**経過:**暗褐色土を確認面とする。埋土は少量のAs-Kkとローム小塊を多く含むため、識別は容易だった。

**規模:**平面形は整った隅丸正方形を呈す。平面規模は約135×122cm、深さは約60cmを測る。底面は黄褐色土を掘り込み、平坦面を築く。壁の立ち上がりも垂直気味で断面形は箱形を示す。長軸方位は北北西を向く。

**所見:**整った平面形状としっかりした掘り込みから、極めて有機的な土坑と考える。遺物の出土や類似例が無いため、性格の確定までは至らない。

#### 11-1区131号土坑(第85図、PL.29)

**位置:**11-1区北西側で調査された。134号土坑が南に近接し、周辺はほぼ平坦地形が広がる。

**経過:**3面で調査される20号竪穴建物上層で確認された。埋土にAs-Kkを含むため検出は容易だった。

**規模:**平面形は不整形で規模は約131×114cmである。深さは約40cmを測り、良好な掘り込みを見せた。断面形は鍋底形で底面がさらに凹む。

**所見:**円形土坑の用途は様々であり、遺物の出土も見られないため、本土坑の性格の特定はできない。南東に近接する同じタイプの130坑もあり、時期を重ねると群在する可能性がある。

4の長方形土坑は、中・近世遺構で多く見られる土坑形状である。屋敷跡や掘立柱建物群に近接する例が多く、生活に密着した施設であろう。11-1区で多く検出されている。11区では南側で80・81坑が北東に軸を並行して並び、中央部では83坑と93坑が垂直方向に配されている。その他では87・89・94・96~99・102・117坑が11区東側から11-1区西側にかけて調査されている。11-1区では123・125~127・129・132~135坑が主体をなす。ここでは、幾つかを選んで報告する。

#### 11区96号土坑(第81図、PL.27)

**位置:**11区北東側で調査された。11-1区にかけて、長方形土坑が群在する地点である。周辺は平坦地形が広がるが、南にかけて緩やかに低くなる地形変換点である。

**経過:**下層の13号竪穴建物上層で確認された。土坑埋土も同色の黒褐色土ではあったが、As-Kkを含むため、平面形や壁などは良好に検出できた。

**規模:**東北東に長軸を向ける横長長方形を示す。平面規模は約2.5×0.6m、深さは約50cmを測る。底面は下位の竪穴建物床面にまで達しており、掘り込みはしっかりして、壁も直立気味に立ち上がり断面形は箱形を呈す。

**遺物:**土坑底面及び埋土中より土師器破片が出土しているが、下位の13号竪穴建物の埋土からの流入である。

**所見：**長方形土坑である。出土遺物も無く、埋土の特徴も無いことから、確定的な性格までは至らない。東側に一群をなす同形の土坑との関係性が窺われよう。

11区117号土坑(第83図、PL.28)

**位置：**11区東端から11-1区に跨いで2回に分けて調査された土坑である。ほぼ平坦地形が広がるが、南へ低くなる緩斜面地形にある。

**経過：**褐灰色土を確認面としAs-Kkを含む黒褐色土を土坑埋土とするため識別は容易だった。土坑底面は黄褐色土を掘り込み、壁の立ち上がりなど良好に検出された。

**規模：**長軸方位を東北東に向ける横長長方形を平面形とする。平面規模は約5.1×0.7m、深さは約50cmを測る。壁も直立気味に立ち上がる箱形の断面形を示す。

**所見：**96坑と近い長軸方位である。また北に近接する97坑は北北西を向いており、直交する様相を示す。出土遺物も無く、埋土の特徴も無いことから、性格は確定できないが、長方形土坑群の配置を検討すべきであろう。

11-1区127号土坑(第84図、PL.29)

**位置：**11-1区北西側で検出された。周辺はほぼ平坦地形だが、緩やかに南西に低くなる緩斜面地形が広がる。

**経過：**褐灰色土を確認面とする。埋土はAs-Kkを含む暗褐色土であり色調差は明白で検出は容易だった。北側は128坑と重複し、さらに調査区域外に延長するため、全容の把握は果たせなかった。

**規模：**平面形は長軸を北北西に向ける縦長長方形を示す。平面規模は約(3.6)×0.7mで深さは約50cmである。箱形の断面形を示す。

**重複：**128坑と重複する。新旧は土層の観察から128坑が本土坑を切るため、本土坑が古い。

**所見：**97坑と同様に北北西を向く長軸方位である。同様に南に近接する132坑も北北西を向き、117坑や134坑、後述する129・135坑も直交する位置関係にある。見かけ上は方形に囲む形態である。性格は確定できない。

11-1区129号土坑(第84図、PL.29)

**位置：**11-1区北西側で調査された。周辺はほぼ平坦面だが、南東に低くなる緩斜面地形が広がる。

**経過：**褐灰色土を確認面とする。また一部下層の19号堅

穴建物が重なるが、土坑埋土はAs-Kkを含む黒褐色土であり良好に識別できた。

**規模：**横長長方形を呈す。長軸方位を東北東に向け、平面規模は約4.5×0.5m、深さは約40cmを測る。底面は黄褐色土を掘り込み壁も直立気味に立ち上がる箱形の断面形を示す。

**所見：**127坑と直交する配置である。その他の長方形土坑と同様に詳細な性格の確定までには至らないが、方形状に区画する配置として位置付けておきたい。

11-1区135号土坑(第85図、PL.29)

**位置：**11-1区西側で調査された。周辺は南東へ低くなる緩やかな斜面地形が広がり、137坑が西に近接する。

**経過：**確認面は褐灰色土である。埋土はAs-Kkを含む黒褐色土のため容易に検出できた。

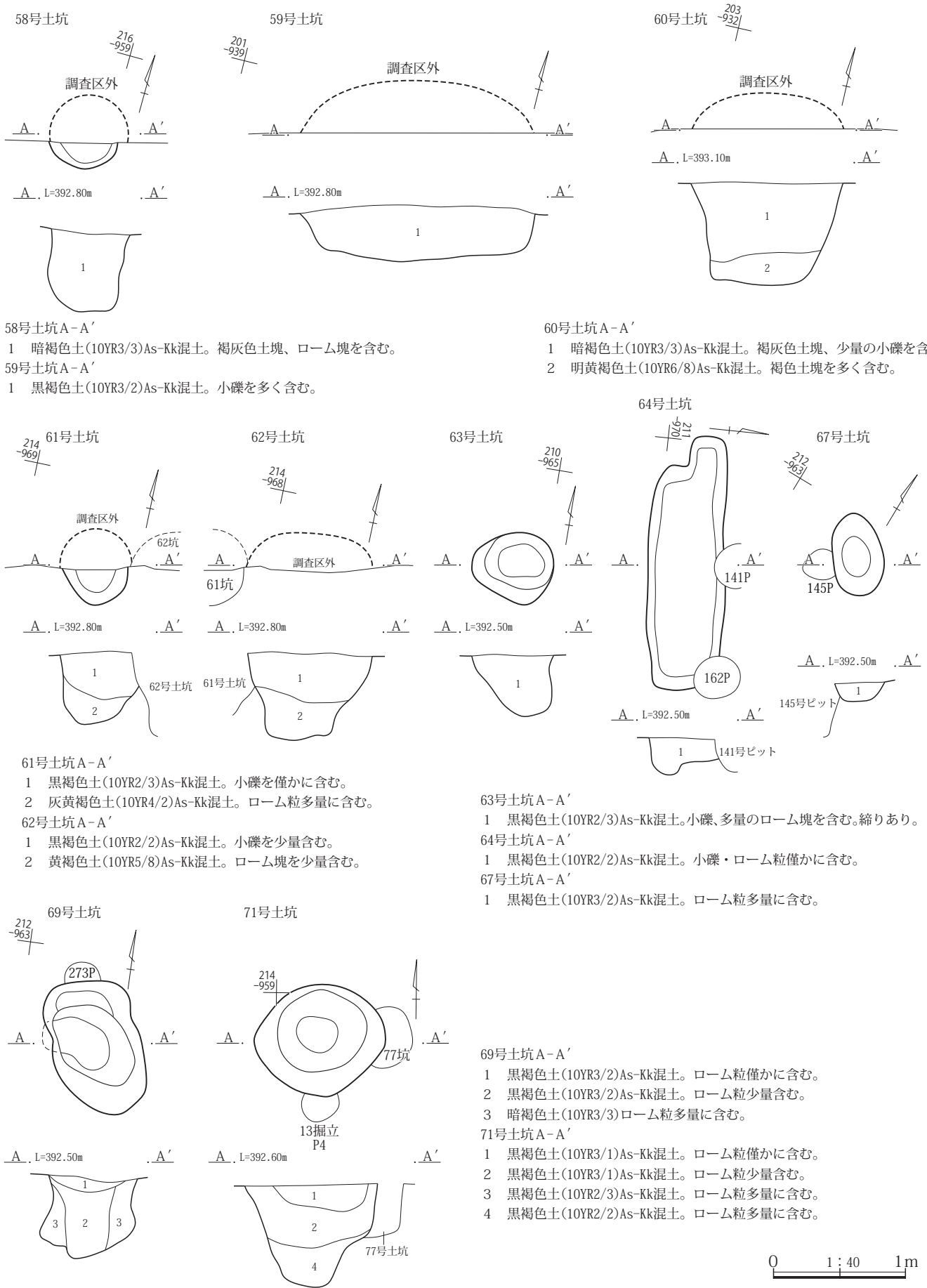
**規模：**長軸方位を東北東に向けた横長の長方形を平面形とし、規模は約3.7×0.7mである。深さは約20cmとやや浅いが、底面は黄褐色土を掘り込み、壁が直立する箱形の断面形を示す。

**所見：**長軸方位を東北東に向けた長方形土坑である。出土遺物も無く、埋土の特徴も無いため性格は判断できないが、周辺の同様の土坑との関係性を考えておきたい。

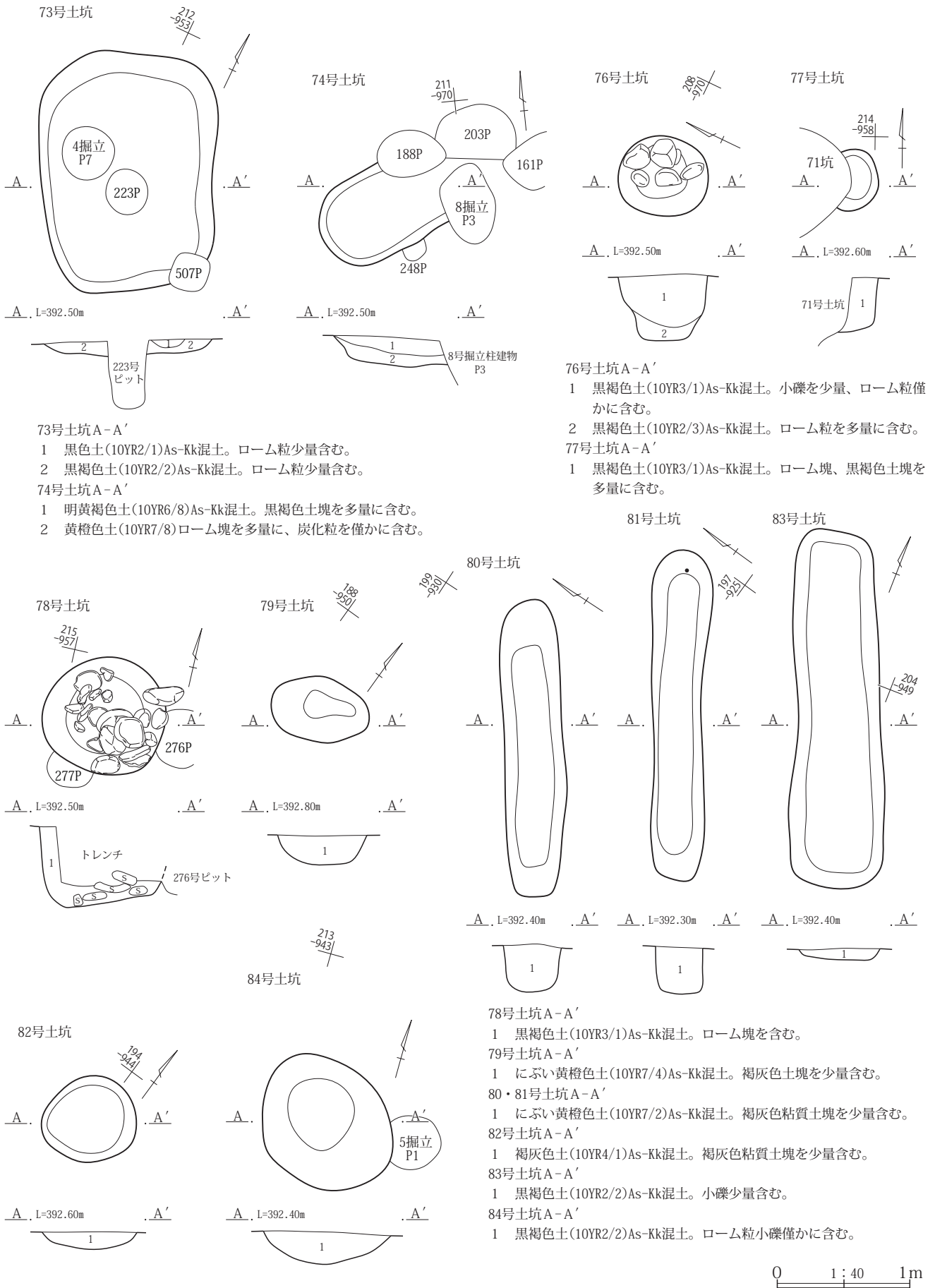
5の掘り込みが浅く不整円形、不整形を呈す土坑は多く、土坑の半数以上を占める。遺物の出土、埋土の特徴も無く、規格性や配置の特色も乏しいため、性格不明な土坑が多い。ここでは、詳細は述べず、規模などは遺構計測表を参考にさせていただきたい。



第3章 検出された遺構と遺物

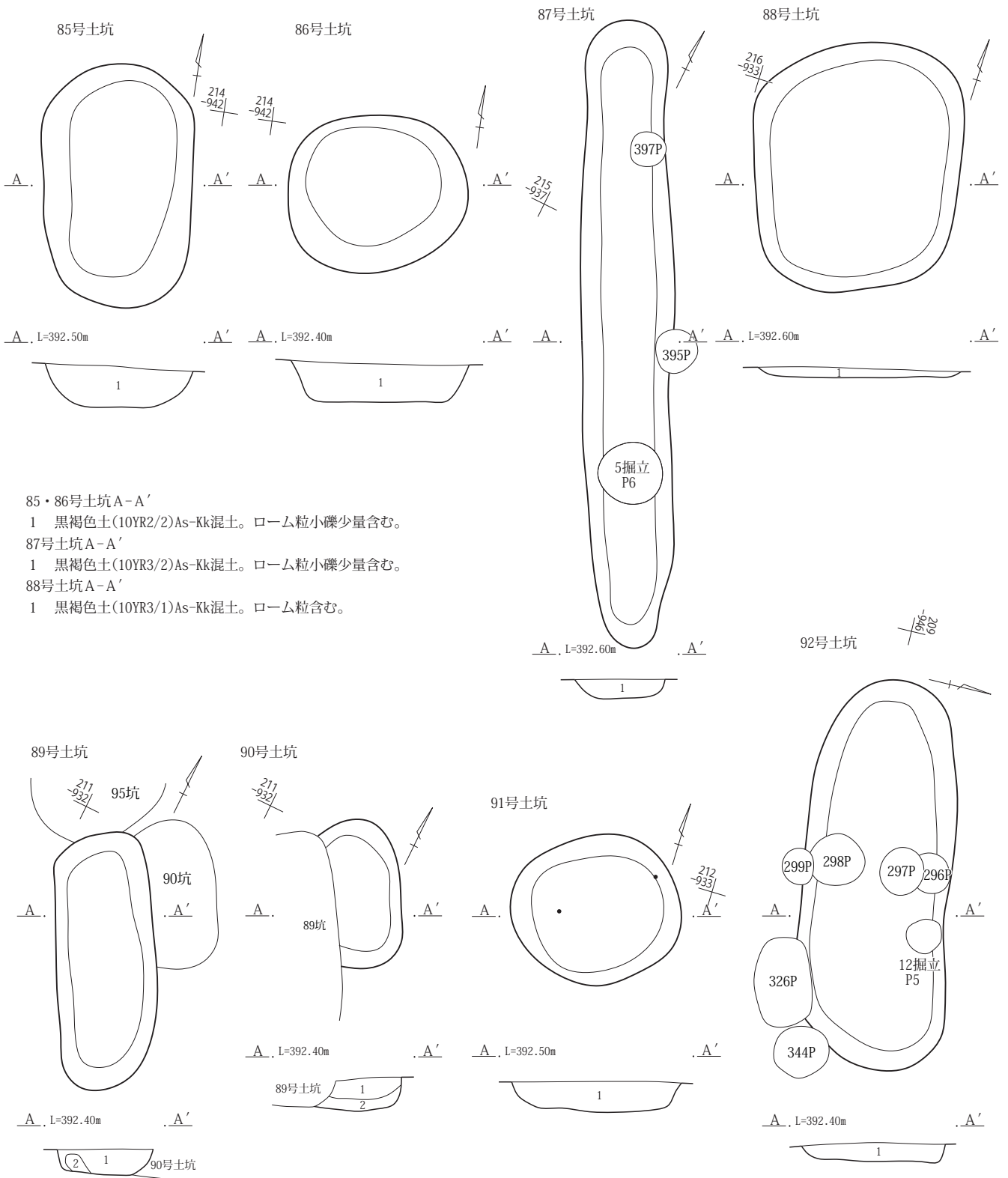


第78図 58~64・67・69・71号土坑



第79図 73・74・76～84号土坑

第3章 検出された遺構と遺物



85・86号土坑 A-A'

1 黒褐色土(10YR2/2)As-Kk混土。ローム粒小礫少量含む。

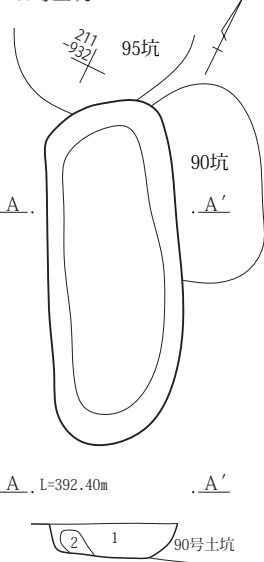
87号土坑 A-A'

1 黒褐色土(10YR3/2)As-Kk混土。ローム粒小礫少量含む。

88号土坑 A-A'

1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。ローム粒含む。

89号土坑



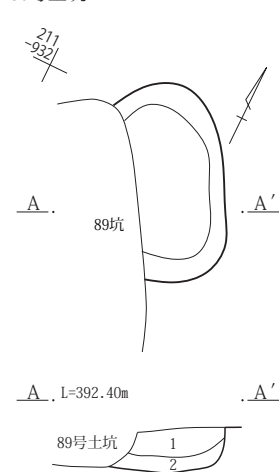
89号土坑 A-A'

1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。  
2 にぶい赤褐色土(5YR4/4)As-Kk主体。

90号土坑 A-A'

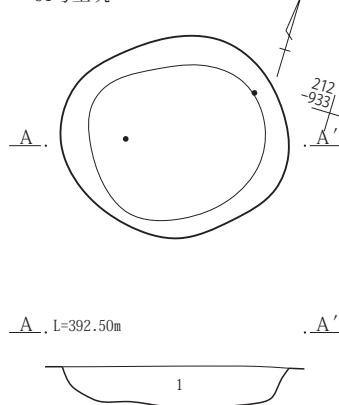
1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。小礫を僅かに含む。  
2 黒褐色土(20YR3/2)As-Kk混土。

90号土坑



89号土坑

91号土坑

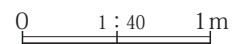
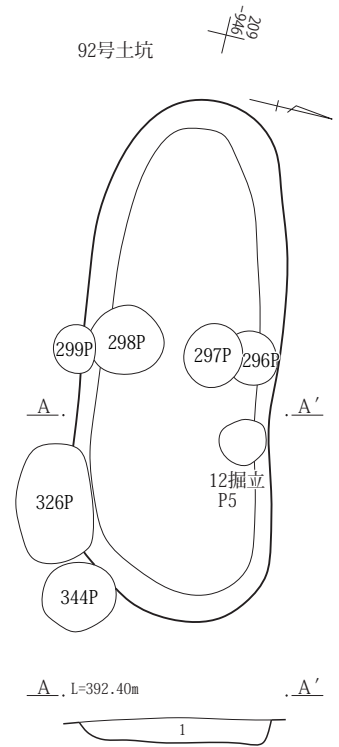


91号土坑 A-A'

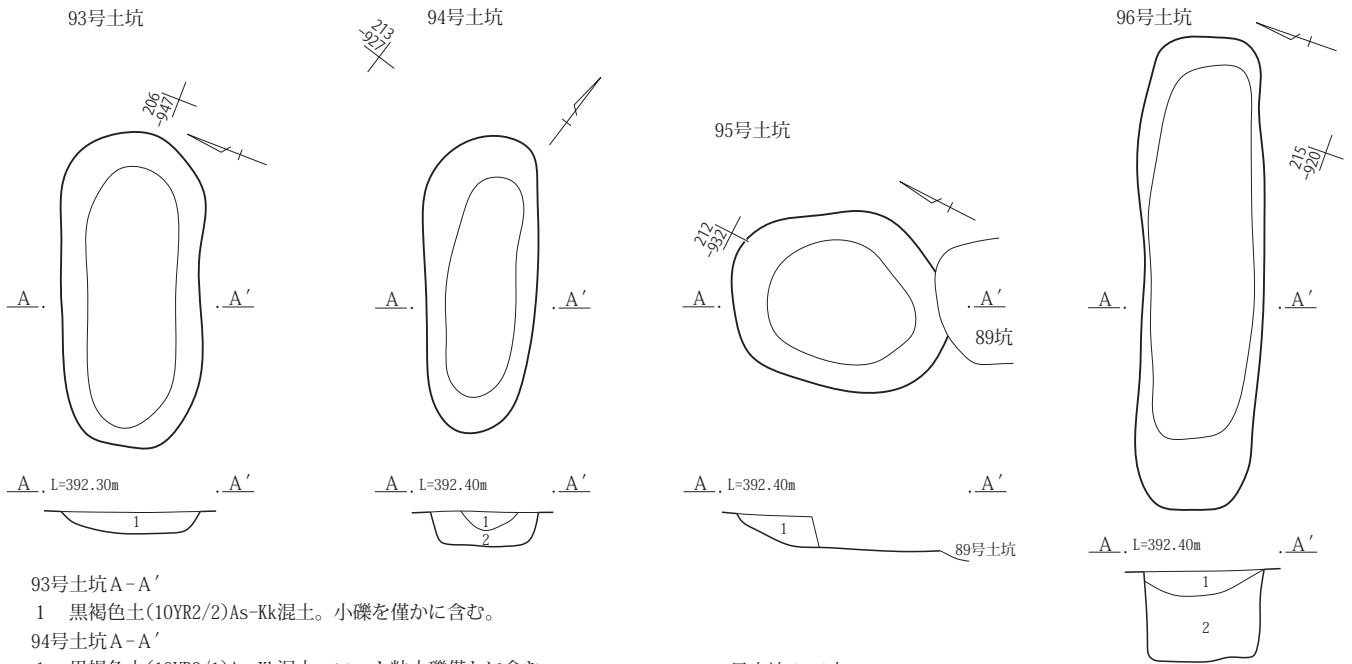
1 黒褐色土(10YR2/2)As-Kk混土。ローム塊を少量含む。

92号土坑 A-A'

1 褐色土(10YR4/4)As-Kk混土。ローム粒少量含む。



第80図 85～92号土坑



93号土坑 A-A'

1 黒褐色土(10YR2/2)As-Kk混土。小礫を僅かに含む。

94号土坑 A-A'

1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。ローム粒小礫僅かに含む。

2 黒褐色土(10YR2/2)As-Kk混土。ローム粒小礫僅かに含む。

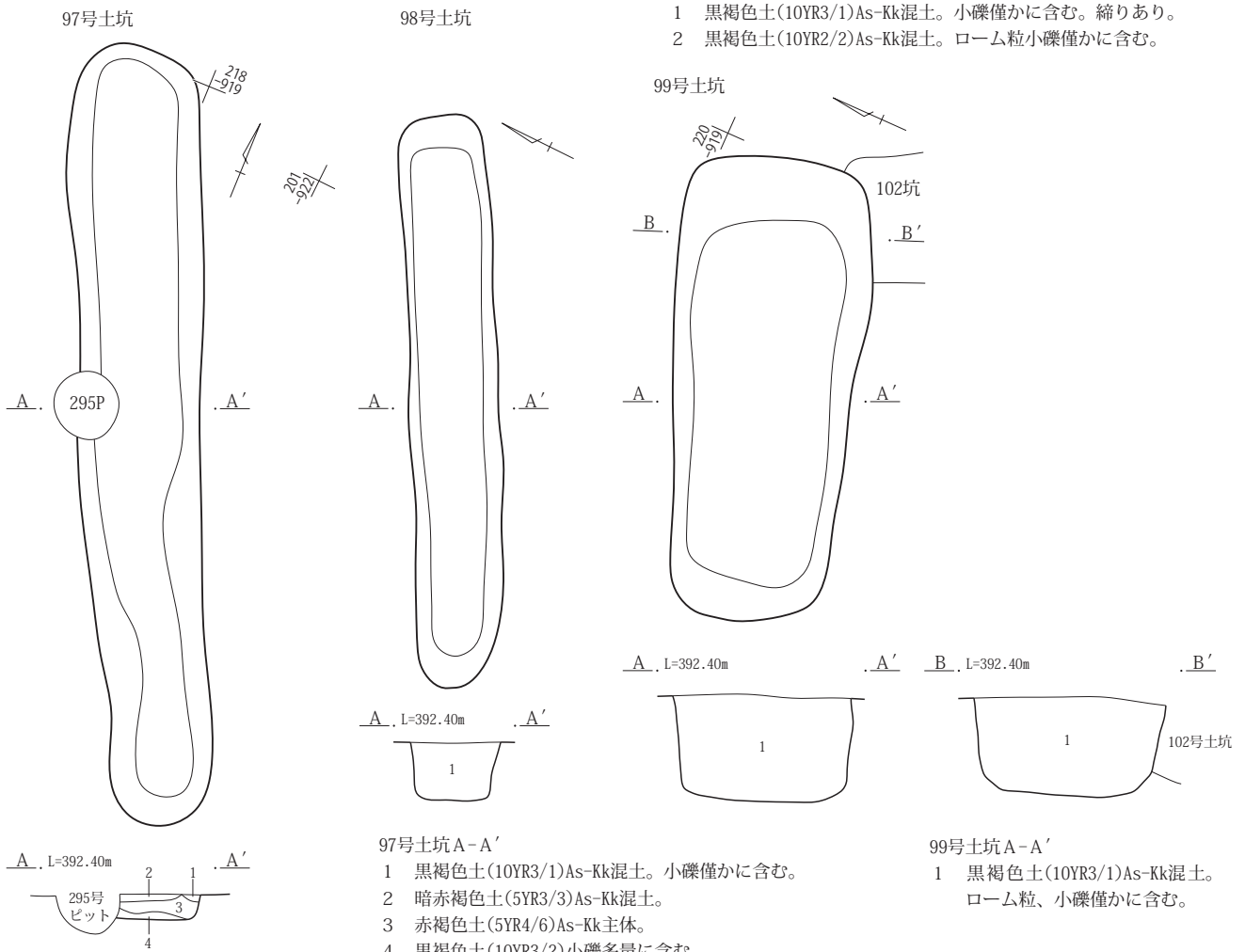
95号土坑 A-A'

1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。ローム粒子小礫僅かに含む。

96号土坑 A-A'

1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。小礫僅かに含む。縮りあり。

2 黒褐色土(10YR2/2)As-Kk混土。ローム粒小礫僅かに含む。



97号土坑 A-A'

1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。小礫僅かに含む。

2 暗赤褐色土(5YR3/3)As-Kk混土。

3 赤褐色土(5YR4/6)As-Kk主体。

4 黒褐色土(10YR3/2)小礫多量に含む。

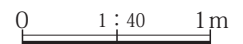
98号土坑 A-A'

1 黒褐色土(10YR2/2)As-Kk混土。

99号土坑 A-A'

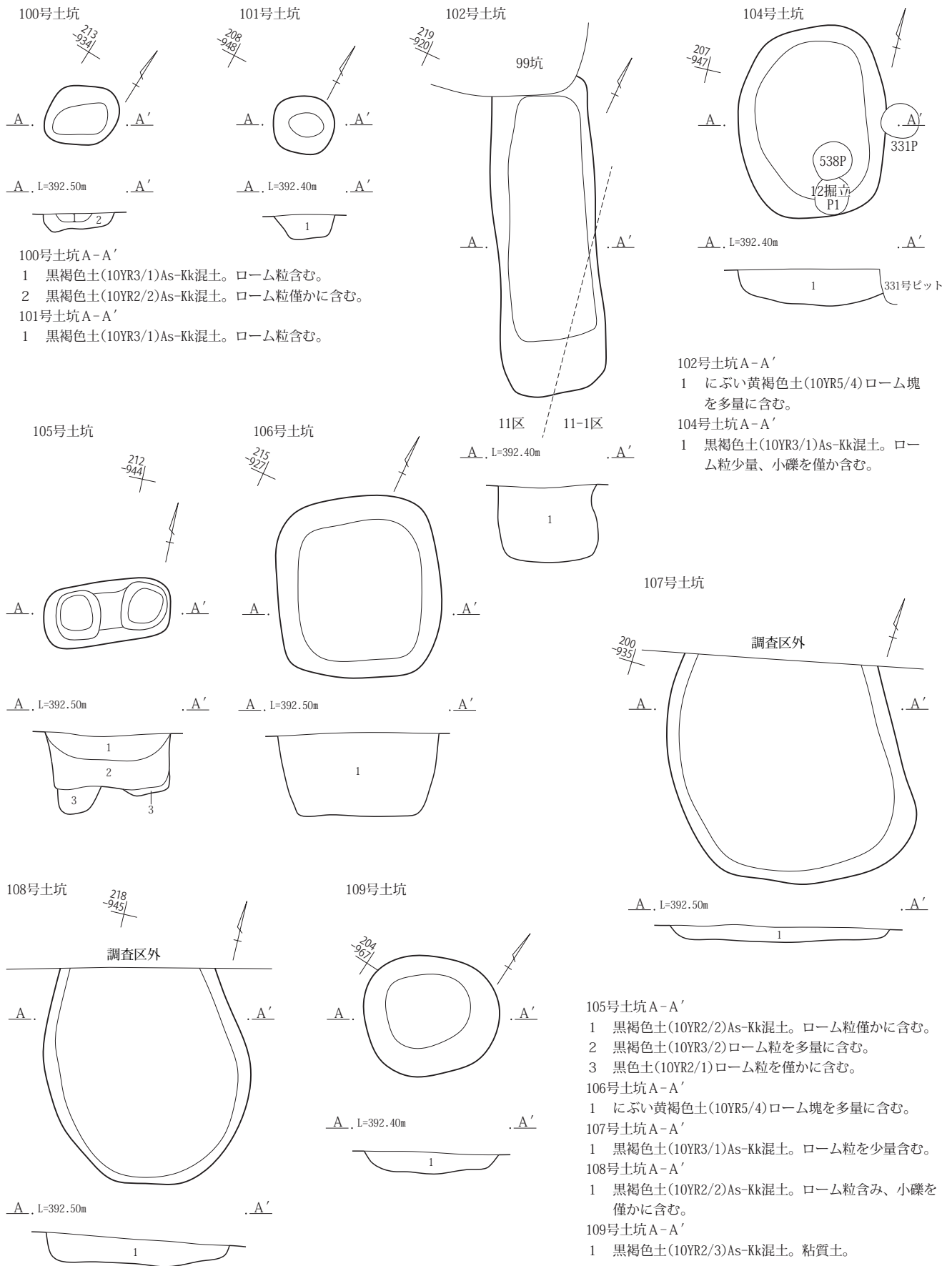
1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。

ローム粒、小礫僅かに含む。



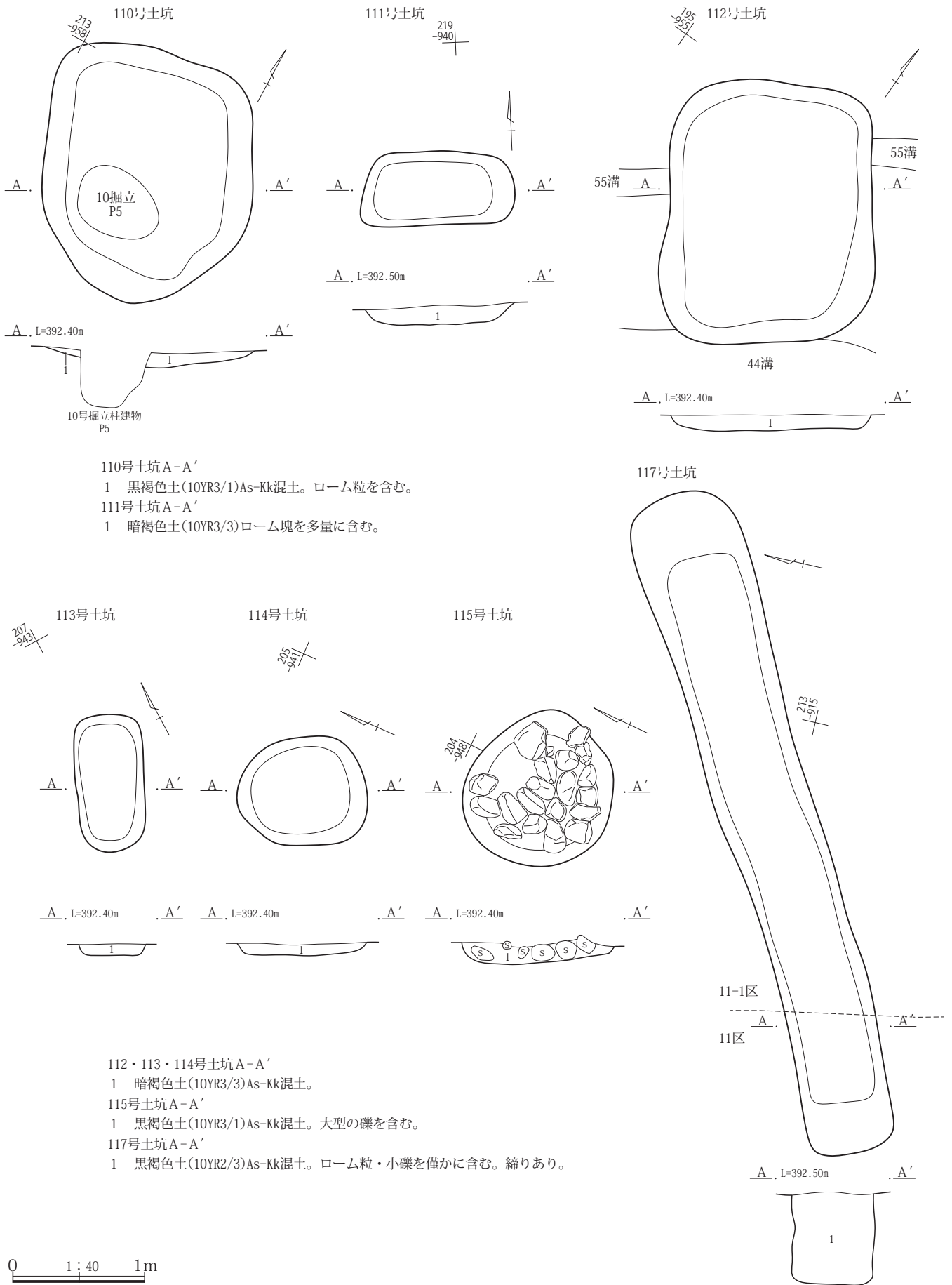
第81図 93~99号土坑

第3章 検出された遺構と遺物



0 1:40 1m

第82図 100~102・104~109号土坑



110号土坑 A-A'  
1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。ローム粒を含む。

111号土坑 A-A'  
1 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊を多量に含む。

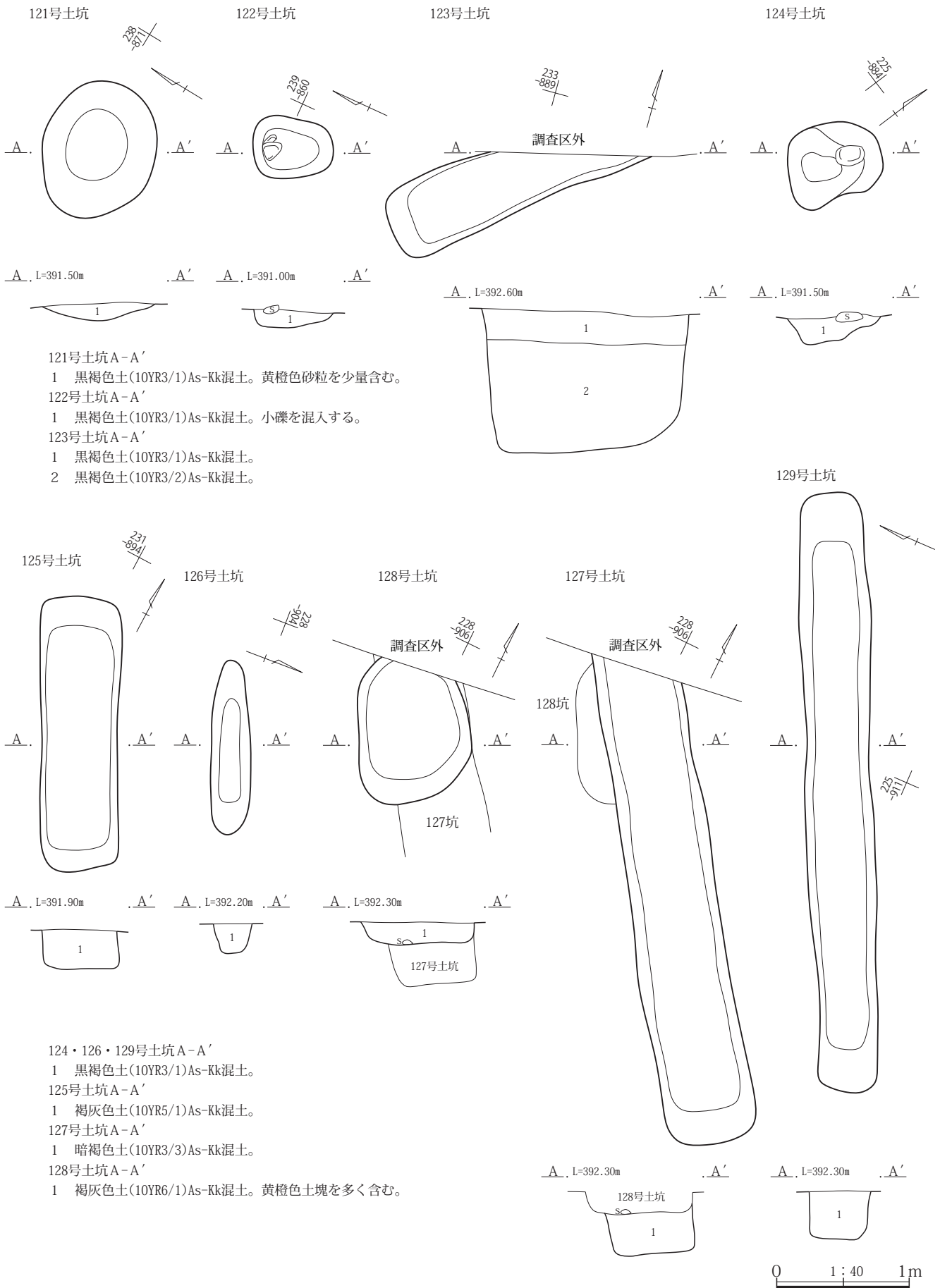
112・113・114号土坑 A-A'  
1 暗褐色土(10YR3/3)As-Kk混土。

115号土坑 A-A'  
1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。大型の礫を含む。

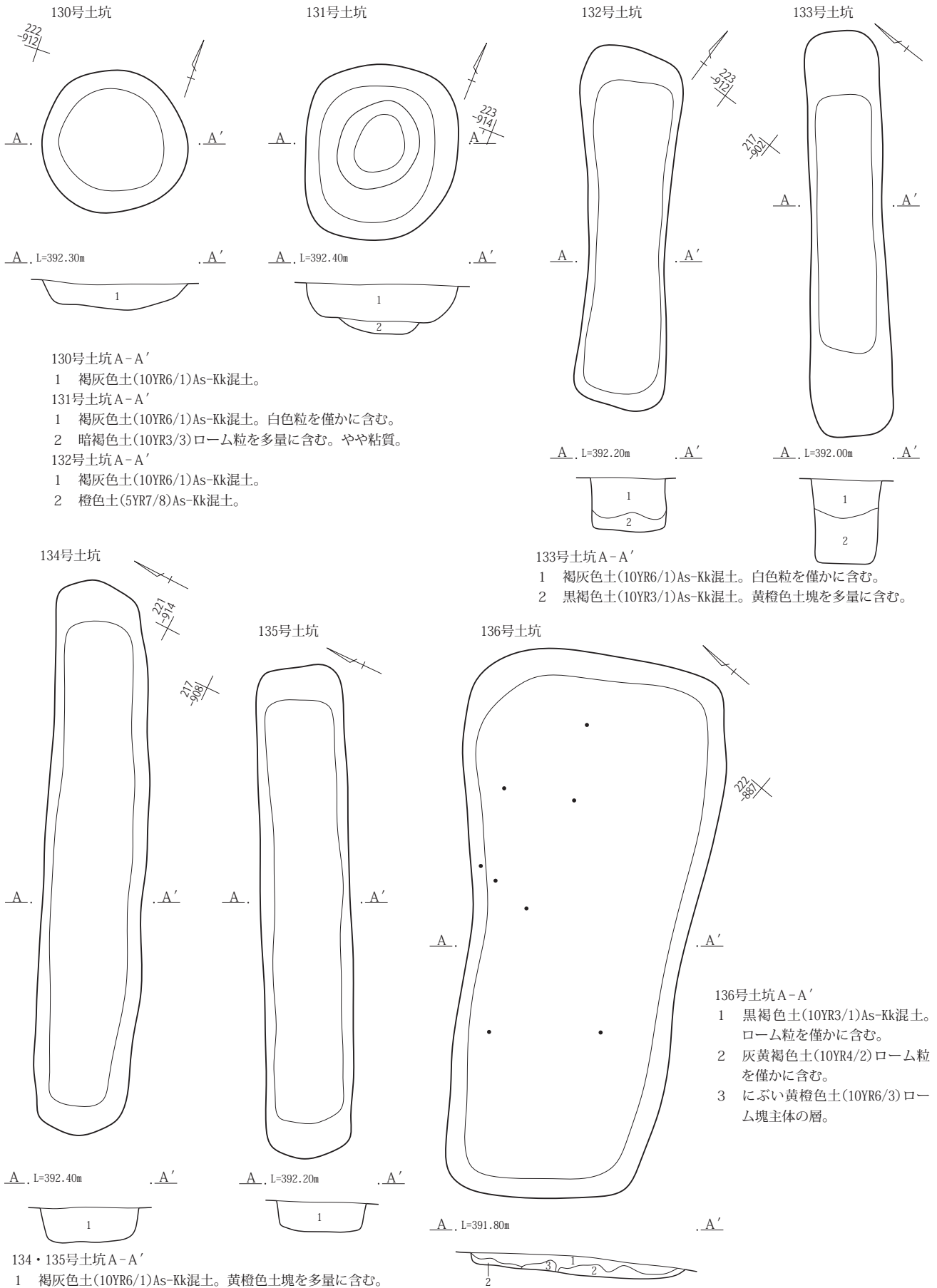
117号土坑 A-A'  
1 黒褐色土(10YR2/3)As-Kk混土。ローム粒・小礫を僅かに含む。縮りあり。

第83図 110～115・117号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

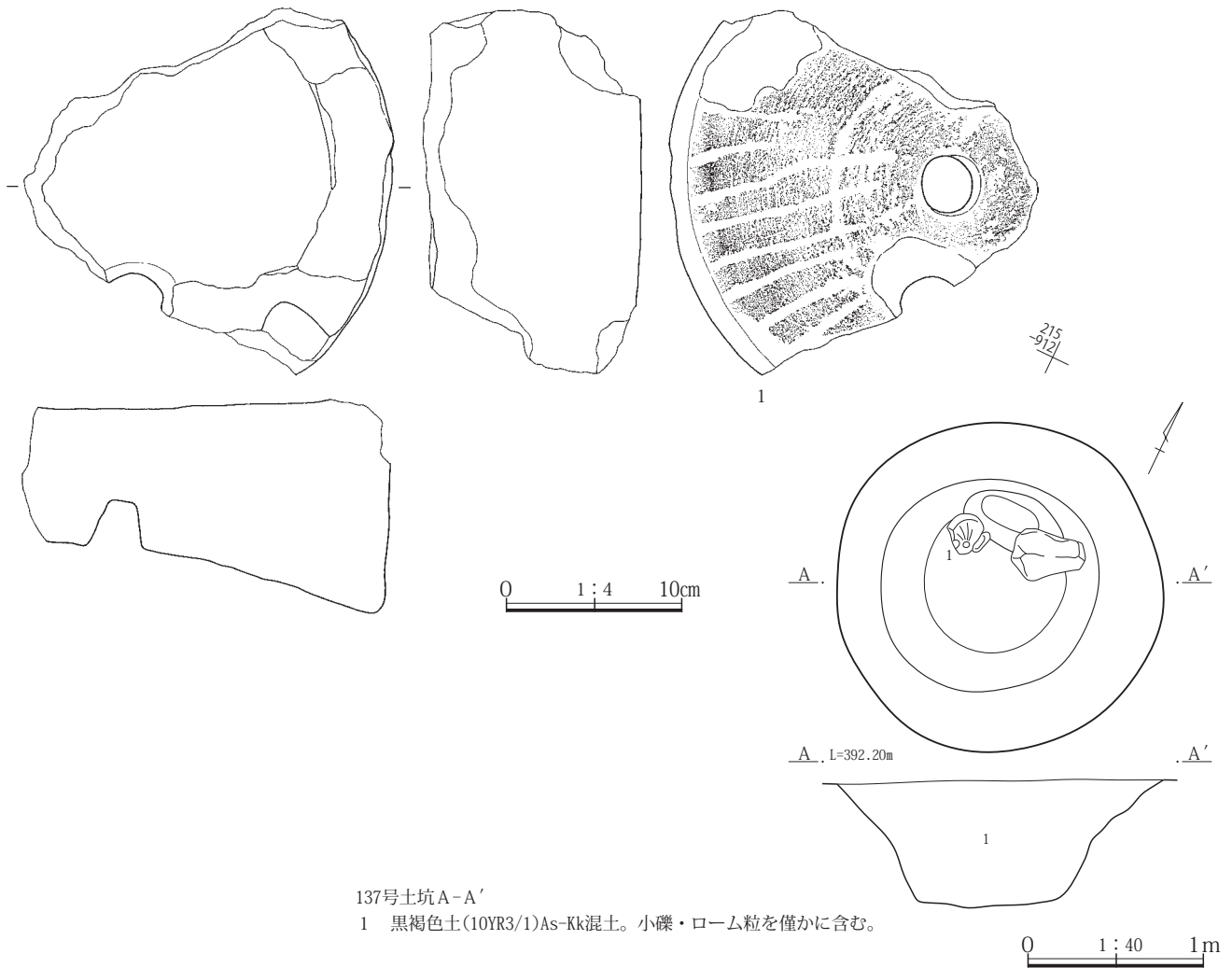


第84図 121～129号土坑



第85図 130~136号土坑





137号土坑A-A'

1 黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。小礫・ローム粒を僅かに含む。

第86図 137号土坑と出土遺物

### ピット

11区及び11-1区では500基以上のピットが調査された。このうち、掘立柱建物の柱穴として判断されたピットを除く388基をピット遺構として扱う。多くのピットは11区北側に集中し、掘立柱建物の分布と重なる傾向が見られる。おそらく柵等の掘立柱建物以外の施設も存在していた可能性がある。ピットの規模は径約20~40cm、深さ約20~50cmに集まり、埋土にAs-Kkが含まれ、鉄滓を出土した(PL.58)164号ピット以外は伴う出土遺物を見ていない。

本書では全てのピットの記述は控え、第6表に遺構計測表として掲載した。詳細を参考にさせていただきたい。ここでは幾つかの柱痕を持つピットを取りあげてみたい。なお、時期は掘立柱建物や土坑と同様に中世に比定している。

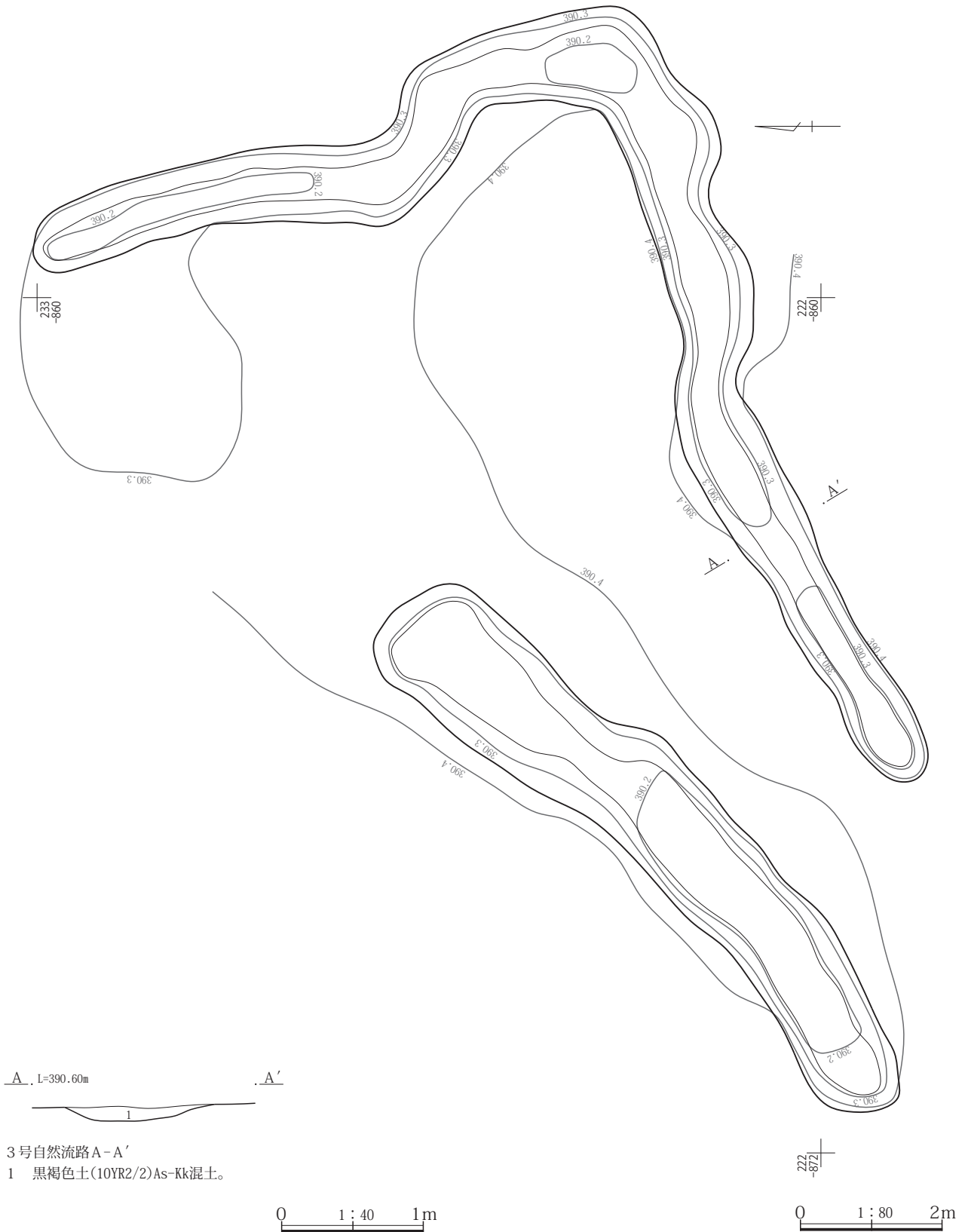
柱痕が観察されたピットは主に11区に集中する。列

挙すると180・185・189・233・235・242・310・317・320・389・448・457・460・485・488・490・516・527号ピットである。掘立柱建物の周辺で検出されており、掘立柱建物と何等かの関係性が窺われる。特に4・6・7号掘立柱建物周辺に多く見られる。このうち457・460・488・233号ピットは列状をなしピット間距離も210cm前後で等間隔に近い。あるいは6号掘立柱建物の桁行に沿う庇であろうか。さらに、南にある485・448号ピットに注意すると柱痕は見られないが、450・199号ピットを加えると、やはり列を観察できる。これも、4号掘立柱建物の南側庇の可能性があろう。また、この2列のピット列を組み合わせて1×3間の新しい掘立柱建物の抽出も検討したが、その他の柱穴、ピットとの関係など整理段階では不明点が多く、ここでは発掘調査の見解を優先して、柱痕のあるピットはピット列あるいは掘立柱建物の底としての可能性を探るのみにとどめておきたい。

3号自然流路(第87図、PL.24)

11-1区南東隅で調査した、自然遺構である。調査第2面確認面相当である黒褐色土～灰黄褐色粘質土を地山とした低地部分である。湧水の中、As-Kkを含む黒褐色

土を埋土とする溝状の流路2箇所を確認したが、明瞭な掘り込みではなく、底面の高低差も顕著ではないため、溝ではなく、自然営力による凹みと判断した。周辺からは遺物の出土も見られなかった。



第87図 3号自然流路

(5)11区・11-1区第3面

主に黄褐色ローム、黄褐色土を確認面とした調査面である。弥生時代後期～古墳時代後期の竪穴建物及び古墳時代前期溝の他に土坑、ピット等を調査した。調査区は全体に11区がほぼ平坦で、11-1区は北西側が平坦ながら南東へ低くなる傾斜地形を見せていた。竪穴建物は、第2面調査で検出した掘立柱建物と同様に、台地平坦面が広がる調査区西側から北側に集まる傾向があり、数軒の重複状態が見られた。大型の溝である50号溝は11区東側で調査区を南北に横断する走行で、出土土器の集中が見られた。土坑、ピットは竪穴建物と同様な立地だが、大きな特徴は見出せなかった。なお、前回報告では8区に古墳時代の竪穴建物3棟があるが、11区で検出された竪穴建物群とは30m以上の距離を置き、別群の可能性がある。

4号竪穴建物(第91図、PL.32・59)

古墳時代前期の小型竪穴建物である。9号竪穴建物との関係性が注意されよう。

**位置：**11区東側50号溝西で調査された。周辺は平坦地形が広がり、調査区内でも高標高地点にあたる。

**経過：**ローム漸移層にあたる褐色土で確認された。竪穴建物埋土上層は暗褐色土を呈し、床面も黄褐色ロームを掘り込むため平面形や壁の検出は良好に果たせた。

**規模：**平面形は整った正方形で、壁も直立気味に立ち上がる。平面規模は約2.8×2.7m、深さ約35cmを測る。長軸方位は北を向くがやや西に傾く。

**床面：**床面はロームを掘り込み、ほぼ平坦面を保つ。全体に軟弱で硬化面は見られなかった。貼床はローム塊と黒褐色土塊を主とする浅黄橙色土を基調とする。床下遺構の検出を試みたが、明瞭な掘り込みは見られなかった。

**施設：**炉を見ない。床面中央やや西寄りに楕円状の大型礫を見るが、基盤礫であり被熱痕跡も認められなかった。

**遺物：**出土遺物量は多くは無いが、古墳時代前期土器を主体とする。出土状態は、床面よりやや浮いた状態で、北東から南西にかけて廃棄された状況が把握できる。破片状態の出土であり、良好な一括遺物ではないが、ほぼ同時期の廃棄と思われる。南西部床面より浮いて出土した器台(1)と埋土中より出土したS字状口縁台付甕口縁部破片(2)を図示した。

**所見：**整った正方形を呈す小型の竪穴建物である。炉を持たず、出土遺物も少ないため詳細は不明だが、西に位置する5号竪穴建物も同時期と思われる。南西約18mに距離を置く9号竪穴建物は規模が小型であり、長軸方位も近似するため関係性は深い。また近接する8号竪穴建物も同時期と考えられる。時期は出土遺物から4世紀後半に比定しておきたい。

5号竪穴建物(第92図、PL.32・59)

古墳時代前期の竪穴建物である。炉は未検出だが貯蔵穴、壁周溝、柱穴2、出入口部ピットを検出した。

**位置：**11区北側で検出された。北半を調査区域外へ延長する。周辺は平坦地形が広がる安定した地点である。

**経過：**ローム漸移層に相当する灰黄褐色土で確認された。同時に北壁沿いに設けた遺構確認用のトレンチによって大きく北半を逸した状態で調査した。竪穴建物埋土は黒褐色土を呈するため、平面形など容易に検出できた。

**規模：**長軸を東北東に向けた長方形を平面形とする。北半を逸するため判然としないが、規模は約4.6×(3.5)m、深さ25cmを測る。壁はやや浅いが立ち上がりは壁周溝から一体化し直立気味である。

**重複：**東側を11号竪穴建物、107坑、543号ピットが重複する。調査区北壁の土層では11号竪穴建物が本竪穴建物を切る新旧関係である。また543号ピットも土層観察で新しいピットと判断できた。107坑は不明である。おそらく本竪穴建物が新しい重複関係と考えた。その他では上層の遺構である5号掘立柱建物P5や376号ピットが床面を切る。

**床面：**床面はロームを掘り込み平坦面を築き、やや軟弱で硬化面は見られなかった。貼床はローム塊主体の浅黄橙色土を基調とする。床下遺構は明瞭ではなかった。

**施設：**壁周溝を床面で検出した。西壁、南壁、東壁の一部まで巡る。北壁周囲は不明である。土坑1を南壁際で検出した。おそらく貯蔵穴であろう。また、床下調査でP1～P3を確認したが、P1は出入口部のピット、P2とP3は小型だが柱穴として位置付けておきたい。炉を見ないがあるいは北半に位置するのであろう。

**遺物：**埋土中より小破片が少量出土する。南東隅の床面に逆位の壺口縁部が出土している。また、床面中央やや西寄りの376号ピット南床直上で扁平な大型円礫が出土



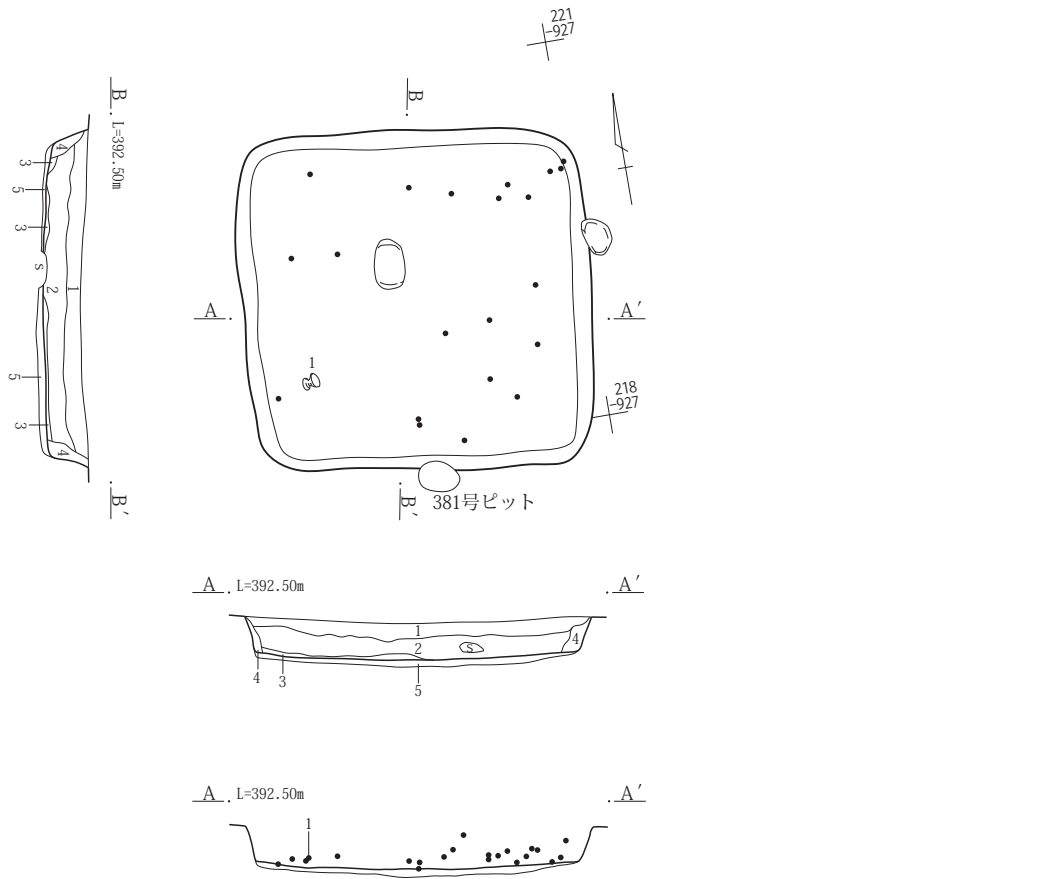
第88図 11区、11-1区3面全体図



第89図 11区3面全体図

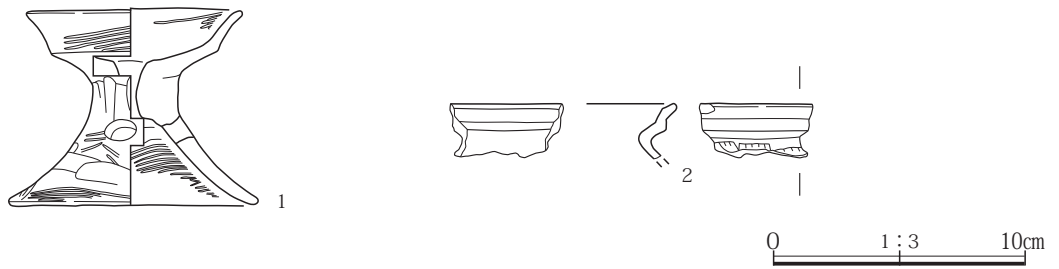


第90図 11-1区3面全体図



- 4号竪穴建物A-A'・B-B'
- 1 暗褐色土(10YR3/3)黄橙色粒を少量含む。
  - 2 黒褐色土(10YR3/1)黄橙色粒を少量、ローム粒を僅かに含む。
  - 3 黄橙色土(10YR8/6)黒褐色土塊を少量含む。ローム塊主体。
  - 4 明黄褐色土(10YR6/6)黄橙色粒を僅かに、ローム粒を少量含む。
  - 5 浅黄橙色土(10YR8/4)ローム塊主体。黒褐色土塊を少量含む。(掘方)

0 1:60 2m

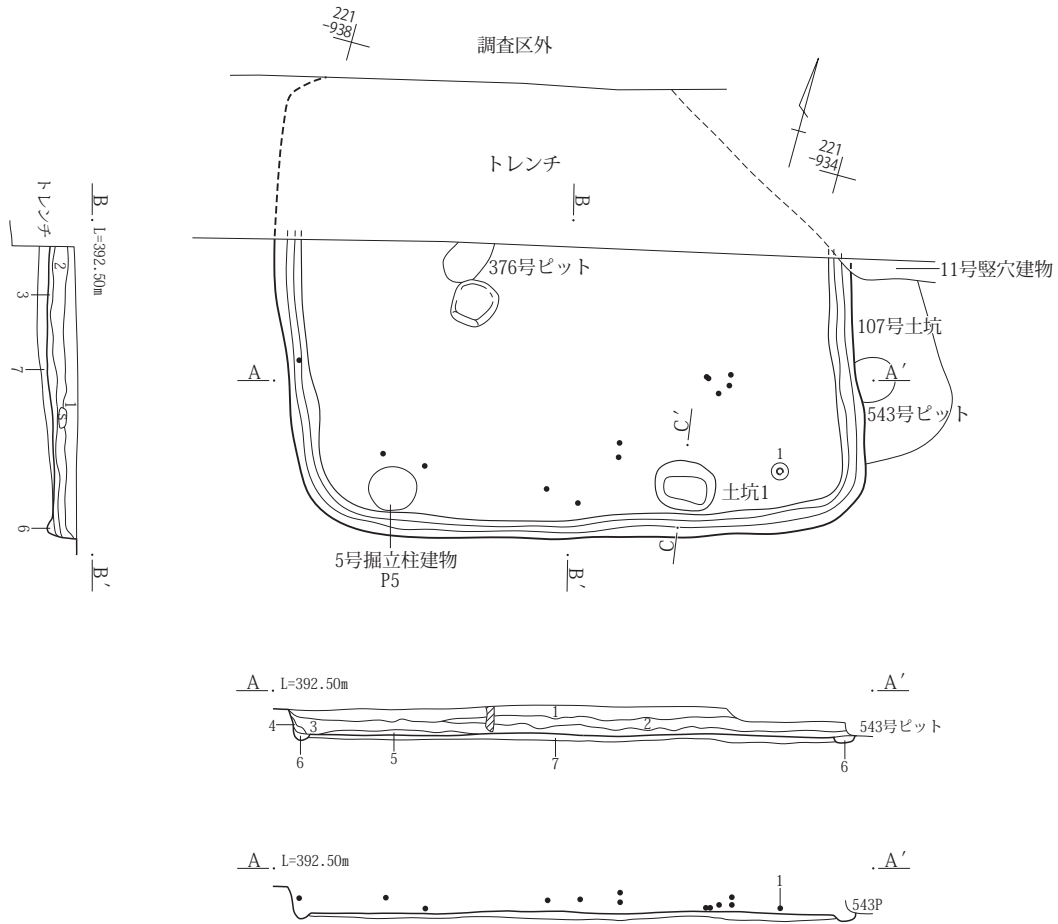


第91図 4号竪穴建物と出土遺物

している。逆位壺口縁部と同様に居住に伴う出土状態の可能性はある。

**所見:** 4号竪穴建物と同様に古墳時代前期の所産である。北側を失うため、判然としないが整った長方形を呈する。炬は検出できなかったが、床下調査で得られたP2と

P3を柱穴として位置付け、土坑1とP1を正面ではないが入口部ピットとして考えた。故に主軸は北北西に向くと考えたい。時期は出土土器1点だが4世紀後半としたい。



5号竪穴建物 A-A'・B-B'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)黄橙色粒・橙色粒を僅かに含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)黄橙色粒・ローム粒・橙色粒を僅かに含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3)黄橙色粒・橙色粒を少量、ローム粒を多く含む。
- 4 明黄褐色土(10YR6/6)黄橙色粒・橙色粒・ローム粒を僅かに含む。壁崩落土。
- 5 暗褐色土(10YR3/3)黄橙色粒を僅かに、ローム塊を多く含む。
- 6 灰黄褐色土(10YR4/2)黄橙色粒・ローム粒を少量含む。粘性あり。(周溝)
- 7 浅黄褐色土(10YR8/4)ローム塊主体。黒褐色土粒・塊を僅かに含む。(掘方)

土坑1

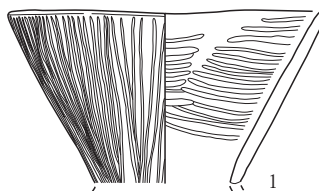
C, L=392.30m, C'



5号竪穴建物土坑1 C-C'

- 1 黒褐色土(10YR3/2)黄橙色粒・ローム粒を僅かに含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2)黄橙色粒・橙色粒を少量、ローム塊を多く含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3)黄橙色粒を僅かに含む。粘性強い。

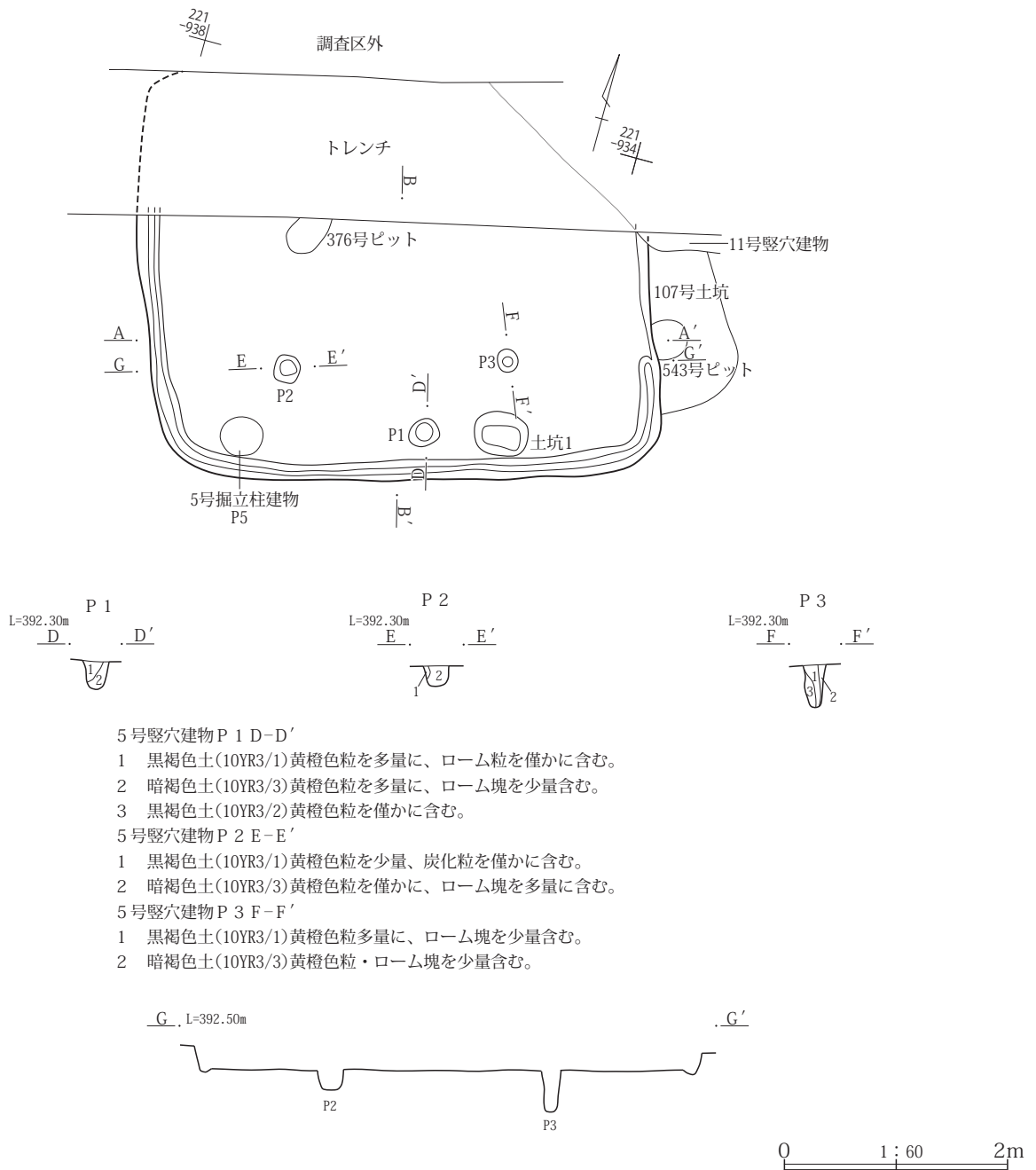
0 1:60 2m



0 1:3 10cm

第92図 5号竪穴建物(1)と出土遺物





5号竪穴建物 P 1 D-D'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)黄橙色粒を多量に、ローム粒を僅かに含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)黄橙色粒を多量に、ローム塊を少量含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)黄橙色粒を僅かに含む。

5号竪穴建物 P 2 E-E'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)黄橙色粒を少量、炭化粒を僅かに含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)黄橙色粒を僅かに、ローム塊を多量に含む。

5号竪穴建物 P 3 F-F'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)黄橙色粒多量に、ローム塊を少量含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)黄橙色粒・ローム塊を少量含む。

第93図 5号竪穴建物(2)

6号竪穴建物(第94～96図、PL.33・35・59)

須恵器甕を出土した古墳時代後期の焼失家屋である。カマドを見ないが調査区域外か。貯蔵穴、柱穴2基、壁周溝を見る。

**位置：**調査区北側に位置する。北側を調査区域外に延ばす。周辺は平坦面が保たれる地形である。

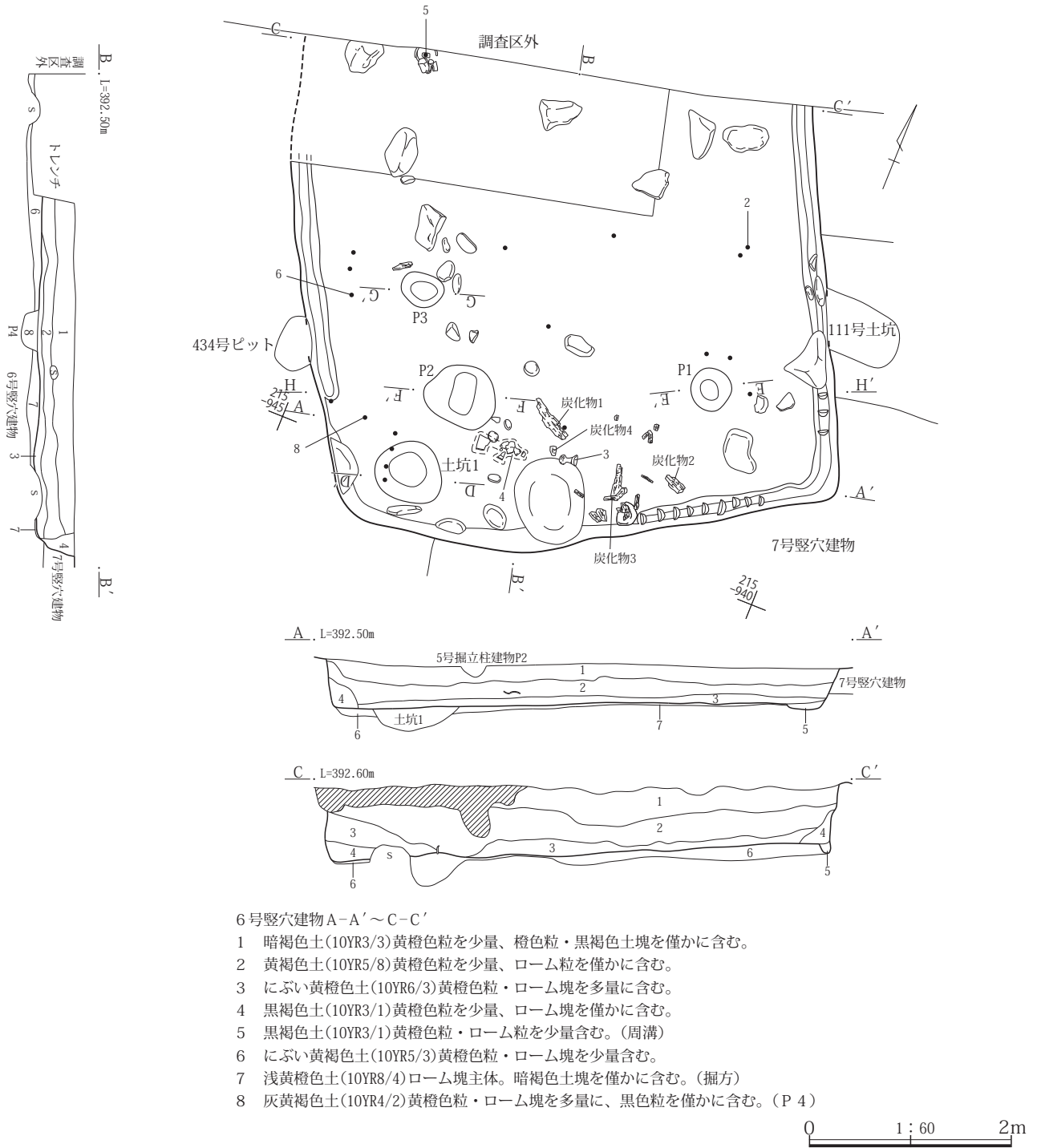
**経過：**ローム漸移層に相当する灰黄褐色土で確認した。埋土との色調差が明瞭で、検出は容易だった。5号竪穴建物と同様に北壁沿いの遺構確認用トレンチによって北

西側を大きく逸し、北側は東壁と土層の観察で調査区域外に延長する様相が確認された。

**規模：**長軸を北北西に設けた長方形を平面形とする。平面規模は約(4.8)×5.2m、深さは約40cmを測る。調査区北壁の土層観察では、壁の高さは約60cmである。

**重複：**南壁に7号竪穴建物が重なる。土層による新旧、出土遺物からも本竪穴建物が新しい。その他では上層の遺構である111坑や434号ピットが本竪穴建物を切る。

**床面：**床面はロームを掘り込み、ほぼ平坦面を築く。明



第94図 6号竪穴建物(1)

瞭な硬化面は見られなかった。貼床はローム塊を主とする浅黄褐色土を基調とする。床下埋土はローム塊からなる灰黄褐色土で、掘方は基盤礫が露出し北東側と北西側に広い凹みが検出された。

**施設：** 炉、カマドが検出されていないが、東壁にカマドを見ないことから、北カマドの可能性はある。

壁周溝は東壁際と南壁の東半、西壁の北半に見る。壁

周溝の途切れる南西隅周辺に出入口部の施設の存在が想定できる。また、南壁際と東壁際の壁周溝底面に半月状の掘削痕が認められた。壁柱穴ではなく、壁周溝掘削の痕跡であろうか。

土坑1が南西隅で検出された。径約60cm、深さ約30cmの不整形円形の土坑で、埋土の特徴も無く、遺物の出土も見られなかったが、位置的に貯蔵穴としたい。

第3章 検出された遺構と遺物



6号竪穴建物土坑1 D-D'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)黄橙色粒を少量、ローム塊を多く含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)黄橙色粒を僅かに、ローム塊を少量含む。底面に小礫を見る。

6号竪穴建物P1 E-E'

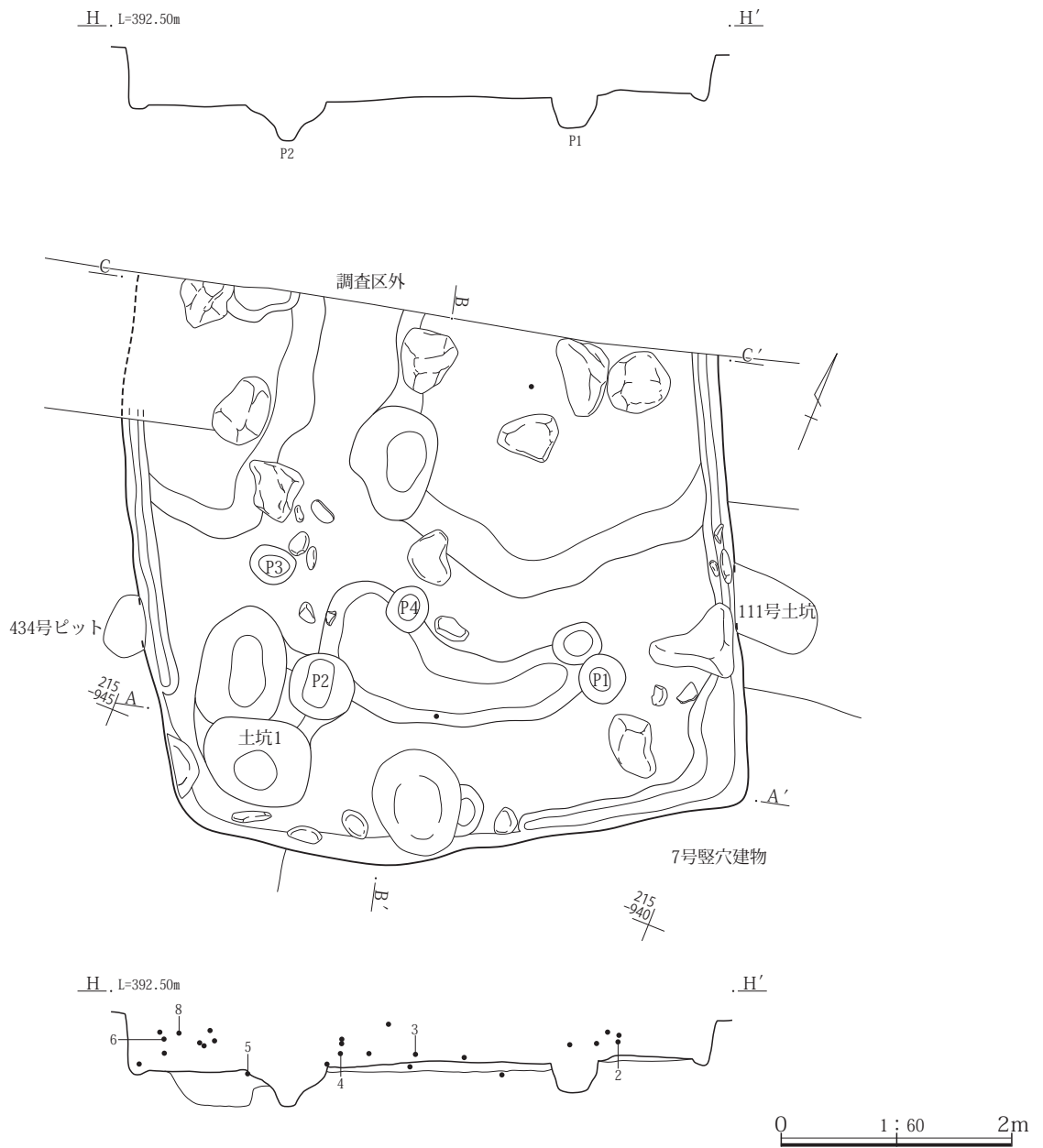
- 1 暗褐色土(10YR3/3)黄橙色粒を多量に、炭化粒を僅かに含む。底面に小礫を見る。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR5/3)黄橙色粒を少量、ローム塊を多く含む。

6号竪穴建物P2 F-F'

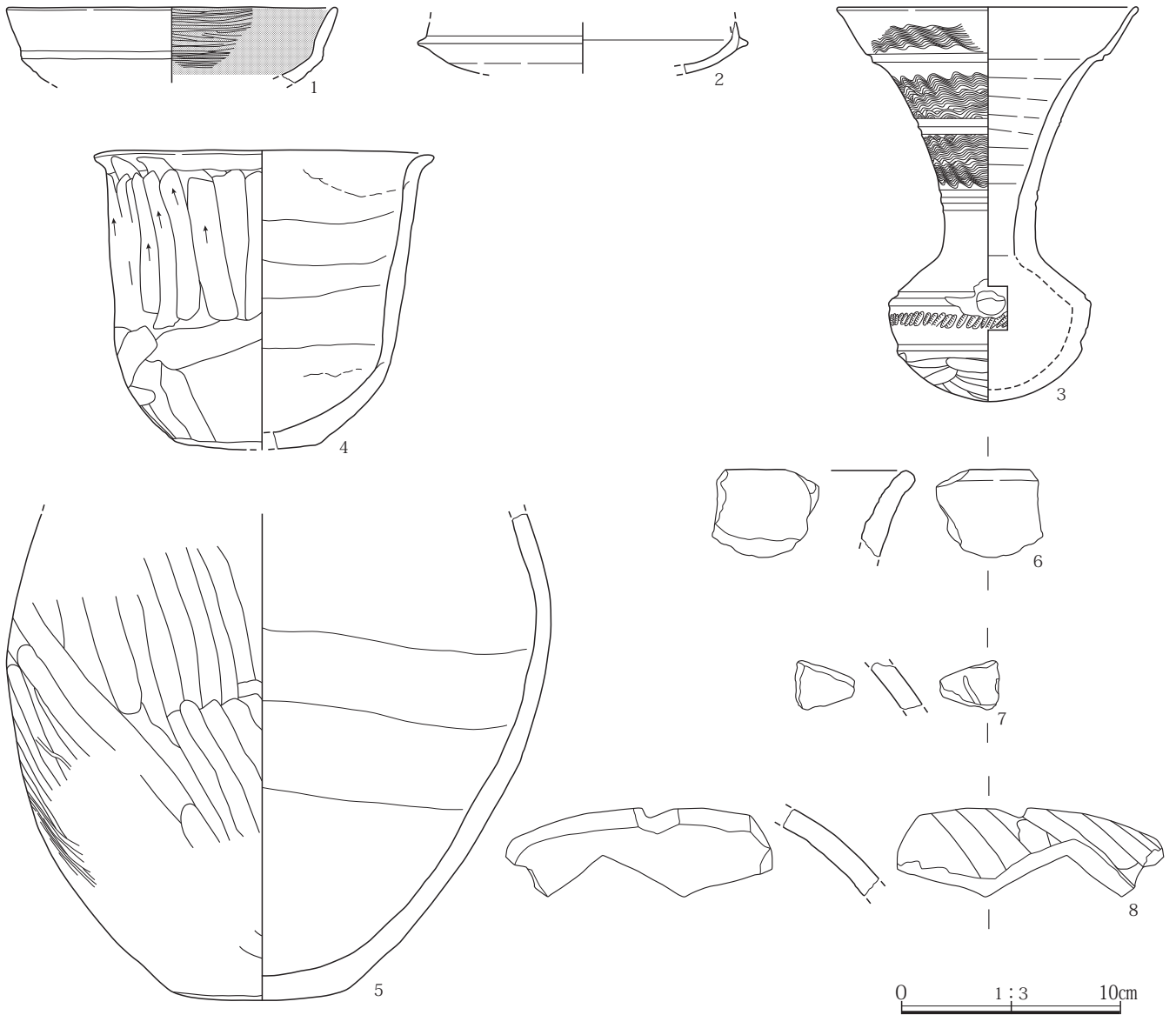
- 1 褐灰色土(10YR6/1)黄橙色粒を少量、炭化粒を僅かに含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)黄橙色粒を多量に、橙色粒・ローム塊・黒褐色土塊を僅かに含む。

6号竪穴建物P3 G-G'

- 1 暗褐色土(10YR3/3)黄橙色粒を多量に、ローム塊を少量、炭化粒を僅かに含む。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR5/3)黄橙色粒を少量、ローム塊を僅かに含む。
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2)黄橙色粒・ローム粒を少量含む。



第95図 6号竪穴建物(2)



第96図 6号竪穴建物出土遺物

ピットは3基が確認された。P 1とP 2は位置的にも深さも柱穴として位置付けられよう。P 3はやや浅く、柱穴としては不適當と判断した。なお、床面に大型円礫が多く見るが、地山の黄褐色土に含まれる基盤礫である。**遺物**：南側に集中する傾向がある。南側には炭化材が集中しており、このことから本竪穴建物を焼失家屋として位置付けたい。炭化材と伴にはほぼ完形の須恵器甕(3)が南壁際大型円礫南より出土している。埋土下位の出土であり、居住に伴う遺物ではない。また5の土師器甕の体部下半～底部は調査区北壁際の床直で出土する。その他の土器は埋土上層から下位にかけて出土しており、おそらく一括廃棄に伴う所産として考えられる。出土土器の大半が炭化材の上位で出土していることから、おそらく

焼失後に土器等を一括廃棄したものと考えられよう。

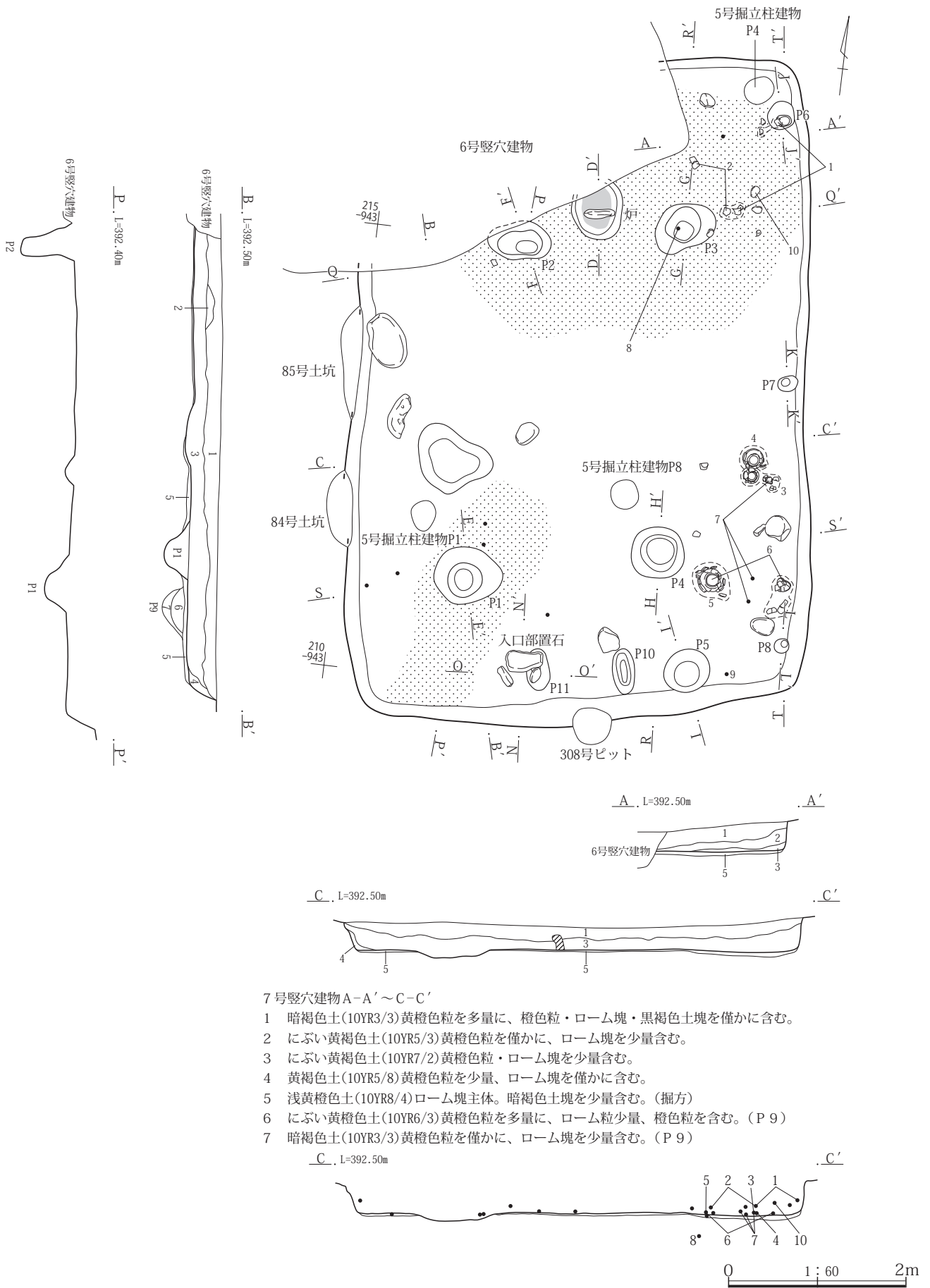
**所見**：須恵器甕の出土が目される竪穴建物である。焼失家屋であるが、出土土器に被熱痕跡を見ないことから、焼失後の廃棄と捉えられよう。時期は出土土器から古墳時代後期としたい。

#### 7号竪穴建物(第97～100図、PL.34・35・59・60)

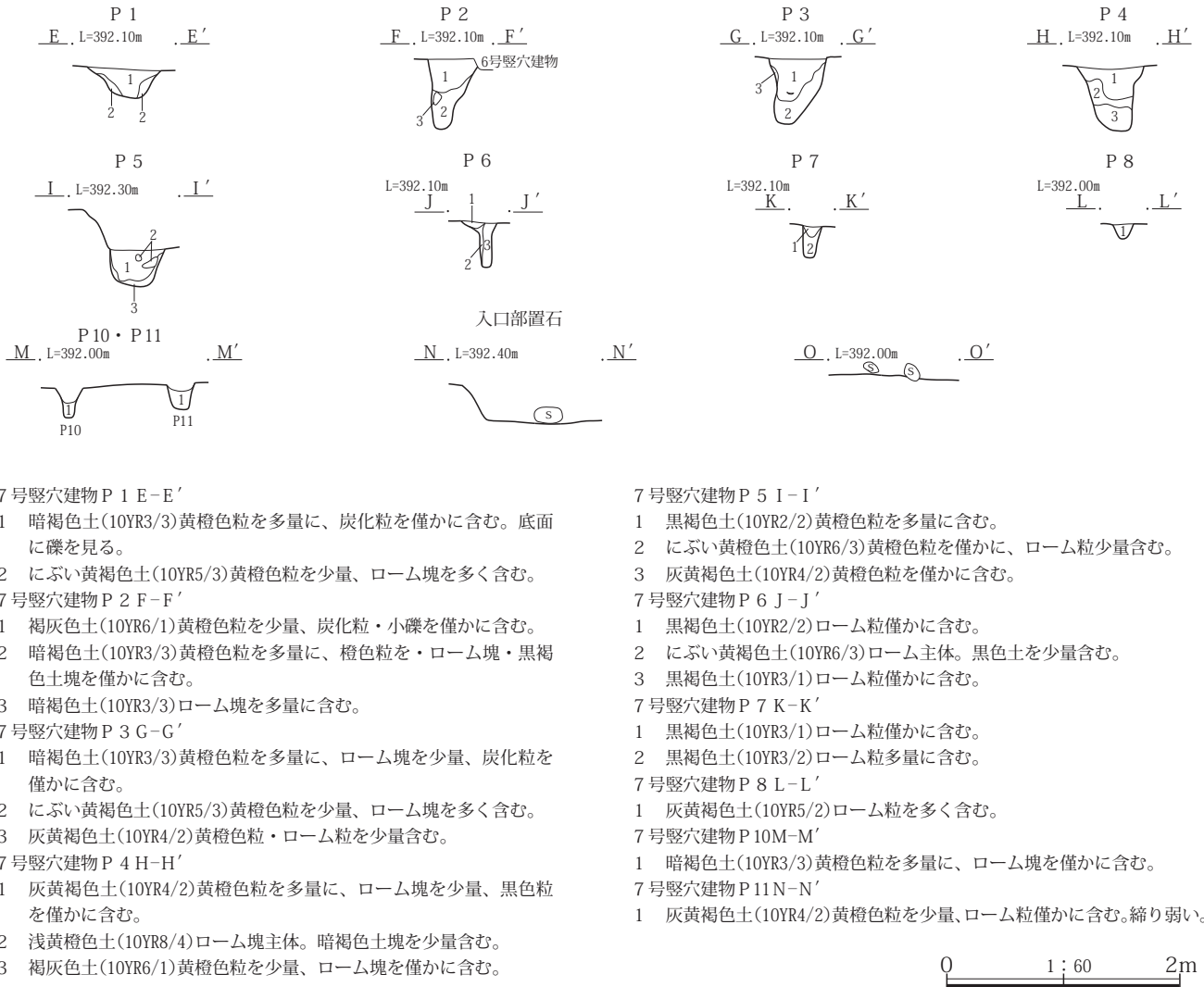
大型の弥生時代後期の竪穴建物である。地床炉、4本柱穴、小型の貯蔵穴、出入口部ピットを見る。南東隅の出土遺物が良好である。

**位置**：11区中央北側で6号竪穴建物南に重複して調査された。周辺は平坦面が広がる。

**経過**：ローム漸移層である灰黄褐色土で確認された。埋



第97図 7号竪穴建物(1)



第98図 7号竪穴建物(2)

土は暗褐色土を呈するため色調差は明瞭で平面形の確認など容易に果たせた。

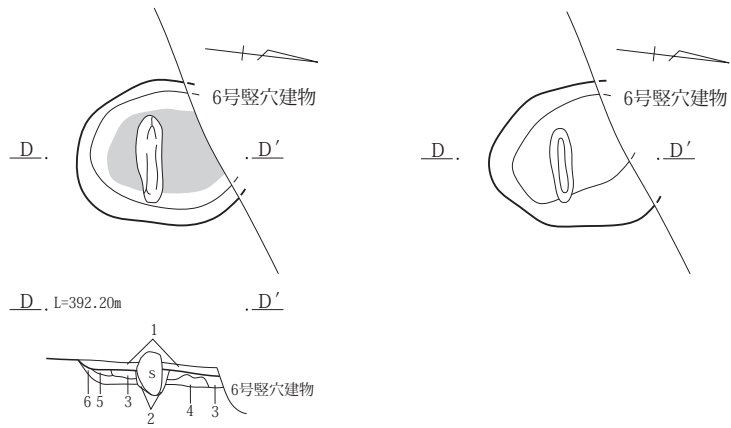
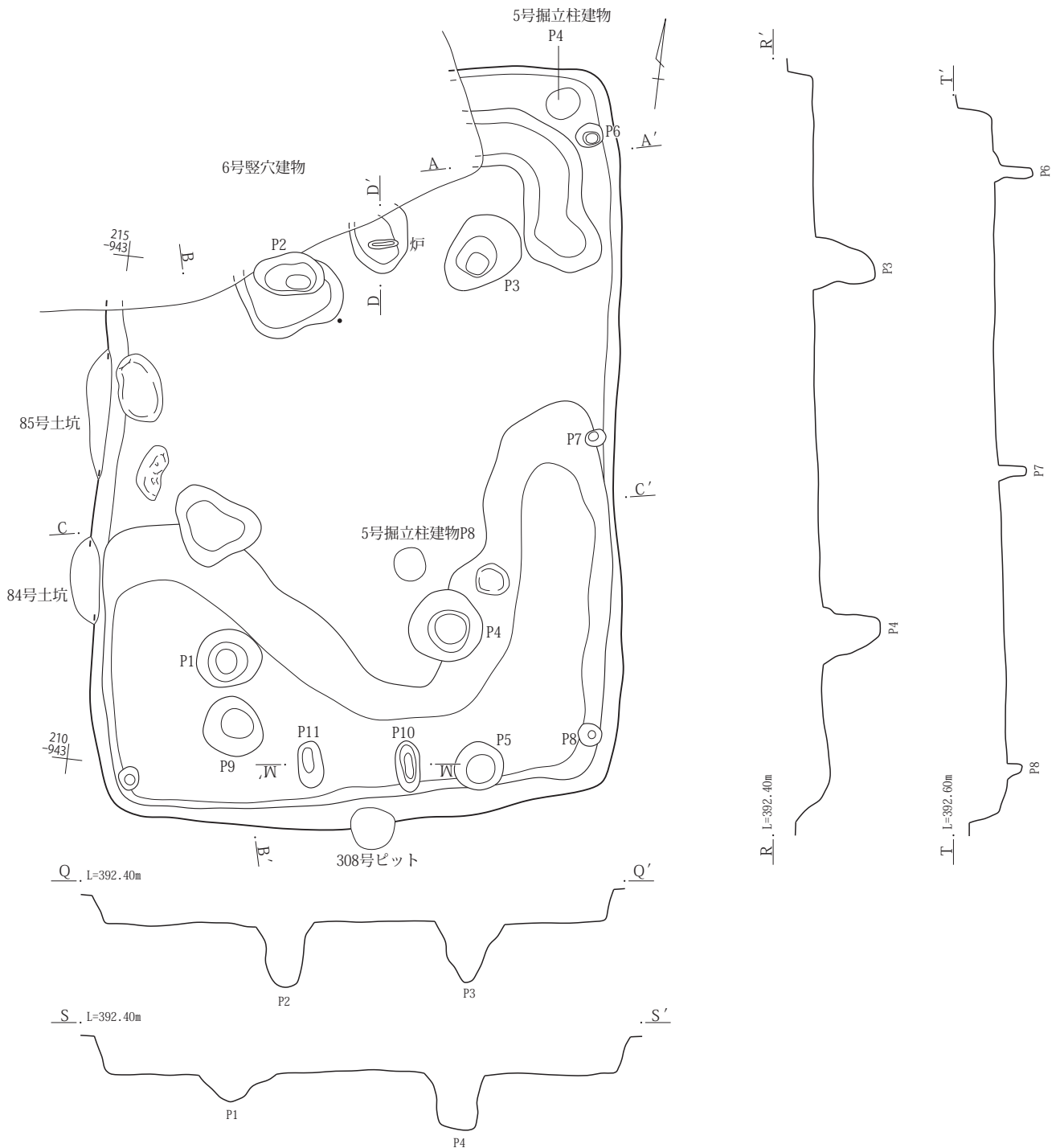
**規模：**主軸方位がほぼ北を向く縦長長方形を呈する。平面規模は約7.3×5.2m、深さ約40cmを測る。壁はほぼ直立気味に立ち上がる。

**重複：**北西側を6号竪穴建物が重なる。新旧は土層及び出土遺物から6号竪穴建物が新しい。その他では調査2面の遺構である84・85坑、5号掘立柱建物のP1・P4・P8、308号ピットが本竪穴建物を切る。

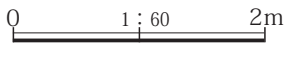
**床面：**南東方向へ僅かに15cmほど低くなる傾斜を示すが全体に平坦面を保つ。ロームを掘り込み、貼床はローム塊を多く含む浅黄褐色土が薄く施され、炉周辺とP1周辺に硬化面が認められた。

**施設：**床面中央北寄りに炉が設けられる。北側を6号竪穴建物に切られるが、軸長60cm以上の楕円形を平面形と

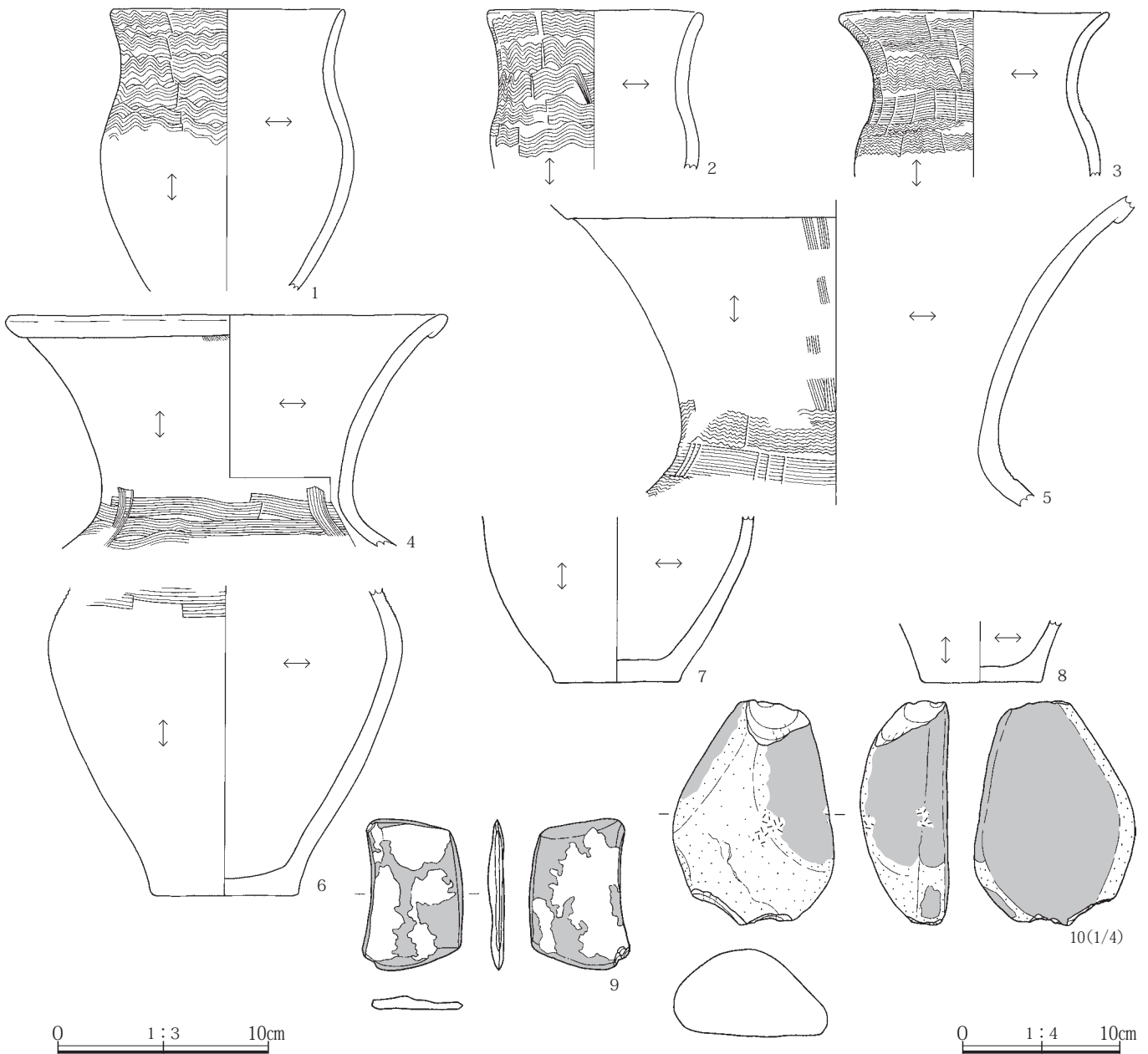
する地床炉で南側上面に枕石状の棒状礫を置く。浅く焼土が堆積していた。柱穴はP1～P4が良好な配置、規模を示す。P6～P8も東壁際に設けられ、壁柱穴など壁際の施設と思われる。P5はやや大型で南壁際に設けられた様相から貯蔵穴として判断したい。P10とP11は出入口部のピットである。平面形は楕円形を呈す。P10上位には出入口の何等かの施設とされる置き石が設けられる。また、P7とP8の間の南東隅にかけて円礫が床面に置かれていた。同様に床面に逆位で出土した土器(3～5)とも関係性が窺われ居住に伴う施設として位置付けておきたい。P9は掘方調査で得られたピットである。若干位置はずれるがP5と同等の性格も想定しておきたい。床下土坑は見られなかったが、掘方調査では南側の広範囲の凹みや北壁沿いの溝状の落ち込みが検出された。



- 7号竪穴建物炉D-D'
- 1 暗褐色土(10YR3/3)黄橙色粒を多量に、ローム塊を少量、焼土塊を僅かに含む。
  - 2 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒を僅かに含む。(灰石掘方)
  - 3 にぶい黄褐色土(10YR5/3)黄橙色粒・焼土塊を僅かに、ローム塊を少量含む。(掘方)
  - 4 浅黄褐色土(10YR8/4)ローム塊を多量に、暗褐色土塊、焼土塊を少量含む。(掘方)
  - 5 暗褐色土(10YR3/3)黄橙色粒を多量に含む。締め弱い。
  - 6 浅黄褐色土(10YR8/4)ローム主体。暗褐色土塊を少量含む。締め弱い。(掘方)



第99図 7号竪穴建物(3)・炉



第100図 7号竪穴建物出土遺物

**遺物：**覆土下位から床直にまで出土遺物が多い。特に前述の南東隅の床直出土の逆位土器(3～5)を中心とした土器の集中は、生活痕跡として位置付けられよう。また北東隅には甕体部上半(1・2)、台石(10)が集まる。磨製石器(9)は南東壁際で出土した。

**所見：**主軸を北に向ける長方形竪穴建物である。地床炉を設け、4本柱穴が安定する。また東壁際の小ピットや出入口部のピット2基も竪穴建物内施設として位置付けられよう。また、南東隅の床直にある逆位土器や円礫なども居住に伴う施設として位置付けておきたい。時期は出土土器から弥生時代後期である。

**8号竪穴建物(第101～104図、PL.36・60)**

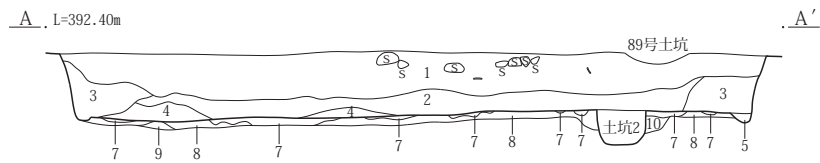
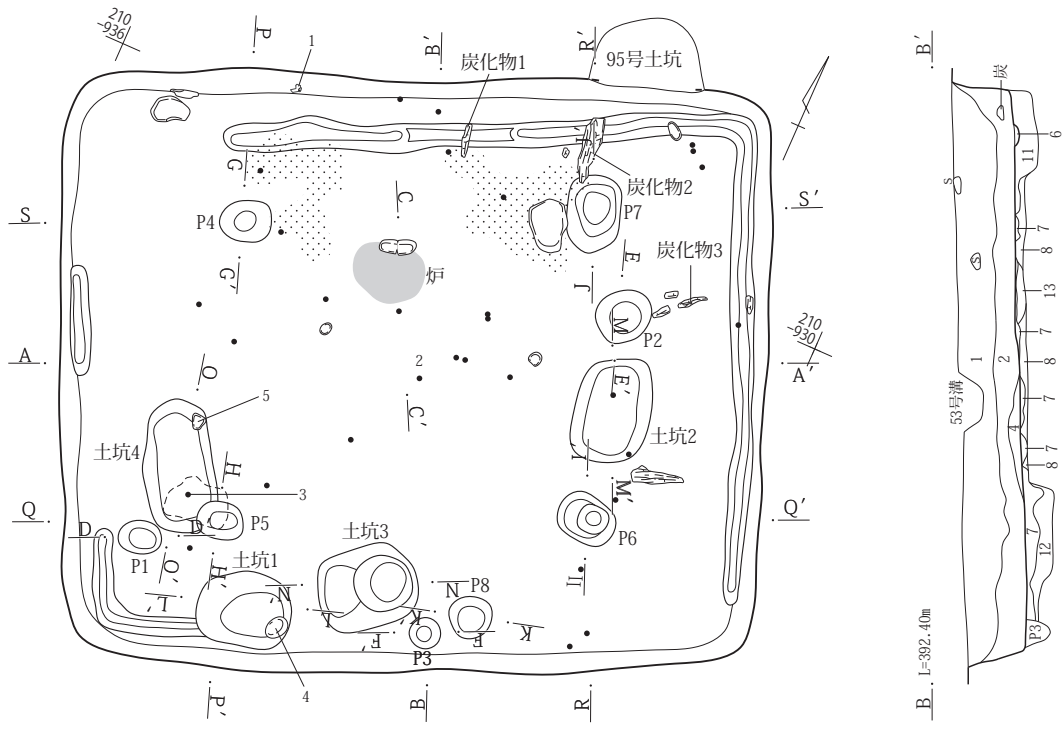
S字状口縁台付甕を出土する横長長方形を呈す古墳時代前期の焼失家屋である。地床炉、壁周溝、4本柱穴、土坑4基を揃える。

**位置：**11区中央の9号竪穴建物の東、50号溝西で調査された。周辺は平坦地形が安定する地点である。

**経過：**ローム漸移層である暗褐色土で確認された。竪穴建物埋土色調は黒褐色土を基調としているため平面形の検出は容易だった。

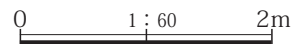
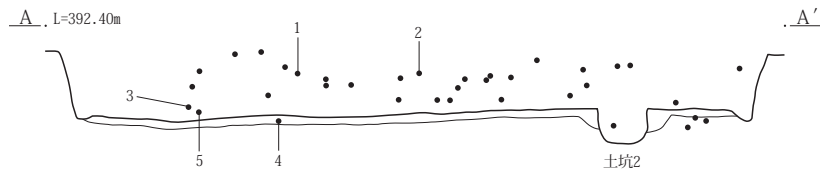
**規模：**主軸方位を北北西に設けた横長長方形を平面形とする。平面規模は約5.6×4.7mで深さは約60cmを測る。



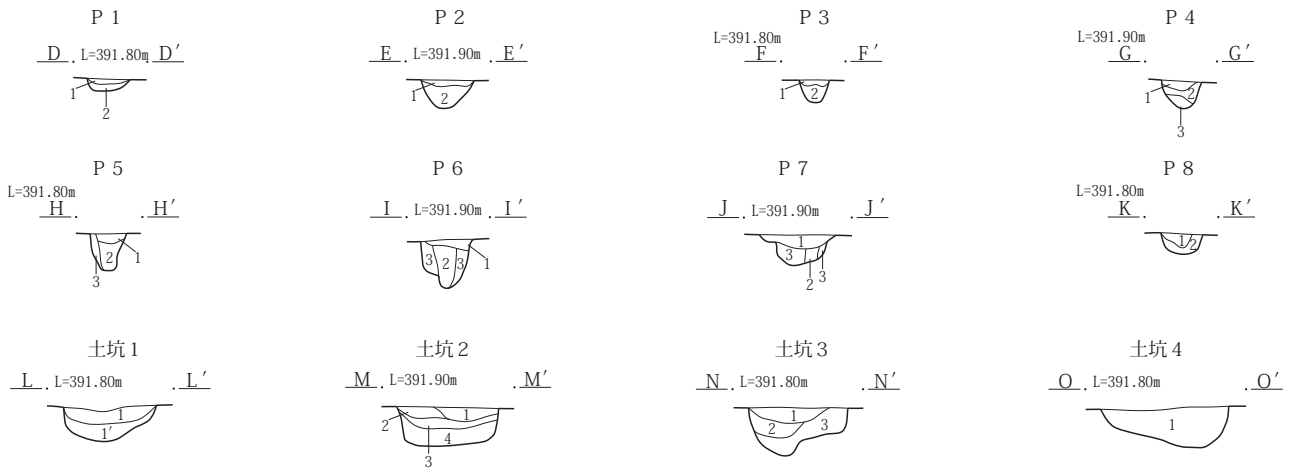


8号竪穴建物 A-A'・B-B'

- 1 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒僅かに含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒・炭化物僅かに含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3)ローム粒僅かに含む。
- 4 灰黄褐色土(10YR4/2)ローム粒僅かに含む。
- 5 褐灰色土(10YR4/1)ローム塊を含む。(周溝)
- 6 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒、炭化物僅かに含む。
- 7 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒僅かに含む。(掘方)
- 8 にぶい黄褐色土(10YR5/3)ローム塊主体。黒色土粒を含む。(掘方)
- 9 にぶい黄橙色土(10YR7/3)ローム塊主体。(掘方)
- 10 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒僅かに含む。(掘方)
- 11 褐灰色土(10YR4/1)ローム塊を多く含む。(掘方)
- 12 黒褐色土(10YR3/2)ローム塊を含む。(掘方)
- 13 明褐色土(7.5YR5/6)ローム塊主体。(掘方)



第101図 8号竪穴建物(1)



8号竪穴建物 P 1 D-D'

- 1 黒色土(10YR2/1)ローム粒含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒多量に含む。

8号竪穴建物 P 2 E-E'

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)ローム粒・炭化物僅かに含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)ローム塊を含む。

8号竪穴建物 P 3 F-F'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒僅かに含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)ローム粒を多く含む。

8号竪穴建物 P 4 G-G'

- 1 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒・炭化物僅かに含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒僅かに含む。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3)ローム粒多く含む。

8号竪穴建物 P 5 H-H'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒・炭化物僅かに含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒を少量含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)ローム塊を含む。

8号竪穴建物 P 6 I-I'

- 1 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒僅かに含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒僅かに含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1)ローム塊を含む。

8号竪穴建物 P 7 J-J'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒僅かに含む。
- 2 黒色土(10YR2/1)ローム粒僅かに含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒を多量に含む。

8号竪穴建物 P 8 K-K'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)ローム粒を多量に含む。

8号竪穴建物土坑 1 L-L'

- 1 黒色土(10YR2/1)ローム粒含む。縮りは弱い。
- 1' 黒色土(10YR2/1)ローム粒、砂粒を多く含む。縮りは弱い。

8号竪穴建物土坑 2 M-M'

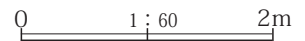
- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)炭化物を僅かに、ローム粒多量に含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2)ローム粒含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒僅かに含む。
- 4 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒を多量に含む。

8号竪穴建物土坑 3 N-N'

- 1 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒を少量含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒僅かに含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒僅かに含む。

8号竪穴建物土坑 4 O-O'

- 1 褐灰色土(10YR4/1)ローム塊を含む。



第102図 8号竪穴建物(2)

壁も直立気味に立ち上がり、整った形状を呈す。良好な遺存度を誇る。

**床面：**僅かな凹凸は見られるが、ほぼ平坦面を築く。ロームを掘り込み、貼床はローム塊と黒褐色土によるにぶい黄褐色土を基調としており、硬化面は床面北側で小範囲に認められた。

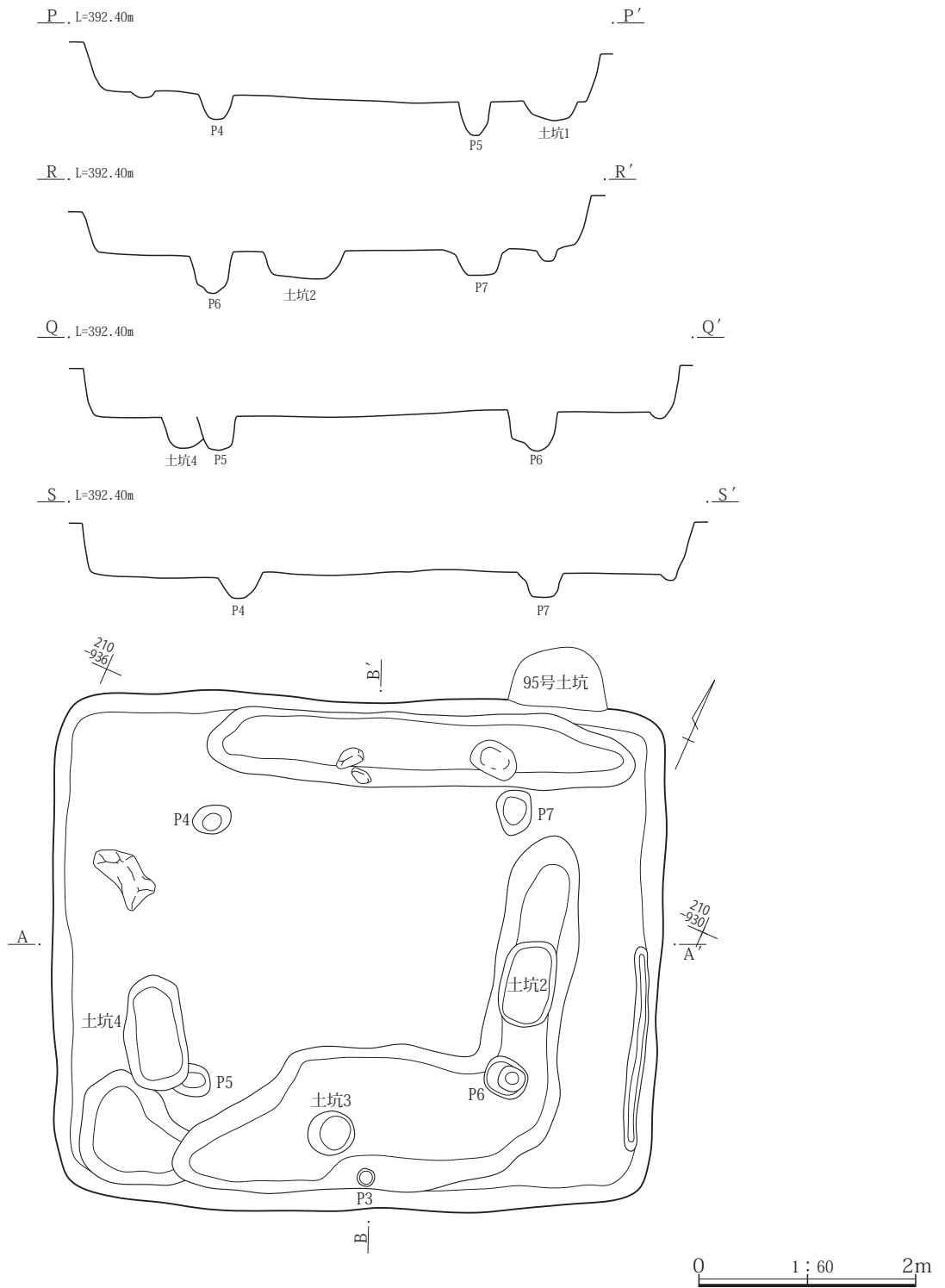
**施設：**炉が床面中央北寄りに設けられる。枕石を北側に置いた小型の地床炉である。枕石は棒状礫で2分割され被熱痕跡も認められた。炉は顕著な掘り込みを持たず径約60×50cmの範囲に焼土が堆積していた。

壁周溝は東壁と北壁及び南西隅と西壁中央に認められた。

柱穴はP 4～P 7を位置付けたい。深さ約25～40cmでやや浅いが良好な配置を示し、柱痕を示す例もあることから、4本柱穴として判断した。またP 2もP 6とP 7の線上にあり補助柱穴としての可能性がある。その他ではP 3とP 8が南壁際にあり、出入口部のピットの可能性が高い。土坑が4基床面上で確認されているが、貯蔵穴などの性格が想定されるが、土層や出土遺物の特徴に乏しく確定的ではない。位置的には土坑2に可能性が求められるが、検討を要する。

床下土坑は見られず、北壁や南壁際に幅広の凹みが検出されたが、床面中央を残す掘方として位置付けられよう。

第3章 検出された遺構と遺物

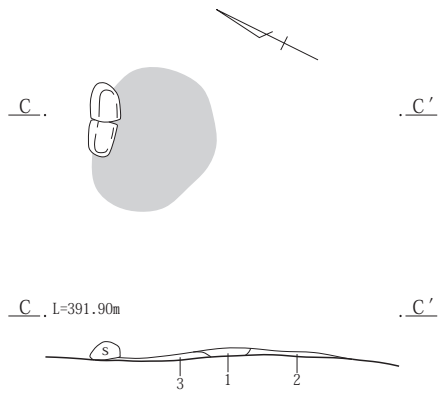


第103図 8号竪穴建物(3)

**遺物：**出土遺物としては、弥生時代後期～古墳時代前期の土器が中心だが、多くは埋土上層から床直上出土のため、居住に伴う出土状態ではない。おそらく、廃棄による所産であろう。3のS字状口縁台付甕は南西隅の床直上で出土している。

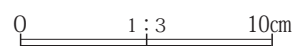
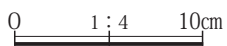
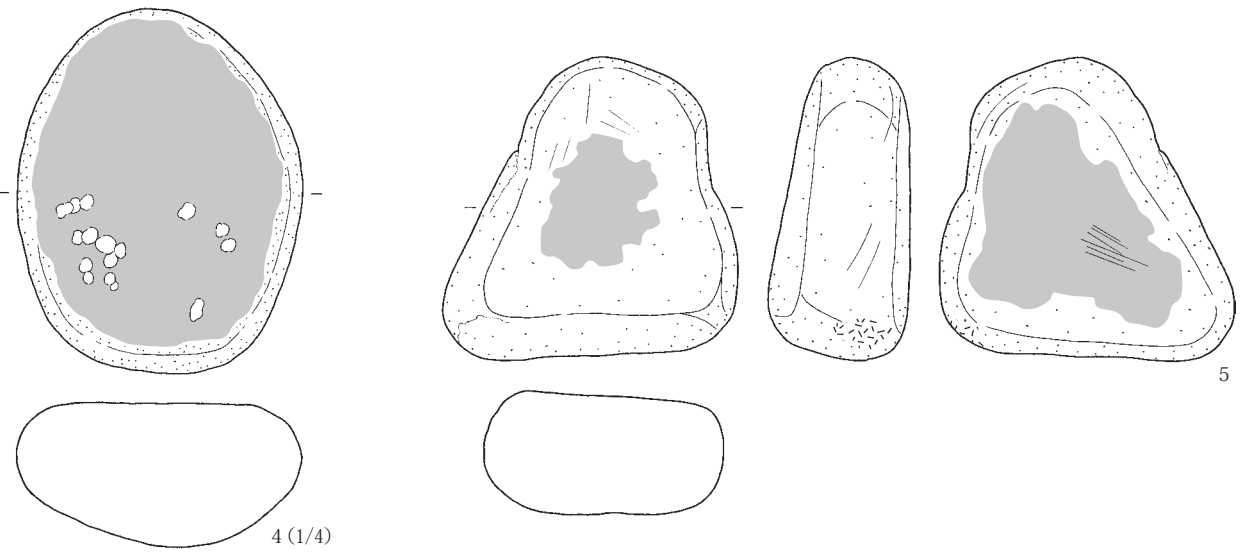
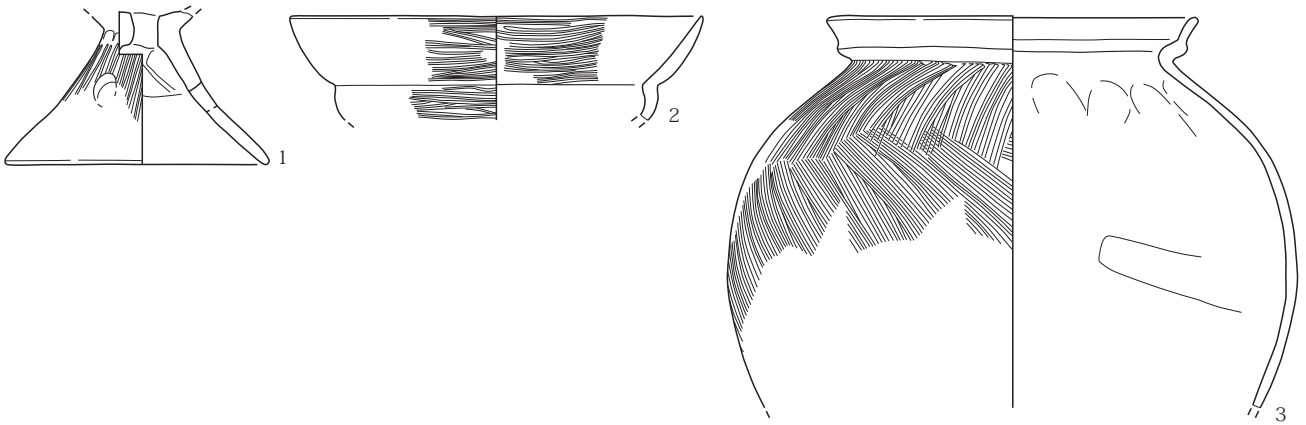
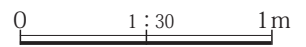
**所見：**横長長方形を示す焼失家屋である。地床炉を設け、

4本柱穴と幾つかの土坑、出入口部ピット等が認められた。掘方も中央部を残す典型例と判断できよう。50号溝西側の古墳時代前期竪穴建物の中で、縦長長方形を呈す7号竪穴建物や小型正方形を示す9号竪穴建物と平面形や規模等対照的な在り方を示す。時期は出土土器から古墳時代前期に位置付けた。



8号竪穴建物炉 C - C'

- 1 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒・炭化物僅かに含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2)ローム粒僅かに含む。(掘方)
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2)ローム粒、焼土・灰を少量含む。



第104図 8号竪穴建物炉と出土遺物

9号竪穴建物(第105・106図、PL.37・61)

古墳時代前期の小型竪穴建物である。S字状口縁台付甕が出土する。4号竪穴建物との比較が注目される。

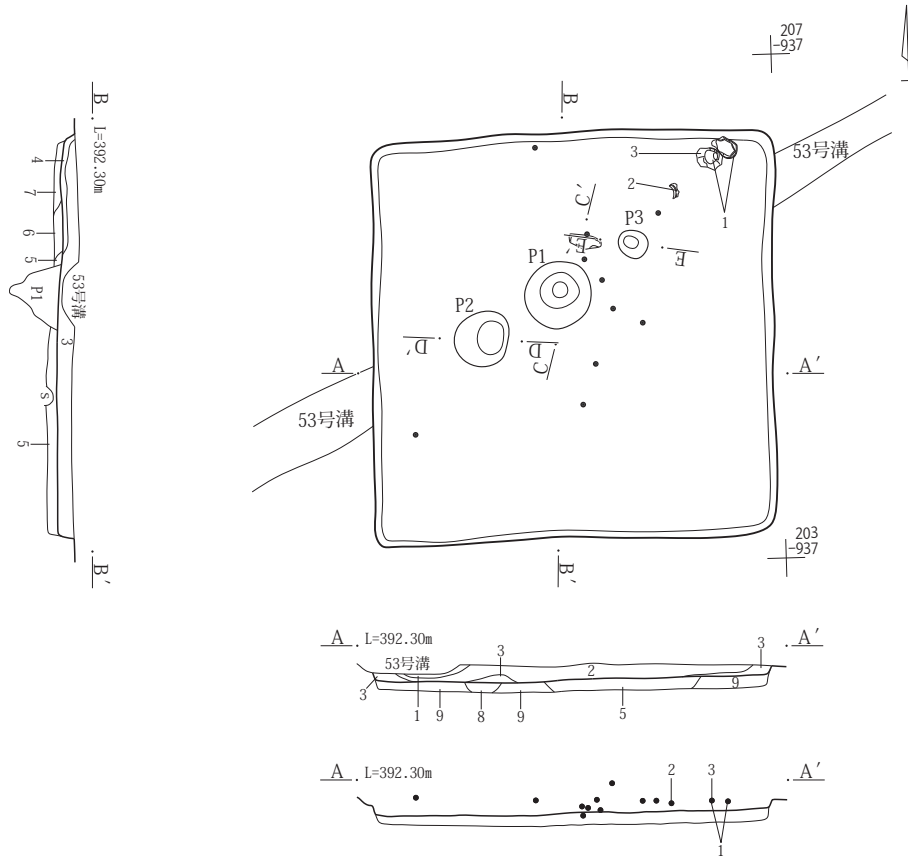
**位置:** 11区中央で検出された。7号竪穴建物の南、8号竪穴建物の西に位置する。周辺は平坦地形が安定する地点である。

**経過:** ローム漸移層である暗褐色土で平面形を確認した。南側は傾斜地形の端緒であり黒褐色土が地山となってい

たが、若干の色調差や包含物を指標として、検出を進めた。

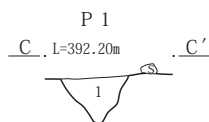
**規模:** 南北に軸を設けた正方形を平面形とする。規模は約3.2×3.2mで深さは約20cmを測る。やや浅いが壁の立ち上がりは明瞭に把握され、整った平面形を調査できた。

**重複:** 3面の調査遺構の重複は見られなかった。上層である2面の53号溝が重なるが、床面にまでは達しておらず、大きな影響は無かった。



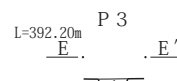
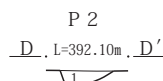
9号竪穴建物 A-A'・B-B'

- 1 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒僅かに含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/3)ローム粒含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒僅かに含む。
- 4 黒色土(10YR2/1)ローム粒僅かに含む。(掘方)
- 5 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒僅かに含む。(掘方)
- 6 灰黄褐色土(10YR4/2)ローム粒を多く含む。(掘方)
- 7 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒含む。(掘方)
- 8 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒僅かに含む。(掘方)
- 9 黒褐色土(10YR2/2)炭化物・ローム粒僅かに含む。粘性あり。(掘方)



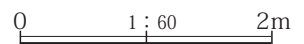
9号竪穴建物 P1・P2 C-C'・D-D'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒僅かに含む。

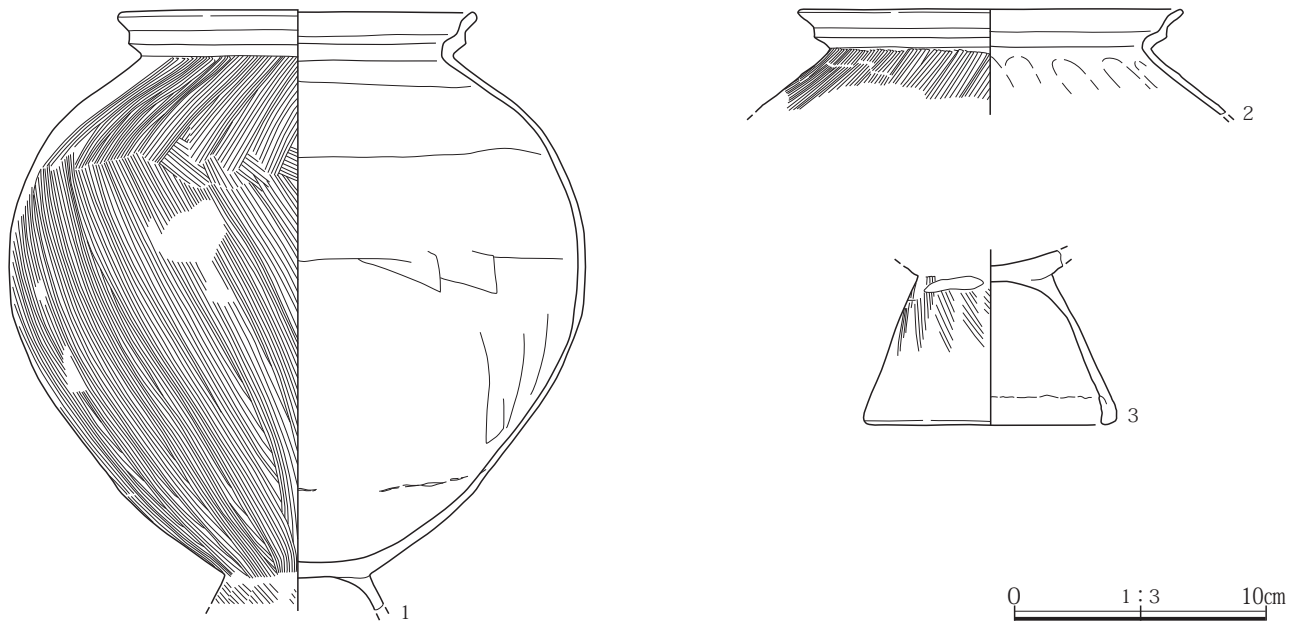


9号竪穴建物 P3 E-E'

- 1 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒僅かに含む。



第105図 9号竪穴建物



第106図 9号竪穴建物出土遺物

**床面：**床面はロームを掘り込み、北東側が僅かに高いがほぼ平坦面が築かれる。黒褐色土と灰黄褐色土による貼床で、硬化面は見られず若干軟質な床面だった。

**施設：**炉を見ない。床面上で3基のピットを確認したが、P1が深さ約35cmを測り、柱穴規模としては妥当ながら、配置としては適当ではない。P2・P3も深さ、配置とも柱穴としての可能性は低いと判断した。故に炉を持たず、柱穴に該当するピットも見られない。

**遺物：**北東隅埋土下位でS字状口縁台付甕3点が出土している。居住に伴う出土状態ではなく、流入と思われるが3点とも近接した位置で出土しており、同時性は保証できよう。

**所見：**11区では4号竪穴建物と並んで古墳時代前期の小型竪穴建物である。4号竪穴建物と同様に炉と柱穴を持たない特徴が共通する。おそらく、5号竪穴建物や8号竪穴建物を大型居住施設、4・9号竪穴建物は小型居住施設としてセットとなると思われる。時期は出土遺物から古墳時代前期としたい。

#### 10号竪穴建物(第107・108図、PL.37)

残存度は良くないが、古墳時代中期後葉の竪穴建物である。残りの悪いカマドと貯蔵穴を調査している。

**位置：**11区北東側で調査された。北半を調査区域外へ延長する。周辺は平坦地形が広がる安定した地点である。

**経過：**ローム漸移層に相当する黄褐色土で確認された。調査区域外への延長と同時に、北壁沿いに設けた遺構確認用のトレンチによって北半を逸した状態で調査した。遺構の残存度も悪く、掘り込みも浅かったが、竪穴建物埋土は黒褐色土のため、平面形の把握は容易だった。

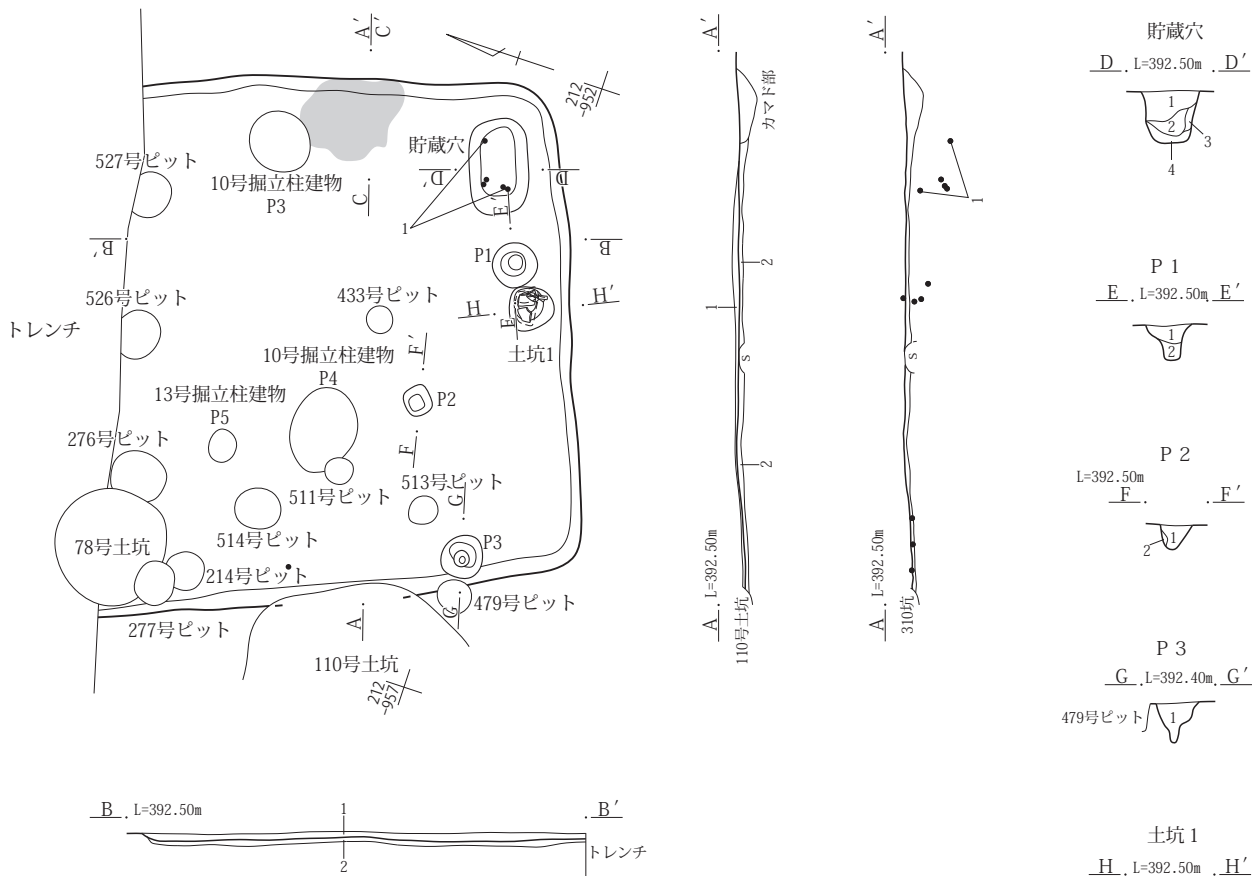
**規模：**主軸を東北東に向けた方形を平面形とする。平面規模は約4.2×(3.7)m測る。掘り込みは極めて浅く10cm以下の深さにとどまる。2面の調査確認面が迫るため残存度は良くない。

**重複：**3面の調査遺構の重複は無い。2面遺構である10・13号掘立柱建物柱穴や78・110坑、ピット群が主に床面中央から北側にかけて本竪穴建物を切る。

**床面：**ローム塊を含む灰黄褐色土を基調とする貼床で、ある。ロームを掘り込み、ほぼ平坦面を築くが、残存度が悪いと凹凸を見る。硬化面はカマド西に小範囲で見られたが顕著ではない。

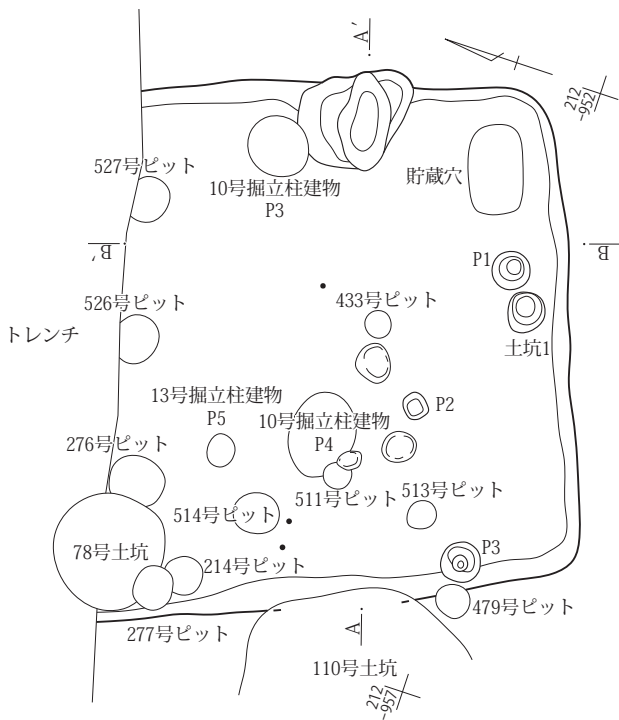
**施設：**カマドは、東壁やや南寄りに設けられる。残存度が悪く、床面で焼土の広がりを見たが、焚口や袖などは確認できず、掘方調査でカマド主軸に沿った掘り込みを検出したのみである。

貯蔵穴は床面南東隅で検出した。長軸を東北東に設けた小型の長方形を平面形とし、規模は約75×50cm、深さは40cmを測る。底面よりやや浮いて土師器破片が出土した。



10号竪穴建物A-A'・B-B'

- 1 黒褐色土(10YR2/3)炭化物僅かに、ローム粒含む。
- 2 浅黄橙色(10YR8/4)ローム粒主体。暗褐色土塊を少量含む。(掘方)



10号竪穴建物貯蔵穴D-D'

- 1 黒褐色土(10YR3/2)黄橙色粒・橙色粒を僅かに含む。締め弱い。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)黄橙色粒・褐色土粘質土塊を含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3)黄橙色粒を多量に、ローム粒を少量含む。
- 4 黄褐色土(10YR5/8)黄橙色粒、ローム粒・褐色粘質土塊を僅かに含む。

10号竪穴建物土坑1 H-H'

- 1 黒褐色土(10YR3/2)黄橙色粒を僅かに、ローム粒を少量含む。
- 2 黄褐色土(10YR5/8)黄橙色粒・褐色土塊を少量、ローム塊を多量に含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3)黄橙色粒を僅かに、褐色土塊を多量に含む。

10号竪穴建物P1 E-E'

- 1 にぶい黄褐色土(10YR6/4)黄橙色粒少量、ローム塊を多量に、橙色粒を僅かに含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)黄橙色粒を僅かにローム粒を少量含む。締め弱い。

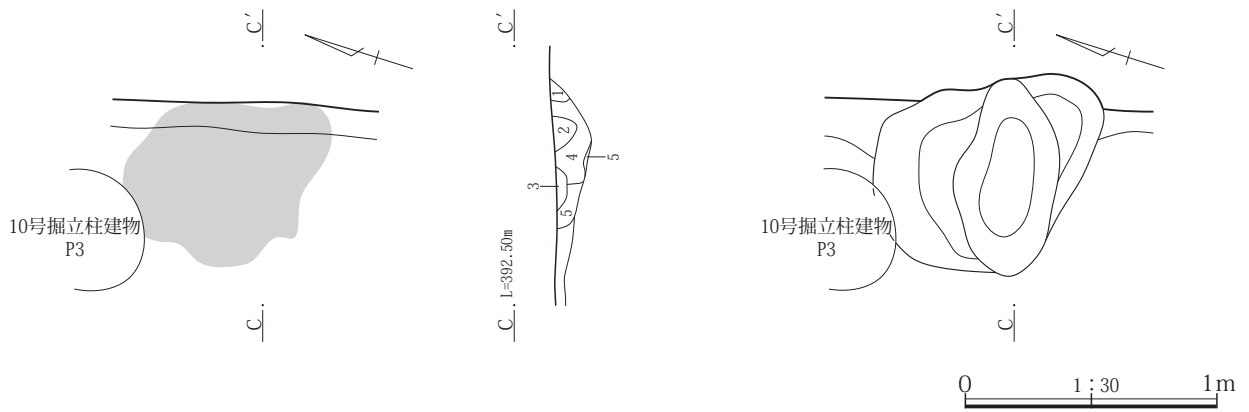
10号竪穴建物P2 F-F'

- 1 にぶい黄褐色土(10YR6/4)黄橙色粒・ローム塊を多量に含み、褐色土塊を僅かに含む。
- 2 黄褐色土(10YR5/8)ローム塊を多量に含む。壁崩落土塊。

10号竪穴建物P3 G-G'

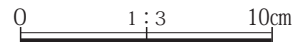
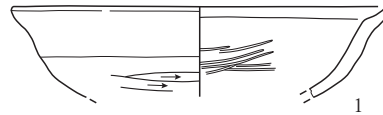
- 1 暗褐色土(10YR3/3)黄橙色粒を少量、ローム塊を僅かに含む。

第107図 10号竪穴建物



10号竪穴建物カマドC-C'

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)ローム粒、褐色土塊を僅かに含む。
- 2 にぶい黄橙色土(10YR6/4)ローム粒、炭化物・焼土を僅かに含む。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3)ローム粒、焼土粒を僅かに含む。
- 4 黒褐色土(10YR2/3)ローム粒塊を多量に含む。
- 5 にぶい黄褐色土(10YR5/3)ローム粒を多量に含む。締り弱い。



第108図 10号竪穴建物カマドと出土遺物

土坑は南壁際中位に径約35cm、深さ約45cmの小型の土坑1が調査された。埋土中より土師器甕体部破片が出土している。

ピットは床面東側に偏って検出された。このうち柱穴として妥当な規模はP1とP3で30cm以上の深さを測る。しかし配置としては、やや妥当性に欠けるため柱穴としての判断は控えたい。

**遺物:**貯蔵穴と土坑1、掘方調査で数点が出土している。図示し得た遺物は貯蔵穴出土の杯破片(第108図1)である。貯蔵穴内の出土遺物であり、居住ないしは竪穴建物廃棄直後の遺物であり、竪穴建物時期を具体化する資料である。

**所見:**残存度の悪い竪穴建物である。カマド、貯蔵穴を検出したが、カマドの残存度は悪い。時期は出土遺物から古墳時代中期と判断したい。

#### 11号竪穴建物(第109図、PL.38)

**位置:**11区北側で、南壁の一部のみの検出である。周辺は平坦地形が広がる安定した地点である。

**経過:**調査区北側に延長する様相を示すが、北壁沿いに設けた遺構確認用のトレンチによって大きく北半を逸した状態のため、全容は把握できなかった。確認面は灰黄褐色土で埋土との色調差は明瞭だったが、残存箇所が少なく、南壁の一部に止まっている。

**規模:**ごく一部の検出である。南壁方位が東北東を向く長方形を平面形と推定できよう。残存部の計測では、平面規模は約(3.5)×(1.5)m、深さ約50cmである。深さは北壁の土層からの値である。

**床面:**北壁土層の観察では明瞭な貼床ではなく凹凸を見る。

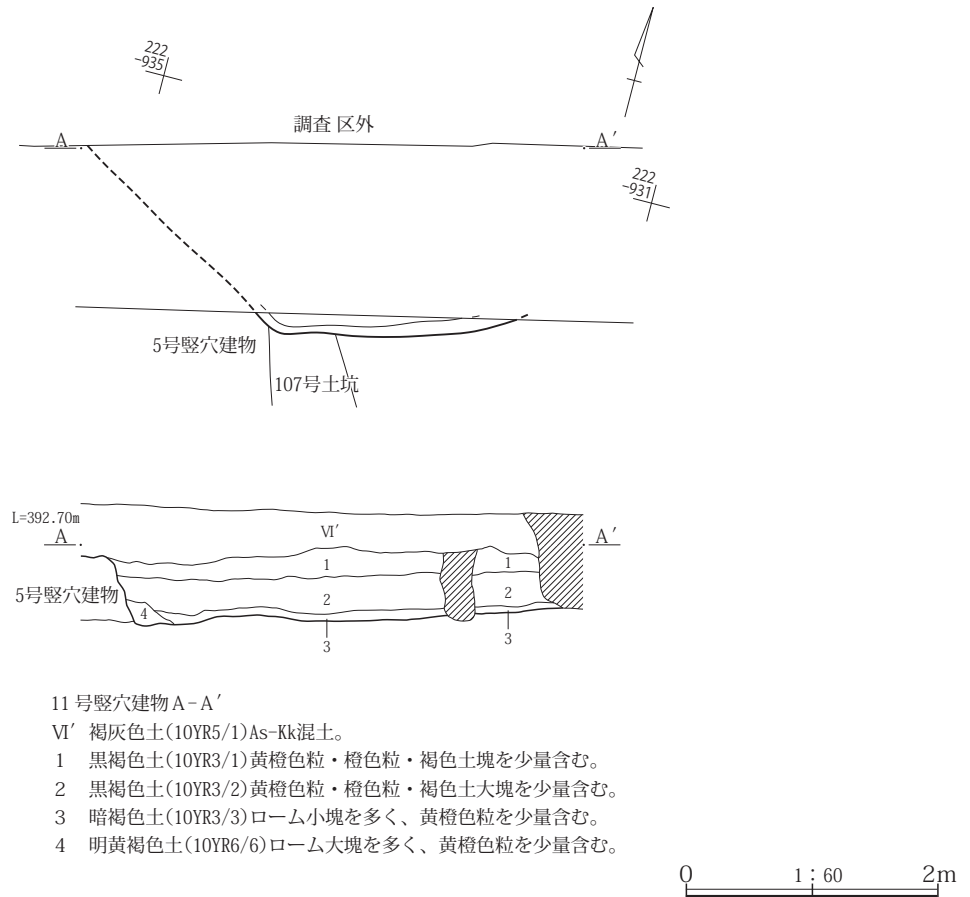
**施設:**炉・カマド、柱穴、壁周溝などは確認できなかった。

**重複:**北壁土層では、5号竪穴建物を切る新旧関係を示す。南側では2面遺構の107坑が重なる。

**遺物:**出土遺物は見られなかった。

**所見:**残存度が悪く、詳細は不明である。古墳時代前期の5号竪穴建物を切る重複関係と周辺遺構の様相から、時期は古墳時代とし、細別は避けたい。





11号竪穴建物 A-A'

VI' 褐灰色土(10YR5/1)As-Kk混土。

1 黒褐色土(10YR3/1)黄橙色粒・橙色粒・褐色土塊を少量含む。

2 黒褐色土(10YR3/2)黄橙色粒・橙色粒・褐色土大塊を少量含む。

3 暗褐色土(10YR3/3)ローム小塊を多く、黄橙色粒を少量含む。

4 明黄褐色土(10YR6/6)ローム大塊を多く、黄橙色粒を少量含む。

第109図 11号竪穴建物

### 12号竪穴建物(第110~113図、PL.38・61)

カマドを南東隅に設ける古墳時代中期後葉の竪穴建物である。11-1区との分割調査となったが、全容は把握できた。南西隅に貯蔵穴、掘方調査で4本柱穴を検出できた。

**位置：**11区の北西隅で11-1区調査に跨って調査された周辺は平坦面が広がり、遺構密度の高い地点である。

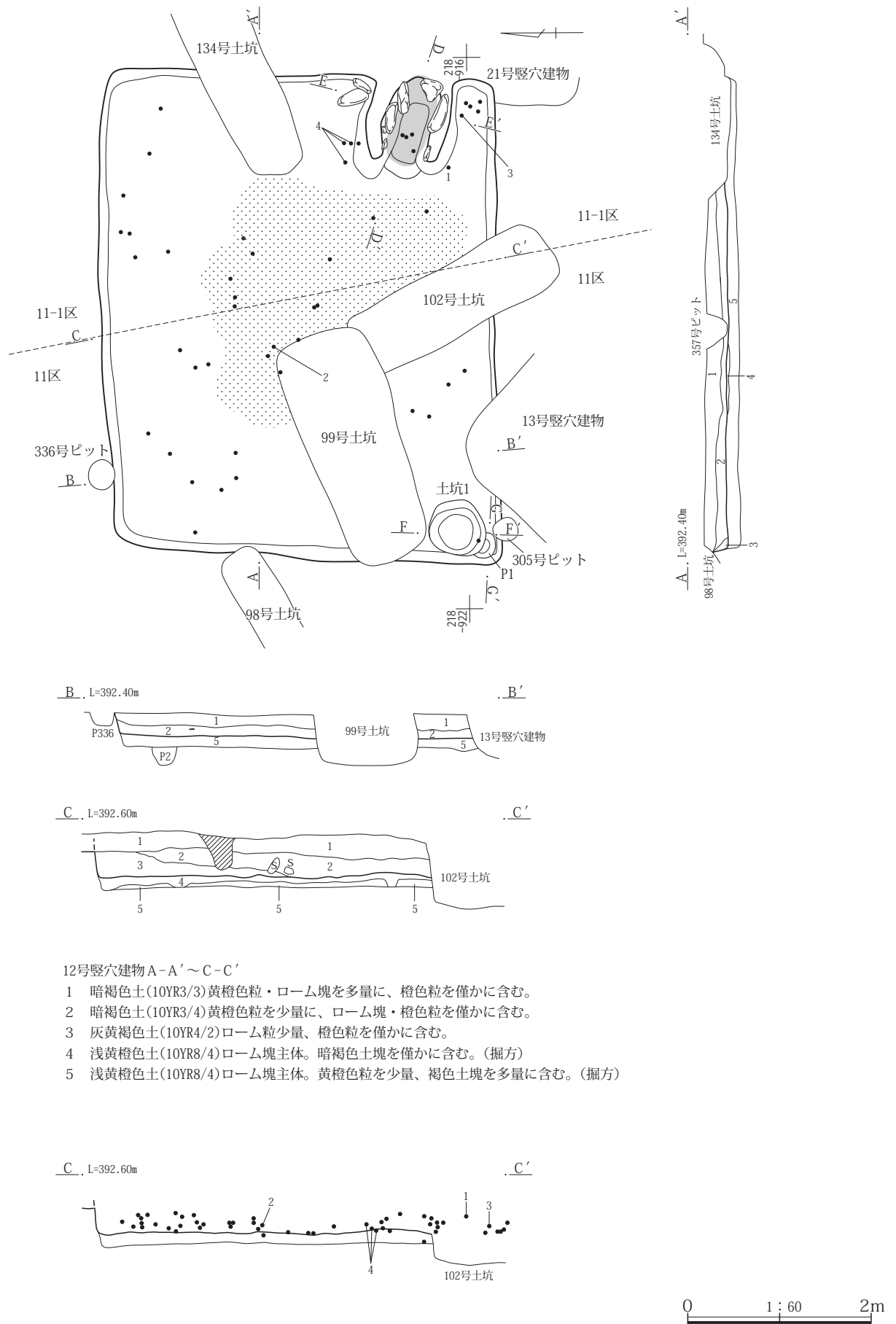
**経過：**11区調査と11-1区調査時に2分割に調査されている。確認面はローム漸移層相当の灰黄褐色土である。埋土は暗褐色土のため検出は容易だった。先行する11区調査では竪穴建物西半を調査し、掘方までを検出した。11-1区調査は後日となり、東半を対象に行い既に掘方調査まで終了した西半と併せて、写真記録と測量を行い、12号竪穴建物として位置付けた。

**規模：**長軸をほぼ東西に向ける整った長方形を平面形とする。平面規模は約5.3×4.3m、深さ約30cmを測り、壁の立ち上がりも良好でしっかりした掘り込みを示していた。

**重複：**13号竪穴建物北西隅が南壁西側で重複する。土層の観察で13号竪穴建物が本竪穴建物を切る新旧を示す。また、東側で21号竪穴建物西壁と重複する。土層観察では本竪穴建物が新しい重複関係である。その他では2面遺構である98・99・102・134坑などが大きく本竪穴建物床面を壊す重複状況を示す。

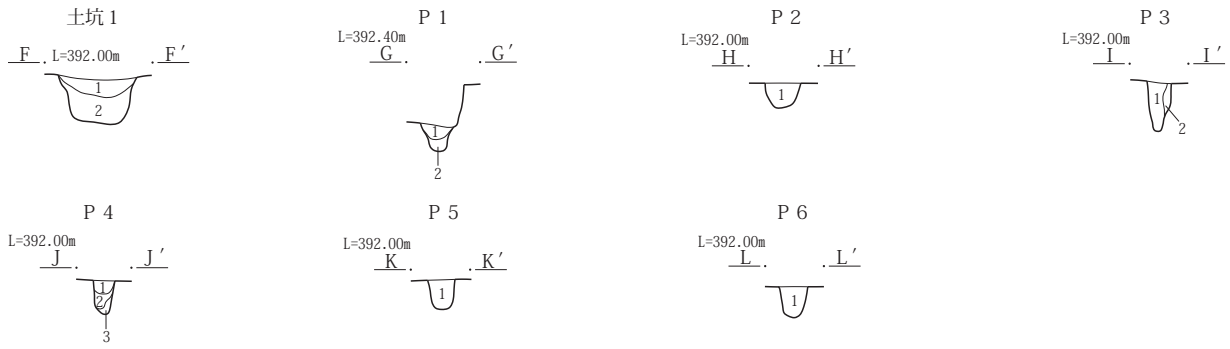
**床面：**ローム層を掘り込み、ローム塊と暗褐色土塊からなる黄褐色土による貼床がなされる。ほぼ平坦面を築き、硬化面は床面中央で広く確認された。

**施設：**カマドが東壁南端で確認された。主軸方位は東北東を向き、竪穴建物長軸と差が見られた。規模は長軸長約1m、短軸長約1m、燃烧部幅約26cmを測る。燃烧部より煙道部へ緩やかな傾斜で至り、煙道部は僅かに壁外に突出する。やや小型のカマドだが、袖石を両側面及び奥壁に設け、ローム塊を多量に含む袖を構築していた。燃烧部中央部には焼土塊主体の橙色土や黒褐色土が堆積しており、天井部などの構築材崩落土として位置付けられた。遺物は周辺からやや浮いた状態で1の杯、3・4



第110図 12号竪穴建物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



12号竪穴建物土坑 1 F-F'

- 1 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒を僅かに含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒少量含む。

12号竪穴建物 P 1 G-G'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒僅かに含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)ローム塊を含む。

12号竪穴建物 P 2 H-H'

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)ローム粒少量、炭化粒を僅かに含む。

12号竪穴建物 P 3 I-I'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒少量含む。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3)ローム粒を多く含む。

12号竪穴建物 P 4 J-J'

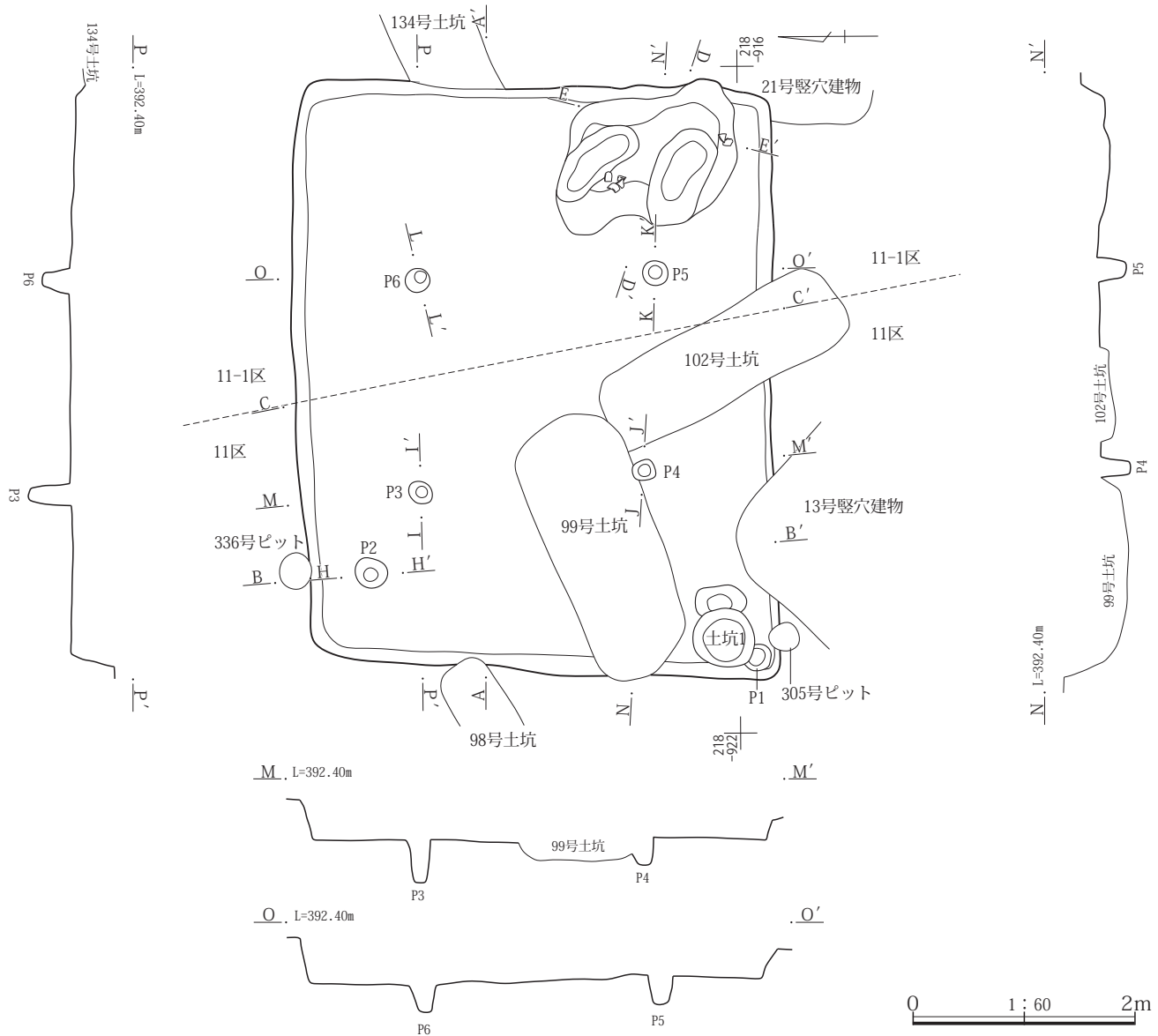
- 1 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒僅かに含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒少量含む。
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2)ローム粒を多く含む。

12号竪穴建物 P 5 K-K'

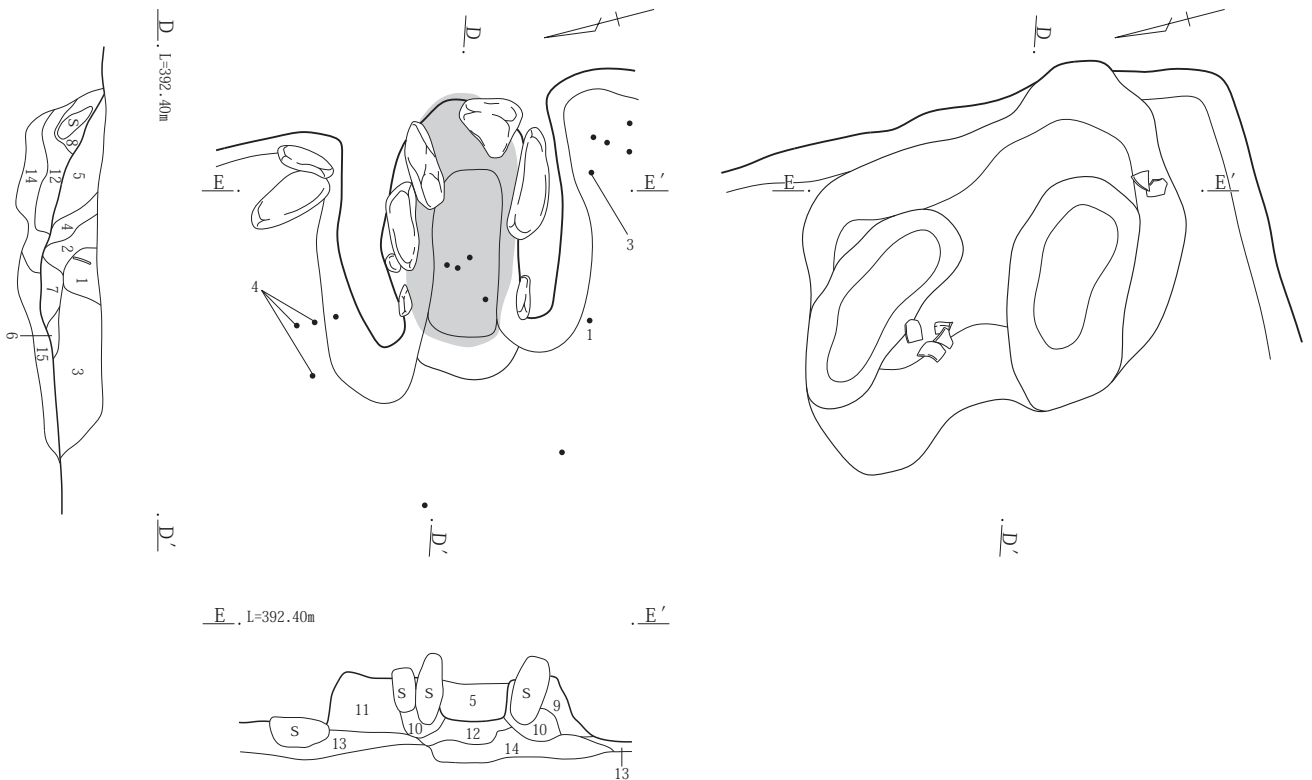
- 1 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒を少量、橙色粒を僅かに含む。

12号竪穴建物 P 6 L-L'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒を少量含む。



第111図 12号竪穴建物(2)



12号竪穴建物カマドD-D'・E-E'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)焼土粒を多量に、黄橙色粒を僅かに含む。
- 2 黄橙色土(10YR7/8)焼土粒を多量に、黄橙色粒を僅かに含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/4)黄橙色粒を少量、ローム粒・焼土粒を僅かに含む。
- 4 橙色土(5 YR7/8)焼土塊主体。固く締まる。
- 5 暗褐色土(10YR3/3)焼土粒を少量含む。
- 6 黒褐色土(10YR3/1)焼土粒を僅かに含む。
- 7 橙色土(5 YR7/8)焼土塊主体。暗褐色土塊を僅かに含む。
- 8 黒褐色土(10YR3/1)焼土粒・黄橙色粒を僅かに含む。(掘方)
- 9 黒褐色土(10YR3/1)ローム塊を多量に含む。(掘方)
- 10 黒褐色土(10YR3/1)ローム塊を多量に、黄橙色粒を僅かに含む。(掘方)
- 11 黒褐色土(10YR3/1)褐色土塊を多量に含む。(掘方)
- 12 にぶい黄橙色土(10YR6/3)焼土塊を多量に含む。(掘方)
- 13 黒褐色土(10YR3/2)ローム塊を僅かに含む。(掘方)
- 14 黒褐色土(10YR3/1)ローム塊を多量に含む。(掘方)
- 15 褐灰色土(10YR4/1)褐色土塊を多量に、黄橙色粒を僅かに含む(掘方)

0 1:30 1m

第112図 12号竪穴建物カマド

の甕破片が出土している。カマド使用状態を具体化していないが、カマド廃棄時に同時に廃棄されたものと位置付けられる。

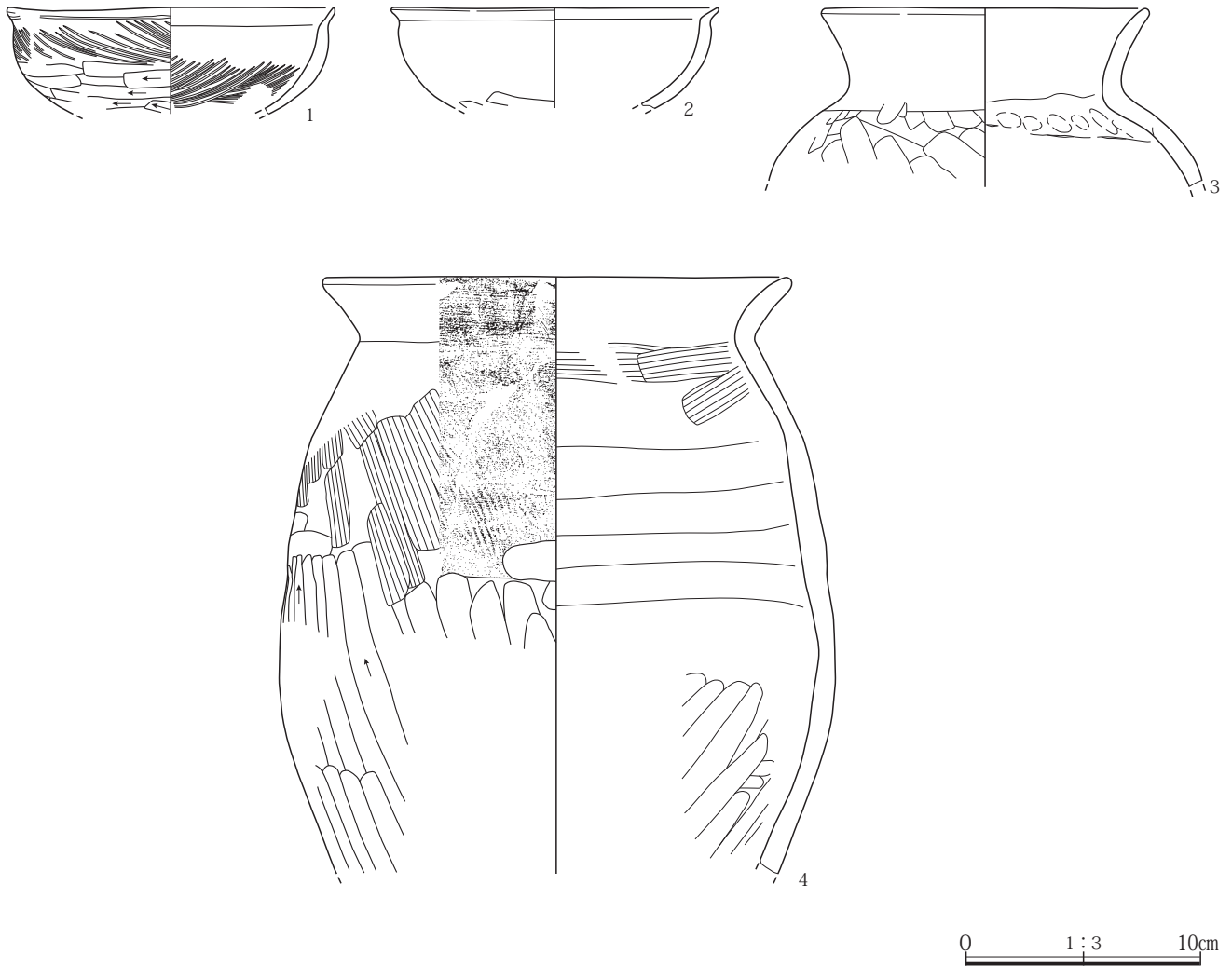
土坑1を床面南西隅で検出した。径約60cm、深さ約42cmの不整形円形を呈する小型土坑で、埋土等に特徴は無いが、位置的に貯蔵穴として位置付けたい。

ピットは床面上ではP1が確認されたが掘方調査により、P2～P6が加わる。このうちP3～P6が配置的にも柱穴として位置付けられる。径20cm程で小型であるが深さも25～40cmで柱穴として相応の規模と判断した。

4本柱穴である。

**遺物：**前述のカマド周辺で出土した土器(1・3・4)と床面中央でやや浮いた状態で出土した土師器杯(2)を図示した。カマド周辺の遺物はカマド廃棄に伴う所産と判断して、居住あるいは廃棄に伴う一括性を求めたい。

**所見：**カマドを南東隅に設け、4本柱穴と貯蔵穴を配す竪穴建物である。重複遺構が多いが全体に整った平面形状を呈し、カマドの残りも良好である。時期は出土土器から古墳時代中期後葉と判断したい。



第113図 12号竪穴建物出土遺物

13号竪穴建物(第114～119図、PL.39・40・61・62)

古墳時代中期末葉～後期初頭の焼失家屋である。残存度も良好で出土遺物量も多い。特にカマド南東で複数の土師器が重なった状態で出土した例は使用状態あるいは収納状態も示唆され良好である。

**位置：**11区東側で北東隅を11-1区にかかり調査された。周辺はほぼ平坦面が保たれるが、南側5m程で南東部に低くなる斜面地形が迫る。

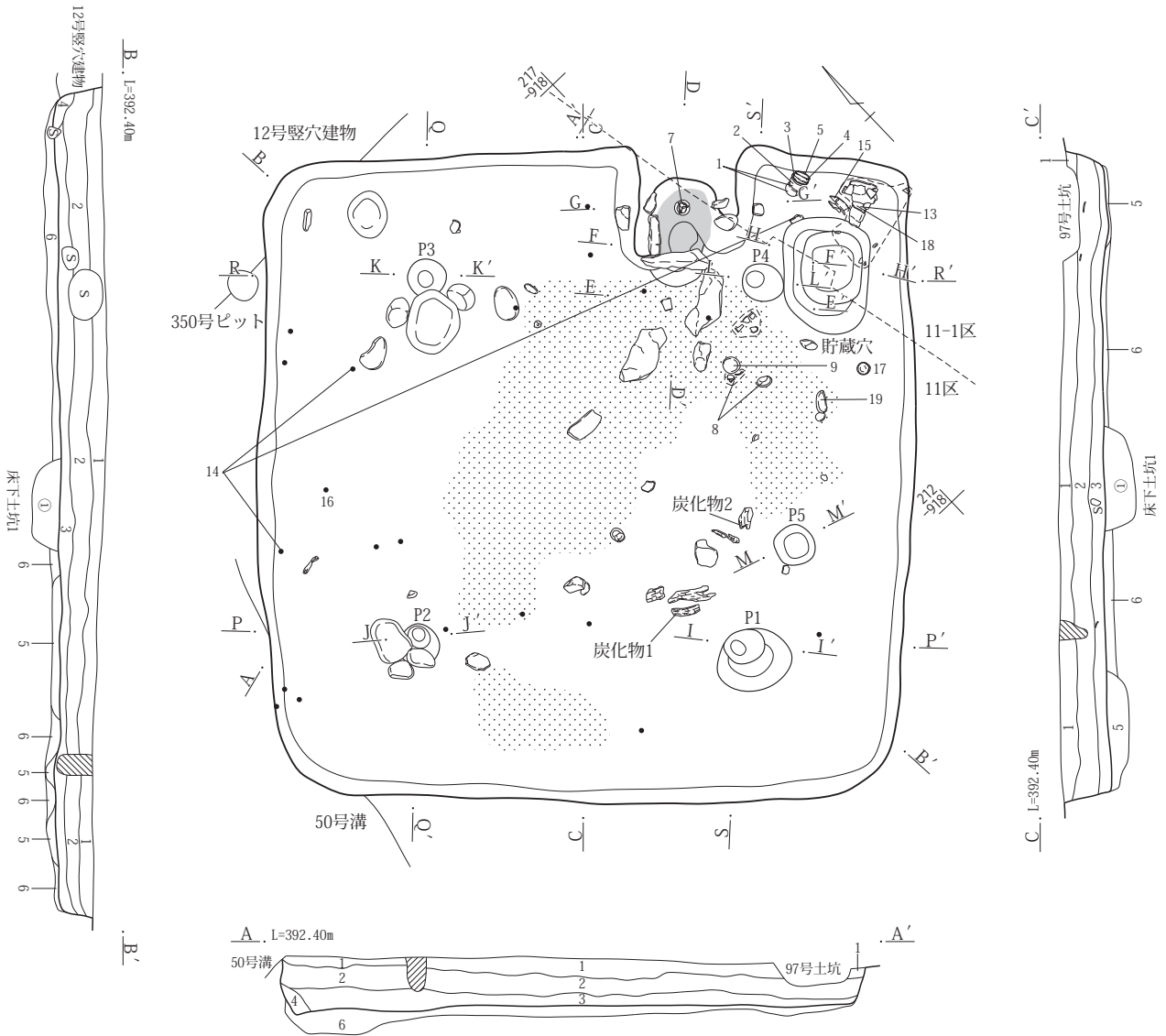
**経過：**ローム漸移層である暗褐色土で確認された。竪穴建物埋土は黒褐色土が覆うため、色調差は明瞭で平面形の確認は容易だった。また、床面はローム層上面にまで達しており、壁の立ち上がりも明瞭に把握できた。

**規模：**平面規模はほぼ正方形を呈す。規模は約5.7×5.6mを測り、深さ約40cmで壁は直立気味に開く。主軸方位はほぼ北東を向く。

**重複：**12号竪穴建物を切る重複関係である。また西端隅が50号溝と重なるが、これも50号溝より新しい調査所見を得ている。床面には143坑が重複する。上面に炭化材が分布しており、おそらく本竪穴建物が新しいと考えた。

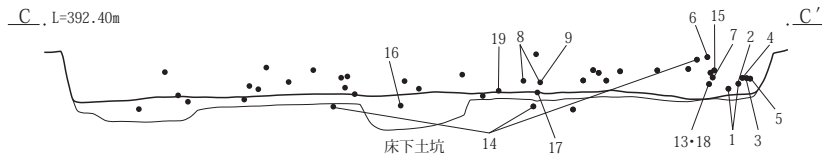
**床面：**ローム層を掘り込み、黒褐色土塊やローム塊主体の浅黄橙色土を貼床しほぼ平坦面を築く。硬化面はカマド西側から床面中央にかけて比較的広く確認された。

**施設：**カマドは東壁中央やや南寄りに設けている。主軸は竪穴建物長軸と一致し北東を向く。長軸長約90cm、短軸長約30cmを測る。燃烧部幅は約25cmで煙道部は壁内で収まる。両袖に袖石を芯材とし黒褐色土で袖部を補強していた。また煙道部奥は灰白色粘土を充て構築材としている。また焚口部には天井材と思われる板石状の大型角礫が置かれていた。燃烧部中央やや奥壁寄りに棒状の角礫が縦位に埋められていた。支脚として判断できよう。



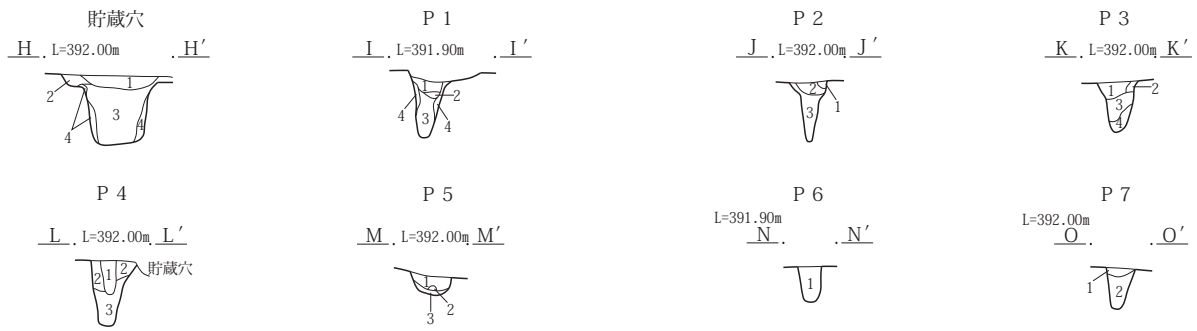
13号竪穴建物 A-A' ~ C-C'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)黄橙色粒を多量に、ローム塊を少量含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR5/2)黄橙色粒・ローム塊を多量に含み、黒褐色粘質土塊を僅かに含む。
- 3 灰黄褐色土(10YR6/2)黄橙色粒少量、ローム塊を多く、黒褐色粘質土塊を僅かに含む。
- 4 暗褐色土(10YR3/4)黄橙色粒を少量、ローム粒を僅かに含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/1)ローム塊を少量、褐色粘質土塊を僅かに含む。(掘方)
- 6 浅黄褐色土(10YR8/4)ローム塊主体。黒褐色土塊を少量含み、褐色土塊を僅かに含む。(掘方)
- ① 黒褐色土(10YR3/1)黄橙色粒を僅かに、ローム塊・褐色粘質土塊を多量に含む。(床下土坑1)



第114図 13号竪穴建物(1)

### 第3章 検出された遺構と遺物



#### 13号竪穴建物貯蔵穴 H-H'

- 1 褐灰色土(10YR4/1)黄橙色粒・ローム塊を僅かに含む。
- 2 褐灰色土(10YR5/1)黄橙色粒・褐色粘質土塊を僅かに含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1)黄橙色粒を僅かに、ローム塊・褐色土粘質塊を少量含む。
- 4 灰黄褐色土(10YR4/2)ローム塊を多量に含む。

#### 13号竪穴建物 P 1 I-I'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)黄橙色粒を僅かに、ローム塊を少量含む。
- 2 浅黄褐色土(10YR8/3)ローム塊主体。暗褐色土粒を僅かに含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1)黄橙色粒を少量、ローム塊を僅かに含む。
- 4 浅黄褐色土(10YR8/3)ローム塊を少量、褐色土塊を多量に含む。

#### 13号竪穴建物 P 2 J-J'

- 1 褐灰色土(10YR6/1)黄橙色粒を僅かに、ローム塊を少量含む。
- 2 褐灰色土(10YR4/1)黄橙色粒・褐色土塊を僅かに含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3)黄橙色粒を少量、ローム塊を僅かに含む。

#### 13号竪穴建物 P 3 K-K'

- 1 にぶい黄褐色土(10YR7/2)黄橙色粒を多量に含む。
- 2 褐灰色土(10YR4/1)黄橙色粒を僅かに含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1)黄橙色粒・ローム塊を僅かに含む。
- 4 褐灰色土(10YR5/1)黄橙色粒・ローム塊を少量含む。

#### 13号竪穴建物 P 4 L-L'

- 1 褐灰色土(10YR4/1)黄橙色粒を多量に含む。
- 2 褐灰色土(10YR5/1)黄橙色粒を少量、ローム塊を僅かに含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3)黄橙色粒・ローム塊を少量含む。

#### 13号竪穴建物 P 5 M-M'

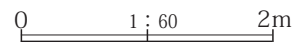
- 1 褐灰色土(10YR4/1)黄橙色粒を多量に含む。
- 2 褐灰色土(10YR4/1)ローム塊を多量に含む。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR7/2)黄橙色粒を多量に、ローム塊を僅かに含む。

#### 13号竪穴建物 P 6 N-N'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)黄橙色粒を多量に、ローム塊を少量含む。

#### 13号竪穴建物 P 7 O-O'

- 1 褐灰色土(10YR4/1)黄橙色粒・黒色土塊を少量含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)黄橙色粒を少量、ローム塊を僅かに含む。



第115図 13号竪穴建物(2)

支脚下位は灰白色粘土による支脚の安定が図られていた。さらにこの支脚上端には土師器杯が逆に被せられていた。高さの調整であろうか。燃烧部は黒褐色土や暗褐色土が堆積しており、天井石の明瞭な補強材は見られなかった。遺物はカマド南東部の貯蔵穴の間に集中する。

貯蔵穴は床面南東隅で検出した。浅い段を周縁に設けており蓋状の施設も示唆できる。平面形は小型の長方形を呈し規模は約100×75cm、深さは約40cmである。しっかりした掘り込みで壁は直立気味である。

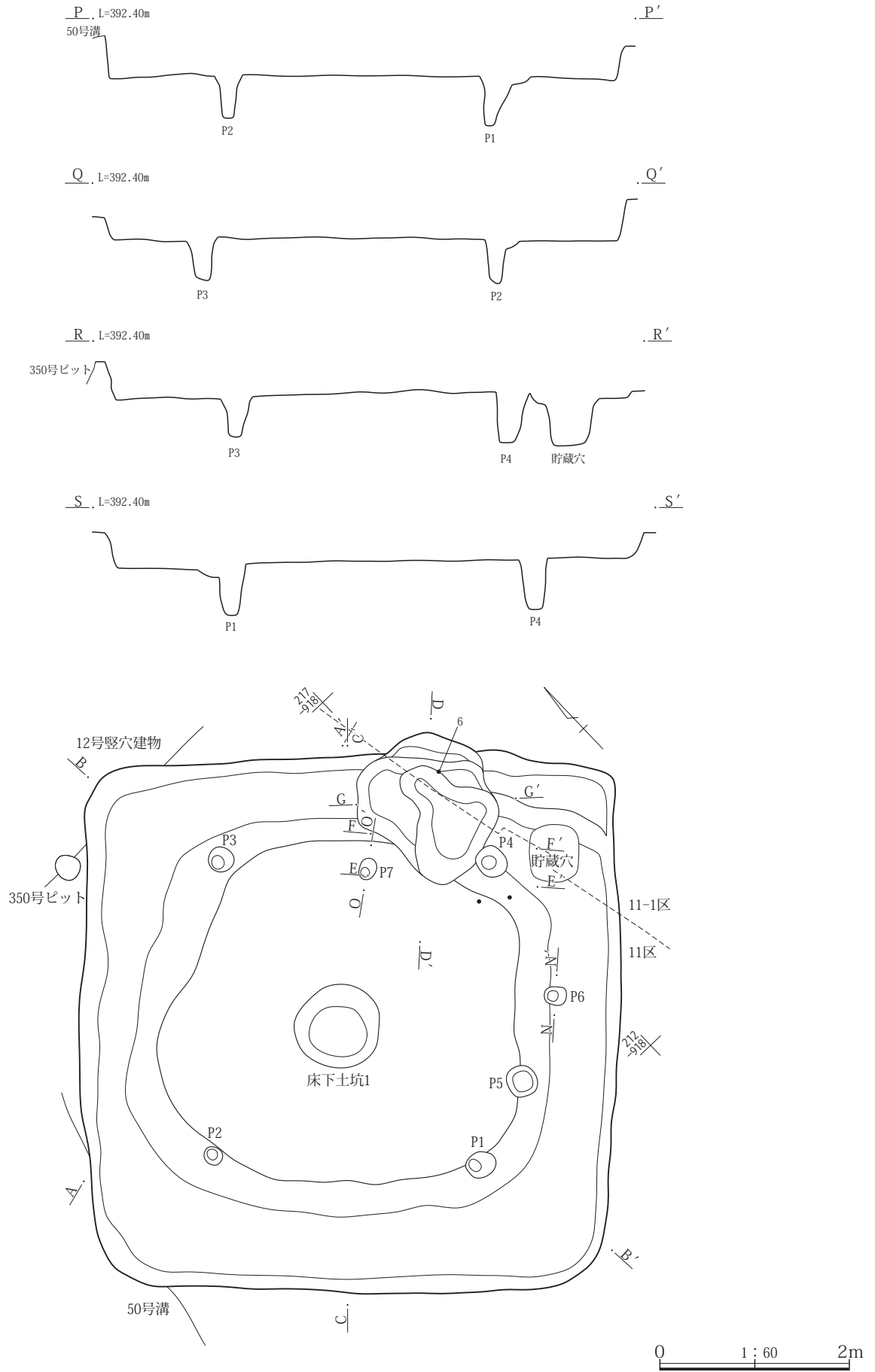
ピットは7基を確認した。P 1～P 4を配置、規模から柱穴として位置付けた。径約20cm、深さ20～40cmを測る。また掘方調査で得られたP 6とP 7も配置が良好であり、これも柱穴等の可能性がある。

掘方調査では、壁周囲に沿って大きく凹み、中央に床下土坑1が検出されている。

なお、本竪穴建物の規模に比して、壁周溝を持たない。特筆すべき事例である。

**遺物**：床面中央南西部に炭化材が2点出土した。建築材を示唆する状態ではないが、焼失家屋として位置付けた。

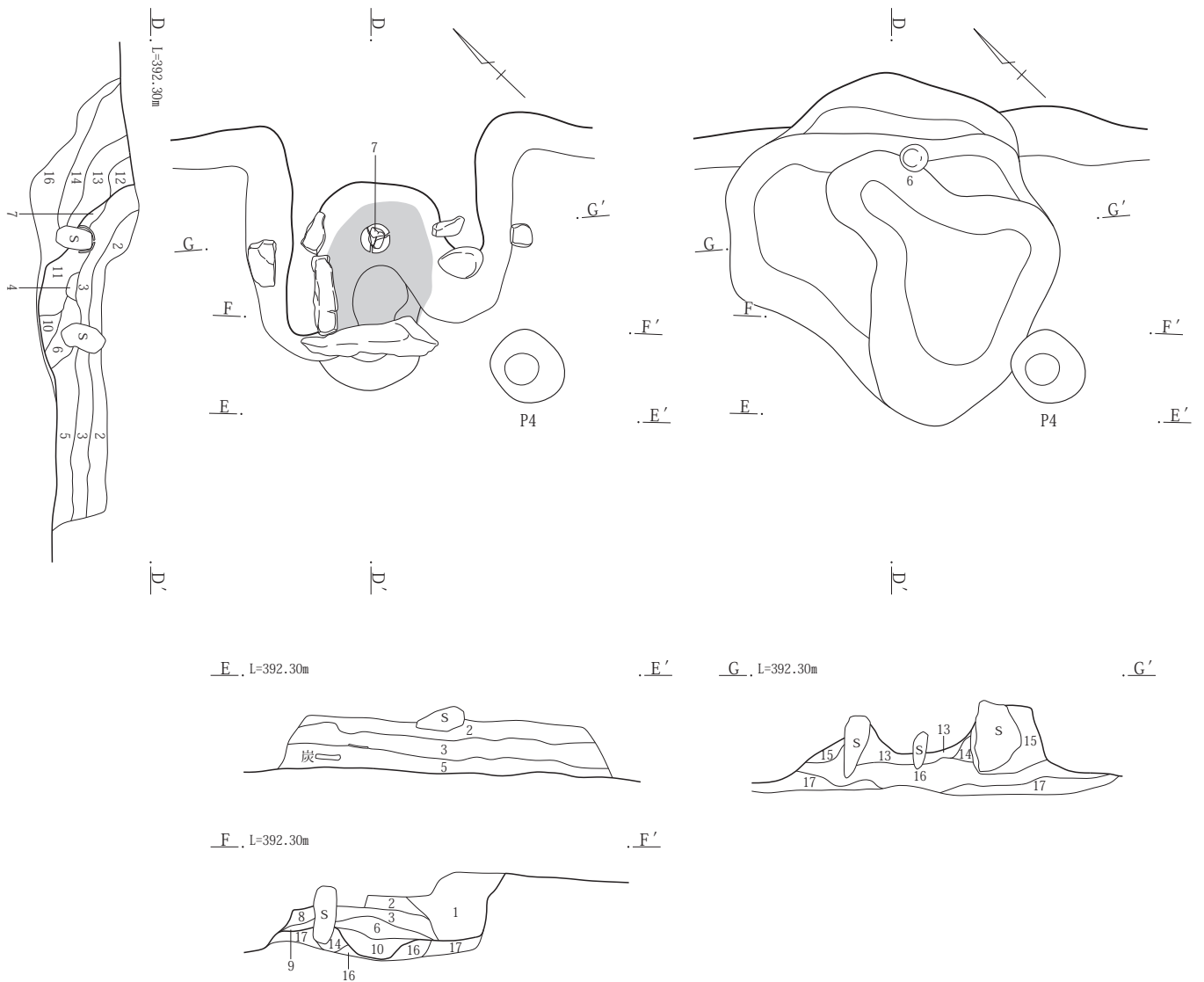
カマドと貯蔵穴の間に多くの遺物が集中する。特にカマド南東壁際より、重なった状態で一括出土したまとまった土器群(1～5)は土器の用途—使用状態、収納状態を示唆しており、極めて良好な出土例である。その他では、カマド掘方で逆位出土した6と支脚上で出土した7はカマド内原位置出土として居住に伴う例と位置付けた。また、カマド南には甕類もまとまる。甕(18)は貯蔵穴東に床直で、甕口縁部(15)や底部(13)は埋土下位で、さらに貯蔵穴の西側で短頸壺(17)が床直で出土する。埋土下位の遺物は多く、杯(8・9)がカマド西で、甕類(14・16)が床面北側で出土した。また、砥石(19)は貯蔵穴西の床直上で出土している。このように、カマド内出土の2点、カマド南の重なった5個体の土器群、床直の甕や短頸壺は居住に伴う出土状態と判断したい。それ以外の



第116図 13号竪穴建物(3)



第3章 検出された遺構と遺物



13号竪穴建物カマドD-D'～・G-G'

- |   |   |
|---|---|
| <p>1 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒・焼土粒を僅かに含む。やや締り弱い。</p> <p>2 暗褐色土(10YR3/3)黄橙色粒を少量、ローム粒を僅かに含む。</p> <p>3 黒褐色土(10YR3/1)黄橙色粒・ローム粒・焼土粒を僅かに含む。</p> <p>4 暗褐色土(10YR3/3)黄橙色粒を少量含む。</p> <p>5 黒褐色土(10YR3/2)黄橙色粒・ローム粒を僅かに含む。</p> <p>6 暗褐色土(10YR3/3)焼土粒を多量に含む。</p> <p>7 にぶい黄褐色土(10YR5/4)黄橙色粒を僅かに、焼土粒を少量含む。</p> <p>8 暗褐色土(10YR3/3)黄橙色粒、焼土粒を少量含む。</p> <p>9 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒を僅かに含む。</p> | <p>10 暗褐色土(10YR3/3)焼土粒を少量、黄橙色粒を僅かに含む。</p> <p>11 黄橙色土(7.5YR7/8)焼土主体。褐色土粒を僅かに含む。</p> <p>12 褐灰色土(10YR6/1)灰白色粘質土を少量含む。(掘方)</p> <p>13 灰白色土(10YR7/1)灰白色粘質土塊を多量に含む。(掘方)</p> <p>14 暗褐色土(10YR3/3)黄橙色粒を僅かに含む。(掘方)</p> <p>15 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を僅かに含む。(掘方)</p> <p>16 黒褐色土(10YR3/1)ローム塊を少量含む。(掘方)</p> <p>17 浅黄橙色土(10YR8/3)ローム塊主体。黒褐色土塊を少量、黄橙色粒、褐色土塊を僅かに含む。(掘方)</p> |
|---|---|

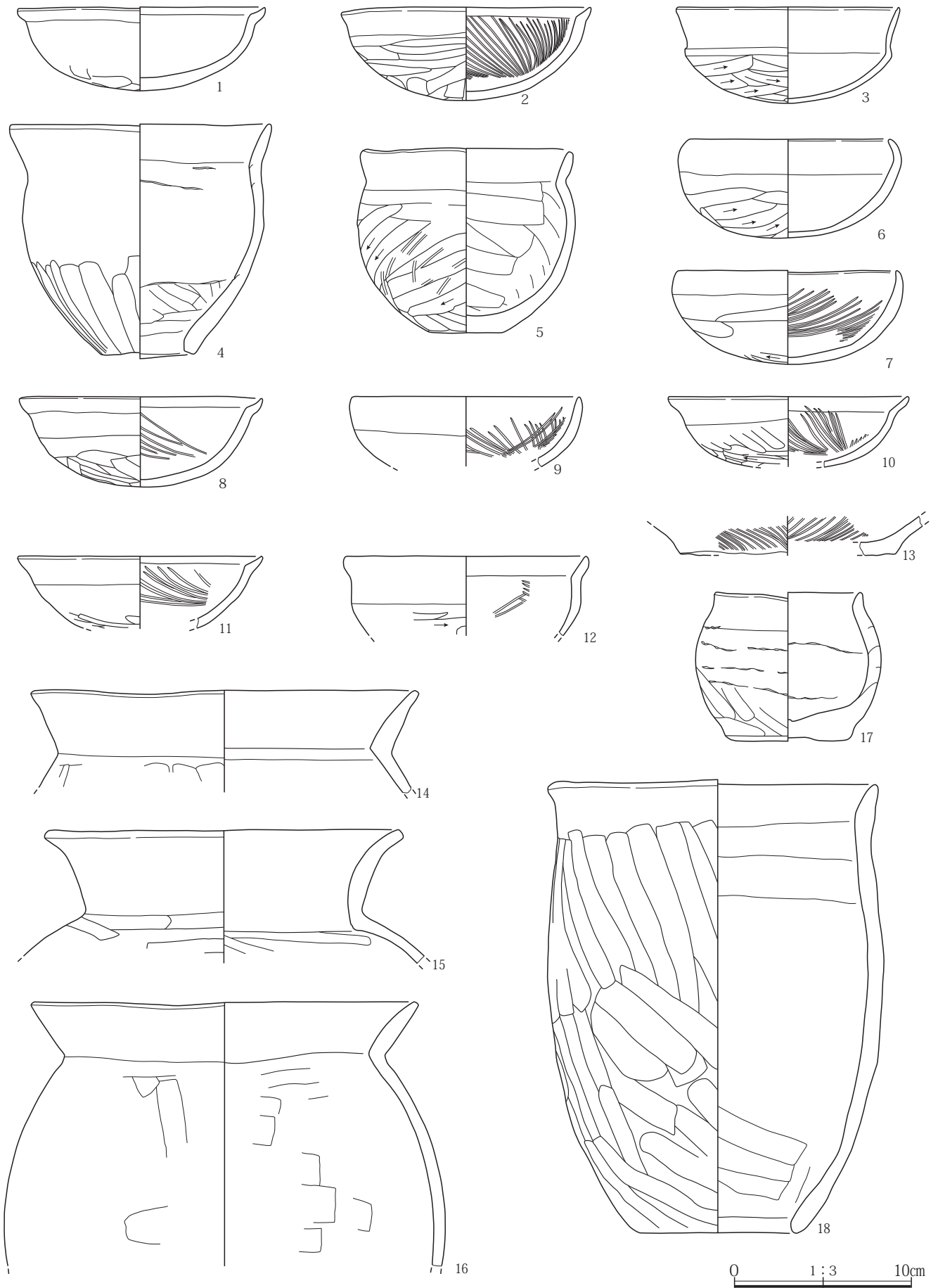
0 1:30 1m

第117図 13号竪穴建物カマド

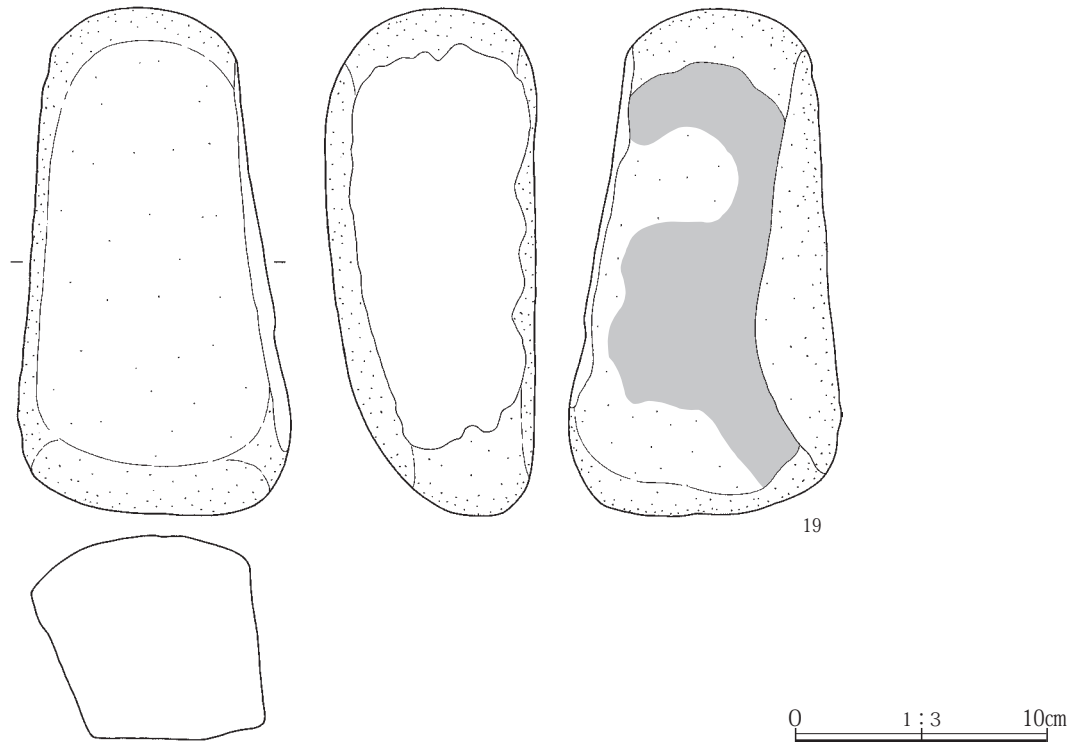
図示した遺物も覆土下位でまとまった出土状態を示しており、若干の時間幅はあるが、焼失後の一括廃棄として考える。

**所見：**カマドを持つ焼失家屋である。残存度も良好で、4本柱穴と貯蔵穴が良好に配される。貯蔵穴上端は有段で蓋などを置く構造が想起される。遺物も居住に伴う例

が多く良好な一括資料である。特にカマド南で5個体が重なった状態で出土しており、下位から小型甕、小型甔、杯3個体が重なる。収納などの使用状態が窺われる資料である。時期は出土土器から古墳時代中期末葉～後期初頭と位置付ける。



第118図 13号竪穴建物出土遺物(1)



第119図 13号竪穴建物出土遺物(2)

14号竪穴建物から23号竪穴建物は11-1区の調査である。このうち23号竪穴建物は縄文時代中期に比定されるため、ここでは扱わず、本節の最後に後述する。

**14号竪穴建物**(第120・121図、PL.44・51・63)

古墳時代中期末葉～後期初頭の竪穴建物とした。北半を調査区域外に延ばす。4本柱穴を推定した。掘方は中央部を残す形態である。

**位置：**11-1区北東側で北半を調査区域外に延長して、調査された。周辺は南東へ低くなる緩傾斜地形が広がる。

また竪穴建物東側が数cmであるが、高くなる傾斜を示す。  
**経過：**漸移層の堆積が薄いため、黄褐色ローム上面で確認した。埋土の褐灰色土との色調差は明瞭で平面形の把握は良好に果たせた。なお、埋土にAs-Kkが含まれるが、本竪穴建物廃絶後が凹地となり、上層のAs-Kk混土層が堆積したものと判断できる。

**規模：**北半が調査区域外のため判然としないが、南北に軸を設けたやや大型の方形を平面形とする。平面規模は約6.4×(5.5)mで、深さは調査区北壁土層から約30cmを測った。確認面からの深さは約10～20cmでやや浅く、壁の立ち上がりは開き気味である。

**床面：**ローム塊を主体とする浅黄橙色土を貼床する。掘

方の凹地の影響で床面中央部がやや高くなるが、ほぼ平坦面を築く。硬化面は中央部がやや硬質だが顕著ではない。

**施設：**炉、カマドを見ない。調査区外の北カマドも想定できよう。また、埋土土層の3層が粘土を主体とすることから、周辺に炉あるいはカマドを設けた可能性もある。

床面上に3基のピットを検出した。いずれも規模、配置からも柱穴として位置付けられる。調査区域外に1柱穴を想定し4本柱穴が判断できる。

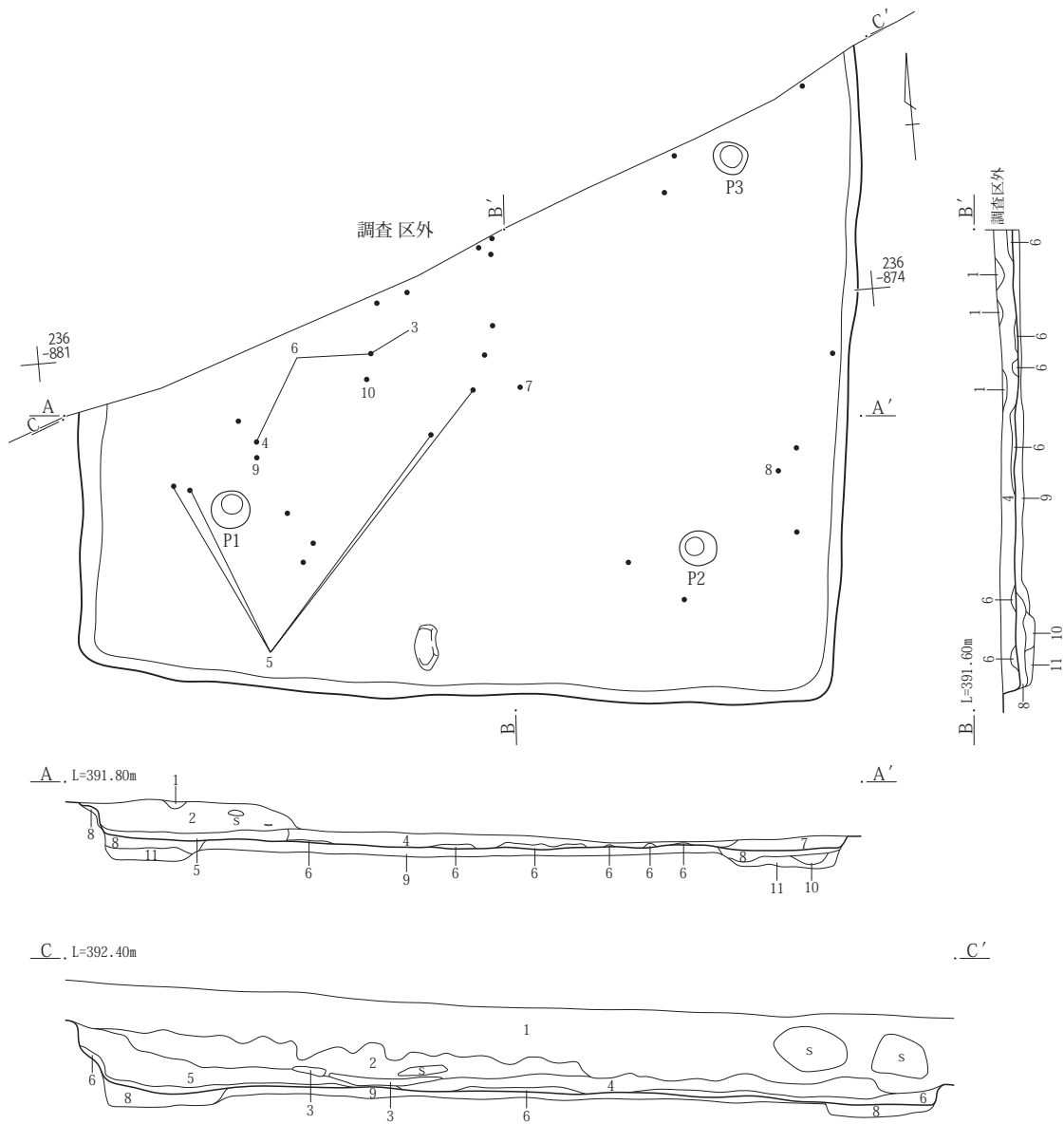
掘方調査では中央部を残し、壁周辺の幅広の凹みを検出した。埋土に黒褐色土が充てられていた。

**遺物：**土器片を中心に埋土下位からの出土が主体を占める。

杯類が多く、甕、高杯破片が少量混じる。また、埋土下位から菅玉1点(10)が出土している。

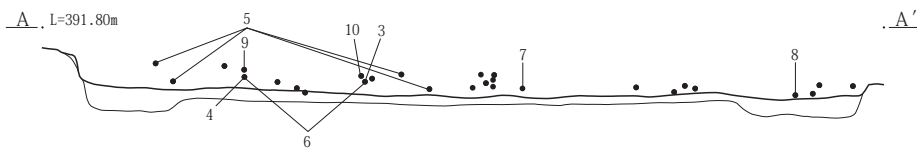
竪穴建物の埋土堆積が凹地状になりAs-Kkが上層に堆積することから、一括性はやや弱いものと判断したい。

**所見：**カマドあるいは炉が調査区外に想定されるため、詳細は不明だが、推定4本柱穴を配す整った平面形状の竪穴建物が想定できる。時期は出土遺物から古墳時代中期末葉～後期初頭と判断した。



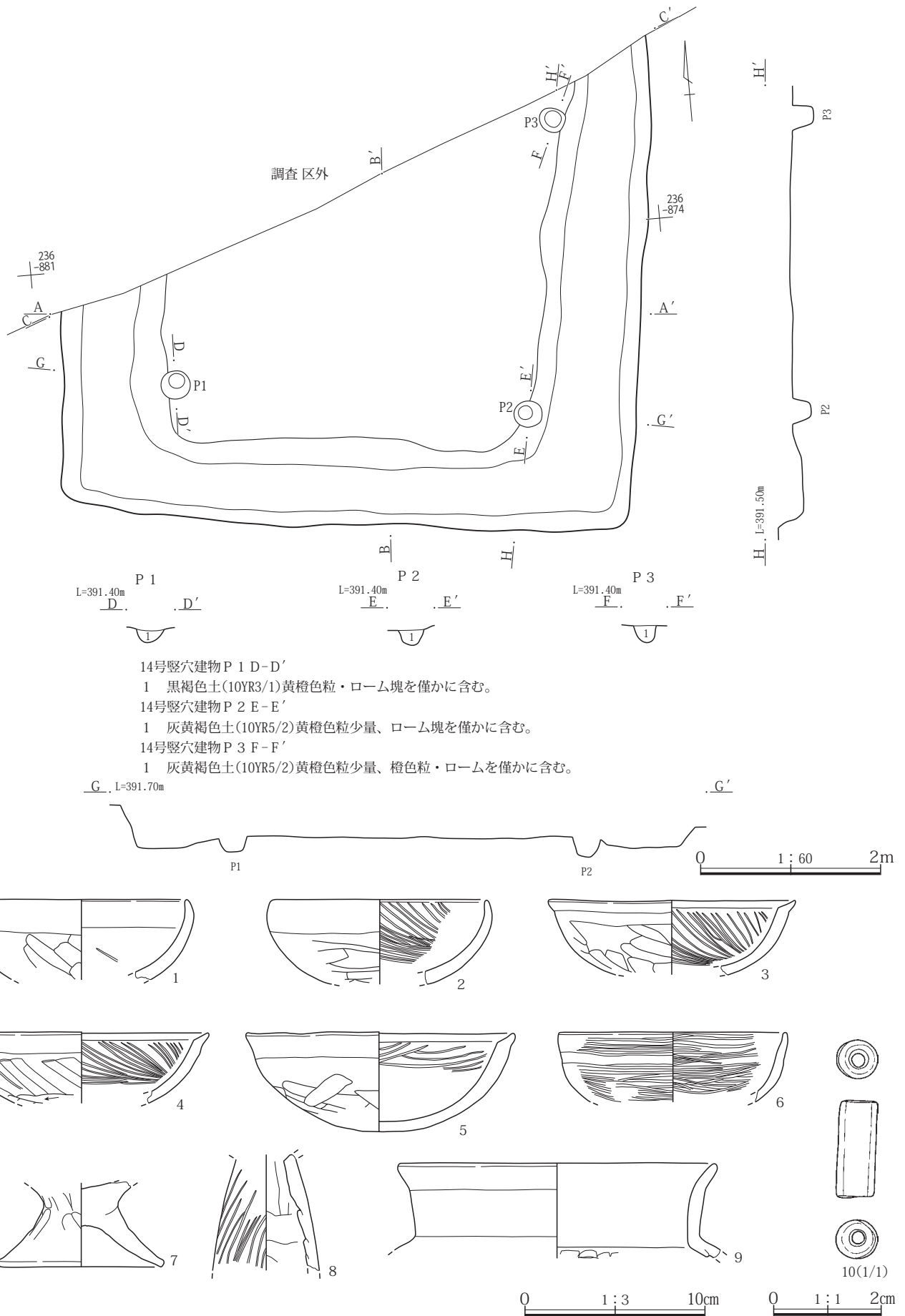
14号竪穴建物 A-A' ~ C-C'

- 1 暗褐色土(10YR3/3)As-Kk混土。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2)黄橙色粒を少量、橙色粒・褐色土塊を僅かに含む。
- 3 灰白色土(10YR8/1)灰白色粘土塊主体。
- 4 褐灰色土(10YR4/1)As-Kk混土。橙色粒を僅かに含む。
- 5 暗褐色土(10YR3/3)黄橙色粒・橙色粒を僅かに、ローム塊を少量含む。
- 6 褐灰色土(10YR6/1)ローム塊を多量に含む。
- 7 黒褐色土(10YR3/1)黄橙色粒を僅かに含む。
- 8 黒褐色土(10YR2/2)黄橙色粒を僅かに含む。(掘方)
- 9 浅黄橙色土(10YR8/4)ローム塊主体。暗褐色土塊を少量含む。(掘方)
- 10 橙色土(7.5YR7/6)ローム塊主体。(掘方)
- 11 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊を多量に含む。(掘方)



0 1:60 2m

第120図 14号竪穴建物(1)



- 14号竪穴建物 P 1 D-D'
- 1 黒褐色土(10YR3/1)黄橙色粒・ローム塊を僅かに含む。
- 14号竪穴建物 P 2 E-E'
- 1 灰黄褐色土(10YR5/2)黄橙色粒少量、ローム塊を僅かに含む。
- 14号竪穴建物 P 3 F-F'
- 1 灰黄褐色土(10YR5/2)黄橙色粒少量、橙色粒・ロームを僅かに含む。

第121図 14号竪穴建物(2)と出土遺物

15号竪穴建物(第122~124図、PL.44・45・63・64)

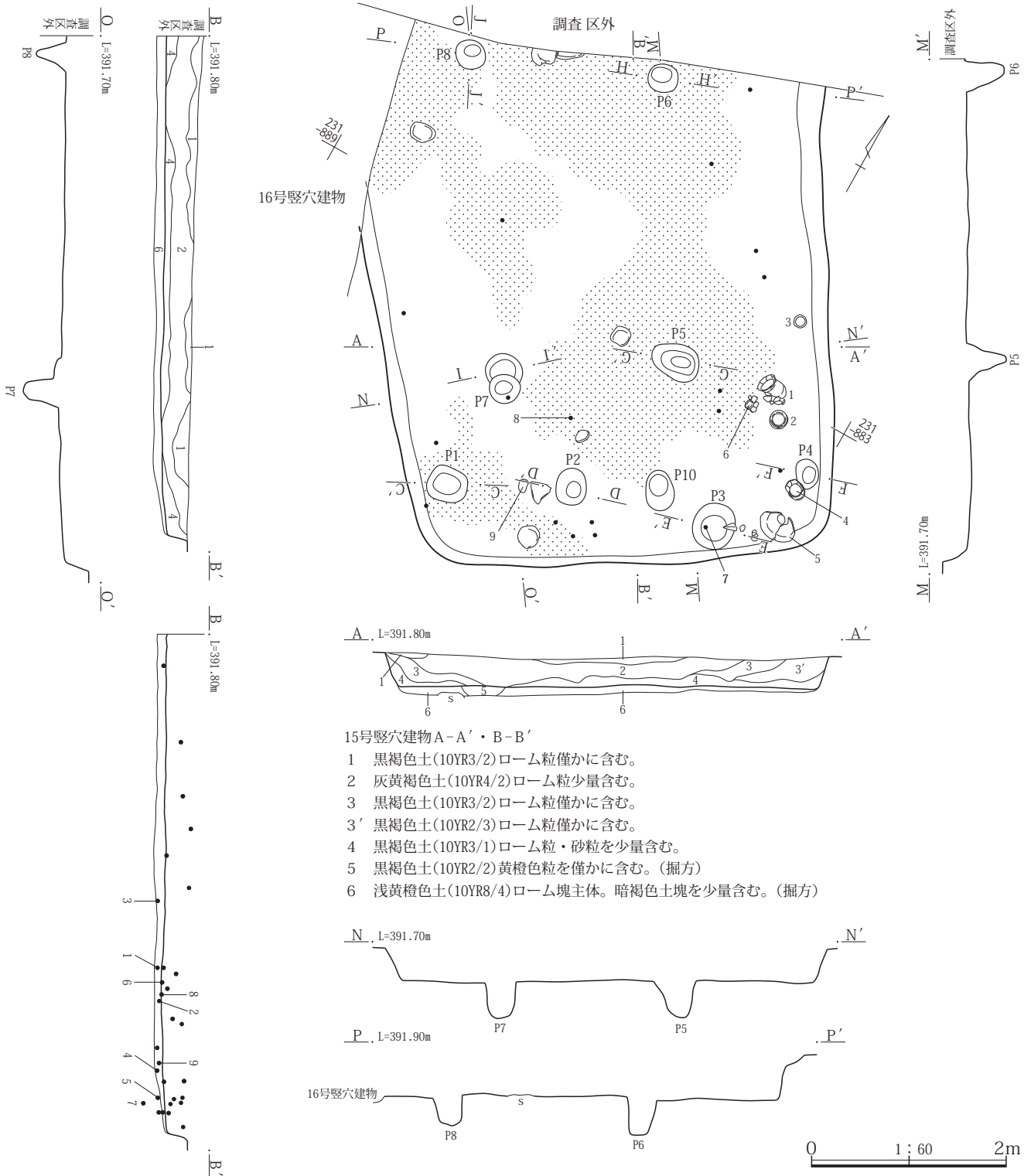
弥生時代後期の竪穴建物である。炉は未検出だが、4本柱穴、貯蔵穴、出入口部ピットを見る。遺物は南東隅の貯蔵穴周辺に集中する傾向がある。

位置：11-1区中央北端の16号竪穴建物東で調査された。周辺は平坦地形が保たれるが、南東は低くなる傾斜地形

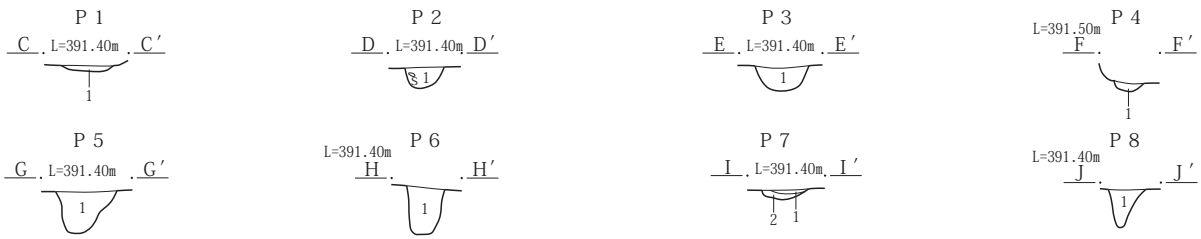
が広がり、地形変換点の立地である。

経過：ローム漸移層の暗褐色土で確認した。竪穴建物埋土色調が黒褐色土を呈するため、平面形の把握は容易だった。また床面はローム層上層にまで達するため、壁の検出も良好に果たせた。

規模：北側を調査区域外に延長するため、詳細は不明で



第3章 検出された遺構と遺物



15号竪穴建物 P 1 C-C'

1 灰黄褐色土(10YR4/2)ローム粒多量に含む。

15号竪穴建物 P 2 D-D'

1 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒僅かに含む。

15号竪穴建物 P 3 E-E'

1 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒僅かに含む。

15号竪穴建物 P 4 F-F'

1 灰黄褐色土(10YR4/2)ローム粒多量に含む。

15号竪穴建物 P 5 G-G'

1 灰黄褐色土(10YR4/2)ローム粒多量に含む。

15号竪穴建物 P 6 H-H'

1 灰黄褐色土(10YR5/2)ローム粒少量、小礫僅かに含む。

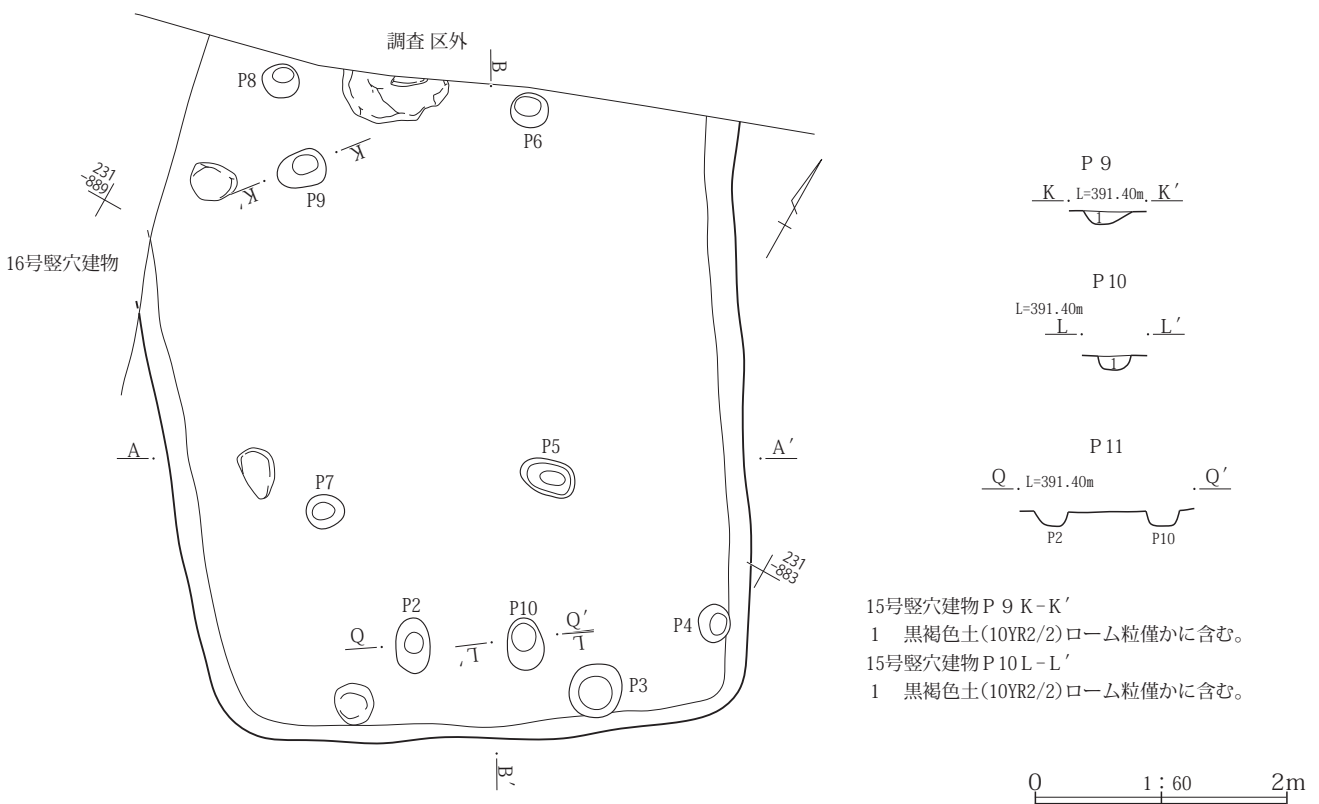
15号竪穴建物 P 7 I-I'

1 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒僅かに含む。

2 灰黄褐色土(10YR4/2)ローム粒多量に含む。締り弱い。

15号竪穴建物 P 8 J-J'

1 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒、橙色粒僅かに含む。



第123図 15号竪穴建物(2)

ある。平面形はほぼ北西に長軸を向ける縦長の長方形が想定され、規模は約(5.5)×4.7m、深さ約40cmを測る。

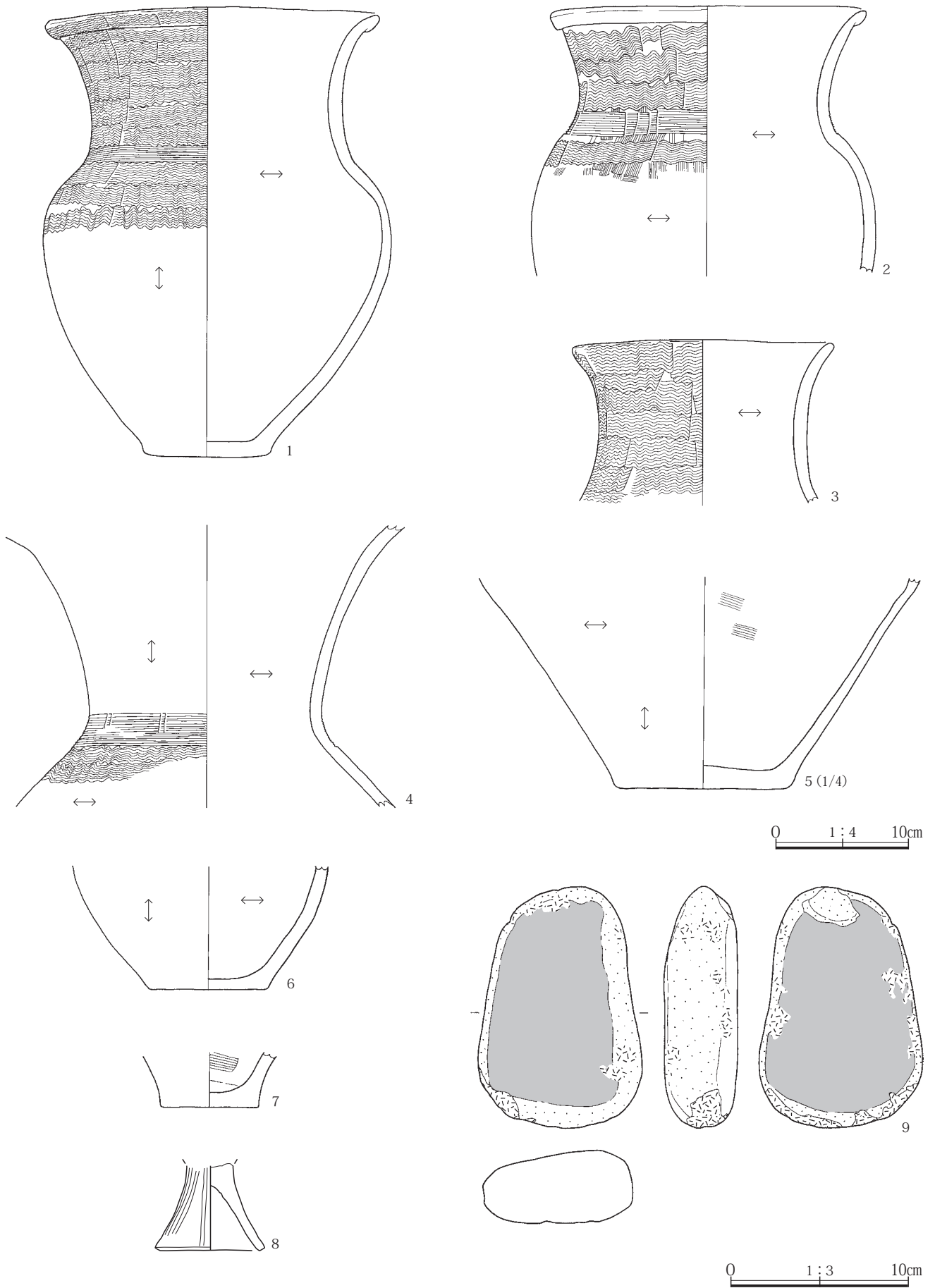
**重複：**西壁の一部が16号竪穴建物と重複する。調査区北壁の土層では、重複箇所上層に大型の中世土坑があるため、土層による正確な判断はできなかった。出土土器から本竪穴建物が古いと判断した。

**床面：**ローム塊を主体とする浅黄橙色土を貼床土とし、僅かな凹凸を見るが平坦面を築く。硬化面は床面中央を中心に広く確認された。

**施設：**炉、カマドを見ない。おそらく炉が調査区外に設けられると推定する。調査区北壁際に円礫がかかるため、炉石、枕石の可能性を探ったが、掘方調査で基盤礫の一部として判断された。ただ、位置的には枕石の可能性はある。

床面上にピットを10基検出した。

柱穴として配置的に妥当なピットはP 5～P 8である。いずれも深さは30cm以上で規模からも良好な柱穴といえよう。



第124図 15号竪穴建物出土遺物



出入口部のピットとしてP2とP10が該当する。円形で深さも10cm前後だが配置的にも良好な位置である。

P3も深さ20cmに満たないが、位置的にも周辺の遺物出土状況から、貯蔵穴として位置付けられよう。

その他ではP1とP4は深さ10cm以下のピットだが、西壁、東壁に対称的に開けられており、壁際に何等かの施設を想定できる位置である。

**遺物：**出土遺物が多い。埋土上層から床面まで出土が見られるが、1～6は南東隅のまとまった出土として位置付けられる。特に、3と4は逆位で、2は正位で甕上半部が置かれており、出土層位もほぼ床直であることから、居住に伴う土器として評価されよう。

**所見：**北側を調査区域外に延ばすが、残存状態の良好な竪穴建物である。柱穴4基と出入口部のピットも検出できた。さらに東南隅の甕類の床面出土状況は居住痕跡と判断でき、一括性に富む資料である。時期は出土土器から弥生時代後期とした。

#### 16号竪穴建物(第125～129図、PL.46・51・64・65)

18号竪穴建物と並ぶ古墳時代中期後葉の大型竪穴建物で、東南隅にカマド、南壁中位に貯蔵穴、南西隅に埋設土器、床東側に転ばし根太溝(床面小溝)を持つ。出土遺物はカマド及び貯蔵穴周辺に集中し居住に伴う例と見られる。

**位置：**11-1区中央北端で15号竪穴建物と17号竪穴建物に挟まれて調査された。周辺はほぼ平坦面だが、南東側へ低くなる傾斜地形が始まる地形変換点に位置する。

**経過：**平面形の確認はローム漸移層の暗褐色土で行った。竪穴建物埋土が黒褐色土を呈するため、平面形の確認は良好に行えた。また掘り込みも深く、床面は黄褐色ローム上面にまで達していたため、壁の検出も容易だった。

**規模：**やや大型の長方形を呈す平面形で、規模は約7.0×(5.7)m、深さ約40cmを測る。長軸方位は東北東を向く。壁は直立気味に開く良好な立ち上がりを示す。

**重複：**東側に15号竪穴建物、西に17号竪穴建物が重複するが、いずれも本竪穴建物が新しい。17号竪穴建物とは調査区北壁の土層から判断した。

**床面：**床面中央が僅かながら高いが、ほぼ平坦面といえよう。貼床土はローム塊を主体に黒褐色土塊を含む浅黄褐色土で床面全面に敷かれる。硬化面はカマド西側から

床面中央にかけて顕著に広がりを見せた。

**施設：**カマドは南東隅に設けられる。主軸は竪穴建物とは違ってN-151°-E、東南東を向く。長軸長は約122cm、短軸長約25cmで、燃焼部幅は約20cmである。両袖は袖石を芯材とし暗褐色土で補強し袖部としていた。カマド西には大型の角礫が置かれてたが、おそらく天井部の構築材であろう。燃焼部奥より煙道部急激な傾斜で至り、煙道部は壁外に突出していなかった。燃焼部には焼土塊を含む褐灰色土が堆積しており、おそらく天井部などの崩落土であろう。遺物はカマド内からは甕口縁部破片(16)を見るのみである。カマド北側で鉄滓が付着する高杯脚部2点(8・9)が床面より出土している。2点とも時期が古く転用品か。

貯蔵穴を南壁際中央で調査した。長方形を呈する有段の貯蔵穴で外郭の平面規模は約120×120cmで10cm程の段差で内郭に至る。内郭の平面規模は約70×65cm、深さは約40cmを測る。埋土中より小礫と土器片が出土したが、土師器杯(6)を図示した。

転ばし根太溝を東壁際で2条調査した。南北に2m程の間隔で平行しており、全長約1～1.2m、幅約20～25cm、深さ約10cmの小規模な溝である。

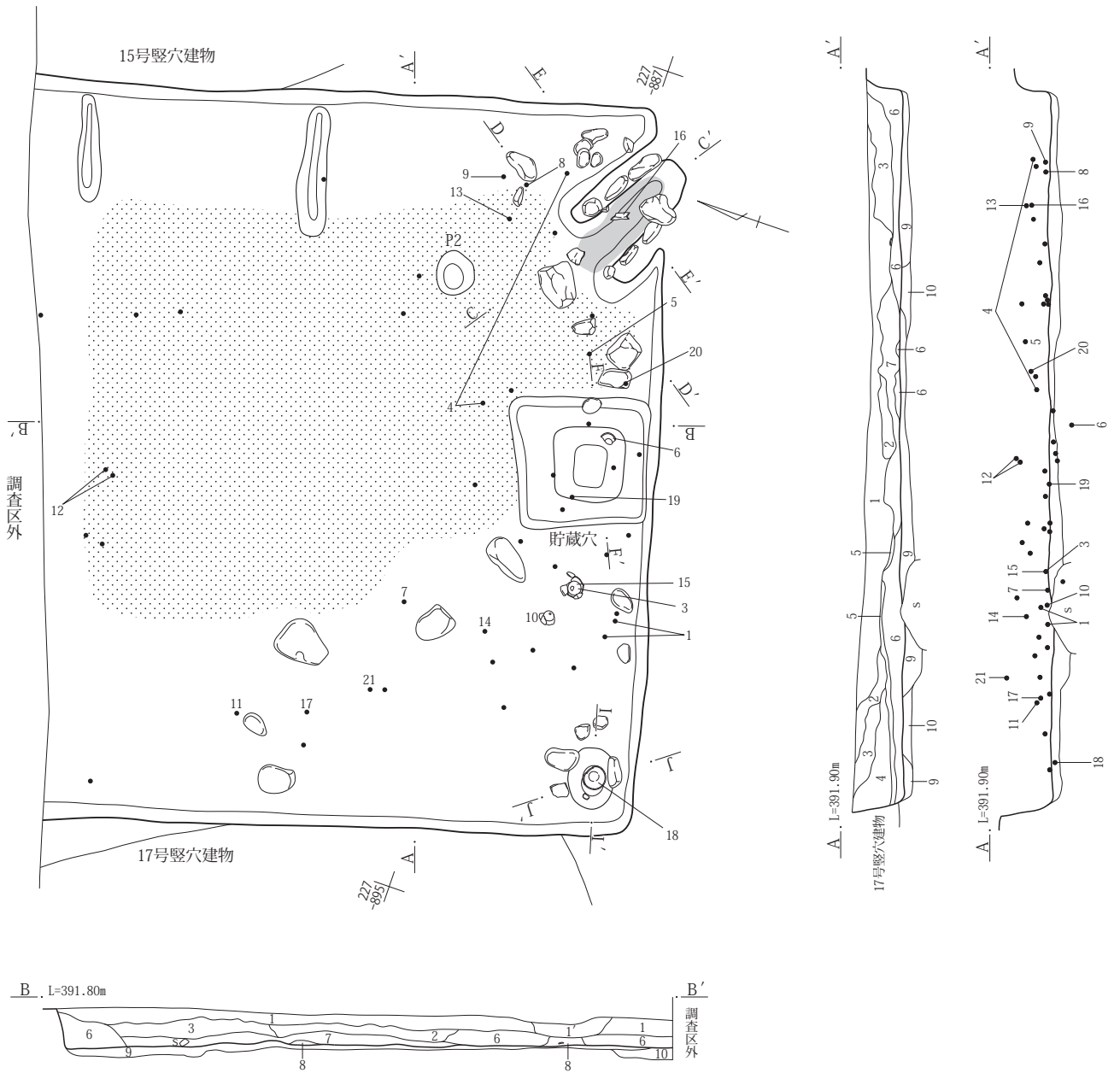
本竪穴建物からは埋設土器とされる遺構が調査時に位置付けられている。南西隅で設けられた浅い土坑に正位の甕体部下半(18)が埋設されていた。周囲には円礫が置かれており、甕外面にススコゲによる被熱痕跡が見られたことから、焼土の明瞭な堆積はないが、断続的な燃焼施設とした性格が想定されよう。

ピットは2基が調査された。いずれも浅く柱穴としての位置付けは果たせない。位置的にはP2が妥当であるが、確定的な判断は避けたい。

掘方調査では床面西側を残して、広く凹む掘方を検出した。床面中央を残す掘方に近い。

**遺物：**カマド周辺と貯蔵穴周辺に集中する傾向がある。前述の高杯脚部2点やカマド内杯、埋設土器以外にも、床直、床直上からの出土が目立つ。貯蔵穴と埋設土器の間は甕(15)、杯(1・3)などが床直より出土している。カマド周辺と同様の出土傾向であろう。その他では、石製模造品など3点(19～21)が出土している。

**所見：**カマドを南東隅に設ける竪穴建物である。北側を調査区域外に延長するため全体は把握できないが、カマ



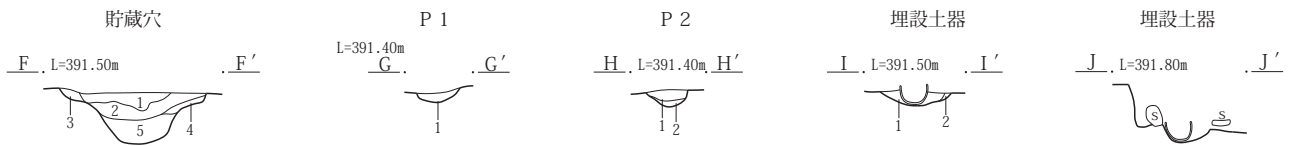
16号竪穴建物 A-A'・B-B'

- 1 黒褐色土(10YR3/2)黄橙色粒・橙色粒を僅かに含む。
- 1' にぶい黄褐色土(10YR4/3)ローム小塊を多く、黄橙色粒を少量含む。別種遺構埋土か。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)黄橙色粒を少量含み、橙色粒を僅かに含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/4)黄橙色粒・ローム塊を多く含み、橙色粒を僅かに含む。
- 4 黒褐色土(10YR2/3)黄橙色粒を少量含み、橙色粒・ローム塊を僅かに含む。
- 5 黄褐色土(10YR5/8)黄橙色粒を僅かに含む。
- 6 褐灰色土(10YR4/1)ローム粒を僅かに含む。
- 7 明黄褐色土(10YR6/6)黄橙色粒を少量、橙色粒を僅かに、ローム塊を多量に含む。
- 8 黄橙色土(10YR8/6)ローム塊を多量に含む。
- 9 浅黄橙色土(10YR8/4)黒褐色土塊を少量、褐色土塊を僅かに含む。(掘方)
- 10 浅黄橙色土(10YR8/4)ローム主体。黄橙色粒を少量、褐色土塊を多量に含む。(掘方)

0 1:60 2m

第125図 16号竪穴建物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



16号竪穴建物貯蔵穴 F - F'

- 1 黒褐色土(10YR3/2)黄橙色粒・橙色粒を僅かに含む。
- 2 褐灰色土(10YR4/1)ローム塊を多量に、橙色粒を僅かに含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊を多量に、黄橙色粒・橙色粒を僅かに含む。
- 4 褐灰色土(10YR5/1)黄橙色粒を多量に、橙色粒を僅かに含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/1)黄橙色粒・橙色粒を僅かに、褐色土塊を含む。

16号竪穴建物 P 1 G - G'

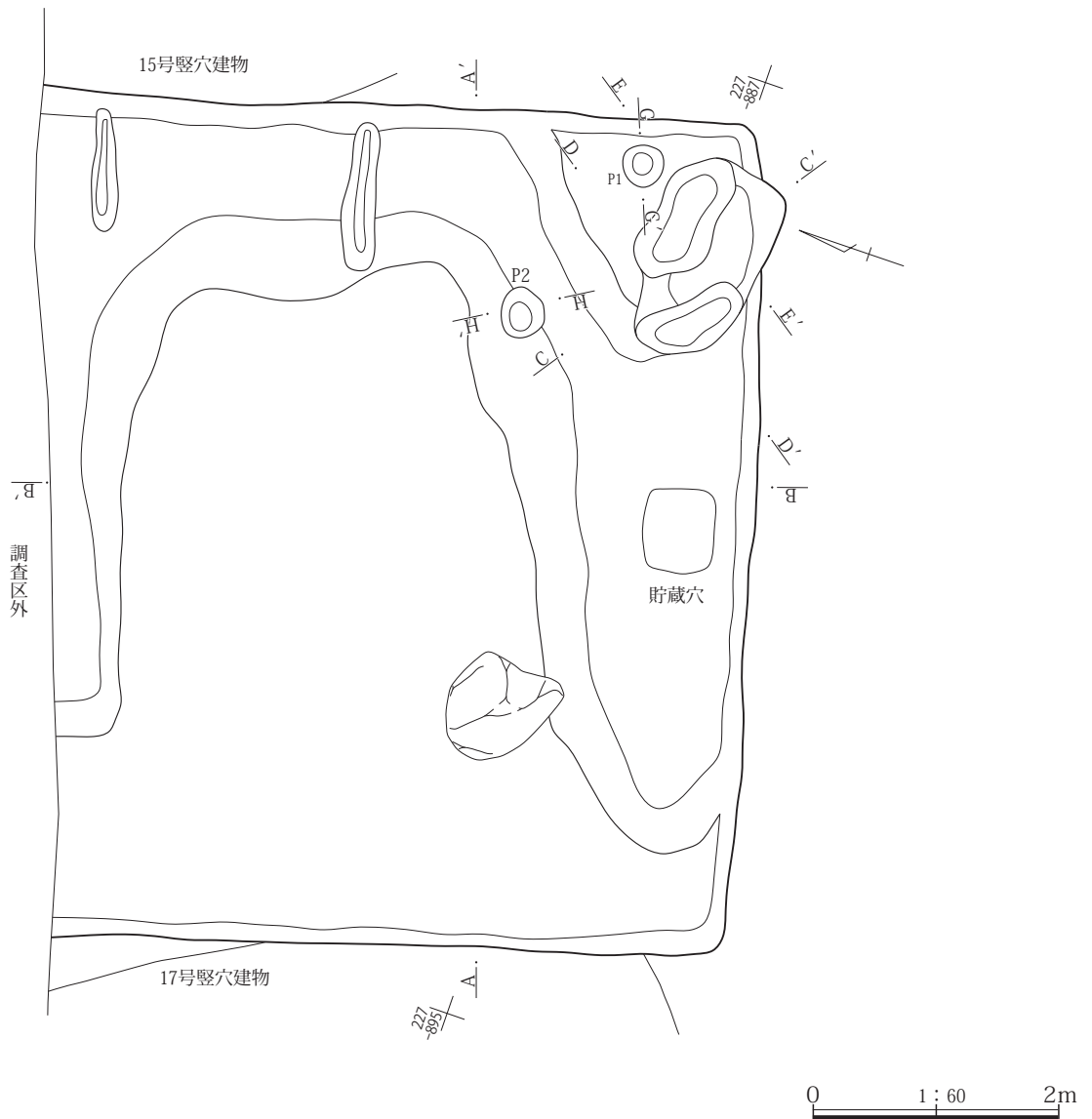
- 1 黒褐色土(10YR3/1)黄橙色粒を僅かに、ローム塊を少量含む。

16号竪穴建物 P 2 H - H'

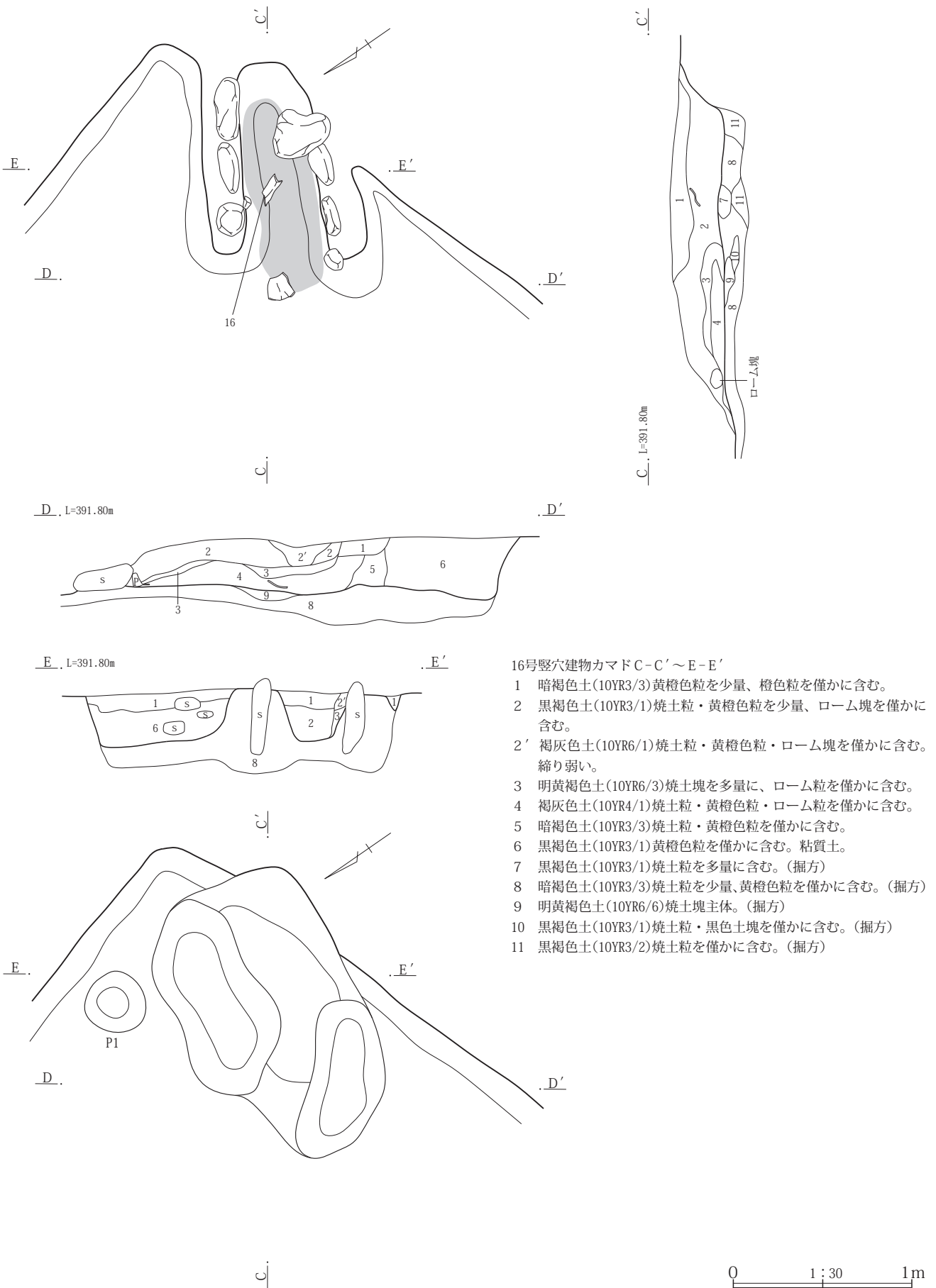
- 1 暗褐色土(10YR3/3)黄橙色粒・褐色土塊を僅かに含む。
- 2 にぶい黄橙色土(10YR7/2)黄橙色粒・ローム塊を少量含む。

16号竪穴建物埋設土器 I - I'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)黄橙色粒・ローム塊を僅かに含む。
- 2 浅黄橙色土(10YR8/4)ローム塊を少量、褐色土塊を僅かに含む。

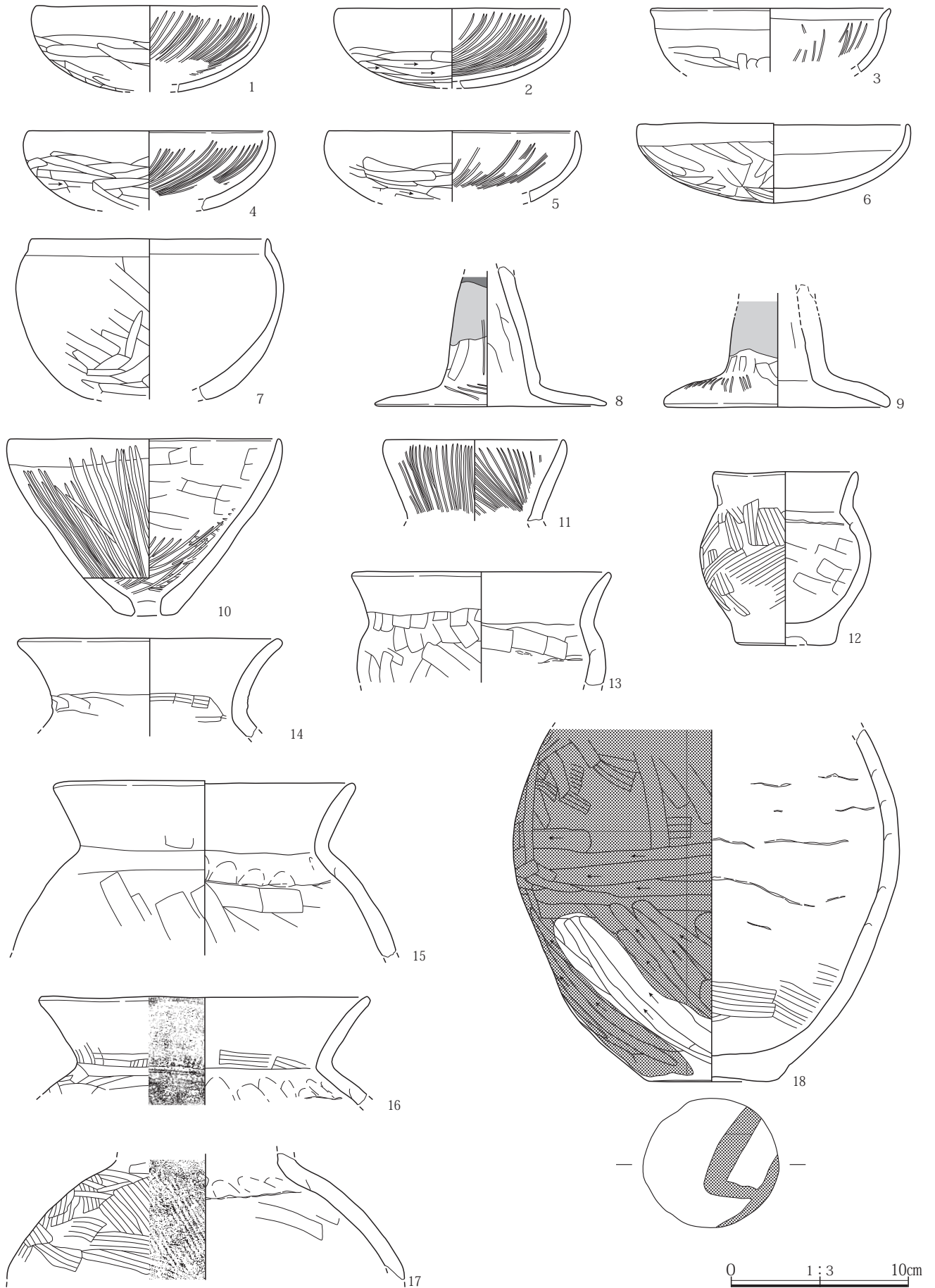


第126図 16号竪穴建物(2)

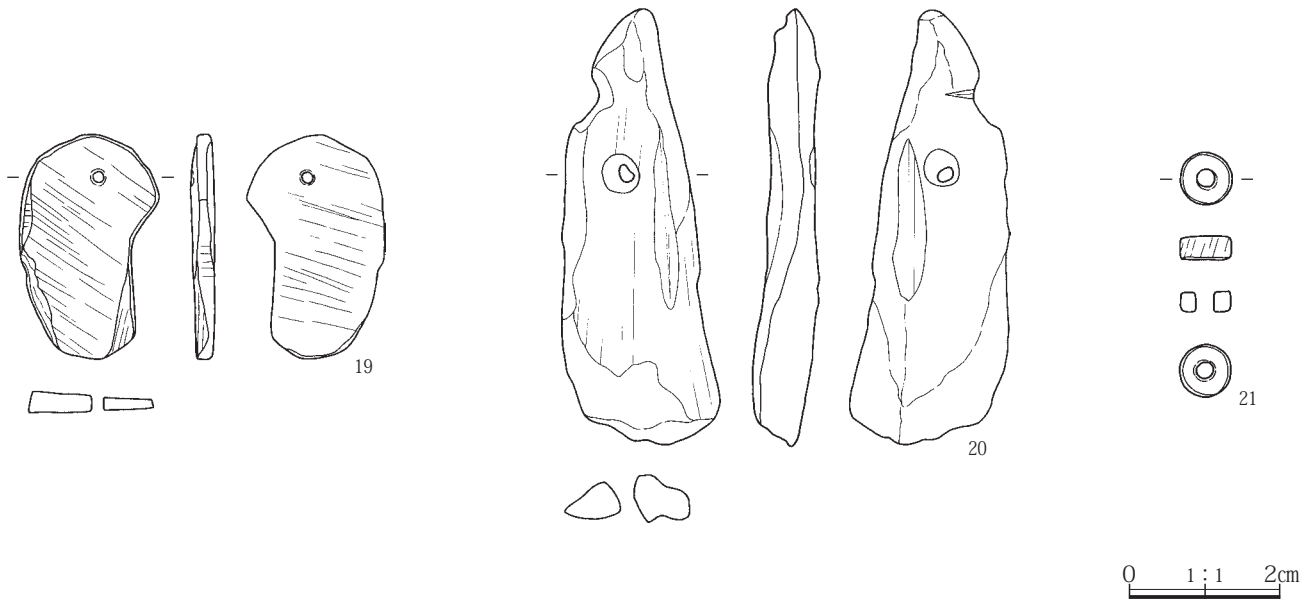


- 16号竪穴建物カマドC-C'～E-E'
- 1 暗褐色土(10YR3/3)黄橙色粒を少量、橙色粒を僅かに含む。
  - 2 黒褐色土(10YR3/1)焼土粒・黄橙色粒を少量、ローム塊を僅かに含む。
  - 2' 褐灰色土(10YR6/1)焼土粒・黄橙色粒・ローム塊を僅かに含む。締め弱い。
  - 3 明黄褐色土(10YR6/3)焼土塊を多量に、ローム粒を僅かに含む。
  - 4 褐灰色土(10YR4/1)焼土粒・黄橙色粒・ローム粒を僅かに含む。
  - 5 暗褐色土(10YR3/3)焼土粒・黄橙色粒を僅かに含む。
  - 6 黒褐色土(10YR3/1)黄橙色粒を僅かに含む。粘質土。
  - 7 黒褐色土(10YR3/1)焼土粒を多量に含む。(掘方)
  - 8 暗褐色土(10YR3/3)焼土粒を少量、黄橙色粒を僅かに含む。(掘方)
  - 9 明黄褐色土(10YR6/6)焼土塊主体。(掘方)
  - 10 黒褐色土(10YR3/1)焼土粒・黒色土塊を僅かに含む。(掘方)
  - 11 黒褐色土(10YR3/2)焼土粒を僅かに含む。(掘方)

第127図 16号竪穴建物カマド



第128図 16号竖穴建物出土遺物(1)



第129図 16号竪穴建物出土遺物(2)

ドの他、貯蔵穴を南壁際中央に、転ばし根太溝2条を床面東側に検出した。さらに西南隅に埋設土器とした施設を見たが、これは煮沸施設と考えた。貯蔵穴は有段構成で13号竪穴建物と共通する。おそらく蓋状の遮蔽物を置いたのであろう。時期は出土土器から古墳時代中期後葉であろう。

**17号竪穴建物(第130~133図、PL.47・65・66)**

縦長長方形の平面形で地床炉、貯蔵穴、4本柱穴、出入口部ピットを検出した。出土遺物は貯蔵穴周辺を中心に豊富である。弥生時代後期に比定した。

**位置：**11-1区中央北端で調査された。東に16号竪穴建物が重なる。周辺はほぼ平坦地形が広がり、緩やかな南東傾斜との地形変換点に位置する。

**経過：**ローム漸移層の暗褐色土で平面形を確認した。竪穴建物埋土色調が黒褐色土を呈するため、平面形及び壁の把握は容易で、床面がローム層上層にまで達するため、壁の検出は良好に果たせた。

**規模：**北東側が調査区外に延長し南東隅を16号竪穴建物の切られるが、縦長長方形の平面形が推定できる。主軸方位を北北西に向け、平面規模は約6.0×4.5mで、深さは約45cmを測る。壁は直立気味に開く。

**重複：**16号竪穴建物に切られる。また、西側に566号ピットと567号ピットが近接する。

**床面：**ほぼ平坦面を築くが、全体的に北西側が高く南東

側が低い。これは竪穴建物周辺の地形に影響された傾斜であろう。ローム塊主体の浅黄橙色土を貼床し、硬化面は炉南から南壁出入口部にかけて認められた。

**施設：**炉が床面中央北側に設けられる。小型の円礫を南側上層に置く地床炉である。深さ10cm程の浅い土坑状の掘方を持ち、焼土粒を少量含むにぶい黄橙色土を堆積する。出土遺物は無かったが、上層で出土した小型円礫を枕石として位置付けたい。

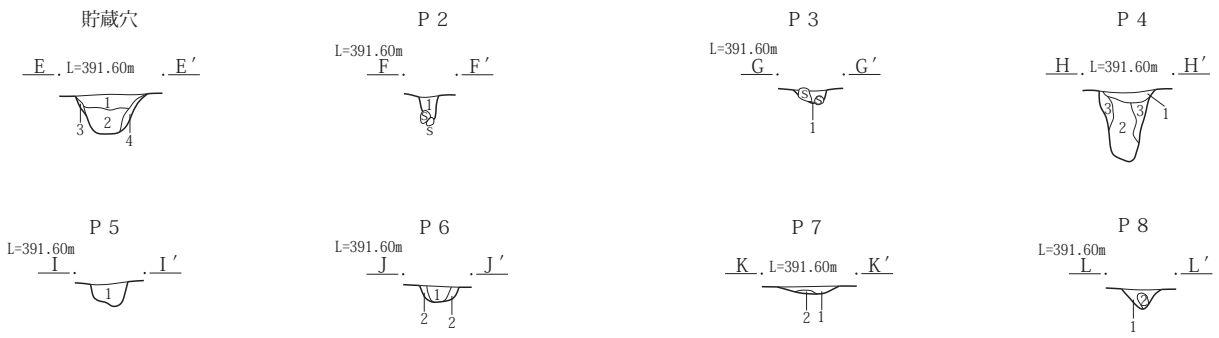
貯蔵穴は南壁際やや東寄りに検出した土坑を充てた。径約60×50cm、深さ約30cmを測り、高杯脚部(11・13)や壺体部~底部(9)が出土している。

床面上で検出したピットは8基である。そのうち、柱穴としたピットはP4~P6・P8としたい。P6とP8の距離がP4とP5に比して短く、また、P4以外は20cmに満たない深さのためやや貧弱な印象を受ける柱穴である。

出入口部のピットとしてP2・P3が南壁際で良好な配置を示す。不整楕円状の平面形で出入口部のピットの特徴を具体化する。

**遺物：**埋土下位から床直にかけてまとまった出土状態をしめす。特に貯蔵穴埋土内(9・11・13)及び床直出土の甕上半(1・2)や体部下半(6)、さらに北東側で出土した高杯脚部(14)が居住に伴う例あるいは一括廃棄時の所産と判断できる。埋土下位の出土では、鉢(15)や高杯脚部(10)が出土している。時期的なまとまりを見ることか





17号竪穴建物貯蔵穴 E-E'

- 1 暗褐色土(10YR3/3)黄橙色粒・ローム塊を多量に、橙色粒を僅かに含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)ローム塊を多量に含む。
- 3 浅黄橙色土(10YR8/3)浅黄橙色粘質土塊主体。黄橙色粒を僅かに含む。
- 4 暗褐色土(10YR3/3)浅黄橙色粘質土塊・黄橙色粒を僅かに含む。

17号竪穴建物 P 2 F-F'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)黄橙色粒を少量、ローム塊を多量に含む。粘質土。

17号竪穴建物 P 3 G-G'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)黄橙色粒を少量、ローム塊を僅かに含む。粘質土。

17号竪穴建物 P 4 H-H'

- 1 黒褐色土(10YR3/2)黄橙色粒を多量に、ローム塊を少量含む。粘質土。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)黄橙色粒・ローム塊を少量含む。粘質土。
- 3 灰黄褐色土(10YR5/2)黄橙色粒・ローム塊を少量、褐色粘質土を僅かに含む。

17号竪穴建物 P 5 I-I'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)黄橙色粒を多量に含むやや粘質あり。

17号竪穴建物 P 6 J-J'

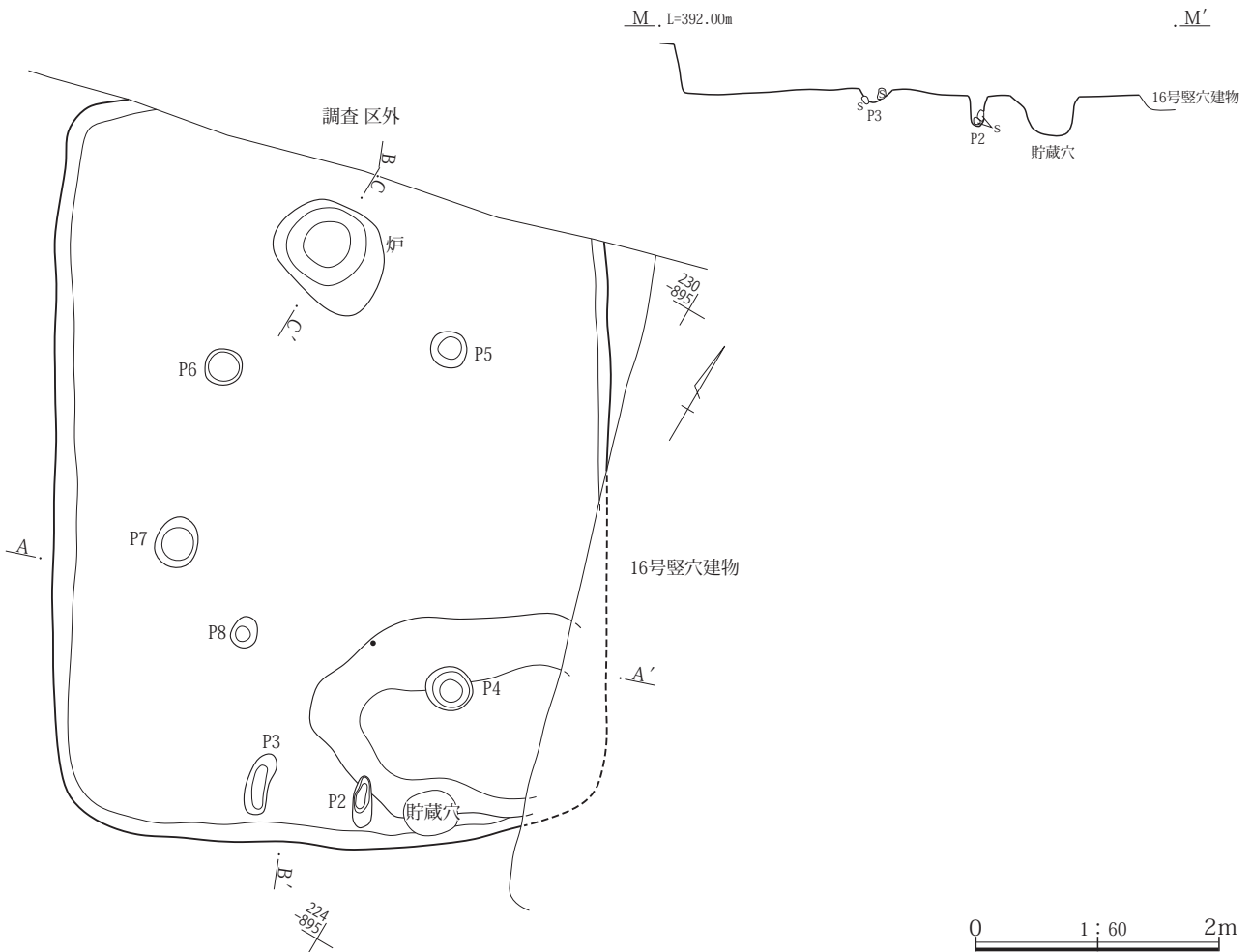
- 1 黒褐色土(10YR3/1)黄橙色粒を多量に含む。やや粘質あり。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)黄橙色粒を多量に、ローム塊を少量含む。粘質土。

17号竪穴建物 P 7 K-K'

- 1 黒褐色土(10YR3/2)黄橙色粒を多量に、ローム塊を少量含む。粘質土。
- 2 灰黄褐色土(10YR5/2)黄橙色粒を少量含む。締りなし。

17号竪穴建物 P 8 L-L'

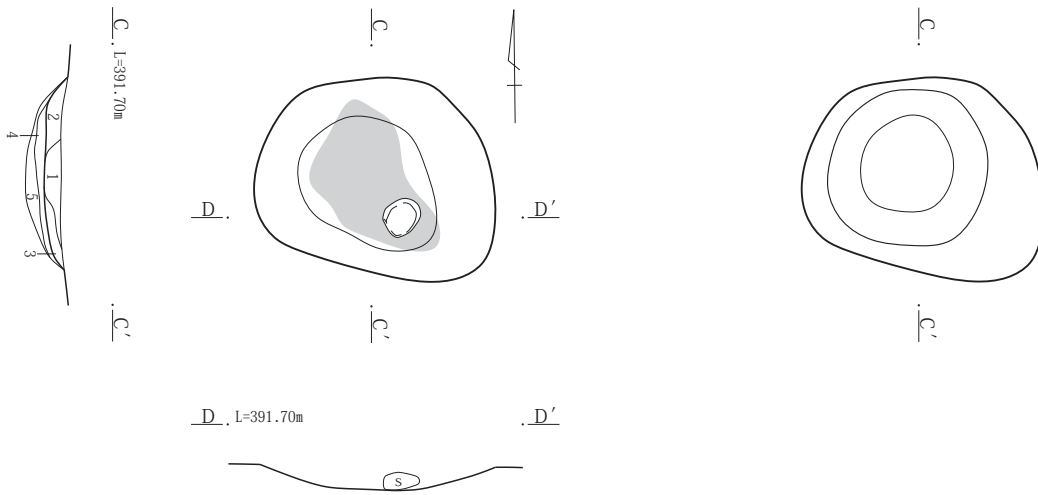
- 1 黒褐色土(10YR3/2)黄橙色粒・ローム塊を多量に含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR5/2)ローム塊を多量に、褐色粘質土を少量含む。



第131図 17号竪穴建物(2)

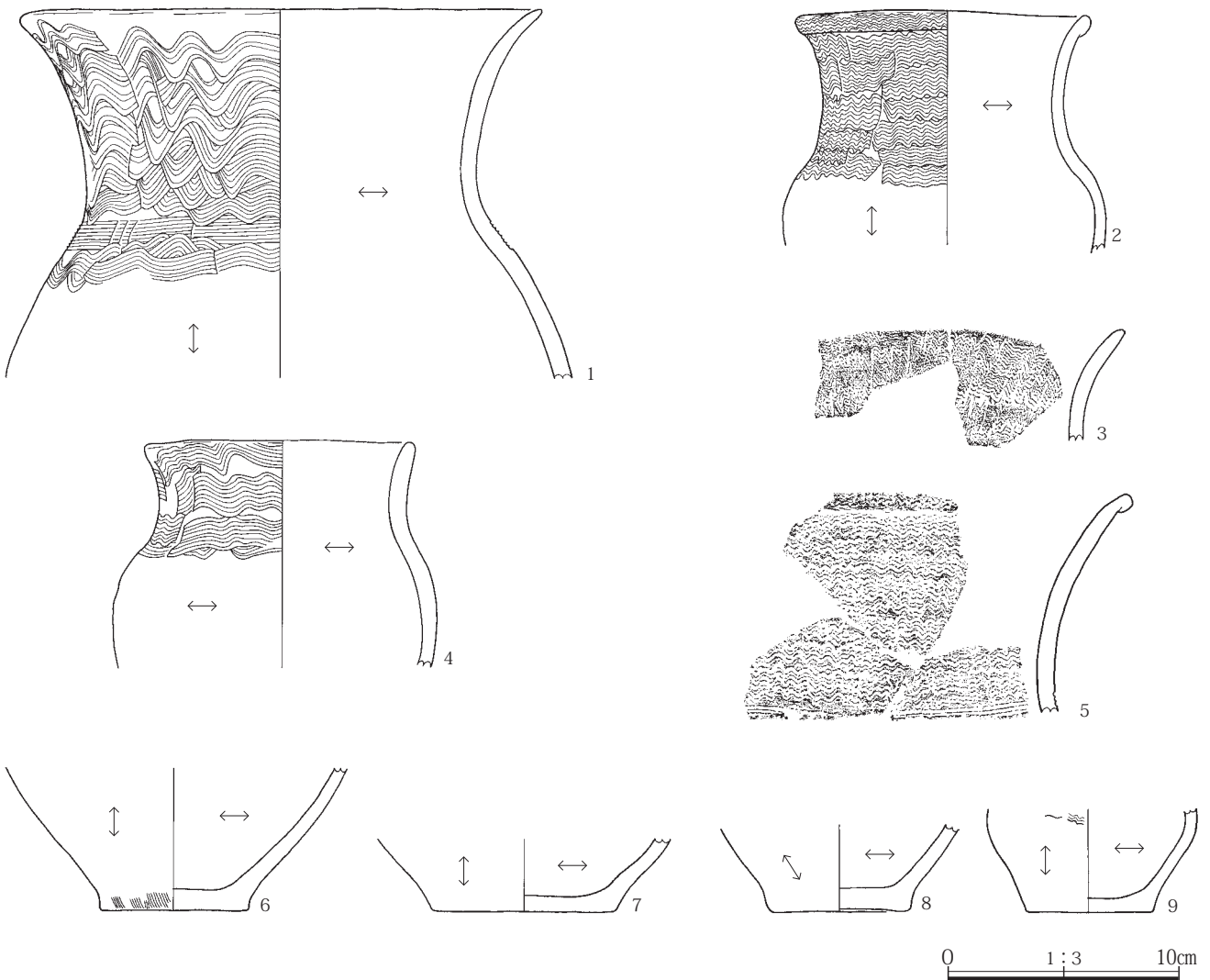
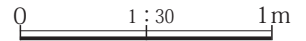


第3章 検出された遺構と遺物

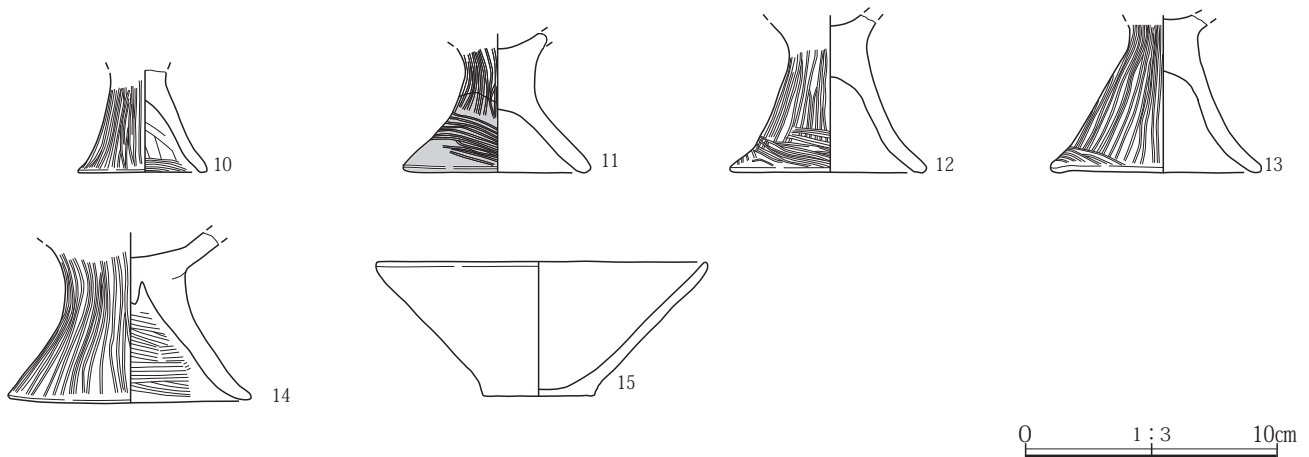


17号竪穴建物炉 C-C'

- 1 にぶい黄橙色土(10YR6/3)黒褐色土を多量に、黄橙色粒・焼土粒を僅かに含む。締り弱い。
- 2 灰黄褐色土(10YR5/2)黒褐色土を少量含む。締り弱い。
- 3 浅黄橙色土(10YR8/3)黒褐色粒を僅かに含む。締り弱い。
- 4 暗褐色土(10YR3/3)焼土粒を少量、ローム塊を僅かに含む。(掘方)
- 5 浅黄橙色(10YR8/4)ローム塊主体。橙色粒を僅かに含む。粘性あり。(掘方)



第132図 17号竪穴建物炉と出土遺物(1)



第133図 17号竪穴建物出土遺物(2)

ら、埋土下位の遺物も床直遺物も貯蔵穴内や甕上半部と同時期で一括性が高い出土状態と判断したい。

**所見：**縦長長方形の平面形で、床面北側に地床炉を設ける。小規模とはいえ4本柱穴を配し、南側壁際に出入口部のピットと貯蔵穴がある。未調査部分や16号竪穴建物に壊される箇所があるとはいえ、全容が把握できる良好な竪穴建物である。時期は出土遺物から弥生時代後期と判断した。

**18号竪穴建物**(第134～141図、PL.48・66～68)

今回の調査で得られた最も大型の古墳時代の竪穴建物である。カマド、貯蔵穴、4本柱穴、壁周溝、転ばし根太溝(床面小溝)を備える。出土遺物も豊富で、特に竪穴建物四隅より出土した甕類が目目される。

**位置：**11-1区中央やや北西寄りに位置する大型竪穴建物である。南側は緩やかに南東へ低くなる傾斜地形が広がり、地形変換点に位置する。

**経過：**確認面はローム漸移層相当の灰黄褐色土である。遺構埋土は黒褐色土を主とし、床面はローム層上層にまで掘り込むため、平面形及び壁の検出は良好に果たせた。しかしながら、カマドの検出作業においては、遺物出土量が多く、カマド構築材の把握が良好に果たせず、袖部分を逸失してしまった。また、床面下に22号竪穴建物が重複しており、当初は一部を掘り下げてしまったが、調査中に時期差が把握でき、ごく一部の掘り下げにとどまった。

**規模：**大型の整った正方形を平面形とする。平面規模は約7.7×7.7mで、深さは50cmを超える。面積は54㎡であ

る。主軸方位はカマド主軸と一致し東北東を向く。

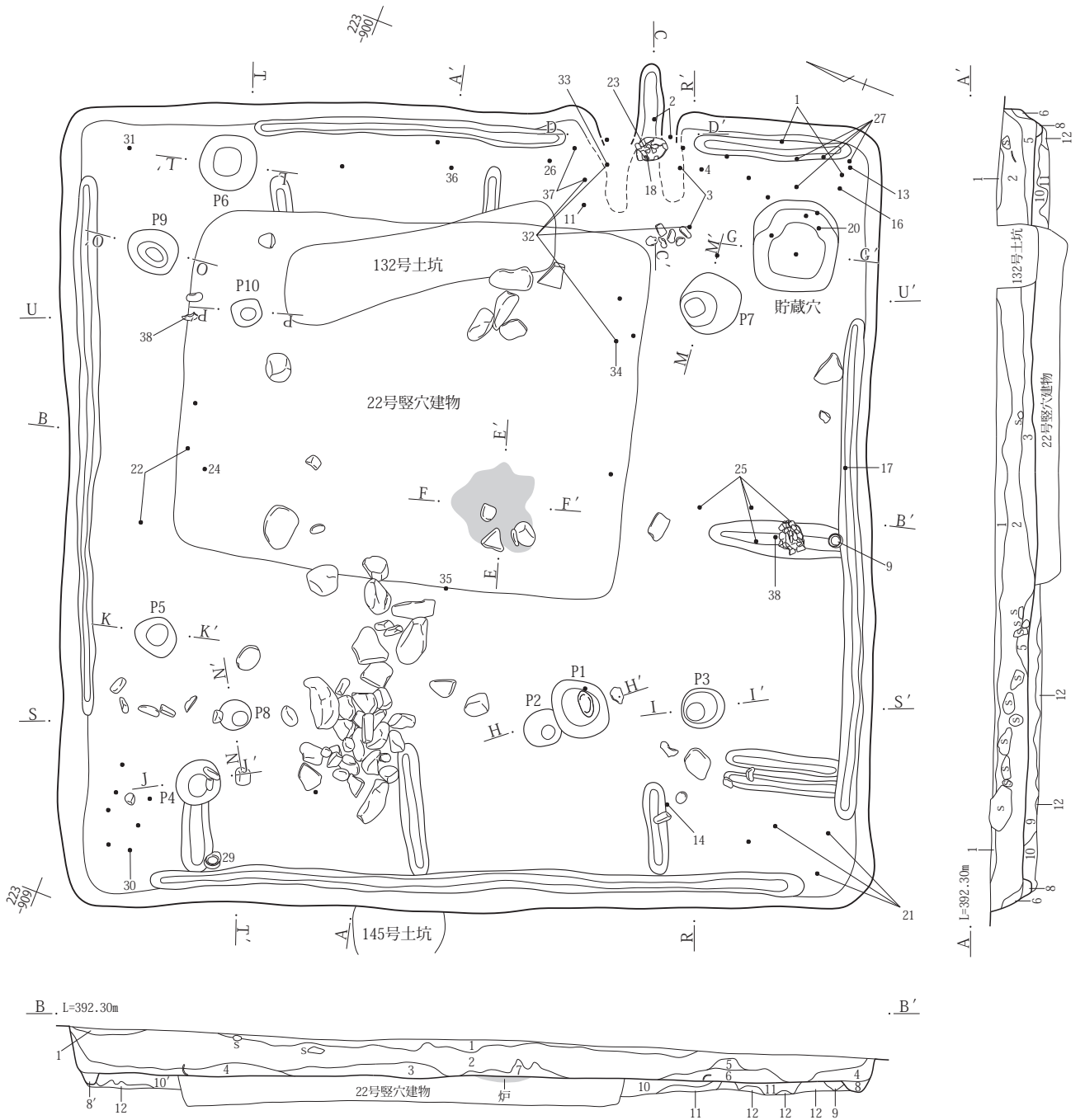
**重複：**床面下に22号竪穴建物が本竪穴建物に切られる。また、145坑が西壁に重複するが新旧は不明である。132坑が床面東で重なるが2面の遺構である。

**床面：**僅かに南東側への傾斜が測られるが、ほぼ平坦面を築く。ローム粒を含む黒褐色土を貼床土とし、硬化面は顕著ではなく、やや軟弱な印象を得た。

**施設：**カマドは東壁南寄りに設けられる。前述のように袖部分を逸失した調査となった。全長約140cm、幅約35cm、燃烧部幅は10cmとやや狭い。煙道は50cmほど壁外に突出し緩やかに立ち上がる。袖石などは無く、黒褐色土が構築材として使用されていた。カマド上層からは土師器甕(23)が横位の状態で出土している。その他に杯(2)や壺体部破片(18)を見る。また、カマド内には支脚を見なかったが南東隅床直で出土した高杯脚部(13)が支脚として使用されていた可能性がある。

床面中央で炉を調査した。22号竪穴建物と重複する箇所であり、22号竪穴建物の可能性も考えられたが、炉は22号竪穴建物の南西隅にあたり、さらにレベル差も20cm以上あることから、22号竪穴建物の炉ではない。径約80cmの不整円形の地床炉である。断面形は浅い皿状を呈し、10cm以下の深さである。上層より焼土の堆積が認められ、床面の中央であることから、炉として位置付けた。垂角礫や角礫が炉より上層から出土しているが、炉石や枕石ではない。出土遺物は見られず、やや西に離れた地点で甕底部のみが出土する。

貯蔵穴は南東隅に設けられる。平面形は不整形を呈し、規模は約90×80cm、深さは約40cmを測る。しっかり

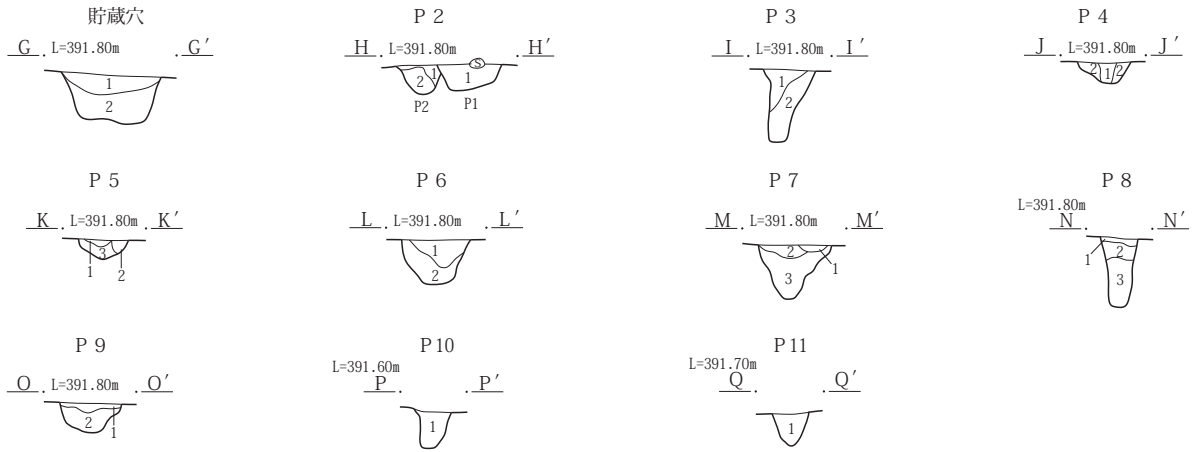


18号竖穴建物A-A'・B-B'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒僅かに含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒僅かに含む。
- 3 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒僅かに含む。
- 4 褐色土(10YR4/4)ローム粒少量含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒を多く含む。
- 6 にぶい黄褐色土(10YR4/3)ローム粒多量に含む。
- 7 褐色土(7.5YR4/4)焼土粒を多く含む。
- 8 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒僅かに含む。(周溝)
- 8' 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒少量含む。(周溝)
- 9 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒僅かに含む。(掘方)
- 10 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒含む。(掘方)
- 10' 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を含む。(掘方)
- 11 にぶい黄橙色土(10YR6/3)ローム粒多量に含む。(掘方)
- 12 浅黄橙色土(10YR8/3)ローム塊主体。(掘方)

0 1:60 2m

第134図 18号竖穴建物(1)



18号竖穴建物貯蔵穴G-G'

- 1 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒僅かに含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒僅か含む。

18号竖穴建物P 1 H-H'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒多量に含む。

18号竖穴建物P 2 H-H'

- 1 黒色土(10YR2/1)ローム粒僅かに含む。
- 2 黒色土(10YR2/1)ローム粒、小礫多量含む。

18号竖穴建物P 3 I-I'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒を僅かに含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒を少量含む。

18号竖穴建物P 4 J-J'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒を僅かに含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒多量に含む。

18号竖穴建物P 5 K-K'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒を僅かに含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒を少量含む。
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2)ローム粒多量に含む。

18号竖穴建物P 6 L-L'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒を僅かに含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒少量含む。

18号竖穴建物P 7 M-M'

- 1 黒色土(10YR2/1)ローム粒含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒僅かに含む。
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2)ローム塊を多く含む。

18号竖穴建物P 8 N-N'

- 1 暗褐色土(10YR3/3)ローム粒を僅かに含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2)ローム粒を僅か含む。
- 3 灰黄褐色土(10YR5/2)ローム塊を含む。

18号竖穴建物P 9 O-O'

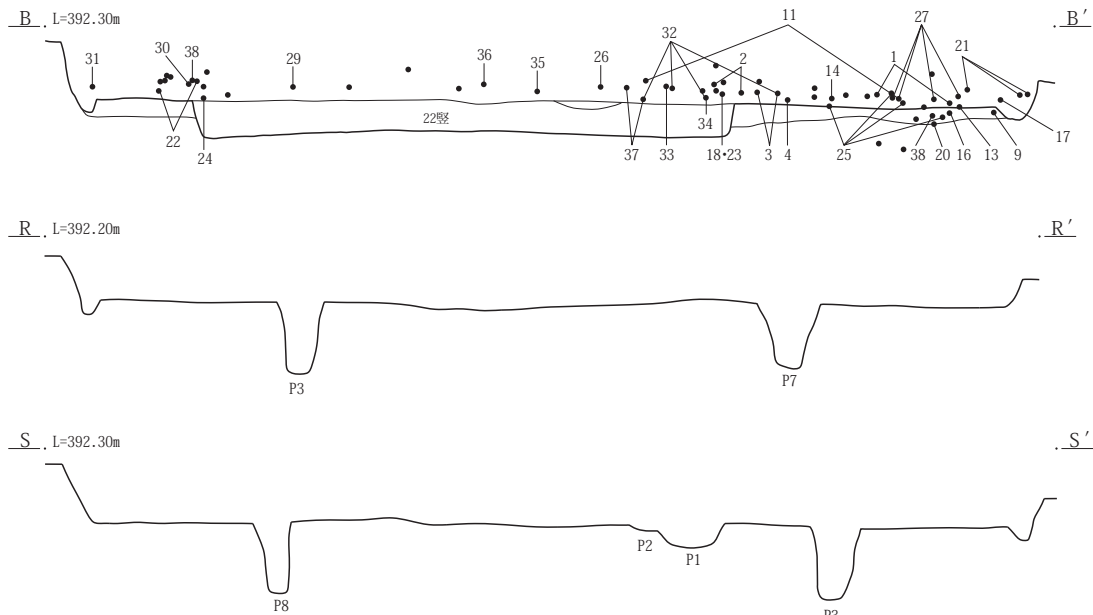
- 1 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒を僅かに含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2)ローム粒を少量含む。

18号竖穴建物P 10 P-P'

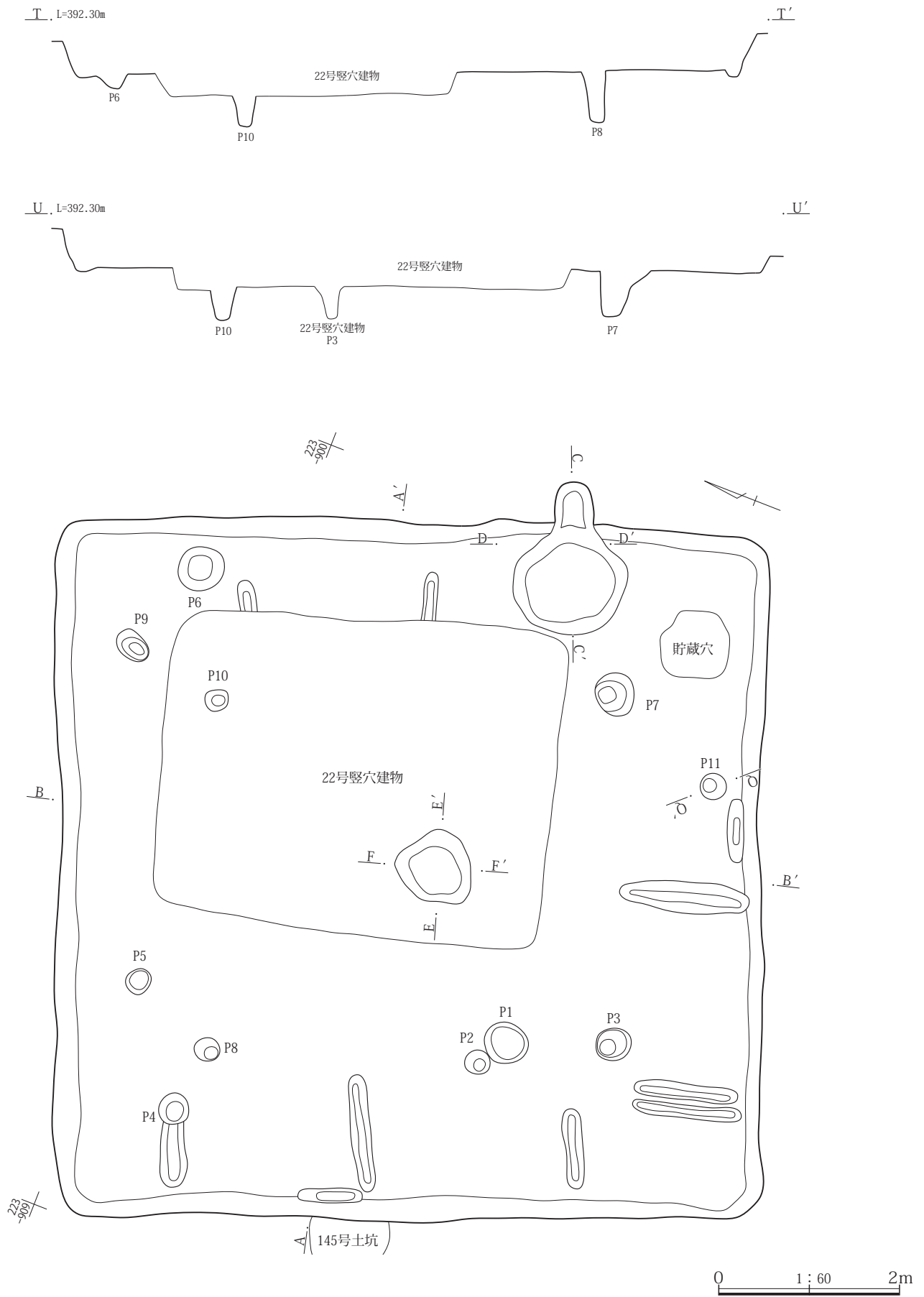
- 1 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒を僅かに含む。

18号竖穴建物P 11 Q-Q'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒を僅かに含む。

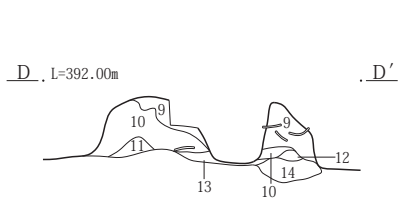
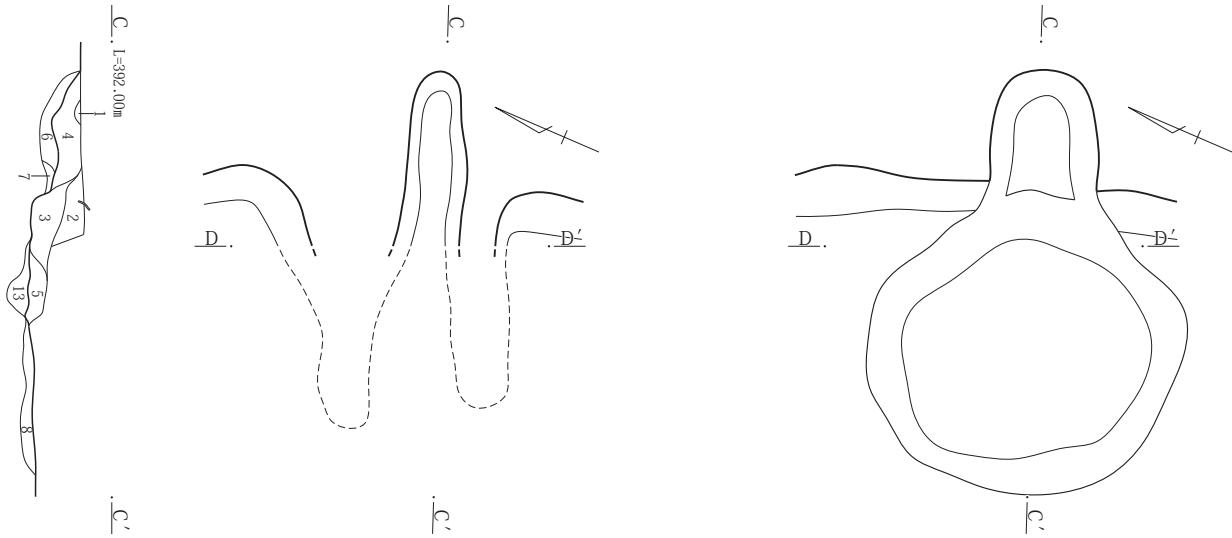


第135図 18号竖穴建物(2)



第136図 18号竪穴建物(3)

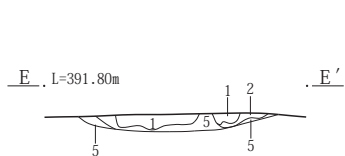
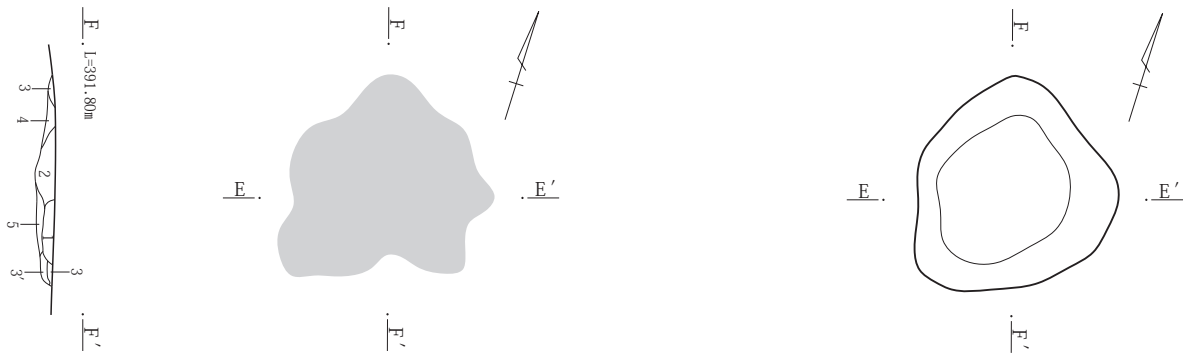
カマド



18号竪穴建物カマドC-C'・D-D'

- 1 にぶい赤褐色土(5YR4/4)焼土塊を含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒、焼土粒を僅かに含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1)焼土粒・ローム粒を僅かに含む。
- 4 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒僅かに含む。
- 5 にぶい褐色土(7.5YR5/4)焼土塊主体の層。
- 6 暗褐色土(10YR3/3)ローム粒含む。
- 7 にぶい黄褐色土(10YR5/3)ローム塊主体。
- 8 黒褐色土(10YR3/1)ローム塊・焼土粒を僅かに含む。
- 9 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒・焼土粒を僅かに含む。
- 10 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒・焼土粒を僅かに含む。
- 11 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒含む。
- 12 灰黄褐色土(10YR4/2)ローム粒を多く含む。
- 13 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒少量含む。
- 14 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒を僅かに含む。

炉

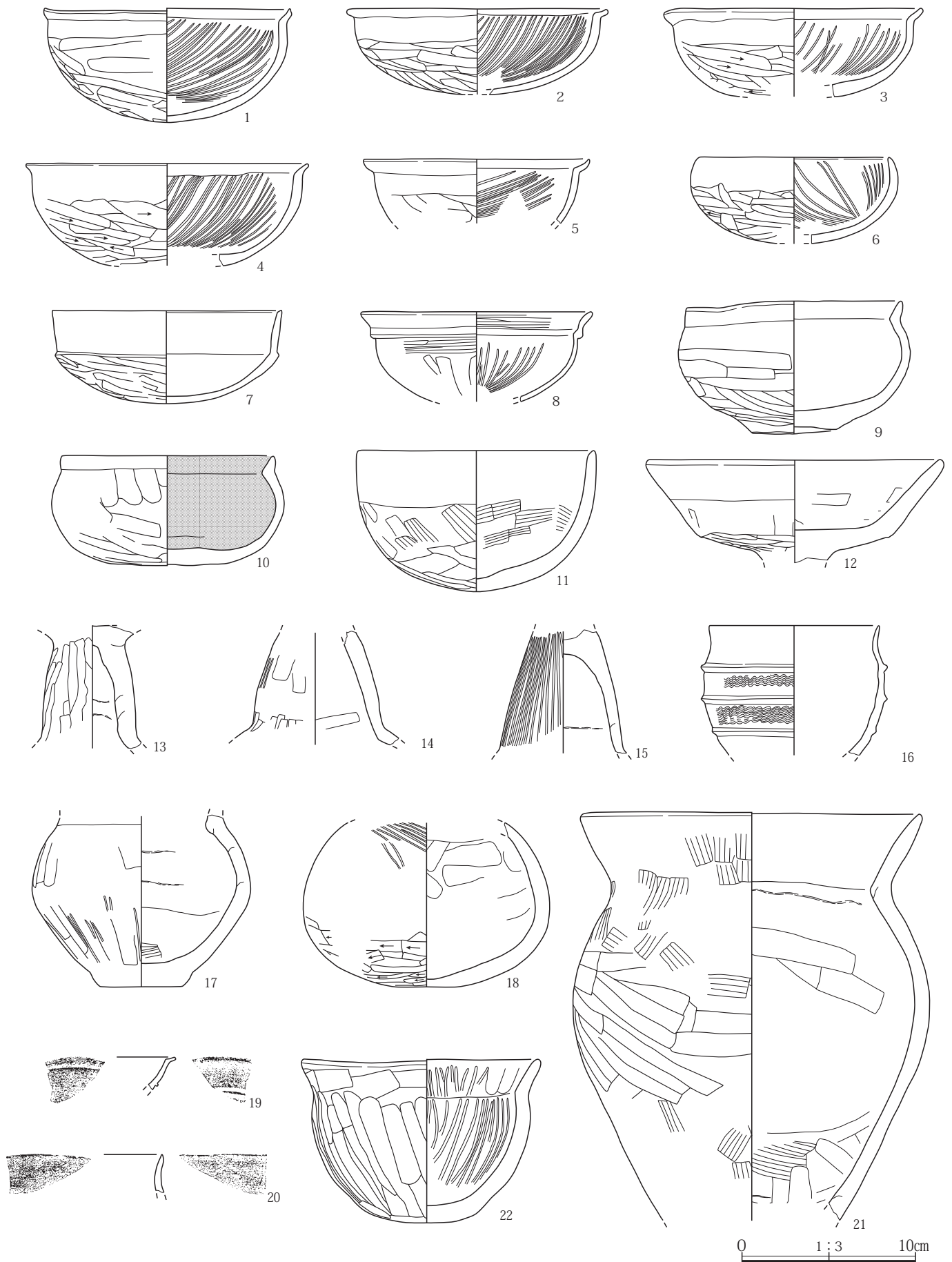


18号竪穴建物炉E - E'

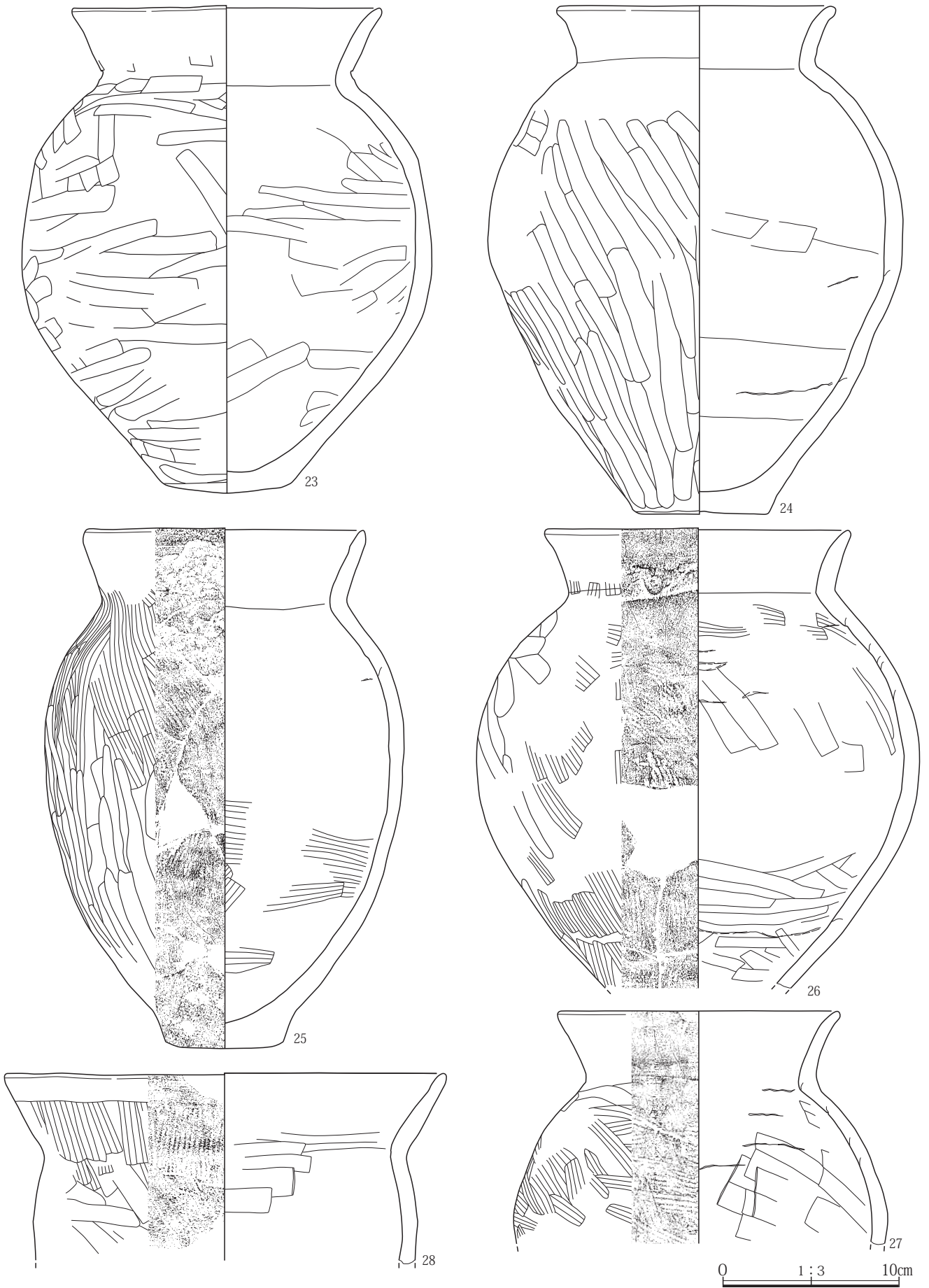
- 1 浅黄橙色土(7.5YR8/6)焼土塊を多量に含む。
- 2 にぶい橙色土(7.5YR7/3)焼土粒を多く含む。
- 3 褐灰色土(10YR4/1)焼土粒を僅かに含む。
- 3' 褐灰色土(10YR5/1)焼土粒を僅かに含む。
- 4 黒褐色土(10YR3/1)焼土粒含む。
- 5 黒褐色土(10YR2/2)焼土粒を少量含む。



第137図 18号竪穴建物カマド・炉

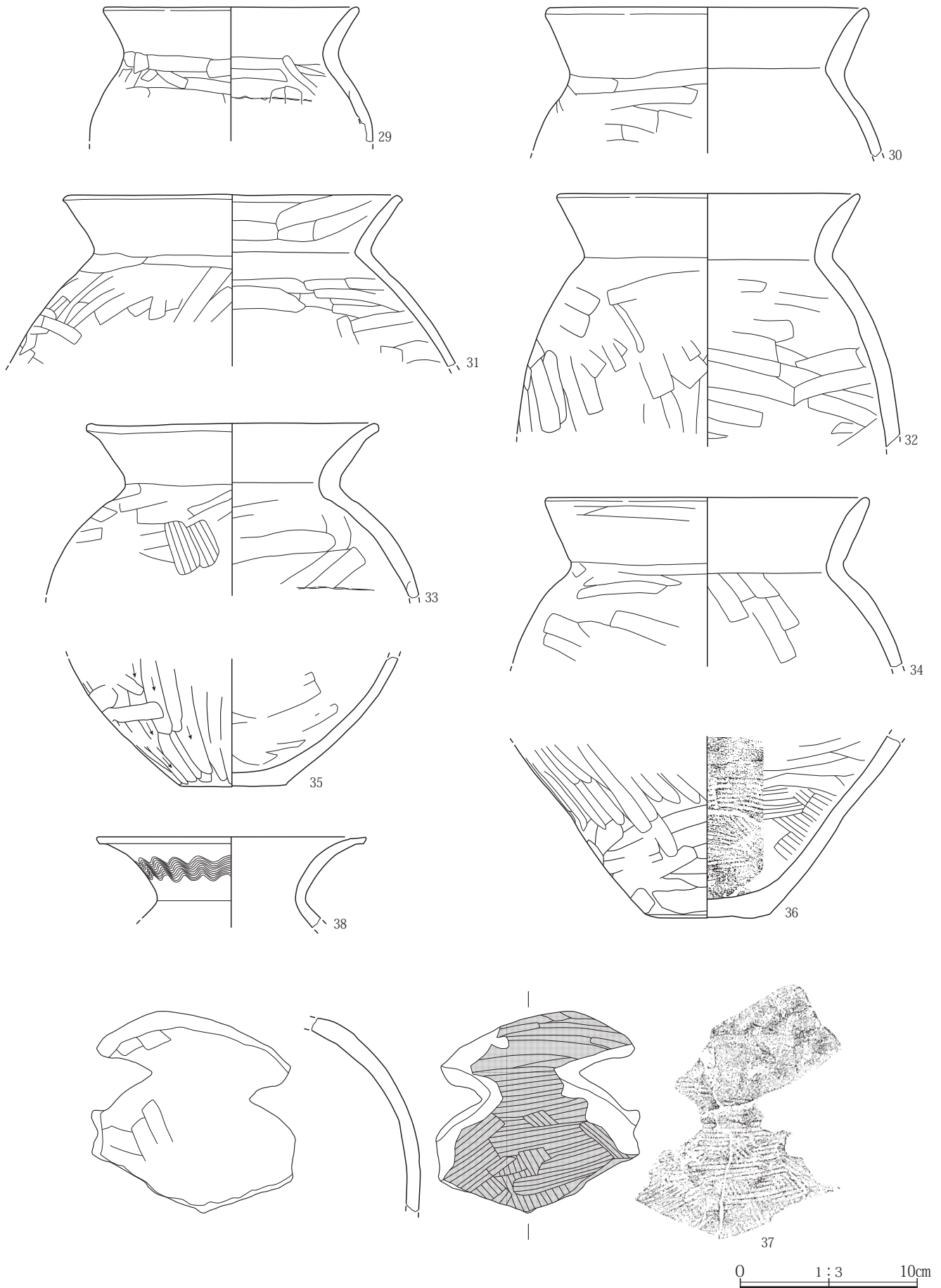


第138図 18号竪穴建物出土遺物(1)

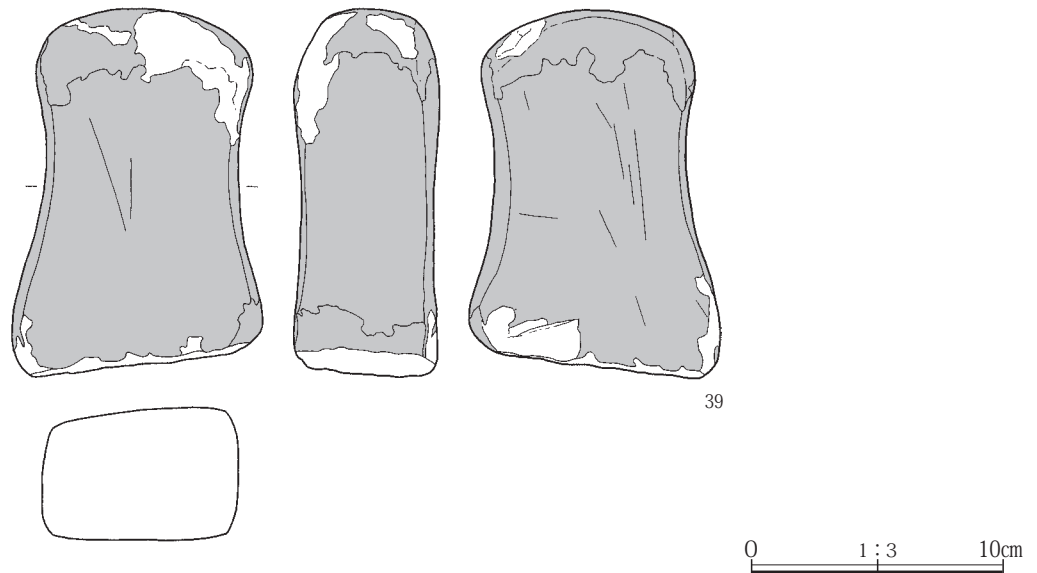


第139図 18号竪穴建物出土遺物(2)





第140図 18号竪穴建物出土遺物(3)



第141図 18号竪穴建物出土遺物(4)

した掘り込みで逆台形状の断面形を示す。埋土中より須恵器短頸壺口縁部破片(20)が出土する。なお貯蔵穴東側が僅かに有段状になるが、13号竪穴建物や16号竪穴建物貯蔵穴のように有段で平坦面を持つ例では無く、傾斜変換点による有段である。蓋を置いた痕跡ではない。

柱穴は床面で検出された11基のピットのうち、P 3・P 7・P 8・P 10を充てたい。いずれも深さが50cm以上を測り、良好な柱穴として位置付けられる。その他のピットでは、P 4・P 5が北西隅、P 6とP 9が北東隅に設けられ壁周溝の途切れに伴う出入口施設等の可能性を示唆する。

壁周溝は各壁際に設けられるが、各隅で途切れる様相を示す。前述したが、出入口部等の壁周溝が途切れる施設を想定したい。

転ばし根太溝(床面小溝)が西壁際に3条、南壁際に2条、床面東側2条が設けられる。長さ約90~120cmの小規模なものである。南壁中位に設けられる転ばし根太溝上位に甕(25)や大型砥石(38)が置かれており、常設の施設ではなく、着脱可能の簡便な施設が想起されよう。

**遺物：**充実した出土量である。カマド周辺の出土が極めて多く、破片出土である。土師器杯(3・4・11)、甕(26・32~34・36・37)などが見られる。また貯蔵穴周辺は杯(1)、須恵器碗(16)及び甕(27)が出土する。その他では、北側では小型壺(22)や甕(24)が床直、床直上で、北東隅の間仕切り溝と壁周溝に接して甕(29)が床直上で、南壁際周溝上で小型壺(17)を見る。床面各隅部に注意を向け

ると、南東隅に前述の甕上半(27)、南西隅に甕上半(21)、北西隅には甕上半破片(30)、北東隅に甕上半破片(31)が出土しており、各隅部に完形ではないが土師器甕上半部が置かれていた。いずれも床直あるいは床直上の出土である。

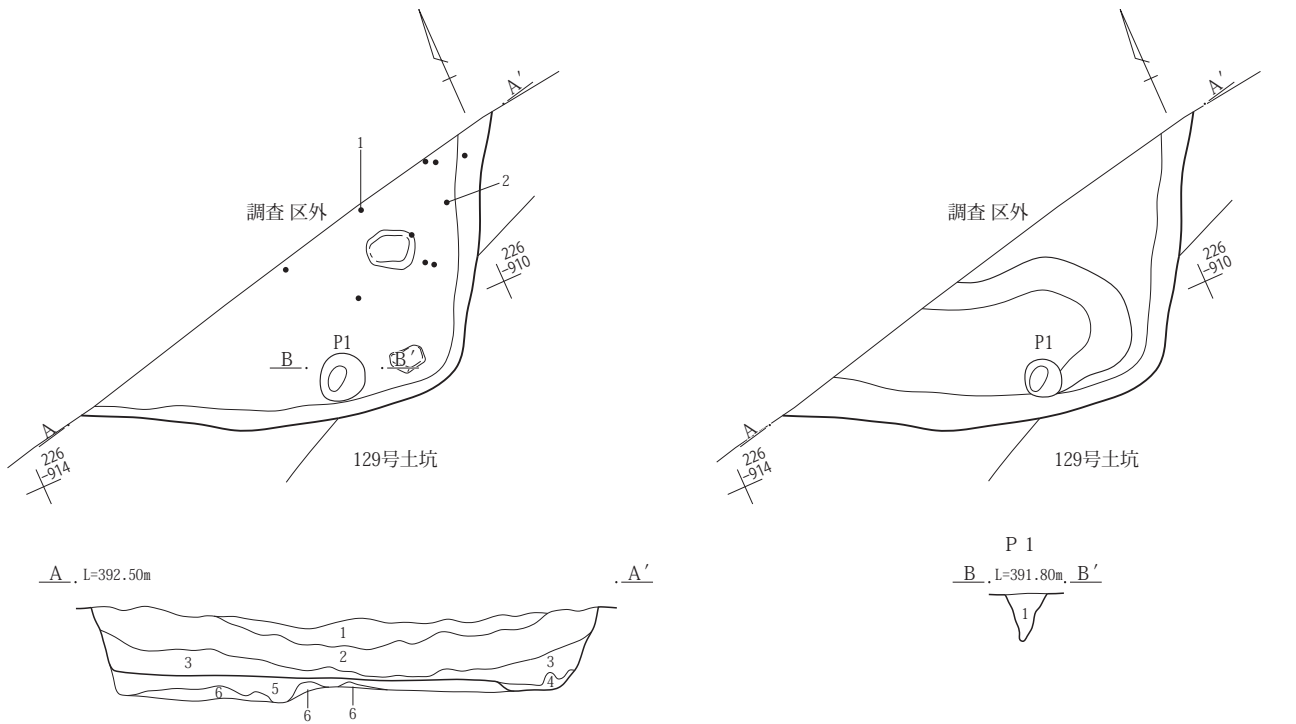
遺物出土状態からは、居住に伴う遺物や竪穴建物廃絶直後の一括廃棄、さらに四隅部の甕などは竪穴建物廃絶儀礼に伴う在り方を推定できる。

**所見：**今回の調査で最大級の竪穴建物である。東カマドを有しさらに床面中央に炉を設ける。カマド周辺の甕類の集中に比して炉周辺の出土は乏しく、本竪穴建物の炉は恒常的な燃焼施設ではなく、暫定的な燃焼施設の可能性も推定したい。貯蔵穴、4本柱穴を配置する。また壁周溝も各壁際にあり、転ばし根太溝も接する。竪穴建物施設としては良好な様相を示す。さらに豊富な出土遺物量を誇り、カマド周辺の杯類や甕類の在り方、さらに各隅で甕上半部が出土する傾向を踏まえて、竪穴建物廃絶時の儀礼や一括廃棄を想定した。時期は古墳時代中期末葉~後期初頭と判断した。

#### 19号竪穴建物(第142図、PL.49・68)

調査区域外に大半を延ばすため、詳細は不明の竪穴建物である。

**位置：**11-1区北東側の調査区北壁にかかり検出された。南側隅部の一部の調査にとどまった。周辺は平坦面が広がり、南側は遺構密度が高い。

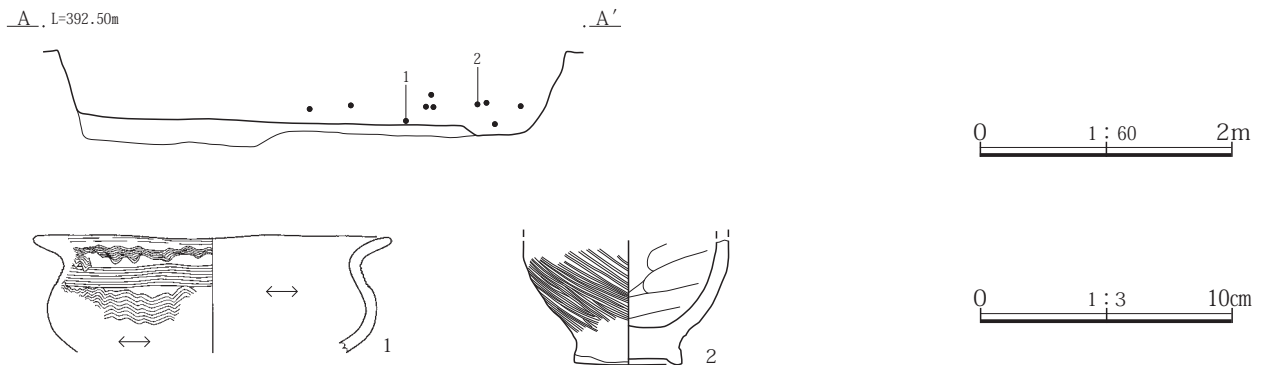


19号竪穴建物 A-A'

- 1 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒を僅かに含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒を僅かに含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒を僅かに含む。
- 4 黒褐色土(10YR2/2)ローム塊を含む。
- 5 灰黄褐色土(10YR6/2)ローム粒多量に含む。(掘方)
- 6 明黄褐色土(10YR7/6)ローム塊主体。締りあり。(掘方)

19号竪穴建物 P 1 B-B'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)黄橙色粒・ローム塊を多量に、橙色粒を僅かに含む。



第142図 19号竪穴建物と出土遺物

**経過:**ローム漸移層である暗褐色土で平面形を確認した。黒褐色土の埋土のため確認は良好だった。また、床面はローム層上層に達しており、壁の検出も容易だった。

**規模:**竪穴建物の殆どが調査区域に延長するため全容は不明である。深さ約50cmを土層図から測りだした。壁は直立気味に開き、軸方位は西北西を向く。

**重複:**2面遺構である129坑が重なる。

**床面:**灰黄褐色土を貼床する。硬化面は不明である。

**施設:**南壁際にP 1を検出した。深さ約40cmを測る良好なピットだが性格は不明である。

**遺物:**埋土中から少量出土している。破片出土で小型壺体部下半(2)を図示した。

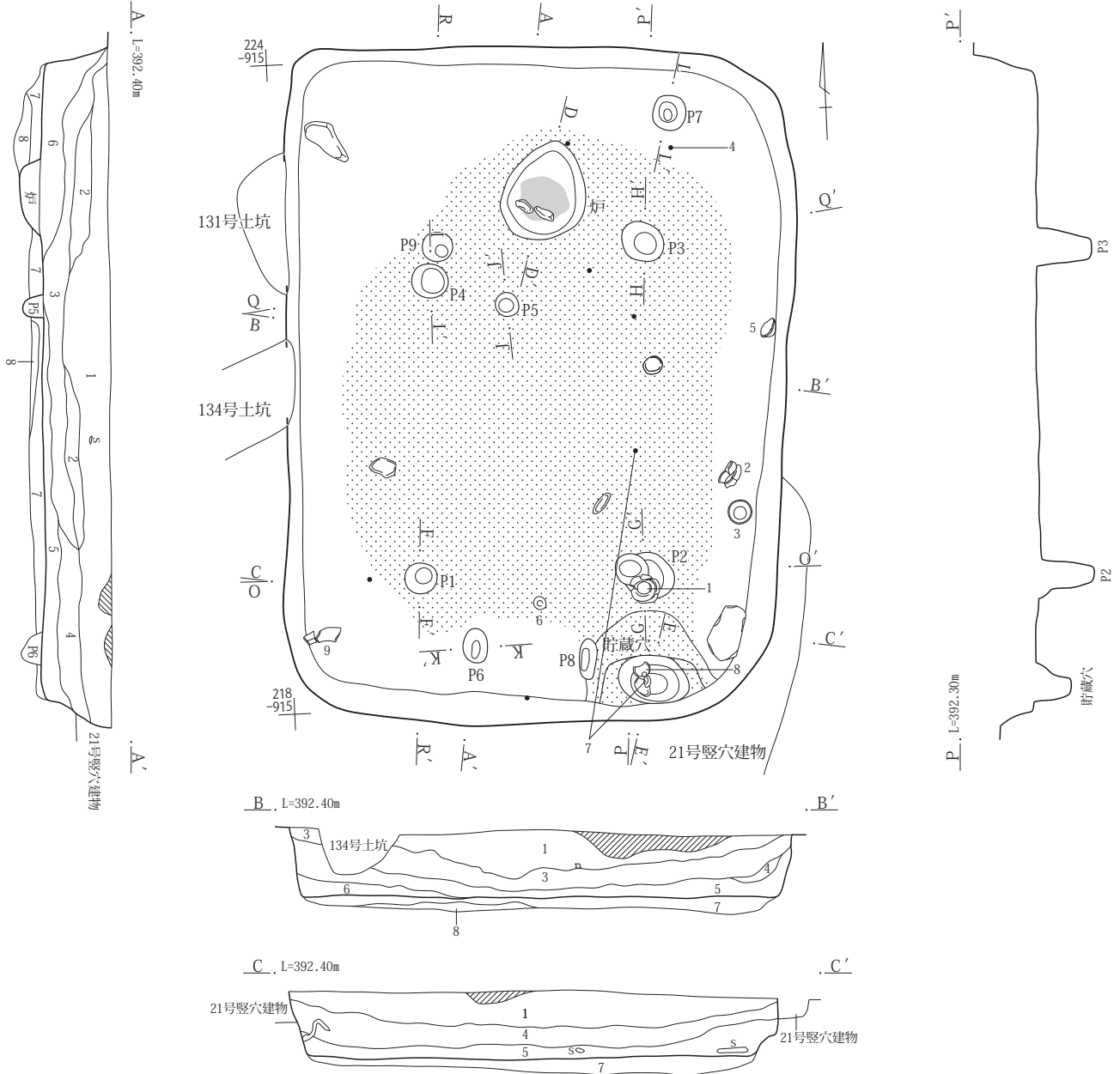
**所見:**多くが調査区域外にあるため全容の把握には至らない。床面の様相から竪穴建物としての位置付けは確定したい。時期は出土遺物から弥生時代後期であろうか。

20号竪穴建物(第143~147図、PL.49・50・69)

縦長長方形の竪穴建物で地床炉、貯蔵穴、4本柱穴、出入口部ピットを備える。良好な残存で出土遺物も貯蔵穴周りを中心に豊富である。弥生時代後期とした。

位置：11-1区北西隅で調査された。周辺は平坦面が広がり、遺構密度の高い地点である。

経過：確認面はローム漸移層の暗褐色土である。竪穴建物埋土も暗褐色土であるが、色調差は明瞭であり、さらに同時に調査した21号竪穴建物埋土が黒褐色土を呈するため、確認と分別は容易に果たせた。床面はローム層を大きく掘り込むため、壁の検出は容易であり平面形の確定も保たれた。



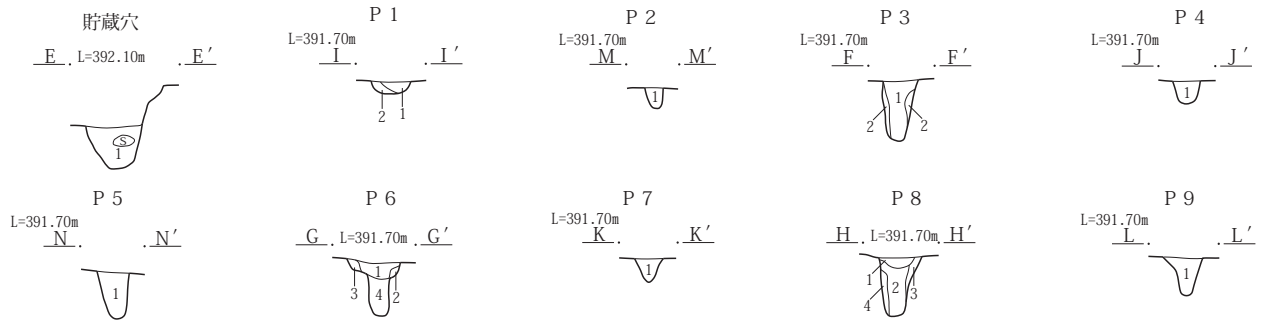
20号竪穴建物 A-A' ~ C-C'

- 1 暗褐色土(10YR3/3)黄橙色粒を多量に、ローム塊・橙色粒を僅かに含む。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR7/2)黄橙色粒を少量、ローム粒・塊を僅かに含む。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR7/3)黄橙色粒・ローム塊を多量に、暗褐色土を僅かに含む。
- 4 褐色土(10YR4/4)黄橙色粒・ローム塊を僅かに含む。
- 5 にぶい黄褐色土(10YR5/4)黄橙色粒を少量、ローム塊を多く含み、浅黄褐色土を僅かに含む。
- 6 褐灰色土(10YR5/1)黄橙色粒・ローム塊を多量に含む。
- 7 暗褐色土(10YR3/3)ローム塊を多量に含む。(掘方)
- 8 浅黄褐色土(10YR8/3)ローム塊主体。暗褐色土塊を多量に含む。(掘方)

0 1:60 2m

第143図 20号竪穴建物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



20号竪穴建物貯蔵穴 E-E'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)黄橙色粒を多量に、ローム粒、褐色土粘質土塊を僅かに含む。

20号竪穴建物 P 1 F-F'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)黄橙色粒を少量、ローム塊を僅かに含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR5/2)黄橙色粒を少量含む。

20号竪穴建物 P 2 G-G'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)黄橙色粒を少量含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR5/2)黄橙色粒を少量、ローム塊を僅かに含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1)黄橙色粒を僅かに含む。締め弱い。
- 4 灰黄褐色土(10YR5/2)黄橙色粒を多量に、ローム塊を僅かに含む。

20号竪穴建物 P 3 H-H'

- 1 褐灰色土(10YR5/1)黄橙色粒を多量に、ローム粒を僅かに含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)黄橙色粒を少量、ローム粒を僅かに含む。
- 3 灰黄褐色土(10YR5/2)ローム塊を多量に含む。
- 4 黒褐色土(10YR3/2)黄橙色粒を僅かに、ローム塊を少量含む。

20号竪穴建物 P 4 I-I'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)黄橙色粒を僅かに、ローム塊を多量に含む。
- 2 褐灰色土(10YR5/1)黄橙色粒・ローム粒を僅かに含む。

20号竪穴建物 P 5 J-J'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)黄橙色粒を僅かに、ローム塊を少量含む。

20号竪穴建物 P 6 K-K'

- 1 灰黄褐色土(10YR5/2)黄橙色粒を多量に、ローム塊を僅かに含む。

20号竪穴建物 P 7 L-L'

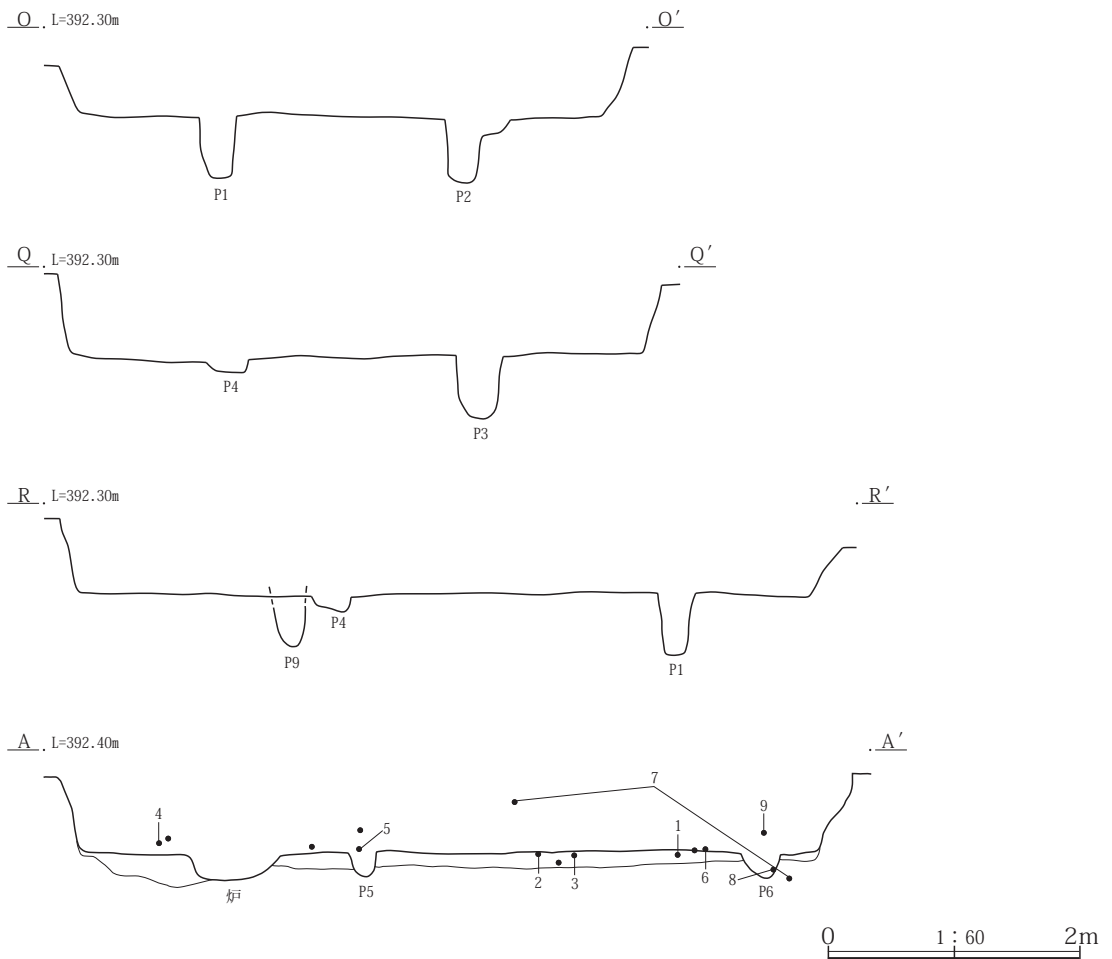
- 1 黒褐色土(10YR3/1)黄橙色粒を少量、ローム塊を僅かに含む。

20号竪穴建物 P 8 M-M'

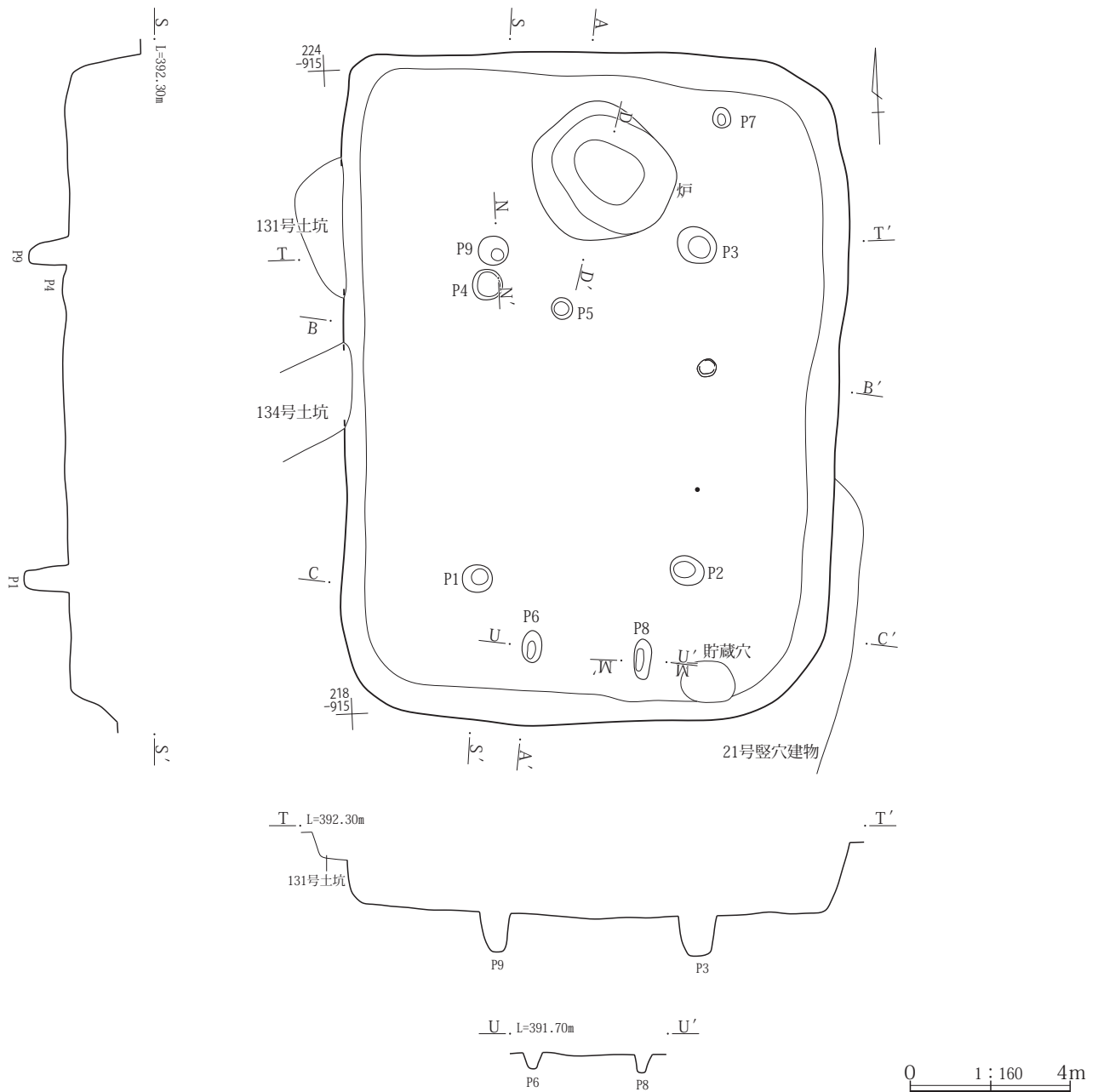
- 1 黒褐色土(10YR3/1)黄橙色粒を少量、ローム塊を僅かに含む。

20号竪穴建物 P 9 N-N'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)黄橙色粒を少量、褐灰色粘質土を僅かに含む。



第144図 20号竪穴建物(2)



第145図 20号竪穴建物(3)

**規模：**主軸方位をほぼ南北の持つ縦長長方形を平面形とする。平面規模は約6.2×4.7mで、深さは約60cmを測る。良好な残存度といえよう。

**重複：**南側上層で21号竪穴建物と重複する。土層の観察では本竪穴建物が新しく21号竪穴建物を切るが、おそらく調査時の誤認であり検討を要した。

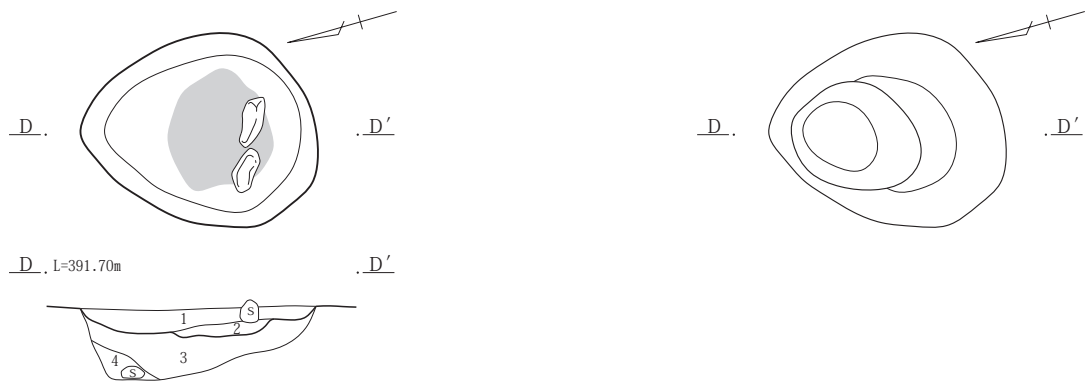
**床面：**床面全面にローム塊を多く含む暗褐色土を貼床土とし、ほぼ平坦面を築く。硬化面は床面中心に広く見られ、南東隅の貯蔵穴周辺にまで達する。

**施設：**炉が床面中央北側に設けられる。南側上端に枕石

を置く地床炉である。径約90cmの不整円形で深さ10cm未満の浅い皿状の掘方を持つ。埋土に焼土塊を堆積する。

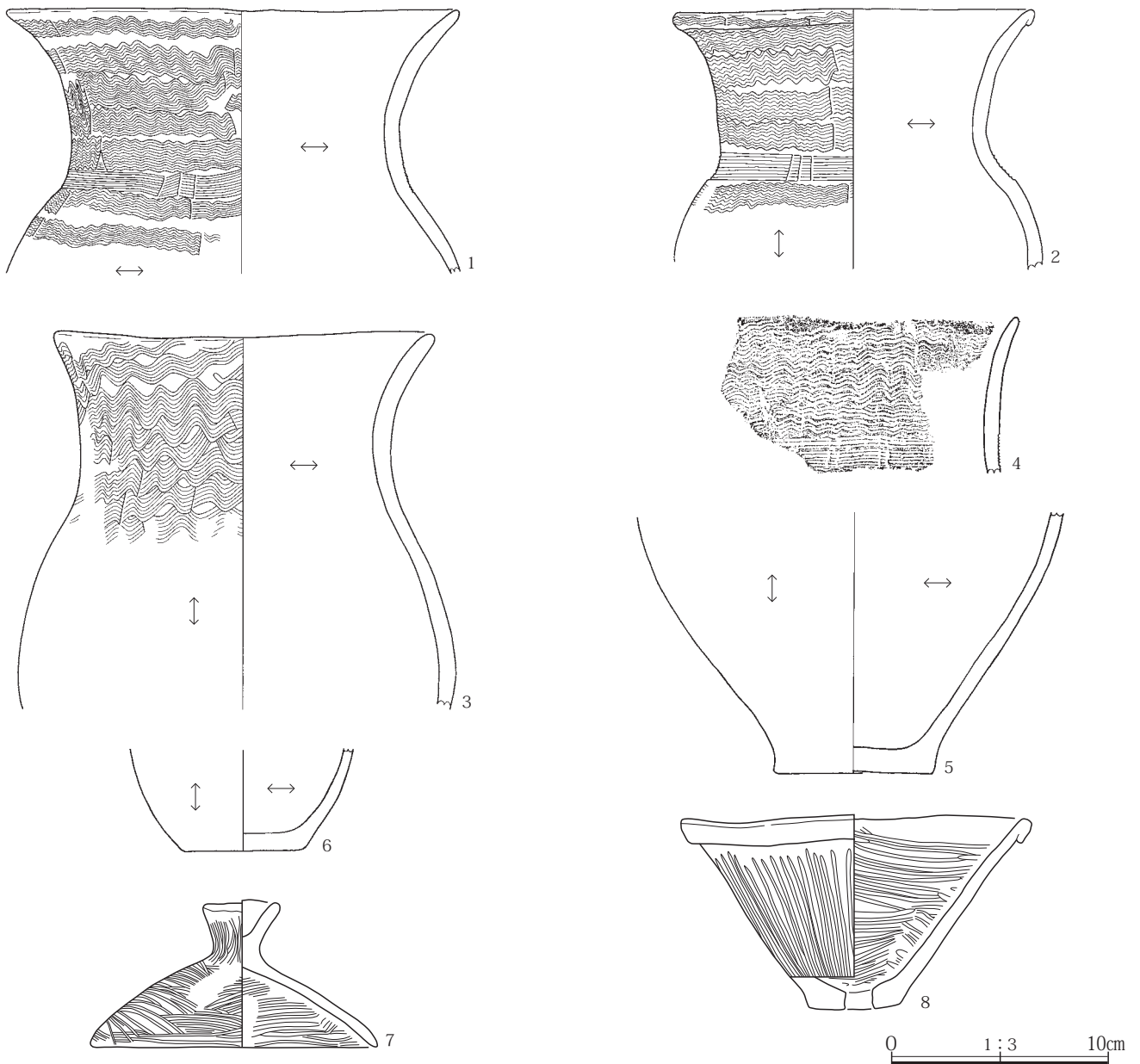
貯蔵穴は南東隅に開けられる。約80×120cmの範囲に10cm程度の高まりを残し、南端に約70×40cm、深さ約40cmの貯蔵穴を設ける。北壁に蓋(7)と底面よりやや浮いて有孔鉢(8)が出土している。

柱穴としては、P1～P3・P9が相当する。当初P9ではなくP4に可能性を求めたが、P4の深さが10cmと浅く、掘方調査で得られた隣接するP9の深さが約40cmを測るため、柱穴として位置付けた。

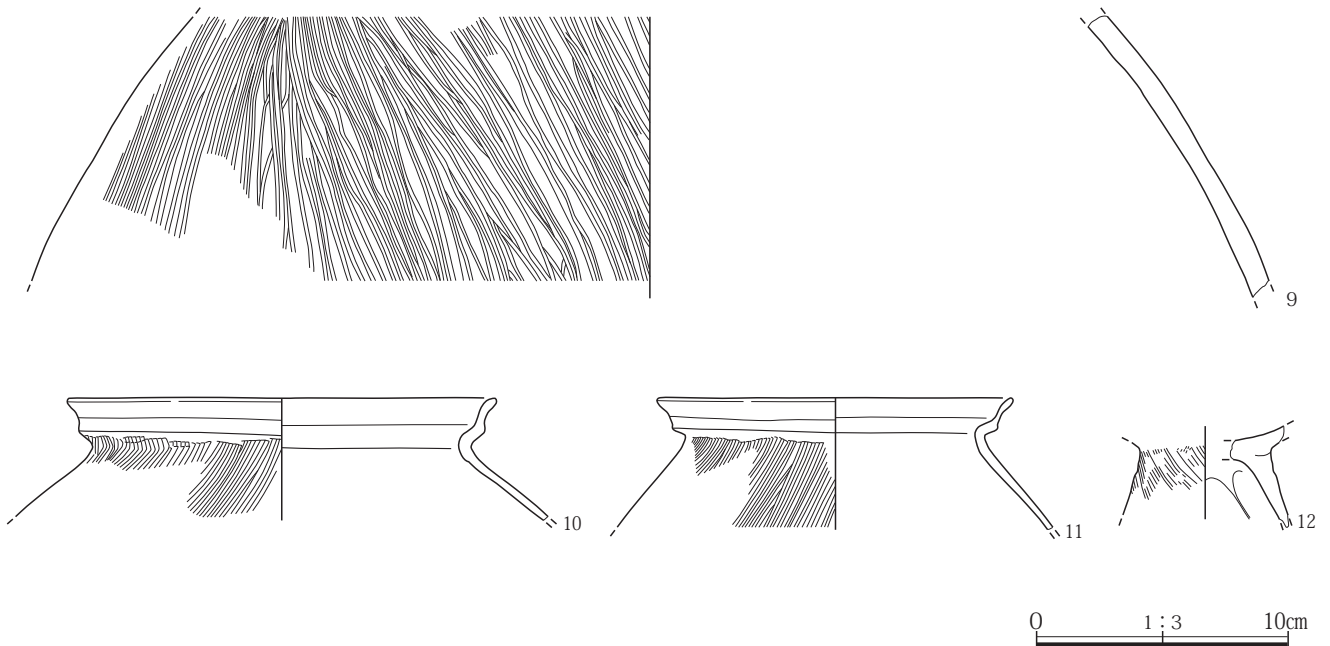


20号竪穴建物炉D-D'

- 1 暗褐色土(10YR3/4)ごく僅かに焼土粒を含む。粘性は弱く、締りは強い。
- 2 橙色土(5YR6/8)焼土塊主体。褐灰色灰層僅かに含む。
- 3 褐色土(10YR4/4)黄橙色粒を多く、ローム塊・褐色土塊を僅かに含む。(掘方)
- 4 灰黄褐色土(10YR5/2)黄橙色粒・ローム塊を多量に含む。(掘方)



第146図 20号竪穴建物炉と出土遺物(1)



第147図 20号竪穴建物出土遺物(2)

出入口部のピットがP 6とP 8に求められる。深さ20cm程度の小規模なピットだが、南壁際に対で並列する配置から、出入口部のピットとして位置付けた。

**遺物：**出土遺物量は多い。前述の貯蔵穴から出土した有孔鉢や蓋の他に、P 2上に甕上半部(1)、南東隅壁際床面にも甕上半部(3)が逆位に置かれた状態で出土している。周辺には同様に東壁沿い床直で2と5を見る。古墳時代前期土器(10~12)を見るが、21号竪穴建物の影響であろう。

また、南東隅の貯蔵穴東に大型の板石が床直で出土している状態も示唆的である。周辺の遺物は、居住に伴う遺物であり、極めて一括性が高いものと評価されよう。

**所見：**主軸を南北に向けた縦長長方形の平面形で地床炉を設ける。4本柱穴で南東隅に貯蔵穴を配し、南壁際に出入口部のピットを開ける。掘り込みも深く、全容が把握できる良好な竪穴建物である。また、南東隅の出土土器群は7号竪穴建物や15号竪穴建物、17号竪穴建物と類似性が高く、居住に伴う出土状態と判断したい。時期は出土遺物から弥生時代後期とした。

#### 21号竪穴建物(第148図、PL.50)

20号竪穴建物に切られるため残りは悪いが横長長方形の竪穴建物とした。時期は、古墳時代前期か。

**位置：**11-1区北西隅の20号竪穴建物南で重複して調査

された。周辺は平坦地形が広がるが、南側は南東へ低くなる傾斜変換点にあたる。

**経過：**ローム漸移層の暗褐色土で、20号竪穴建物と同時に確認した。調査も同時に行い、土層による判断で20号竪穴建物に切られる新旧を把握した。

**規模：**北側を20号竪穴建物、西側を12号竪穴建物に、北西部を2面134坑に壊されるため、全容の把握は困難である。北東隅の屈曲部から、西北西に長軸を向ける横長長方形を平面形と推定した。規模は約(5.7)×(4.7)mで、深さは約20cmと浅く、残存度は良くない。

**重複：**20号竪穴建物とは新旧を逆にする検討結果を得た。本竪穴建物が新しい。

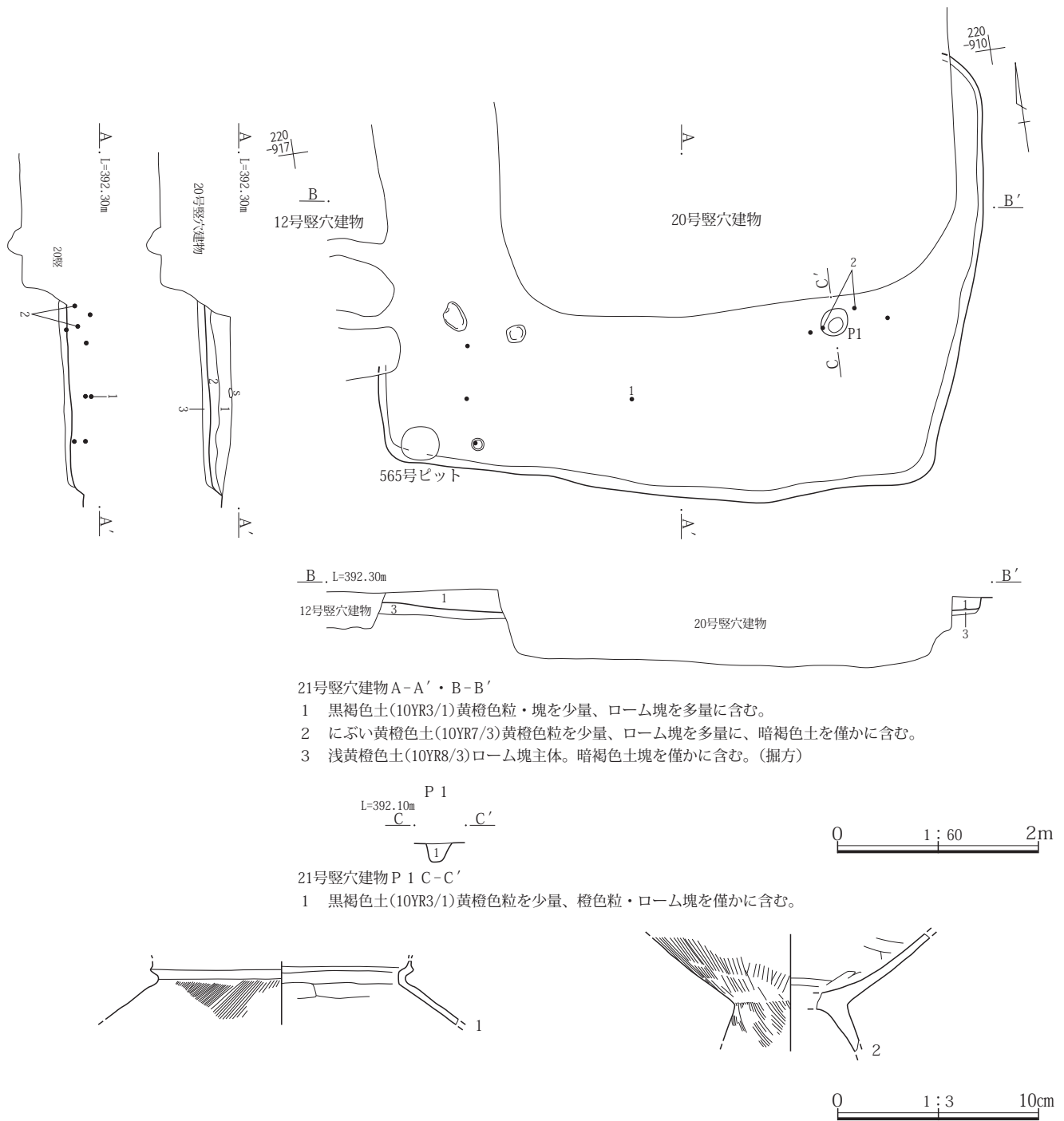
**床面：**貼床は暗褐色土塊を少量含む浅黄橙色土からなる。硬化面は見られなかった。

**施設：**炉、貯蔵穴等は見られなかった。床面中央南西よりにP 1を検出した。柱穴としての可能性はあるが、対応するその他のピットも見られず、確定性に乏しい。

**遺物：**埋土中より少量の遺物が出土している。S字状口縁台付甕口辺部片(1)、脚部破片(2)を図示した。おそらく流入による所産であろう。

**所見：**残存度の悪い竪穴建物である。柱穴や炉を見ないため、主軸も定まらないが、横長長方形の平面形を想定した。出土遺物が少なく、詳細な時期は確定できないが、古墳時代前期か。





第148図 21号竪穴建物と出土遺物

22号竪穴建物(第149～151図、PL.50・70)

炉を見ないが、その他の施設を備えた弥生時代後期の竪穴建物である。

**位置：**11-1区中央やや北西寄りの18号竪穴建物内に位置する。周辺は緩やかに南東へ低くなる傾斜地形が広がる。

**経過：**18号竪穴建物床面で検出した。当初は同時に調査されていたが、新旧が把握され、18号竪穴建物調査後に

着手された。床面は黄褐色ロームを深く掘り込むため、壁の検出も容易だった。

**規模：**長軸を北北西に向けた縦長長方形を平面形とする小型竪穴建物である。平面規模は約4.3×3.5m、深さは約30cmを測る。上層を18号竪穴建物に削平されているとはいえ、良好な残存度といえよう。

**重複：**18号竪穴建物に切られる。

**床面：**ローム粒を多く含む黒色土を貼床とし平坦面を築

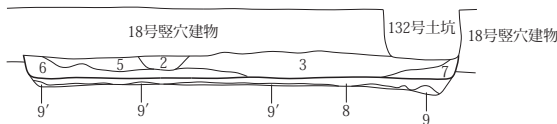
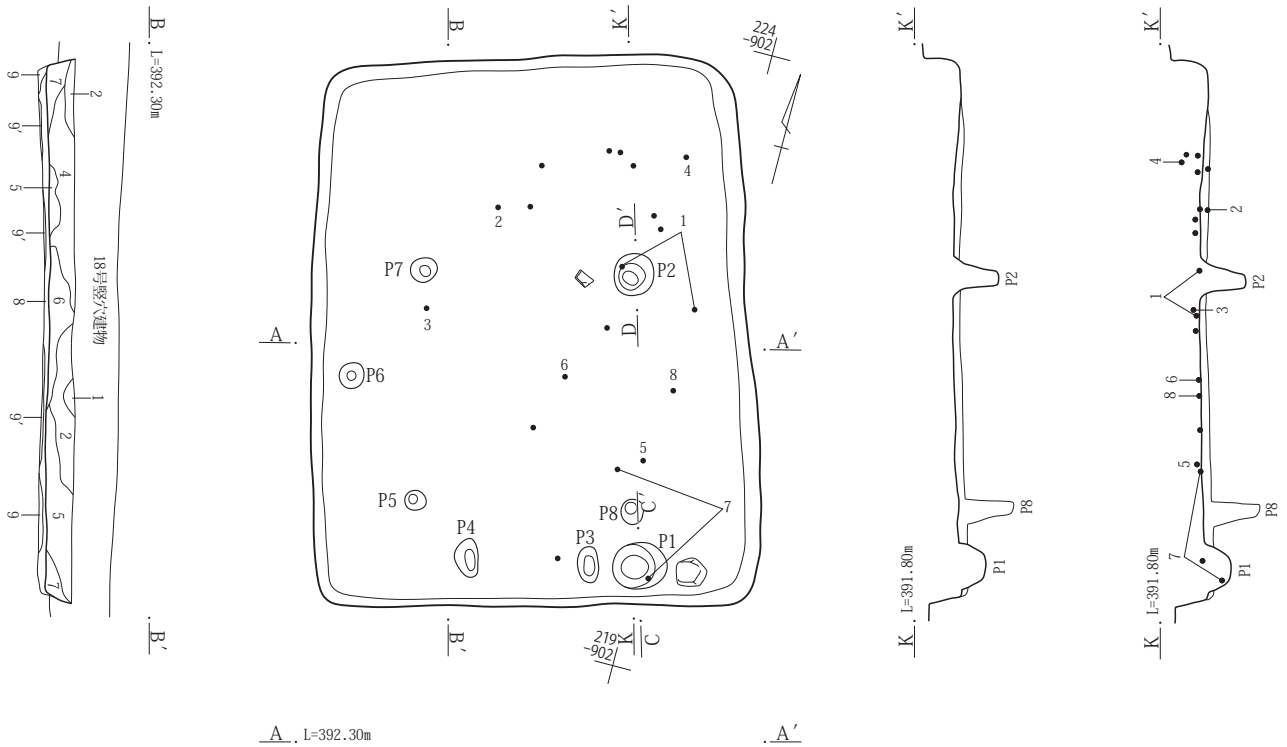
く。硬化面は見られず、全体に軟弱な床面だった。

**施設：**炉を見ない。P 1 と P 2 の間に極少量の焼土を見たが掘り込みも無く炉として確定できなかった。

南東隅で検出された P 1 を貯蔵穴と考えた。径約40cm、深さ20cmを測る。破片状態だが有孔鉢(7)が出土する。

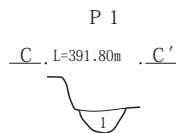
柱穴は P 2 ・ P 5 ・ P 7 ・ P 8 が相当する。平面規模は径約20~30cmで小規模だが、深さは30cm前後で、配置からも良好な柱穴である。なお P 8 掘方調査で得られたピットである。

出入口部ピットとしては P 3 と P 4 が該当する。深さ



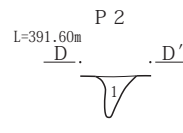
22号竪穴建物 A-A'・B-B'

- 1 黒色土(10YR2/1)白色粒子含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2)白色粒、ローム粒を僅かに含む。
- 3 黒褐色土(10YR2/2)白色粒、ローム粒を少量含む。
- 4 暗褐色土(7.5YR3/4)白色粒、ローム粒を僅かに含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/1)白色粒、ローム粒を僅かに含む。
- 6 黒色土(10YR2/1)白色粒含む。
- 7 黒褐色土(10YR3/2)白色粒、ローム粒を僅かに含む。
- 8 黒色土(10YR2/1)ローム粒を多量に含む。(掘方)
- 9 浅黄橙色土(10YR8/3)ローム塊主体。締り少しあり。(掘方)
- 9' 灰黄褐色土(10YR6/2)グライ化したローム塊主体。(掘方)



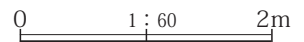
22号竪穴建物 P 1 C-C'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒を僅かに含む。

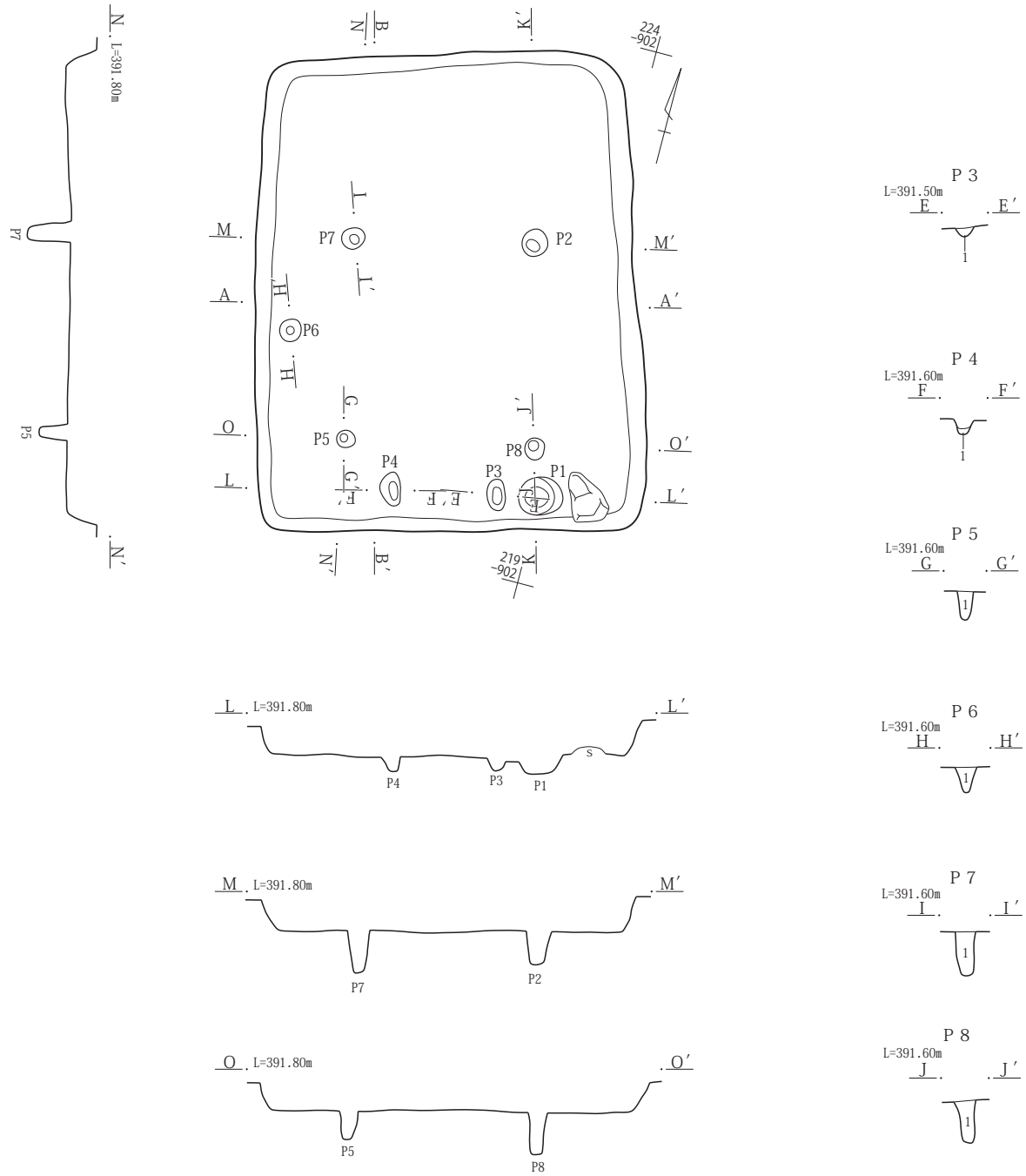


22号竪穴建物 P 2 D-D'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒を僅かに含む。



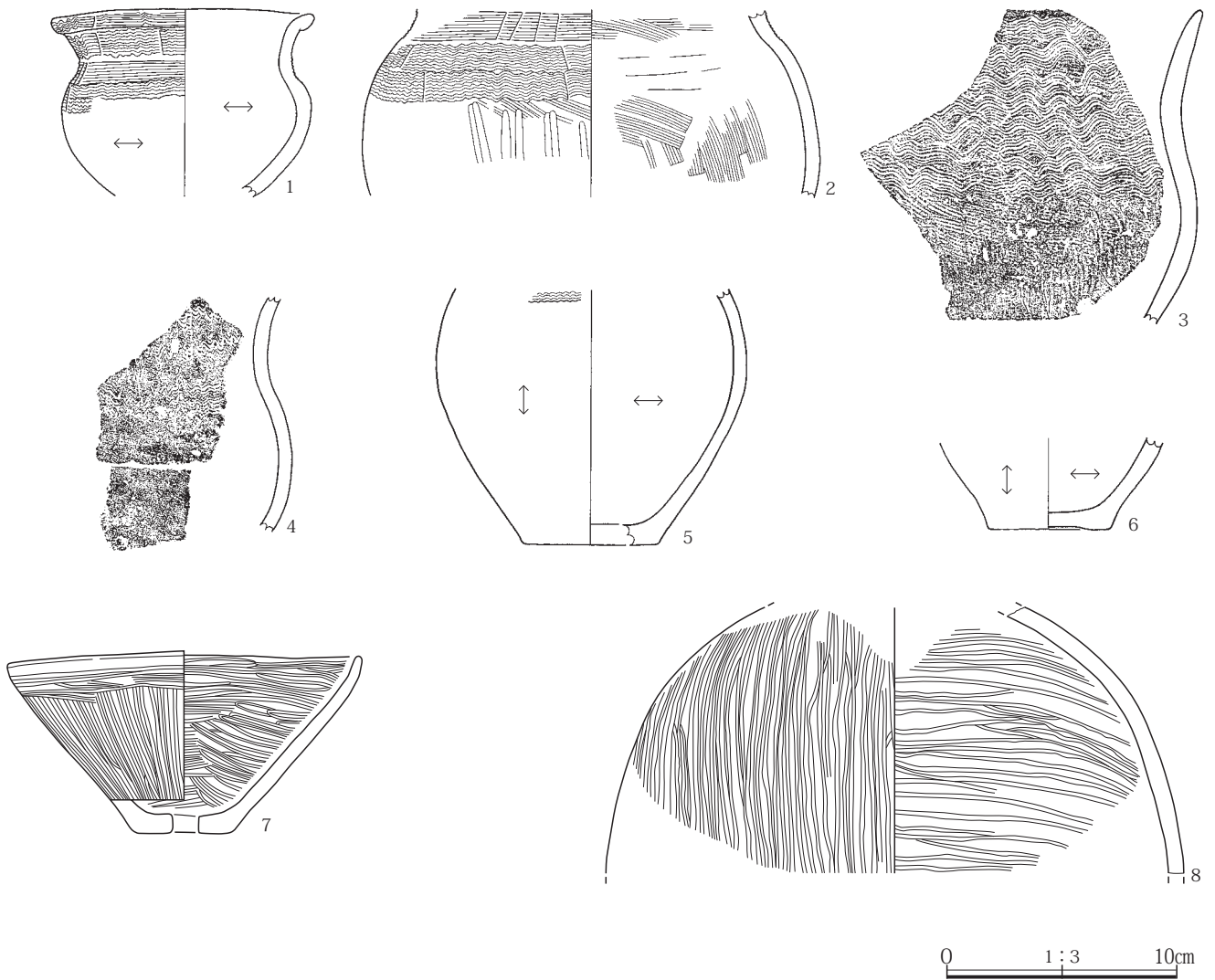
第149図 22号竪穴建物(1)



- 22号竪穴建物 P 3 E - E'
- 1 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒を僅かに含む。
- 22号竪穴建物 P 4 F - F'
- 1 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒を僅かに含む。
- 22号竪穴建物 P 5 G - G'
- 1 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒を僅かに含む。粘性あり。
- 22号竪穴建物 P 6 H - H'
- 1 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒を僅かに含む。
- 22号竪穴建物 P 7 I - I'
- 1 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒を僅かに含む。
- 22号竪穴建物 P 8 J - J'
- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)ローム粒を多量に含む。

0 1:60 2m

第150図 22号竪穴建物(2)



第151図 22号竪穴建物出土遺物

10cm程度の浅いピットだが、南壁際に配置されており、出入口部ピットとして位置付けたい。

**遺物：**出土遺物はやや少量である。前述の貯蔵穴内出土の有孔鉢は20号竪穴建物と同様の出土状態である。その他では東壁際で大型の甕体部破片(8)など、床直、床直上より破片状態ながら土器(1～3・5・6)が出土する。ほぼ同時期の所産と判断できるが、居住に伴う例は貯蔵穴出土例のみで、他の遺物は廃棄あるいは短時間での流入であろう。

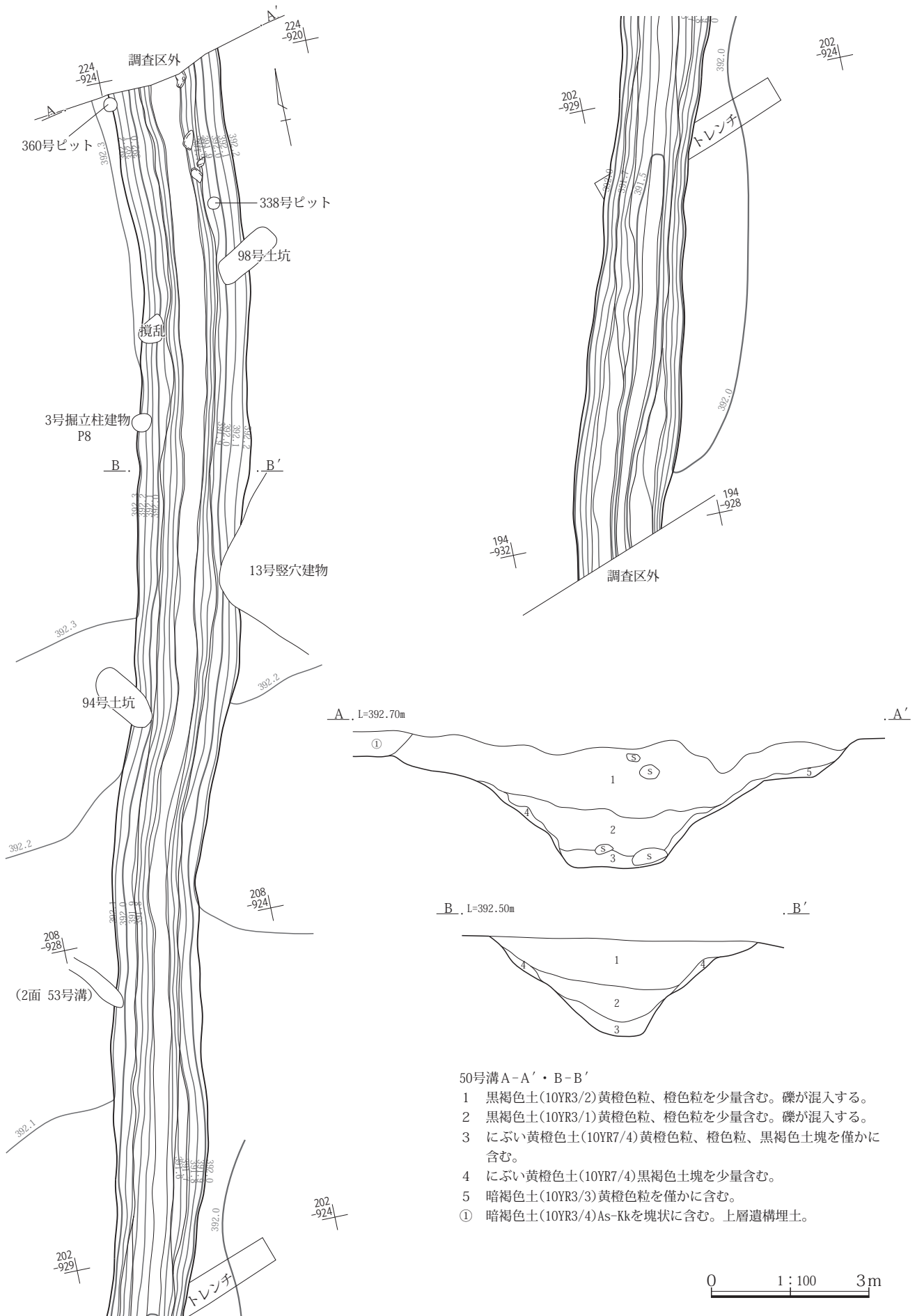
**所見：**炉は未検出だが、4本柱穴、貯蔵穴、出入口部ピットが調査された小型の竪穴建物である。出土遺物は多くは無く破片状態での出土が主だが、ほぼ同時期に廃棄あるいは流入したものと考えられる。時期は出土土器から弥生時代後期と捉えた。

**50号溝(第152～157図、PL.41・42・70～72)**

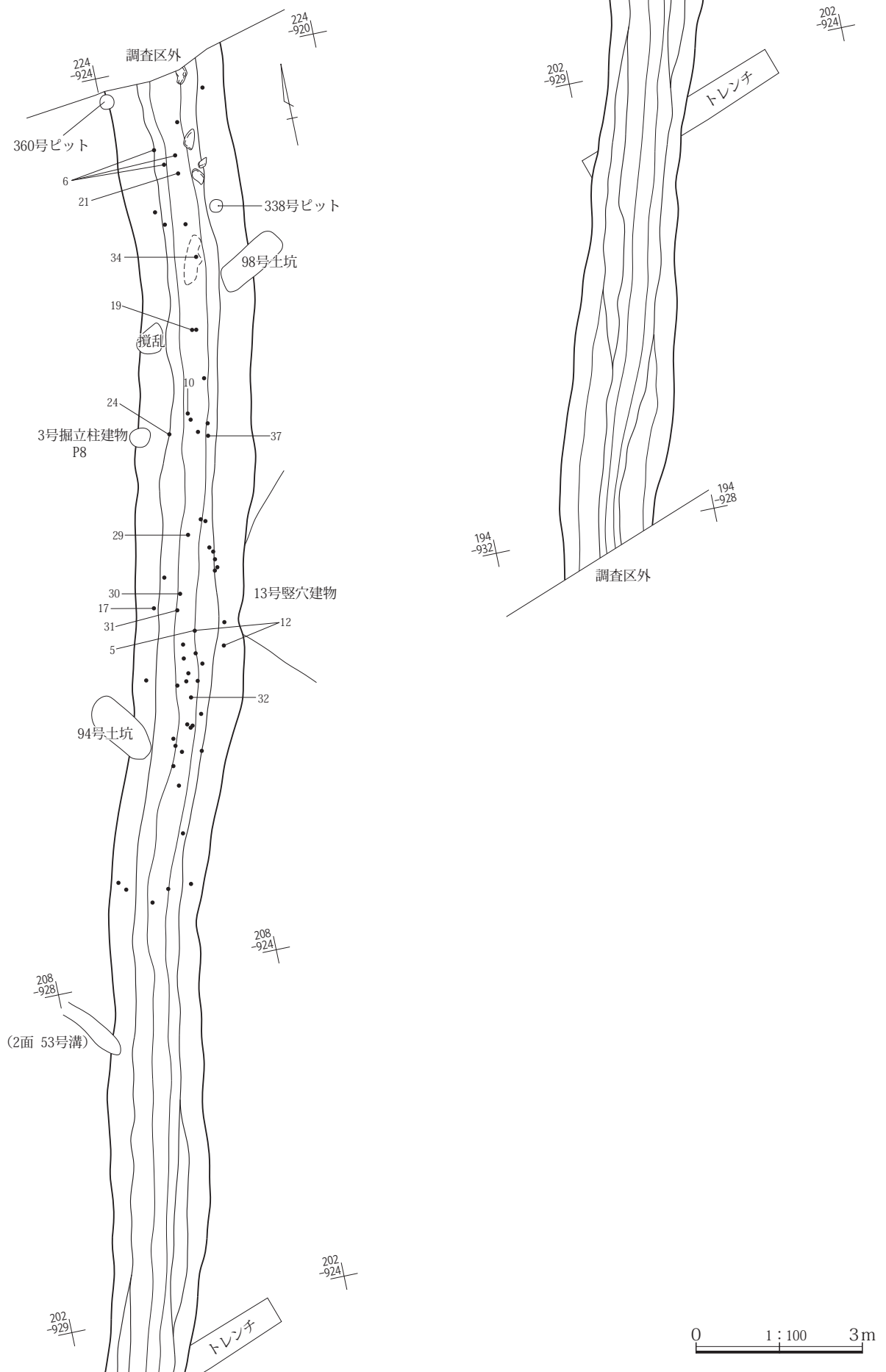
**位置：**11区東側で調査された大規模な溝である。11区東の北側は平坦面が保たれ、南側は南東へ低くなる傾斜が強くなる地形を示す。この地形変換点に南北に設けられた溝である。

**経過：**北半はローム漸移層である暗褐色土で、南半は黒褐色粘質土を確認面とした。南側での検出作業は同色の埋土でやや手間取ったが、埋土中に遺物や円礫が含まれるため識別は容易だった。また、南側は低地部にかかるため湧水が見られ、底面や壁の検出に若干の困難が生じた。

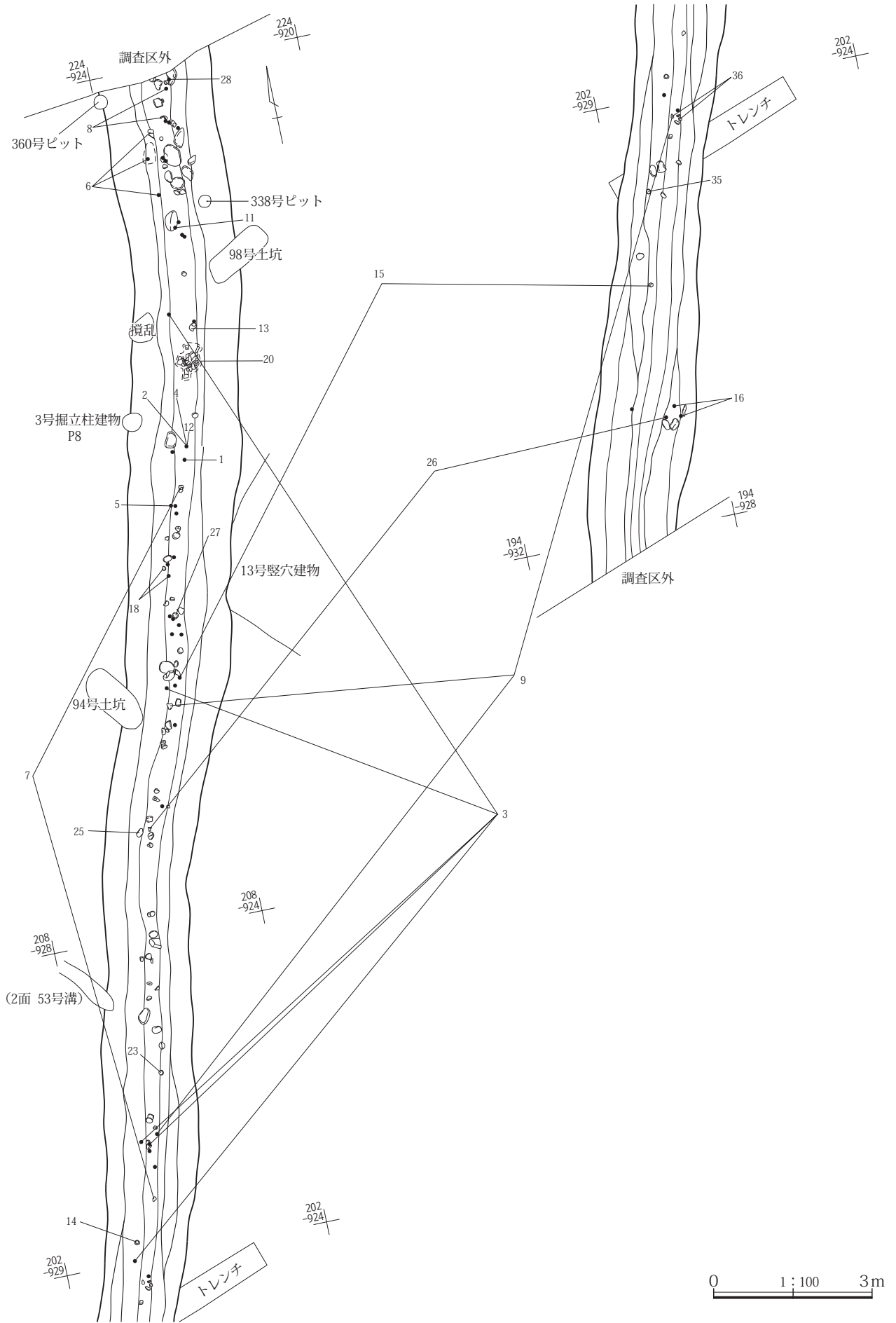
**規模：**軸方位を北北東に向けた、ほぼ直線的な走向を示す。全長約31mで調査区南北壁に達し、区域外に延長する。幅は約1.5～2.1mで、深さは約55～75cmを測る。掘り込みは深く、壁中位数箇所屈曲を持ちながら開く断



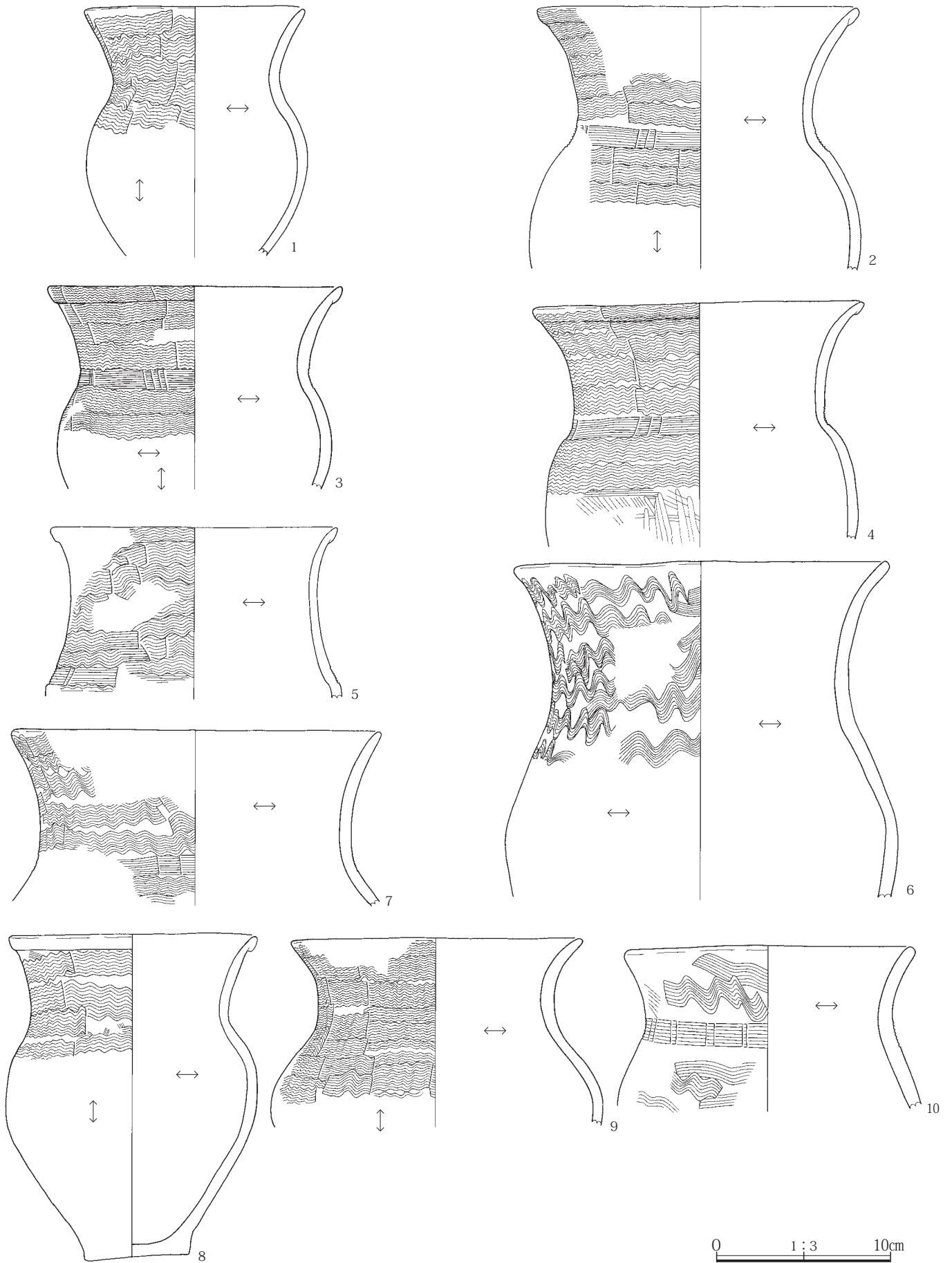
第152図 50号溝



第153図 50号溝遺物出土状態上層

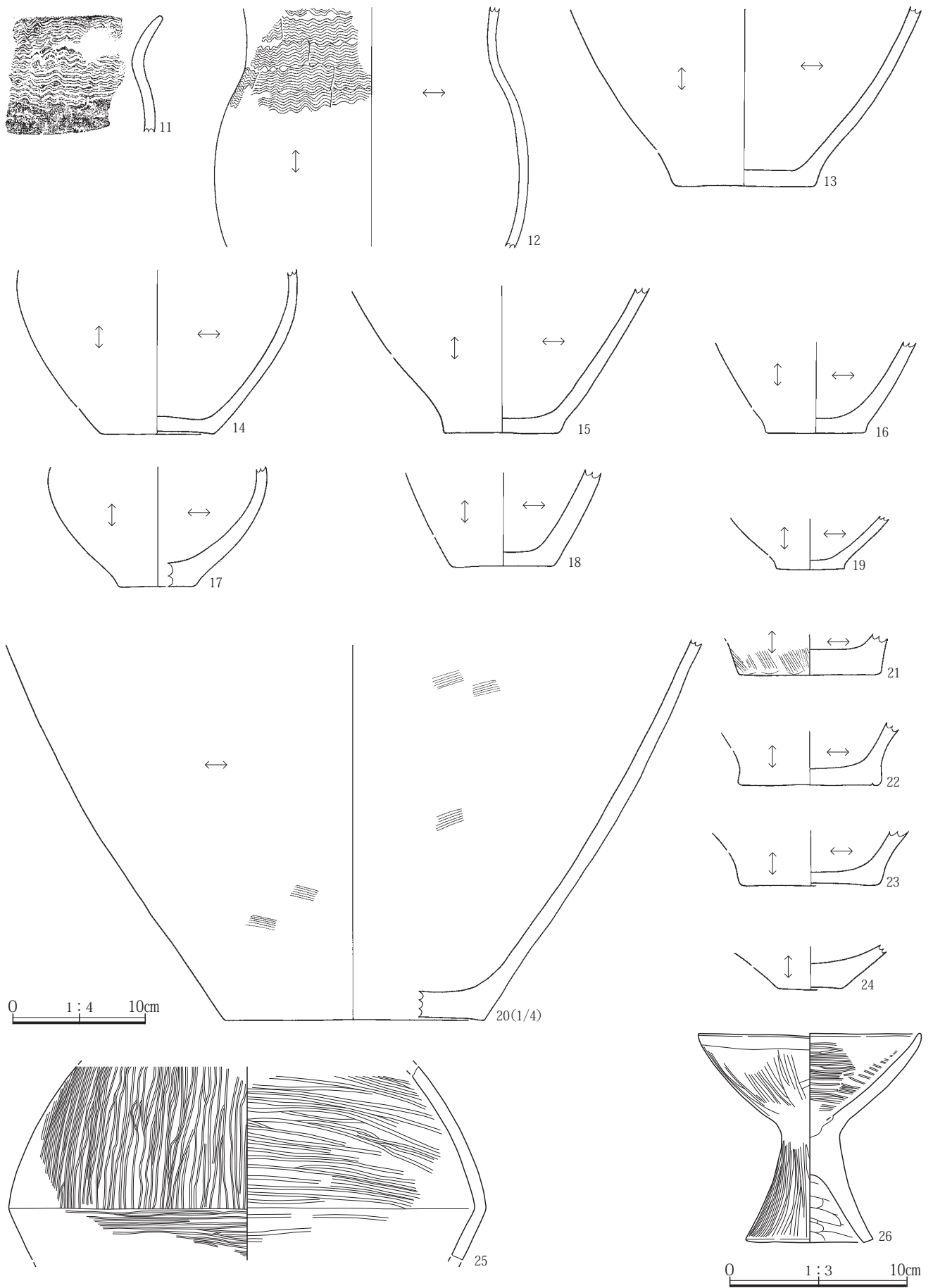


第154図 50号溝遺物出土状態下層

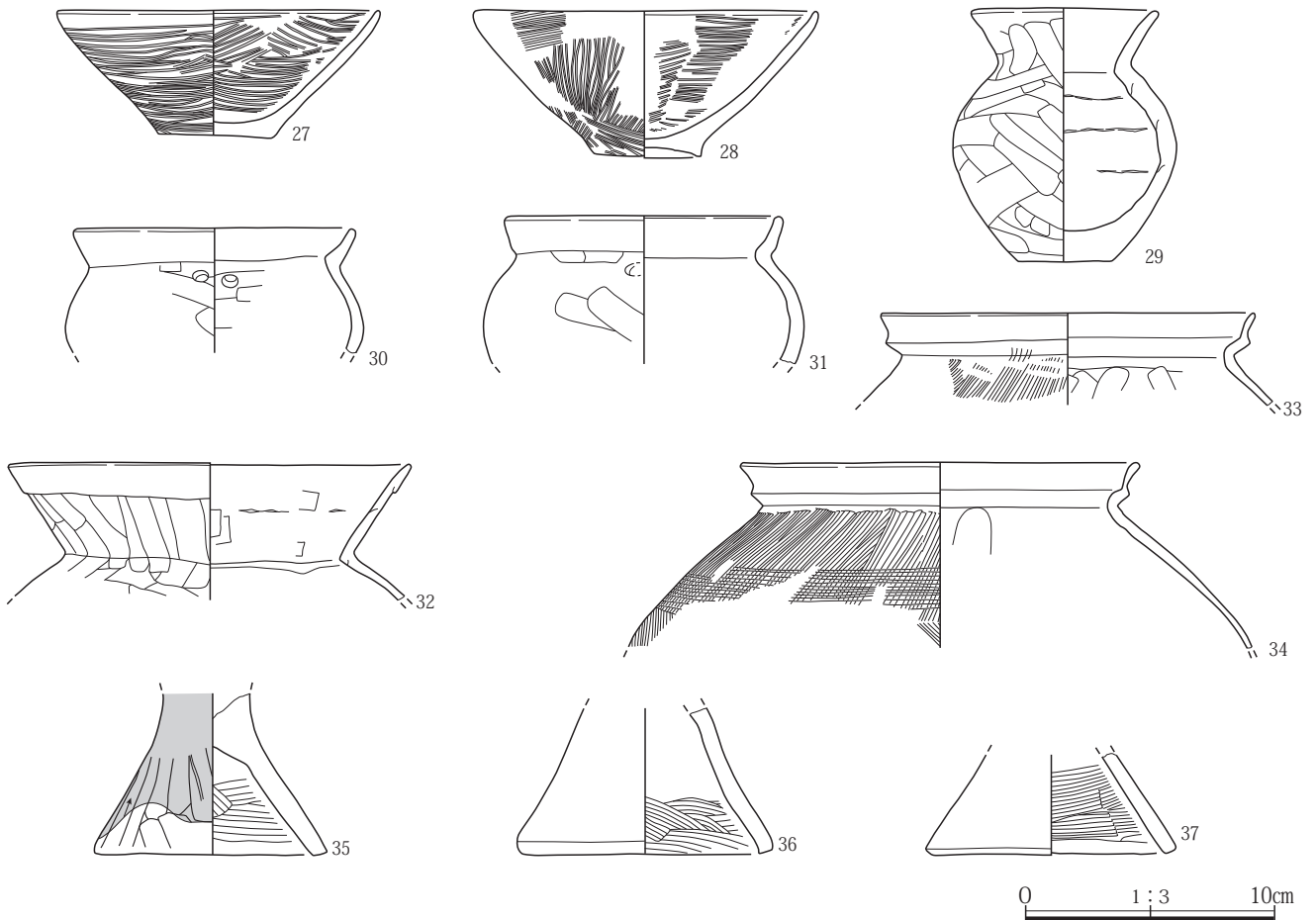


第155図 50号溝出土遺物(1)





第156図 50号溝出土遺物(2)



第157図 50号溝出土遺物(3)

面形である。底面は比較的平坦である。溝底面の高低差は北半が標高差が認められず、座標値X=200ラインのあたりから低くなりはじめ、南側調査区壁とは20cm近い高低差が認められた。これは地形傾斜に沿うもので、北半はほぼ平坦地形が広がるため、底面も高低差が現れなかったと思われる。

**重複：**北東部で13号竪穴建物に切られる。また、2面遺構である94・98坑、53溝等が重なる。

**遺物：**弥生時代後期～古墳時代前期の土器が多量に出土した。発掘調査では、土器を上層・下層として層位的に取り上げた。全体的な傾向としては、下層に弥生時代後期の土器資料(1～25)、上層に古墳時代前期土器(26～37)が偏る傾向が見られたが、厳密ではなく、上層と下層の資料が接合する例も多く見られた。完形、半完形資料もあったが、多くが破片資料であり、おそらく、弥生時代後期～古墳時代前期の間の継続的な廃棄によるものと考えられる。同時に大型円礫も多数出土するが、河床礫であり自然遺物と判断した。

**所見：**弥生時代後期～古墳時代前期に比定される大規模な溝である。直線的な走向で、幅広で深くしっかりした掘り込みである。溝の規模から、環濠として性格も推定したが、調査区内に対応する溝も見られないことから、環濠としての可能性は低いと考えた。また土層の観察では、砂質土など水流に伴う堆積土は見られず、出土遺物にも円磨した例は無いことから、用水路としての性格も適当ではない。ただ、最下位段丘面上の低位台地面から、低地部分への走向を示しており、ある程度の水利は推定できよう。

50号溝の東西に見られる竪穴建物を考えるべきであろう。11区には7号竪穴建物や8号竪穴建物等、11-1区は、17号竪穴建物や20号竪穴建物等が見られる。東西の竪穴建物に大きな性格差は見られないが、50号溝はこの集落を南北に画す分割線として考えられる。本溝は弥生時代後期～古墳時代前期の集落を東西に画す大溝として位置付けたいが、調査区域外の調査例が加わるまで、性格の確定は待ちたい。

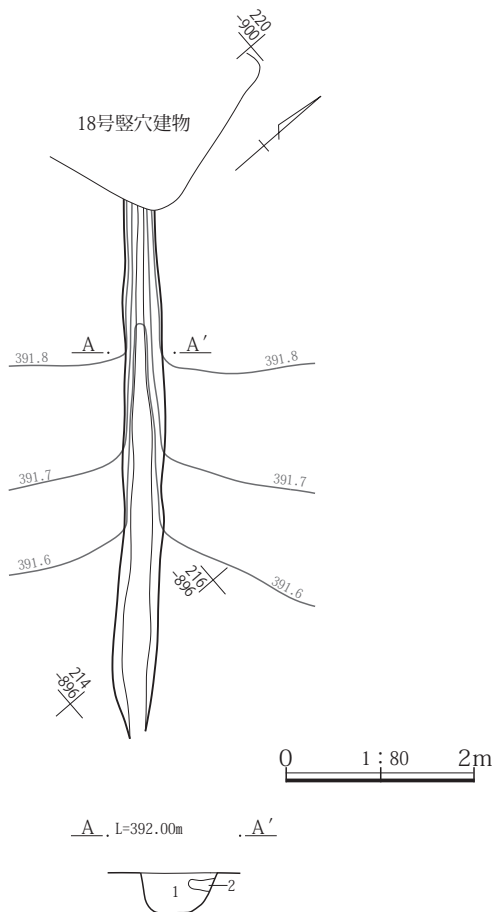
66号溝(第158図、PL.51)

**位置：**11-1区中央で調査された。18号竪穴建物南東隅より派生して斜面に沿って延びる溝である。周辺は南東へ下る斜面地形が強くなる箇所である。

**経過：**北西部はローム漸移層相当の灰黄褐色土を、南東部は低地部の黒褐色粘質土を確認面とした。溝埋土は黒褐色土で低地部と同色ながら、質感と色調差も明瞭で平面形の識別は容易だった。ただ、低地部に至ると掘り込みが浅くなり、途切れる形態となった。

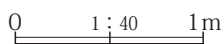
**規模：**北西に軸方位を設け、全長約5.6m、幅約30~45cm、深さ約30cmを測る。掘り込みは良好で鍋底形の断面形を示す。溝底面は平坦で北西部から南東部に低くなる高低差は15cm程で、地形傾斜に沿うものと考えられる。

**重複：**18号竪穴建物と重複する。18号竪穴建物土層に本



66号溝 A-A'

- 1 黒褐色土(10YR2/2)ローム粒僅かに含む。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR7/2)ローム塊主体。



第158図 66号溝

溝の痕跡を見ないことから、18号竪穴建物が新しい重複関係と判断したい。

**所見：**傾斜に直交する小規模な溝である。掘り込みも良好で人為的な溝として位置付けられるが、土層の観察からも水流の痕跡が見られないため、用水路などではない。18号竪穴建物と同時期とすると、18号竪穴建物南東隅より派生する溝の可能性もあるが、いずれも確信性に乏しいため性格は不明としたい。時期も18号竪穴建物以前の所産であり、弥生時代後期～古墳時代後期の時間幅を与えたい。

土坑

11区と11-1区からは8基の土坑を調査した。ここでは、詳細の記述は避け、概要を述べておきたい。形状や土層、計測値などは第159図と遺構計測表(第5表)を参考にしていきたい。殆どの土坑が詳細な時期、性格が不明である。

116号土坑(第159図、PL.42)

11区北東側で50号溝西に接して調査された。約180×100×12cmの不整楕円状の平面形で浅い皿状の断面形を呈す。土坑底面より土師器甕体部破片が出土したが、図示には至らなかった。

118号土坑(第159図、PL.42)

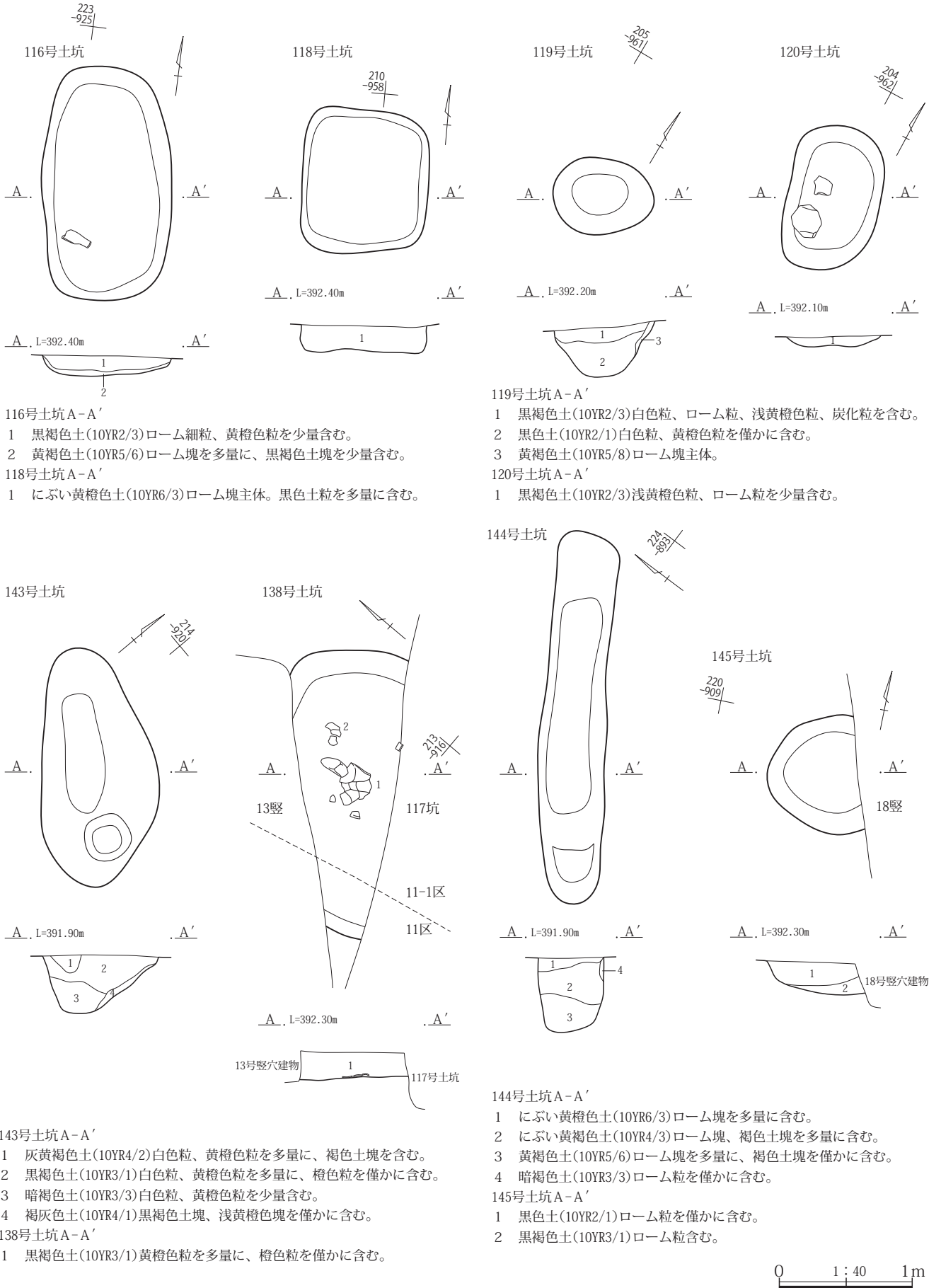
11区北西側10号竪穴建物南西で検出された。不整形を平面形とし約110×100cm、深さは約20cmを測る。しっかりした掘り込みで箱形の断面形を示す。

119号土坑(第159図、PL.42)

11区西側で118坑南西約6mに位置する。小型の不整円形の土坑で径約75×60cm、深さ約40cmを測り、掘り込みは深い。底面より円礫が出土したがローム中に含まれる基盤礫である。

120号土坑(第159図、PL.42)

11区西側で119坑西に近接して調査された。不整楕円状の平面形で、規模は110×70×10cmを測る。浅く皿状の断面形を示す。底面より浮いた状態で大型の角礫が出土したが、基盤礫の流入である。



116号土坑 A-A'

- 1 黒褐色土(10YR2/3)ローム細粒、黄橙色粒を少量含む。
- 2 黄褐色土(10YR5/6)ローム塊を多量に、黒褐色土塊を少量含む。

118号土坑 A-A'

- 1 にぶい黄橙色土(10YR6/3)ローム塊主体。黒色土粒を多量に含む。

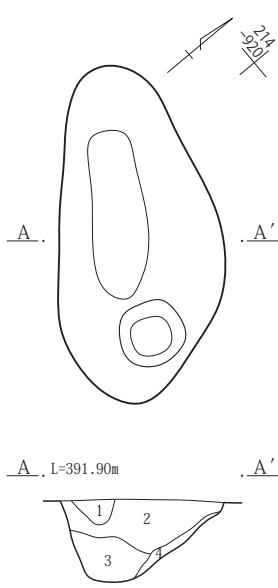
119号土坑 A-A'

- 1 黒褐色土(10YR2/3)白色粒、ローム粒、浅黄橙色粒、炭化粒を含む。
- 2 黒色土(10YR2/1)白色粒、黄橙色粒を僅かに含む。
- 3 黄褐色土(10YR5/8)ローム塊主体。

120号土坑 A-A'

- 1 黒褐色土(10YR2/3)浅黄橙色粒、ローム粒を少量含む。

143号土坑



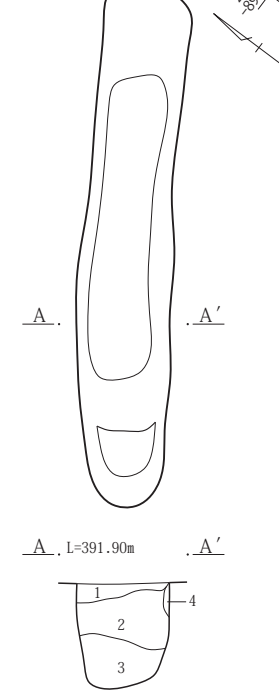
143号土坑 A-A'

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)白色粒、黄橙色粒を多量に、褐色土塊を含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)白色粒、黄橙色粒を多量に、橙色粒を僅かに含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3)白色粒、黄橙色粒を少量含む。
- 4 褐灰色土(10YR4/1)黒褐色土塊、浅黄橙色塊を僅かに含む。

138号土坑 A-A'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)黄橙色粒を多量に、橙色粒を僅かに含む。

144号土坑

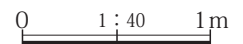


144号土坑 A-A'

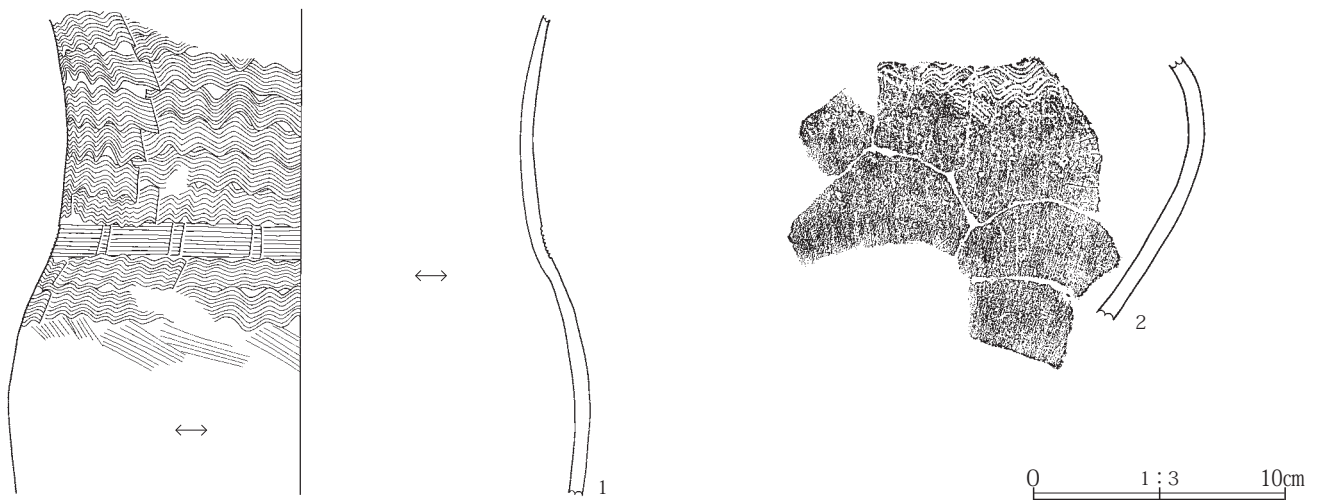
- 1 にぶい黄橙色土(10YR6/3)ローム塊を多量に含む。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3)ローム塊、褐色土塊を多量に含む。
- 3 黄褐色土(10YR5/6)ローム塊を多量に、褐色土塊を僅かに含む。
- 4 暗褐色土(10YR3/3)ローム粒を僅かに含む。

145号土坑 A-A'

- 1 黒色土(10YR2/1)ローム粒を僅かに含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒含む。



第159図 116・118～120・138・143～145号土坑



第160図 138号土坑出土遺物

#### 143号土坑(第159図、PL.42)

11区東側の13号竪穴建物床面上で検出した。不整形の土坑である。180×90×40cmを規模とするが、埋土の特徴は人為的ではなく、あるいは倒木痕等の一部かもしれない。

#### 138号土坑(第159・160図、PL.42・72)

11-1区西端の13号竪穴建物と2面117坑に挟まれた沈点で調査された。両遺構に切られる新旧関係である。径200cm程のやや大型の不整形円形を呈し、25cmの深さを測る。底面は平坦で掘り込みはしっかりしていた。底面に密着して、中型の角礫と弥生時代甕体部破片2個体(1・2)がまとまって出土した。弥生時代後期の所産である。

#### 144号土坑(第159図、PL.51)

11-1区中央北寄りでは17号竪穴建物南に近接して調査された。溝状の土坑で全長約280cm、幅約50cm、深さ60cmを測る。2面遺構の可能性も考えたが、埋土にAs-Kkを含まず、ローム塊を多量に含む特徴から、3面遺構として判断した。

#### 145号土坑(第159図、PL.51)

11-1区中央やや北西寄りの18号竪穴建物西壁にかかり調査された。18号竪穴建物に切られる新旧関係である。径約90cmの不整形円形を呈し、深さは30cmを測る。鍋底状の断面形を示す。

#### ピット

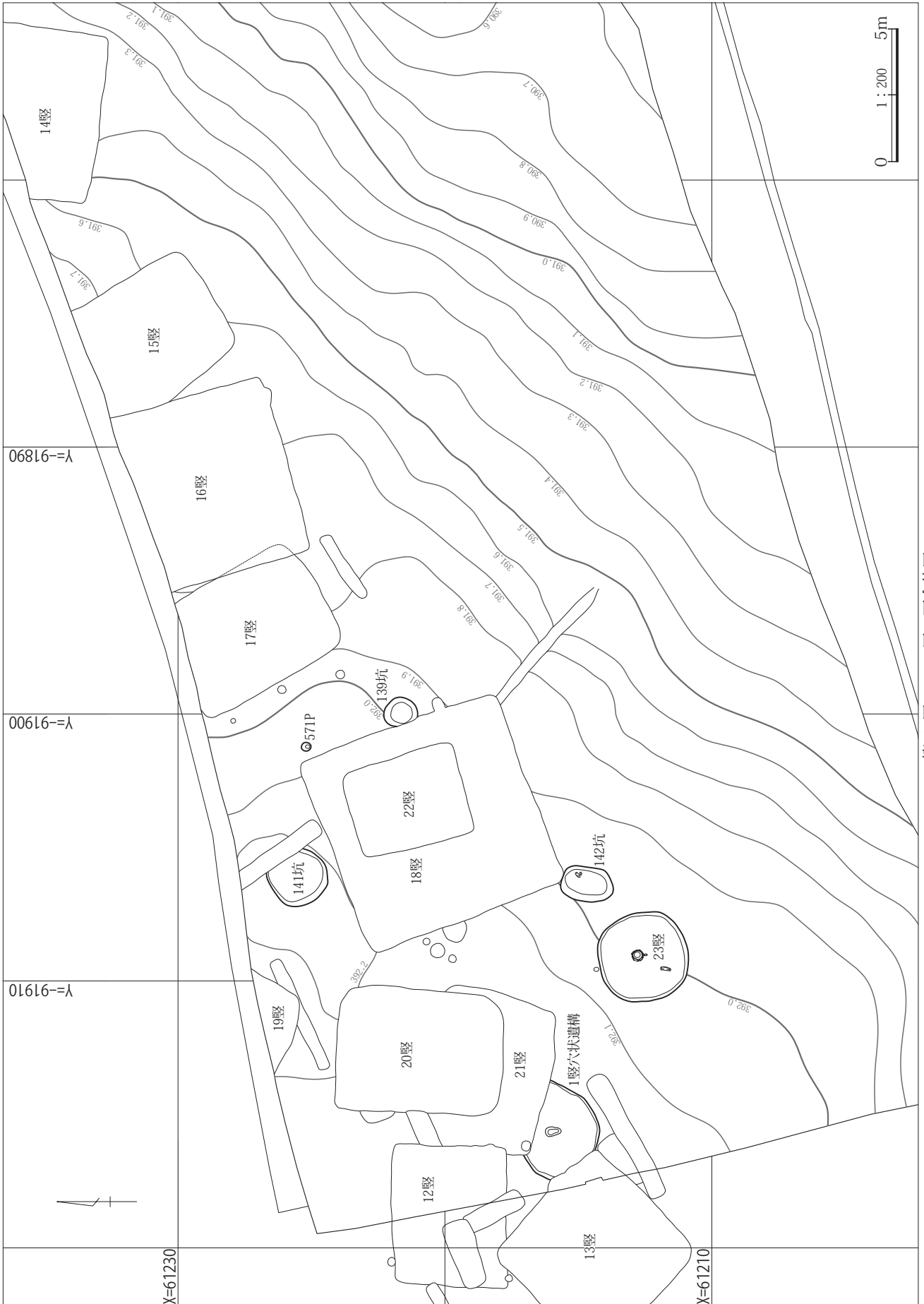
11区、11-1区併せて17基のピットが調査されている。2面調査と違い、掘立柱建物を構成するピットは無く、直線状に並ぶ柵列も見られなかった。分布も竪穴建物とほぼ近い選地で、調査区北側の高標高値の平坦面で見えた。集中する箇所とすれば、11区4号竪穴建物の周辺で544～547号ピットが集まり、深さも30cm以上を測りあるいは柱穴としての用途も捉えられよう。さらに11-1区でも、17号竪穴建物西に566～568号ピット、18号竪穴建物西に569・570・572号ピットが見られるが、いずれも浅く柱穴としては適当ではない。

#### (6) 11区・11-1区第4面

弥生時代～古墳時代調査面であった黄褐色ローム、黄褐色土を確認面とした調査面終了後に縄文土器の出土が認められた11-1区北西部を中心に、遺構確認面をさらに下げ、縄文時代の遺構と遺物を検出した。検出された遺構は竪穴建物1棟、竪穴状遺構1基、土坑3基、ピット1基が調査された。いずれも、縄文時代中期後葉～末葉に時期が求められるが、遺構外からは前期中葉の土器片が出土している。なお、本遺跡では縄文時代の遺構は今回の調査が初出であり、極めて意義深い調査となっている。

#### 竪穴建物

1棟のみの調査である。ただ、北西に近接する1号竪穴状遺構も竪穴建物の可能性があり、北側の調査区域外



第161図 11-1区4面全体図

第3章 検出された遺構と遺物

に集落の範囲が延長する様相を示す。ただ、竪穴建物帰属時期が中期末葉であることを考慮すると、小規模な集落が想定されよう。

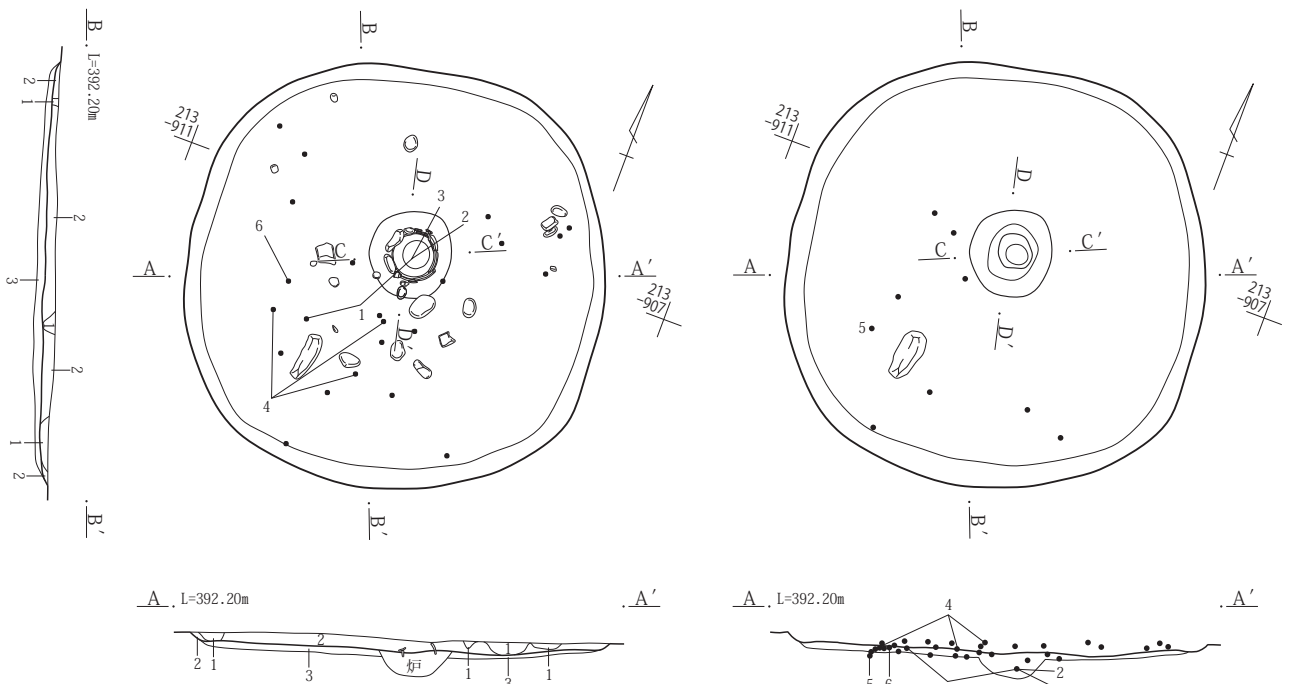
23号竪穴建物(第162・163図、PL.52・73)

位置：11-1区北西部で調査された。周辺はほぼ平坦地形が広がるが、南東側は緩やかに低くなる斜面地形とな

る。斜面地形の変換点に立地する。

経過：ローム層上層のにぶい黄褐色土を確認面とする。第3面調査中より、少量ながら縄文土器の出土が見られたため、確認面を若干下げて褐色土の広がり平面形として確認した。床面や壁の検出は、色調差に乏しく若干戸惑った。

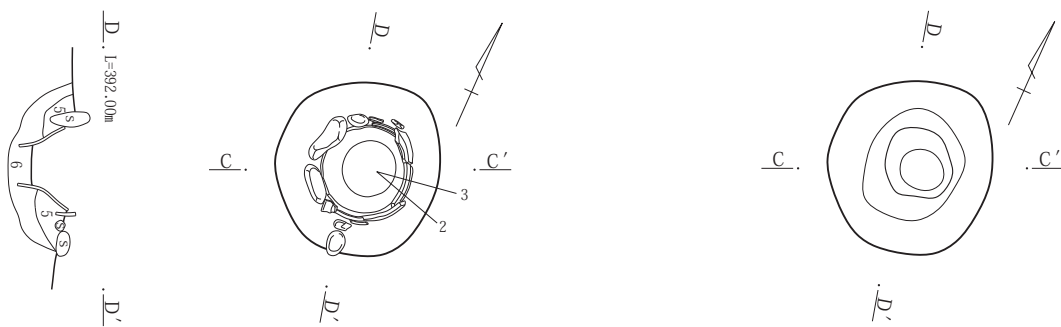
規模：径約3.4mの整った円形を平面形とし、深さは約



23号竪穴建物 A-A'・B-B'

- 1 褐色土(10YR4/6)黄橙色粒を少量、橙色粒を僅かに含む。
- 2 黄橙色土(10YR8/6)黄橙色粒を多量に、橙色粒を僅かに含む。
- 3 浅黄橙色土(10YR8/3)ローム塊主体。黄橙色粒・暗褐色土塊を僅かに含む。(掘方)

0 1:60 2m

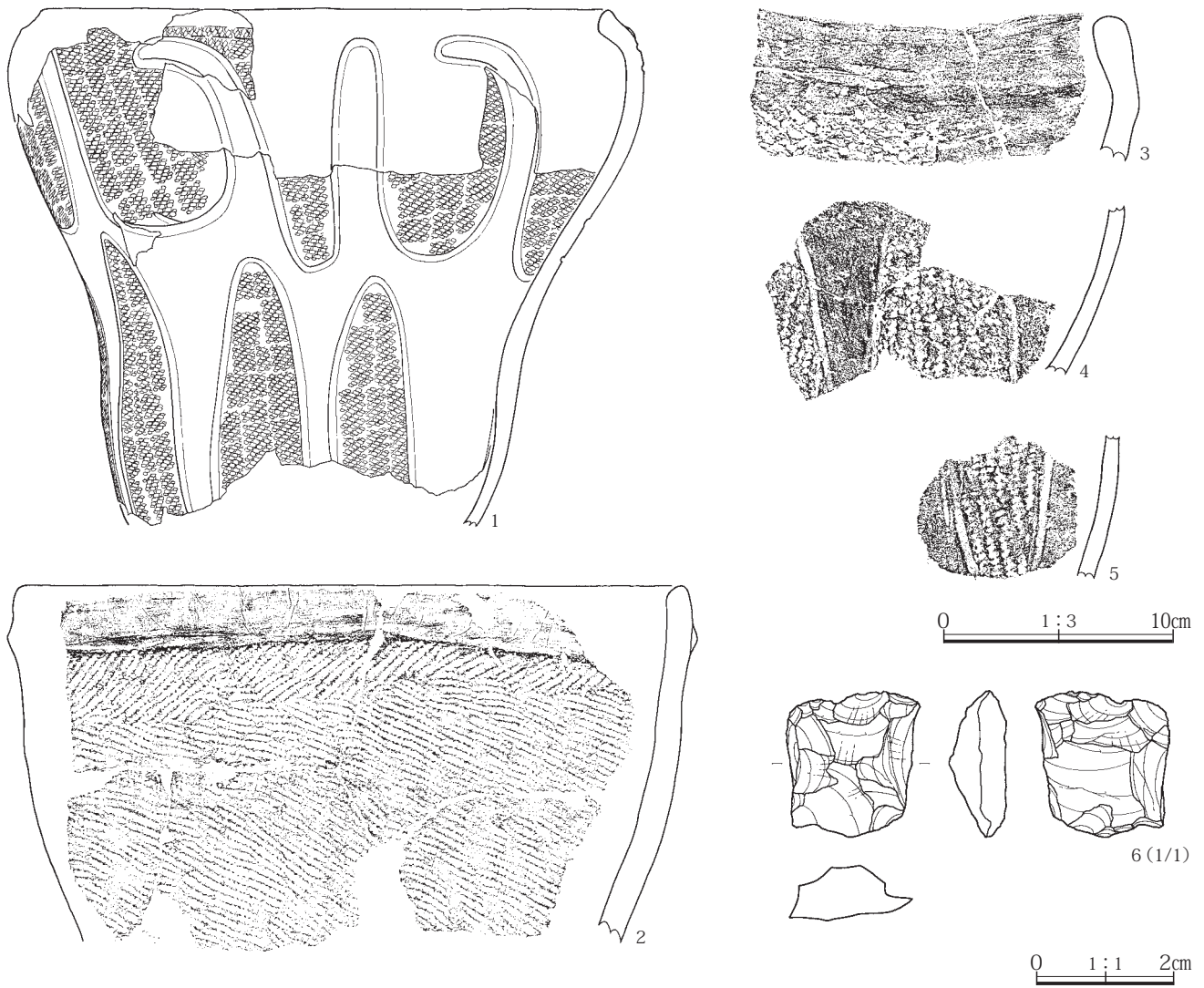


23号竪穴建物炉 C-C'・D-D'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)白色粒を少量、焼土粒を僅かに含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2)白色粒を少量、橙色粒を僅かに含む。
- 3 黒色土(10YR2/1)黒色粘質土塊主体。
- 4 暗褐色土(10YR3/3)白色粒を僅かに含む。
- 5 褐灰色土(10YR4/1)砂粒を少量、黄橙色粒を僅かに含む。縮り弱い。(掘方)
- 6 黒褐色土(10YR3/1)白色粒、黄橙色粒を僅かに含む。(掘方)

0 1:30 1m

第162図 23号竪穴建物・炉



第163図 23号竪穴建物出土遺物

20cmを測りやや浅かった。

**床面：**床下調査を行い貼床の検出を試みたが、黄褐色ロームの地床だった。僅かな凹凸を見るがほぼ平坦で、硬化面は見られなかった。

**施設：**床面中央に埋甕炉を設ける。径約70cm、深さ約20cmの土坑状の掘方に深鉢上半部(第163図1)が正位で埋置されていた。深鉢の周囲は円礫が埋められるが、石囲いではなく深鉢と掘方の充填材と判断した。炉体土器としての深鉢口縁部は僅かに被熱痕跡が認められた。その他の柱穴や壁周溝等は検出されなかった。

**遺物：**炉体土器以外は完形土器の出土は無く、出土遺物は床直上の遺物が多いが、居住に伴う例では無く破片状態だった。その中で、2～5を図示した。石器も石皿などの居住を示唆する出土例が見られず、埋土下位より楔形石器(6)見られた。竪穴建物の深さが浅いため、出土

遺物は全て埋土下位から床直となるが、破片出土を主とすることから、流入や廃棄に伴う例と考えた。出土土器の様相から一括性は高いと判断できる。

**所見：**円形の竪穴建物で、床面中央に埋甕炉を設ける。柱穴や出入口施設をみないため、主軸の特定は果たせず、また竪穴建物としても情報が少ない。中期末葉～後期初頭段階の竪穴建物は、通常敷石建物の形態をとるのだが、本竪穴建物は円形で出入口施設も設けず、敷石もなされていない。極めて特異な形態である。ただ、周辺遺跡である下郷古墳群71号墳1号竪穴建物が中期末葉の竪穴建物として報告されており、径2.8m程で敷石が施されていない例である。おそらく、中期末葉の竪穴建物形態で敷石形態を持たない小型の例が存在するものと考えられる。



1号竪穴状遺構(第164・165図、PL.53・73)

**位置：**11-1区北西部の13号竪穴建物と21号竪穴建物に挟まれた箇所調査された。周辺は平坦面が広がる安定した地点である。

**経過：**ローム漸移層下位である灰黄褐色土を確認面とする。当初は140坑として調査を進めたが、平面範囲が広がり、遺物に出土も見られたため、竪穴建物とも考えたが、炉を見ないことから竪穴状遺構として位置付けた。なお、床面中央で検出したP1も当初は炉として可能性を求めたが、焼土の堆積が見られないためピットとした。柱穴ではない。

埋土は黒褐色土や黄橙色土を基調しており、平面形の壁際等の検出に若干手間取ったが、埋土の質感と遺物の分布から識別が果たせた。

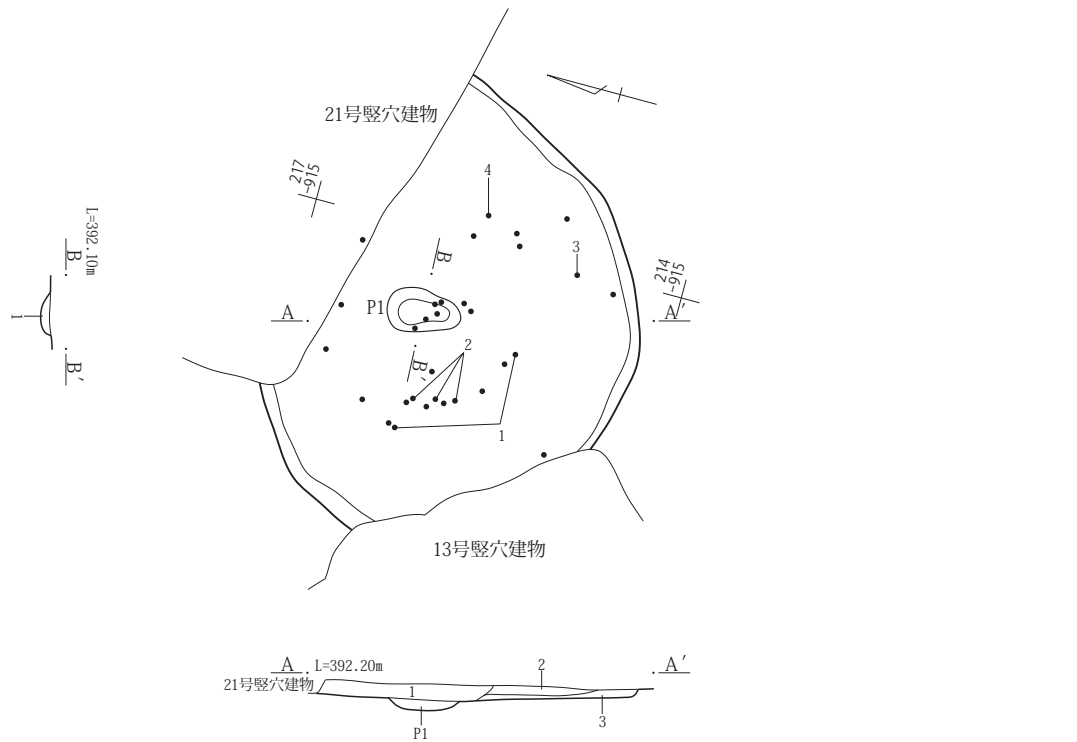
**規模：**古墳時代の竪穴建物により、北側と南西側が切られたため全容の把握は出来ないが、平面形は約(3.7)×

3.0mの不整形円形が推定できる。深さは浅く10cm程度に止まる。

**重複：**13号竪穴建物と21号竪穴建物に切られる。

**遺物：**埋土下位より土器片、石器が出土する。中央部分に集中する傾向があるが、おそらく埋没過程に伴う黒褐色土堆積に土器が含まれていたのであろう。ほぼ同時期の土器様相だが流入による所産であろう。深鉢破片3点(第165図1～3)と打製石斧1点(4)を図示した。

**所見：**径3.5m前後の不整形円形を呈する小竪穴である。23号竪穴建物と規模の差が無く、炉の有無で竪穴建物ではなく竪穴状遺構とした調査経緯である。ただ、23号竪穴建物と同様に柱穴等の施設を持たず、径が3mを超え底面が平坦であり、居住施設の形状に近く、竪穴建物としての位置付けも可能である。23号竪穴建物とは若干の時期差があるが、集落の一隅を占める遺構である。時期は出土土器から中期末葉と判断した。

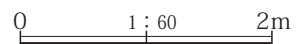


1号竪穴状遺構 A - A'

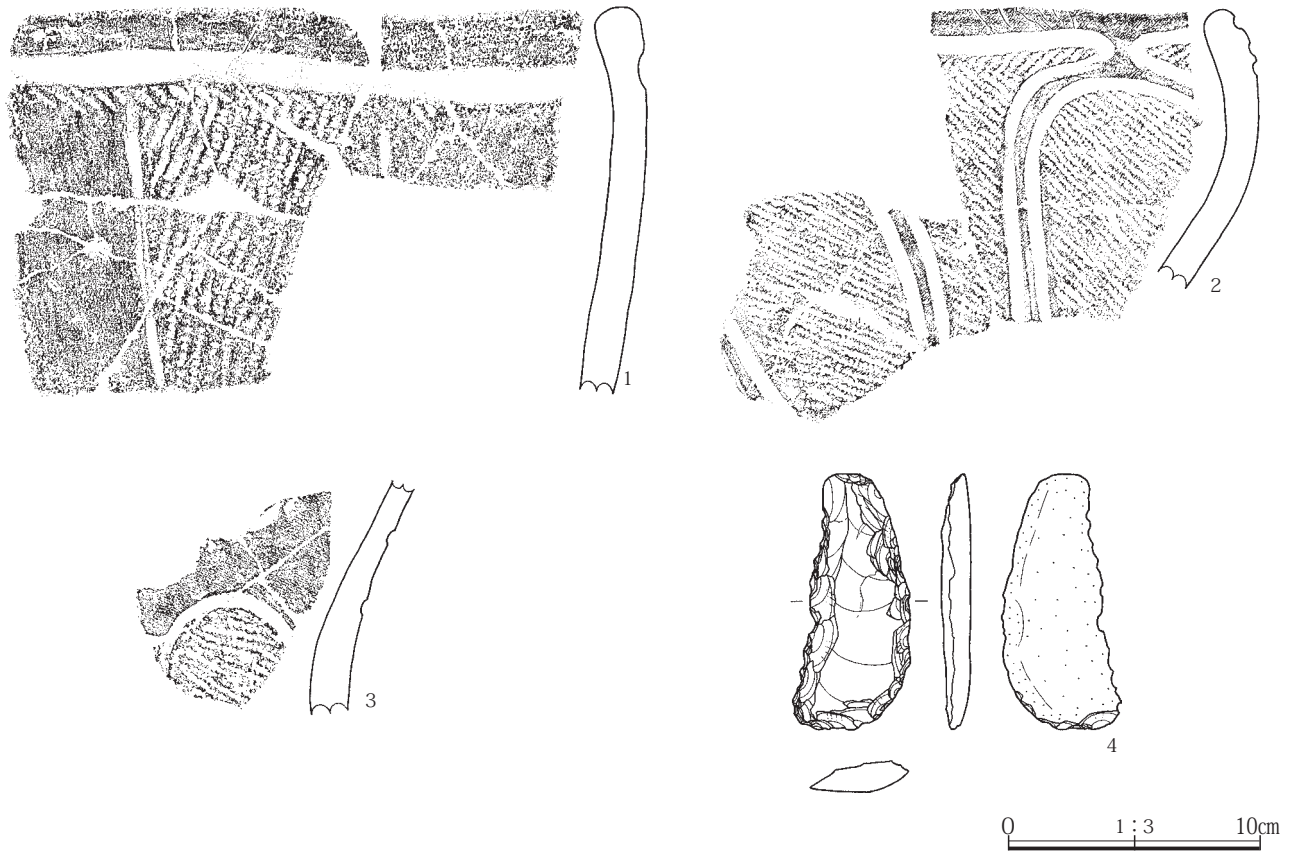
- 1 黒褐色土(10YR3/1)黄橙色粒少量、橙色粒・ローム塊を僅かに含む。やや締りあり。
- 2 にぶい黄橙色土(10YR7/4)黄橙色粒・褐色土塊を多量に含む。
- 3 明黄褐色土(10YR6/6)黄橙色粒・褐色土塊を僅かに含む。

1号竪穴状遺構 P 1 B - B'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)白色粒、黄橙色粒少量、橙色粒・ローム塊を僅かに含む。



第164図 1号竪穴状遺構



第165図 1号竪穴状遺構出土遺物

139号土坑(第166図、PL.53・74)

11-1区中央やや北西寄りの古墳時代の18号竪穴建物東壁にかかり調査された。径約1.2m、深さ約30cmの不整形円形を呈する土坑で、掘り込みも比較的深く、底面は平坦で、壁の立ち上がりも良好である。上層より大型円礫や土器片が出土し、底面では深鉢口縁部破片(第166図1)や円礫、埋土中から深鉢破片(2～8)が出土する。石器では石錐(9)を見る。土器は中期後葉～末葉の所産で、出土状態から底面の深鉢口縁部破片や円礫は埋置によるものと考えた。上層の大型礫も同様の性格と考えられよう。あるいは墓壙の可能性もある。

141号土坑(第166図、PL.53・74)

11-1区北側で、2面遺構の128号土坑に東側を切られた状態で調査された。ローム漸移層下位での確認である。径約2.1m、深さ約20cmのやや大型の土坑で、掘り込みはしっかりしていた。壁は直立気味に開き、底面は凹凸が顕著だった。遺物は底面からの出土は無く、埋土から土器片や磨石、円礫が出土している。5点を図示した(

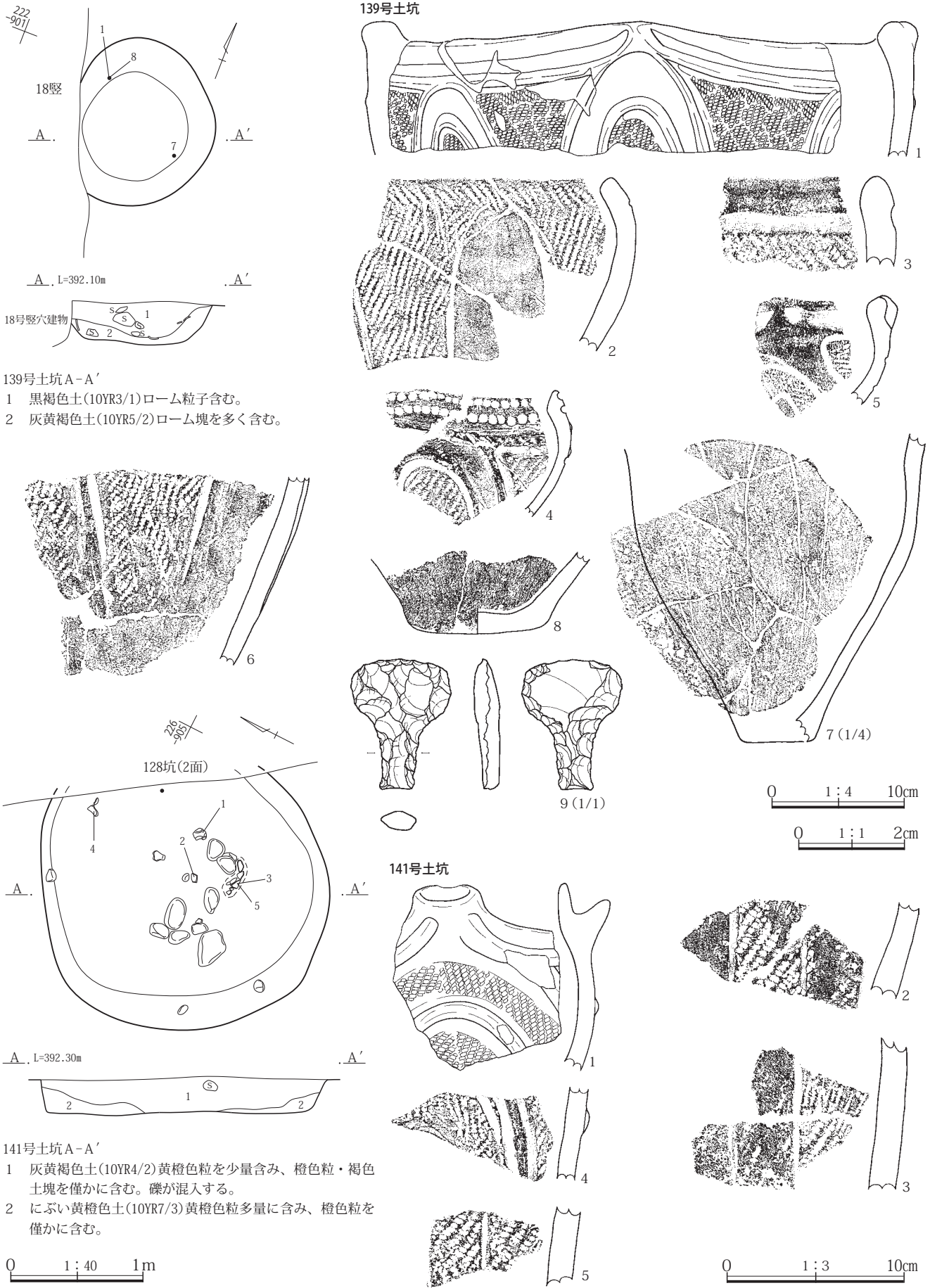
第166図1～5)。おそらく埋没に伴う流入であろう。時期は土器片の時期から中期末葉と判断した。

142号土坑(第167図、PL.53・74)

11-1区北西部で23号竪穴建物北東に近接する。18号竪穴建物の南西隅が接する位置である。ローム漸移層下位で確認した。平面形は楕円形で掘り込みも深い。規模は2.0×1.3m、深さ30cmを測る。長軸方位は北北東を向く。平面形態から墓壙の可能性を考えたが、確定的ではない。遺物は埋土上層から土器片と円礫が出土する。4点を図示した(第167図1～4)。おそらく埋没時の流入と思われる。時期は出土土器片から前期中葉以降と捉えた。

ピット

ピットは571号ピットが141坑北北西に近接して調査された。径約35cm、深さ約20cmである。規模は良好だが、1基のみの検出で、対応するピットも無く柱穴としての配置は特定できなかった。



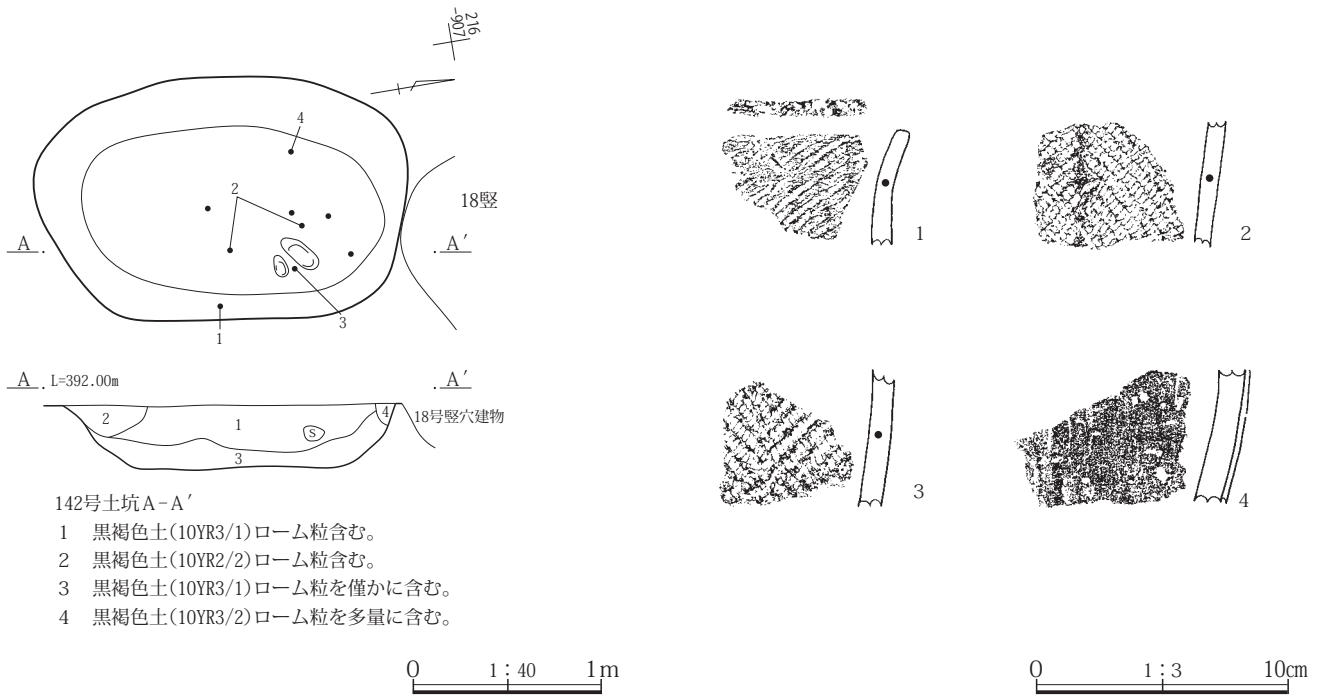
139号土坑 A-A'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒子含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR5/2)ローム塊を多く含む。

141号土坑 A-A'

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)黄橙色粒を少量含み、橙色粒・褐色土塊を僅かに含む。礫が混入する。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR7/3)黄橙色粒多量に含み、橙色粒を僅かに含む。

第166図 139・141号土坑と出土遺物



第167図 142号土坑と出土遺物

## 第4節 12区の遺構と遺物

12区は本遺跡の北東部にあたり、令和4年7月、本遺跡発掘調査の最初に着手した調査区である。

天明泥流下の調査第1面と浅間粕川テフラ(As-Kk)下の第2面の調査を行った。第3面に相当する黒褐色粘質土面には遺構が認められなかった。第1面は35～37号溝及び5号土手、北側の段差が検出され、これらに画された水田遺構が想定されている。第2面では、As-Kk混土層を埋土とする2条の平行する溝が調査されている。

### (1)12区第1面

天明泥流下の調査面である。本遺跡内でも低地部にあたり、調査中に湧水に悩まされた調査区である。

#### 35号溝(第169図、PL.54)

**位置：**12区北東側で検出された。ほぼ平坦面が周辺地形で、西に36号溝が平行する。

**経過：**天明泥流除去により平面形を確認した。調査区北壁と南壁調査区域外に延長しており、狭い範囲での調査になった。覆土は灰白色砂質土を主体としており、泥流被覆前に埋没が完了していたと考えられる。検出は西に

平行する36号溝と同時に調査した。

**規模：**北西に軸を向ける直線的な走向を示す。南北の調査区域外に延長するが、現全長は約5.3m、幅約1.4m、深さ約30cmを測る。底面は平坦で西側には杭列が並ぶ。底面の高低差は北側が南側より8cmほど高くなる。

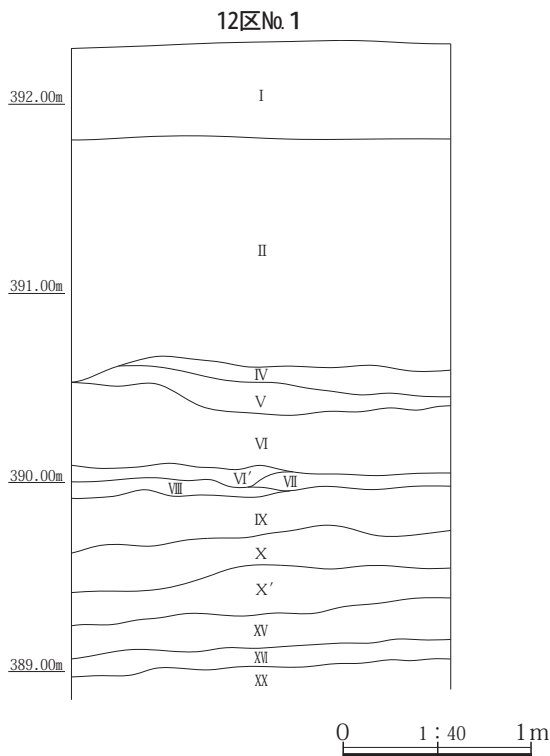
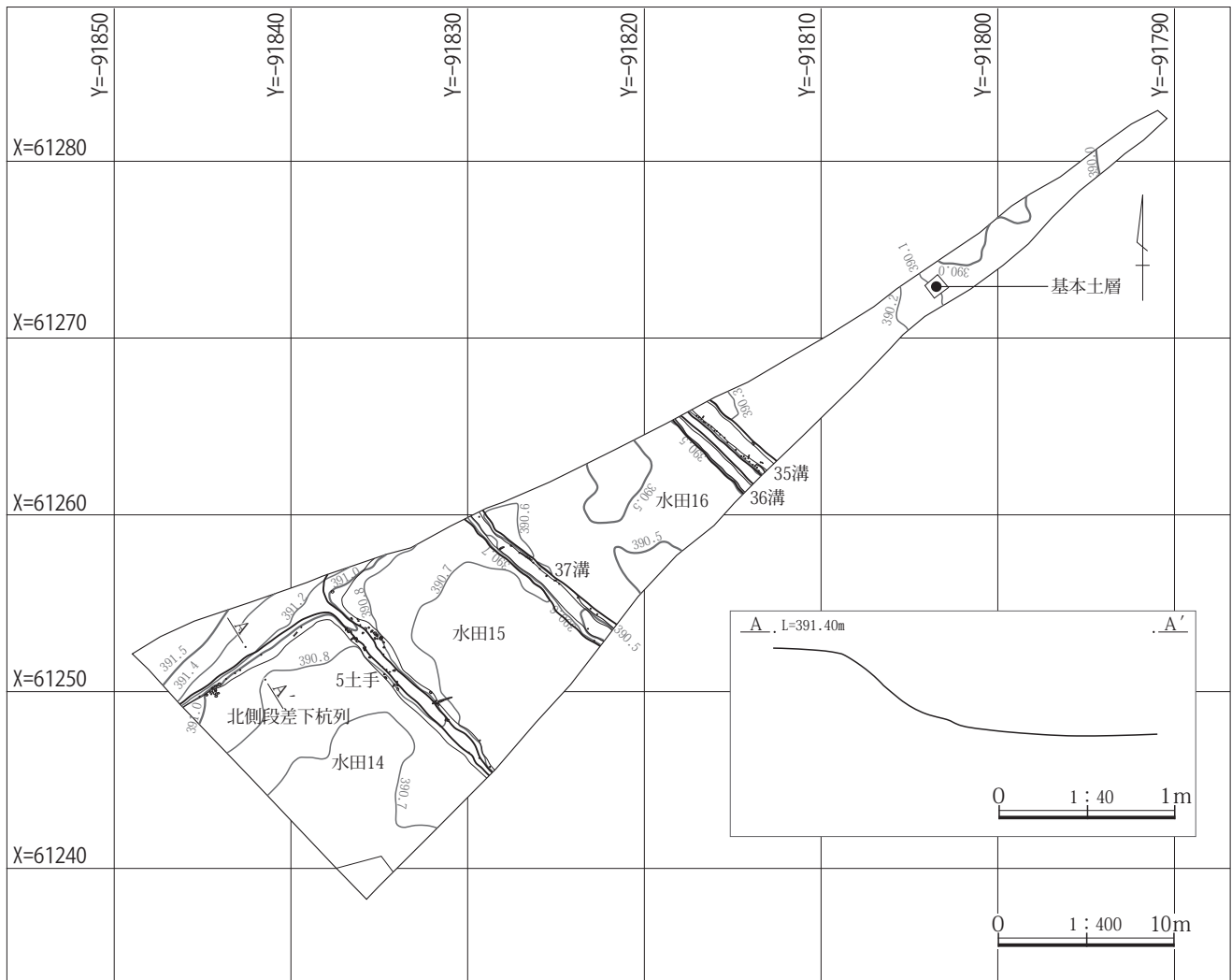
**重複：**並列する36号溝とは高い関係性が想起されよう。  
**遺物：**木杭が溝西側から出土し、その他には自然木が底面に見られた。

**所見：**覆土が砂質を呈することから、水利を目的とした用水路であろう。高低差は北から南に低くなることから、南の低地部である9-1区や15区の水田部分へとつながる導線と考えられる。時期は江戸時代18世紀後半以前で天明泥流下の遺構として位置付けられるが、泥流被覆時には埋没が完了しているため、若干先行する時期と判断したい。

#### 36号溝(第169図、PL.54)

**位置：**調査区東側で35号溝と並行して調査された。周辺は平坦地形が広がる地点である。

**経過：**35号溝と同様に天明泥流除去により褐色砂質土を覆土とする平面形を確認した。泥流被覆前に埋没が終わっていたのであろう。溝の延長は調査区北側と南側の区域外に延びる。



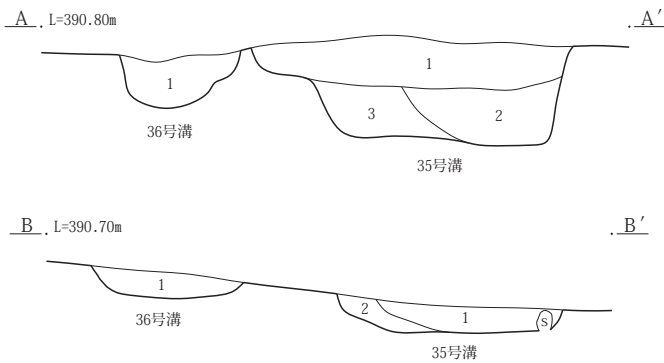
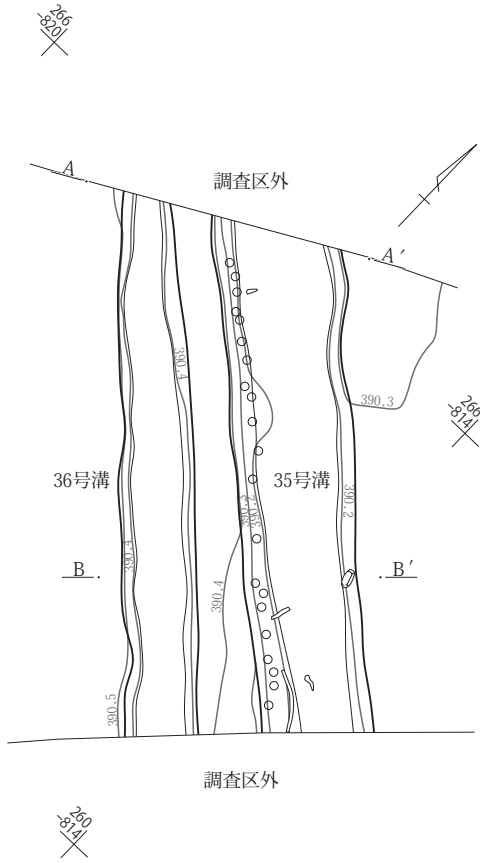
**規模：**35号溝と同様に北西に軸を向け、平行する走向を示す。現全長は約5.7m、幅は約50～80cm、深さは約20cmを測る。35号溝に比してやや浅いが底面は平坦で壁の立ち上がりも明瞭だった。底面高低差は北側が1cm程度高くなる。ほぼ水平の箇所もある。また35号溝とは本溝底面が約20cm高くなる。

**重複：**35号溝が東に並行する。

**所見：**35号溝と同様に砂質土を覆土とすることから、用水路に比した性格と思われるが、高低差が少なく、補助的な水路の可能性もある。また、35号溝との新旧も確定しておらず、ここでは同時期として扱っているが検討を要しよう。時期は江戸時代18世紀後半以前で天明泥流下の遺構として位置付けられるが、35号溝と同様に泥流被覆時には埋没が完了しているため、若干先行する時期と判断したい。

第168図 12区1面全体図、基本土層

35・36号溝



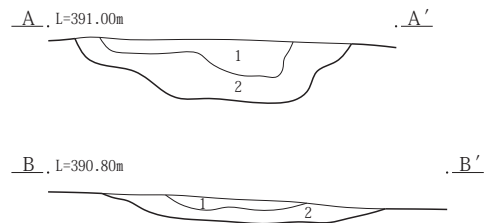
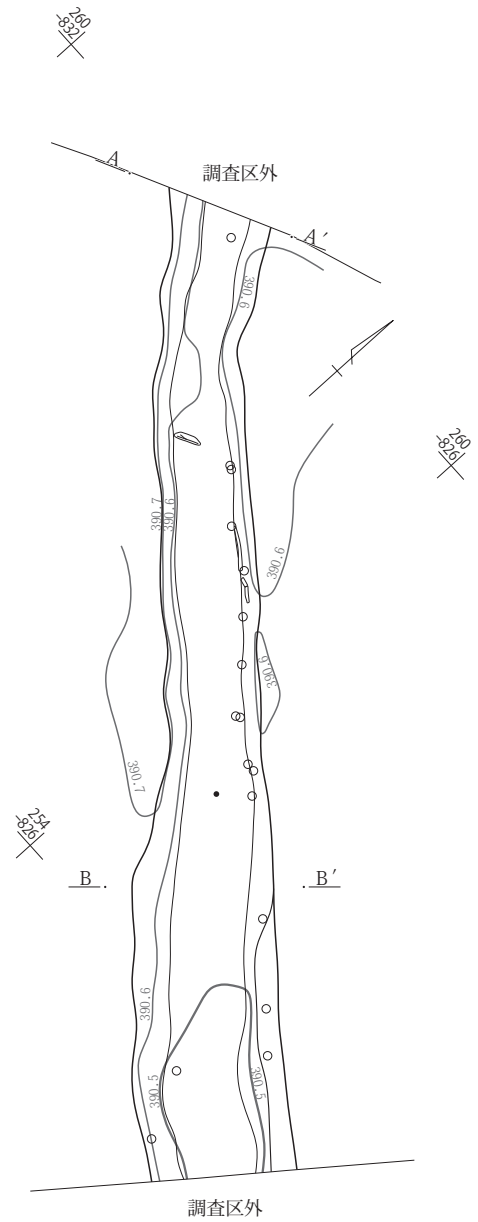
35号溝 A-A'・B-B'

- 1 灰白色土(10YR7/1)砂粒を多量に含む。
- 2 褐灰色土(10YR5/1)砂粒を主体。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR5/3)砂層主体。

36号溝 A-A'・B-B'

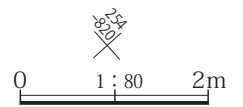
- 1 褐灰色土(10YR5/1)砂層主体。

37号溝



37号溝 A-A'・B-B'

- 1 褐灰色土(10YR5/1)砂層主体。小礫を少量含む。
- 2 褐灰色土(10YR6/1)砂層主体。小礫を少量含む。



第169図 35・36・37号溝

37号溝(第169図、PL.54)

**位置：**12区ほぼ中央で調査した。周辺は平坦地形が広がる地点である。

**経過：**天明泥流除去により褐色砂質土を基調とした平面形を確認した。泥流被覆前に溝は埋没していたものと推定できた。また、溝底面東側には杭列が設けられていた。

**規模：**調査区北壁と南壁調査区域外に延長しており、現全長は約12.8m、幅は約80~160cm、深さは約20cmを測る。浅い皿状の断面形で底面の高低差は北側が約15cm近く高い。走向軸はほぼ北西を向き、35・36号溝と同様の方位である。

**遺物：**前述の杭列の他溝底面より自然木が出土した。

**所見：**砂質の覆土と北から南に低くなる高低差から、南の低地部や15区水田に供する用水路を性格としたい。また、35・36号溝と同一方位を向く傾向から、おそらく溝によって画される12区内の水田状遺構の存在が示唆されよう。時期は江戸時代18世紀後半以前で天明泥流下の遺構として位置付けられるが、泥流被覆時には埋没が完了しているため、若干先行する時期と判断したい。

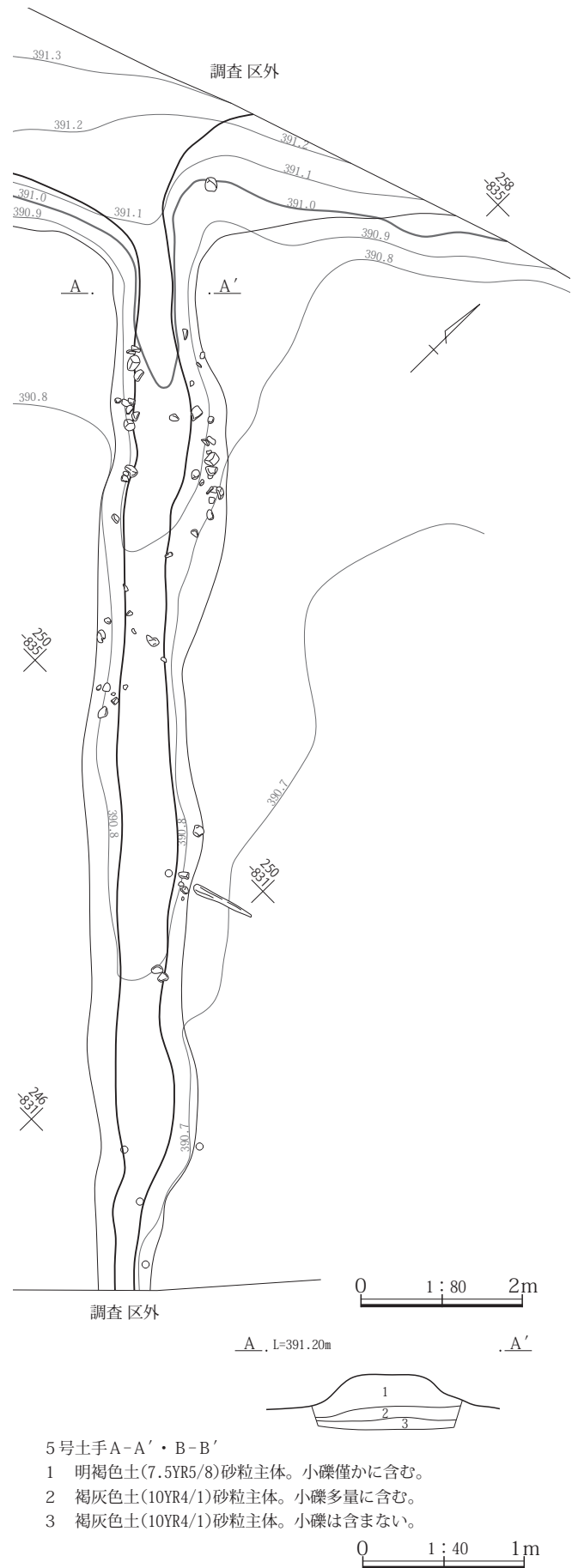
5号土手(第170図、PL.54)

**位置：**12区南西部で検出した。周辺はほぼ平坦面が広がるが、北西部に高くなる斜面地形が展開し北側段差となる。

**経過：**天明泥流下の遺構である。北側の段差と直交する走向高さ10cm前後の高まりが検出し、土手状遺構として位置付けた。明褐色土を盛土としており、芯材は無かった。自然礫が北側に散乱し、また、南側に杭が幾つか見られたが不規則な配置だったため、補強材としては位置付けていない。

**規模：**軸方位を北西に向け、全長14.2mを測り、南調査区区域外に至る。幅は約70~155cm、高さは約15~20cmである。南端で2cmの高さを測り極端に低くなる。軸方位は、北東側に位置する35~37号溝と並行した走向を示しており、関連性の高い施設として位置付けられよう。

**所見：**北側段差より南東へ派生する土手状遺構である。20cm程の盛土による高低差を持ち、ほぼ直線状の走向を示す。35~37号溝と並行することから、15区の水田遺構に関わる遺構であり、形状から畦畔として判断できる。時期は天明泥流下であるため江戸時代18世紀後半以前である。



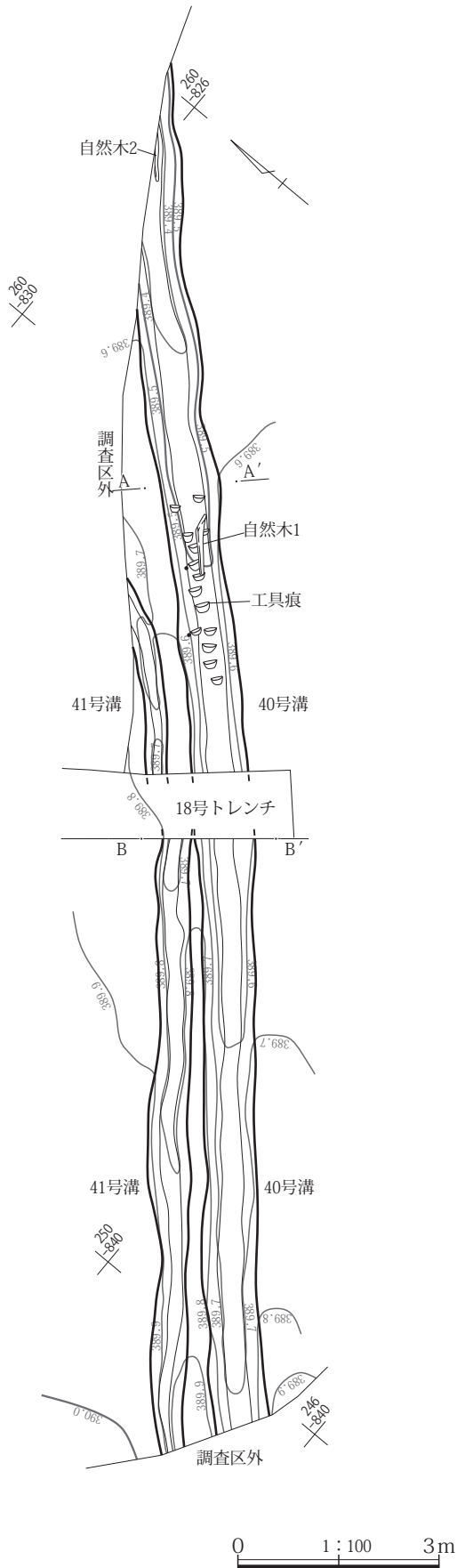
5号土手A-A'・B-B'

- 1 明褐色土(7.5YR5/8)砂粒主体。小礫僅かに含む。
- 2 褐灰色土(10YR4/1)砂粒主体。小礫多量に含む。
- 3 褐灰色土(10YR4/1)砂粒主体。小礫は含まない。

第170図 5号土手







40・41号溝(第172図、PL.55)

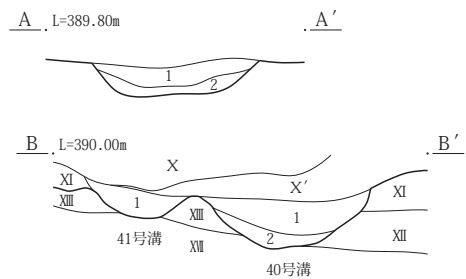
**位置:**調査区中央北側を南西から北東の走向で検出した。溝南東側はやや強く低くなる斜面地形となり、溝は地形変換点に沿って設けられていた。

**経過:**確認面はAs-Kkを多く含む灰黄褐色土である。埋土も両溝ともAs-Kkを主体とするが色調差が顕著で容易に識別できた。両溝とも底面からの湧水が著しく、若干検出に手間取った。また、40号溝底面の一部に三日月状の工具痕を検出できた。

**規模:**40号溝はほぼ直線状に調査区南西壁から北東壁に走向する。41号溝も40号溝に並行するが、北東側で若干湾曲する平面形を示す。現全長は40号溝が約19m、41号溝が約12mである。幅は40号溝がやや広く約90cm、41号溝が約60cmである。深さは両溝とも約20~25cmを測り、皿状の断面形を示す。

**遺物:**40号溝に自然木が出土している。

**所見:**両溝とも砂質土を埋土としているため、用水路としての機能が推定できる。ただ、周辺のAs-Kk混土層も砂質のため用水路としての性格は確定性に乏しい。走向が南西から北東方向で地形変換点に設けられる特徴から、南西方向の延長線上に11-1区の63号溝や11区の44・55号溝などが2面で同一方向の走向で検出されている。これらは、用水路としての機能より区画溝としての性格を想起しており、12区2面の40・41号溝も区画が意識された遺構と考えておきたい。



40号溝 A-A'・B-B'

X 暗褐色土(10YR3/4)As-Kk混土。

X' 暗褐色土(10YR3/3)As-Kk混土。

XI 灰黄褐色土(10YR5/2)As-Kk混土。

XII 明黄褐色土(10YR6/8)As-Kk一次堆積層。

XIII 灰白色土(10YR8/1)灰層主体。

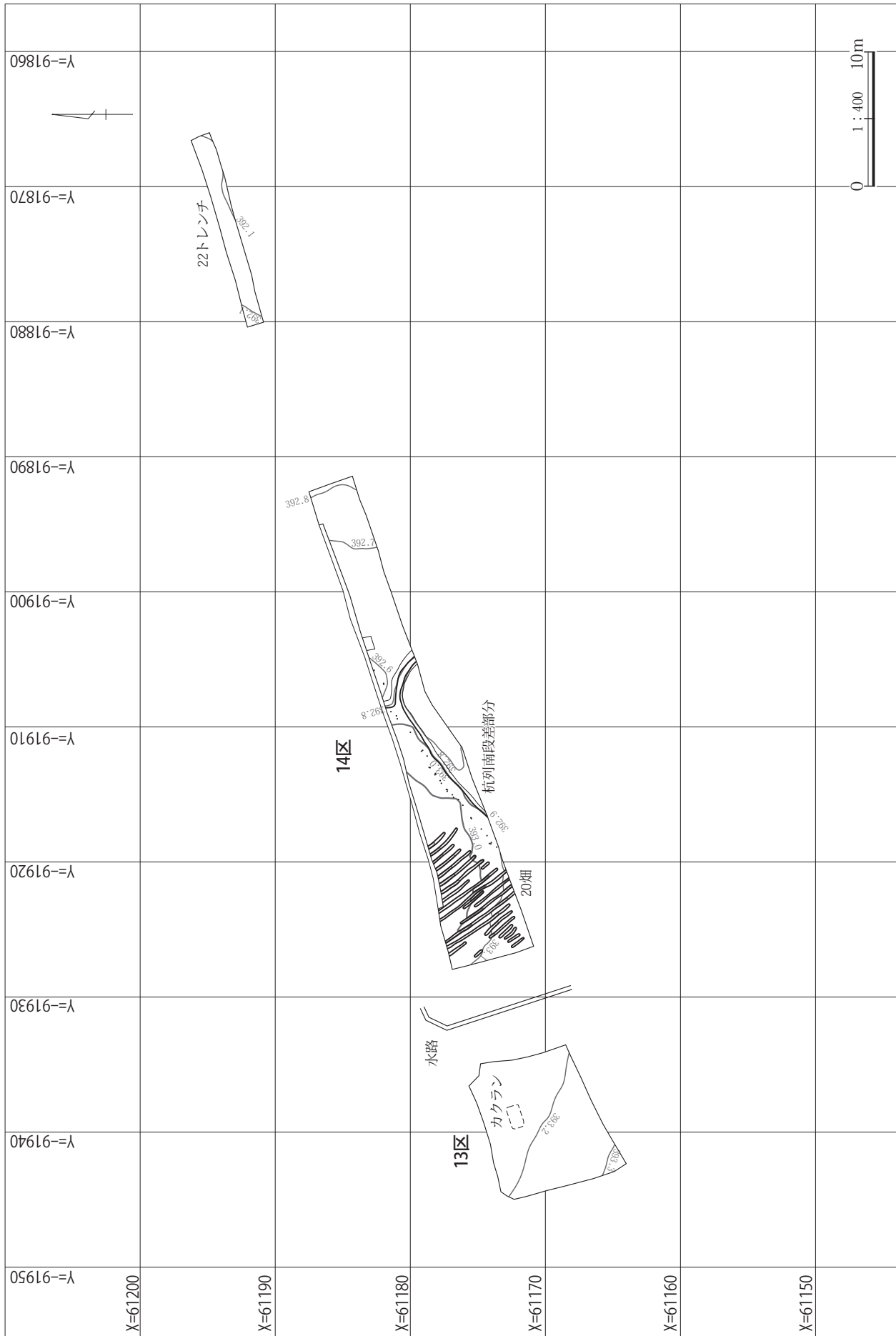
1 褐灰色土(10YR4/1)As-Kk混土主体。

2 褐灰色土(10YR6/1)砂粒を多量に、褐灰色粘質土塊を少量含む。

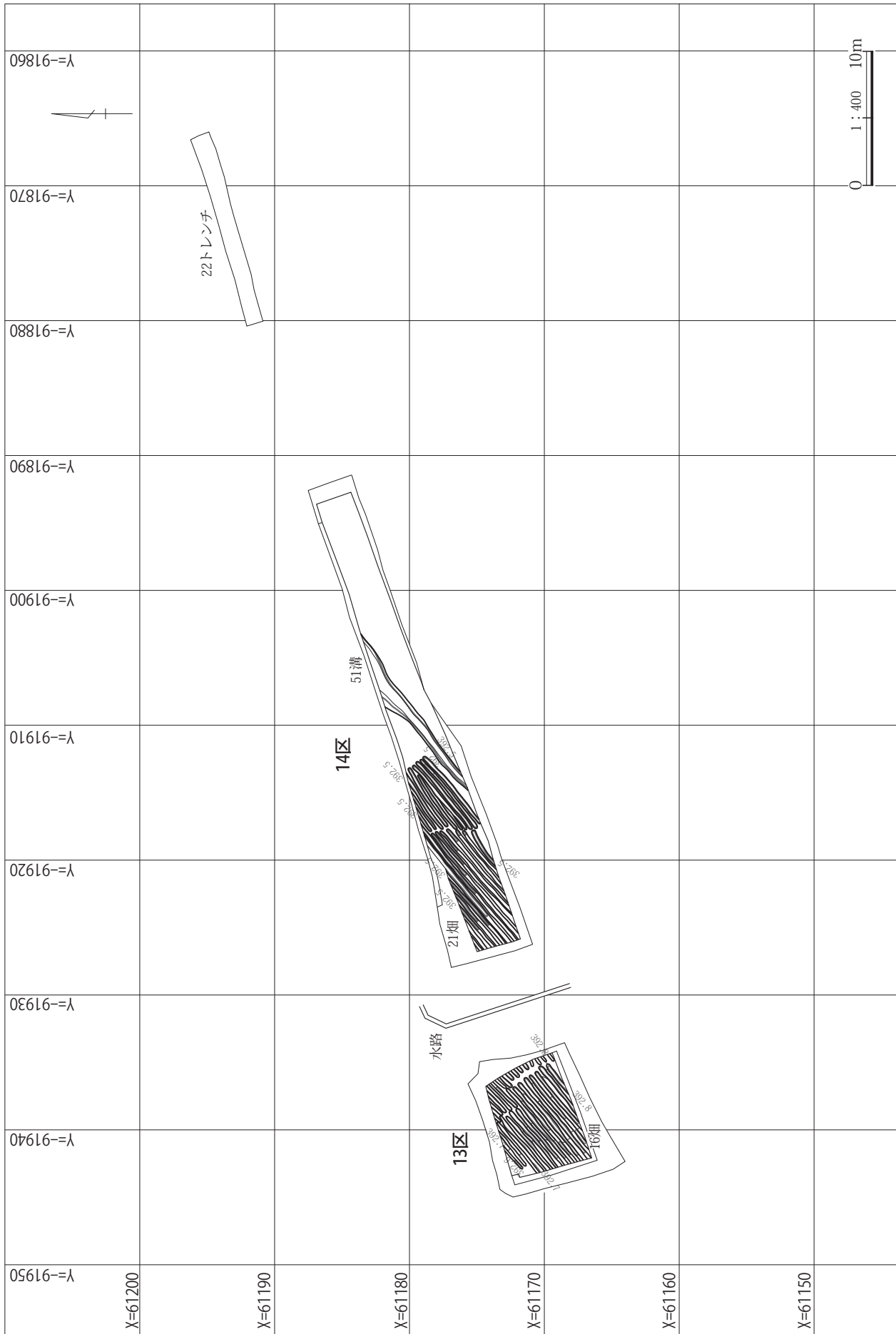
41号溝 B-B'

1 褐灰色土(10YR6/1)砂粒を多量に、褐灰色粘質土塊を少量含む。

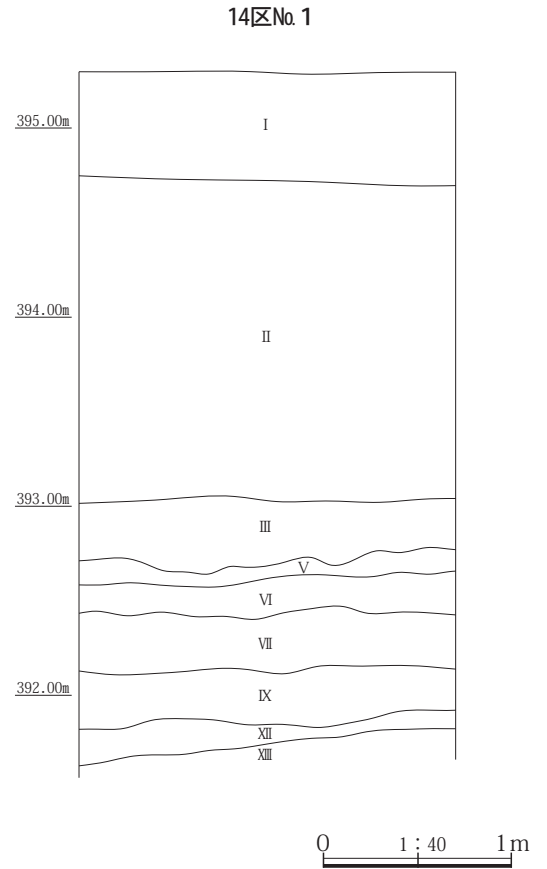
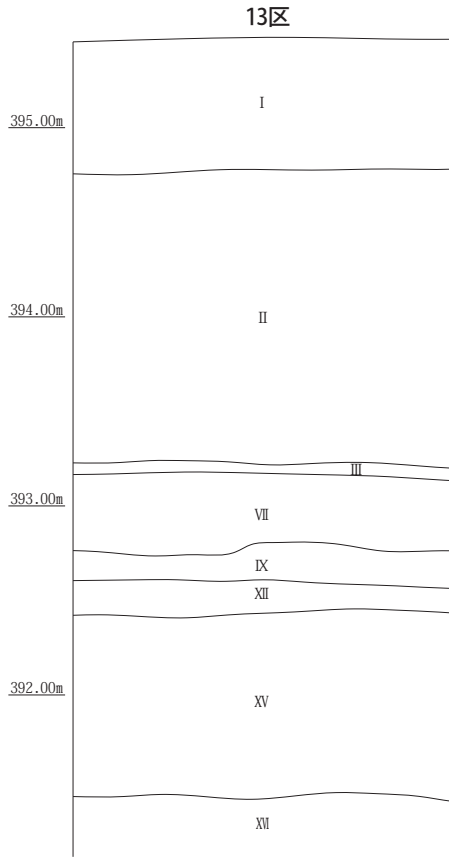
第172図 40・41号溝



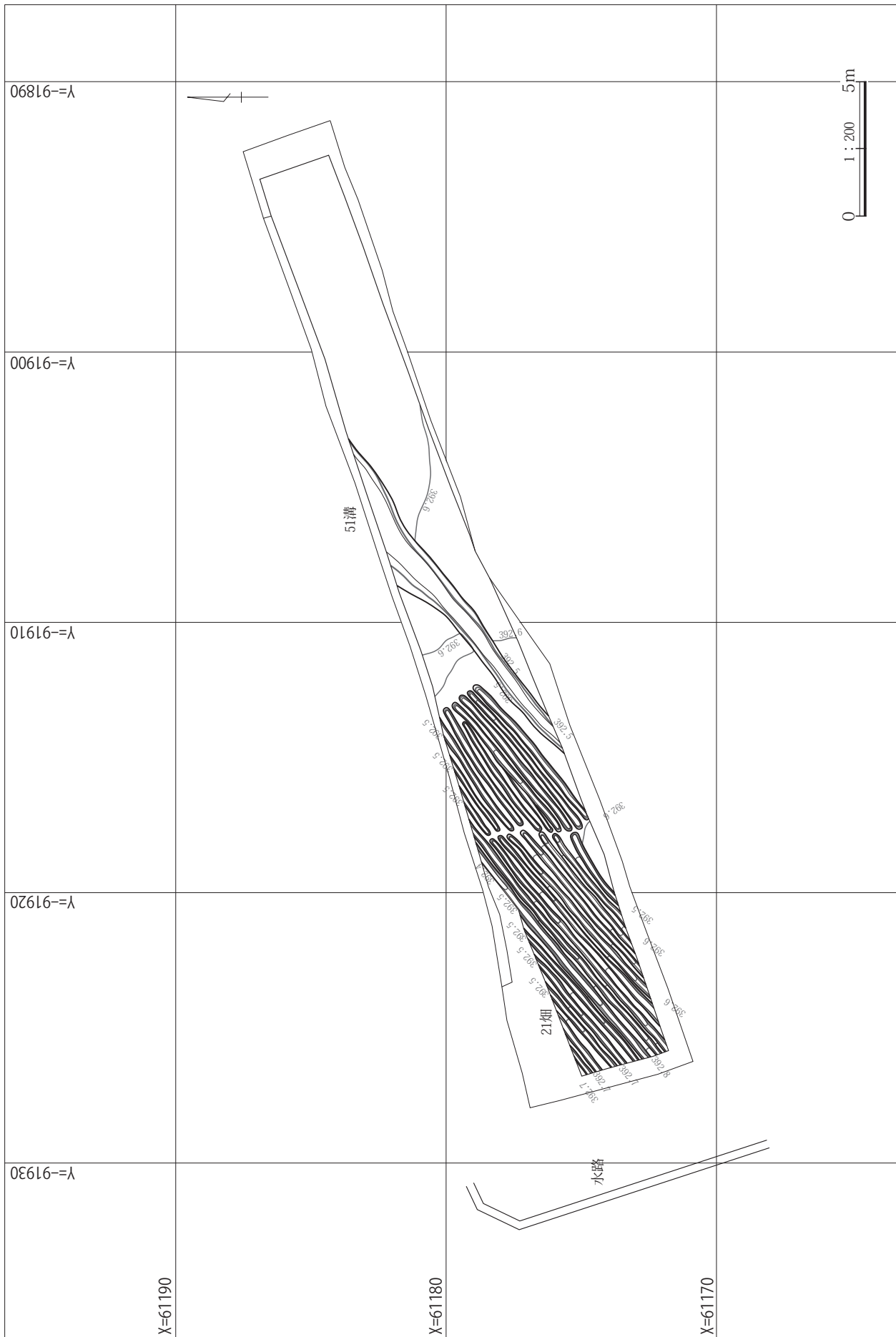
第173図 13区、14区1面全体図



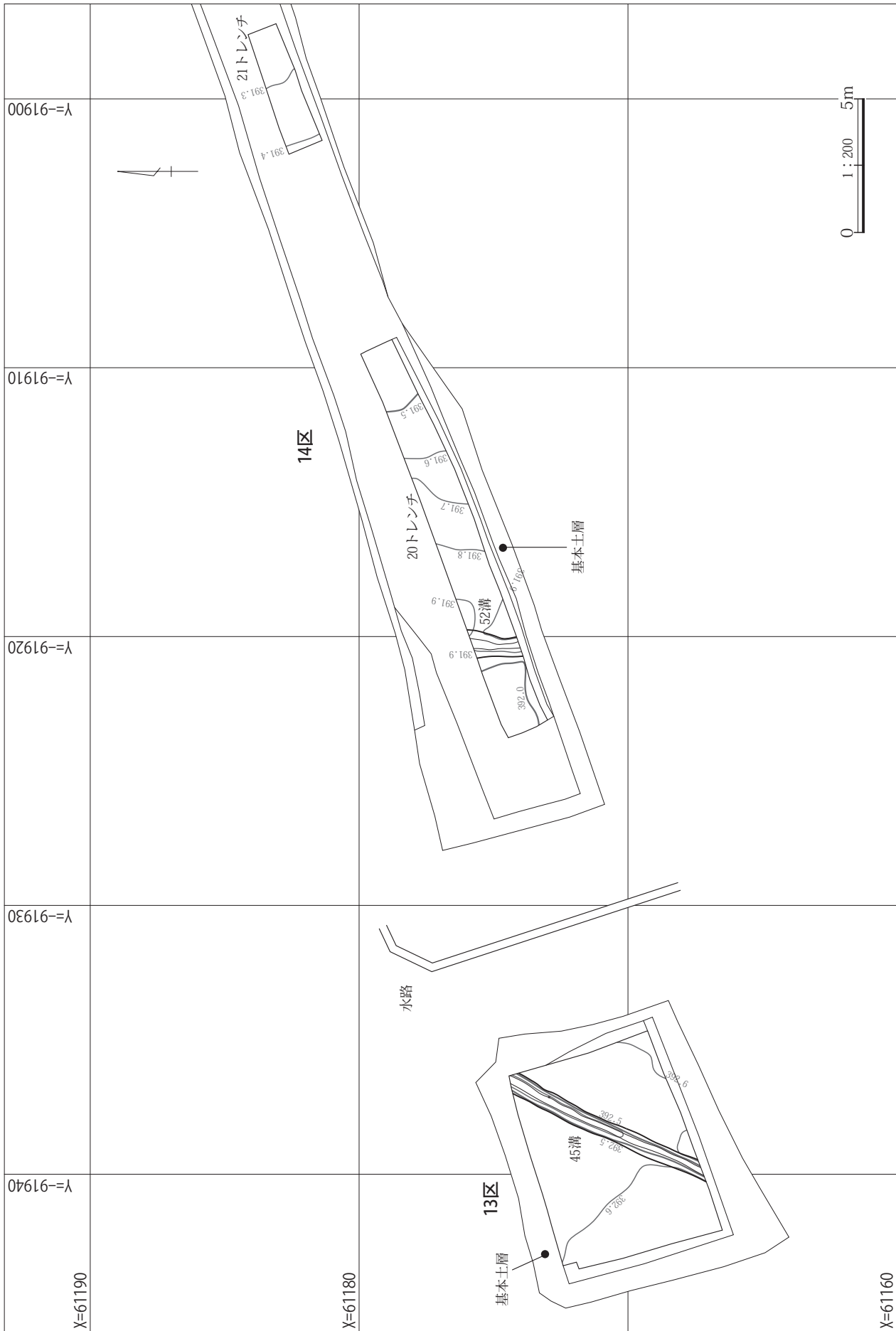
第174図 13区、14区1-1面全体図(1)



第175図 13区、14区1-1面全体図(2)、基本土層



第176図 13区、14区1-1面全体図(3)



第177図 13区、14区2面全体図

## 第5節 13区・14区の遺構と遺物

13区は11区2面と同時に調査された。着手時より天明泥流下の調査面を検出したが、遺構が検出されず、写真記録と測量記録を取って、1-1面の調査に至り、16号畑を調査した。1-1面の遺構は畑のみで終了後速やかに2面調査を行い、45号溝を検出した。第2面調査終了後に第3面と第4面の調査面に対しトレンチで調査を施したが、遺構は見られず遺構無しと判断し土層図を記録した。なお、13区西には距離を置いて令和3年度に調査した10区がある。ここでは天明泥流下畑やAs-Kkを埋土とする畑、掘立柱建物などが調査されている。その際報告では天明泥流下の調査面を1-1面としており、本報告書の1-1面とは調査面の差がある。混同しないようお願いしたい。

14区も小範囲の調査区で令和4年9月に調査着手された。11区や11-1区の南側の低地部にあたり、周辺は水田地帯が広がる。天明泥流下の第1面の調査を行い、西

側に20号畑、東に木杭を伴う段差を検出した。次に13区と同様に第1-1面に掘り下げ、西側に21号畑、中央に51号溝を調査した。最後に第2面の調査で西側に52号溝を見た。

### (1)13区・14区第1面

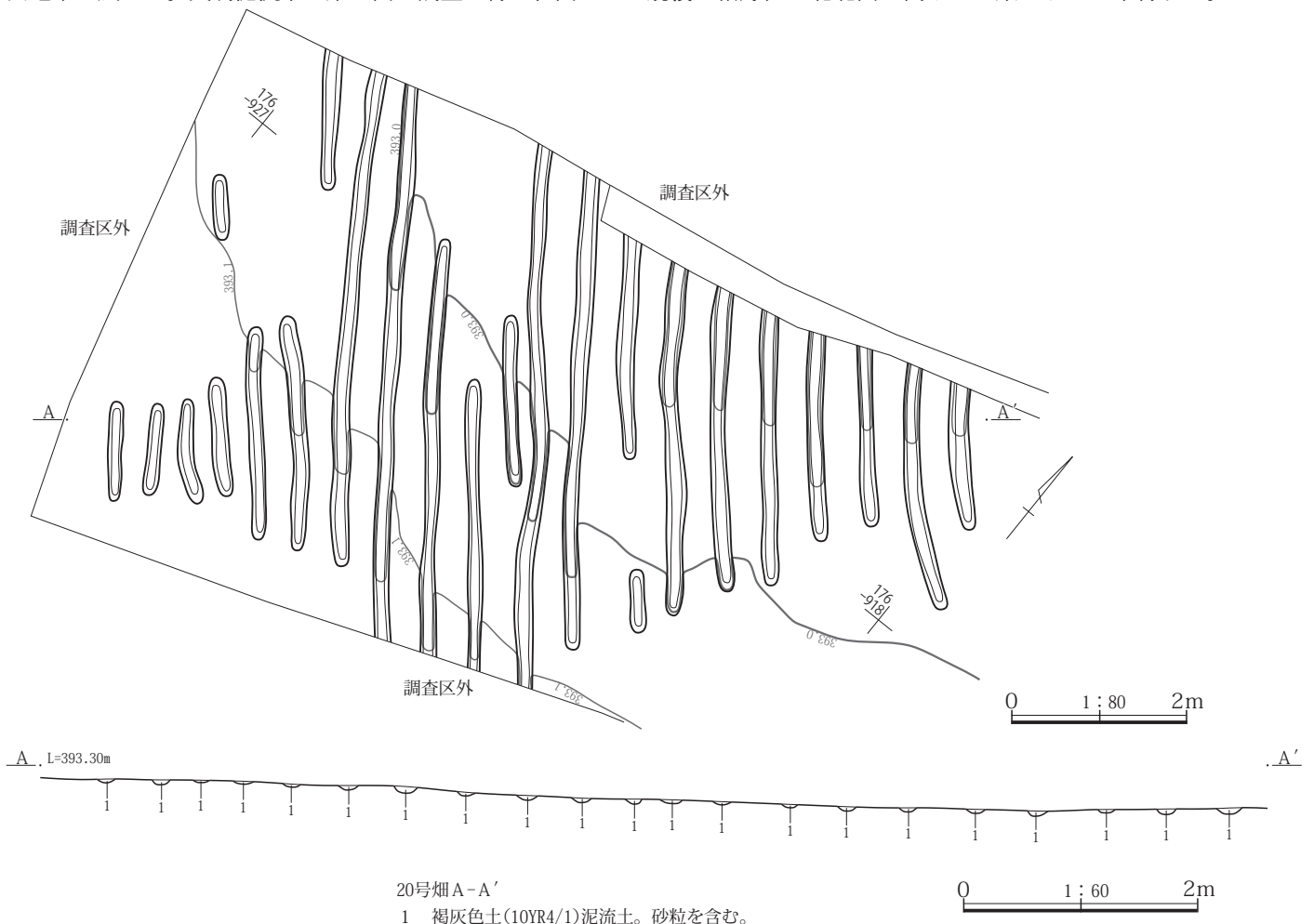
天明泥流下面である。13区では遺構が見られなかったが、東側の14区では20号畑と段差を見た。13区とは約8mの距離があり、この間に畑遺構の途切れが予想される。

#### 20号畑(第178図、PL.56)

**位置：**14区西側で調査された。周辺はほぼ平坦面が広がる箇所に位置する。

**経過：**天明泥流下で検出できた。サク覆土は褐灰色泥流土である。地山は、にぶい黄褐色土で泥流土との識別は比較的容易だったが、サクは浅くそのため全容把握に若干手間取った。

**規模：**軸方位を北北西に向けた21条のサクが平行する。



第178図 20号畑

殆どのサクが調査区域外に延びるため詳細は不明だが、現全長6m以上のサクが主で、サク幅は20cm前後、深さは10cmに満たない浅いサクである。畝間幅は約16~40cmでやや広い数値だが、これはサクの残存度によるものと考えられる。

**所見：**西側の13区では畑の延長が検出されておらず、西限は13区との調査区域外に求められよう。東限は北東端のサクが該当する。おそらく小規模は範囲に営まれた畑と考えられる。また、西北西約20mの距離を置いて11区14号畑が天明泥流下で調査されており、標高高低差も無く、軸方位も同様の様相を示す。同一台地の畑として位置付けておきたい。時期は天明泥流下であるため江戸時代18世紀後半以前である。

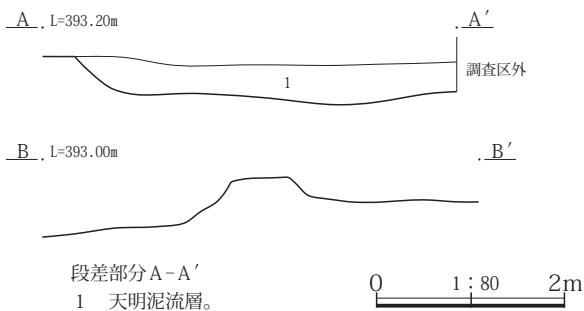
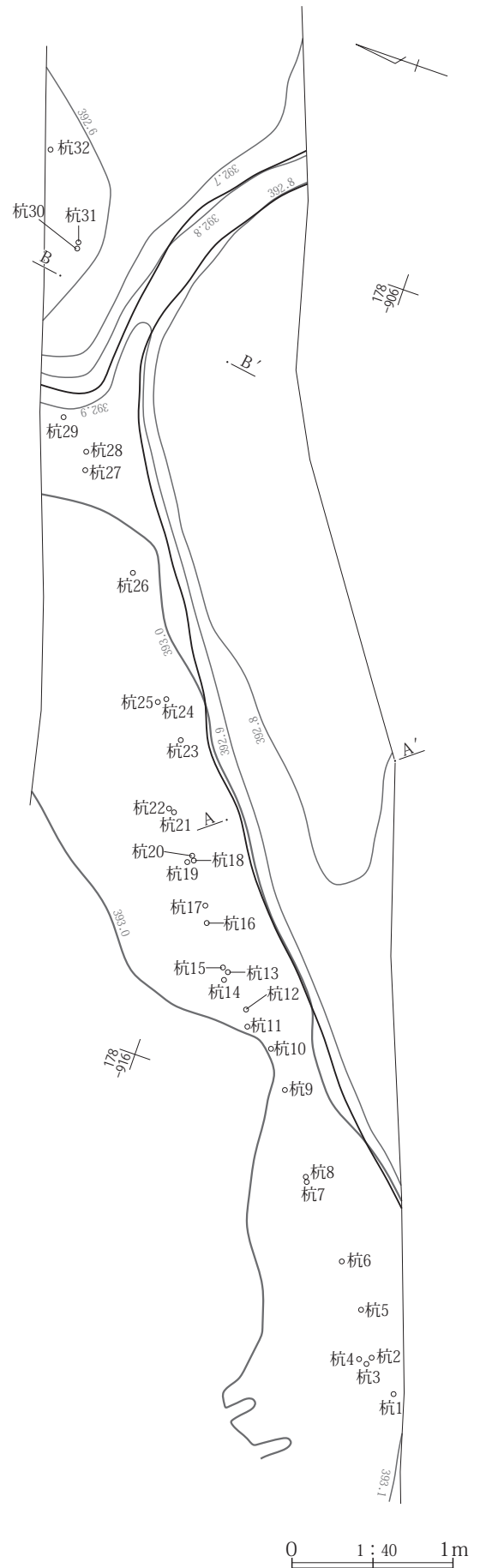
**木杭を伴う段差(第179図、PL.56)**

**位置：**14区中央で検出された。周辺はほぼ平坦地形が保たれるが、段差南及び東側へ約15~20cm低くなる。

**経過：**天明泥流下で検出した。段差及び土手状の高まりは褐灰色土でシルト質の洪水層である。段差の北側には木杭が集中して確認されたが、規則的な配列を示しておらず、乱雑な打設だった。

**規模：**段差は調査区中央南壁より北東壁に至る約28mにわたって、走向方位を北東に向ける。また、北東側で土手状の高まりが南東方向へ弧状に派生する。段差は北から南に約20cmの高低差、土手状の高まりは西から東に約15cmを測る。

**所見：**水田との境界線であろう。おそらく南側是水田に供された平坦面と思われる。また、土手状の高まりの東側から北東側にかけては、11区及び11-1区の延長には1号建物などがあることから、水田ではないと判断した。時期は天明泥流下であるため江戸時代18世紀後半以前である。



第179図 木杭を伴う段差



(2) 13区・14区第1-1面

第1-1面は、天明泥流下のⅢ層である灰白色洪水層直下の調査面である。前述のように、天明泥流被覆前に吾妻川の氾濫があり、本遺跡では11区で畑や溝などが埋没している。天明泥流との時間差は僅かと考えられている。11区で調査された第1-1面と同一文化層として位置付けられよう。13区のⅢ層の色調は灰白色だが14区は褐灰色を呈していた。13区で16号畑、14区で51号溝と21号畑が検出された。

16号畑(第180図、PL.56)

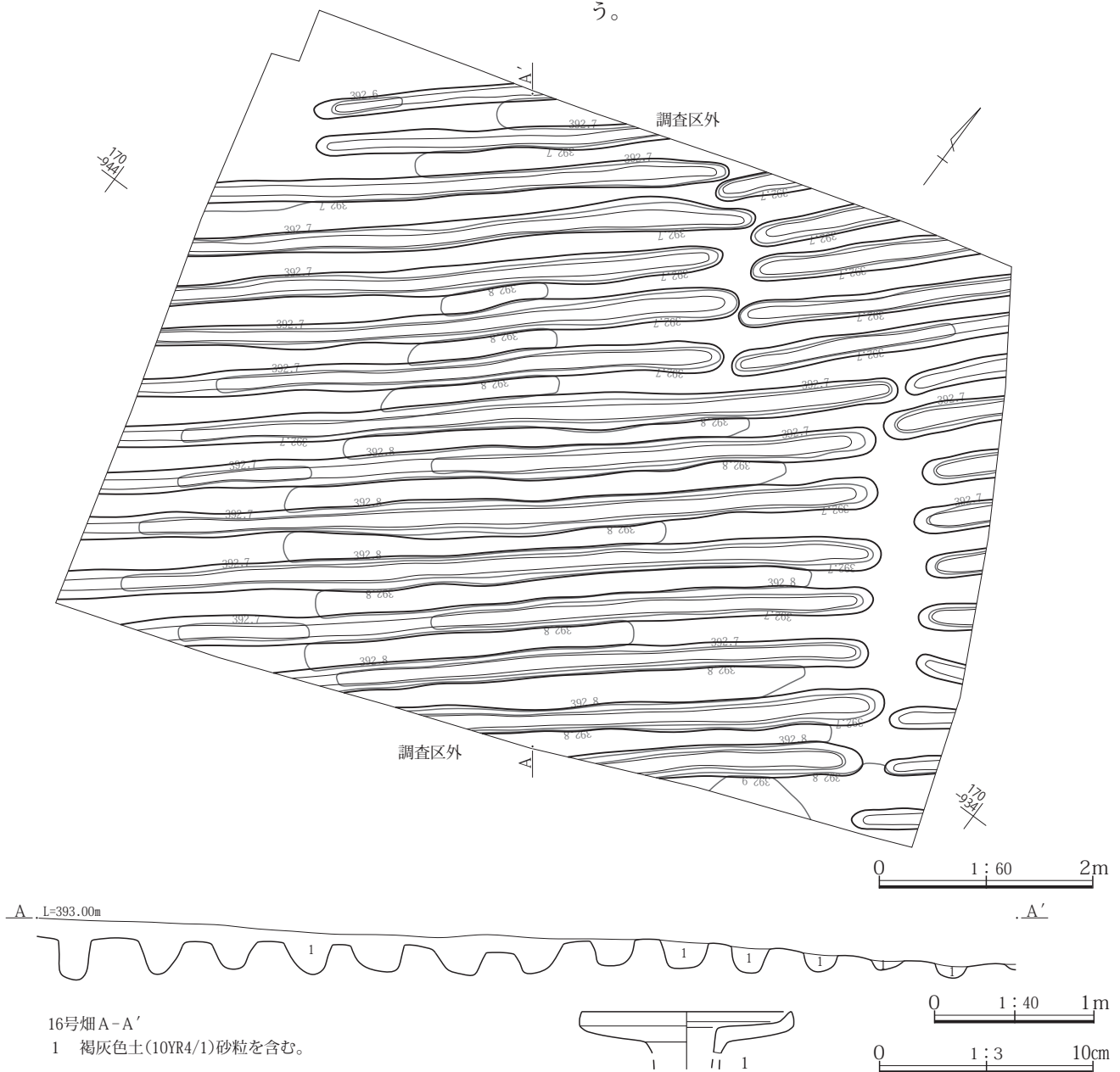
位置：13区全面で検出した。調査区内の地形は東側と北

側がやや低くなる傾向があるが、ほぼ平坦面が広がる。

**経過：**Ⅲ層上面で15条を検出した。畝は洪水層を掘り込む。畝上位に同一層位の耕作土が乗るが明瞭に分層はできなかった。サクには砂粒を含む褐灰色土が堆積していた。サク底面より湧水し、検出にはやや手間取った。

**規模：**2区画が看取されたが、調査区外にサクが延びるため全容は把握できない。最長で約7.6を測り、サク幅も30cm前後、サクの深さは20cm前後を測る。畝間幅は約11~30cmである。畝の高まりは顕著ではなかった。サクの方向は北東を向く。

**遺物：**サク埋土より、陶器花瓶口縁部破片が出土しているが、畑に伴う遺物とは判断できなかった。流入であろう。



第180図 16号畑と出土遺物

**所見：**小範囲の検出に止まったが、調査区全面の畑が確認できた。周辺では、14区1-1面で同一方位の畑が検出されており21号畑とした。同一の畑と考えられる。時期は天明泥流以前の時間をあてるが、僅かな時間差であり、江戸時代18世紀後半以前の範囲に収めたい。

**51号溝(第181図、PL.57)**

**位置：**14区中央で検出された。周辺はほぼ平坦地形が広がる。

**経過：**洪水層下の褐灰色土で確認した。覆土と同様な色調だが、色調や質感から容易に識別できた。調査区北壁の土層観察では、上層の凹みに天明泥流が堆積しており、洪水堆積後も凹地となっていたようだ。底面の検出は湧水が著しく、やや手間取った。底面は砂質土の堆積が見られた。

**規模：**走向方位はほぼ北東を向き、現全長約11.4m、幅約60~160cmを測る。深さは浅く、10cm前後である。幅広の箇所は調査区北壁際にあたり、凹地となっていた箇所である。底面の高低差は、北壁が低い傾向が見られるが、ほぼ水平面である。

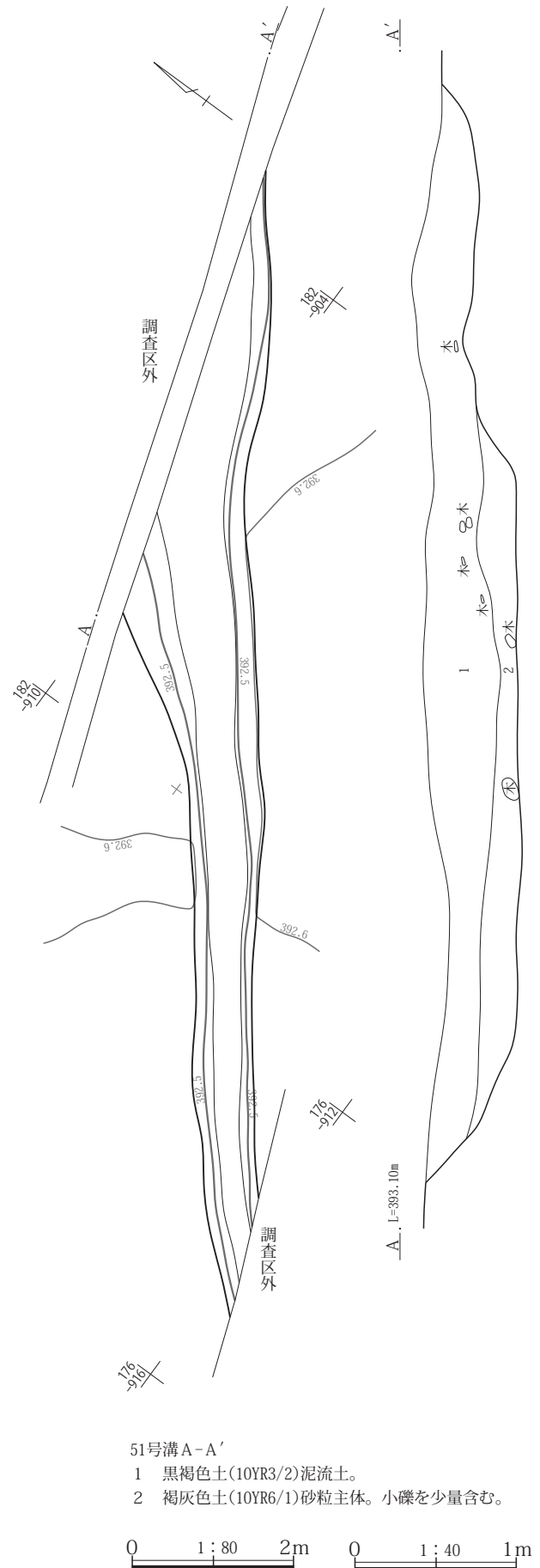
**所見：**位置及び走向が天明泥流下で検出した木杭を伴う段差と一致する。おそらく本溝の埋没が完了しない段階で、段差が設けられたと思われる。溝の性格は底面に砂質土を見ることから水利に供されたと考えたいが、底面の高低差も少なく、本溝の北西に位置する21号畑などを考慮すると、低台地部と低地部との境界溝の可能性もある。時期は検出層位と溝覆土から中世以降~近世以前としたい。

**21号畑(第182図、PL.57)**

**位置：**14区東半で51号溝と並行する走向で検出された。周辺は、ほぼ平坦面が広がる。

**経過：**洪水層下の褐灰色土を確認面とした。覆土は浅黄橙色土を呈し色調から平面形や壁は識別できた。湧水が著しく、掘削や記録にはやや手間取った。

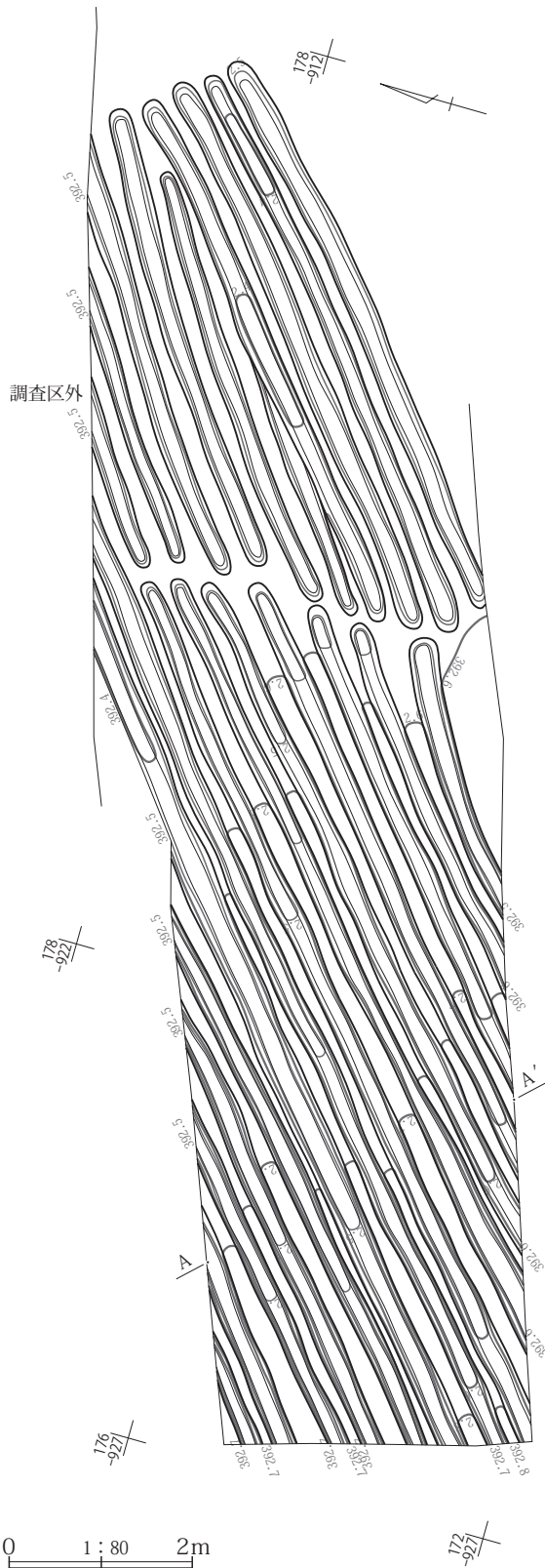
**規模：**軸方位を東北東に向けた14条のサクが平行する。殆どのサクが調査区域外に延びるため詳細な規模は不明だが、現全長約6~10mのサクが主で、サク幅は30cm前後、深さは20cmを超える深いサクである。畝間幅は約10~20cmを測る。東西に2単位が看取されるが東側が6m



51号溝 A-A'  
 1 黒褐色土(10YR3/2)泥流土。  
 2 褐灰色土(10YR6/1)砂粒主体。小礫を少量含む。

0 1:80 2m 0 1:40 1m

第181図 51号溝



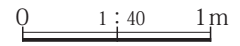
A, L=392.90m

A'



21号畑 A-A'

1 浅黄橙色土(10YR8/4)砂層主体。黒褐色土塊、砂粒を少量含む。



第182図 21号畑

前後、西側が10mを超える長さで、単位により規模の差が見られた。

**所見**：13区で調査した16号畑と走向、規模など同一の畑である。洪水前に広範囲に畑が営まれていたのであろう。サクは深くあるいは復旧溝の可能性も考えたが、天明泥流前洪水層下の遺構であり、畑遺構とした解釈が妥当である。時期は層位とサク覆土から中世以降～近世以前としたい。

(3)13区・14区第2面

13区ではAs-Kk混土層を埋土とする45号溝を確認した。14区では調査深度が深くなり湧水も多く、法面を設けた調査のため狭小な調査面積となった。As-Kk混土層を埋土とする52号溝のみの調査である。なお、13区ではAs-Kk下にAs-Bが確認されたが地点的な堆積であり下層から遺構は見られなかった。

45号溝(第183図、PL.56)

**位置**：調査区北東隅から南西部にかけて調査された溝である。周辺はほぼ平坦面が広がる。

**経過**：XI層の灰黄褐色土で平面形を確認した。地山はAs-Kk混土層ながら純層に近い様相を示す。埋土は褐灰色を呈するため、湧水が見られたものの検出は容易だった。

**規模**：溝両端とも調査区域外に延長するため、全容は把握できない。現全長は約8m、幅は約60～80cm、深さは約20cmを測る。断面形は鍋底形で掘り込みは明瞭だった。走向軸は北北西を向く。底面の高低差は北東に約15cm低くなる傾斜を示す。周辺地形に沿う傾斜である。

**所見**：11区や11-1区で調査された東西の地形変換点に設けられた溝とは異なる。地形には沿うが、ほぼ平坦地形に設けられている。土層では水利痕跡も見られないため用水路等の性格は想定できないが、区画溝としても確定性に乏しい。用途・機能とも不明の溝である。時期は検出層位と溝埋土から中世以降～近世以前としたい。

52号溝(第183図、PL.57)

**位置:**14区東側で検出された。周辺は平坦地が広がるが、東側へ緩やかに低くなる地形が見られた。

**経過:**確認面は暗褐色土で As-Kk 混土層ながら純層に近く、本溝埋土の黒褐色土との識別は容易だった。湧水も著しく、底面の検出等がやや手間取った。

**規模:**調査範囲が狭小であり、全容は把握できない。現全長は約1.7m、幅80cm前後、深さ約20cmを測り、浅い皿状の断面形を示す。底面の高低差は南側へ緩やかに低くなるが、調査範囲のため確定できない。走向方位もほぼ南北を向くが不明である。

**所見:**埋土中に砂質土を見ないことから、水利を目的としないと思われるが、境界溝としても周辺遺構も無く、

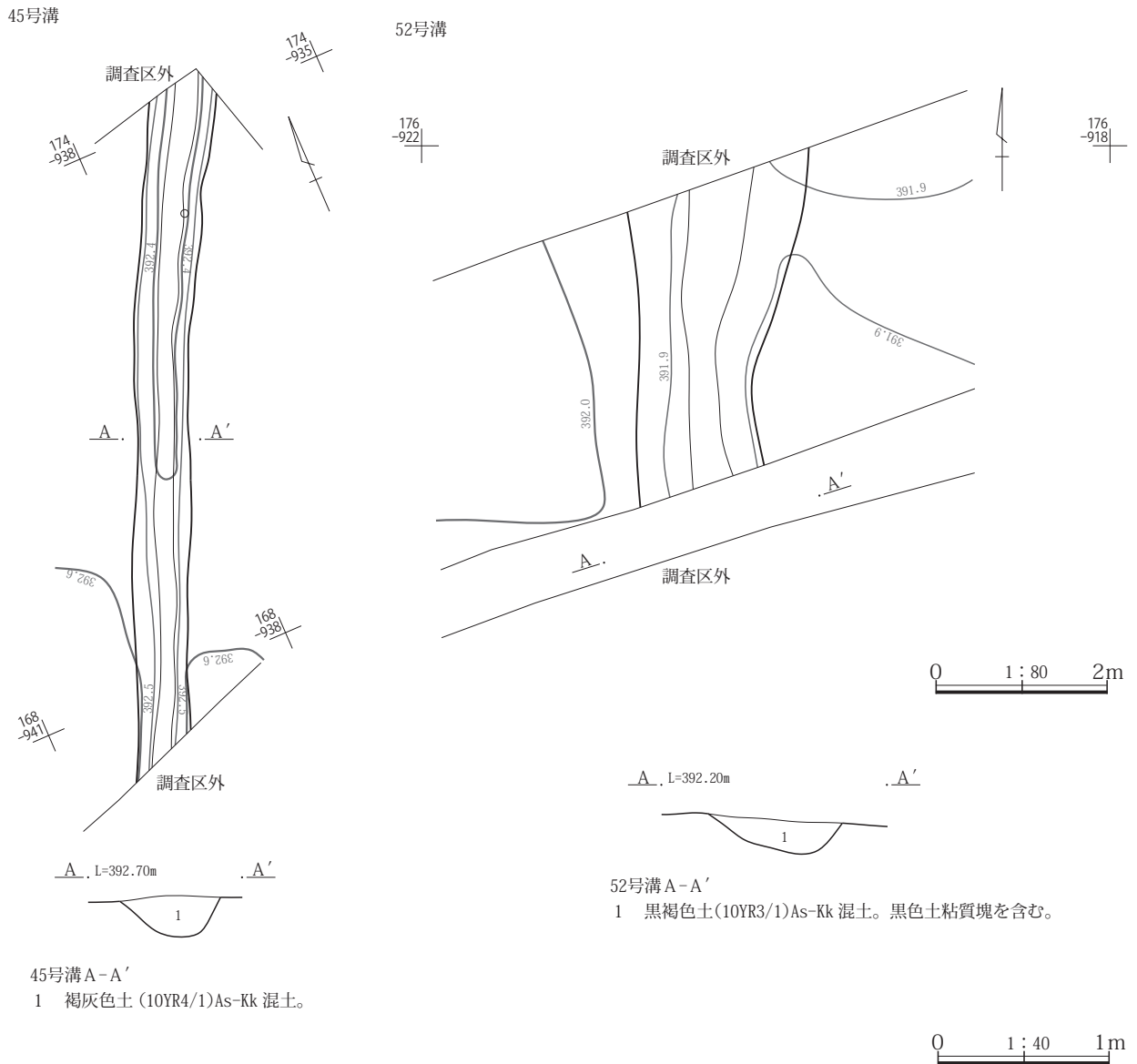
全体像が把握できないため、判断できない。時期は検出層位と溝埋土から中世以降～近世以前であろう。

第6節 遺構外出土遺物

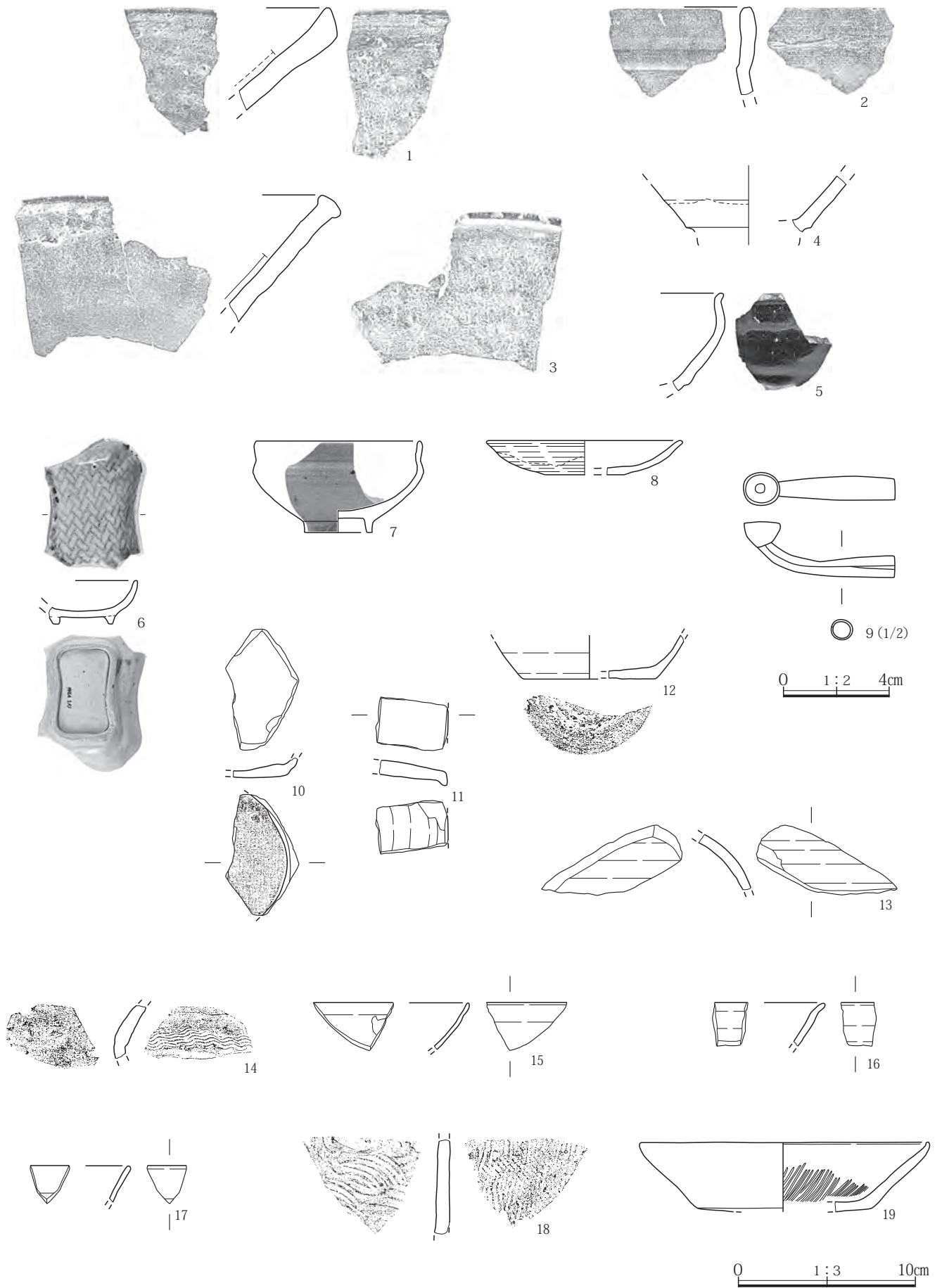
(第183～190図、PL.75～79)

令和4年度の厚田中村遺跡では、天明泥流下の江戸時代の遺構を対象とした調査面、As-Kk下の中世に比定される掘立柱建物群を主とした調査面、ローム漸移層の弥生時代～古墳時代の集落を検出した調査面、漸移層下位の縄文時代集落を調査した面を扱った。

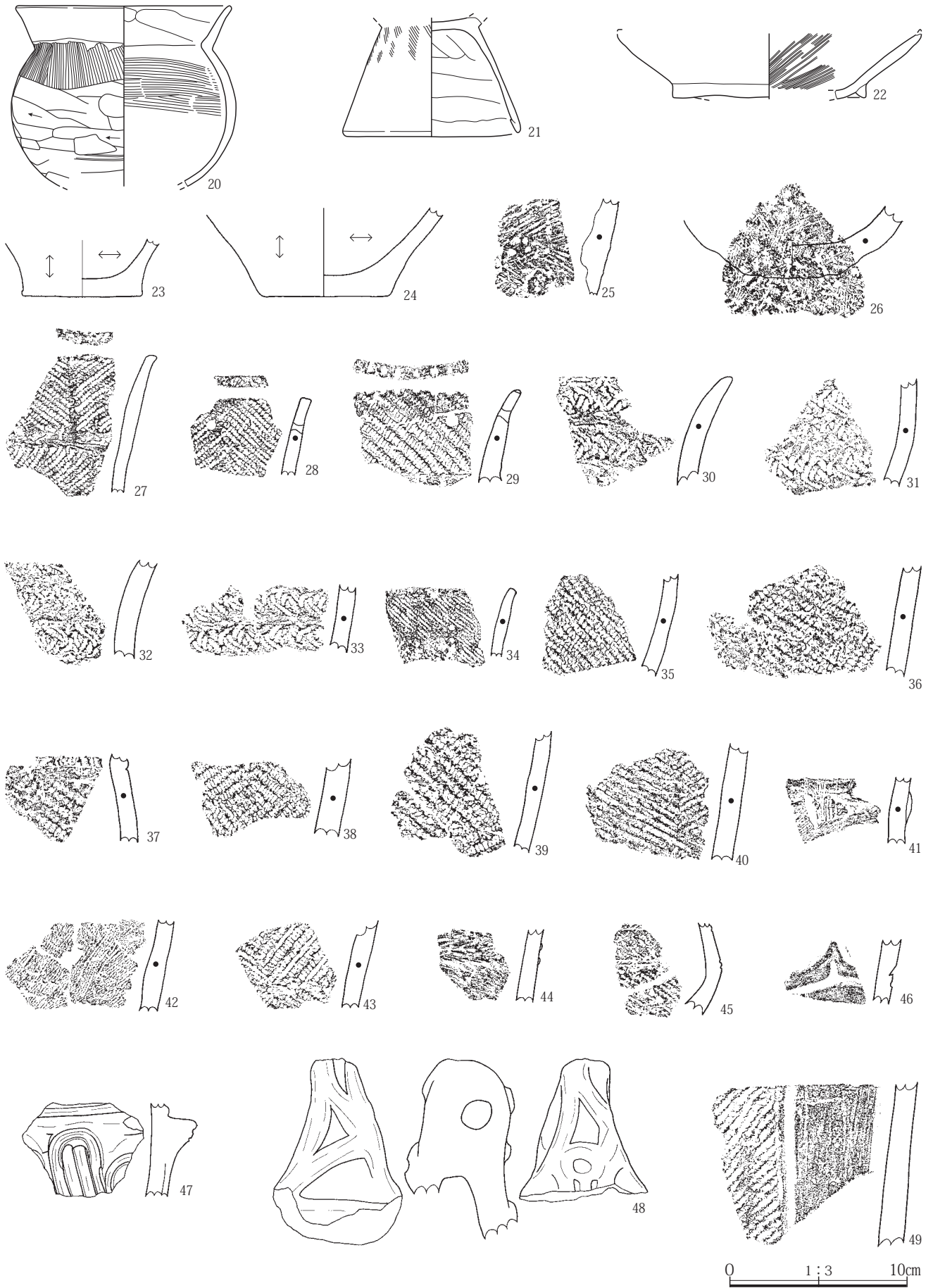
ここでは、各調査面で遺構確認時に出土した遺物や各遺構時期に帰属しない遺物を掲載する。



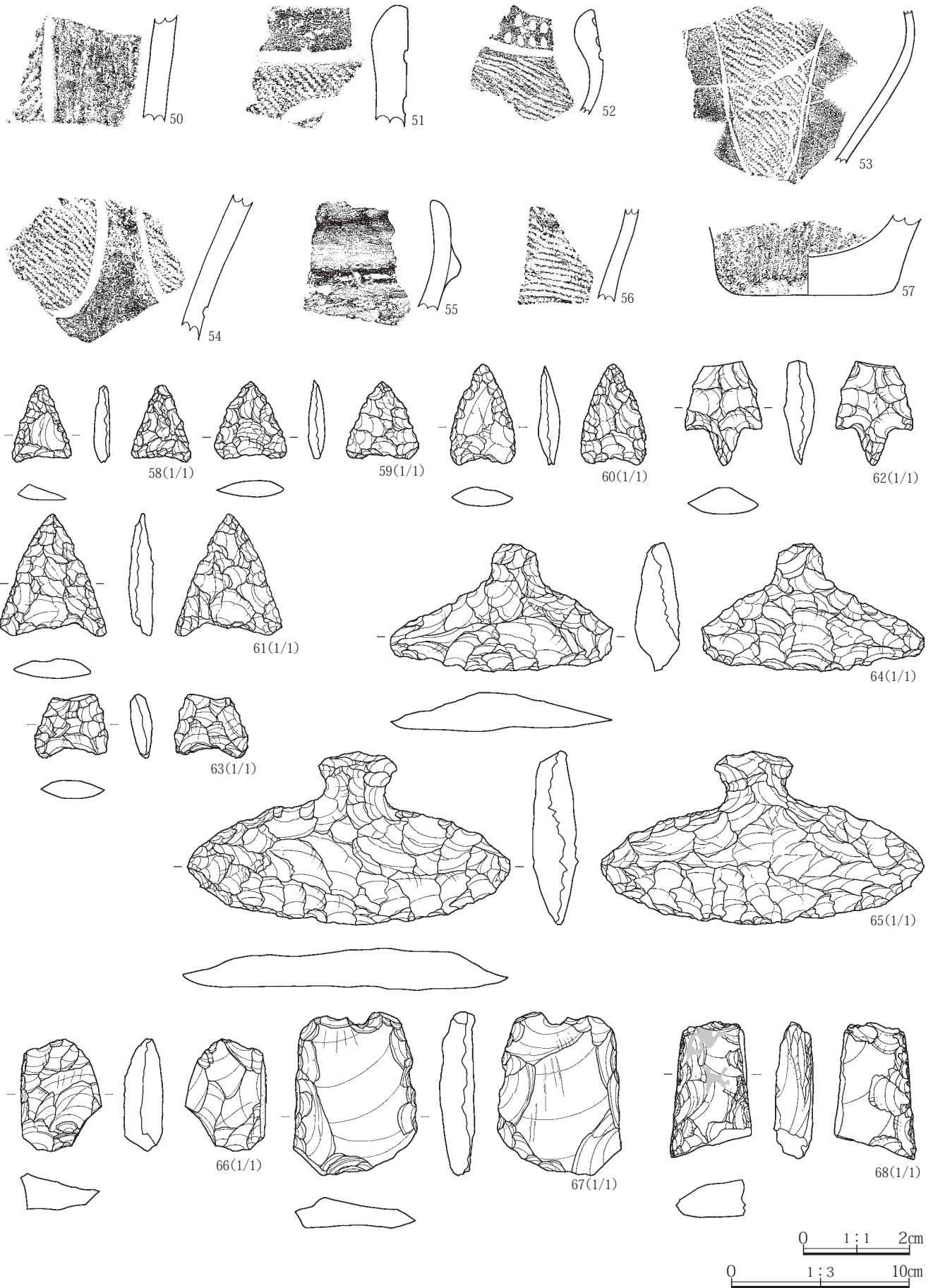
第183図 45・52号溝



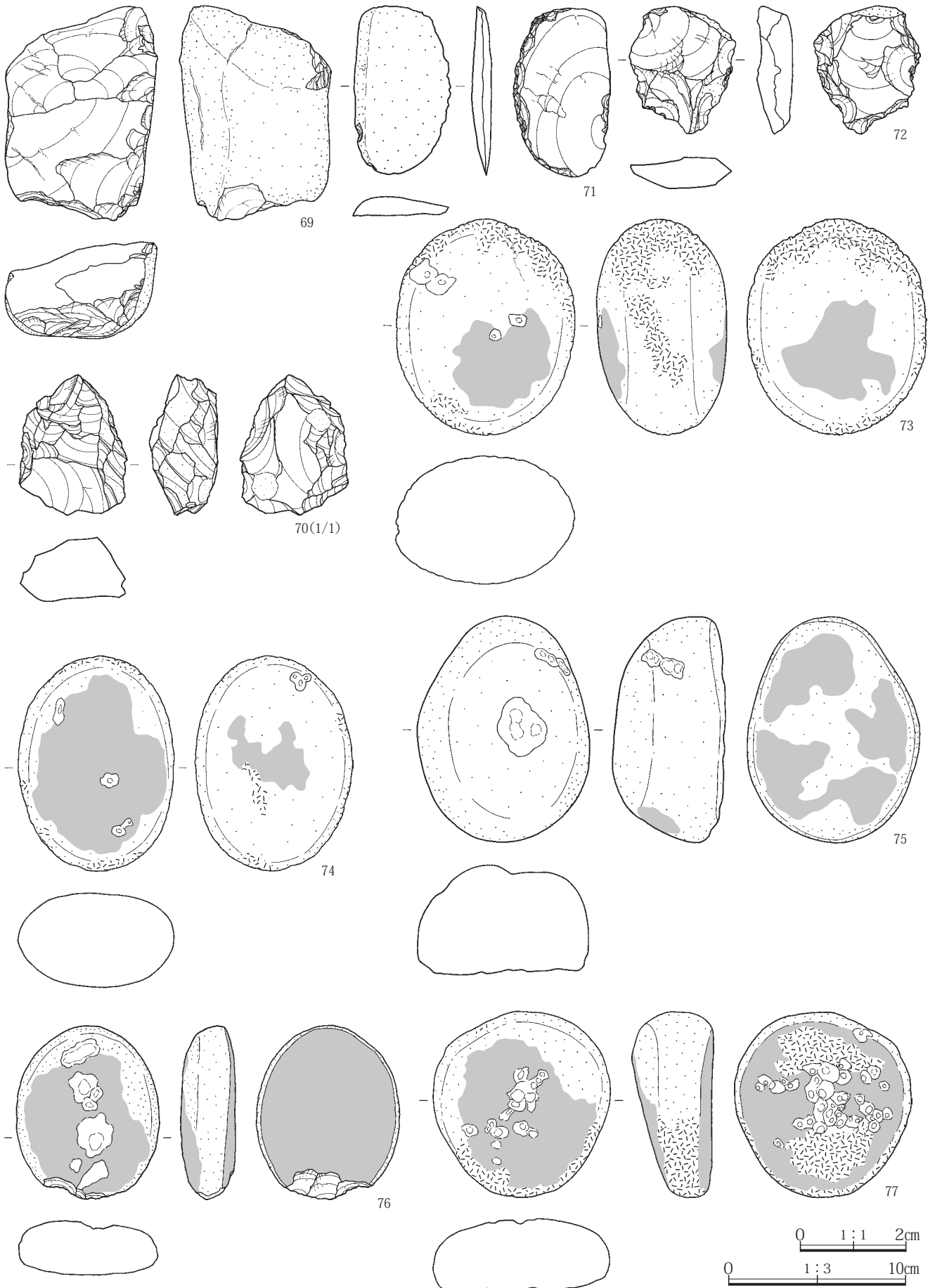
第184図 遺構外出土遺物(1)



第185図 遺構外出土遺物(2)

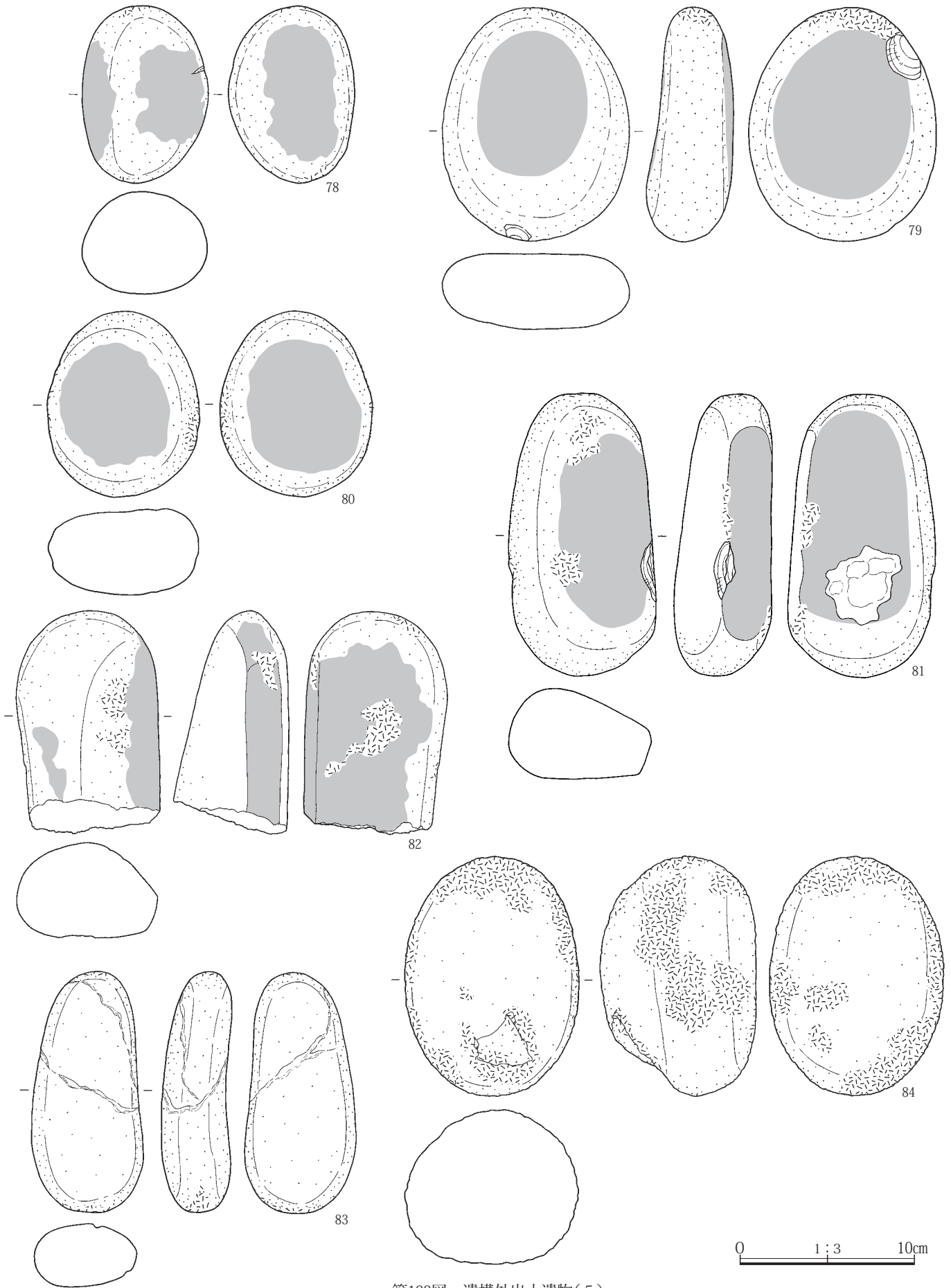


第186図 遺構外出土遺物(3)

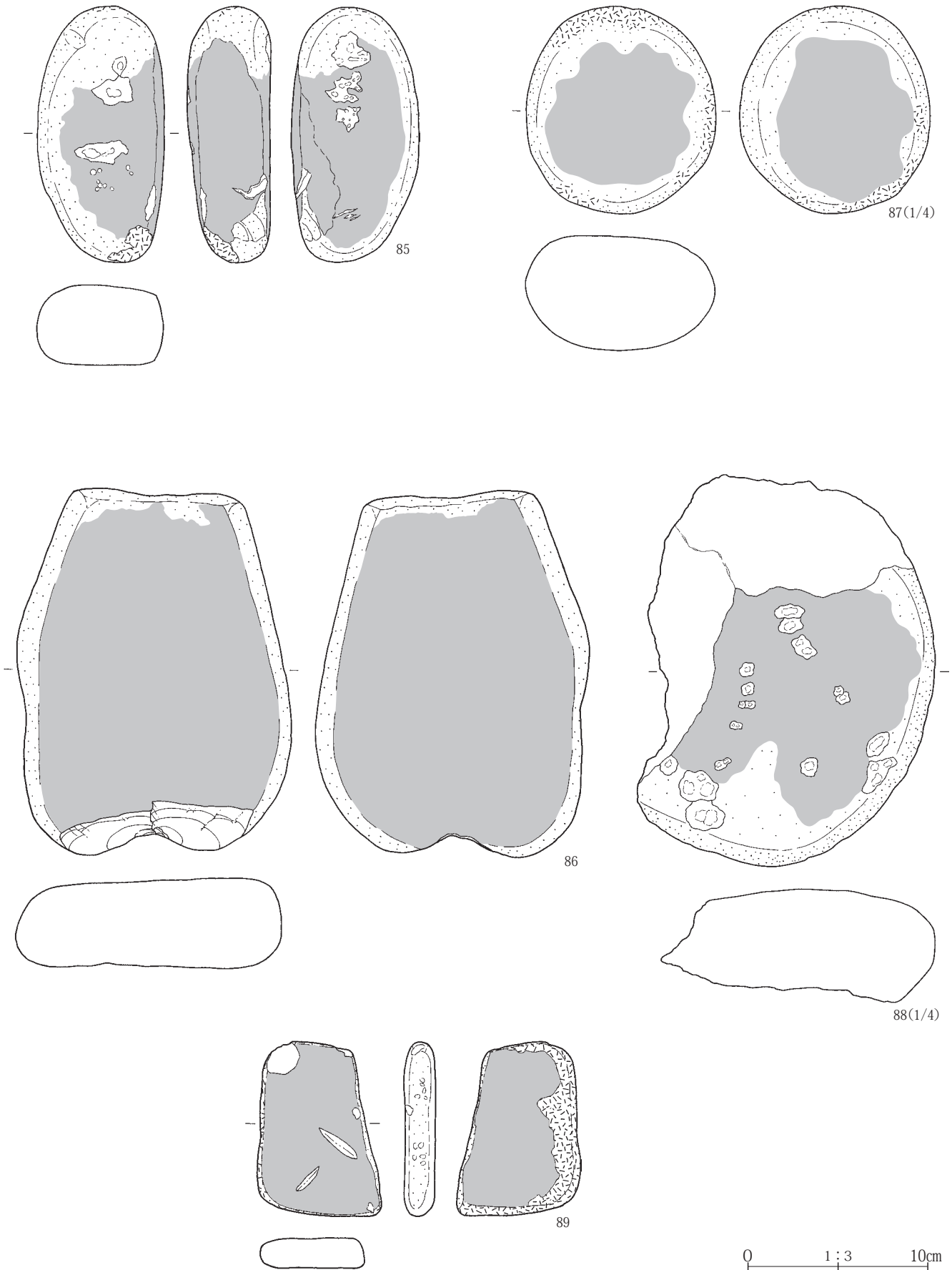


第187図 遺構外出土遺物(4)

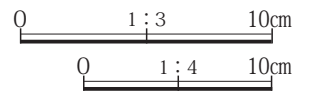


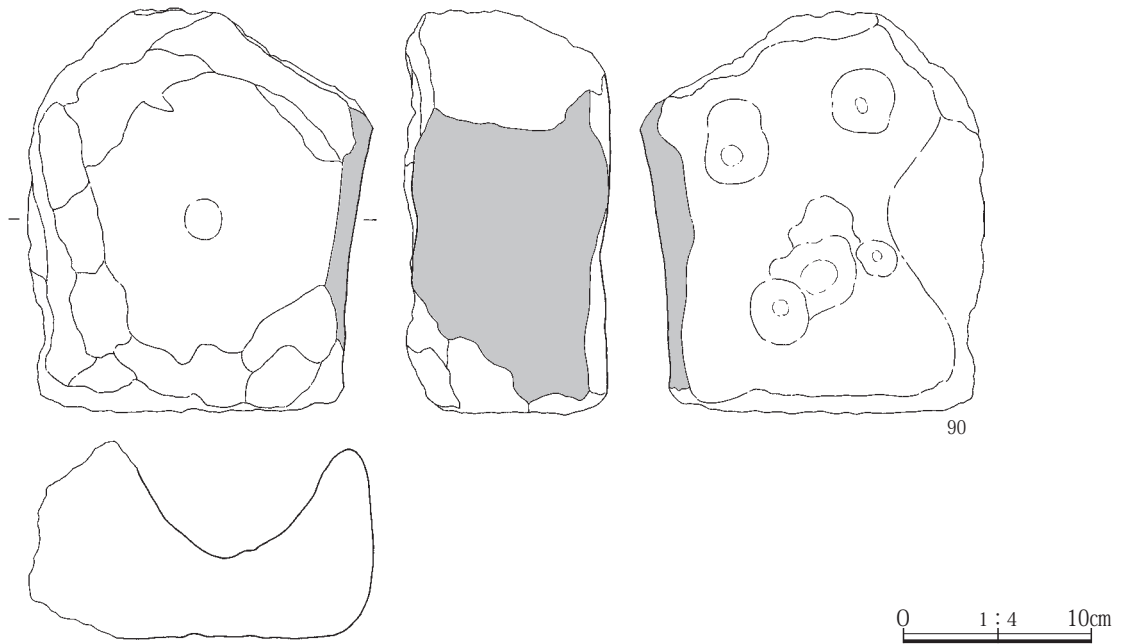


第188図 遺構外出土遺物(5)



第189図 遺構外出土遺物(6)





第190図 遺構外出土遺物(7)

(1) 中世・近世(第184図、PL.75)

調査第1面及び第2面で出土した遺物である。主に11区、11-1区第2面で出土した遺物で中世に比定したい。1～3は在地系土器で1・3が片口鉢で2は内耳鍋。中世に比定され、1は13世紀後半であろうか。4は古瀬戸碗で15世紀に比定されよう。5は11-1区の1面天明泥流下で出土している。17世紀後半で下層からの流入か。

6は14区1面で出土した肥前小皿。18世紀前半。7は11-1区1面出土の信楽系の碗。18世紀。8は瀬戸・美濃の灯火皿で18世紀後半～19世紀前半に比定した。12区2面の出土で出土層位が不適當であるが、調査時の混入も念頭にいたい。石製品としては、11区2面で粗粒輝石安山岩製の石鉢(第190図90)が出土している。

(2) 古代～古墳時代(第184図、PL.75)

主に調査第2面と第3面で出土した遺物である。また、11区あるいは11-1区に集中しており、第3面調査の竪穴建物の時期に近い遺物が出土している。10～18に須恵器を集めた。その中で10～12は、古代に比定できる。11区2面44号溝より出土した須恵器杯(10)と杯蓋(11)で、12は11区2面81号土坑出土の杯である。古代の遺構は明瞭な例が調査されておらず、調査区域外周辺への広がりも想起されよう。

古墳時代と思われる壺肩部破片(13)は2面53号溝より

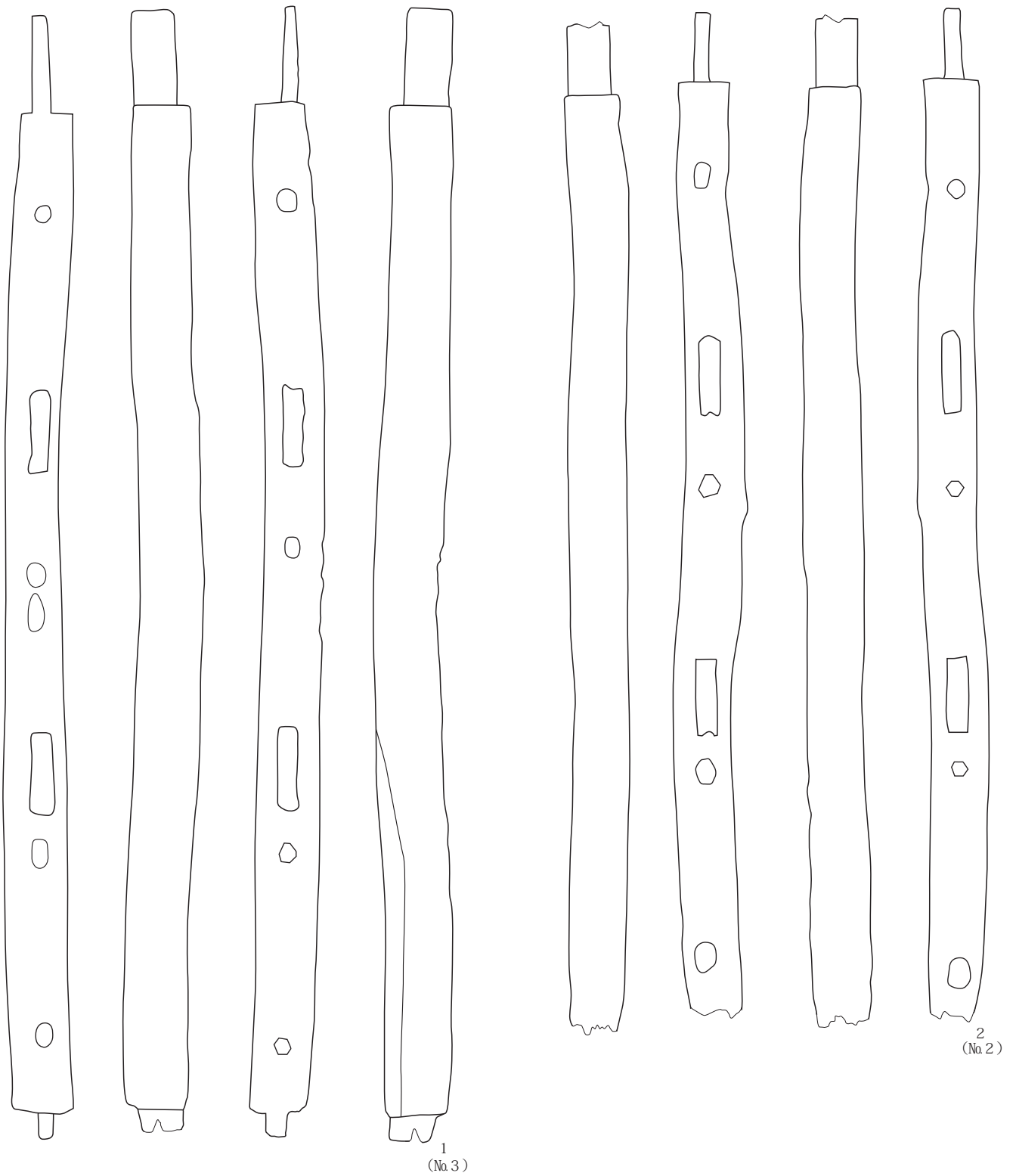
出土している。同様に44号溝出土の壺頸部破片(14)は波状文が施される。15～17は杯口縁部破片で小片のため詳細は不明だが、比較的薄手の器厚であり、古墳時代の所産とした。18のみが12区1面の出土で古代の可能性を考えたが、平行叩き目と青海波状の当て具痕から古墳時代の所産とした。土師器は高杯杯部破片(19・22)、小型壺(20)、S次状口縁台付甕脚部(21)を図示した。小型壺(20)は2面136号土坑出土だが、不整形で浅い土坑で性格不明の遺構のため、遺構外出土遺物と判断した。また高杯杯部(22)は垂下突帯杯であり5世紀の所産であろう。

(3) 弥生時代(第185図、PL.75)

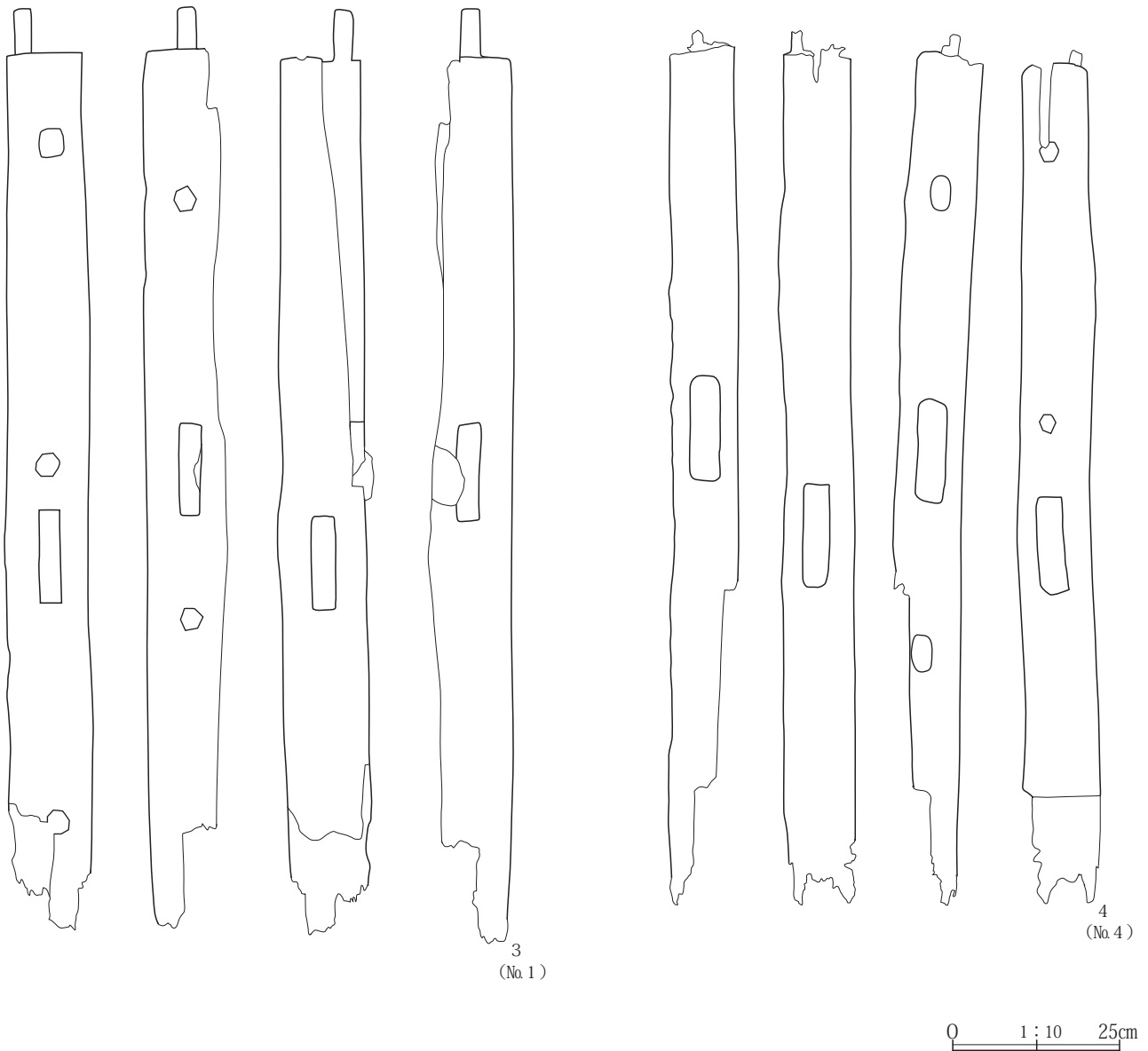
出土土器は後期樽式土器を主とする。古墳時代と同様に11区と11-1区に集中する。竪穴建物とほぼ同時期といえよう。甕の破片資料が出土するが、図化できる資料に限った(第185図23・24)。2個体とも甕底部である。

(4) 縄文時代(第185～189図、PL.75～79)

主に11区及び11-1区から出土した資料である。遺構分布と重なるが、出土土器の時期幅はやや広い。早期後半の条痕文系土器が1点出土している(25)。前期前葉～中葉の含繊維羽状縄文系土器が比較的まとまる(27～43)。関山式や有尾式、黒浜式が該当する。該期の遺構は調査されていないが、町教委が調査した本遺跡でも小



第191図 1号建物木材出土遺物(1)



第192図 1号建物木材出土遺物(2)

片が極少量出土している。また、近接する新井遺跡や川戸楮原遺跡でも早期～前期遺構資料が調査されているため、周辺には該期集落の分布が推定できる。中期土器は主体が後半期に集まる。前葉の46、中葉の47・48を見るが、49～57は中期後葉～末葉で遺構時期と重なる。

石器の多くは縄文時代の所産と判断した。剥片石器として石鏃(58～63)、石匙(64・65)、楔形石器(66・67)、打製石斧(68)、礫器(69)、スクレイパー(71・72)、石核(70)を挙げた。石鏃には平基鏃(58)、凹基鏃、有茎鏃(62)がある。石匙は2点とも横形石匙で丁寧な両面加工を施す。チャート製である。楔形石器(67)は対応する両側縁、端部に剥離痕を見る。打製石斧は下半を欠する短冊形であ

る。礫器は下端部に刃部を作出する。スクレイパー2点は黒色頁岩製で71は横長剥片、72は縦長剥片を素材とする。石核は黒曜石製の小型品である。

礫石器は多く、16点を図示した。凹石として73～77、磨石として78～82を挙げた。いずれも粗粒安山岩製の円礫を素材とする。82は分割した棒状礫を素材とする。83～85は楕円礫を素材とする敲石である。83は花崗岩製、他の2点は粗粒安山岩製である。その他では粗粒安山岩製の台石(87・88)、石皿(86)が出土している。86はあるいは古墳時代の所産か。89は砥石である。扁平な砂岩製で、表面に溝状の研磨痕を見る。弥生時代の可能性もある。

## 第4章 自然科学分析

### 第1節 概要

本報告書で扱った厚田中村遺跡11-1区においては、天明泥流で被災した建物の屋根と壁の一部が検出されている。出土状態などは本文中の第3章第3節(3)で述べているので参考にさせていただきたい。ここでは、出土した建築材や壁材の種類を明らかにするために、樹種同定と電子顕微鏡観察をパリノ・サーヴェイ株式会社に分析委託した。

天明泥流による被災建物は吾妻川上流にあたる嬭恋村や長野原町の幾つかの遺跡で調査されている。嬭恋村では著名な鎌原遺跡が昭和54年に調査が着手され、現在、調査が再開している。長野原町でも昭和55年に旧新井村跡、平成14・30年に小林家屋敷跡が調査されている。長野原町内で天明泥流下の建物の調査が飛躍的に増加したのは、八ッ場ダム建設に伴う事業団の調査によるものである。中でも、東宮遺跡は被災した旧川原畑村下段部分を全面に調査した稀有な例であり、江戸時代の屋敷11軒が調査されている。この他に西宮遺跡、石川原遺跡、下田遺跡、尾坂遺跡、町遺跡などで多くの被災建物が検出されており、天明泥流の及ぼした被害の大きさが窺い知れる調査結果となっている。一方、東吾妻町内でも上郷岡原遺跡が八ッ場ダム建設に伴う造成地関連の調査で、天明泥流下の建物が複数検出されており、特に1号壁は厚田中村遺跡で検出した1号建物1号壁と近似する。

上記の遺跡では、被災建物の礎石や柱穴の他、建築部材や漆器などの植物性の有機質資料が多数出土している。これらの資料を自然科学分析することによって材質等が明らかになり、近世民家のあり方や当時の景観、近世建築学などに計り知れない資料を提供することになる。加えて、柱材などの樹種が明らかになれば、周辺の植生の一部や建築部材の樹種選択の様相が明らかになるものと期待される。今回の厚田中村遺跡の自然科学分析も1号建物を構成する樹種が判明し、当時の建築木材の一様相を提示できるものと考えた。

### 第2節 分析

はじめに

厚田中村遺跡(吾妻郡東吾妻町厚田所在)からは、天明の浅間山噴火に伴う泥流で被災した建物(1号建物)が検出された。今回は、屋根材と壁材の種類を知る目的で、樹種同定と電子顕微鏡観察を実施する。

#### 1. 試料

樹種同定用試料は、倒壊した壁の内側の構造材16点である。試料の詳細は表1に示す。電子顕微鏡観察用試料は、壁材5点(1～5)と、屋根材5点(1～5)である。

#### 2. 分析方法

##### (1) 樹種同定

剃刀を用いて木口(横断面)・柁目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の切片を作成する。ガムクロラールで封入、光学顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察する。木材組織の特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)、Wheeler他(1998)、Richter他(2006)を参考にする。また、

表1. 樹種同定結果

試料名	樹種
屋根6	マツ属複雑管束亜属
屋根7	樹皮
No.1	クリ
No.2	クリ
No.3	クリ
No.4	クリ
No.5	トチノキ
No.6	マツ属複雑管束亜属
No.7	マツ属複雑管束亜属
No.7-2	樹皮
No.8	マツ属複雑管束亜属
No.8-2	樹皮
No.9	マツ属複雑管束亜属
No.10	トチノキ
No.11	タケ亜科
No.12	マツ属複雑管束亜属

日本産木材の組織配列は、林(1991)や伊東(1995~1999)を参考にする。

## (2)電子顕微鏡観察

現地で切り取った試料(10cm角程度)を観察し、その中から状態のよい場所を切り取って自然乾燥させる。双眼実体顕微鏡で観察しながら断面を作成、電子顕微鏡観察用の試料を作成する。カーボンテープで試料台に貼り付けたあと、チャージアップ防止のためイオンコーターでカーボンを蒸着、電子顕微鏡で観察を行う。

## 3. 結果

### (1)樹種同定

結果を表1に示す。同定の結果、針葉樹1種類(マツ属複維管束亜属)、広葉樹2種類(クリ、トチノキ)、タケ亜科、樹皮が検出された。以下に検出された種類の、木材解剖学的特徴を述べる。

・マツ属複維管束亜属(*Pinus subgen. Diploxyton*) マツ科

軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや緩やかで、垂直樹脂道が晩材部に認められる。放射組織は、仮道管、柔細胞、水平樹脂道と、樹脂道を取り囲むエピセリウム細胞で構成される。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には鋸歯状の突起が認められる。放射組織は単列、1~15細胞高。

・クリ(*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は3~4列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~15細胞高。

・トチノキ(*Aesculus turbinata* Blume) トチノキ科トチノキ属

散孔材で、管壁は厚く、横断面では角張った楕円形、単独または2~3個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、単列、1~15細胞高で階層状に配列する。

・イネ科タケ亜科(*Gramineae subfam. Bambusoideae*)

原生木部の小径の道管の左右に1対の大型の道管があり、その外側に師部細胞がある。これらを厚壁の繊維細胞(維管束鞘)が囲んで維管束を形成するが、繊維細胞は放射方向に広く、接線方向に狭いため、全体として放射方向に長い菱形となる。維管束は柔組織中に散在し、不斉中心柱をなす。いわゆるタケ・ササ類である。組織構造から種類を細分することは困難であるが、試料の外観や節の形状から、稈鞘が伸長と共に節から脱落するタケ類と考えられる。

## (2)電子顕微鏡観察

写真を図版3、4に示す。以下に壁と屋根の材質について示す。

### ・屋根材

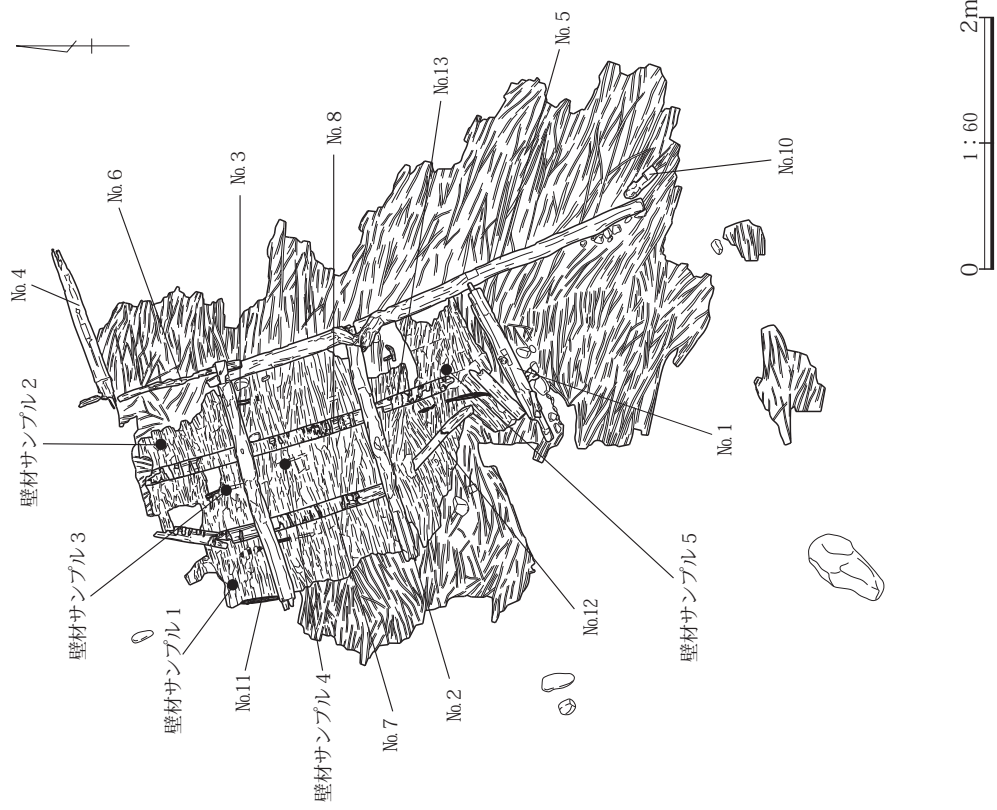
屋根材は厚いところで3cm(乾燥させない状態)程度。全て薄い樹皮を重ね合わせて構築されている。これらの樹皮は薄く剥がれやすく、裂けやすい。組織は緻密で、樹皮の外側にあたると思われる硬い部分が用いられている。樹皮から種類を特定することは難しい。わずかではあるが、若年枝がみられた。

### ・壁材

壁材は、崩れていて断面の構造はわかりにくい、粗朶とみられる若年枝が若干含まれている。0~1年輪のため、種類の特定が難しいが、ツツジ科?と思われる木材が検出される。その他は、屋根材と同様樹皮で構築される。樹皮は外側の硬い部分だけでなく、形成層に近い比較的柔らかく光沢がある部分(壁2)も含まれている。

## 4. 考察

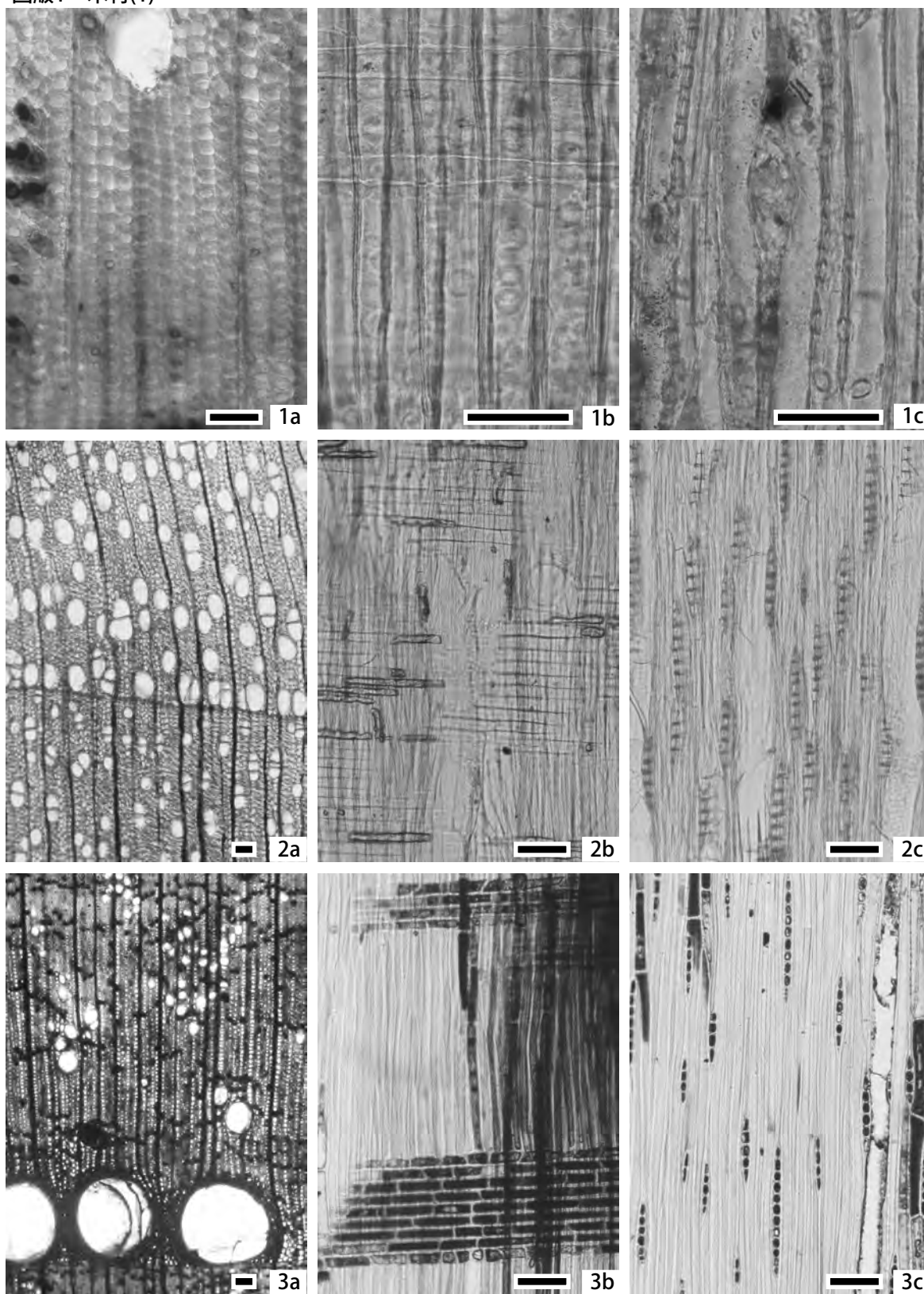
樹種をみると、柱は全てクリである。クリは重硬で水湿に強く、割裂性が良いので加工しやすい。このため、建築材や土木材としての用途に向き、柱材としてよく使われる木材である。柱をつなぐ横木や屋根の垂木にはマツ属複維管束亜属が使われている。マツの木材は針葉樹材の中では重硬、強靱で、油脂分が多い。このため、建築材や土木材に使われるほか、家具、建具、農機具など用途は広い。柱をつなぐ桁はトチノキである。トチノキの木材は軽軟で切削は容易だが耐久性が低い。このため、建築材には不向きで、漆器などの刳物や器具材などに使われることが多い。マツ属複維管束亜属やクリは、典型



第193図 樹種同定資料の出土位置



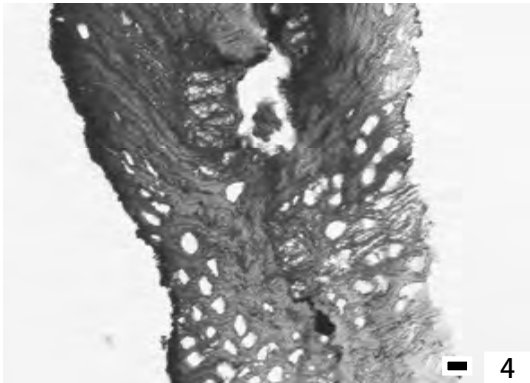
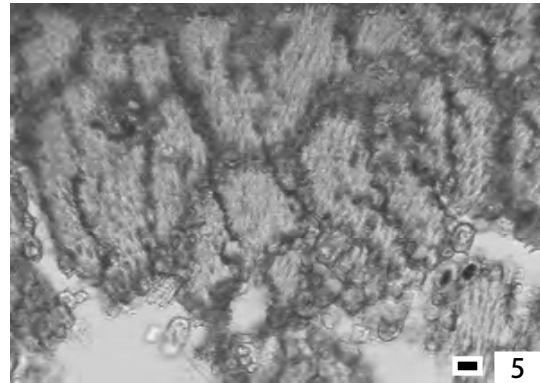
図版1 木材(1)



1.マツ属複維管束亜属(屋根6)  
2.クiri(No.1)  
3.トチノキ(No.5)

a:木口 b:杵目 c:板目  
スケールは100 $\mu$ m

図版2 木材(2)

4.樹皮(屋根7)  
5.タケ亜科(No.11)

スケールは100μm

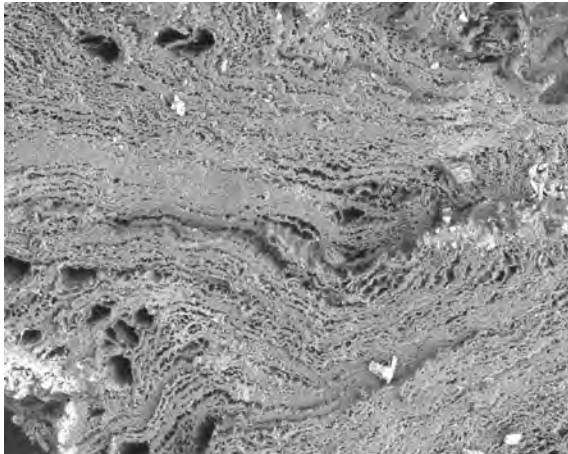
的な陽樹で成長が早く、痩せ地でも育つ。このため、土地条件が悪い場所に耐性があり、伐採地など人の手が加わった山野に先駆的に進入して林を構成する。このような二次林は「里山林」と呼ばれるが、おそらく、当時の遺跡近くに「里山林」が存在し、クリやマツはそこから容易に入手可能であったと思われる。トチノキはやや多湿な場所を好むので河川や谷筋に多い。また、巨木になるので、太く大きな木材が得られる。桁は、複数の柱をつなぐため太くて大きな木材が必要なこと、遺跡の立地からトチノキが近くに生育していた可能性が高いことから、(材質としては不向きであるが)トチノキが桁に使われたと思われる。なお、今回と同様、天明泥流の埋没住居が検出された上郷岡原遺跡でも、建築材としてクリやマツが多く使用されており、1点ではあるがトチノキの建築材もみついている(野村,2007)。

屋根は樹皮で葺かれている。樹皮は種類を特定することが難しいが、一般的に樹皮で屋根を葺く場合、ヒノキやスギが用いられることが多いことから、今回もこれらの針葉樹が用いられていたと思われる。壁材に関しても屋根材と同様樹皮であった。ただし、表面に若年枝が散見されることから、内側には(外側に向かって倒れているので)壁材の補強として粗朶が使われていたと考えられる。民俗事例でも、日本家屋には、粗朶と壁材を組み合わせる事例が多い。

## 引用文献

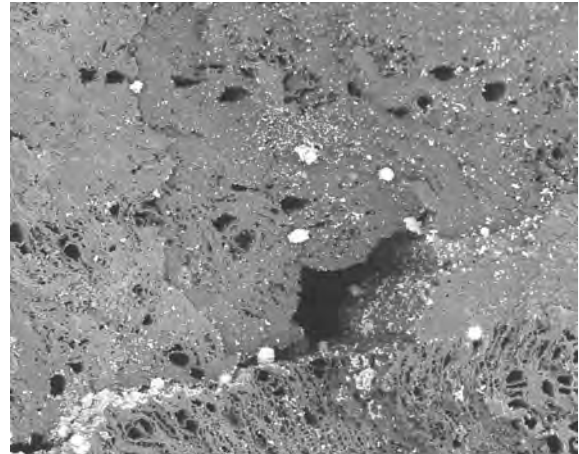
- 林 昭三,1991,日本産木材顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.  
伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.  
伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所,66-176.  
伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.  
伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.  
伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.  
野村敏江,2007,樹種同定分析,「上郷岡原遺跡(1) 天明三年の浅間山泥流に埋もれた麻畑・水田・家屋一八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第16集 第4分冊 自然科学分析編」,財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団報告書第410集,国土交通省・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団,41-56.  
Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(編),2006,針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡の特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘(日本語版監修),海青社,70p. [Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(2004)IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].  
島地 謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織.地球社,176p.  
Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(編),1998,広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡の特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修),海青社,122p. [Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989)IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

図版3 屋根材の電子顕微鏡画像



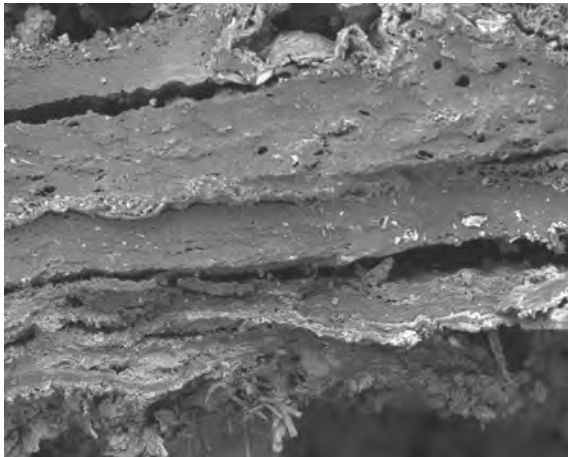
樹皮(屋根1)

100  $\mu$ m



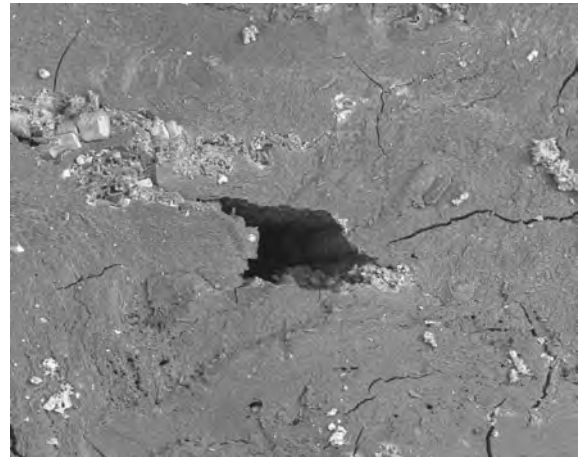
樹皮(屋根2)

100  $\mu$ m



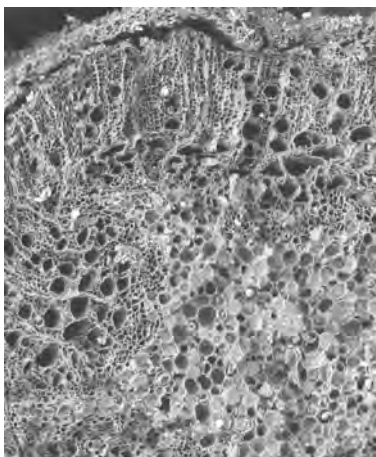
樹皮(屋根4)

100  $\mu$ m



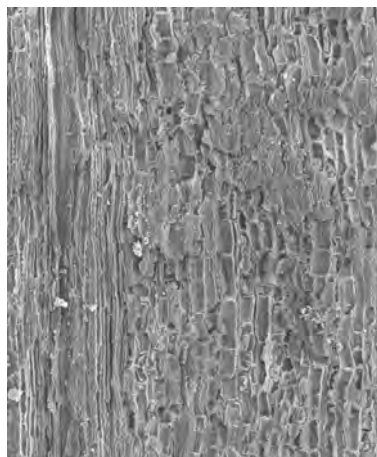
樹皮(屋根5)

100  $\mu$ m



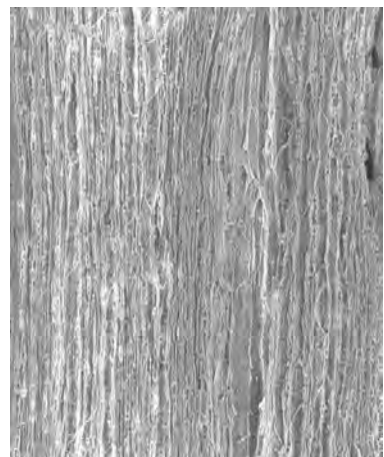
木口

100  $\mu$ m



杙目

100  $\mu$ m

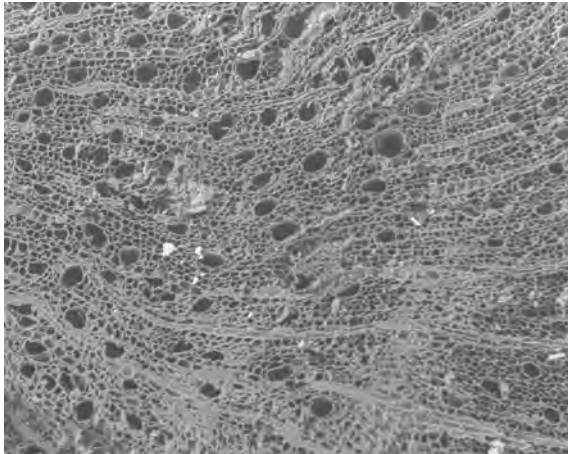


板目

100  $\mu$ m

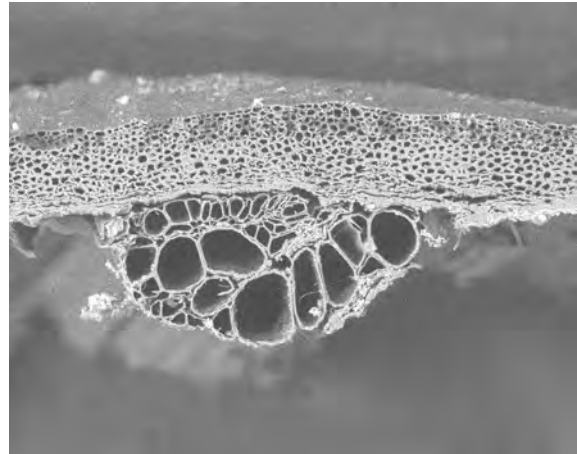
若年枝(屋根3)

図版4 壁材の電子顕微鏡画像



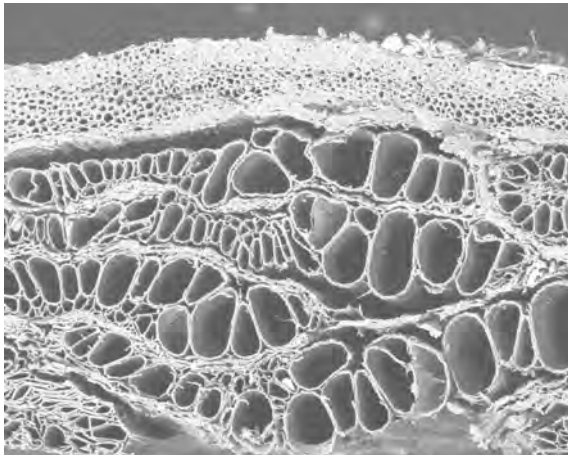
若年枝(壁1)

100  $\mu$ m



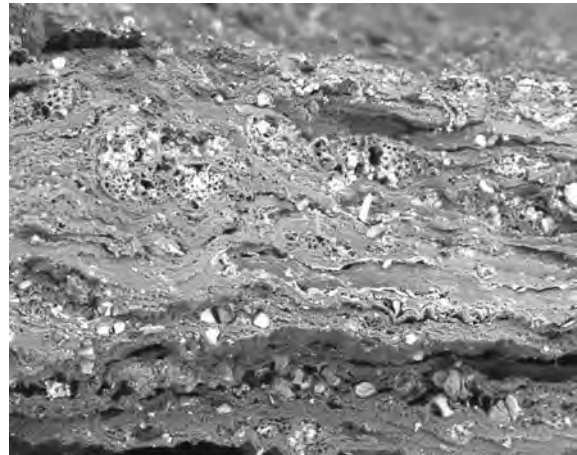
樹皮(壁2)

100  $\mu$ m



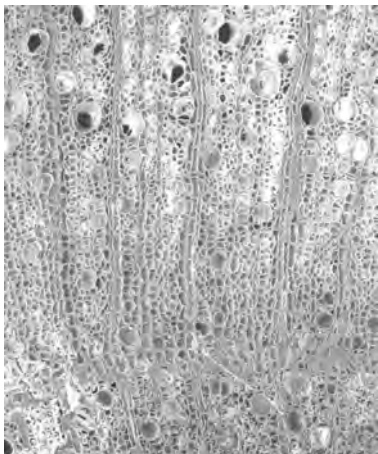
樹皮(壁2)

100  $\mu$ m



樹皮(壁4)

100  $\mu$ m



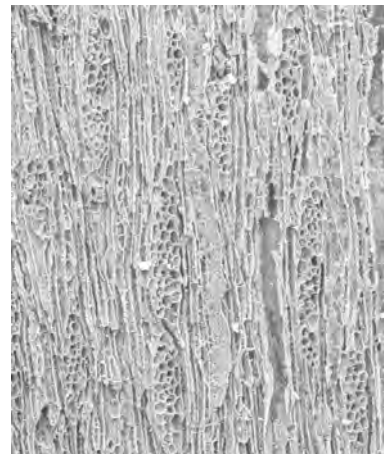
木口

100  $\mu$ m



杣目

100  $\mu$ m



板目

100  $\mu$ m

若年枝 ツツジ科?(壁3)

## 第5章 総括

本章では、本書で扱った遺構遺物を時期別に概観し、まとめとしたい。

### 第1節 近世

天明泥流下の遺構を主とする。吾妻川流域及び利根川中流域には天明泥流下-天明3年の被災直前の地表面とともに、当時の農村集落を具体化した多くの遺跡が著名である。特に本遺跡が立地する吾妻川流域は被災家屋を含め、多種多様の遺構が検出されている。

(建物)前章でも述べたように天明泥流下の遺跡として被災家屋・建物が検出された例として孺恋村鎌原遺跡、長野原町旧新井村跡、小林家屋敷跡、町遺跡、尾坂遺跡、下田遺跡、東宮遺跡、西宮遺跡、石川原遺跡、東吾妻町では上郷岡原遺跡、唐堀遺跡が挙げられる。

本遺跡の1号建物も天明泥流下の被災建物である。11-1区中央で調査され、屋根部分と壁部分が近接して検出できた。東吾妻町内における同様な天明泥流下の建物としては、上郷岡原遺跡及び唐堀遺跡で調査されている。このうち唐堀遺跡の建物は小規模な例で、当初は畑のための管理小屋などの非生活施設と想定していたが、建物規模から御堂としての位置付けも試みている。

一方、上郷岡原遺跡の建物数棟のうち平成14年度調査の2棟の建物は囲炉裏や竈、便槽などの施設が検出され、特にⅢ区2号建物は16×8mの大型建物で、建築材として床板、大引材、根太材などが共伴し、障子、板戸も見られた。出土遺物も陶磁器類、煙管、銭貨、鎌などの金属製品、漆製品や木製品なども多数出土し、当時の生活用品の組成が具体化していた。また平成18年度調査のⅣ区では、3基の壁遺構と建物が検出された。このうち、3号壁は屋根部分としての可能性が求められており、2基の壁遺構と併せて、本遺跡1号建物との共通性が窺われる。2基の壁遺構を同一建物としての可能性を示唆し、その性格を麻の乾燥施設(麻屋-おや)と推定している。

本遺跡の1号建物も、小規模な建物であり屋根部と壁部が近接した距離で出土していることから、同一の建物

と判断できよう。上郷岡原遺跡で調査された3基の壁遺構と同様なあり方と共通性から、麻屋などの麻の乾燥施設と推定したい。ただ、断定的な性格・用途の確定は避け、唐堀遺跡で当初推定した畑作業に伴う管理小屋などの非生活施設として大まかな位置付けとしたい。

次に1号建物の原位置も推定する。上郷岡原遺跡では、建築材や壁材の散逸が広がっておらず、残存部の破損も少ないことから。建物原位置は近距離にあるとされている。本遺跡1号建物も、屋根材と壁材が近距離で出土しており、おそらく天明泥流によって、建物半分以上が流下したものの、横転して接地した箇所は強くは流されずに屋根材と壁材の一部が原位置近くに残ったものと考えられる。周辺に建物礎石を見ないことから、あるいは礎石を有さない簡便な建物の可能性もある。その場合、1号建物壁部分の西側で検出された553・555・556号ピットが建物柱穴にあたる可能性も想定しておきたい。

(畑)天明泥流下の遺構として、吾妻川流域で普遍的に検出される遺構である。調査区のほぼ全面が畑遺構で占められた遺跡もあり、当地域の天明3年時の主要な生産遺構としての位置付けが果たされている。本遺跡でも11区南、11-1区北、13区、14区で南北あるいは東西の走向で畑サクが検出されている。検出された箇所は調査区全体の中でも北西部にあたり、これは、吾妻川河川崖に沿った微高地部分である。南東部は低地部にあたり、低地部は水田、微高地部は畑に供された土地利用形態と判断できよう。畑サク間の距離は30cm前後であり、狭く葉菜類や根菜類を対象とはせず、麻や苧麻等の栽培痕跡と見られている。前回、前々回の厚田中村遺跡(1)・(2)(群埋文2018・2023)でも、同様の畑が検出されており、広域に畑遺構が広がる景観が確認された。

さて、畑作物に関してだが上郷岡原遺跡では、自然科学分析を実施し畑土壌に関しては麻の栽培地としての高い可能性が指摘され、またプラント・オパール分析ではイネ及びムギ類の栽培が示唆されている。東吾妻町を中心とする地域は、平均気温としては涼冷であり、榛名山麓から引水したとしても、その距離は短く水温も低いた

め、水田耕作には不向きな地域である。そのため江戸時代では当地域では換金作物として麻や苧麻が選ばれたのではと推定したい。しかしながら麻自体の連作障害も予想され、一箇所恒常的な栽培は行われなかったと思われる。今後は畑用益地内の転作、あるいは施肥の様子などを明らかにするべきであろう。

(水田) 今回の本遺跡の発掘調査では、天明泥流下の調査で水田状の平坦面の広がりを見ることができた。しかしながら、水田として必要条件である明瞭な畦畔や水口が検出されなかったため、発掘調査時では水田の存在を示唆するにとどまった。整理段階では、調査で得られた平坦面を水田として位置付け、9-1区・15区、11-1区、12区、14区の平坦面や溝、道、土手状遺構を併せて水田として報告した。

各区の溝を給排水路として位置付け、道、土手の軸方に直交する数条の段差も平行しており、長方形を基調とする水田区画と考えた。段差の高低差も10cm以上で明瞭な区画として判断した。現地地形にも沿う地形傾斜であり、西から東への傾斜が強く、これを柵田状の水田に造成するために段差が設けられたものとする。ただ、畦畔、水口といった水田施設の欠落は今後の検討課題となる。厚田中村遺跡(1)の報告(群埋文2018)では段差及び低位の畦畔による水田が検出報告されており、本例も同等の評価を持ちたい。ただし、天明泥流被害時は8月-盛夏といわれており、周辺地域の水田には畔や水口が設けられていたと思われる。実際に唐堀遺跡でも柵田状水田が報告されているが、石垣、畦畔、水口などが検出されており、当時の水田景観を具体化している。厚田中村遺跡の天明泥流下の水田は、泥流規模が強く、畦畔や水口などが流されてしまったという解釈もあるが、何らかの理由で、休耕田となっており、クロ塗りなどの畔作りが行われていなかったのではないと思われる。

ここでは、本遺跡の天明泥流下の遺構を概観したが、巨視的には、調査区北西～西側には畑や建物、調査区北東～東側には水田が広がる。本遺跡の周辺地形が、南側には榛名山北麓の山地地形が迫り、県道高崎・榛名・中之条線を介して最下位段丘となり、現在は水田に供されている。水田地帯の広がりを経て北に吾妻川に至る間が、微高地となりやや標高も高く畑地として利用され、そのまま吾妻川河川崖に達する。水田地帯が後背湿地状で、

畑地が自然堤防状の地形であり、天明泥流下の本遺跡の遺構土地利用も、後背湿地状の低地は水田に、自然堤防状の微高地は畑地に供されていた。このことは、天明泥流が当地域を厚く被覆した後も泥流前の土地利用を踏襲していたと考えられる。天明泥流下の遺構全体図を第1章で挙げた現代の都市計画図に重ね合わせた第2図を見ると、畑地と水田地帯が泥流被覆前と一致しており、さらに9-1区と15区に見られる58号溝や3号道は、現農道と一致する導線を示す。また、9-1区・15区、12区で水田区画とした段差は、現在の水田畦畔の方向と一致する様相である。このように、天明泥流被災後厚く堆積した泥流土にも関わらず、土地利用の地目の変更は行われず、泥流被覆前の水田や畑の区画線を踏襲していたようである。これは、泥流被覆前の土地利用が自然地形や個人の土地所有に即しており、当地域の農地区画がより強い意識下に置かれていたと推察したい。

(第1-1面下遺構) 11区南、及び13区、14区の天明泥流下でさらに遺構が検出された。第Ⅲ層である灰白色洪水堆積層上下の調査面であり、この調査面は厚田中村遺跡(1)の報告で明らかになっている(群埋文2018)。浅間山は天明泥流発生前に1783年5月に噴火をはじめており、その直後に遺跡周辺では噴火時に降下した浅間Aテフラを含む洪水が発生している。本遺跡第1-1面はその洪水層によって覆われた遺構確認面である。これは、浅間山噴火の5月から天明泥流発生の8月までのごく短い期間に復旧された畑や水田の調査となっている。11区南では15・17・18号畑、43号溝、13区では16号畑、14区では21号畑、51号溝が検出されている。なお、43号溝は天明泥流下の第1面の調査で検出した38号溝と走向が一致する。これは、第2面調査で得られた44号溝なども関連する要素で、第2節で後述したい。

## 第2節 中世

第2面の調査で得られた遺構・遺物である。第2面は浅間粕川テフラ(As-Kk)混土層を埋土とする遺構群である。主に11区・11-1区で掘立柱建物、溝、土坑、ピットなど居住施設が集中し、12～14区では小規模な溝を調査した。時期は中世としているが、As-Kkの純層堆積を示す遺構や良好な遺物出土例も少ないため、厳密には中

世以降の時期が充てられよう。

(掘立柱建物)11区北側に11棟が集まる。すべて柱穴からなり、炉や庇等の屋内外の施設を持っていない。柱穴も礎石を持つ例は少なく、基盤礫が柱穴底面に露出する例のみで、素掘りのピットを主としている。柱穴より遺物の出土も見られないため、時期の判断は調査面とピット埋土を基準とした。掘立柱建物は地形の制約もあり東西棟が主で、南北棟としては8・9・12号掘立柱建物が長軸を南北に向けるが小規模な例である。東西棟の中で10号掘立柱建物が遺構外に範囲を延ばすが大型の建物であり主屋として位置付けた。重複状況は4・6・7号掘立柱建物、8・9号掘立柱建物、10・13号掘立柱建物が西側で重なるが、柱穴相互の重複が無いため新旧関係は把握できなかった。

そのような状況で、掘立柱建物の変遷を提示することは不可能に近いが、掘立柱建物の長軸方位と掘立柱建物間の距離を考慮して、3段階の変遷を考えてみた。

**第1期:** 小規模な柱穴からなる掘立柱建物を主とした。7・9・11・13号掘立柱建物4棟からなる。9号と13号は軸方位が近似し、距離を置いて軸が近い7号と11号も小規模な柱穴とやや不規則な配置を示す。おそらく当地域の中世土地開発の初現となった集団によるものだろうか、調査区南側の53～55号溝も同時期の可能性もある。

**第2期:** 10号掘立柱建物が主屋として供される。同時に軸を一致する6号掘立柱建物、距離を置くが整った柱穴配置の5号掘立柱建物、南北棟の12号掘立柱建物の4棟からなる。柱穴規模、配置とも良好であり、安定した開発基盤が展開したと考える。溝は53～55号溝から大型の44号溝を加えた様相が想起される。

**第3期:** 10号掘立柱建物は主屋として継続する。他に8・4号掘立柱建物が近接し、3号掘立柱建物が距離を置く。いずれも長軸が近似し柱穴配置が良好な例で東西棟の4棟からなる。あるいは12号掘立柱建物も継続し5棟となる可能性がある。溝は44号溝が継続し、さらに1-1面で43号溝へ、1面で38号溝に変遷する。

このように3段階にわたる変遷を想定したが、遺物の出土も見られず、柱穴相互の重複もないことから、確証的な変遷ではない。しかしながら、地形に即した東西棟の掘立柱建物群内の変化をある程度は提示できたと思われる。次に掘立柱建物群の性格であるが、調査資料では

確定できなかった。特徴的な出土遺物も見られず、さらに隣接する周辺遺跡に城も館も見られないことから、おそらく当地域の開発に伴う水田や畑作を生業とする一般集落と思われる。詳細な時期は柱穴内からの出土遺物を見ないため確定性に乏しいが柱穴埋土のAs-Kk混土層を示標とし、概ね中世段階と考えて良いだろう。また、遺構外出土遺物ながら、11区2面出土として、15世紀に比定される古瀬戸平碗体部片や内耳鍋や片口鉢があることから、掘立柱建物群も中世として位置付けておきたい。なお、隣接する8区で厚田中村遺跡(2)の報告で5棟の掘立柱建物が報告されている。今回の11区の掘立柱建物とは若干距離があり、また南北棟が混在する様相を示す。11区掘立柱建物群とは性格の差が窺われよう。

(溝・土坑等)11区南に東西を走向する溝が集中する。前に掘立柱建物変遷でも述べたように、53号溝と44号溝が2面で検出されているが、44号溝直上の第1-1面に43号溝が、さらに第1面の調査で38号溝が重なる。古墳時代の面の第3面では溝は検出されていないため、中世段階で、53号溝と44号溝が開削され、さらに天明3年に至るまで連綿と溝が継続していた変遷になる。ただ、埋土を観察すると、各々の溝はその都度埋没しており、特に44号溝は大量の大型礫で埋められている。各段階で、11区南に溝を設ける重要な導線があり、その都度溝が設けられていたものと考えられる。また、第2面と第1-1面においては調査区東側で南に屈曲する走行を示しており、何らかの区画意識が想起されよう。おそらく南側から13区や14区にかかる低地の耕作地への区画と考えられる。

11-1区の溝、11区の53号溝や44号溝は東西の走向を主としておりこれは地形変換点に設けられた溝でもある。同様に11-1区63号溝も東西の走向であり、地形変換点に沿った溝である。また、127坑や132坑等さらに1号列石などと併せて直交する位置にあり、屋敷地外縁の区画線の可能性を見せる。

土坑も11区と11-1区に集中する。集石土坑や方形土坑が見られる。方形土坑は溝と同様に区画に沿う例と考えられる。方形土坑は近世～近・現代に多く見られるが、中世段階でも設けられる施設として位置付けられた。おそらく貯蔵用の室穴に近い用途が考えられる。円形土坑や集石土坑は墓の可能性もあるが、人骨、古銭等の出土

も見られず確定性に乏しい。

12区溝は40・41号溝2条が平行する。こちらも11区44・55号溝や11-1区63号溝と同様に東西の走向を見せる。地形変換点での走向でありおそらく区画溝としての性格が想定されるが、2条が平行することや、11-1区63号溝よりも良好な掘り込みを示すことから、強い意識もとの区画線の可能性もある。例えば道としての性格も推定できよう。13・14区では45号溝と52号溝が調査されているが、調査範囲が狭く、性格の特定までは至らなかった。

### 第3節 弥生～古墳時代

(**竪穴建物**)第3面の調査では弥生時代～古墳時代の集落を調査した。竪穴建物19棟を中心とする。厚田中村遺跡では令和2年度調査で行った8区で第3面の調査を行っており、3棟の竪穴建物が検出されている。いずれも古墳時代中期の5世紀中～後半期に比定されており、11区12号竪穴建物や11-1区16号竪穴建物等と近い時期である。しかしながら、8区竪穴建物は11区竪穴建物群より40m近く距離を保ち、高低差も1m程低いことから11区や11-1区竪穴建物群とは別集落と思われる。

19棟の竪穴建物の時期は、

弥生時代後期6棟：7・15・17・19・20・22号

古墳時代前期5棟：4・5・8・9・21号

古墳時代中期後葉3棟：10・12・16号

古墳時代中期末葉～後期初頭3棟：13・14・18号

古墳時代後期1棟：6号。不明：11号である。

弥生時代後期の竪穴建物は樽式土器を伴出し、11区・11-1区に分布するが、11-1区の50号溝東に偏る傾向がある。古墳時代前期も両区に分布するが、反対に50号溝西に4棟が集まる。古墳時代中期になると3棟とはいえ11区・11-1区全体に広がりを見せる。散漫な分布状況ながらカマドを付帯する段階であり、集落の規模は拡大する傾向と考えられる。古墳時代中期末葉～後期初頭とした竪穴建物は50号溝東に立地するが、既に50号溝は埋没後のため分布の目安にはできない。大型の18号竪穴建物もあり古墳時代集落の安定期であろうか。古墳時代後期とした6号竪穴建物は単独であり分布傾向は見出せないが、おそらく北側の調査区域外に群を構成すると思わ

れる。これはその他の時代の竪穴建物も同様であり、北側の微高地へ集落は広がると予想される。

弥生時代後期に比定される竪穴建物は主軸を北北東に向けた長方形の平面形で、地床炉で4本柱穴、出入口柱穴を設け南東隅に貯蔵穴を設ける例が普遍的である。また、遺物の出土が南東隅貯蔵穴周辺に集中する傾向が見られ、さらに口縁～体部上半の壺・甕類を正位あるいは逆位に置く様相が20号竪穴建物などで見られた。当該期の竪穴建物床面出土でしばしば見られる様相である。詳細な性格は不明だが、貯蔵穴周辺の作業や廃絶時の一用具として置台・器台等としての壺・甕類の再利用と考えている。

S字状口縁台付甕を出土する古墳時代前期の竪穴建物は、総じて出土遺物が少なく示唆的な出土例は見られなかった。また、床面上の施設も8号竪穴建物のみが良好に柱穴や炉が確認され、他の竪穴建物は判然としなかった。竪穴建物のうち出土土器の時期差と平面規模の差から2棟1単位の組み合わせで5・9号竪穴建物が4・8号竪穴建物に先行する様相が把握されたが、出土遺物も少ないため検討を要する。なお21号竪穴建物は残存度も悪く時期以外の詳細は不明である。

古墳時代中期出土土器は内斜口縁や内湾口縁が顕著である。出土遺物が充実する16号竪穴建物でも杯類や甕類、石製模造品が出土している。また、本竪穴建物は東壁隅に石組カマドが付帯しており、これは当地域でも古いタイプのカマドといわれる。厚田中村遺跡(2)の報告の8区1A・B号竪穴建物は東壁隅に石組のカマドが設けられており、本竪穴建物と同様の在り方であり、5世紀中葉に比定されている。なお、カマド北で出土した鉄滓が付着する高杯脚部2点(8・9)は弥生時代の所産と思われる、重複する15号あるいは17号竪穴建物からの転用品であろう。同様に貯蔵穴西のほぼ床直出土の有孔鉢(10)も弥生時代の例で重複する竪穴建物からの流入あるいは転用品であろう。また、有段の貯蔵穴が南壁中位に設けられており後述する13号竪穴建物と共通する。有段部には蓋が据えられていたと推定したい。埋設土器とされた燃焼施設が南西隅に設けられており注意を要する。

古墳時代中期末葉～後期初頭に比定した3棟の竪穴建物もいずれも内斜口縁、内湾口縁を土器組成とする。中期後葉からの継続性が強い。おそらく貯蔵穴がカマドに



接近し南東隅に設けられる段階と考える。13号竪穴建物及び18号竪穴建物出土土器が充実する。13号竪穴建物はカマド南で重ねられた状態で出土した杯3個体(第118図1～3)、小型甕1個体(4)、小型甕1個体(5)が特筆されよう。土器には比熱痕跡が見られ、煮沸や収納などの使用状態が示唆される出土である。18号竪穴建物は大型竪穴建物で、床面に転ばし根太の痕跡数条を見る。大量の出土遺物を誇り須恵器壺や把手付椀が破片ながら伴出した。多くの床直遺物を見るため、居住に伴う例と一括廃棄の例が混在すると思われるが同時期である。さらに、床面四隅に置かれた甕体部上半部の在り方は竪穴建物廃絶儀礼を想定したい。

古墳時代後期に比定したのは6号竪穴建物1棟のみである。おそらく調査区域外の北側壁にカマドが設けられるのではと推測する。貯蔵穴は南西隅に位置付けた。本竪穴建物は須恵器壺と杯が出土する。前段階の18号竪穴建物にも見られることから、6世紀には普遍的に須恵器が土器組成に加わる様相を示していた。完形で極めて優品の壺である。

(溝)50号溝が特筆されよう。11区を南北に横断する大溝で、遺物も土器を中心に大量に出土した。発掘調査時では、下層に弥生土器、上層に古式土師器が出土する様相を把握されたが、整理段階で土層による大きな時期差は認められず、弥生時代後期～古墳時代前期の土器資料が混在する出土状態が判断できた。しかしながら混在するとはいえ、50号溝の開削時期は、弥生時代後期樽式期であり、当該期における当地の開発集落が着手した大掛かりな施設である。南側の榛名山北麓域端部より北側の吾妻川低地部に向けた溝であり、水田耕作や畑作開墾に伴う用水路を兼ねた導線と思われる。弥生時代後期と古墳時代前期の竪穴建物配置を概観すると、この50号溝を意識した選地であり、大溝が集落内を分断する様相が想起されよう。つまり集落によって管理された溝であり、高地より低地への直線的な導線を確保した施設と位置付けられる。ただし古墳時代前期以降にその機能を停止することになり、溝には樽式土器や埴、S字状口縁台付甕が大型礫と廃棄されることになったようである。その要因は厚田中村遺跡(2)で報告されたHr-FA下水田が11区よりさらに西の5区や6区で営まれるようになったためと考えられる。5区・6区とも低地域が11区より広く、水

田耕作が積極的に行われたため。11区50号溝の必要性が弱くなったと思われる。50号溝は古墳時代前期以降に埋没が完了し、古墳時代中期～後期には12号竪穴建物や13号竪穴建物が近接・重複する様相が把握されよう。

50号溝は弥生時代後期～古墳時代前期にかけての当地域の開発痕跡としたい。

## 第4節 縄文時代

今回の調査では第3面の弥生～古墳時代集落調査面より若干下位の第4面の調査面で縄文時代の遺構と遺物を検出した。縄文時代の遺構は本遺跡では初出であり、非常に重要な調査例となった。

(竪穴建物)23号竪穴建物は縄文時代中期末葉の所産である。径3.4m程の小型の竪穴建物であり、床面中央に埋甕炉を設けているが、当該時期に特徴的な敷石も施されておらず、柱穴も見られなかった。やや変わった形態であるが、小型の居住施設として位置付けている。下郷古墳群では71号墳西で調査された1号竪穴建物が本遺跡23号竪穴建物と同様な例として位置付けられる。71号墳1号竪穴建物は北半を大きく吾妻川河川崖で崩落しており、南半のみの遺存で炉は未検出ながら、出土遺物は加曾利EⅣ式土器を中心に豊富に出土している。敷石が設けられない、中期末葉段階の小型竪穴建物として、厚田中村遺跡23号竪穴建物と同様の事例として位置付けておきたい。周辺遺跡で同様な敷石形態を持たない小型の竪穴建物が調査された際は、小型居住施設として中期末葉集落規模の縮小現象の側面として評価が定まるもの期待したい。また、下郷古墳群では加曾利EⅢ式土器も遺構には伴わないがまとまった出土を示しており、最下位段丘における縄文中期集落の存在を予測させている。(竪穴状遺構等)本遺跡23号竪穴建物北西約7mで1号竪穴状遺構を調査した。本文中では竪穴建物の可能性を示唆しており、中期後葉～末葉の集落の一端に位置するものと考えている。その他の土坑139・141・142号土坑もほぼ同時期の所産であり、小規模な中期集落の存在が位置付けられよう。なお、遺構外出土遺物には早期後半～前期後葉の出土土器が見られ、特に前期中葉の土器片がまとまる。東吾妻町教委の調査でも細片ながら前期土器片が報告されており、周辺に前期集落が予想されよう。

遺構計測表

第2表 竪穴建物計測表

遺構名	位置	平面形状	規模(m)			方位	面積(m <sup>2</sup> )	重複遺構	出土遺物	時期
			長軸	短軸	深さ					
4号竪穴建物	X=61.217 ~ 61.220 Y=-91.926 ~ -91.929	正方形	2.79	2.69	0.34	N-80°-W	6.044	-		
5号竪穴建物	X=61.217 ~ 61.221 Y=-91.933 ~ -91.938	不整形(長方形)	4.58	(3.51)	0.24	N-75°-E	(8.608)	11竪建、5掘立P5(2面)、107坑(2面)、376(2面)・543P		
P1=0.28×0.23×0.25、P2=0.24×0.22×0.20、P3=0.20×0.17×0.38、土坑1=0.48×0.38×0.34										
6号竪穴建物	X=61.214 ~ 61.219 Y=-91.939 ~ -91.946	不整形	5.17	(4.77)	0.42	N-68°-E	(20.804)	7竪建、111坑(2面)、434P(2面)		
P1=0.43×0.40×0.28、P2=0.70×0.62×0.32、P3=0.43×0.35×0.12、土坑1=0.66×0.61×0.32										
7号竪穴建物	X=61.209 ~ 61.217 Y=-91.937 ~ -91.943	不整形(長方形)	7.30	5.22	0.40	N-3°-W	(28.664)	6竪建、5掘立P1・P4・P8(2面)、84・85坑(2面)、308P(2面)		
7号竪穴建物坪=(0.61)×0.58×0.05 P1=0.77×0.64×0.28、P2=0.71×0.42×0.62、P3=0.70×0.49×0.61、P4=0.60×0.57×0.54、P5=0.53×0.48×0.33、P6=0.31×0.29×0.36、P7=0.23×0.17×0.26、P8=0.17×0.16×0.13、P9=0.60×0.57×0.23、P10=0.50×0.24×0.29、P11=0.45×0.24×0.23										
8号竪穴建物	X=61.205 ~ 61.211 Y=-91.929 ~ -91.936	長方形	5.62	4.74	0.57	N-67°-E	23.360	95坑(2面)		
8号竪穴建物坪=0.57×0.48×0.04 P1=0.34×0.26×0.09、P2=0.44×0.42×0.23、P3=0.25×0.25×0.20、P4=0.41×0.32×0.24、P5=0.37×0.30×0.31、P6=0.48×0.37×0.38、P7=0.62×0.42×0.27、P8=0.35×0.33×0.17、土坑1=0.75×0.59×0.29、土坑2=0.82×0.60×0.31、土坑3=0.80×0.64×0.38、土坑4=1.05×0.56×0.34										
9号竪穴建物	X=61.203 ~ 61.206 Y=-91.936 ~ -91.940	正方形	3.24	3.19	0.18	N-2°-E	9.468	53溝(2面)		
P1=0.53×0.52×0.35、P2=0.44×0.42×0.12										
10号竪穴建物	X=61.211 ~ 61.215 Y=-91.952 ~ -91.957	不整形	4.21	(3.73)	0.07	N-73°-E	(13.448)	(2面)10掘立P3・P4、13掘立P5、78・110坑、214・276・277・433・479・511・513・514・526・527P		
貯蔵穴=0.75×0.47×0.41、P1=0.36×0.36×0.30、P2=0.23×0.21×0.19、P3=0.34×0.33×0.35、土坑1=0.36×0.35×0.46										
11号竪穴建物	X=61.220 ~ 61.222 Y=-91.931 ~ -91.935	不整形	(3.50)	(1.50)	0.50	N-76°-E	(4.056)	5竪建、107坑(2面)		
12号竪穴建物	X=61.217 ~ 61.222 Y=-91.916 ~ -91.921	長方形	5.30	4.33	0.29	N-108°-E	(19.824)	13竪建、98・99・102・134坑(2面)、336・350P(2面)		
12号竪穴建物カマド=1.08×0.27 P1=0.27×(0.13)×0.24、P2=0.28×0.27×0.19、P3=0.23×0.19×0.39、P4=0.20×0.18×0.27、P5=0.23×0.22×0.25、P6=0.22×0.21×0.25、土坑1=0.62×0.60×0.42										
13号竪穴建物	X=61.210 ~ 61.218 Y=-91.916 ~ -91.923	正方形	5.70	5.64	0.43	N-47°-E	27.496	12竪建、50溝		
13号竪穴建物カマド=0.93×0.30 貯蔵穴=1.00×0.75×0.54、P1=0.63×0.53×0.56、P2=0.37×0.35×0.43、P3=0.33×0.33×0.44、P4=0.36×0.32×0.54、P5=0.35×0.33×0.18、P6=0.23×0.19×0.28、P7=0.22×0.17×0.32、床下土坑1=0.88×0.87×0.23										
14号竪穴建物	X=61.232 ~ 61.238 Y=-91.873 ~ -91.880	不整形	6.43	(5.46)	0.33	N-85°-W	(22.453)	-		
P1=0.32×0.31×0.18、P2=0.31×0.29×0.22、P3=0.28×0.25×0.24										
15号竪穴建物	X=61.227 ~ 61.234 Y=-91.882 ~ -91.888	不整形	(5.47)	4.68	0.39	N-35°-W	(21.573)	16竪建		
P1=0.42×0.37×0.06、P2=0.37×0.31×0.18、P3=0.47×0.43×0.18、P4=0.30×0.23×0.06、P5=0.49×0.37×0.37、P6=0.30×0.28×0.40、P7=0.51×0.38×0.39、P8=0.30×0.29×0.31、P9=0.39×0.29×0.10、P10=0.42×0.29×0.15										
16号竪穴建物	X=61.225 ~ 61.232 Y=-91.887 ~ -91.895	不整形(長方形)	6.81	(5.74)	0.38	N-151°-E	(35.872)	15・17竪建		
16号竪穴建物カマド=1.22×0.24 貯蔵穴=1.31×1.17×0.46、P1=0.34×0.33×0.06、P2=0.41×0.35×0.17										
17号竪穴建物	X=61.223 ~ 61.230 Y=-91.893 ~ -91.900	不整形(長方形)	(6.00)	4.55	0.46	N-31°-W	(22.453)	16竪建		
17号竪穴建物坪=0.95×0.78×0.11 貯蔵穴=0.58×0.52×0.32、P2=0.39×0.16×0.24、P3=0.51×0.28×0.10、P4=0.53×0.45×0.57、P5=0.32×0.30×0.18、P6=0.33×0.31×0.14、P7=0.50×0.46×0.07、P8=0.32×0.23×0.17										
18号竪穴建物	X=61.215 ~ 61.225 Y=-91.899 ~ -91.908	正方形	7.73	7.73	0.53	N-69°-E	54.443	22竪建、132坑(2面)		
18号竪穴建物カマド=(1.36)×(0.35)、炉=0.84×0.79×0.06 貯蔵穴=0.88×0.80×0.39、P1=0.59×0.51×0.18、P2=0.35×(0.32)×0.23、P3=0.42×0.38×0.56、P4=0.43×0.42×0.16、P5=0.40×0.37×0.17、P6=0.54×0.52×0.35、P7=0.58×0.57×0.50、P8=0.31×0.29×0.58、P9=0.49×0.41×0.27、P10=0.30×0.26×0.33										
19号竪穴建物	X=61.225 ~ 61.227 Y=-91.909 ~ -91.913	不整形	(2.94)	(2.63)	0.47	N-62°-W	(2.965)	129坑(2面)		
P1=0.38×0.35×0.40										
20号竪穴建物	X=61.217 ~ 61.224 Y=-91.910 ~ -91.915	長方形	6.20	4.71	0.62	N-4°-E	24.256	21竪建、131・134坑(2面)		
20号竪穴建物坪=0.93×0.86×0.09 貯蔵穴=0.66×0.41×0.36、P1=0.29×0.28×0.49、P2=0.54×0.43×0.53、P3=0.38×0.35×0.51、P4=0.33×0.31×0.10、P5=0.22×0.21×0.19、P6=0.32×0.23×0.20、P7=0.31×0.30×0.31、P8=0.37×0.15×0.18、P9=0.28×0.27×0.39										
21号竪穴建物	X=61.215 ~ 61.220 Y=-91.910 ~ -91.916	不整形	(5.68)	(4.30)	0.20	N-81°-W	(22.939)	12・20竪建、565P		
P1=0.28×0.27×0.18										
22号竪穴建物	X=61.218 ~ 61.223 Y=-91.901 ~ -91.905	長方形	4.32	3.55	0.30	N-15°-W	13.291	18竪建、132坑(2面)		
P1=0.43×0.36×0.21、P2=0.33×0.31×0.36、P3=0.29×0.17×0.11、P4=0.31×0.18×0.15、P5=0.17×0.15×0.25、P6=0.21×0.19×0.24、P7=0.21×0.18×0.39、P8=0.20×0.17×0.37										
23号竪穴建物	X=61.210 ~ 61.214 Y=-91.907 ~ -91.910	円形	3.37	3.35	0.19	N-70°-E	7.92	-		
23号竪穴建物坪=0.68×0.65×0.21										

遺構計測表

第3表 掘立柱建物計測表

遺構名	位置	形状	規模 桁行×梁行(m)	方位	重複遺構	備考
3号掘立柱建物	X=61.213~61.221 Y=-91.924~91.935	長方形	4.03×9.53	N-65°-E	88坑、305・365・369・381P	
P1=0.40×0.38×0.19、P2=0.41×0.35×0.23、P3=0.35×0.32×0.31、P4=0.38×0.32×0.38、P5=0.27×0.25×0.34、P6=0.29×0.27×0.24、P7=0.33×0.30×0.17、 P8=0.39×0.35×0.20、P9=0.30×0.28×0.12、P10=0.33×0.30×0.16、P11=0.35×0.32×0.28、P12=0.27×0.24×0.16、P13=(0.30)×0.25×0.15 P1→P2=4.03、P2→P3=1.94、P3→P4=1.82、P4→P5=2.07、P5→P6=1.89、P6→P7=1.87、P7→P8=4.00、P8→P9=1.73、P9→P10=2.07、 P10→P11=1.93、P11→P12=1.77、P12→P1=2.03						
4号掘立柱建物	X=61.203~61.211 Y=-91.951~91.961	長方形	3.63×8.50	N-63°-E	6掘立P2~P5、7掘立P2~P7・P11・P12、73坑、 ビット(44基)	
P1=0.30×0.30×0.34、P2=0.31×0.29×0.21、P3=0.60×0.60×0.56、P4=0.84×0.80×0.58、P5=0.55×0.50×0.57、P6=0.50×0.49×0.58、P7=0.40×0.39×0.37、 P8=0.25×0.22×0.25、P9=0.47×0.42×0.47、P10=0.33×0.27×0.24、P11=0.38×0.36×0.40、P12=0.38×0.34×0.38 P1→P2=1.81、P2→P3=1.81、P3→P4=2.12、P4→P5=2.02、P5→P6=2.22、P6→P7=2.03、P7→P8=2.32、P8→P9=1.17、P9→P10=2.15、 P10→P11=2.10、P11→P12=2.15、P12→P1=2.12						
5号掘立柱建物	X=61.211~61.217 Y=-91.935~91.943	長方形	6.78×4.30	N-74°-E	84~87坑、356・386・388・395・397P	
P1=0.44×0.40×0.34、P2=0.38×0.36×0.51、P3=0.25×0.23×0.33、P4=0.36×0.33×0.50、P5=0.42×0.42×0.23、P6=0.46×0.44×0.33、P7=0.37×0.36×0.48、 P8=0.39×0.37×0.25 P1→P2=4.08、P2→P3=2.28、P3→P4=2.21、P4→P5=2.29、P5→P6=4.30、P6→P7=2.16、P7→P8=2.27、P8→P1=2.26						
6号掘立柱建物	X=61.203~61.210 Y=-91.949~91.958	長方形	3.27×9.84	N-62°-E	4掘立P8~P12、7掘立P7~P12、ビット(42基)	
P1=0.57×0.54×0.40、P2=0.53×0.52×0.39、P3=0.61×0.58×0.37、P4=0.61×0.57×0.46、P5=0.59×0.59×0.33、P6=0.71×0.59×0.64、P7=0.52×0.51×0.55、 P8=0.50×0.47×0.51、P9=0.56×0.50×0.45、P10=0.58×0.58×0.43 P1→P2=3.13、P2→P3=2.09、P3→P4=2.09、P4→P5=2.28、P5→P6=2.15、P6→P7=3.27、P7→P8=2.09、P8→P9=2.27、P9→P10=2.14、P10→P1=2.16						
7号掘立柱建物	X=61.203~61.209 Y=-91.952~91.959	長方形	3.65×6.59	N-67°-E	4掘立P10~P12、6掘立P2~P4・P9・P10、 ビット(38基)	
P1=0.25×0.22×0.16、P2=0.43×0.33×0.32、P3=0.25×0.25×0.21、P4=0.37×0.22×0.22、P5=0.22×0.21×0.30、P6=0.39×0.38×0.43、P7=0.38×0.33×0.40、 P8=0.35×0.32×0.24、P9=0.24×0.24×0.11、P10=0.21×0.21×0.07、P11=0.32×0.31×0.36、P12=0.36×(0.16)×0.35 P1→P2=1.73、P2→P3=1.63、P3→P4=1.77、P4→P5=2.30、P5→P6=2.52、P6→P7=1.80、P7→P8=1.85、P8→P9=2.03、P9→P10=2.10、 P10→P11=1.80、P11→P12=2.05、P12→P1=2.12						
8号掘立柱建物	X=61.206~61.212 Y=-91.964~91.970	長方形	4.19×3.61	N-26°-W	9掘立P2・P5・P6、63・64・74坑、142・152・160・ 161・163・164・219・225・226・229・244・246・247・249~ 251P	
P1=0.47×0.35×0.38、P2=0.55×0.44×0.52、P3=0.60×0.38×0.40、P4=0.42×0.36×0.39、P5=0.42×0.38×0.42、P6=0.44×0.42×0.38 P1→P2=2.07、P2→P3=2.03、P3→P4=3.43、P4→P5=2.05、P5→P6=2.14、P6→P1=3.61						
9号掘立柱建物	X=61.207~61.212 Y=-91.965~91.970	長方形	4.35×3.90	N-12°-W	8掘立P2~P5、64坑、141・142・147・148・160~165・ 203・218・226・227・229・244・246・247・249~251P	
P1=0.27×0.26×0.32、P2=0.53×0.37×0.09、P3=0.55×0.42×0.49、P4=0.35×0.34×0.34、P5=0.51×0.48×0.54、P6=0.37×0.33×0.20 P1→P2=2.30、P2→P3=2.03、P3→P4=3.90、P4→P5=2.02、P5→P6=2.33、P6→P1=3.77						
10号掘立柱建物	X=61.208~61.216 Y=-91.952~91.966	不整形	4.42×11.85	N-61°-E	13掘立P2~P5、58・67・69・71・77・78・110坑、ビット(52基)	
P1=0.73×0.61×0.54、P2=0.54×0.48×0.37、P3=0.49×0.47×0.51、P4=0.68×0.52×0.46、P5=0.66×0.48×0.38、P6=0.56×0.53×0.55、P7=0.61×0.50×0.55 P1→P2=4.42、P3→P4=2.17、P4→P5=2.50、P5→P6=2.35、P6→P7=2.35、P7→P1=2.48						
11号掘立柱建物	X=61.210~61.216 Y=-91.944~91.952	長方形	3.96×5.96	N-69°-E	201・215・216・221・222・228・233・237・238・258~261・ 289・290・389・413~416・419~421・423・425・427・428・ 498~500・509・524・525・533P	
P1=0.27×0.26×0.19、P2=0.22×0.21×0.30、P3=0.33×0.29×0.53、P4=0.32×0.26×0.18、P5=0.30×0.29×0.51、P6=0.32×0.30×0.25、P7=0.31×0.29×0.12 P8=0.40×0.30×0.54、P9=0.41×0.32×0.21、P10=0.35×0.33×0.50 P1→P2=1.90、P2→P3=2.01、P3→P4=1.53、P4→P5=2.14、P5→P6=2.22、P6→P7=2.08、P7→P8=1.88、P8→P9=2.34、P9→P10=1.97、P10→P1=1.65						
12号掘立柱建物	X=61.206~61.212 Y=-91.942~91.947	長方形	4.75×3.30	N-24°-W	49溝、92・104・105坑、296~299・309・311・318・319・ 326・331・342・343・347・408・410~412・417・418・506・ 538P	
P1=0.28×0.24×0.30、P2=0.28×0.27×0.47、P3=0.35×0.33×0.55、P4=0.30×0.24×0.56、P5=0.25×0.24×0.39、P6=0.30×0.28×0.33 P1→P2=2.55、P2→P3=2.20、P3→P4=3.30、P4→P5=2.38、P5→P6=2.24、P6→P1=3.27						
13号掘立柱建物	X=61.208~61.214 Y=-91.954~91.963	長方形	3.98×7.66	N-76°-E	10掘立P4~P7、67・69・71・110坑、ビット(57基)	
P1=0.23×0.21×0.28、P2=0.32×0.29×0.37、P3=0.25×0.22×0.07、P4=0.28×(0.18)×0.31、P5=0.25×0.21×0.31、P6=0.27×0.23×0.42、P7=0.22×0.22×0.14 P1→P2=1.48、P2→P3=2.50、P3→P4=4.34、P4→P5=3.12、P5→P6=3.73、P6→P7=3.51、P7→P1=4.15						

第4表 溝計測表

番号	区	面	位置	規模(m)			走行方位	重複遺構
				長さ	幅	深さ		
35	12	1	X=61.262~61.266 Y=-91.812~-91.817	5.28	1.16~1.38	0.25~0.30	N-47°-W 北西→南東	
36	12	1	X=61.261~61.264 Y=-91.813~-91.818	5.70	0.52~0.80	0.13~0.18	N-47°-W 北西→南東	
37	12	1	X=61.252~61.260 Y=-91.821~-91.830	12.80	0.80~1.60	0.10~0.17	N-48°-W 北西→南東	
38	11	1	X=61.185~61.201 Y=-91.936~-91.962	37.60	0.32~0.58	0.05~0.17	N-65°-E 北東→南西	
39	11	1	X=61.213~61.216 Y=-91.932~-91.970	38.27	0.18~0.38	0.03~0.09	N-86°-E 東→西	
40	12	2	X=61.246~61.260 Y=-91.825~-91.840	19.02	0.72~0.90	0.16~0.26	N-50°-E 北東→南西	
41	12	2	X=61.247~61.256 Y=-91.832~-91.841	12.45	0.31~0.63	0.08~0.21	N-52°-E 北東→南西	
42	11	1	X=61.206~61.207 Y=-91.929~-91.935	6.22	0.22~0.28	0.02~0.06	N-73°-E 北東→南西	
43	11	1-1	X=61.187~61.204 Y=-91.921~-91.961	45.30	0.36~0.98	0.04~0.24	N-66°-E N-50°-W 南東→北西 →南西	
44	11	2	X=61.187~61.204 Y=-91.920~-91.961	47.14	0.48~1.82	0.17~0.40	N-57°-E N-45°-W 南東→北西 →南西	47・48溝、 112坑
45	13	2	X=61.167~61.174 Y=-91.936~-91.940	7.98	0.58~0.78	0.15~0.21	N-28°-E 北東→南西	
46	11	2	X=61.183~61.191 Y=-91.947~-91.958	12.88	0.36~0.74	0.09~0.20	N-64°-E 北東→南西	
47	11	2	X=61.192~61.198 Y=-91.933~-91.940	9.25	0.31~0.52	0.07~0.19	N-40°-W 北西→南東	44・48溝
48	11	2	X=61.192~61.199 Y=-91.935~-91.947	13.82	0.28~0.44	0.01~0.20	N-63°-E 北東→南西	44・47溝
49	11	2	X=61.208~61.210 Y=-91.942~-91.947	5.05	0.20~0.34	0.01~0.07	N-70°-E 北東→南西	12掘立、 329・330 P
50	11	3	X=61.193~61.224 Y=-91.921~-91.930	31.18	1.52~2.14	0.56~0.76	N-16°-E 北東→南西	13竪建、 (2面)3掘立 P 8、 94・98坑、53溝、 338・360 P

番号	区	面	位置	規模(m)			走行方位	重複遺構
				長さ	幅	深さ		
51	14	1-1	X=61.175~61.183 Y=-91.903~-91.914	11.42	0.64~1.62	0.06~0.15	N-50°-E 北東→南西	
52	14	2	X=61.173~61.176 Y=-91.919~-91.920	1.72	0.66~1.00	0.07~0.21	N-2°-E 北→南	
53	11	2	X=61.195~61.209 Y=-91.925~-91.958	31.18	0.26~0.92	0.05~0.22	N-55°-E N-57°-W 南東→北西 →南西	
54	11	2	X=61.190~61.195 Y=-91.956~-91.961	6.60	0.18~0.32	0.03~0.05	N-57°-E 北東→南西	
55	11	2	X=61.189~61.204 Y=-91.939~-91.961	27.16	0.16~0.52	0.02~0.21	N-50°-E 北東→南西	112坑
56	11	2	X=61.192~61.194 Y=-91.938~-91.942	4.10	0.21~0.29	0.11~0.16	N-75°-E 北東→南西	
57	11	2	X=61.187~61.191 Y=-91.940~-91.947	7.86	0.19~0.40	0.06~0.13	N-63°-E 北東→南西	
58	9-1	1	X=61.251~61.273 Y=-91.769~-91.795	33.06	0.56~2.60	0.17~0.39	N-55°-E 北東→南西	65溝、3道
	15	1	X=61.211~61.251 Y=-91.795~-91.824	51.26	0.50~1.42	0.30~0.56	N-50°-E 北東→南西	59溝、3道、 6土手
59	15	1	X=61.216~61.226 Y=-91.804~-91.808	9.32	0.56~1.02	0.17~0.26	N-17°-W 北西→南東	58溝、3道
60	11-1	1	X=61.216~61.230 Y=-91.856~-91.877	26.26	0.41~1.67	0.14~0.59	N-80°-E N-40°-W 北西→南東 →東	7土手
61	11-1	1	X=61.216~61.219 Y=-91.900~-91.915	15.88	0.24~0.40	0.01~0.08	N-80°-E 西→東	22畑
62	11-1	2	X=61.235~61.242 Y=-91.859~-91.868	10.75	0.20~0.28	0.04~0.08	N-56°-E 北東→南西	
63	11-1	2	X=61.213~61.238 Y=-91.863~-91.901	46.32	0.18~0.63	0.01~0.11	N-53°-E 北東→南西	
64	11-1	2	X=61.234~61.238 Y=-91.863~-91.867	5.83	0.13~0.35	0.03~0.04	N-58°-E 北東→南西	
65	9-1	1	X=61.266~61.269 Y=-91.780~-91.783	3.42	0.53~0.83	0.29~0.30	N-40°-W 北西→南東	58溝
66	11-1	3	X=61.214~61.218 Y=-91.895~-91.899	5.61	0.32~0.46	0.07~0.28	N-49°-W 北西→南東	18竪建

第5表 土坑計測表

番号	区	面	位置(グリッド)	形状	規模(m)			主軸方位	重複遺構
					長径	短径	深さ		
57	11	1	X=61.208・61.209 Y=-91.968	不整形	0.67	0.61	0.15	N-75°-W	
58	11	2	X=61.215 Y=-91.958・-91.959	不整形	(0.60)	(0.19)	0.58	N-75°-E	10掘立
59	11	2	X=61.200・61.201 Y=-91.936~-91.938	不整形	(1.74)	(0.39)	0.35	N-76°-E	
60	11	2	X=61.202 Y=-91.931・-91.932	不整形	(1.12)	(0.27)	0.77	N-77°-E	
61	11	2	X=61.213 Y=-91.968	不整形	(0.50)	(0.30)	0.53	N-78°-E	62坑
62	11	2	X=61.213 Y=-91.967・-91.968	不整形	(0.95)	(0.30)	0.65	N-78°-E	61坑
63	11	2	X=61.208・61.209 Y=-91.964・-91.965	不整形	0.63	0.55	0.49	N-80°-E	8掘立
64	11	2	X=61.210・61.211 Y=-91.968~-91.970	長方形	1.94	0.60	0.19	N-90°	8・9掘立、 141・162 P
65	11	2							8掘立 P 2 に 変更
66	11	2							9掘立 P 3 に 変更
67	11	2	X=61.211 Y=-91.962	不整形	0.62	0.38	0.16	N-35°-W	10・13掘立、 145 P

番号	区	面	位置(グリッド)	形状	規模(m)			主軸方位	重複遺構
					長径	短径	深さ		
68	11	2							10掘立 P 7 に 変更
69	11	2	X=61.211・61.212 Y=-91.960	不整形	1.02	0.67	0.61	N-17°-W	10・13掘立、 273 P と重複
70	11	2							10掘立 P 6 に 変更
71	11	2	X=61.213・61.214 Y=-91.958・-91.959	不整形	0.98	0.85	0.76	N-89°-E	10・13掘立 P 4、77坑
72	11	2							8掘立 P 3
73	11	2	X=61.209~61.211 Y=-91.952~-91.953	不整形	1.80	1.27	0.16	N-30°-W	4掘立 P 7、 223・507 P
74	11	2	X=61.209・61.210 Y=-91.969~-91.971	不整形	(1.30)	0.66	0.26	N-69°-E	8掘立 P 3、 161・188・ 203・248 P
75	11	2							6掘立 P 6
76	11	2	X=61.207・61.208 Y=-91.970・-91.971	不整形	0.66	0.60	0.46	N-25°-W	
77	11	2	X=61.213 Y=-91.957・-91.958	不整形	0.46	(0.20)	0.41	N-8°-E	10掘立、71坑

遺構計測表

番号	区	面	位置(グリッド)	形状	規模(m)			主軸方位	重複遺構
					長径	短径	深さ		
78	11	2	X=61.214・61.215 Y=-91.956・-91.957	不整形円形	0.92	0.88	0.59	N-77°-E	10掘立、276・277 P
79	11	2	X=61.187 Y=-91.949・-91.950	不整形円形	0.73	0.49	0.28	N-55°-E	
80	11	2	X=61.197・61.198 Y=-91.929・-91.931	隅丸長方形	2.22	0.43	0.35	N-56°-E	
81	11	2	X=61.196・61.197 Y=-91.925・-91.927	隅丸長方形	2.46	0.36	0.37	N-57°-E	
82	11	2	X=61.193 Y=-91.943・-91.944	不整形円形	0.71	0.65	0.11	N-54°-E	
83	11	2	X=61.202・61.204 Y=-91.948・-91.950	隅丸長方形	2.69	0.62	0.08	N-20°-W	
84	11	2	X=61.211・61.212 Y=-91.942・-91.943	不整形円形	1.06	0.95	0.22	N-30°-W	5掘立 P 1
85	11	2	X=61.212・61.214 Y=-91.942・-91.943	不整形円形	1.72	1.12	0.25	N-5°-W	5掘立
86	11	2	X=61.213・61.214 Y=-91.940・-91.941	不整形円形	1.27	1.11	0.28	N-81°-E	5掘立
87	11	2	X=61.212・61.216 Y=-91.934・-91.937	隅丸長方形	4.43	0.66	0.16	N-27°-W	5掘立 P 6、395・397 P
88	11	2	X=61.214・61.216 Y=-91.931・-91.932	不整形円形	1.75	1.43	0.08	N-16°-W	3掘立
89	11	2	X=61.209・61.210 Y=-91.930・-91.932	隅丸長方形	1.78	0.68	0.18	N-29°-W	90・95坑
90	11	2	X=61.210・61.211 Y=-91.930・-91.932	不整形円形	1.05	(0.82)	0.25	N-30°-W	89坑
91	11	2	X=61.211・61.212 Y=-91.933・-91.934	不整形円形	1.20	1.05	0.25	N-73°-E	
92	11	2	X=61.208・61.209 Y=-91.942・-91.945	隅丸長方形	2.75	1.03	0.15	N-81°-E	12掘立 P 5、296・299・326・344 P
93	11	2	X=61.205・61.206 Y=-91.947・-91.948	隅丸長方形	1.68	0.73	0.14	N-69°-E	
94	11	2	X=61.211・61.213 Y=-91.925・-91.926	隅丸長方形	1.55	0.58	0.25	N-35°-W	
95	11	2	X=61.210・61.211 Y=-91.931・-91.932	不整形円形	1.19	0.96	0.22	N-0°	89坑
96	11	2	X=61.214・61.215 Y=-91.919・-91.922	隅丸長方形	2.50	0.64	0.50	N-72°-E	
97	11	2	X=61.214・61.218 Y=-91.917・-91.919	長方形	4.38	0.68	0.15	N-25°-W	295 P
98	11	2	X=61.198・61.200 Y=-91.921・-91.924	隅丸長方形	3.21	0.51	0.35	N-61°-E	
99	11	2	X=61.218・61.220 Y=-91.918・-91.921	隅丸長方形	2.51	1.00	0.61	N-70°-E	102坑
100	11	2	X=61.212 Y=-91.933・-91.934	不整形円形	0.54	0.44	0.13	N-58°-E	
101	11	2	X=61.207・61.208 Y=-91.947	不整形円形	0.45	0.43	0.19	N-65°-E	
102	11・11-1	2	X=61.217・61.219 Y=-91.917・-91.919	不整形円形	(2.23)	0.67	0.62	N-25°-W	99坑
103	11	2							53溝に変更
104	11	2	X=61.206・61.207 Y=-91.945・-91.946	不整形円形	1.40	1.10	0.26	N-15°-W	12掘立 P 1、331・538 P
105	11	2	X=61.210・61.211 Y=-91.943・-91.944	隅丸長方形	0.94	0.46	0.61	N-77°-E	12掘立
106	11	2	X=61.213・61.215 Y=-91.925・-91.926	隅丸長方形	1.35	1.22	0.61	N-24°-W	
107	11	2	X=61.198・61.200 Y=-91.932・-91.934	不整形円形	(1.65)	1.63	0.13	N-18°-W	
108	11	2	X=61.216・61.217 Y=-91.943・-91.945	不整形円形	(1.60)	1.51	0.23	N-17°-W	
109	11	2	X=61.203・61.204 Y=-91.965・-91.966	不整形円形	0.99	0.70	0.15	N-56°-E	
110	11	2	X=61.211・61.213 Y=-91.956・-91.958	不整形円形	1.95	1.59	0.22	N-27°-W	10掘立 P 5、13掘立
111	11	2	X=61.217・61.218 Y=-91.939・-91.940	長方形	1.14	0.55	0.12	N-86°-W	

番号	区	面	位置(グリッド)	形状	規模(m)			主軸方位	重複遺構
					長径	短径	深さ		
112	11	2	X=61.193・61.195 Y=-91.952・-91.954	隅丸長方形	1.98	1.53	0.13	N-34°-W	44・55溝
113	11	2	X=61.205・61.206 Y=-91.942・-91.943	隅丸長方形	1.04	0.51	0.07	N-26°-E	
114	11	2	X=61.204・61.205 Y=-91.941・-91.942	不整形円形	0.99	0.92	0.10	N-24°-W	
115	11	2	X=61.202・61.203 Y=-91.947・-91.948	不整形円形	1.17	1.12	0.16	N-61°-E	
116	11	3	X=61.220・61.222 Y=-91.924・-91.925	不整形円形	1.76	0.97	0.12	N-9°-W	
117	11・11-1	2	X=61.211・61.214 Y=-91.913・-91.918	長方形	5.17	0.65	0.50	N-62°-E	138坑
118	11	3	X=61.208・61.209 Y=-91.957・-91.958	不整形円形	1.09	0.95	0.23	N-0°	
119	11	3	X=61.203・61.204 Y=-91.960・-91.961	不整形円形	0.75	0.58	0.39	N-60°-E	
120	11	3	X=61.202・61.203 Y=-91.961・-91.962	不整形円形	1.09	0.70	0.09	N-20°-W	
121	11-1	2	X=61.237・61.238 Y=-91.871・-91.872	不整形円形	1.01	0.84	0.13	N-58°-E	
122	11-1	2	X=61.238・61.239 Y=-91.860	不整形円形	0.60	0.45	0.11	N-24°-W	
123	11-1	2	X=61.231・61.232 Y=-91.888・-91.889	不整形円形	(1.40)	0.50	0.26	N-52°-E	
124	11-1	2	X=61.223・61.224 Y=-91.883・-91.884	不整形円形	0.70	0.62	0.25	N-37°-E	
125	11-1	2	X=61.228・61.230 Y=-91.893・-91.894	隅丸長方形	2.06	0.57	0.31	N-28°-W	
126	11-1	2	X=61.227・61.228 Y=-91.902・-91.903	長方形	1.31	0.30	0.24	N-71°-E	
127	11-1	2	X=61.224・61.227 Y=-91.903・-91.906	長方形	(3.61)	0.65	0.53	N-35°-W	128坑
128	11-1	2	X=61.226・61.227 Y=-91.905・-91.906	不整形円形	(1.05)	0.83	0.17	N-28°-W	127坑
129	11-1	2	X=61.224・61.226 Y=-91.909・-91.913	長方形	4.50	0.50	0.37	N-64°-E	
130	11-1	2	X=61.220・61.222 Y=-91.910・-91.911	不整形円形	1.08	1.05	0.17	N-72°-E	
131	11-1	2	X=61.221・61.223 Y=-91.914・-91.915	不整形円形	1.31	1.14	0.36	N-19°-W	
132	11-1	2	X=61.220・61.222 Y=-91.911・-91.912	長方形	2.66	0.56	0.43	N-33°-W	
133	11-1	2	X=61.215・61.217 Y=-91.900・-91.903	隅丸長方形	3.02	0.52	0.70	N-50°-E	
134	11-1	2	X=61.219・61.221 Y=-91.913・-91.917	長方形	4.12	0.75	0.36	N-64°-E	
135	11-1	2	X=61.214・61.216 Y=-91.907・-91.910	隅丸長方形	3.65	0.67	0.23	N-65°-E	
136	11-1	2	X=61.220・61.224 Y=-91.886・-91.890	長方形	4.06	1.80	0.17	N-54°-E	
137	11-1	2	X=61.212・61.214 Y=-91.910・-91.912	不整形円形	1.86	1.85	0.73	N-26°-W	
138	11-1	3	X=61.212・61.214 Y=-91.915・-91.917	不整形円形	2.14	(0.72)	0.25	N-52°-E	138坑、117坑(2面)
139	11-1	4	X=61.221・61.222 Y=-91.899・-91.900	不整形円形	1.25	(1.02)	0.32	N-20°-W	188坑(3面)
140	11-1	4							1 竪穴状に変更
141	11-1	4	X=61.224・61.226 Y=-91.905・-91.907	不整形円形	2.15	(1.85)	0.22	N-26°-W	128坑(2面)と重複
142	11-1	4	X=61.213・61.215 Y=-91.905・-91.907	不整形円形	1.98	1.29	0.32	N-11°-E	
143	11	3	X=61.212・61.213 Y=-91.918・-91.920	不整形円形	1.78	0.87	0.43	N-52°-W	138坑
144	11-1	3	X=61.222・61.224 Y=-91.893・-91.895	長方形	2.78	0.50	0.59	N-56°-E	
145	11-1	3	X=61.219・61.220 Y=-91.907・-91.908	不整形円形	0.88	(0.67)	0.28	N-15°-W	188坑













遺物観察表

遺物観察表

第8表 遺物観察表

58号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第9図	1	肥前陶器 青緑釉皿	埋没土 1/8	口	(16.0)		灰白	口縁部屈曲する。内面は青緑色釉、外面は透明に近い釉。	17世紀後半

59号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第12図 PL.58	1	古墳以降 砥石	+ 2 欠損	長 幅	101 31	厚 重	22 99.8	凝灰岩	角柱状を呈する。表裏面に顕著な研磨痕。

6号土手出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第16図 PL.58	1	瀬戸・美濃 陶器 腰鍔碗	埋没土 1/8	口	(9.4)		灰白	外面の口縁部下に螺旋状凹線。内面から口縁部外面に灰釉。外面の凹線部以下に鉄釉。	18世紀中葉～ 後葉

1号建物出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第34図 PL.58	1	瀬戸・美濃 陶器 掛け分け拳 骨碗	+ 2 体部下位から底 部	底	5.0		灰白	内面は灰釉。外面は高台端部を除き錆釉。体部に長石釉を散らし、外面の一部を窪ませる。高台端部に文字押印。	17世紀後葉～ 18世紀前葉
第35図 PL.58	2	瀬戸・美濃 陶器 香炉	床直 底部1/2					残存部は無釉。残存部に貼り付け脚2ヶ所残存。腰部外面から底部外面は回転筒削り。	江戸時代

1号列石出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第77図 PL.58	1	古墳以降 石臼	埋没土 欠損	長 幅	222 167	厚 重	111 3883.1	粗粒輝石安山岩	1/4程度の欠損品、上面は有縁で平坦、下面は緩やかに湾曲し中心部に軸孔を持つ。
第77図 PL.58	2	古墳以降 石鉢	+ 2 欠損	長 幅	189 111	厚 重	106 1105.6	粗粒輝石安山岩	1/4程度が残存、中央部が椀状に深く窪む。

137号土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第86図 PL.58	1	古墳以降 石臼	+19 欠損	長 幅	202 202	厚 重	123 4283.6	粗粒輝石安山岩	1/6程度の欠損品、裏面は緩やかに湾曲し副溝が刻まれる。中央部に軸孔(径30mm、深さ28mm)、やや外側に物入れ孔が穿孔される。

9号掘立柱建物出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
PL.58	1	鉄滓	埋没土	長 幅	5.3 4.8				

164号ピット出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
PL.58	1	鉄滓	埋没土 1/2	長 幅	13.2 8.9				下面は丸みを帯び、上面は比較的平ら。滓質はやや密。酸化土砂が付着する。

4号竪穴建物出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第91図 PL.59	1	土師器 器台	+ 1 一部欠	口 稜	8.4 6.6	脚 高	9.6 7.9	細砂粒/良好/にぶ い橙	外面ヘラナゲ、横ナゲのちヘラミガキ。内面ヘラミガキ。透かし孔3ヶ所。
第91図	2	土師器 台付甕	埋没土 口縁部片					細砂粒/良好/黒褐	口縁部横ナゲ、頸部ハケメ。

5号竪穴建物出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第92図 PL.59	1	土師器 直口壺	+ 2 口縁部～頸部	口	12.3			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面縦方向のヘラミガキ、内面横方向のヘラミガキ。

6号竪穴建物出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高さ	底			
第96図 PL.59	1	土師器 杯	埋没土 口縁部～体部片	口	14.9		細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	外面口縁部横ナデ、稜下ヘラケズリか。内面横方向のヘラミガキ、黒色処理。	後田型杯
第96図 PL.59	2	須恵器 杯身	+16 体部片	稜	15.0		細砂粒・粗砂粒/ 良好/黄灰	ロクロ左回転。	
第96図 PL.59	3	須恵器 甕	+ 8 一部欠	口 高	13.7 18.0		細砂粒/良好/黄灰	口縁部～頸部凸線で3段に区画。内部に波状文がめぐる。胴部を凸線と稜で区画、内部に刺突文めぐる。底部手持ちヘラケズリ。胴部ロクロ右回転。	
第96図 PL.59	4	土師器 甕	+13 口縁部～底部	口 底	15.3 6.5		細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	外面口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ。内面横ナデ。	
第96図 PL.59	5	土師器 甕	埋没土 底部～胴部	底	8.0		細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	外面ヘラケズリ、ヘラミガキ。内面横ナデ。	
第96図 PL.59	6	土師器 甕	+21 口縁部片				細砂粒/良好/褐	内外面横ナデ。	6～8 同一個 体か
第96図 PL.59	7	土師器 甕	埋没土 胴部片				細砂粒/良好/褐	外面ヘラケズリか。のちヘラミガキ。	6～8 同一個 体か
第96図 PL.59	8	土師器 甕	+31 胴部片				細砂粒/良好/褐	外面ヘラケズリか。	6～8 同一個 体か

7号竪穴建物出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高さ	底				
第100図 PL.59	1	弥生土器 甕	+ 4 + 9 口縁～胴下位破片	口	(11.6)		細砂/良好	口縁から肩部にかけて櫛描波状文を多段にめぐらす。施文具は5歯、11mm。胴部縦ミガキ、内面横ミガキ。	樽式	
第100図 PL.59	2	弥生土器 甕	床直 + 4 口縁～胴中位1/2	口	10.6		細砂/良好	口縁から肩部にかけて櫛描波状文を多段にめぐらす。施文具は7歯、13mm。胴部縦ミガキ、内面横ミガキ。	樽式	
第100図 PL.59	3	弥生土器 甕	+ 1 口縁～胴中位1/3	口	13.5		細砂/良好	頸部に等幅の廉状文、口頸部、肩部に櫛描波状文をめぐらす。簾状文は波状文のあとに施文している。施文具は7歯、12mm。胴部縦ミガキ、内面横ミガキ。	樽式	
第100図 PL.60	4	弥生土器 壺	+ 1 口縁～頸部	口	22.0		細砂/良好	折り返し状の肥厚口縁。頸部にやや蛇行する櫛描横線文をめぐらし、櫛描縦線文で区切る。施文具は7歯、11mm。口頸部縦ハケメ後、縦ミガキ、内面横ミガキ。	樽式	
第100図 PL.60	5	弥生土器 壺	床直 口縁～頸部				粗砂/良好	折り返し状の肥厚口縁。頸部に3連止め廉状文、廉状文上下位に櫛描波状文をめぐらす。施文具は10歯、20mm。口頸部縦ハケメ後、縦ミガキ、内面横ミガキ。口端部を故意に欠いているように見える。内面もかなり剥がれており、敲打しているか。	樽式	
第100図 PL.60	6	弥生土器 甕	床直 肩部～底部1/2	底	6.8		細砂/良好	肩部に櫛描横線文をめぐらす。胴部縦ミガキ、内面横ミガキ。	樽式	
第100図 PL.60	7	弥生土器 甕	+ 1 ~ + 7 胴下位～底部破片	底	5.9		細砂/良好	胴下位縦ミガキ、内面横ミガキ。	樽式	
第100図 PL.60	8	弥生土器 甕	+28 底部破片	底	5.5		細砂/良好	胴下位縦ミガキ、内面横ミガキ。	樽式	
第100図 PL.60	9	剥片石器 磨製石器	+ 2 完形	長 幅	71 47	厚 重	7 25.5	粗粒輝石安山岩	著しく薄手の扁平礫を素材とし、表裏両面と縁辺部を研磨して両刃の刃部(刃部角約45度)を作出。竪穴建物床面出土で、遺構共伴の可能性はある。	
第100図 PL.60	10	礫石器 台石	+ 7 完形	長 幅	140 105	厚 重	55 967.1	粗粒輝石安山岩	断面三角形の礫を素材、表面の一部、右側面、平坦な裏面に磨耗痕、上下両端部に剥離痕。	

8号竪穴建物出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				脚	長さ	厚重				
第104図 PL.60	1	土師器 器台	+24 脚部～底部片	脚	10.2		細砂粒/良好/橙	外面ヘラナデのちヘラミガキ。内面ナデ。透かし孔3ヶ所。		
第104図	2	土師器 埴	+33 口縁部～頸部片	口	16.2		細砂粒/良好/にぶい 黄橙	内外面に横方向のヘラミガキ。		
第104図 PL.60	3	土師器 台付甕	+43 口縁部～胴中央部	口	14.5		細砂粒/良好/にぶい 黄橙	口縁部横ナデ、胴部ハケメ(8本/cm)。内面指頭痕。	S字状口縁台 付甕	
第104図 PL.60	4	礫石器 台石	+25 完形	長 幅	189 144	厚 重	80 3378.1	粗粒輝石安山岩	扁平な大型の楕円礫を素材、表面に磨耗痕と浅い凹み。	
第104図 PL.60	5	礫石器 砥石	+ 6 完形	長 幅	117 116	厚 重	55 1054.7	粗粒輝石安山岩	扁平な台形状の亜円礫を素材、表裏面に磨耗痕。	

9号竪穴建物出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高さ	底			
第106図 PL.61	1	土師器 台付甕	+ 4 口縁部～脚台部	口	14.0		細砂粒/良好/暗灰 黄	口縁部横ナデ、胴部ハケメ(6本/cm)。内面ナデ。	S字状口縁台 付甕

遺物観察表

挿図 PL.No	No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第106図	2	土師器 台付甕	+ 2 口縁部～胴部上 位片	口	15.0		細砂粒/良好/黒褐	口縁部横ナデ、胴部ハケメ(6本/cm)。内面指頭痕。	S字状口縁台 付甕
第106図 PL.61	3	土師器 台付甕	+ 4 脚台部～底部	脚	9.4		細砂粒/良好/にぶ い黄褐	外面ハケメ(7本/cm)。内面ナデ。	S字状口縁台 付甕

10号竪穴建物出土遺物

挿図 PL.No	No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第108図	1	土師器 杯	+ 7～+31 口縁部～体部片	口	14.8		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ。内面ヘラミガキ。	内斜口縁杯

12号竪穴建物出土遺物

挿図 PL.No	No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第113図 PL.61	1	土師器 杯	+17 口縁部～体部片	口	13.9		細砂粒・粗砂粒/良 好/赤褐	口縁部～体部上位ヘラミガキ。体部～底部ヘラケズリ。内 面ヘラミガキ。	内斜口縁杯
第113図	2	土師器 杯	+ 8 口縁部～体部片	口	13.9		細砂粒・粗砂粒/良 好/にぶい褐	口縁部～体部上位横ナデ、底部ヘラケズリ。	内斜口縁杯
第113図 PL.61	3	土師器 甕	+ 4 口縁部～胴部上 位1/4	口	13.7		細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。内面頸部指頭痕。	
第113図 PL.61	4	土師器 甕	+ 2～+ 9 口縁部～胴部下 位1/4	口	19.6		細砂粒・粗砂粒/良 好/にぶい橙	口縁部横ナデ、胴部上位ハケ状工具による調整、胴部下位 ヘラケズリ。内面頸部ハケ状工具による調整、胴部ナデ。	

13号竪穴建物出土遺物

挿図 PL.No	No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第118図 PL.61	1	土師器 杯	+ 2～+ 5 ほぼ完形	口 高	13.9 4.8		細砂粒/良好/にぶ い黄褐	口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ。内面ヘラミガキカ。	内斜口縁杯
第118図 PL.61	2	土師器 杯	+ 5 ほぼ完形	口 高	14.0 5.3		細砂粒・粗砂粒/良 好/褐	口縁部横ナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面ヘラミガキ。	内斜口縁杯
第118図 PL.61	3	土師器 杯	+10 完形	口 稜	12.4 11.6	高 5.6	細砂粒・粗砂粒/良 好/明褐	口縁部横ナデ、稜下～底部ヘラケズリ。内面ナデ。	蓋模倣杯
第118図 PL.61	4	土師器 甕	+11 ほぼ完形	口 底	14.6 5.3	高 13.3	細砂粒・粗砂粒/良 好/明褐	口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ。内面ヘラナデ。	
第118図 PL.61	5	土師器 小型甕	+10 口縁部一部欠	口 底	11.5 4.2	高 10.5	細砂粒・粗砂粒/良 好/にぶい黄褐	口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ。内面ヘラナデ。	
第118図 PL.62	6	土師器 杯	+28 完形	口 高	11.3 5.6		細砂粒/良好/暗赤 褐	口縁部横ナデ、体部～底部ヘラケズリ。	内湾杯
第118図 PL.62	7	土師器 杯	+16 完形	口 高	12.3 5.4		細砂粒・粗砂粒/良 好/明赤褐	口縁部横ナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面ヘラミガキ。	内湾杯
第118図 PL.62	8	土師器 杯	+10～+12 一部欠	口 高	13.6 5.2		細砂粒・粗砂粒/良 好/明赤褐	口縁部横ナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面ヘラミガキ。	内斜口縁杯
第118図	9	土師器 杯	+10 口縁部～体部片	口	12.8		細砂粒/良好/褐	口縁部横ナデ、内面ヘラミガキ。	内湾杯
第118図 PL.62	10	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部1/4	口	13.4		細砂粒・粗砂粒/良 好/明赤褐	口縁部横ナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面ヘラミガキ。	内斜口縁杯
第118図 PL.62	11	土師器 杯	埋没土 口縁部～体部片	口	13.7		細砂粒・粗砂粒/良 好/明赤褐	口縁部横ナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面ヘラミガキ。	内斜口縁杯
第118図	12	土師器 杯	埋没土 口縁部～体部片	口	13.6		細砂粒・粗砂粒/良 好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面ヘラミガキ。	内斜口縁杯
第118図	13	土師器 高杯	+ 7 杯底部～体部片				細砂粒・粗砂粒/良 好/橙	内外面ヘラミガキ。	
第118図 PL.62	14	土師器 甕	床直～+22 口縁部～頸部	口	21.5		細砂粒・粗砂粒/良 好/黒褐	口縁部横ナデ、頸部ヘラナデ。	
第118図 PL.62	15	土師器 甕	+19 口縁部～頸部	口	19.8		細砂粒・粗砂粒/良 好/にぶい黄褐	口縁部横ナデ、胴部上位横方向のヘラケズリ。内面ヘラナ デ。	
第118図 PL.62	16	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴中央 部片	口	21.6		細砂粒・粗砂粒/良 好/にぶい黄褐	口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。内面ヘラナデ。	
第118図 PL.62	17	土師器 短頸壺	+ 2 2/3	口 底	8.1 6.0	高 8.4	細砂粒・粗砂粒/良 好/にぶい橙	口縁部横ナデ、胴部下位ナデ。内面ナデ。内外面に輪積痕 残存。	
第118図 PL.62	18	土師器 甕	+ 7 一部欠	口 底	18.3 8.8	高 25.6	細砂粒・粗砂粒/良 好/褐	口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ。内面ヘラナデ。	
第119図 PL.62	19	古墳以降 砥石	+15 完形	長 幅	200 106	厚 重 84 2720.1	粗粒輝石安山岩	角柱状の礫を素材、右側面に平坦面を形成した磨耗痕。	

## 14号竪穴建物出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高	厚重			
第121図	1	土師器 杯	埋没土 口縁部～体部片	口	11.7		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部横ナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面ナデ。	内湾杯
第121図	2	土師器 杯	埋没土 口縁部～体部片	口	11.8		細砂粒・粗砂粒/良 好/褐	口縁部横ナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面ヘラミガキ。	内湾杯
第121図	3	土師器 杯	+ 6 口縁部～体部片	口	13.6		細砂粒/良好/赤褐	口縁部横ナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面ヘラミガキ。	内斜口縁杯
第121図	4	土師器 杯	+11 口縁部～体部片	口	14.0		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部横ナデ、体部ヘラナデ、底部ヘラケズリ。内面ヘラ ミガキ。	内斜口縁杯
第121図 PL.63	5	土師器 杯	+ 6 ~+20 3/4	口 高	14.7 5.6		細砂粒・粗砂粒/良 好/にぶい赤褐	口縁部横ナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面ヘラミガキ。	内斜口縁杯
第121図	6	土師器 杯	+ 6 ~+11 口縁部～体部片	口	12.5		細砂粒/良好/赤褐	内外面ヘラミガキ。口縁部下位凹部ナデ1周めぐる。	
第121図	7	土師器 高杯	+ 7 脚部～底部片	脚	8.8		細砂粒・粗砂粒/良 好/明赤褐	内外面ナデ。	低脚高杯
第121図	8	土師器 高杯	+ 3 脚部片				細砂粒/良好/にぶ い黄褐	外面ナデのちヘラミガキ。内面上部ナデ、下部に粘土紐痕。	
第121図	9	土師器 甕	+17 口縁部～頸部片	口	17.4		細砂粒・粗砂粒/良 好/橙	口縁部横ナデ。	
第121図 PL.63	10	古墳以降 管玉	+ 9 完形	長 幅	18 7	厚 重 7 1.6	蛇紋岩	丁寧に研磨して整形、穿孔孔径は約2mm。	

## 15号竪穴建物出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高	厚重			
第124図 PL.63	1	弥生土器 甕	床直 ほぼ完形	口 底	18.5 6.8	高 25.0	細砂、赤色粒/良 好	折り返し状の肥厚口縁。頸部に櫛描横線文、口頸部、肩部 に櫛描波状文をめぐらす。肥厚部にも波状文を施文。施文 具は9歯、14mm。胴部縦ミガキ、内面横ミガキ。底面ミガキ。	樽式
第124図 PL.63	2	弥生土器 甕	埋没土 口縁～胴中位1/2	口	17.4		細砂、細礫/良好	折り返し状の肥厚口縁。頸部に4連止め廉状文、口頸部、 肩部に櫛描波状文をめぐらす。肥厚部に波状文は施文しない。施文具は10歯、14mm。胴中位、内面横ミガキ。施文前 にハケメ整形。	樽式
第124図 PL.63	3	弥生土器 甕	埋没土 口縁～肩部	口	14.5		細砂/良好	口縁から頸部にかけて櫛描波状文を多段にめぐらす。施文 具は10歯、17mm。内面横ミガキ。	樽式
第124図 PL.63	4	弥生土器 壺	床直 口辺～肩部				粗砂/良好	頸部に3連止め廉状文、肩部に櫛描波状文をめぐらす。施 文具は8歯、11mm。口頸部縦ミガキ、胴上位、内面横ミガキ。	樽式
第124図 PL.63	5	弥生土器 壺	床直 胴中位～底部破 片	底	13.0		細砂、細礫/良好	胴中位でくの字状に緩く内屈する。胴中位横、下位縦ミガ キ、内面横ハケメ。底面周縁磨滅。	樽式
第124図 PL.64	6	弥生土器 甕	+ 3 胴下位～底部破 片	底	6.6		細砂/良好	胴下位縦ミガキ、内面横ミガキ。	樽式
第124図 PL.64	7	弥生土器 甕	+ 1 底部破片	底	5.5		細砂/良好	胴下位縦ナデ、内面ハケメ後、ナデ。	樽式
第124図	8	土師器 高杯か	+ 3 脚部片	底	5.6		細砂粒/良好/にぶ い赤褐	外面ヘラミガキ。内面ナデ。	
第124図 PL.64	9	礫石器 磨石	床直 完形	長 幅	133 92	厚 重 40 775.7	石英閃緑岩	偏平な幅広の楕円礫を素材、表裏面と側縁に磨耗痕、敲打 痕が認められる。	

## 16号竪穴建物出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高	厚重			
第128図 PL.64	1	土師器 杯	+ 4 ~+12 口縁部～底部1/3	口	12.8		細砂粒・粗砂粒/良 好/明赤褐	口縁部横ナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面ヘラミガキ。	内湾杯
第128図	2	土師器 杯	カマド 口縁部～底部片	口	12.8		細砂粒・粗砂粒/良 好/明赤褐	口縁部横ナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面ヘラミガキ。	内湾杯
第128図 PL.64	3	土師器 杯	+ 5 口縁部～体部片	口	13.5		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部横ナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面ヘラミガキ。	内斜口縁杯
第128図	4	土師器 杯	+ 9 口縁部～体部1/4	口	13.6		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部横ナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面ヘラミガキ。	内湾杯
第128図	5	土師器 杯	+16 口縁部～体部片	口	14.0		細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部横ナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面ヘラミガキ。	内湾杯
第128図 PL.64	6	土師器 杯	+21 1/2	口 高	15.0 4.6		細砂粒・粗砂粒/良 好/橙	口縁部横ナデ、体部ヘラナデ、底部ヘラケズリ。内面ナデ。	内湾杯か
第128図 PL.64	7	土師器 杯	+ 2 口縁部～底部片	口	13.2		細砂粒・粗砂粒/良 好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面ナデ。	
第128図 PL.64	8	土師器 高杯	+ 8 脚部1/3	脚	12.8		細砂粒・粗砂粒/良 好/明赤褐	脚部を羽口に転用。上部に鈎滓付着。外面ヘラナデのちヘ ラミガキ。内面ナデ。	
第128図 PL.64	9	土師器 高杯	+ 8 脚部1/2	脚	12.4		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	脚部を羽口に転用。外面ヘラナデのちヘラミガキ。内面ナ デ。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第128図 PL.64	10	土師器 有孔鉢	+ 6 1/2	口 孔	15.1 1.6	高	10.1	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面上部ヘラナデ、下部ヘラケズリのち全面にヘラミガキ。 内面ヘラナデのちヘラミガキ。
第128図	11	土師器 埴	+15 口縁部片	口	10.0			細砂粒/良好/明赤 褐	内外面横ナデ、のちヘラミガキ。
第128図 PL.64	12	土師器 小壺	+29 1/2	口 底	8.0 5.6	高	9.9	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部横ナデ、胴部ハケ状工具での調整。内面ヘラナデ。
第128図 PL.64	13	土師器 甕	+16 口縁部～胴上半 部片	口	14.4			細砂粒・粗砂粒/良 好/にぶい褐	口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。内面胴部上位ヘラナデ。
第128図 PL.64	14	土師器 甕	+24 口縁部～頸部片	口	14.4			細砂粒/良好/黒	口縁部横ナデ、頸部ヘラナデ。内面頸部ハケ状工具による 調整。外面黒色。
第128図 PL.64	15	土師器 甕	+ 5 口縁部～胴上半 部	口	16.6			細砂粒・粗砂粒/良 好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。内面頸部指頭痕、胴部ヘラ ナデ。
第128図 PL.65	16	土師器 甕	+14 口縁部～胴上半 部片	口	18.4			細砂粒/良好/黒	外面口縁部横ナデ、頸部ハケ状工具による調整のちヘラナ デ。内面口縁部下位ハケ状工具による調整、頸部に指頭痕。 外面黒色。
第128図 PL.65	17	土師器 甕	+12 口縁部～胴上半 部片					細砂粒/良好/黒	外面頸部ヘラナデ、胴部ハケ状工具による調整。内面頸部 指頭痕、胴部ヘラナデ。外面黒色。
第128図 PL.65	18	土師器 甕	+ 6 底部～胴部上位	底	7.6			細砂粒・粗砂粒/良 好/橙	胴部上位ヘラナデ、ハケ状工具による調整、胴部下位ヘラ ケズリ。内面ハケ状工具による調整。外面スコゲ。
第129図 PL.65	19	古墳以降 石製模造品	+ 9 完形	長 幅	29 18	厚 重	3 2.9	珪質粘板岩	上部に穿孔部を持つ。表裏両面と側面を研磨しているが、 整形が粗く定形的な形態を有しないため未成品と考えられ る。
第129図 PL.65	20	古墳以降 石製模造品	+16 完形	長 幅	58 21	厚 重	8 11	滑石	上部に穿孔部を持つ。全体的な整形が粗く定形的な形態を 有しないため未成品と考えられる。
第129図 PL.65	21	古墳以降 白玉	+43 完形	長 幅	7 7	厚 重	3 0.2	滑石	上下両面とも分割後に整形、孔径2mm。

17号竪穴建物出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第132図 PL.65	1	弥生土器 甕	+ 1 口縁～胴上位破 片	口	(22.5)			細砂/良好	頸部に3連止め廉状文、口頸部、肩部に櫛描波状文をめぐ らす。施文具は8歯、15mm。胴部縦ミガキ、内面横ミガキ。
第132図 PL.65	2	弥生土器 甕	+ 5 口縁～胴中位1/2	口	11.5			細砂/良好	口縁から頸部にかけて櫛描波状文を多段にめぐらす。施文 具は8歯、15mm。胴中位、内面横ミガキ。
第132図 PL.65	3	弥生土器 甕	埋没土 口縁部破片					細砂/良好	口頸部に櫛描波状文をめぐらす。施文具は9歯15mm。内面 横ミガキ。
第132図 PL.65	4	弥生土器 甕	+ 1 口縁～胴中位1/3	口	12.5			細砂/良好	折り返し状の肥厚口縁。口縁から肩部にかけて櫛描波状文 を多段にめぐらす。肥厚部にも波状文を施文。施文具は9 歯、14mm。胴部縦ミガキ、内面横ミガキ。
第132図 PL.65	5	弥生土器 甕	埋没土 口縁部破片					細砂/良好	折り返し状の肥厚口縁。頸部に3連止め廉状文、口頸部に 櫛描波状文をめぐらす。肥厚部にも波状文を施文。施文具 は7歯、11mm。内面横ミガキ。
第132図 PL.66	6	弥生土器 甕	床直 底部破片	底	6.3			細砂/良好	胴下位ハケメ後、縦ミガキ、内面横ミガキ。
第132図 PL.66	7	弥生土器 甕	+ 9 底部破片	底	8.0			細砂/良好	胴下位縦ミガキ、内面横ミガキ。底面ミガキ。
第132図 PL.66	8	弥生土器 甕	床直 底部破片	底	6.0			細砂、繊維/良好	胴下位斜位ミガキ、内面横ミガキ。底面ミガキ。
第132図 PL.66	9	弥生土器 甕	+ 2 底部破片	底	5.3			粗砂/良好	肩部に櫛描波状文をめぐらす。胴部縦ミガキ、内面横ミガ キ。
第133図	10	土師器 高杯	+15 脚部	底	5.1			細砂粒/良好/黒褐	外面ヘラミガキ。内面ヘラナデ、ハケメ(10本/cm)。
第133図 PL.66	11	土師器 高杯	+ 2 脚部～底部	底	6.7			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面ヘラミガキ。内面ナデ。外面被熱。
第133図 PL.66	12	土師器 高杯	+ 9 脚部～底部	底	7.4			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面ヘラミガキ、内面ナデ。
第133図 PL.66	13	土師器 高杯	+ 1 脚部	底	8.1			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面ヘラミガキ。内面ナデ。
第133図 PL.66	14	土師器 高杯	床直 脚部～底部	底	9.4			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面ヘラミガキ。内面ハケメ(6本/cm)。
第133図 PL.66	15	土師器 鉢	+26 口縁部～底部片	口 底	13.0 4.4	高	5.4	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	内外面ナデ、ヘラミガキか。

18号竪穴建物出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第138図 PL.66	1	土師器 杯	+ 6～+13 口縁部一部欠	口 高	14.0 6.6			細砂粒・粗砂粒/良 好/にぶい褐	口縁部横ナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面ヘラミガキ。 内斜口縁杯

遺物観察表

挿図 PL.No	No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第138図 PL.66	2	土師器 杯	+9～+17 1/2	口	14.8		細砂粒・粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部横ナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面ヘラミガキ。	内斜口縁杯
第138図 PL.66	3	土師器 杯	+10 1/2	口	14.6		細砂粒・粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部横ナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面ヘラミガキ。	内斜口縁杯
第138図 PL.66	4	土師器 杯	+8 口縁部～底部片	口	16.2		細砂粒・粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部横ナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面ヘラミガキ。	内斜口縁杯
第138図 PL.66	5	土師器 杯	埋没土 口縁部～体部片	口	13.0		細砂粒・粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ。内面ヘラミガキ。	内斜口縁杯
第138図 PL.66	6	土師器 杯	埋没土 1/3	口	11.0		細砂粒・粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部横ナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面ヘラミガキ。	内湾杯
第138図 PL.66	7	土師器 杯	埋没土 1/3	口 稜	13.2 12.8	高 5.4	細砂粒・粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部横ナデ、稜下～底部ヘラケズリ。内面ナデ。	蓋模倣杯
第138図 PL.66	8	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口 稜	13.2 12.3		細砂粒/良好/橙	口縁部下位に稜。口縁部横ナデ、稜～稜下ヘラミガキ、体部～底部ヘラケズリ。内面口縁部横方向のヘラミガキ、体部～底部縦方向のヘラミガキ。	
第138図 PL.66	9	土師器 椀	+2 完形	口 底	12.3 4.9	高 7.7	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ。	
第138図 PL.66	10	土師器 短頸壺	埋没土 1/4	口 高	12.1 6.4		細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部横ナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面黒色処理か。	
第138図 PL.66	11	土師器 椀	+8～+20 1/3	口 高	13.4 8.2		細砂粒/良好/明赤褐	外面口縁部横ナデ、体部上位ハケ状工具による調整。体部下位～底部ヘラケズリ。内面ハケ状工具による調整。	
第138図 PL.66	12	土師器 高杯	埋没土 杯部1/2	口	16.8		細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ、杯底部ヘラケズリ。内面ヘラナデ。	
第138図 PL.66	13	土師器 高杯	+6 底部～脚部				細砂粒/良好/暗褐	外面ヘラナデ、内面輪積痕。	
第138図 PL.66	14	土師器 高杯	+3 脚部				細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄橙	外面ヘラナデ、ヘラミガキ。内面ヘラナデ。	
第138図 PL.66	15	土師器 高杯	埋没土 脚部片				細砂粒/良好/褐	外面ヘラミガキ。内面ナデ。	
第138図 PL.66	16	須恵器 取手付椀か	埋没土 口縁部～体部片	口	9.7		細砂粒/良好/灰	体部凸線で2段に区画、内部に波状文巡る。内面自然釉付着。	
第138図 PL.67	17	土師器 小壺	+8 底部～頸部2/3	胴 底	12.5 4.8		細砂粒・粗砂粒/良好/明褐	頸部横ナデ、胴部上位ヘラナデ、胴部下位ヘラケズリ。内面輪積痕残存、ハケ状工具による調整。	
第138図 PL.67	18	土師器 壺	+8 底部～胴部片	胴	14.2		細砂粒・粗砂粒/良好/明赤褐	胴部上位ヘラミガキ、胴部下位～底部ヘラケズリ。内面ナデ。	
第138図 PL.67	19	須恵器 甕	埋没土 口縁部片				細砂粒/良好/灰	ロクロ成形。口縁部下に凸線。	
第138図 PL.67	20	須恵器 短頸壺	+24 口縁部片				細砂粒/良好/灰	内外面に自然釉付着。	
第138図 PL.67	21	土師器 壺	+8～+12 4/5	口 胴	19.3 20.4		細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ、頸部～胴部ハケ状工具による調整・ヘラケズリ。内面ヘラナデ・ハケ状工具による調整。	
第138図 PL.67	22	土師器 壺	+14～+18 3/4	口 底	13.6 7.0	高 9.4	細砂粒/良好/にぶい橙	外面ヘラケズリ。内面口縁部ナデのちヘラミガキ、胴部ヘラミガキ。	
第139図 PL.67	23	土師器 壺	+8 2/3	口 底	17.4 7.2	高 27.7	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ、頸部～胴部ハケ状工具による調整のちヘラケズリ。内面ヘラナデ。	
第139図 PL.67	24	土師器 壺	+1 2/3	口 底	15.3 7.5	高 28.9	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ。内面ナデ。	
第139図 PL.68	25	土師器 甕	+1～+11 2/3	口 底	15.7 6.7	高 29.6	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ、胴部上位ハケ状工具による調整、胴部下位ヘラケズリ。内面ハケ状工具による調整。	
第139図 PL.68	26	土師器 壺	+14 1/3	口	17.2		細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ、胴部ハケ状工具による調整・ヘラケズリ。内面ハケ状工具による調整・ヘラナデ。	
第139図 PL.67	27	土師器 甕	+8～+11 口縁部～胴部中位	口	15.8		細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、頸部ナデ、胴部ハケ状工具による調整。内面ナデ。	
第139図 PL.67	28	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上位片	口	24.8		細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部上位横ナデ、口縁部下位～頸部ハケ状工具による調整、胴部上位ヘラナデ。内面口縁部ハケ状工具による調整、胴部ヘラナデ。	
第140図 PL.68	29	土師器 甕	+7 口縁部～胴部上位	口	14.0		細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、胴部上位ヘラナデ。内面ナデ。	
第140図	30	土師器 甕	+10 口縁部～胴部上位片	口	17.8		細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。内面ナデ。	
第140図	31	土師器 甕	+10 口縁部～胴部上位片	口	18.6		細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。内面ヘラナデ。	
第140図	32	土師器 甕	+4～+14 口縁部～胴部上位片	口	16.8		細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ・ヘラケズリ。内面ヘラナデ。	
第140図	33	土師器 甕	+14 口縁部～胴部上位片	口	16.0		細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ・ハケ状工具による調整。内面ナデ。	



遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第140図	34	土師器 甕	+ 4 口縁部～胴部上 位片	口	17.8		細砂粒・粗砂粒/良 好/にぶい橙	口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。内面胴部ヘラナデ。	
第140図 PL.68	35	土師器 甕	+ 5 底部～胴部下位	底	6.0		細砂粒・粗砂粒/良 好/にぶい褐	外面ヘラケズリ。内面ヘラナデ。	
第140図 PL.68	36	土師器 甕	+15 底部～胴部下位	底	7.0		細砂粒・粗砂粒/良 好/にぶい橙	外面ナデ・ヘラケズリ。内面ナデ・ハケ状工具による調整。	
第140図 PL.68	37	土師器 甕か	+13～+14 胴部片				細砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面黒色。ヘラナデ・ハケ状工具による調整。内面ヘラナデ。	
第140図 PL.68	38	須恵器 壺	+14 口縁部～頸部1/3	口	15.2		細砂粒/良好/灰	口縁部中央に波状文。内面に自然軸付着。	
第141図 PL.68	39	古墳以降 砥石	+ 1 完形	長 幅	145 厚 100	57 重 1347.7	細粒輝石安山岩	表裏面と左右両側面に顕著な研磨痕が認められる。左右両側面は研磨によりくびれている。	

19号竪穴建物出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第142図 PL.68	1	弥生土器 甕	+ 2 口縁～胴中位破 片	口	(15.2)		細砂/良好	口径に対して器高が低く、口縁が強く開く。頸部に櫛描横線文、口頸部、肩部に櫛描波状文をめぐらす。施文具は8歯、12mm。胴中位、内面横ミガキ。	樽式
第142図 PL.68	2	土師器 壺か	+19 底部～胴部下位	底	4.3		細砂粒/良好/にぶ い黄褐	胴部ヘラミガキ。内面ナデ。	

20号竪穴建物出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第146図 PL.69	1	弥生土器 甕	埋没土 口縁～胴上位1/3	口	(22.0)		細砂/良好	頸部に3連止め廉状文、口頸部、肩部に櫛描波状文をめぐらす。施文具は12歯、15mm。胴中位、内面横ミガキ。	樽式
第146図 PL.69	2	弥生土器 甕	埋没土 口縁～胴上位1/3	口	(16.3)		粗砂/良好	折り返し状の肥厚口縁。頸部に3連止め廉状文、口頸部、肩部に櫛描波状文をめぐらす。肥厚部にも波状文を施文。施文具は8歯、13mm。胴部縦ミガキ、内面横ミガキ。	樽式
第146図 PL.69	3	弥生土器 甕	埋没土 口縁～胴中位1/2	口	17.2		細砂、細礫/良好	口縁から肩部にかけて櫛描波状文を多段にめぐらす。施文具は9歯、15mm。胴部縦ミガキ、内面横ミガキ。	樽式
第146図 PL.69	4	土師器 甕	+ 7 口縁部破片				細砂/良好	頸部に2連止め廉状文、口頸部に櫛描波状文をめぐらす。施文具は10歯、16mm。内面横ミガキ。	樽式
第146図 PL.69	5	弥生土器 甕	+ 2 胴下位～底部破 片	底	7.0		細砂/良好	胴下位縦ミガキ、内面横ミガキ。	樽式
第146図 PL.69	6	弥生土器 甕	床直 底部破片	底	5.5		細砂/良好	胴下位縦ミガキ、内面横ミガキ。	樽式
第146図 PL.69	7	弥生土器 蓋	+11～+39 3/4	摘 口	3.1 高 13.0	6.8	細砂粒・粗砂粒/良 好/明赤褐	内外面ヘラミガキ。	
第146図 PL.69	8	土師器 有孔鉢	+17 一部欠	口 底	15.6 孔 4.3	1.4 高 9.0	細砂粒・粗砂粒/良 好/明赤褐	折り返し口縁。外面縦方向のヘラミガキ。内面横方向のヘラミガキ。	
第147図	9	土師器 壺か	+12 胴部片				細砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面ヘラミガキ、内面ナデ。	
第147図 PL.69	10	土師器 台付甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	16.8		細砂粒/良好/灰黄 褐	S字状口縁台付甕。口縁部横ナデ、胴部ハケメ(5本/cm)。内面ナデ。	
第147図	11	土師器 台付甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	14.0		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	S字状口縁台付甕。口縁部横ナデ、胴部ハケメ(8本/cm)。内面ナデ。	
第147図	12	土師器 台付甕	埋没土 底部～脚台部				細砂粒/良好/灰黄 褐	S字状口縁台付甕。外面ハケメ(8本/cm)。内面ナデ。	

21号竪穴建物出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第148図	1	土師器 台付甕	+19 口縁部下～胴部 上位片				細砂粒/良好/灰黄 褐	口縁部横ナデ、胴部ハケメ(9本/cm)。内面ナデ。	S字状口縁台付甕
第148図	2	土師器 台付甕	+ 6～+11 脚台部～胴部下 位1/4				細砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面ハケメ(7本/cm)。内面ヘラナデ。	S字状口縁台付甕

22号竪穴建物出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第151図 PL.70	1	弥生土器 甕	+1・埋没土 口縁-胴下位1/2	口	11.1		細砂/良好	口径に対して器高が低い。折り返し状の肥厚口縁。頸部に2連止め廉状文、口頸部、肩部に櫛描波状文をめぐらす。肥厚部にも波状文を施文。施文具は8歯、10mm。胴部、内面横ミガキ。	樽式

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第151図 PL.70	2	弥生土器 甕	埋没土 肩部破片				細砂/良好	頸部に4連止め廉状文、肩部に櫛描波状文をめぐらす。施文具は9歯、13mm。胴中位斜位ハケメ後、縦ミガキ、内面ハケメ後、横ナデ。	樽式	
第151図 PL.70	3	弥生土器 甕	+4 口縁～胴中位破片				細砂、細礫、輝石/良好	口縁から肩部にかけて櫛描波状文をめぐらす。施文具は8歯、11mm。胴中位縦ミガキ、内面横ミガキ。施文前にハケメ整形。	樽式	
第151図 PL.70	4	弥生土器 甕	+15 胴部破片					3と同一個体。口頸部から肩部にかけて櫛描波状文をめぐらす。胴中位縦ミガキ、内面横ミガキ。	樽式	
第151図 PL.70	5	弥生土器 甕	埋没土 胴中位～底部破片	底	(6.0)		細砂/良好	肩部に櫛描波状文をめぐらす。胴部縦ミガキ、内面横ミガキ。	樽式	
第151図 PL.70	6	弥生土器 甕	+2 底部破片	底	5.2		細砂/良好	胴下位縦ミガキ、内面横ミガキ。	樽式	
第151図 PL.70	7	弥生土器 有孔鉢	床直・+7 ほぼ完形	口底	15.2 4.1	孔高	1.2 8.0	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい褐	口縁部横方向のヘラミガキ、体部縦方向のヘラミガキ。内面横方向のヘラミガキ。	
第151図	8	土師器 甕	床直 胴部片					細砂粒/良好/にぶい黄褐	外面縦方向のヘラミガキ。内面まばらに横方向のヘラミガキ。	

50号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第155図 PL.70	1	弥生土器 甕	+21 ほぼ完形	口底	13.9 6.0	高	18.5	細砂/良好	折り返し状の肥厚口縁。口頸部から肩部にかけて櫛描波状文を多段にめぐらす。肥厚部に波状文は施文しない。施文具は10歯、15mm。胴部縦ミガキ、内面横ミガキ。底面ミガキ。施文前にハケメ整形。	樽式
第155図 PL.70	2	弥生土器 甕	+21 口縁～胴中位1/4	口	(18.3)			細砂/良好	折り返し状の肥厚口縁。頸部に3連止め廉状文、口頸部、肩部に櫛描波状文をめぐらす。肥厚部にも波状文を施文。施文具は8歯、13mm。胴部縦ミガキ、内面横ミガキ。	樽式
第155図 PL.70	3	弥生土器 甕	+9～+34 口縁～胴中位破片	口	(16.6)			細砂/良好	折り返し状の肥厚口縁。頸部に4連止め廉状文、口頸部、肩部に櫛描波状文をめぐらす。肥厚部にも波状文を施文。施文具は9歯、13mm。胴中位横ミガキ、胴下位縦ミガキ、内面横ミガキ。	樽式
第155図 PL.70	4	弥生土器 甕	+21 口縁～胴中位破片	口	(18.8)			細砂/良好	折り返し状の肥厚口縁。頸部に3連止め廉状文、口頸部、肩部に櫛描波状文をめぐらす。肥厚部にも波状文を施文。施文具は8歯、14mm。胴中位縦ミガキ、内面横ミガキ。施文前にハケメ整形。	樽式
第155図 PL.71	5	弥生土器 甕	+33・+45 口縁～肩部破片	口	(17.5)			細砂/良好	折り返し状の肥厚口縁。肩部がくの字状に緩く内屈する。頸部に2連止め廉状文、口頸部、肩部に櫛描波状文をめぐらす。肥厚部にも波状文を施文。施文具は8歯、14mm。内面横ミガキ。	樽式
第155図 PL.71	6	弥生土器 甕	+25～+40 口縁～胴中位1/3	口	21.3			細砂/良好	口縁から肩部にかけて櫛描波状文を多段にめぐらす。施文具は8歯、13mm。胴中位、内面横ミガキ。	樽式
第155図 PL.71	7	弥生土器 甕	+12・+16 口縁～肩部破片	口	(21.0)			粗砂/良好	頸部に3連止め廉状文、口頸部、肩部に櫛描波状文をめぐらす。施文具は8歯、13mm。内面横ミガキ。	樽式
第155図 PL.71	8	弥生土器 甕	+23・+27 口縁～胴下位1/2	口	12.4			細砂/良好	口縁から肩部にかけて櫛描波状文を多段にめぐらす。施文具は7歯、15mm。胴部縦ミガキ、内面横ミガキ。	樽式
第155図 PL.71	9	弥生土器 甕	+11～+15 口縁～胴上位破片	口	(16.5)			細砂/良好	口縁から肩部にかけて櫛描波状文を多段にめぐらす。施文具は10歯、15mm。胴部縦ミガキ、内面横ミガキ。	樽式
第155図 PL.71	10	弥生土器 甕	+61 口縁～胴上位破片	口	16.0			粗砂、赤色粒/良好	頸部に2連止め廉状文、口頸部、肩部に櫛描波状文をめぐらす。波状文はやや不規則。施文具は7歯、13mm。内面横ミガキ。	樽式
第156図 PL.71	11	弥生土器 甕	+22 口縁～胴中位破片					細砂、輝石/良好	口縁から肩部にかけて櫛描波状文を多段にめぐらす。施文具は6歯、10mm。胴中位縦ミガキ、内面横ミガキ。	樽式
第156図 PL.71	12	弥生土器 甕	+21～+66 頸部～胴中位破片					細砂/良好	口縁から肩部にかけて櫛描波状文を多段にめぐらす。波状文は最下段を最初に施文し、その後上→下に施文する。施文具は8歯、14mm。胴部縦ミガキ、内面横ミガキ。	樽式
第156図 PL.71	13	弥生土器 甕	+19 底部破片	底	7.9			細砂/良好	胴下位縦ミガキ、内面横ミガキ。	樽式
第156図 PL.71	14	弥生土器 甕	+10 底部破片	底	6.2			細砂、輝石/良好	胴下位縦ミガキ、内面横ミガキ。底面ミガキ。	樽式
第156図 PL.71	15	弥生土器 甕	+17～+20 底部破片	底	6.4			細砂/良好	胴下位縦ミガキ、内面横ミガキ。	樽式
第156図 PL.71	16	弥生土器 甕	+11・+14 底部破片	底	5.5			細砂/良好	胴下位縦ミガキ、内面横ミガキ。底面ミガキ。	樽式
第156図 PL.71	17	弥生土器 甕	+75 底部破片	底	(4.3)			細砂/良好	胴下位縦ミガキ、内面横ミガキ。	樽式
第156図 PL.72	18	弥生土器 甕	+33・+34 底部破片	底	5.8			細砂/良好	胴下位縦ミガキ、内面横ミガキ。	樽式
第156図 PL.72	19	弥生土器 甕	+38 底部破片	底	3.8			細砂/良好	胴下位縦ミガキ、内面横ミガキ。	樽式

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第156図 PL.72	20	弥生土器 壺	+21 胴中位～底部破片	底	(19.4)		細砂/良好	胴下位ハケメ後、横ミガキ。内面横ハケメ。	樽式	
第156図 PL.72	21	弥生土器 甕	+26 底部破片	底	8.0		細砂、細礫・輝石/ 良好	底部際斜位ハケメ後、疎らな縦ミガキ。内面横ハケメ後、横ミガキ。	樽式	
第156図 PL.72	22	弥生土器 甕	上層 底部破片	底	8.0		細砂/良好	胴下位縦ミガキ、内面横ミガキ。	樽式	
第156図 PL.72	23	弥生土器 甕	+26 底部破片	底	8.0		細砂/良好	胴下位縦ミガキ、内面ミガキ。	樽式	
第156図 PL.72	24	弥生土器 甕	+67 底部破片	底	3.7		細砂/良好	胴下位縦ミガキ、内面ミガキ。	樽式	
第156図	25	弥生土器 壺	+22 胴部片				細砂粒・粗砂粒/良 好/にぶい黄橙	箱清水式。内外面ヘラミガキ。		
第156図 PL.72	26	土師器 高杯	+9～+24 口縁部～脚部	口 底	12.4 6.1	高	11.8	細砂粒・粗砂粒/良 好/にぶい黄橙	外面縦方向のヘラミガキ。杯部内面横方向のヘラミガキ、脚部内面ヘラナデ。	
第157図 PL.72	27	土師器 鉢	+29 1/2	口 底	12.8 4.6	高	5.2	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	内外面横方向のヘラミガキ。	
第157図 PL.72	28	土師器 鉢	+31 1/3	口 底	13.8 4.3	高	6.0	細砂粒・粗砂粒/良 好/にぶい黄橙	口縁部・底部横方向のヘラミガキ。体部縦方向のヘラミガキ。内面横方向のヘラミガキ。	
第157図 PL.72	29	土師器 小壺	+61 4/5	口 底	7.4 3.7	高	10.3	細砂粒・粗砂粒/良 好/にぶい黄橙	外面ナデ。内面輪積痕。	
第157図 PL.72	30	土師器 小壺	+63 口縁部～胴部片	口 孔	11.0 0.55			細砂粒/良好/にぶ い褐	頸部に孔2ヶ所。口縁部ハケメのち横ナデ。内面ナデ。	31と同一個体か
第157図	31	土師器 小壺	+63 口縁部～胴部片	口 孔	10.8 0.50			細砂粒/良好/にぶ い褐	頸部に孔1ヶ所。口縁部ハケメのち横ナデ、胴部ナデ。内面ナデ。	30と同一個体か
第157図	32	土師器 壺	+50 口縁部～胴部上 位片	口	16.0			細砂粒・粗砂粒/良 好/明赤褐	折り返し口縁。口縁部上位横ナデ、口縁部下位～頸部ヘラナデ。	
第157図	33	土師器 台付甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	14.9			細砂粒/良好/にぶ い黄褐	口縁部横ナデ、胴部ハケメ(7本/cm)。内面ナデ。	S字状口縁台付甕
第157図 PL.72	34	土師器 台付甕	+58 口縁部～胴部上 位片	口	15.8			細砂粒・粗砂粒/良 好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ、胴部ハケメ(7本/cm)。肩部に横ハケ。内面ナデ。	S字状口縁台付甕
第157図 PL.72	35	土師器 台付甕か	+20 脚台部	底	8.2			細砂粒・粗砂粒/良 好/にぶい黄褐	外面ヘラケズリ、一部にヘラミガキ。内面ハケ状工具による調整。外面被熱。	
第157図	36	土師器 台付甕か	+17～+21 脚台部	底	9.1			細砂粒・粗砂粒/良 好/灰黄褐	外面ナデ。内面ナデ、ハケ状工具による調整。	
第157図	37	土師器 台付甕か	+42 脚台部	底	9.2			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面ヘラミガキか。内面ハケメ(7本/cm)。ヘラナデ。	

138号土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第160図 PL.72	1	弥生土器 甕	+2 口辺～胴中位破片					細砂、赤色粒・輝石/良好	頸部に2連止め廉状文、口頸部、肩部に櫛描波状文をめぐらす。施文具は8歯、13mm。胴中位、内面横ミガキ。施文前にハケメ整形。	樽式
第160図 PL.72	2	弥生土器 甕	+1 胴部破片					細砂/良好	肩部に櫛描波状文をめぐらす。胴部縦ミガキ、内面横ミガキ。	樽式

23号竪穴建物出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第163図 PL.73	1	縄文土器 深鉢	埋没土・+5 口縁～胴下位1/2	口	(32.5)			粗砂、白色粒/良好	横位隆線をめぐらして幅狭な口縁部無文帯を区画、以下、上半部に沈線による波状、下半部に逆U字状モチーフを施し、RL縄文を充填施文する。上半部の波状モチーフは幅狭と幅広を交互に配し、幅広の上部にJ字状の挟りを入れる。	加曽利E4式
第163図 PL.73	2	縄文土器 深鉢	埋没土 口縁～胴中位破片	口	(38.0)			粗砂/良好	横位隆線をめぐらして口縁部無文帯を区画、以下、LR縄文を全面施文する。	加曽利E4式
第163図 PL.73	3	縄文土器 深鉢	埋没土 口縁部破片					粗砂、輝石/良好	横位隆線をめぐらして口縁部無文帯を区画、以下、沈線による懸垂文を施し、LR縄文を充填施文する。横位隆帯は口縁部無文帯のミガキ整形とともに磨かれ、ほぼ高さを失っている。	加曽利E4式
第163図 PL.73	4	縄文土器 深鉢	埋没土・+8 胴部破片					粗砂、チャート/良好	沈線による逆U字状モチーフを施し、RL縄文を充填施文する。	加曽利E4式
第163図 PL.73	5	縄文土器 深鉢	埋没土 胴部破片					粗砂、チャート細礫良好	沈線による懸垂文ないしU字状モチーフを施し、RL縄文を充填施文する。	加曽利E4式
第163図 PL.73	6	剥片石器 楔形石器	埋没土 完形	長 幅	21 19	厚 重	8 3.4	チャート	上下両端部と左右両側縁に180度対向する剥離痕を有する。	

## 1号竪穴状遺構出土遺物

挿図 PL.No	No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第165図 PL.73	1	縄文土器 深鉢	+7・+10 口縁部破片				粗砂/ふつう	横位凹線をめぐらして口縁部無文帯を区画、以下、沈線による懸垂文を施し、R L縄文を充填施文する。	加曽利 E 4 式
第165図 PL.73	2	縄文土器 深鉢	+5～+9 口縁部破片				粗砂/ふつう	口縁が内湾する。沈線による玉抱文状のモチーフを施し、L R縄文を充填施文する。	加曽利 E 4 式
第165図 PL.73	3	縄文土器 深鉢	+13 胴部破片				粗砂/良好	沈線によるU字状、逆U字状モチーフを施し、L R縄文を充填施文する。	加曽利 E 4 式
第165図 PL.73	4	剥片石器 打製石斧	+6 完形	長 幅	100 厚 46 重	11 60.1	黒色頁岩	自然面付き縦長剥片を素材、主要剥離面側の左右両側縁に調整加工を施す。	

## 139号土坑出土遺物

挿図 PL.No	No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第166図 PL.74	1	縄文土器 深鉢	+7 口縁部破片	口	(38.0)		粗砂/良好	緩やかな波状口縁。波頂部下を瘤状に突出させ、これを基点に隆線を連弧状にめぐらして口縁部無文帯を区画、波頂部下と波底部下に2条隆線による逆U字状モチーフを施し、文様外にR L縄文を充填施文する。	加曽利 E 4 式
第166図 PL.74	2	縄文土器 深鉢	埋没土 口縁部破片				粗砂/ふつう	口縁が内湾する。沈線による逆U字状モチーフを施し、文様外にR L縄文を充填施文する。	加曽利 E 4 式
第166図 PL.74	3	縄文土器 深鉢	埋没土 口縁部破片				粗砂/ふつう	横位凹線をめぐらして口縁部無文帯を区画、以下、R L縄文を充填施文する。	加曽利 E 4 式
第166図 PL.74	4	縄文土器 深鉢	埋没土 口縁部破片				粗砂/良好	緩やかな波状口縁で口縁が内湾する。横位隆線をめぐらして口縁部円形刺突列帯を区画、2条隆線による逆U字状モチーフを施し、文様外にR L縄文を充填施文する。	加曽利 E 4 式
第166図 PL.74	5	縄文土器 深鉢	埋没土 口縁部破片				粗砂/良好	緩やかな波状口縁で口縁が内湾する。波頂部下を瘤状に突出させ、両脇に凹線をめぐらす。沈線による玉抱文状のモチーフを施し、L R縄文を充填施文する。波頂部下の玉は帯状沈線になる。	加曽利 E 4 式
第166図 PL.74	6	縄文土器 深鉢	埋没土 胴部破片				粗砂、輝石/ふつう	隆線による懸垂文を施し、R L縄文を充填施文する。	加曽利 E 4 式
第166図 PL.74	7	縄文土器 深鉢	+3 胴下位～底部破片	底	(5.5)		細砂/ふつう	沈線による逆U字状の懸垂文を施し、R L縄文を充填施文する。	加曽利 E 4 式
第166図 PL.74	8	縄文土器 深鉢	+7 底部破片	底	7.0		粗砂/ふつう	残存部は無文。	中期後葉
第166図 PL.74	9	剥片石器 石錐	埋没土 欠損	長 幅	25 厚 19 重	5 1.9	黒色頁岩	摘み部付きで左右対称形を呈する。先端部欠損。	

## 141号土坑出土遺物

挿図 PL.No	No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第166図 PL.74	1	縄文土器 深鉢	+24 口縁部破片				粗砂、輝石/ふつう	円筒状の突起を付す波状口縁。突起下部から隆線をめぐらして口縁部無文帯を区画、以下、2条隆線による逆U字状モチーフを施し、R L縄文を充填施文する。無文部は設けない。	加曽利 E 4 式
第166図 PL.74	2	縄文土器 深鉢	+14 胴部破片				粗砂、細礫/ふつう	5と同一個体。一部縄文を磨り消している。	加曽利 E 4 式
第166図 PL.74	3	縄文土器 深鉢	+16 胴部破片				粗砂、細礫/ふつう	沈線による懸垂文を施し、太細2種のR L縄文を充填施文する。	加曽利 E 4 式
第166図 PL.74	4	縄文土器 深鉢	+10 胴部破片				粗砂/ふつう	隆線による弧状モチーフを施し、R L縄文を充填施文する。無文部は設けない。	加曽利 E 4 式
第166図 PL.74	5	縄文土器 深鉢	+16 胴部破片				粗砂/ふつう	R L縄文を縦位施文し、沈線による懸垂文を施す。	加曽利 E 4 式

## 142号土坑出土遺物

挿図 PL.No	No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第167図 PL.74	1	縄文土器 深鉢	+5 口縁部破片				粗砂、繊維/ふつう	口縁が緩く外反する。L R縄文を横位施文する。口唇部にも縄文を施文。	前期前葉
第167図 PL.74	2	縄文土器 深鉢	+9・+15 胴部破片				細砂、繊維/ふつう	0段多条R L、L R縄文を羽状施文する。	前期前半
第167図 PL.74	3	縄文土器 深鉢	+21 胴部破片				細砂、繊維/ふつう	0段多条R L、L R縄文を羽状施文する。	前期前半
第167図 PL.74	4	縄文土器 深鉢	+14 胴部破片				粗砂、輝石/ふつう	隆線による懸垂文を施す。	加曽利 E 4 式

## 16号畑出土遺物

挿図 PL.No	No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第180図	1	瀬戸・美濃 陶器 花瓶	埋没土 口縁部1/3	口	(9.7)		灰白	口縁部は水平に近く開き、端部は上方に立ち上がる。内外面に胎釉。口縁部上面に薬灰釉流すか。	18世紀

遺物観察表

遺構外出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第184図 PL.75	1	在地系土器 片口鉢	11-1区2面 口縁部片				白色鈹物含む/黒	器表付近は灰白色。器表は暗灰色から黒色。断面は黒色、器表付近は灰白色、器表は暗灰色。口縁部は緩く外反。口縁部は厚い玉縁状をなす。	13世紀後半か	
第184図 PL.75	2	在地系土器 内耳鍋	11区2面 口縁部片				黒色鈹物含む/に ぶい橙	内面器表はにぶい黄橙色。外面器表は黒褐色。口縁部は緩く内湾し、内面下位に段差。口縁部内面横などによる浅い凹線2条。信濃型内耳鍋。	中世	
第184図 PL.75	3	在地系土器 片口鉢	11区2面 口縁部片				黒色鈹物含む/に ぶい赤褐	外面器表は褐灰色からにぶい黄橙色。内面器表は黒色で煤状物質付着。口縁部上面はやや平坦で内外端部は小さく突き出る。内面下半の器表は使用により器表が平滑となる。	中世	
第184図 PL.75	4	古瀬戸陶器 平碗	11区2面 体部下位片				灰白	体部は直線的に開く。体部外面下位は回転篋削り。高台脇に明瞭な段差を有する。内面から体部外面下位に灰釉。	15世紀	
第184図 PL.75	5	瀬戸・美濃 陶器 天目碗	11-1区2面 口縁部一部、体 部1/5				灰白	内面から体部外面下位に鉄釉。体部外面下位に釉溜り。	17世紀中葉～ 後葉か	
第184図 PL.75	6	肥前磁器 小皿	14区1面 1/2		高	2.4	白	糸切細工成形。内面は型紙刷りによる染付。	18世紀前半	
第184図 PL.75	7	京・信楽系 陶器 碗	11-1区1面 口縁部一部、底 部1/3	口 底	(9.1) (3.8)	高	5.2	灰白	口縁部は屈曲して立ち上がる。口縁部外面に鉄絵。内面から高台脇に透明釉。	18世紀
第184図 PL.75	8	瀬戸・美濃 陶器 灯火皿	12区2面 1/3	口 底	(11.0) (4.9)	高	1.9	灰白	外面の口縁部以下は回転篋削り。錆釉施釉後に体部外面以下の釉を拭う。底部内面に重ね焼き痕。	18世紀後葉～ 19世紀前葉
第184図 PL.75	9	銅製品 煙管(雁首)	15区 完形	長 幅	5.7 0.9	厚	0.1		真鍮製の煙管。つなぎ目は側面にある。	
第184図	10	須恵器 杯	44溝 底部片					細砂粒/良好/灰白	ロクロ右回転。	
第184図	11	須恵器 杯蓋	44溝 口縁部～体部片					細砂粒/良好/灰	ロクロ成形。	
第184図	12	須恵器 杯	81坑 底部～体部片					細砂粒/良好/灰	ロクロ右回転。	
第184図	13	須恵器 壺	53溝 胴部片					細砂粒/良好/黄灰	ロクロ成形。	
第184図	14	須恵器 壺	44溝 口辺部～頸部片					細砂粒/良好/暗灰	口縁部下位に波状文めぐる。	
第184図	15	須恵器 杯か	55溝 口縁部～体部片					細砂粒/良好/灰	ロクロ成形。	
第184図	16	須恵器 杯か	11-1区2面 口縁部片					細砂粒/良好/灰	ロクロ成形。	
第184図	17	須恵器 杯か	11-1区2面 口縁部片					細砂粒/良好/灰	ロクロ成形。	
第184図	18	須恵器 甕	12区1面 胴部片					細砂粒・粗砂粒/良 好/暗灰	外面並行タタキ。内面当て具痕。	
第184図	19	土師器 高杯	49溝 杯部片	口	16.4			細砂粒・粗砂粒/良 好/にぶい橙	口縁部横ナデ、杯底部ヘラケズリ。内面ヘラミガキ。	
第185図 PL.75	20	土師器 小壺	136坑 1/2					細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、頸部～胴部上位ハケメ(7本/cm)、胴部下位～底部ヘラケズリ。胴部下位にヘラミガキか。内面口縁部横ナデ、頸部～胴部上位ハケメ(7本/cm)。	
第185図 PL.75	21	土師器 台付甕	11区3面 脚台部～底部					細砂粒/良好/にぶ い黄褐	脚台部下位折り返し。外面ハケメ(7本/cm)。内面ナデ。	S字状口縁台 付甕
第185図 PL.75	22	土師器 高杯	11区3面 杯部					細砂粒/良好/明赤 褐	体部下位に凸帯めぐる。口縁部横ナデ、杯底部ヘラケズリ。内面ヘラミガキ。	垂下突帯付高 杯
第185図 PL.75	23	弥生土器 壺	11-1区3面 底部破片	底	6.6			細砂/良好	胴下位縦ミガキ、内面横ミガキ。	樽式
第185図 PL.75	24	弥生土器 甕	11-1区3面 底部破片	底	(7.2)			細砂/良好	胴下位縦ミガキ、内面横ミガキ。	樽式
第185図 PL.75	25	縄文土器 深鉢	22堅、埋没土 胴部破片					粗砂、繊維/良好	外面に条痕を施す。内面剥離。	早期後葉
第185図 PL.75	26	縄文土器 深鉢	49溝 底部破片か					細砂、繊維/ふつ う	小型のハイガイと思われる背圧痕を密に施す。内面にも一部施文。	前期前半
第185図 PL.75	27	縄文土器 深鉢	11-1区3面 口縁部破片					細砂、繊維/良好	R L、L R 縄文を羽状施文する。口唇部にも縄文を施文。	前期前葉
第185図 PL.75	28	縄文土器 深鉢	11-1区3面 口縁部破片						27と同一個体。補修孔あり。	前期前葉
第185図 PL.75	29	縄文土器 深鉢	11区3面 口縁部破片					細砂、繊維/ふつ う	口縁部に0段多条R L 縄文を1帯横位施文し、下位の屈曲部に原体圧痕と思われる押捺を縦位に施す。口唇部に刻みを付す。	前期前葉
第185図 PL.75	30	縄文土器 深鉢	9堅 口縁部破片					細砂、繊維/ふつ う	口縁が緩く外反する。結節縄文を横位施文する。	前期前葉
第185図 PL.75	31	縄文土器 深鉢	50溝3G上層 胴部破片					細砂、繊維/ふつ う	結節縄文を横位施文する。	前期前葉

挿図 PL.No	No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第185図 PL.75	32	縄文土器 深鉢	50溝 3 G 上層 胴部破片				細砂、繊維/ふつ う	結節縄文を横位施文する。	前期前葉
第185図 PL.75	33	縄文土器 深鉢	11区 3面 胴部破片				細砂、繊維/ふつ う	結節縄文を横位施文する。	前期前葉
第185図 PL.75	34	縄文土器 深鉢	50溝、6 G 上層 口縁部破片				細砂、繊維/ふつ う	R L 縄文を横位施文する。	前期前半
第185図 PL.75	35	縄文土器 深鉢	50溝、4 G 下層 胴部破片				粗砂、輝石、繊維 /ふつう	R L 縄文を横位施文する。	前期前半
第185図 PL.75	36	縄文土器 深鉢	16 縦掘方 胴部破片				細砂、繊維/良好	R L、L R 縄文を羽状施文する。	前期前半
第185図 PL.75	37	縄文土器 深鉢	50溝、3 G 下層 胴部破片				細砂、繊維/良好	くの字状に外屈する器形。屈曲部に連続爪形文をめぐらし、 以下、R L、L R 縄文を羽状施文する。	有尾式
第185図 PL.75	38	縄文土器 深鉢	11区 2面 胴部破片				細砂、繊維/ふつ う	0 段多条 R L、L R 縄文を羽状施文する。	前期前半
第185図 PL.76	39	縄文土器 深鉢	11-1 区 3面 胴部破片				細砂、繊維/ふつ う	0 段多条 R L、L R 縄文を羽状施文する。	前期前半
第185図 PL.76	40	縄文土器 深鉢	11-1 区 3面 胴部破片				粗砂、繊維/ふつ う	無節 R l、L r 縄文を羽状施文する。	前期前半
第185図 PL.76	41	縄文土器 深鉢	11-1 区 3面 胴部破片				細砂、繊維/ふつ う	低平な横位レンズ状の貼付文を付し、捺糸文 R を縦位施文、 貼付文に縦位短沈線を施す。	黒浜式
第185図 PL.76	42	縄文土器 深鉢	11-1 区 3面 胴部破片				細砂、繊維/ふつ う	捺糸文 R を斜位施文する。	黒浜式
第185図 PL.76	43	縄文土器 深鉢	11-1 区 3面 胴部破片				粗砂、繊維/ふつ う	附加条 1 種 R L、L R 縄文を羽状施文する。	黒浜式
第185図 PL.76	44	縄文土器 深鉢	15 縦 胴部破片				粗砂/ふつう	横位浮線をめぐらす。地文に R L 縄文を横位施文。	諸磯 b 式
第185図 PL.76	45	縄文土器 深鉢	4 縦 胴部破片				粗砂、輝石/ふつ う	横位平行沈線をめぐらす。地文に R L 縄文を横位施文。	諸磯 b 式
第185図 PL.76	46	縄文土器 深鉢	9-1 区 1面 胴部破片				粗砂、輝石/良好	連弧状、三叉文状の沈線を施す。	中期前葉
第185図 PL.76	47	縄文土器 深鉢	11-1 区 3面 胴部破片				細砂/良好	三角形状に突出させ、曲隆線を垂下させる。	焼町土器
第185図 PL.76	48	縄文土器 深鉢	16 縦 口縁部破片				粗砂、輝石/良好	波頂部の突起。隆線によるモチーフを施す。	中期中葉
第185図 PL.76	49	縄文土器 深鉢	12 坑 胴部破片				粗砂/ふつう	沈線による懸垂文を施し、R L 縄文を縦位充填施文する。	加曾利 E 3 式
第186図 PL.76	50	縄文土器 深鉢	18 縦 胴部破片				粗砂/ふつう	沈線による懸垂文を施し、R L 縄文を縦位充填施文する。	加曾利 E 3 式
第186図 PL.76	51	縄文土器 深鉢	16 縦 口縁部破片				粗砂/良好	横位沈線をめぐらして口縁部無文帯を区画、以下、沈線に よる逆 U 字状モチーフを施し、文様外に R L 縄文を充填施 文する。	加曾利 E 4 式
第186図 PL.76	52	縄文土器 深鉢	11-1 区 3面 口縁部破片				粗砂、細礫、輝石 /良好	波状口縁。沈線をめぐらして口縁部刺突列帯を区画、以下、 L R 縄文を充填施文する。	加曾利 E 4 式
第186図 PL.76	53	縄文土器 深鉢	21 縦 胴部破片				細砂/ふつう	沈線による U 字状モチーフを施し、L R 縄文を縦位充填施 文する。	加曾利 E 4 式
第186図 PL.76	54	縄文土器 深鉢	11-1 区 2面 胴部破片				粗砂、細礫/良好	沈線による逆 U 字状モチーフを施し、L R 縄文を充填施文 する。	加曾利 E 4 式
第186図 PL.76	55	縄文土器 深鉢	21 縦 口縁部破片				粗砂/良好	横位隆帯をめぐらして口縁部無文帯を区画、以下、残存部 は無文。	加曾利 E 4 式
第186図 PL.76	56	縄文土器 深鉢	11-1 区 3面 胴部破片				粗砂、輝石/ふつ う	L R 縄文を施す。	中期後葉
第186図 PL.76	57	縄文土器 深鉢	21 縦 底部破片	底	9.0		粗砂、輝石/ふつ う	残存部は無文。	中期後葉
第186図 PL.76	58	剥片石器 石鏃	5 縦 完形	長 幅	14 厚 11 重	3 0.3	赤碧玉	平基無茎鏃、丁寧な調整加工が施される。	
第186図 PL.76	59	剥片石器 石鏃	11 区一括 完形	長 幅	15 厚 13 重	3 0.5	チャート	凹基無茎鏃、基部は緩やかな凹基で正三角形状を呈する。	
第186図 PL.76	60	剥片石器 石鏃	19 縦 完形	長 幅	19 厚 12 重	4 0.5	流紋岩	凹基無茎鏃、二等辺三角形を呈し、基部は緩やかな凹基で ある。	
第186図 PL.76	61	剥片石器 石鏃	18 縦 完形	長 幅	23 厚 20 重	4 1.6	チャート	凹基無茎鏃、基部は緩やかな凹基で正三角形状を呈する。	
第186図 PL.76	62	剥片石器 石鏃	8 縦 欠損	長 幅	19 厚 14 重	5 1.1	黒色頁岩	平基有茎鏃、上半部欠損。表裏両面はやや粗い調整加工。	
第186図 PL.76	63	剥片石器 石鏃	8 縦 欠損	長 幅	11 厚 14 重	4 0.6	チャート	凹基無茎鏃、上半部欠損。基部は緩やかな凹基で調整加工 はやや粗い。	
第186図 PL.76	64	剥片石器 石匙	13 縦 完形	長 幅	24 厚 41 重	8 5.6	チャート	両面調整で、横長の器体中央部に摘み部を作出。	
第186図 PL.76	65	剥片石器 石匙	50 溝 完形	長 幅	32 厚 60 重	7 13.1	チャート	両面調整で、器体中央部の摘み部を中心に左右対称形を呈 する。	
第186図 PL.76	66	剥片石器 楔形石器	5 縦 完形	長 幅	21 厚 15 重	7 2.4	チャート	表裏両面の上下両端部に 180 度対向する剥離痕。	

遺物観察表

挿図 PL.No	No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長	厚	重			
第186図 PL.77	67	剥片石器 楔形石器	18縦 完形	長幅	31 23	厚 重	6 5.3	黒色頁岩	幅広の縦長剥片を素材、上下両端部と左右両側縁にそれぞれ180度対向する剥離面を有する。
第186図 PL.77	68	剥片石器 打製石斧	18縦 欠損	長幅	74 45	厚 重	20 92.2	珪質頁岩	下半部欠損、短冊形と推定。大型横長剥片を素材、表面に磨耗痕が認められる。
第187図 PL.77	69	剥片石器 礫器	50溝 完形	長幅	120 85	厚 重	53 624	粗粒輝石安山岩	大型の亜円礫を半割し、下端部に刃部を作出。
第187図 PL.77	70	剥片石器 石核	50溝 完形	長幅	26 21	厚 重	13 6.1	黒曜石	小型のズリを利用し、小型剥片を剥離している。
第187図 PL.77	71	剥片石器 スクレイパー	10縦 完形	長幅	95 55	厚 重	11 70.7	黒色頁岩	自然面付きの横長剥片を素材、裏面左側縁に刃部を作出。
第187図 PL.77	72	剥片石器 スクレイパー	10縦 完形	長幅	71 58	厚 重	20 88.9	黒色頁岩	縦長剥片を素材、裏面周縁部に鋸歯状の粗い刃部を作出。
第187図 PL.77	73	礫石器 凹石	17縦 完形	長幅	120 101	厚 重	72 1171.2	粗粒輝石安山岩	厚みのある円礫を素材、表裏面に磨耗痕、上端部に敲打痕。
第187図 PL.77	74	礫石器 凹石	8縦 完形	長幅	120 86	厚 重	55 670.8	粗粒輝石安山岩	偏平な楕円礫を素材、表裏面に磨耗痕、浅い凹み状の敲打痕。
第187図 PL.77	75	礫石器 凹石	50溝 完形	長幅	126 97	厚 重	64 1133.8	粗粒輝石安山岩	厚みのある楕円礫を素材、表裏面に磨耗痕、表面に凹みが認められる。
第187図 PL.77	76	礫石器 凹石	13縦 完形	長幅	95 79	厚 重	30 294.7	粗粒輝石安山岩	偏平な円礫を素材、表裏面に磨耗痕、表面に浅い凹み状の敲打痕、下端部に剥離痕が認められる。
第187図 PL.77	77	礫石器 凹石	50溝 完形	長幅	104 100	厚 重	44 520	粗粒輝石安山岩	偏平な円礫を素材、表裏面に顕著な磨耗痕と多数の凹み。
第188図 PL.77	78	礫石器 磨石	6縦 完形	長幅	100 71	厚 重	60 586.6	粗粒輝石安山岩	やや厚みのある楕円礫を素材、表裏面と側縁に磨耗痕、敲打痕。
第188図 PL.78	79	礫石器 磨石	50溝 完形	長幅	132 106	厚 重	48 899.1	粗粒輝石安山岩	偏平な円礫を素材、表裏面と側縁に磨耗痕、敲打痕。
第188図 PL.78	80	礫石器 磨石	13縦 完形	長幅	105 86	厚 重	49 548.6	粗粒輝石安山岩	偏平な円礫を素材、表裏面と側縁に磨耗痕、敲打痕が認められる。
第188図 PL.78	81	礫石器 磨石	8縦 完形	長幅	160 83	厚 重	57 1057.7	粗粒輝石安山岩	やや厚みのある長楕円礫を素材、表裏面と側縁に磨耗痕、敲打痕。右側面は顕著な磨耗痕が面を形成。
第188図 PL.78	82	礫石器 磨石	50溝 欠損	長幅	124 82	厚 重	64 909.9	粗粒輝石安山岩	厚みのある大型の棒状礫を分割して素材とする。表裏面と側縁に磨耗痕、敲打痕が認められる。右側面は顕著な磨耗痕が面を形成。
第188図 PL.78	83	礫石器 敲石	14縦 完形	長幅	138 64	厚 重	40 540.5	花崗岩	偏平な長楕円礫を素材、縁辺部に敲打痕が認められる。
第188図 PL.78	84	礫石器 敲石	50溝 完形	長幅	135 98	厚 重	88 1489.8	粗粒輝石安山岩	厚みのある楕円礫を素材、縁辺部に敲打痕。
第189図 PL.78	85	礫石器 敲石	10縦 完形	長幅	140 70	厚 重	45 750	粗粒輝石安山岩	偏平な長楕円礫を素材、表裏面に浅い凹み状の敲打痕と磨耗痕、下端部に敲打痕が認められる。右側面は顕著な磨耗痕が面を形成。
第189図 PL.78	86	古墳以降 欠損	11区遺構外	長幅	205 149	厚 重	59 2947.6	粗粒輝石安山岩	偏平で大型の長方形の亜円礫を素材、平坦な表裏面に磨耗痕、下端部に剥離痕。
第189図 PL.79	87	礫石器 台石	6縦 完形	長幅	152 140	厚 重	85 2682.2	粗粒輝石安山岩	やや厚みのある円礫を素材、表裏面に磨耗痕、側縁に敲打痕。
第189図 PL.79	88	礫石器 台石	78坑 欠損	長幅	291 220	厚 重	88 6091	粗粒輝石安山岩	偏平な大型の割れた楕円礫を素材、表面に磨耗痕と凹みが認められる。
第189図 PL.79	89	礫石器 砥石	11区一括 完形	長幅	96 69	厚 重	17 174	砂岩	偏平な隅丸方形の礫を素材、表裏面に平坦な研磨痕、表面に溝状の研磨痕。
第190図 PL.79	90	古墳以降 石鉢	11区一括 欠損	長幅	214 178	厚 重	107 2603.1	粗粒輝石安山岩	粗割して全体を整形、中央部が椗状に深く窪む。裏面には凹みが複数認められる。

1号建物木材出土遺物

挿図 PL.No	No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				長	厚	重				
第191図 PL.80	1	柱材	埋没土 ほぼ完形	長幅	202.2 10.2	厚	10.1	クリ	間渡穴2ヶ所、貫穴、間渡穴、貫穴、間渡穴の順に配置される。上下関係は不明。壁の柱と考えられる。間渡穴の間隔は一方は34cm、55cm、62cm、もう一方の面は32.5cm、49cm、65cmとなる。長方形板状の凸部を持つ。一部間渡穴の横に楕円形の穴が空いているが詳細不明。	No.3
第191図 PL.80	2	柱材	埋没土 ほぼ完形	長幅	189.5 10.8	厚	11.1	クリ	間渡穴2ヶ所、貫穴、間渡穴、貫穴、間渡穴の順に配置される。上下関係は不明。壁の柱と考えられる。間渡穴の間隔は一方は35.5cm、49cm、63cm、もう一方の面は38cm、52.5cm、56cmとなる。長方形板状の凸部を持つ。	No.2
第192図 PL.81	3	柱材	埋没土 一部欠損	長幅	(134.7) 11.5	厚	11.5	クリ	1面は間渡穴、貫穴、間渡穴と52cm、46.5cmの間渡穴間隔、もう一面は貫穴を挟んで61cmの間隔で間渡穴があり、間渡穴がL字型に配置されることから角と考えられる。貫穴は十字に抜けており高さを変えて配置される。端部は一端が欠けておりもう一端はほぼ正方形の凸部を持つ。	No.1
第192図 PL.81	4	柱材	埋没土 一部欠損	長幅	(130.0) 10.7	厚	10.5	クリ	1面は貫穴、間渡穴2ヶ所が42cm間隔、もう一面は貫穴を挟んで70cmの間隔で間渡穴があり、間渡穴がL字型に配置されることから角と考えられる。貫穴は十字に抜けており高さを変えて配置される。両端は欠けて詳細はわからない。	No.4

第9表 縄文石器遺構別集計表(点数)

出土位置	石鏃	石匙	石錐	楔形石器	スクレイパー	磨製石器	打製石斧	石核	二次加工剥片	剥片	磨石	凹石	敲石	台石	砥石	礫器	礫	総計
11区04号竪穴建物								1	1	4								6
11区05号竪穴建物	1			1						4								6
11区06号竪穴建物										2	1			1			1	5
11区07号竪穴建物						1				2				1				4
11区08号竪穴建物	2								1	9	1	1		1	1		2	18
11区09号竪穴建物																	1	1
11区10号竪穴建物					2						1		2					5
11区12号竪穴建物										3	1							4
11区13号竪穴建物		1							2	4	1	1						9
11区14号竪穴建物													1					1
11区15号竪穴建物								1		1	1						1	4
11区16号竪穴建物										1								1
11区17号竪穴建物										1		2					1	4
11区18号竪穴建物	1			1			1			24							1	28
11区19号竪穴建物	1									4								5
11区20号竪穴建物					1					4								5
11区21号竪穴建物										1								1
11区22号竪穴建物										2								2
11区23号竪穴建物				1				1		1								3
11区01号竪穴状遺構							1			3								4
11区78号土坑														1				1
11区139号土坑			1							1								2
11区145号土坑										2								2
11区189号ピット										1								1
11区44号溝										1								1
11区50号溝		1						1		21	2	3	1	1		1	3	34
11区55号溝										1								1
11区遺構外									1	1								2
11区一括	1						1			38					1		1	42
総計	6	2	1	3	3	1	3	4	5	136	8	7	4	5	2	1	11	202

第10表 縄文石器遺構別集計表(重量)

出土位置	石鏃	石匙	石錐	楔形石器	スクレイパー	磨製石器	打製石斧	石核	二次加工剥片	剥片	磨石	凹石	敲石	台石	砥石	礫器	礫	総計	
11区04号竪穴建物								6.0	2.4	70.2								78.6	
11区05号竪穴建物	0.3			2.4						8.2								10.9	
11区06号竪穴建物										5.9	586.6			2,682.2			831.0	4,105.7	
11区07号竪穴建物						25.5				12.0				967.1				1,004.6	
11区08号竪穴建物	1.7								8.7	159.3	1,057.7	670.8		3,378.1	1,054.7		551.7	6,882.7	
11区09号竪穴建物																		493.0	493.0
11区10号竪穴建物					159.6						518.0		1,100.1					1,777.7	
11区12号竪穴建物										14.2	327.8							342.0	
11区13号竪穴建物		5.6						460.8		31.9	548.6	294.7						1,341.6	
11区14号竪穴建物													540.5					540.5	
11区15号竪穴建物								18.2		11.3	775.7						834.4	1,639.6	
11区16号竪穴建物										31.4								31.4	
11区17号竪穴建物										3.4		2,008.1					181.7	2,193.2	
11区18号竪穴建物	1.6			5.3			92.2			114.2							5.9	219.2	
11区19号竪穴建物	0.5									7.5								8.0	
11区20号竪穴建物					40.3					37.8								78.1	
11区21号竪穴建物										0.5								0.5	
11区22号竪穴建物										18.2								18.2	
11区23号竪穴建物				3.4				45.7		5.9								55.0	
11区01号竪穴状遺構							60.1			28.6								88.7	
11区78号土坑														6,091.0				6,091.0	
11区139号土坑			1.9							9.1								11.0	
11区145号土坑										9.3								9.3	
11区189号ピット										1.6								1.6	
11区44号溝										6.7								6.7	
11区50号溝		13.1						6.1		401.7	1,809.0	2,225.6	1,489.8	609.3		624.0	1,260.9	8,439.5	
11区55号溝										2.3								2.3	
11区遺構外									237.7	183.9								421.6	
11区一括	0.5						57.5			386.3					174.0		17.6	635.9	
総計	4.6	18.7	1.9	11.1	199.9	25.5	209.8	76.0	709.6	1,561.4	5,623.4	5,199.2	3,130.4	13,727.7	1,228.7	624.0	4,176.2	36,528.1	



第11表 縄文石器器種別石材別集計表(点数)

石材	石鏃	石匙	石錐	楔形石器	スクレイパー	磨製石器	打製石斧	石核	二次加工剥片	剥片	磨石	凹石	敲石	台石	砥石	礫器	礫	総計
黒曜石								2		7								9
チャート	3	2		2				1		34								42
黒色頁岩	1		1	1	2		1		1	28							1	36
珪質頁岩					1		1			8								10
黒色安山岩										12								12
褐色碧玉										7								7
赤碧玉	1								2	12								15
流紋岩	1							1		24							1	27
砂岩															1		1	2
細粒輝石安山岩									1	2						1	1	5
粗粒輝石安山岩						1	1				7	7	3	5	1		5	30
石英閃緑岩											1							1
泥岩										1							1	2
変質安山岩									1	1								2
花崗岩													1				1	2
総計	6	2	1	3	3	1	3	4	5	136	8	7	4	5	2	1	11	202

第12表 縄文石器器種別石材別集計表(重量)

石材	石鏃	石匙	石錐	楔形石器	スクレイパー	磨製石器	打製石斧	石核	二次加工剥片	剥片	磨石	凹石	敲石	台石	砥石	礫器	礫	総計
黒曜石								12.1		15.1								27.2
チャート	2.7	18.7		5.8				18.2		117.2								162.6
黒色頁岩	1.1		1.9	5.3	159.6		60.1		73.2	465.1							5.9	772.2
珪質頁岩					40.3		92.2			37								169.5
黒色安山岩										429.4								429.4
褐色碧玉										112.3								112.3
赤碧玉	0.3								11.1	42.7								54.1
流紋岩	0.5							45.7		290.3							6.8	343.3
砂岩																174	834.4	1008.4
細粒輝石安山岩									237.7	15.1						624	181.7	1058.5
粗粒輝石安山岩						25.5	57.5				4847.7	5199.2	2589.9	13727.7	1054.7		2636.8	3013.9
石英閃緑岩											775.7							775.7
泥岩										22.8							17.6	40.4
変質安山岩									387.6	14.4								402
花崗岩													540.5				493	1033.5
総計	4.6	18.7	1.9	11.1	199.9	25.5	209.8	76	709.6	1561.4	5623.4	5199.2	3130.4	13727.7	1228.7	624	4176.2	36528.1

第13表 縄文時代石器集計表(掲載点数)

掲載区分	剥片石器 計164点										礫石器 計38点							礫	総計
	石鏃	石匙	石錐	楔形石器	スクレイパー	磨製石器	打製石斧	石核	二次加工剥片	剥片	磨石	凹石	敲石	台石	砥石	礫器			
掲載	6	2	1	3	2	1	2	1			6	5	3	4	2	1		39	
未掲載					1		1	3	5	136	2	2	1	1			11	163	
総計	6	2	1	3	3	1	3	4	5	136	8	7	4	5	2	1	11	202	

第14表 縄文時代以降石器集計表(掲載点数)

掲載区分	管玉	石皿	白玉	石製模造品	砥石	石臼	石鉢	総計
掲載	1	1	1	2	3	2	2	12
未掲載								
総計	1	1	1	2	3	2	2	12

第15表 出土石器・石製品集計表

No.	図番号	出土位置	取上 番号	種別	器種	石材	残存率	点数	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
1		11区4号竪穴建物	19	剥片石器	石核	黒曜石	完形	1	32	18	10	6.0	被熱
2		11区4号竪穴建物		剥片石器	二次加工剥片	赤碧玉	完形	1	21	19	6	2.4	
3	第186図58	11区5号竪穴建物	11	剥片石器	石鏃	赤碧玉	完形	1	14	11	3	0.3	
4	第186図66	11区5号竪穴建物		剥片石器	楔形石器	チャート	完形	1	21	15	7	2.4	
5	第188図78	11区6号竪穴建物	21	礫石器	磨石	粗粒輝石安山岩	完形	1	100	71	60	586.6	
6	第189図87	11区6号竪穴建物	20	礫石器	台石	粗粒輝石安山岩	完形	1	152	140	85	2,682.2	
7	第100図9	11区7号竪穴建物	9	剥片石器	磨製石器	粗粒輝石安山岩	完形	1	71	47	7	25.5	
8	第100図10	11区7号竪穴建物	21	礫石器	台石	粗粒輝石安山岩	完形	1	140	105	55	967.1	
9	第186図62	11区8号竪穴建物	24	剥片石器	石鏃	黒色頁岩	欠損	1	19	14	5	1.1	
10	第186図63	11区8号竪穴建物	27	剥片石器	石鏃	チャート	欠損	1	11	14	4	0.6	
11		11区8号竪穴建物		剥片石器	二次加工剥片	赤碧玉	完形	1	26	31	13	8.7	
12	第187図74	11区8号竪穴建物	22	礫石器	凹石	粗粒輝石安山岩	完形	1	120	86	55	670.8	
13	第188図81	11区8号竪穴建物	29	礫石器	磨石	粗粒輝石安山岩	完形	1	160	83	57	1,057.7	
14	第104図4	11区8号竪穴建物	28	礫石器	台石	粗粒輝石安山岩	完形	1	189	144	80	3,378.1	
15	第104図5	11区8号竪穴建物	20	礫石器	砥石	粗粒輝石安山岩	完形	1	117	116	55	1,054.7	
16	第187図71	11区10号竪穴建物	9	剥片石器	スクレイパー	黒色頁岩	完形	1	95	55	11	70.7	
17	第187図72	11区10号竪穴建物	12	剥片石器	スクレイパー	黒色頁岩	完形	1	71	58	20	88.9	
18		11区10号竪穴建物	11	礫石器	磨石	粗粒輝石安山岩	欠損	1	97	70	48	518.0	
19		11区10号竪穴建物	8	礫石器	敲石	粗粒輝石安山岩	欠損	1	81	70	41	350.1	
20	第189図85	11区10号竪穴建物	10	礫石器	敲石	粗粒輝石安山岩	完形	1	140	70	45	750.0	
21		11区12号竪穴建物		礫石器	磨石	粗粒輝石安山岩	欠損	1	66	69	48	327.8	
22	第186図64	11区13号竪穴建物		剥片石器	石鏃	チャート	完形	1	24	41	8	5.6	
23		11区13号竪穴建物	28	剥片石器	二次加工剥片	変質安山岩	完形	1	71	83	68	387.6	
24		11区13号竪穴建物		剥片石器	二次加工剥片	黒色頁岩	完形	1	48	67	31	73.2	
25	第187図76	11区13号竪穴建物	27	礫石器	凹石	粗粒輝石安山岩	完形	1	95	79	30	294.7	
26	第188図80	11区13号竪穴建物	29	礫石器	磨石	粗粒輝石安山岩	完形	1	105	86	49	548.6	
27	第188図83	11区14号竪穴建物	29	礫石器	敲石	花崗岩	完形	1	138	64	40	540.5	
28		11区15号竪穴建物		剥片石器	石核	チャート	完形	1	35	32	15	18.2	
29	第124図9	11区15号竪穴建物	27	礫石器	磨石	石英閃緑岩	完形	1	133	92	40	775.7	
30		11区17号竪穴建物	14	礫石器	凹石	粗粒輝石安山岩	完形	1	117	103	60	836.9	
31	第187図73	11区17号竪穴建物	16	礫石器	凹石	粗粒輝石安山岩	完形	1	120	101	72	1,171.2	
32	第186図61	11区18号竪穴建物	57	剥片石器	石鏃	チャート	完形	1	23	20	4	1.6	
33	第186図67	11区18号竪穴建物		剥片石器	楔形石器	黒色頁岩	完形	1	31	23	6	5.3	
34	第186図68	11区18号竪穴建物		剥片石器	打製石斧	珪質頁岩	欠損	1	74	45	20	92.2	
35	第186図60	11区19号竪穴建物	1	剥片石器	石鏃	流紋岩	完形	1	19	12	4	0.5	
36		11区20号竪穴建物	16	剥片石器	スクレイパー	珪質頁岩	完形	1	77	45	11	40.3	
37		11区23号竪穴建物		剥片石器	石核	流紋岩	完形	1	61	51	21	45.7	
38	第165図4	11区01号竪穴状遺構	25	剥片石器	打製石斧	黒色頁岩	完形	1	100	46	11	60.1	
39	第189図88	11区78号土坑	1	礫石器	台石	粗粒輝石安山岩	欠損	1	291	220	88	6,091.0	
40	第166図9	11区139号土坑		剥片石器	石鏃	黒色頁岩	欠損	1	25	19	5	1.9	
41	第186図65	11区50号溝	1	剥片石器	石鏃	チャート	完形	1	32	60	7	13.1	
42	第187図70	11区50号溝	111	剥片石器	石核	黒曜石	完形	1	26	21	13	6.1	
43	第187図69	11区50号溝	50	剥片石器	礫器	細粒輝石安山岩	完形	1	120	85	53	624.0	
44		11区50号溝	48	礫石器	凹石	粗粒輝石安山岩	完形	1	99	72	55	571.8	
45	第187図77	11区50号溝	132	礫石器	凹石	粗粒輝石安山岩	完形	1	104	100	44	520.0	
46	第187図75	11区50号溝	25	礫石器	凹石	粗粒輝石安山岩	完形	1	126	97	64	1,133.8	
47	第188図79	11区50号溝	130	礫石器	磨石	粗粒輝石安山岩	完形	1	132	106	48	899.1	
48	第188図82	11区50号溝		礫石器	磨石	粗粒輝石安山岩	欠損	1	124	82	64	909.9	
49	第188図84	11区50号溝	80	礫石器	敲石	粗粒輝石安山岩	完形	1	135	98	88	1,489.8	
50		11区50号溝	55	礫石器	台石	粗粒輝石安山岩	欠損	1	134	87	49	609.3	
51	第186図59	11区一括		剥片石器	石鏃	チャート	完形	1	15	13	3	0.5	
52	第189図86	11区遺構外	34	古墳以降	石皿	粗粒輝石安山岩	欠損	1	205	149	59	2,947.6	古墳以降
53	第189図89	11区一括		礫石器	砥石	砂岩	完形	1	96	69	17	174.0	

No.	図番号	出土位置	取上 番号	種別	器種	石材	残存率	点数	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
54		11区遺構外	36	剥片石器	二次加工剥片	細粒輝石安山岩	完形	1	122	52	30	237.7	
55		11区一括		剥片石器	打製石斧	粗粒輝石安山岩	欠損	1	92	53	8	57.5	
56	第163図6	11区23号竪穴建物	23	剥片石器	楔形石器	チャート	完形	1	21	19	8	3.4	
57	第119図19	11区13号竪穴建物	26	古墳以降	砥石	粗粒輝石安山岩	完形	1	200	106	84	2,720.1	古墳以降
58	第121図10	11区14号竪穴建物	1	古墳以降	管玉	蛇紋岩	完形	1	18	7	7	1.6	古墳以降
59	第129図19	11区16号竪穴建物	42	古墳以降	石製模造品	珪質粘板岩	完形	1	29	18	3	2.9	古墳以降
60	第129図20	11区16号竪穴建物	2	古墳以降	石製模造品	滑石	完形	1	58	21	8	11.0	古墳以降
61	第129図21	11区16号竪穴建物	1	古墳以降	白玉	滑石	完形	1	7	7	3	0.2	古墳以降
62	第141図39	11区18号竪穴建物	58	古墳以降	砥石	細粒輝石安山岩	完形	1	145	100	57	1,347.7	古墳以降
63	第12図1	11区59号溝	1	古墳以降	砥石	凝灰岩	欠損	1	101	31	22	99.8	古墳以降
64	第86図1	11区137号土坑	1	古墳以降	石臼	粗粒輝石安山岩	欠損	1	202	202	123	4,283.6	古墳以降
65	第77図1	11区01号列石	1	古墳以降	石臼	粗粒輝石安山岩	欠損	1	222	167	111	3,883.1	古墳以降
66	第77図2	11区01号列石	2	古墳以降	石鉢	粗粒輝石安山岩	欠損	1	189	111	106	1,105.6	古墳以降
67	第190図90	11区一括		古墳以降	石鉢	粗粒輝石安山岩	欠損	1	214	178	107	2,603.1	古墳以降
68		11区04号竪穴建物		剥片石器	剥片	黒色頁岩		1				26.1	
69		11区04号竪穴建物		剥片石器	剥片	黒曜石		1				1.3	
70		11区04号竪穴建物		剥片石器	剥片	流紋岩		2				42.8	
71		11区05号竪穴建物		剥片石器	剥片	黒曜石		1				0.1	
72		11区05号竪穴建物	12	剥片石器	剥片	赤碧玉		1				4.6	
73		11区05号竪穴建物		剥片石器	剥片	流紋岩		2				3.5	
74		11区06号竪穴建物		剥片石器	剥片	褐色碧玉		1				3.5	
75		11区06号竪穴建物		剥片石器	剥片	チャート		1				2.4	
76		11区07号竪穴建物	20	剥片石器	剥片	黒色頁岩		1				9.4	
77		11区07号竪穴建物		剥片石器	剥片	チャート		1				2.6	
78		11区08号竪穴建物		剥片石器	剥片	黒色頁岩		3				14.6	
79		11区08号竪穴建物	25	剥片石器	剥片	褐色碧玉		1				15.2	
80		11区08号竪穴建物		剥片石器	剥片	チャート		2				9.5	
81		11区08号竪穴建物		剥片石器	剥片	流紋岩		3				120.0	
82		11区12号竪穴建物		剥片石器	剥片	黒色頁岩		2				10.8	
83		11区12号竪穴建物		剥片石器	剥片	流紋岩		1				3.4	
84		11区13号竪穴建物		剥片石器	剥片	黒曜石		1				1.1	
85		11区13号竪穴建物		剥片石器	剥片	赤碧玉		1				3.0	
86		11区13号竪穴建物		剥片石器	剥片	チャート		1				10.2	
87		11区13号竪穴建物		剥片石器	剥片	流紋岩		1				17.6	
88		11区15号竪穴建物		剥片石器	剥片	褐色碧玉		1				11.3	
89		11区16号竪穴建物		剥片石器	剥片	流紋岩		1				31.4	
90		11区17号竪穴建物		剥片石器	剥片	黒色頁岩		1				3.4	
91		11区18号竪穴建物		剥片石器	剥片	黒色頁岩		4				31.7	
92		11区18号竪穴建物		剥片石器	剥片	珪質頁岩		4				23.3	
93		11区18号竪穴建物		剥片石器	剥片	黒色安山岩		2				5.4	
94		11区18号竪穴建物		剥片石器	剥片	赤碧玉		3				2.9	
95		11区18号竪穴建物		剥片石器	剥片	チャート		7				13.1	
96		11区18号竪穴建物		剥片石器	剥片	変質安山岩		1				14.4	
97		11区18号竪穴建物		剥片石器	剥片	流紋岩		3				23.4	
98		11区19号竪穴建物		剥片石器	剥片	黒色頁岩		1				3.4	
99		11区19号竪穴建物		剥片石器	剥片	珪質頁岩		1				0.5	
100		11区19号竪穴建物		剥片石器	剥片	チャート		2				3.6	
101		11区20号竪穴建物		剥片石器	剥片	黒色頁岩		1				28.5	
102		11区20号竪穴建物		剥片石器	剥片	珪質頁岩		1				5.7	
103		11区20号竪穴建物		剥片石器	剥片	流紋岩		2				3.6	
104		11区21号竪穴建物		剥片石器	剥片	チャート		1				0.5	
105		11区22号竪穴建物		剥片石器	剥片	黒色頁岩		1				2.2	
106		11区22号竪穴建物	19	剥片石器	剥片	チャート		1				16.0	

No.	図番号	出土位置	取上 番号	種別	器種	石材	残存率	点数	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
107		11区23号竪穴建物	21	剥片石器	剥片	珪質頁岩		1				5.9	
108		11区01号竪穴状遺構	24	剥片石器	剥片	黒色頁岩		1				5.4	
109		11区01号竪穴状遺構	29	剥片石器	剥片	黒色安山岩		1				20.1	
110		11区01号竪穴状遺構	23	剥片石器	剥片	チャート		1				3.1	
111		11区139号土坑		剥片石器	剥片	黒色安山岩		1				9.1	
112		11区145号土坑		剥片石器	剥片	チャート		1				5.5	
113		11区145号土坑		剥片石器	剥片	流紋岩		1				3.8	
114		11区189号ピット		剥片石器	剥片	珪質頁岩		1				1.6	
115		11区44号溝		剥片石器	剥片	流紋岩		1				6.7	
116		11区50号溝		剥片石器	剥片	黒色頁岩		1				23.7	
117		11区50号溝		剥片石器	剥片	黒色頁岩		2				26.3	
118		11区50号溝		剥片石器	剥片	黒色安山岩		3				275.6	
119		11区50号溝		剥片石器	剥片	赤碧玉		4				16.8	
120		11区50号溝		剥片石器	剥片	赤碧玉		2				13.3	
121		11区50号溝		剥片石器	剥片	チャート		1				2.9	
122		11区50号溝		剥片石器	剥片	チャート		1				4.6	
123		11区50号溝		剥片石器	剥片	チャート		3				7.9	
124		11区50号溝		剥片石器	剥片	細粒輝石安山岩		1				6.0	
125		11区50号溝		剥片石器	剥片	流紋岩		3				24.6	
126		11区55号溝		剥片石器	剥片	チャート		1				2.3	
127		11区一括		剥片石器	剥片	黒色安山岩		1				4.9	
128		11区一括		剥片石器	剥片	黒曜石		1				2.0	
129		11区一括		剥片石器	剥片	赤碧玉		1				2.1	
130		11区一括		剥片石器	剥片	褐色碧玉		1				6.4	
131		11区一括		剥片石器	剥片	チャート		2				0.9	
132		11区一括		剥片石器	剥片	流紋岩		3				9.1	
133		11区一括		剥片石器	剥片	黒色頁岩		1				17.1	
134		11区一括		剥片石器	剥片	チャート		1				3.5	
135		11区一括		剥片石器	剥片	細粒輝石安山岩		1				9.1	
136		11区遺構外	33	剥片石器	剥片	黒色頁岩		1				183.9	
137		11区一括		剥片石器	剥片	黒色安山岩		4				114.3	
138		11区一括		剥片石器	剥片	褐色碧玉		2				72.8	
139		11区一括		剥片石器	剥片	チャート		2				8.5	
140		11区一括		剥片石器	剥片	黒色頁岩		3				33.6	
141		11区一括		剥片石器	剥片	黒曜石		2				7.7	
142		11区一括		剥片石器	剥片	チャート		1				5.7	
143		11区一括		剥片石器	剥片	泥岩		1				22.8	
144		11区一括		剥片石器	剥片	黒色頁岩		4				45.0	
145		11区一括		剥片石器	剥片	黒曜石		1				2.9	
146		11区一括		剥片石器	剥片	褐色碧玉		1				3.1	
147		11区一括		剥片石器	剥片	チャート		4				14.4	
148		11区一括		剥片石器	剥片	流紋岩		1				0.4	
149		11区06号竪穴建物	22	礫	礫	粗粒輝石安山岩		1				831.0	
150		11区08号竪穴建物	21	礫	礫	粗粒輝石安山岩		1				46.6	
151		11区08号竪穴建物	23	礫	礫	粗粒輝石安山岩		1				505.1	
152		11区09号竪穴建物	13	礫	礫	花崗岩		1				493.0	
153		11区15号竪穴建物	25	礫	礫	砂岩		1				834.4	
154		11区17号竪穴建物	15	礫	礫	細粒輝石安山岩		1				181.7	
155		11区18号竪穴建物	27	礫	礫	黒色頁岩		1				5.9	
156		11区50号溝	49	礫	礫	粗粒輝石安山岩		1				959.8	
157		11区50号溝	75	礫	礫	粗粒輝石安山岩		1				294.3	
158		11区50号溝		礫	礫	流紋岩		1				6.8	
159		11区一括		礫	礫	泥岩		1				17.6	

剥片・礫は、遺構別・石材別に重量の合計値を記載

55,534.4

# 報告書抄録

書名ふりがな	あつだなかむらいせき(3)
書名	厚田中村遺跡(3)
副書名	上信自動車道吾妻東バイパス事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	741
編著者名	山口逸弘
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20240327
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	あつだなかむらいせき
遺跡名	厚田中村遺跡
所在地ふりがな	あがつまぐんひがしあがつままちおおあざあつだ
遺跡所在地	吾妻郡東吾妻町大字厚田
市町村コード	10429
遺跡番号	117
北緯(世界測地系)	363250.3
東経(世界測地系)	1384824.9
調査期間	20220701-20221228
調査面積	12,524.30㎡
調査原因	道路建設
種別	集落 / 生産 / 包蔵地
主な時代	縄文 / 弥生 / 古墳 / 中世 / 近世
遺跡概要	縄文-竪穴建物1+竪穴状遺構1+土坑3+ピット1-土器+石器/弥生-竪穴建物6-土器+石製品/古墳-竪穴建物13+大溝1+溝1+土坑7+ピット17-土器・石製品/中世-掘立柱建物11+溝17+土坑69+ピット388+列石遺構1+畑1-陶磁器/近世-建物1+土坑1+畑10+溝13+道1+土手3+水田+復旧溝2-陶磁器/石製品/鉄滓/建築材
特記事項	天明泥流下の建物は麻屋か。希少例である。弥生時代～古墳時代前期集落と大溝は当地における土地開発の端緒として位置付けられよう。出土土器も良好である。古墳時代中期～後期集落も当地の開発拡大期にあたり、カマドを付帯した竪穴建物に良好な土器組成を見せる。少量ながら須恵器も出土している。
要約	遺跡は吾妻川右岸の最下位段丘面に位置する。東約7kmに金井廃寺があり、対岸には岩櫃城や郷原遺跡、鷹の巣岩陰遺跡がある。遺跡は近世天明泥流下の小規模建物と畑及び水田。中世に比定される掘立柱建物群、溝。弥生時代～古墳時代竪穴建物による集落。縄文時代中期竪穴建物などが調査されている。

# 写真図版





1 11区より北西方向岩櫃山を望む



2 15区より西方向を望む





1 13区 土層柱状写真(南から)



2 14区 土層柱状写真(北から)



3 11区西 土層柱状写真(東から)



4 11区北 土層柱状写真(南から)



1 9-1区1面、15区1面空撮合成全景写真(南西から)



1 9-1区1面全景(東から)



2 9-1区1面58号溝全景(東から)



3 9-1区1面58号溝杭列(北から)



4 9-1区1面65号溝全景(北から)



5 9-1区1面65号溝土層(北から)



1 15区1面全景(東から)

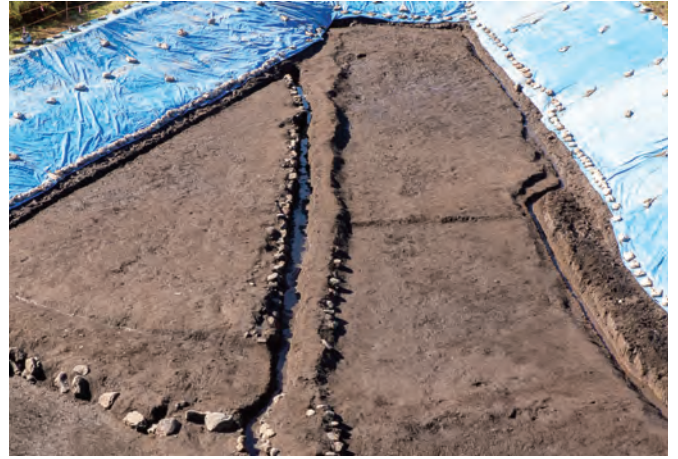


2 15区1面58・59号溝、6号土手全景(東から)

# PL.6



1 15区1面58号溝、3号道全景(西から)



2 15区1面58号溝、6号土手全景(東から)



3 15区1面58号溝石積み(西から)



4 15区1面58号溝石積み近撮(北から)



5 15区1面59号溝全景(南から)



6 15区1面59号溝竹出土状態(北から)



7 15区1面59号溝砥石出土状態(南から)



8 15区1面調査風景(南から)



1 11区1面全景(東から)



2 11区1面57号土坑全景(南から)



3 11区1面38号溝全景(東から)



4 11区1面39号溝全景(東から)



5 11区1面42号溝全景(西から)



1 11区1面14号畑全景(南東から)



2 11区1面14号畑全景(南から)



3 11区1面14号復旧溝群(南から)



4 11区1面15号復旧溝群(東から)



5 11区1-1面43号溝全景(西から)



6 11区1-1面15号畑全景(東から)



7 11区1-1面17・18号畑全景(西から)



8 11区1-1面18号畑断ち割り(北西から)



1 11-1区1面全景(東から)



2 11-1区1面1号建物全景(東から)手前に屋根、西に壁を見る





1 11-1区1面1号建物全景(南から)



2 11-1区1面1号建物1号屋根全景(南から)



1 11-1区1面1号建物1号屋根全景(東から)



2 11-1区1面1号建物1号屋根近撮(北から)



3 11-1区1面1号建物1号屋根近撮(東から)



4 11-1区1面1号建物1号屋根近撮(東から)



5 11-1区1面1号建物1号屋根近撮(東から)



1 11-1区1面1号建物1号壁全景(東から)



2 11-1区1面1号建物1号壁全景(南から)



1 11-1区1面1号建物1号壁建築部材出土状況(西から)



2 11-1区1面1号建物1号壁建築部材出土状況(東から)



3 11-1区1面1号建物1号壁建築部材出土状況(東から)



4 11-1区1面1号建物1号壁建築部材ホゾ周辺(東から)



5 11-1区1面1号建物1号壁建築部材出土状況(北から)



6 11-1区1面1号建物1号壁建築部材出土状況(南から)



7 11-1区1面1号建物1号壁建築部材ホゾ周辺(北から)



8 11-1区1面1号建物1号壁建築部材出土状況(東から)



1 11-1区1面1号建物、22~24号畑、60・61号溝(東から)



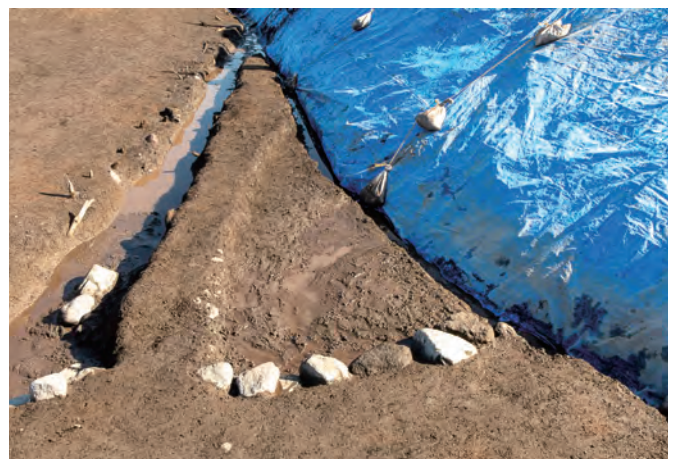
2 11-1区1面22号畑全景(北から)



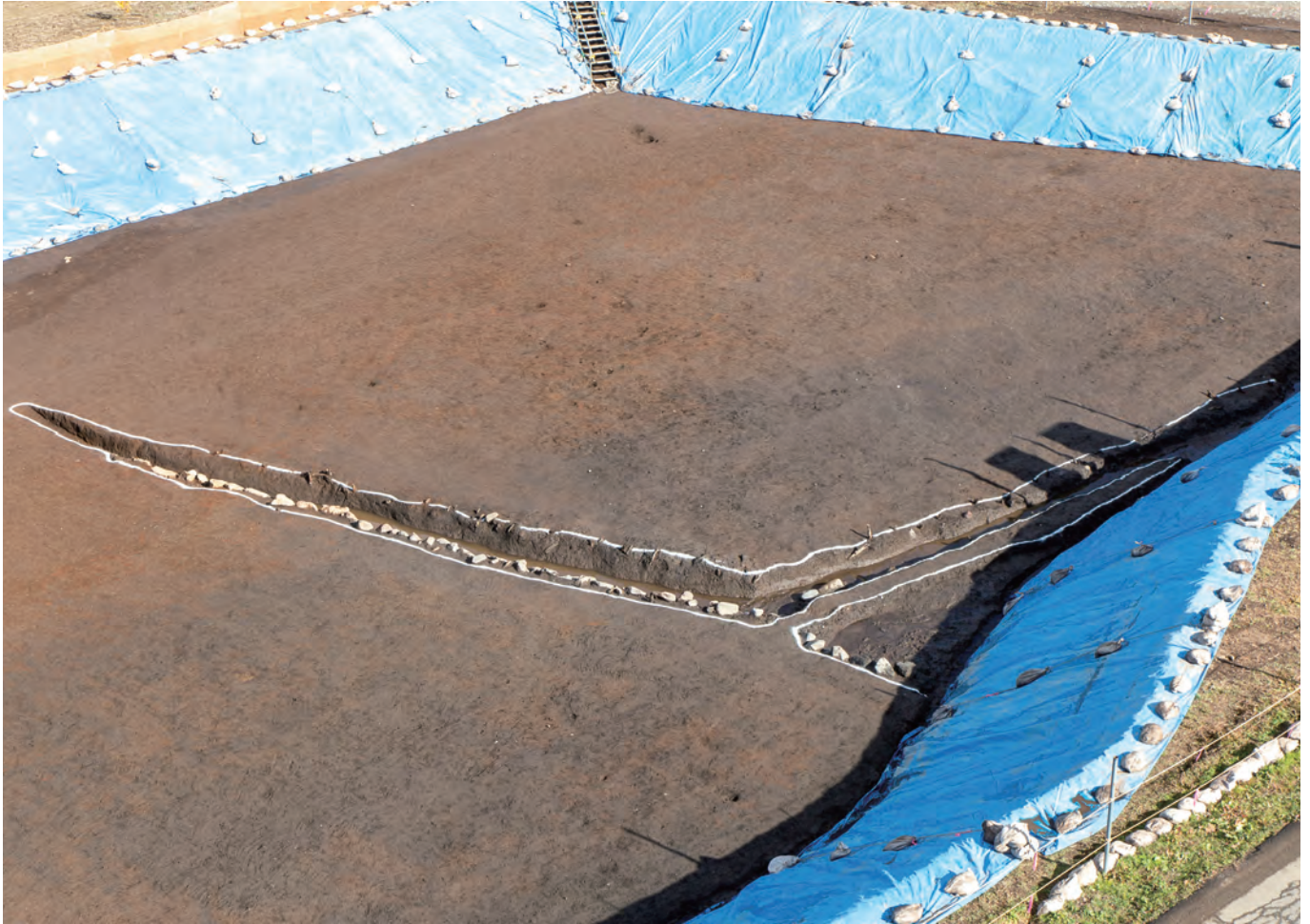
3 11-1区1面23号畑全景(東から)



4 11-1区1面24号畑全景(東から)



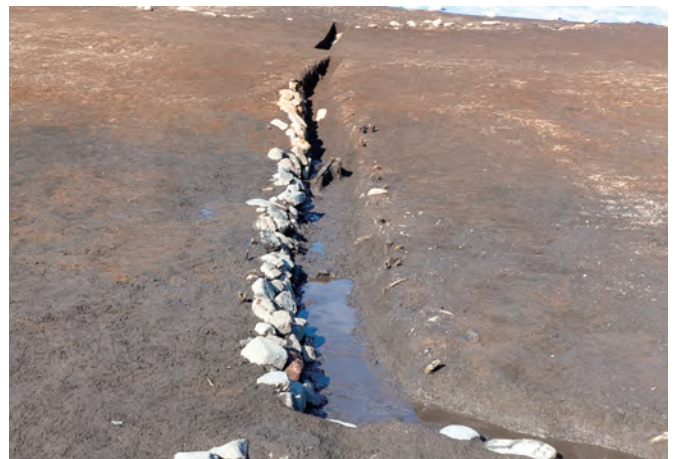
5 11-1区1面7号土手全景(西から)



1 11-1区1面60号溝、7号土手(水田)全景(南から)



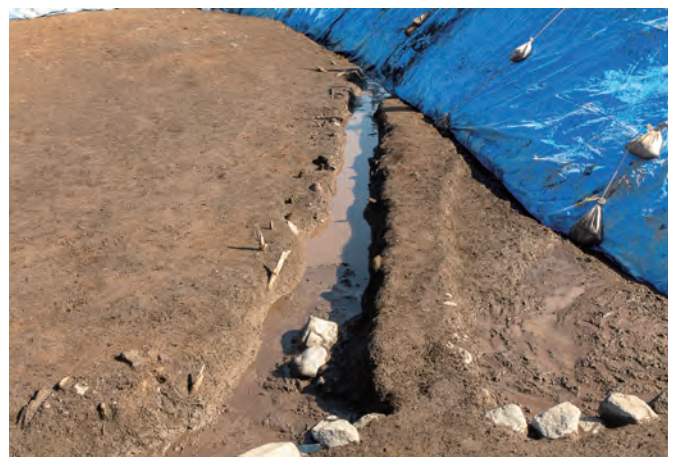
2 11-1区1面60号溝、7号土手(水田)全景(東から)



3 11-1区1面60号溝西辺全景(南から)



4 11-1区1面60号溝石積み状態(東から)



5 11-1区1面60号溝南辺全景(西から)



1 11区2面、11-1区2面空撮合成全景写真(西から)



1 11区2面全景(南から)



2 11区2面全景(東から)





1 11区2面3号掘立柱建物全景(東から)



2 11区2面3号掘立柱建物全景(北から)



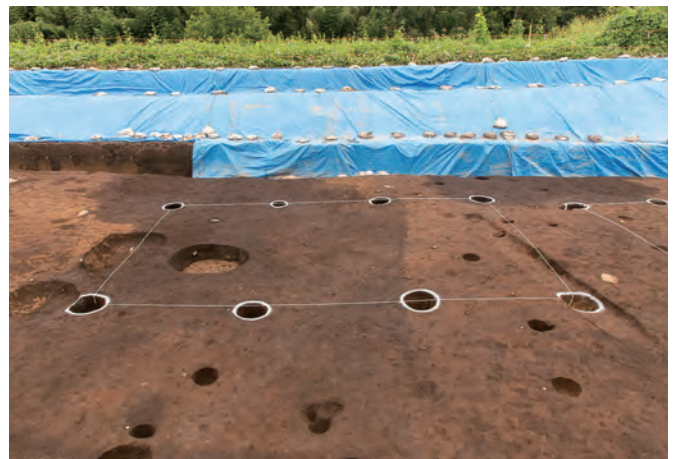
3 11区2面4号掘立柱建物全景(西から)



4 11区2面4号掘立柱建物全景(東から)



5 11区2面5号掘立柱建物全景(東から)



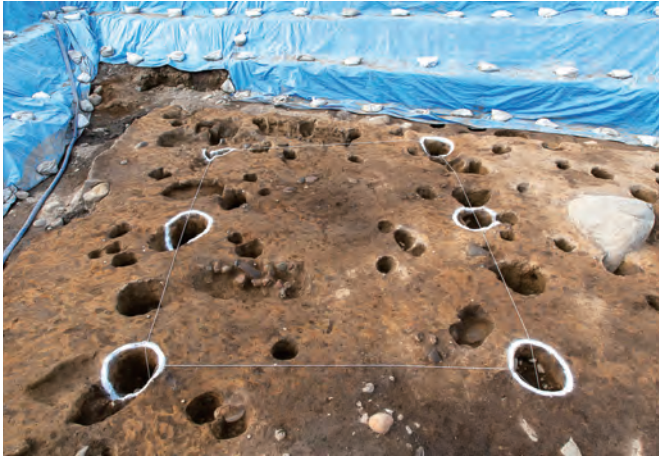
6 11区2面5号掘立柱建物全景(南から)



7 11区2面6号掘立柱建物全景(西から)



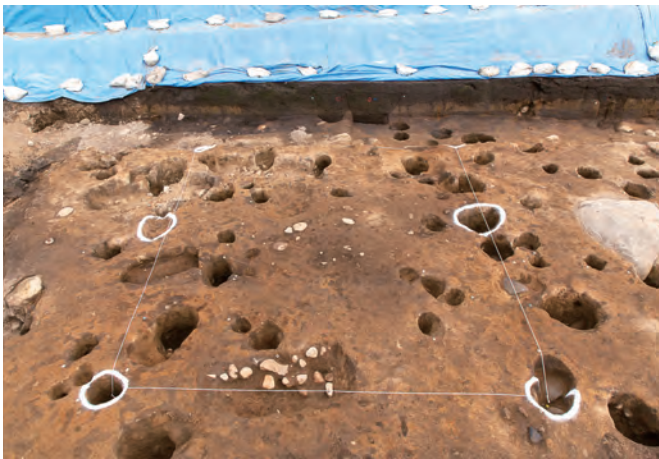
8 11区2面7号掘立柱建物全景(西から)



1 11区2面8号掘立柱建物全景(南から)



2 11区2面8号掘立柱建物全景(西から)



3 11区2面9号掘立柱建物全景(南から)



4 11区2面9号掘立柱建物全景(西から)



5 11区2面10号掘立柱建物全景(西から)



6 11区2面11号掘立柱建物全景(東から)



7 11区2面12号掘立柱建物全景(南から)



8 11区2面13号掘立柱建物全景(西から)



1 11区2面掘立柱建物群全景(北から)



2 11区2面掘立柱建物群全景(南から)



1 11区2面3号掘立柱建物P3土層(北から)



2 11区2面3号掘立柱建物P7土層(西から)



3 11区2面4号掘立柱建物P7土層(北から)



4 11区2面4号掘立柱建物P9土層(東から)



5 11区2面4号掘立柱建物P12土層(南から)



6 11区2面5号掘立柱建物P8土層(南から)



7 11区2面6号掘立柱建物P7土層(南から)



8 11区2面6号掘立柱建物P10土層(南から)



9 11区2面7号掘立柱建物P6土層(東から)



10 11区2面10号掘立柱建物P3土層(北から)



11 11区2面10号掘立柱建物P6土層(東から)



12 11区2面11号掘立柱建物P3土層(南から)



13 11区2面11号掘立柱建物P10土層(東から)



14 11区2面12号掘立柱建物P1土層(西から)



15 11区2面12号掘立柱建物P3土層(東から)



1 11区2面44・47・48号溝土層(西から)



2 11区2面44号溝全景(西から)



3 11区2面46号溝全景(西から)



4 11区2面47号溝全景(南から)



5 11区2面48号溝全景(西から)



6 11区2面49号溝全景(西から)



7 11区2面53号溝全景(西から)



8 11区2面54号溝全景(西から)



1 11区2面55号溝全景(西から)



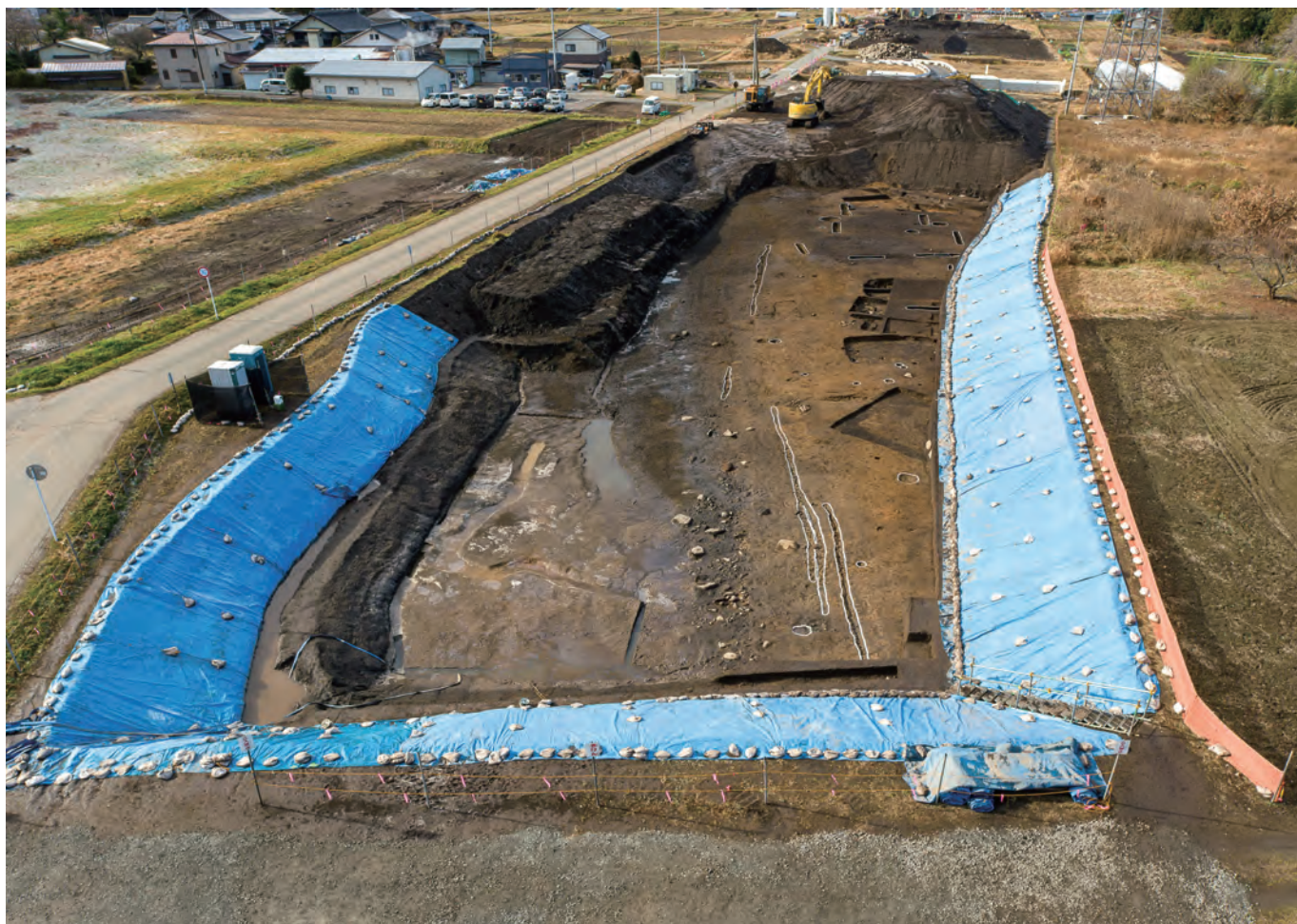
2 11区2面56号溝全景(西から)



3 11区2面57号溝全景(西から)



4 11区2面19号畑全景(南から)



5 11-1区2面全景(北東から)



1 11-1区2面62~64号溝全景(西から)



2 11-1区2面62号溝全景(西から)



3 11-1区2面63号溝全景(西から)



4 11-1区2面64号溝全景(西から)



5 11-1区2面1号列石全景(南から)



6 11-1区2面1号列石中央部下(東から)



7 11-1区2面3号自然流路(西から)



8 11-1区2面3号自然流路(南から)



1 11区2面58号土坑土層(南から)



2 11区2面59号土坑土層(南から)



3 11区2面60号土坑土層(南から)



4 11区2面61号土坑土層(南から)



5 11区2面62号土坑土層(南から)



6 11区2面63号土坑全景(南から)



7 11区2面64号土坑全景(東から)



8 11区2面67号土坑全景(南から)



9 11区2面69号土坑全景(南から)



10 11区2面71号土坑全景(南から)



11 11区2面73号土坑全景(南から)



12 11区2面74号土坑全景(東から)



13 11区2面76号土坑礫出土状態(西から)



14 11区2面77号土坑全景(南から)



15 11区2面78号土坑礫出土状態(南から)





1 11区2面79号土坑全景(西から)



2 11区2面80号土坑全景(東から)



3 11区2面81号土坑全景(東から)



4 11区2面82号土坑全景(南から)



5 11区2面83号土坑全景(南から)



6 11区2面84号土坑全景(南から)



7 11区2面85号土坑全景(南から)



8 11区2面86号土坑全景(南から)



9 11区2面86号土坑土層(南から)



10 11区2面87号土坑全景(南から)



11 11区2面88号土坑全景(南から)



12 11区2面89・90号土坑土層(南から)



13 11区2面89・90・95号土坑全景(南から)



14 11区2面91号土坑全景(南から)



15 11区2面92号土坑全景(西から)



1 11区2面93号土坑全景(南から)



2 11区2面94号土坑全景(南から)



3 11区2面95号土坑全景(南から)



4 11区2面96号土坑全景(西から)



5 11区2面97号土坑全景(南から)



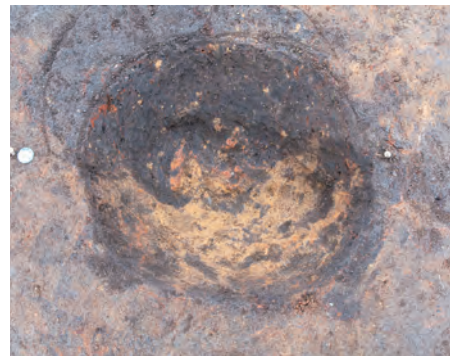
6 11区2面98号土坑全景(東から)



7 11区2面99号土坑全景(東から)



8 11区2面100号土坑全景(南から)



9 11区2面101号土坑全景(南から)



10 11区2面102号土坑全景(南から)



11 11区2面104号土坑全景(南から)



12 11区2面105号土坑全景(北から)



13 11区2面106号土坑全景(東から)



14 11区2面106号土坑土層(南から)



15 11区2面107号土坑全景(北から)



1 11区2面108号土坑全景(北から)



2 11区2面109号土坑全景(南から)



3 11区2面110号土坑全景(南から)



4 11区2面111号土坑全景(東から)



5 11区2面112号土坑全景(南から)



6 11区2面113号土坑全景(西から)



7 11区2面114号土坑全景(南から)



8 11区2面115号土坑全景(北から)



9 11区2面117号土坑全景(東から)



10 11-1区2面121号土坑全景(西から)



11 11-1区2面122号土坑全景(西から)



12 11-1区2面123号土坑全景(南から)



13 11-1区2面124号土坑全景(南から)



14 11-1区2面125号土坑全景(南から)



15 11-1区2面126号土坑全景(東から)



1 11-1区2面127号土坑全景(南から)



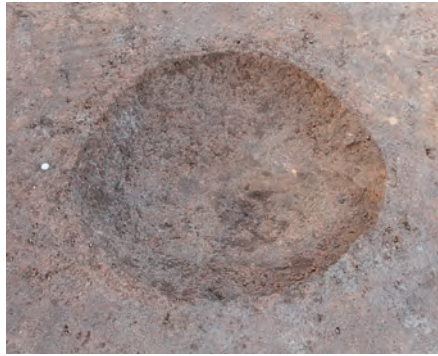
2 11-1区2面128号土坑全景(南から)



3 11-1区2面127・128号土坑土層(南から)



4 11-1区2面129号土坑全景(東から)



5 11-1区2面130号土坑全景(南から)



6 11-1区2面131号土坑全景(東から)



7 11-1区2面132号土坑全景(南から)



8 11-1区2面133号土坑全景(東から)



9 11-1区2面134号土坑全景(東から)



10 11-1区2面135号土坑全景(西から)



11 11-1区2面135号土坑土層(東から)



12 11-1区2面136号土坑全景(東から)



13 11-1区2面137号土坑全景(南から)



14 11-1区2面137号土坑土層(南から)



15 11-1区2面137号土坑遺物出土状態(南から)



1 11区3面、11-1区3面空撮合成全景写真(西から)



1 11区3面遠景(東から)



2 11区3面遠景(西から)



1 11区3面4号竪穴建物遺物出土状態全景(南から)



2 11区3面4号竪穴建物土層(南西から)



3 11区3面4号竪穴建物遺物出土状態(南から)



4 11区3面4号竪穴建物床下全景(南から)



5 11区3面5号竪穴建物全景(東から)



6 11区3面5号竪穴建物遺物出土状態(東から)



7 11区3面5号竪穴建物土層(南西から)



8 11区3面5号竪穴建物床下全景(東から)



1 11区3面6号竪穴建物遺物出土状態(西から)



2 11区3面6号竪穴建物遺物出土状態全景(東から)



3 11区3面6号竪穴建物炭化材及び甕出土状態(北から)



4 11区3面6号竪穴建物全景(南から)



5 11区3面6号竪穴建物床下全景(南から)





1 11区3面7号竪穴建物全景(南から)



2 11区3面7号竪穴建物炉検出面(北から)



3 11区3面7号竪穴建物遺物出土状態全景(南から)



4 11区3面7号竪穴建物南東部遺物出土状態(西から)



5 11区3面7号竪穴建物北東部遺物出土状態(南から)



1 11区3面7号竪穴建物P10(入口部ピット)全景(北から)



2 11区3面7号竪穴建物P11(入口部ピット)全景(北から)



3 11区3面7号竪穴建物入口部配石(東から)



4 11区3面6・7号竪穴建物床下全景(南から)



5 11区3面6・7号竪穴建物全景(東から)



1 11区3面8号竪穴建物全景(東から)



2 11区3面8号竪穴建物遺物出土状態全景(西から)



3 11区3面8号竪穴建物炉土層(西から)



4 11区3面8号竪穴建物南西部遺物出土状態(西から)



5 11区3面8号竪穴建物床下全景(南から)



1 11区3面9号竪穴建物全景(西から)



2 11区3面9号竪穴建物遺物出土状態全景(北から)



3 11区3面9号竪穴建物北東隅遺物出土状態(西から)



4 11区3面9号竪穴建物土層(南から)



5 11区3面10号竪穴建物全景(東から)



6 11区3面10号竪穴建物貯蔵穴全景(南から)



7 11区3面10号竪穴建物カマド掘方土層(南から)



8 11区3面10号竪穴建物カマド掘方全景(西から)



1 11区3面11号竪穴建物全景(東から)



2 11区3面11号竪穴建物土層(南から)



3 11区3面12号竪穴建物遺物出土状態全景(西から)



4 11区3面12号竪穴建物床下全景(西から)



5 11区3面12号竪穴建物カマド全景(西から)



1 11区3面13号竪穴建物全景(西から)



2 11区3面13号竪穴建物カマド全景(西から)



1 11区3面13号竪穴建物カマド使用面全景(西から)



2 11区3面13号竪穴建物カマド南遺物出土状態(西から)



3 11区3面13号竪穴建物カマド南遺物出土状態(西から)



4 11区3面13号竪穴建物カマド南遺物出土状態(西から)



5 11区3面13号竪穴建物カマド南遺物出土状態(南から)



6 11区3面13号竪穴建物遺物出土状態全景(南西から)



7 11区3面13号竪穴建物遺物出土状態(南から)



8 11区3面13号竪穴建物掘方全景(北から)



1 11区3面50号溝下層遺物出土状態全景(北から)



2 11区3面50号溝土層(南から)



3 11区3面50号溝上層遺物出土状態全景(北から)



4 11区3面50号溝下層遺物出土状態全景(南から)



5 11区3面50号溝下層遺物出土状態(南から)





1 11区3面50号溝下層遺物出土状態(東から)



2 11区3面50号溝下層遺物出土状態(東から)



3 11区3面50号溝全景(北から)



4 11区3面116号土坑全景(南から)



5 11区3面118号土坑全景(西から)



6 11区3面119号土坑全景(南から)



7 11区3面120号土坑全景(南から)



8 11区3面143号土坑全景(南から)



1 11-1区3面全景(西から)



2 11-1区3面全景(南から)



1 11-1区3面14号竪穴建物全景(南西から)



2 11-1区3面14号竪穴建物遺物出土状態全景(東から)



3 11-1区3面14号竪穴建物遺物出土状態(南から)



4 11-1区3面14号竪穴建物床下全景(東から)



5 11-1区3面15号竪穴建物遺物出土状態全景(南から)



1 11-1区3面15号竪穴建物土層(南から)



2 11-1区3面15号竪穴建物全景(東から)



3 11-1区3面15号竪穴建物床下全景(北から)



4 11-1区3面15号竪穴建物出入口部ピットP2・P10(南から)



5 11-1区3面15号竪穴建物南東隅遺物出土状態(東から)



6 11-1区3面15号竪穴建物南東隅遺物出土状態(東から)



7 11-1区3面15号竪穴建物南東隅遺物出土状態(東から)



8 11-1区3面15号竪穴建物南東隅遺物出土状態(南から)



1 11-1区3面16号竪穴建物全景(東から)



2 11-1区3面16号竪穴建物カマド全景(北西から)



3 11-1区3面16号竪穴建物南西部遺物出土状態(南から)



4 11-1区3面16号竪穴建物南西部埋設土器出土状態(北から)



5 11-1区3面16号竪穴建物貯蔵穴遺物出土状態(東から)



1 11-1区3面17号竪穴建物遺物出土状態全景(東から)



2 11-1区3面17号竪穴建物炉土層(西から)



3 11-1区3面17号竪穴建物出入口部ピットP2・P3(北から)



4 11-1区3面17号竪穴建物貯蔵穴遺物出土状態(北から)



5 11-1区3面17号竪穴建物床下全景(南から)



1 11-1区3面18号竪穴建物床下全景(西から)



2 11-1区3面18号竪穴建物カマド全景(西から)



3 11-1区3面18号竪穴建物炉土層(南から)



4 11-1区3面18号竪穴建物南東隅遺物出土状態(西から)



5 11-1区3面18号竪穴建物貯蔵穴全景(南から)



1 11-1区3面19号竪穴建物遺物出土状態全景(南から)



2 11-1区3面19号竪穴建物床下全景(南から)



3 11-1区3面20号竪穴建物全景(南から)



4 11-1区3面20号竪穴建物炉全景(北から)



5 11-1区3面20号竪穴建物貯蔵穴遺物出土状態(西から)





1 11-1区3面20号竪穴建物床下全景(西から)



2 11-1区3面20号竪穴建物東南隅遺物出土状態(西から)



3 11-1区3面21号竪穴建物床下全景(西から)



4 11-1区3面21号竪穴建物土層(西から)



5 11-1区3面22号竪穴建物遺物出土状態全景(西から)



6 11-1区3面22号竪穴建物東南隅遺物出土状態(西から)



7 11-1区3面22号竪穴建物P1遺物出土状態(北から)



8 11-1区3面22号竪穴建物床下全景(西から)



1 11-1区3面66号溝全景(北西から)



2 11-1区3面66号溝土層(北から)



3 11-1区3面138号土坑全景(西から)



4 11-1区3面138号土坑遺物出土状態(南から)



5 11-1区3面144号土坑全景(東から)



6 11-1区3面145号土坑全景(南から)



7 11-1区3面14号竪穴建物調査風景(東から)



8 11-1区3面16号竪穴建物調査風景(西から)



1 11-1区4面23号竪穴建物埋甕炉(東から)



2 11-1区4面23号竪穴建物遺物出土状態全景(南から)



3 11-1区4面23号竪穴建物炉周辺遺物出土状態(南から)



4 11-1区4面23号竪穴建物床下全景(東から)



5 11-1区4面23号竪穴建物全景(北から)



1 11-1区4面1号竪穴状遺構遺物出土状態全景(西から)



2 11-1区4面1号竪穴状遺構全景(東から)



3 11-1区4面139号土坑遺物出土状態全景(東から)



4 11-1区4面139号土坑全景(東から)



5 11-1区4面141号土坑遺物出土状態全景(西から)



6 11-1区4面141号土坑遺物出土状態(東から)



7 11-1区4面142号土坑全景(東から)



8 11-1区4面142号土坑土層(東から)



1 12区1面全景(南から)



2 12区1面35(東)・36号(西)溝検出状況(南から)



3 12区1面35(東)・36号(西)溝全景(南から)



4 12区1面37号溝全景(南東から)



5 12区1面5号土手全景(北から)



1 12区2面全景(南西から)



2 12区3面40(南)・41号溝(北)全景(南西から)



3 12区3面40号溝掘削痕(北から)



4 12区3面40号溝自然木出土状態(南西から)



1 13区 1-1 面全景(16号畑)全景(東から)



2 13区 1-1 面16号畑土層(東から)



3 13区 2面(45号溝)全景(西から)



4 13区 2面45号溝全景(南西から)



5 14区 1面全景(東から)



6 14区 1面20号畑全景(南から)



7 14区 1面段差及び境木列、南に20号畑(北東から)



8 14区 1面段差部分断ち割り(東から)



1 14区1-1面(21号畑)全景(西から)



2 14区1-1面21号畑土層(東から)



3 14区2面(52号溝)全景(西から)



4 14区2面52号溝全景(南から)



5 11-1区1号建物検出状況(北から)

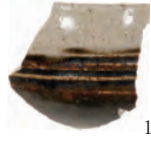


# PL.58

59号溝



6号土手



1号建物



9号掘立柱建物



1号列石



137号土坑



164号ピット



4号竖穴建物



5号竖穴建物



6号竖穴建物



7号竖穴建物



4～7号竖穴建物出土遺物



8号竖穴建物



9号竖穴建物



1



3

12号竖穴建物



1



3



4

13号竖穴建物



1



2



4



3



5



14号竖穴建物

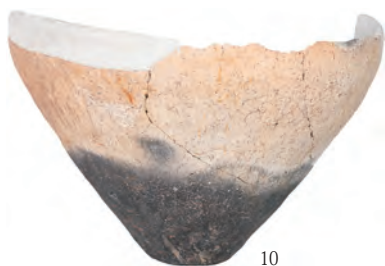
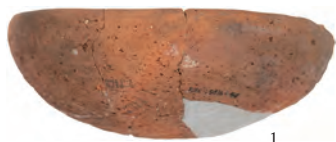


15号竖穴建物





16号竖穴建物





16



18



17



19



20



21

17号竖穴建物



1



2



3



4



5



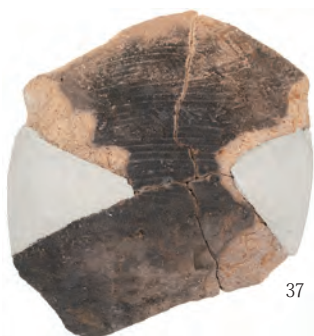
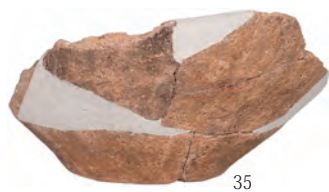
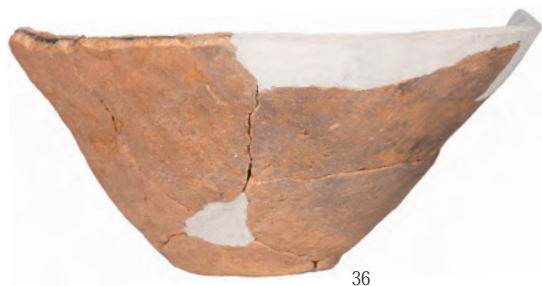


18号竖穴建物





18号竖穴建物出土遺物



19号竖穴建物



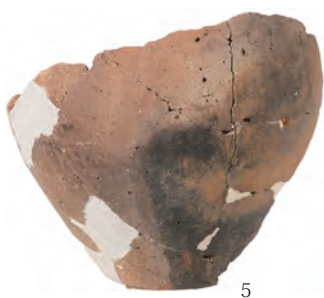
20号竖穴建物



20号竖穴建物出土遺物

# PL.70

22号竖穴建物



50号溝





5



6



7



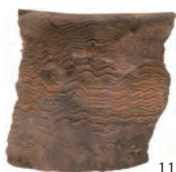
8



9



10



11



12



13



14



15



16



17



138号土坑



50号沟、138号土坑出土遺物

23号竖穴建物



1号竖穴状遺構





# PL.74

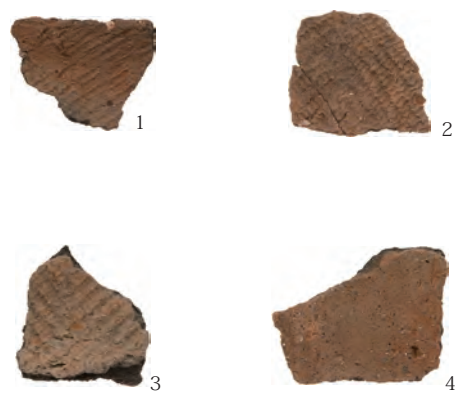
139号土坑



141号土坑



142号土坑



遺構外



遺構外出土遺物(1)





67



68



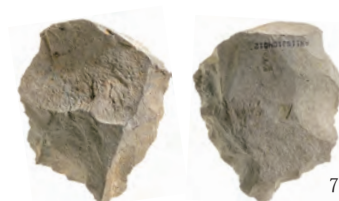
69



70



71



72



73



74



75



76



77



78





87



89



88



90



1号建物木材出土遺物(1)



3  
(No. 1)



4  
(No. 4)

1号建物木材出土遺物(2)



公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第741集

## 厚田中村遺跡(3)

上信自動車道吾妻東バイパス事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

令和6(2024)年3月22日 印刷

令和6(2024)年3月27日 発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／株式会社開文社印刷所